

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第54集

# 清洲城下町遺跡 V

1995

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

## 序

戦国時代に華やかな繁栄を誇っていた清須城は、江戸時代を迎えるとその歴史的役割を終え、名古屋城へと移転されて行きました。その後は、美濃街道の最初の宿場町として機能し、宿場の町並みは現在に至るまで連続と継続しています。

清洲城下町遺跡の中で、こうした江戸時代の宿場町の遺跡が残っていることは、昭和61年度の五条川改修に伴う発掘調査によって初めて発見されました。近年、江戸や大坂などの近世の都市遺跡の研究が盛んになり、近世考古学は日進月歩の進展を見せております。こうした中で、清洲宿の考古学的調査は、大都市ばかりではない近世遺跡の新たなデータを提供できるものと思われます。

五条川河川改修に関連する発掘調査報告書は、昨年度から刊行され始め、本書はその第2冊目に当たります。今回の内容は主に清洲宿場町の時代を対象としており、これによって平成5年度までの成果がほぼ網羅される形となりました。本書が清須のそして愛知県の歴史解明に少しでも寄与できれば幸いです。

最後に、発掘調査や本書の作成に当たり、地元の方をはじめとする多くの方々にご協力やご指導を賜り、本書の刊行に至ることができました。記して感謝致したいと思います。

財団法人愛知県埋蔵文化財センター

理事長 安部 功

# 総 目 次

五条川河川改修に伴う発掘調査報告書は全3冊以上で構成される予定である。その内容の内訳は以下の通りである。

報告書名	対象調査区(年度)
『清洲城下町遺跡Ⅳ』 (第53集)	昭和61～平成3年度・平成4年度(92C～E区)・平成5年度(93A・93B区)
『清洲城下町遺跡Ⅴ』 (第54集)	昭和61～平成3年度・平成4年度(92C～E区)・平成5年度(93A・93B区)
『清洲城下町遺跡Ⅵ』 (未定)	平成4年度(92F区)・平成5年度(93C区)・平成6年度

平成7年度以降の調査区については未定。

なお、『清洲城下町遺跡Ⅳ』・『清洲城下町遺跡Ⅴ』の対象となる調査区の総面積は29750㎡で、その調査成果は膨大である。従って、29750㎡分については、以下のように「城下町編」・「宿場町編」と2分割して報告書を刊行することとした。

『清洲城下町遺跡Ⅳ』(既刊)

- 第Ⅰ章 調査概要
- 第Ⅱ章 城下町期以前の遺構と遺物
- 第Ⅲ章 城下町期の遺構
- 第Ⅳ章 城下町期の遺物
- 第Ⅴ章 城下町期の遺構配置

『清洲城下町遺跡Ⅴ』(本書)

- 第Ⅵ章 宿場町期の遺構
- 第Ⅶ章 宿場町期の遺物
- 第Ⅷ章 自然科学分析
- 第Ⅸ章 考察
- 第Ⅹ章 総括

## 例 言

1. 清洲城下町遺跡（遺跡番号21002：『愛知県遺跡分布地図Ⅰ（尾張地区）』1986による）は愛知県西春日井郡清洲町のほぼ全域に分布する広大な遺跡であり、一部に春日町・新川町にまたがる。
2. 本書は、愛知県土木部が進めている五条川河川改修に伴う事前調査にかかる発掘調査報告書のうち、第2巻に相当する「清洲城下町遺跡Ⅴ」である。発掘調査は県土木部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた（財）愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 昭和61年度から平成5年度までの調査対象面積は30130㎡であり、このうち本書は、92F区と93C区を除く全調査区（29750㎡）を対象とする。調査面積の詳細な内訳は別に記載された通りである。（『清洲城下町遺跡Ⅳ』第Ⅰ章第3節を参照）。
4. 発掘調査は、城ヶ谷和広（調査課課長補佐：当時の職名、以下同じ）・細野正俊・水谷朋和・梅本博志・日比幸・小塚俊夫・大竹正吾（以上主査）・遠藤才文・小澤一弘・佐藤公保・池本正明・前田雅彦・川井啓介・小嶋廣也・蟹江吉弘・鈴木正貴（以上調査研究員）・中野良法・岡本直久・飴谷一・加藤とよ江（以上嘱託）が担当した。各調査区の発掘調査期間・調査担当者は別に記載された通りである（『清洲城下町遺跡Ⅳ』第Ⅰ章第3節を参照）。
5. 発掘調査に引き続き、平成4年度から報告書作成のための整理作業を実施した。これまで整理作業は主に鈴木正貴が担当した。なお、平成6年度での遺物整理・製図などには次の方々のご協力を得た。河合明美・中垣内薫・八木佳素実（以上調査研究補助員）  
安藤豊子・加藤豊子・猿山清子・竹川裕美子・土井てる子・平野みどり・服部美子  
星野和子・山本律子（以上整理補助員）
6. 調査に当たっては、本センター専門委員をはじめ、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。  
愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・清洲町教育委員会・  
愛知県土木部河川課・南山大学・西尾市教育委員会
7. 調査区の座標は、建設省告示に定められた平面直角座標Ⅴ系に準拠した。
8. 遺構は以下のアルファベットによる分類記号と通し番号で表記した。番号は地区毎に振り直しており、『清洲城下町遺跡Ⅳ』の遺構番号に引き続けている。  
SA：横列、SB：建物、SD：溝、SE：井戸、SK：土坑、SX：その他、P：ピット  
御園地区：1000番台、本丸地区：2000番台、田中町地区：3000番台、五条川地区：4000～5000番台、  
本町地区：6000番台、南部地区（北半）：7000番台、南部地区（南部）：8000番台
9. 本書の執筆・編集は鈴木正貴が担当したが、一部に分担執筆がある。  
第Ⅷ章第7節 人形・玩具類——八木佳素実（本センター調査研究補助員）  
第Ⅷ章第1節 清須城下町出土漆器資料の製作技法—北野信彦（元興寺文化財研究所）  
第Ⅷ章第2節 近世土師質人形の蛍光X線分析——三辻利一（奈良教育大学）  
第Ⅷ章第4節 人骨に施された傷について——堀木真美子（本センター調査研究員）  
第Ⅷ章第5節 獣骨にみられる傷について——堀木真美子（本センター調査研究員）
10. 本書をまとめるに当たり、次の各氏のご指導の他、多くの方々のご協力を得た。  
赤羽一郎・内堀信雄・小野正敏・尾野善裕・金子健一・下村信博・千田嘉博・中野晴久・仲野泰裕・野口哲也・藤澤良祐・水野裕之
11. 調査記録（図面・写真資料・日誌等）は本センターにて保管している。
12. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24

電話番号0567-67-4164

# 目 次

はじめに .....	1
第VI章 宿場町期の遺構 .....	3
第1節 概 要 .....	4
第2節 五条川堤防 .....	6
第3節 溝 .....	7
第4節 建 物 .....	12
第5節 欄 列 .....	15
第6節 井 戸 .....	16
第7節 畝状遺構 .....	22
第8節 方形石組遺構 .....	24
第9節 竈状遺構 .....	26
第10節 土 坑 .....	28
第11節 その他の遺構 .....	34
第12節 遺構配置 .....	35
第VII章 宿場町期の遺物 .....	43
第1節 出土遺物の概要と分析方法 .....	44
第2節 SX4009 .....	51
第3節 SD6092 .....	55
第4節 SK4287 .....	58
第5節 SK6735 .....	60
第6節 SK6691 .....	72
第7節 人形・玩具類 .....	110
第8節 墨 書 .....	117
第9節 井戸側出土資料 .....	119
第10節 金属製品 .....	122
第VIII章 自然科学分析 .....	123
第1節 清須城下町出土漆器資料の製作技法 .....	124
第2節 近世土師質人形の蛍光X線分析 .....	140
第3節 金属滓分析 .....	148
第4節 人骨に施された傷について .....	175
第5節 獣骨にみられる傷について .....	179
第IX章 考 察 .....	183
第1節 清須城下町の遺物様相 .....	184
第2節 清須城下町の復元的研究（1995年覚書） .....	199
第X章 総 括 .....	227
索 引 .....	233
遺構一覧表 .....	239
遺物一覧表 .....	244
遺物集計表 .....	260
図 版 .....	267
報告書抄録 .....	315

## 挿 図 目 次

第 1 図	92D区土層断面図	5	第 38 図	SK6735遺物実測図 (6)	66
第 2 図	溝土層断面図 (1)	9	第 39 図	SK6735遺物実測図 (7)	67
第 3 図	溝土層断面図 (2)	11	第 40 図	SK6735遺物実測図 (8)	68
第 4 図	礎石建物平面図	13	第 41 図	SK6735遺物実測図 (9)	69
第 5 図	掘立柱建物平面図・断面図	14	第 42 図	SK6735遺物実測図 (10)	70
第 6 図	横列平面図・断面図	15	第 43 図	SK6735遺物実測図 (11)	71
第 7 図	井戸土層断面図 (1)	19	第 44 図	SK6691遺物実測図 (1)	73
第 8 図	井戸土層断面図 (2)	20	第 45 図	SK6691遺物実測図 (2)	74
第 9 図	井戸土層断面図 (3)	21	第 46 図	SK6691遺物実測図 (3)	75
第 10 図	竈状遺構土層断面図	22	第 47 図	SK6691遺物実測図 (4)	76
第 11 図	竈状遺構平面図	23	第 48 図	SK6691遺物実測図 (5)	77
第 12 図	方形石組遺構平面図	24	第 49 図	SK6691遺物実測図 (6)	78
第 13 図	方形石組遺構平面図・断面図	25	第 50 図	SK6691遺物実測図 (7)	79
第 14 図	竈状遺構平面図・断面図	27	第 51 図	SK6691遺物実測図 (8)	80
第 15 図	土坑遺物出土状態図 (1)	28	第 52 図	SK6691遺物実測図 (9)	81
第 16 図	土坑遺物出土状態図 (2)	29	第 53 図	SK6691遺物実測図 (10)	82
第 17 図	土坑土層断面図	30	第 54 図	SK6691遺物実測図 (11)	83
第 18 図	土坑遺物出土状態図 (3)	31	第 55 図	SK6691遺物実測図 (12)	84
第 19 図	土坑遺物出土状態図 (4)	32	第 56 図	SK6691遺物実測図 (13)	85
第 20 図	その他の遺構平面図	34	第 57 図	SK6691遺物実測図 (14)	86
第 21 図	遺構配置図 (1)	37	第 58 図	SK6691遺物実測図 (15)	87
第 22 図	遺構配置図 (2)	39	第 59 図	SK6691遺物実測図 (16)	88
第 23 図	遺構配置図 (3)	40	第 60 図	SK6691遺物実測図 (17)	89
第 24 図	調査区周辺の地籍図	42	第 61 図	SK6691遺物実測図 (18)	90
第 25 図	遺物器種分類図 (1)	48	第 62 図	SK6691遺物実測図 (19)	91
第 26 図	遺物器種分類図 (2)	49	第 63 図	SK6691遺物実測図 (20)	92
第 27 図	SX4009遺物実測図 (1)	52	第 64 図	SK6691遺物実測図 (21)	93
第 28 図	SX4009遺物実測図 (2)	53	第 65 図	SK6691遺物実測図 (22)	94
第 29 図	SX4009遺物実測図 (3)	54	第 66 図	SK6691遺物実測図 (23)	95
第 30 図	SD6092遺物実測図 (1)	56	第 67 図	SK6691遺物実測図 (24)	96
第 31 図	SD6092遺物実測図 (2)	57	第 68 図	SK6691遺物実測図 (25)	97
第 32 図	SK4287遺物実測図	58	第 69 図	SK6691遺物実測図 (26)	98
第 33 図	SK6735遺物実測図 (1)	61	第 70 図	SK6691遺物実測図 (27)	99
第 34 図	SK6735遺物実測図 (2)	62	第 71 図	SK6691遺物実測図 (28)	100
第 35 図	SK6735遺物実測図 (3)	63	第 72 図	SK6691遺物実測図 (29)	101
第 36 図	SK6735遺物実測図 (4)	64	第 73 図	SK6691遺物実測図 (30)	102
第 37 図	SK6735遺物実測図 (5)	65	第 74 図	SK6691遺物実測図 (31)	103
			第 75 図	SK6691遺物実測図 (32)	104
			第 76 図	SK6691遺物実測図 (33)	105

第77図	SK6691遺物実測図 34	106	第116図	精煉碗型鉄滓のX線回折分析チャート	173
第78図	SK6691遺物実測図 35	107	第117図	精煉碗型鉄滓のX線回折分析チャート	174
第79図	SK6691遺物実測図 36	108	第118図	銅滓のX線回折分析チャート	174
第80図	SK6691遺物実測図 37	109	第119図	NR4001出土人骨	178
第81図	人形・玩具類実測図(1)	113	第120図	獣骨にみられた傷	181
第82図	人形・玩具類実測図(2)	114	第121図	各編年対照図	189
第83図	人形・玩具類実測図(3)	115	第122図	清洲城下町遺跡陶磁器碗類編年表	193
第84図	人形・玩具類実測図(4)	116	第123図	清洲城下町遺跡陶磁器皿類編年表	194
第85図	墨書陶磁器実測図	117	第124図	清洲城下町遺跡陶磁器鉢類編年表	195
第86図	井戸側実測図(1)	120	第125図	清洲城下町遺跡土師器皿類編年表	196
第87図	井戸側実測図(2)	121	第126図	清洲城下町遺跡土師器鍋・釜類編年表(1)	197
第88図	金属製品(銭貨)拓影図	122	第127図	清洲城下町遺跡土師器鍋・釜類編年表(2)	198
第89図	近世以降の漆器(挽物類)の木取方法	126	第128図	清洲城下町遺跡地区割図	200
第90図	漆塗り構造の分類	126	第129図	田中町北部地区(城下町期I期)案I	203
第91図	X線分析結果-サビ下地	128	第130図	田中町北部地区(城下町期I期)案II	203
第92図	X線分析結果-赤色系漆 ベンガラ	128	第131図	田中町南部地区(城下町期I期)	204
第93図	X線分析結果-赤色系漆 朱	128	第132図	五条橋地区(城下町期I期)	205
第94図	X線分析結果-赤色系漆 朱+ベンガラ	128	第133図	本町西部地区(城下町期I期)	205
第95図	X線分析結果-金粉状装飾 金	128	第134図	御園地区(城下町期I期)	205
第96図	X線分析結果-石黄	128	第135図	神明町地区(城下町期I期)	206
第97図	X線分析結果-銀粉状装飾 銀	128	第136図	城下町期I期の清須城下町復元想定図	207
第98図	X線分析結果-金粉状装飾 錫	128	第137図	田中町北部地区(城下町期II期以降)	208
第99図	年代別出土漆器資料の品質組成の傾向	129	第138図	田中町南部地区(城下町期II期)	209
第100図	清洲城下町遺跡出土人形K-Ca分布図	142	第139図	五条橋地区(城下町期II期)	209
第101図	清洲城下町遺跡出土人形Rb-Sr分布図	142	第140図	御園地区(城下町期II期)	210
第102図	名古屋城三の丸遺跡出土人形K-Ca分布図	142	第141図	神明町地区(城下町期II期)	210
第103図	名古屋城三の丸遺跡出土人形Rb-Sr分布図	142	第142図	城下町期II-1期の清須城下町復元想定図	211
第104図	西尾城遺跡他出土人形K-Ca分布図	142	第143図	本町西部地区(城下町期II-2期以降)	212
第105図	西尾城遺跡他出土人形Rb-Sr分布図	142	第144図	城下町期II-2期の清須城下町復元想定図	214
第106図	土師器鉢分類図	143	第145図	田中町南部地区(城下町期III期)	215
第107図	蛍光X線分析関連遺跡位置図	143	第146図	本町東部地区(城下町期III期)	216
第108図	胎土分析試料実測図(1)	144	第147図	南部地区(1)(城下町期III期)	217
第109図	胎土分析試料実測図(2)	145	第148図	南部地区(2)(城下町期III期)	218
第110図	鉄滓外観写真その1	168	第149図	御園・神明町地区(城下町期III期)	219
第111図	鉄滓外観写真その2	169	第150図	朝日西地区(城下町期III期)	219
第112図	銅・青銅滓・および金属鉛の外観写真	170	第151図	廻間地区(城下町期III期)	220
第113図	鉄滓顕微鏡写真その1	171	第152図	城下町期III期の清須城下町復元想定図	222
第114図	鉄滓顕微鏡写真その2	172			
第115図	製錬鉄滓のX線回折分析チャート	173			

## 挿 表 目 次

第1表	発掘調査区一覧表 .....	2
第2表	井戸一覧表 .....	20
第3表	主要遺構遺物集計表 .....	59
第4表	人形・玩具類観察表 .....	112
第5表	人形・玩具類観察表 .....	113
第6表	遺構出土墨書・ガラス継ぎ文字資料一覧表 .....	118
第7表	ろくろ挽き物の用材分類一覧表 .....	125
第8表	漆器一覧表 .....	130
第9表	蛍光X線分析試料一覧表 .....	146
第10表	蛍光X線分析結果等一覧表 .....	147
第11表	金属滓(金属塊)一覧表 .....	156
第12表	化学成分分析結果一覧表(鉄滓関係) .....	166
第13表	化学成分分析結果一覧表(鉄塊関係) .....	167
第14表	化学成分分析結果一覧表(銅滓関係) .....	167
第15表	化学成分分析結果一覧表(銅塊関係) .....	167
第16表	化学成分分析結果一覧表(鉛塊関係) .....	167



# はじめに

ここでは、宿場町期の遺構・遺物の記述を行う前に、本書の理解を深めてもらうため、あらかじめ原著（『清洲城下町遺跡Ⅳ』1994）に記載されてきた概要について触れることとする。

## 1 立地と基本層序

清洲城下町遺跡は濃尾平野に立地し、木曾川分派流の五条川中流域に位置する。基本層序は南北1.8kmに及ぶ調査区のため、地点によって異なるが、おおよそ基盤層はシルト層または砂層となっている。本遺跡における年代の鍵層には、天正地震（1586年1月18日発生）及び濃尾地震（1891年10月28日発生）による地震痕が認められる。また、1794年の五条川瀬替えによる堤防盛土も決め手の一つとなる。

## 2 調査経過

昭和61年度から平成5年度迄に39調査区の発掘調査を実施し、本書は92F区・93C区を除く37調査区（29750㎡）を整理の対象としている（調査区の詳細は第1表と巻末遺構図を参照）。遺構の状況は複雑かつ検出は困難な場合が多く、隣接する調査区で異なった結果を得る場合も少なくなかった。

## 3 調査成果の概要

この調査で確認された遺構・遺物は、遺跡の広がりや内容から以下の3時期に大別できる。

### 1 城下町期以前（古代～中世）

遺跡の広がりには大きく3つにまとめられ、その性格は集落・墓域に比定できる。

### 2 城下町期（戦国時代～江戸時代初頭）

遺跡の状況から清須城に付随する城郭・城下町の遺跡と考えられる。

### 3 宿場町期（江戸時代以降）

遺跡の広がりには部分的で、清洲宿に付随する遺跡であると考えられる。

なお、前者では城下町期を更に3期6小期に区分している。また、城下町期と宿場町期の境は、清須城が名古屋城へ移転する1610年～1613年に行われたいわゆる「清須越し」に求められる。従って宿場町期の開始は1613年ということになる。

## 4 調査の結果

城下町期以前、及び城下町期の調査成果は多岐に及んでおり、その内容は原著を参照されたいが、宿場町期に関連する問題として次の2点を指摘しておきたい。

- ① 清須城中堀SD6001は、城下町期で完全に廃絶されたわけではなく、宿場町期以降の遺物を含有している。宿場町期においてもある程度機能していたと言えよう。
- ② 城下町期Ⅲ期の遺構群の内、宿場町期初頭に含まれるものがあり、清須越しは完全ではなかった。

（鈴木正貴）

第1表 発掘調査区一覧表 (五条川河川改修関連)

調査区	調査期間	調査面積	調査担当者
61A区	1986.8～1986.11	836㎡	水谷・中野
61B区	1986.7～1986.11	707㎡	梅本・小澤・細野
61C区	1987.1～1987.3	865㎡	梅本・小澤・細野
61D区	1986.11～1986.12	902㎡	梅本・小澤・細野
62A区	1987.11～1987.12	130㎡	細野・水谷・中野
62B区	1988.1～1988.2	510㎡	細野・水谷・中野
62C区	1987.8～1987.11	690㎡	細野・水谷・中野
62D区	1988.1～1988.2	990㎡	細野・水谷・中野
62G区	1987.10～1987.10	500㎡	細野・鈴木
62M区	1987.10～1987.11	230㎡	細野・鈴木
62N区	1987.11～1987.12	150㎡	細野・水谷・中野
63A区	1988.8～1988.9	260㎡	日比・船谷
63B区	1988.7～1988.9	550㎡	水谷・川井・岡本
63C区	1988.8～1988.12	860㎡	水谷・日比・川井・鈴木
63D区	1989.1～1989.3	580㎡	梅本・佐藤・城ヶ谷・加藤
63Q区	1989.2	100㎡	佐藤・城ヶ谷
63R区	1988.11～1989.1	660㎡	佐藤・日比・鈴木・船谷
63S区	1988.12～1989.1	790㎡	水谷・川井・岡本
89A区	1990.1～1990.2	750㎡	日比・城ヶ谷
89B区	1989.8～1990.1	2050㎡	小澤・小塚・加藤
89C区	1989.8～1989.11	700㎡	梅本・小塚
89D区	1990.1～1990.3	1300㎡	小塚・鈴木
89E区	1989.9～1990.2	1300㎡	梅本・加藤
89F区	1990.2～1990.3	880㎡	小澤・加藤
90A区	1990.7～1990.8	750㎡	城ヶ谷・遠藤・鈴木・加藤
90B区	1990.9～1990.12	400㎡	城ヶ谷・鈴木
90C区	1990.9～1990.12	1150㎡	遠藤・加藤
90D区	1990.9～1990.12	1640㎡	城ヶ谷・鈴木・加藤
90F区	1991.1～1991.3	1660㎡	城ヶ谷・遠藤・加藤
91A区	1991.12～1992.3	1800㎡	城ヶ谷・鈴木・小嶋
91B区	1991.12～1992.3	1800㎡	城ヶ谷・小嶋・鈴木
91C区	1991.10～1991.11	1220㎡	城ヶ谷・小嶋・鈴木
92C区	1992.11～1993.1	220㎡	大竹・蟹江
92D区	1992.11～1993.1	220㎡	大竹・蟹江
92E区	1992.11～1993.1	220㎡	大竹・蟹江
92F区	1992.10～1992.11	240㎡	大竹・蟹江・鈴木
93A区	1993.4～1993.7	620㎡	大竹・小澤
93B区	1993.4～1993.5	600㎡	池本・前田
93C区	1993.10～1993.11	240㎡	大竹・小澤

## 第Ⅵ章 宿場町期の遺構

## 第1節 概要

### A 遺構の整理方針

今回の調査で確認された遺構は大きく城下町期以前（～1478年）・城下町期（1478年～1613年）・宿場町期（1613年～1891年）に区分される。この内、宿場町期に属すると考えられる遺構は全部で約500基を数える。本書の作成に際しては、宿場町期の遺構の抽出作業は、出土遺物の分析と遺構面の検討によって実施し、以下のような方針で宿場町期の遺構図を作成した。

- ① 原則として、城下町期以前と城下町期の遺構は、本書巻末遺構図から除去した。
- ② 「清洲城下町遺跡Ⅳ」資料編の遺構図に記載された宿場町期の遺構は再掲した。  
なお、再掲遺構の遺構番号は「清洲城下町遺跡Ⅳ」の番号をそのまま使用した。
- ③ 本書で初めて正報告される遺構の遺構番号は、「清洲城下町遺跡Ⅳ」に継続して付した。
- ④ 本書巻末遺構図の上面・下面の区分は便宜的なものである。  
従って、調査時に認識された遺構面や本来の遺構面による区分ではない。
- ⑤ 隣接する調査区で遺構が矛盾した場合、調査担当者と検討の上、遺構の一部を削除・変更した。  
遺構番号の設定は、遺構の種類・地区毎に通番を振っている。遺構の種類は次の通りである。

SA（櫛列）——礎石・ピット・土坑が一列に並ぶものを指す。

SB（建物）——掘立柱建物・礎石建物等を指す（櫛列を除く）。

SD（溝）——細長い形状をした、あるいはその一部と考えられる穴を指す。

SE（井戸）——湧水層まで掘削し、井戸側が存在、または存在したと推定されるものを指す。

SK（土坑）——径が40cm以上の方形や円形等の形態をした穴を指す。

SX（その他）——竈状遺構等の形態が特殊なものを指す。

NR（自然流路）——自然に形成されたとと思われる水流のある溝を指す。

P（ピット）——径が最大40cm未満の穴を指す。

### B 遺構の種類と概要

宿場町期の遺構は、五条橋地区と本町地区に集中しており、本丸地区・田中町地区・南部地区では僅かに遺構が検出されたに過ぎない。宿場町期の遺構には、溝、建物、井戸、土坑、ピット等がある。このうち、溝は小規模の溝が並列するものを竈状遺構として区分する。また土坑には、内部に方形石組を配した方形石組遺構、瓢箪形の平面プランで被熱された竈状遺構等があり、これらは一般の土坑とは分けて報告する。建物には掘立柱建物和礎石建物があるが、小規模な土坑やピットあるいは礎石が群集する場合があり、建物として認定されなかったものもあったと思われる。

城下町期の遺構と同様、こうした遺構群は個別に存在したのではなく、相互に有機的に関連を持って展開したものであろう。今回検出された遺構群は、ほとんどが人間が居住した屋敷（区画）に伴うものであると考えられる。従って、こうした遺構の集合体としての区画を第12節に報告する。

## C 遺構の時期と変遷

これまで宿場町期の遺構は、寛政5年(1794)に行われた五条川の瀬替え<sup>(1)</sup>を境に前期・後期の2期に区分されてきた<sup>(2)</sup>。この瀬替えは、現清洲町地内の五条川南半部において蛇行していた流路を直線的に南下させたもので、91A区以南の現五条川堤防はこの時に築堤されたものと考えられる。また、宿場町期後期の遺構群は1891年に発生した濃尾地震による噴砂で覆われている部分があり(第1図)、この年代を清洲宿の終末に当てる考えがある。但し、時期区分の細分や遺構の展開等については研究があまり進んでおらず、今日まで課題として残されてきた。

今回、宿場町期の遺構の整理に当たり、時期区分と遺構の時期認定は、遺構出土遺物の年代を基準に据えた。この際、本遺跡では一定量の出土量を持ち編年研究が比較的進展している瀬戸・美濃窯産陶磁器の年代観<sup>(3)</sup>を使用した。この結果、宿場町期は以下のように区分できる。

宿場町期Ⅰ期——清須越しから五条川の瀬替えまで(1613~1794)。これまでの前期に対応する。

Ⅰ-0期——瀬戸・美濃窯産陶磁器編年の第1小期~第4小期

Ⅰ-1期——瀬戸・美濃窯産陶磁器編年の第5小期~第6小期

Ⅰ-2期——瀬戸・美濃窯産陶磁器編年の第7小期~第8小期

宿場町期Ⅱ期——五条川の瀬替えから濃尾地震まで(1794~1891)。これまでの後期に対応する。

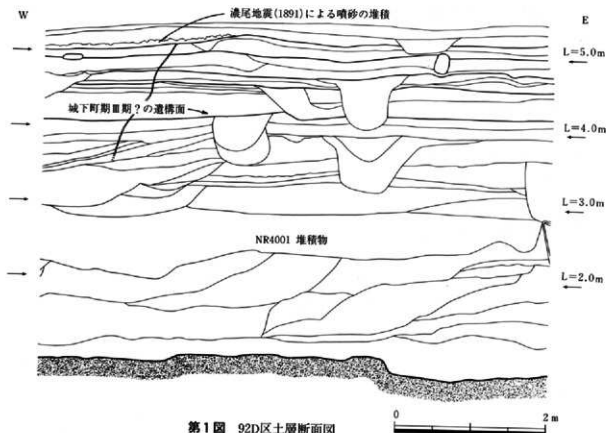
Ⅱ-1期——瀬戸・美濃窯産陶磁器編年の第9小期

Ⅱ-2期——瀬戸・美濃窯産陶磁器編年の第10小期~第11小期 (鈴木正貴)

註(1) 清洲町史編纂委員会(1948)『清洲町史』による。

(2) 小澤一弘他(1990)『清洲城下町遺跡』『年報平成元年度』(財)愛知県埋蔵文化財センターによる。

(3) 藤澤良祐編(1987~1989)『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅵ~Ⅷ』による。



第1図 92D区土層断面図

## 第2節 五条川堤防

### A 五条川の沿革

濃尾平野を南流する五条川は、歴史上何度か流路を替えていたと考えられており、江戸時代に入ってもなお、たびたび洪水に見舞われてきた。こうした事態を打開するため幾度かの瀬替え・改修を行い、今日の五条川流路に至っている。城下町期から宿場町期Ⅰ期までの「旧五条川」NR4001は、御園地区から五条橋地区までは現流路とほぼ同一であるのに対し、90D区以南では西に屈曲して蛇行していたと考えられている。90D区から下流の旧五条川流路の位置は、「春日井郡清須村古城絵図」（名古屋市蓬左文庫所蔵）の記載や明治17年作成の『地籍図』（愛知県公文書館所蔵）及び現在の地形から、名鉄新清洲駅付近で南下し巡礼橋付近で現五条川の位置に流れていたと推定されている。この旧五条川が現五条川に流路を変更されたのが、寛政5年（1794）の五条川瀬替えと考えられる。これにより現五条川の掘削とその堤防が築堤されたと思われる。

### B 調査の概要

現五条川に関わる発掘調査は89E区以南で行われ、特に現堤防直下の調査区であった91A区・91B区では堤防そのものの調査を実施する機会を得た。調査の方法は、調査期間の制約のため、堤防の堆積土を重機によって表土はぎの形で除去し、堤防の断面観察を実施した。この結果、堤防の表土部分を除く大部分の堆積は黄褐色粗砂の単一層で構成されていることが判明した。粗砂層は攪拌を受けシルトブロック等を一部含有しており、人為的に盛土されたものと思われる。おそらくは現五条川を掘削した際に排出した砂層をそのまま堤防として盛り上げたものと思われる。また、堤防盛土部には互層状の堆積は認められず、版築等の地盤強化の工夫は特に見られなかった。なお、堤防盛土直下の遺構面で宿場町期Ⅰ期以前の遺構が検出されている。

### C 現堤防築堤に関する諸問題

五条川堤防築堤に関する主要な問題点を2点取り上げておく。

#### ① 五条川の瀬替えの年代

五条川瀬替えの年代は、「清洲町史」によれば寛政5年（1794）となっている。従って、現堤防によって埋積された遺構群の上限年代は確定できるものであり、遺物の年代観を検討する貴重な資料を得た。この点についてはSD6092出土遺物の項目等で触れることとしたい。

#### ② 遺構の展開と画期

城下町期Ⅲ期以降、中堀SD6001が収束する地点から南へ背割線または道路があったと推定され、宿場町期に入ってからはこのSD6001から南へ延びるラインは「美濃街道」として継続していたものと考えられる。この考えが妥当であれば、1794年の五条川瀬替えによって美濃街道が現在の位置に移動したということになる。

（鈴木正貴）

### 第3節 溝

#### A 概要

溝は比較的小規模なものが多く、一部に規模の大きいものが例外的に存在する。溝は遺構全体の分布状況と同様に展開し、五条橋地区と本町地区で多く見られ、御園地区では溝は存在しなかった。溝の構造は素掘りのものばかりで、石組・しがらみ・杭列等の護岸施設を持たない。断面形態はほとんどが逆台形または半円形となる。溝の方位は、本町地区でN10° E及びこれと直交する方位を基本としている傾向が読み取れる。ここでは溝の類型化を行わず、地区別に個別に説明を加える。

#### B 本丸地区

本丸地区での宿場町期の溝は62N区のみで検出された。いずれも性格は不明である。

SD2005～SD2007

62N区で検出された溝群で、平面形は蛇行したり途中で収束したりして不定形である。形態が規格的でないことと、五条川に隣接する位置で確認された大規模な溝であること等から、SD2005～SD2007は五条川堤防築堤に関連して掘削された遺溝の可能性が指摘される。

#### C 田中町地区

田中町地区での宿場町期の溝は、63A区と93B区のみで検出された。性格が不明なものが多い。

SD3022・SD3023

63A区で検出された溝で、何度かの埋積と掘削を繰り返していたと思われる。溝の方位はN20° Eを測る。出土遺物の量が少なく詳細な時期の特定はできない。

SD3020

SD3020は63A区で検出された溝でSD3022・SD3023に直交する。幅は0.64mで時期は不明。

#### D 五条橋地区

この地区の溝は、現五条川流路に平行する溝や幅が10m前後を測る溝等、多様な様相を持つ。

SD4001～SD4005

63B区北部で検出された溝群で、現五条川流路に平行して走る。幅は0.63m～1.63m、方位は約N70° Eを測る。SD4001とSD4002及びSD4003とSD4004は各々接近して存在する。SD4002とSD4003の間は約2.5mを測り、道路SF4001となる可能性がある。

SD4008

61A区北部に所在する東西方向に走る溝である。幅は0.75m、方位はN75° Eを測る。東西両端部は擾乱によって破壊されていた。時期は宿場町期Ⅱ期と考えられる。SD4010・SD4011と併せて屋敷境を表現する区画溝と推定される。

SD4010・SD4011

61A区に存在する南北方向に走る溝群で、SD4010の幅は0.48m、SD4011の幅は2.28mを測る。方位は共にSD4008と直交しており、SD4011がSD4010を切っている。出土遺物から両者の時期は宿場町

期Ⅱ-2期に位置づけられる。SD4008と併せて屋敷境を表現する区画溝と推定される。

SD4012

61A区中央部で検出された溝で、途中で屈曲している。時期は宿場町期Ⅱ期に属するが、性格は不明である。

SD4016

92C区北端部で検出された東西方向の溝である。現美濃街道に平行し、幅1.61mを測る。東西両端は取束し、SK4434とSK4435に切られる。出土遺物や状況から宿場町期Ⅱ期の区画溝と思われる。

SD4026 (第2図・写真図版15)

63C区で確認された東西方向に走る巨大な溝である。溝の幅は10.64mを測り、西端部は途中で取束し、東端部も砂質土を強く固めた堆積SX4008が高台状になって認められ取束している。溝の埋土は砂質土等が互層となって堆積しており、東側から順に埋め立てられたと考えられる。出土遺物から宿場町期Ⅰ-1期に埋没されたと思われる。清須城中堀SD6001が埋積した後に巨大な規模の溝SD4026が掘削されたことは、SD6001に替わる強い区画意識を継続して持っていたと考えられる。

SD4043・SD4044

63C区西南部で検出された溝で、幅は0.60m前後を測る。両者の溝は互いに直交している。時期は宿場町期Ⅱ期に位置づけられる。屋敷境の区画溝と思われる。

SD4045

63C区東南部に所在する溝である。宿場町期Ⅱ期に位置づけられ、屋敷境の溝の可能性はある。

## E 本町地区

本町地区の溝には大小様々な規模を持つものがある。また、溝の方位はおおよそN10°Eとなるものとおおよそ真北となるものに分けられ、各々が平行して走る場合が多い。

SD6077

89E区北端部で検出された東西方向に走る溝である。清須城中堀SD6001廃絶後に掘削されていることや出土遺物から宿場町期Ⅱ期に位置づけられる。

SD6078 (第3図・写真図版8)

89E区で検出された南北方向に走る溝で、89E区の南端部で取束している。幅は4.71mを測る。SD6079・SD6081と平行する。SE6049に切られることと出土遺物から宿場町期Ⅰ-2期～Ⅱ-1期に属する。

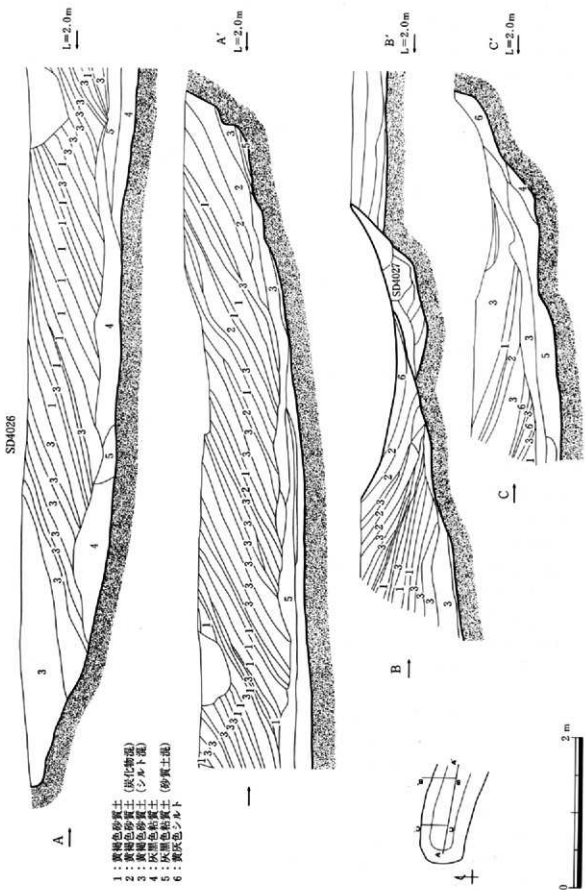
SD6079・SD6080・SD6083・SD6084

89E区で確認されたSD6078に平行して走る溝である。SD6080を切ってSD6079が、SD6083を切ってSD6084が設けられた。SD6080とSD6083の間には約1.8mの間隔があり、出入り口を形成したと考えられる。SD6084は南部が僅かに蛇行している。

SD6081・SD6082・SD6002

91A区北部に存在する幅約0.5mの溝群で、SD6081とSD6082・SD6002は各々直交する。これらの溝は区画溝の一種と推定される。現五条川堤防下で検出されたことから宿場町期Ⅰ期に位置づけられる。なお、SD6081はSD6085に切られている。





第2図 溝土層断面図(1)

SD6028 (第3図)

61B区と89B区北端部で検出された幅約2.80mの溝である。SD6028北端部はSD6078の南端付近で収束し、南端部はSD6047に接している。SE6023とSK6691に切られる。出土遺物から宿場町期Ⅱ-1期に位置づけられる。同規模の溝SD6078と喰い違いの位置関係にある。

SD6031

61B区西半部で確認された溝で、方位はN5°E、検出長は10.35m、幅は2.00mを各々測る。出土遺物から宿場町期Ⅰ期に位置づけられる。

SD6032

61B区西半部で確認された溝で、SD6031に平行して走る。検出長は12.75m、幅は1.55mを測り、出土遺物から宿場町期Ⅱ-2期と考えられる。なお、SD6031とSD6032の溝心間距離は1m強を測っている。

SD6085 (写真図版8)

SD6081とSD6087を切る溝で現五条川堤防下から検出された。宿場町期Ⅰ-2期に属する。

SD6087

91A区に存在する溝で、SK6687・SK6698やSD6085・SD6092に切られる。周囲の状況からSD6081に連続する溝である可能性も考えられよう。宿場町期Ⅰ-2期に位置づけられる。

SD6092 (写真図版8)

91A区から89B区に跨って存在する溝である。幅は1.80m-2.60mを測り、SD6087とSD6098を切る。方位はN5°EでSD6093と平行する。SD6093との溝心間距離は10m強である。出土遺物から宿場町期Ⅰ-2期に位置づけられる。

SD6093 (第3図)

89Bで検出された幅が1m以下の規模の小さい溝である。宿場町期Ⅱ-1期の遺構SK6735に切られること等から宿場町期Ⅰ-2期に属すると思われる。SD6092と対応して存在する。

SD6097-SD6100・SD6102・SD6105-SD6107 (第3図・写真図版8)

89Bで検出された方位がN5°Eとなる溝群である。溝の幅は0.40m-1.50mを測り、複雑に切り合いながら存在しており、恐らく何度か掘削し直されたものだろう。SD6099の全長は14.66m、SD6100の全長は42.21m、SD6102の全長は21m以上、SD6106の全長は15.47m、SD6107の全長は16.12mを各々測る。これらの溝群はSD6101・SD6110と平行する形で存在しており、溝群とSD6101・SD6110との間には道路SF6001であった可能性がある。出土遺物等から大半の溝は宿場町期Ⅰ期に属するが、SD6102のみが宿場町期Ⅱ-1期まで継続している。

SD6101

89B区に所在する南北溝で南端部で東に屈曲していた。溝幅は1.35mを測る。宿場町期Ⅰ-2期。

SD6110

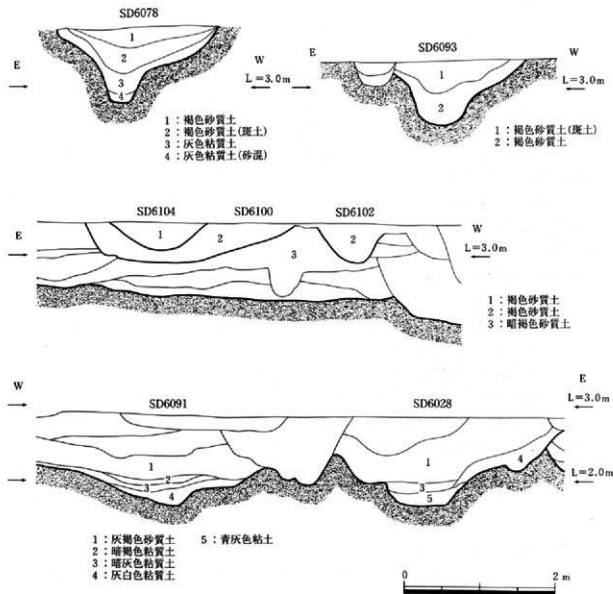
89B区に所在する南北溝であり、全長40m以上検出された。北端部で東に屈曲しており、おそらく南端部も東に屈曲していた可能性が高い。溝幅は1.25m、SD6101とSD6110の東西溝の溝心間距離は17.60mを測る。出土遺物から宿場町期Ⅰ-2期に位置づけられる。

## SD6112

SD6110に平行する89B区南部で検出された溝である。溝幅は1.40mでSD6110との溝心間距離は4.50mを測る。出土遺物から宿場町期Ⅱ-1期に位置づけられる。

## SD6111・SD6114

SD6111はSD6112に平行する幅0.25mの溝で、SE6051を切っている。SD6114はSD6111の南端から西に延びる幅0.35mの溝である。SD6114の延長ラインはSD6111に直交している。(鈴木正貴)



第3図 溝土層断面図(2)

## 第4節 建物

### A 概要

建物は上部構造が遺存せず下部の基礎地業の痕跡のみが検出された。建物は旧地表面から深く掘り込んで遺構を構築するわけではないため、今回の調査では検出できなかったものが存在する可能性を指摘できる。ここでは城下町期と同様、土台・基礎地業の構造によって次のように区分できる。

礎石建物——柱の基礎に石材を用いたもの。

掘立柱建物——柱の基礎部分に柱穴を掘削して柱を埋設したもの。

### B 礎石建物

礎石建物は五条橋地区の92C区と92D区で検出された。標高4.5m前後の宿場町期Ⅱ期に属する遺構面で確認されており、標高4.0m以下まで重機によって表土剥ぎしたその他の調査区でも、本来は宿場町期Ⅱ期の礎石建物が存在した可能性が十分に認められる。建物遺構は安定した礎石列が配置されていたものは少なく、建物外周等を巡る石列が検出されたものも存在する。こうした検出状況から、上部構造の復元は困難である。ここでは、比較的良好な形で確認された礎石建物5棟を紹介する。

#### SB4001（第4図・写真図版9）

92C区で検出された桁行4間×梁行3間？の南北棟礎石建物で、規模は約8.5m×約5.5m？を測る。北面の柱間距離は西から約2.6m？、1.1m、1.7mを測り、中央の柱間は正面の出入り口部分と推測できる。東面北部には拳大の石材で構成された石列が巡っている。南面にも石列が存在し、その中央には開口部があり幅1.1mの出入り口を形成していたと推定される。南面東側石列の西端部から北へ礎石列が配置されており、この柱間距離は南から約2.1m、1.9m、1.8m、2.7mを測る。この礎石列は建物内部の間仕切りと考えられる。建物の位置は現美濃街道に面する形で設定されていた。濃尾地震の噴砂が堆積する地層よりも下層に遺構が構築されていたこと等から宿場町期Ⅱ期に属する。

#### SB4002（第4図・写真図版9）

92C区で検出された桁行4間×梁行2間以上の南北棟礎石建物である。東半部は調査区外に延びており、規模は約9.4m×約2.8m以上を測る。西面の柱間距離は北から約2.3m、3.0m、1.6m、2.4mとなるが、北から3番目の柱位置を集石部北端に比定すると、柱間距離は約2.3mを基準にほぼ等間隔に設定されていたことになる。宿場町期Ⅱ期。

#### SB4003（第4図・写真図版9）

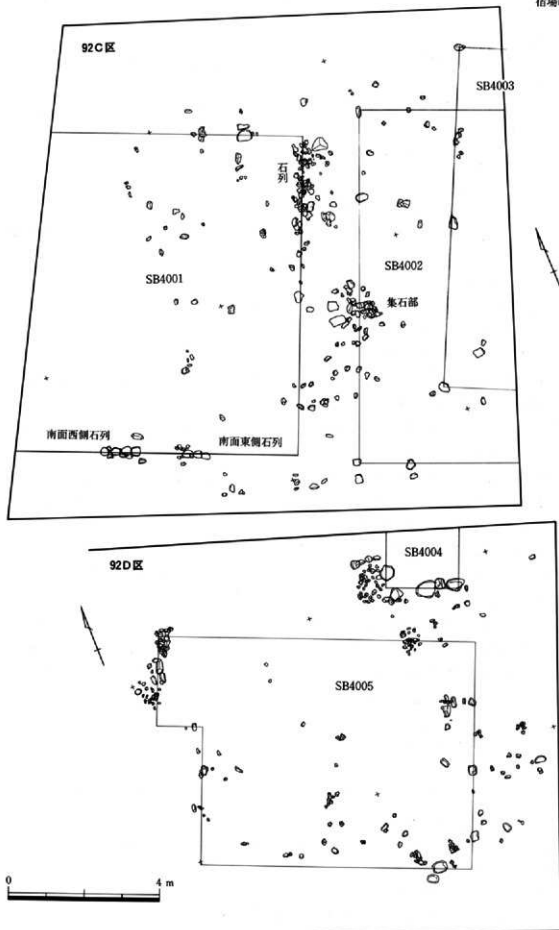
92C区で検出された桁行3間×梁行1間以上の南北棟礎石建物である。東半部は調査区外に延びており、規模は約9.0m×約0.8m以上を測る。西面の柱間距離は北から約2.3m、2.3m、4.4mを測る。SB4002と同様、約2.3mを基準に建てられた建物であると思われる、宿場町期Ⅱ期に属する。

#### SB4004（第4図・写真図版9）

92D区で確認されたL字形の榑状配石遺構をSB4004とする。主体部は調査区外に東西棟建物があったと考えられ、検出した部分はその張り出し部と推定される。宿場町期Ⅱ期。

#### SB4005（第4図・写真図版9）

92D区で確認された桁行5間×梁行3間の東西棟礎石建物である。規模は約8.4m×約6.0mを測り、



第4図 礎石建物平面図

建物の周囲には石列が巡っている。方位は現美濃街道に面する形で設定されていた。濃尾地震の噴砂が堆積する地層よりも下層に遺構が構築されていたことから宿場町期Ⅱ期に属する。

### C 掘立柱建物

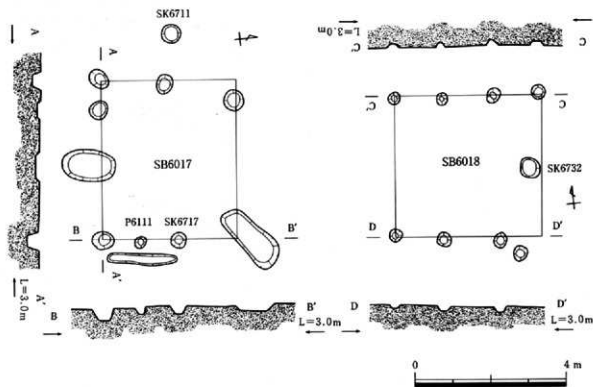
掘立柱建物は本町地区の91A区で2棟検出されている。現五条川堤防下で確認されたことから宿場町期Ⅰ-Ⅱ期に位置づけられる一群である。

#### SB6017 (第5図・写真図版9)

91A区中央部に所在する2間×2間の掘立柱建物である。規模は3.10m×3.68mを測る。西面の柱間距離は北から1.55m、1.55mを測るが、北西隅の柱穴は位置が若干ずれて存在している。東面の柱間距離は北から1.35m、0.85m、0.90mを測り、外側に溝SD6094が並走する。北西隅の柱穴は不定形の土坑となっている。南面の柱間距離は東から1.70m、1.30m、0.68mである。P6111、SK6717は東柱の可能性がある。SK6711もこの建物に伴うものかも知れない。

#### SB6018 (第5図・写真図版9)

91A区中央部で検出された1間×3間の東西棟掘立柱建物である。SD6096を挟んでSB6017の南に所在し、規模は3.40m×3.30mを測る。南東隅の柱穴は検出できなかった。南面の柱間距離は西から1.10m、1.30m、(1.00m)を測り、北面は1.10m、1.20m、1.10mを測る。東面のほぼ中央にSK6732が存在し、主柱穴になる可能性がある。(鈴木正貴)



第5図 掘立柱建物平面図・断面図

## 第5節 柵列

### A 概要

柵列は、建物と同様、上部構造は遺存せず基礎地業の痕跡が残存しているに過ぎない。従って、調査の過程で検出できなかった遺溝が存在する可能性が残されている。また、報告する柵列についても建物遺構の一部を柵列と認識したものがあるかも知れない。柵列を建物と同じく基礎地業で区分すると、礎石柵列と掘立柱柵列に分けられるが、前者は確認できず後者の事例が若干認められる。

### B 掘立柱柵列

掘立柱柵列は本町地区で2例確認された。

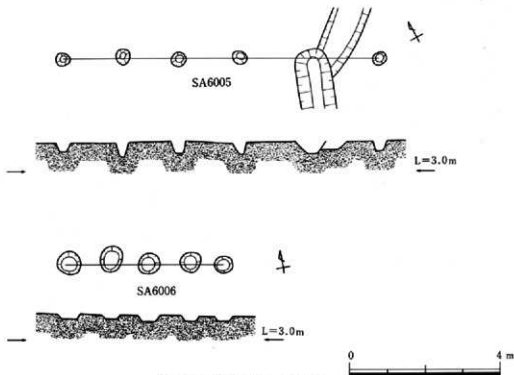
SA6005（第6図・写真図版9）

89E区北部拡張区の上面で確認された東西方向の掘立柱柵列である。5間分が検出され、東からP6110、(SK6651)、SK6649、SK6648、SK6646、P6108で構成される。柱間距離は東から約1.7m、1.7m、1.6m、1.5m、1.5mを測り、約1.6mを基準としているようである。中堀SD6001やSX4009が埋積された後に構築されたもので、おそらく宿場町期Ⅱ期に属すると推定される。屋敷境を区画する柵列と思われる。

SA6006（第6図・写真図版9）

91A区中央部で検出された東西方向に走る掘立柱柵列である。SK6745、SK6744、SK6742、SK6738、SK6737で構成され、柱間距離は東から約0.9m、1.1m、1.0m、1.1mを測り、約半間（0.9m）を基準に作られたものと思われる。北にはほぼ隣接してSB6018が存在しており、建物を囲む区画施設と考えられる。宿場町期Ⅰ-2期に属する。

（鈴木正貴）



第6図 柵列平面図・断面図

## 第6節 井戸

### A 概要

本遺跡で検出された宿場町期の井戸は全部で70基を数え、全て下部構造のみが確認されており、上部構造は遺存しなかった。城下町期と同様、地盤が軟弱であるため、土砂崩落防止用の内部構造物が設置されていたと思われる。井戸はこの内部構造物から以下のように区分できる。

結桶井戸——内部構造物として結桶状に板材を結び合わせた井戸側(結桶)のみが設置されたもの。

瓦積井戸——内部構造物として井戸専用瓦を筒状に組み合わせた井戸側が利用されたもの。最下部には結桶が設置される場合が多い。

陶製井戸——内部構造物として常滑窯産陶器井筒が設置されたもの。最下部には結桶が設置される場合が多い。

漆喰井戸——内部構造物として漆喰を井筒状に固めた井戸側が用いられたもの。最下部には結桶が設置される場合が多い。

無構造物井戸——内部構造物が遺存しないもの。内部構造物が撤去されたものと考えられる。

宿場町期の井戸構造の変遷は、未だ正確に分析されていないのが現状である。今回の調査では、宿場町期Ⅰ期の井戸構造が詳らかではないが、宿場町期Ⅱ期には結桶井戸の他に、瓦積井戸・陶製井戸・漆喰井戸等の多様な構造を持つ井戸が出現していることが明らかになった。しかしながら、瓦積井戸・陶製井戸・漆喰井戸は最下部に結桶が設置されており、結桶が井戸構造物の基本的な材料となり上部構造に多様性を持たせていたものと考えられる。この点は城下町期の結桶井戸の系譜が宿場町期Ⅱ期まで引き続いて存在していたと評価されよう。

なお、城下町期と同様、井戸の構築・使用・廃絶の過程を検討する。

#### ① 井戸の構築 井戸の構築手順は次のように復元できる。

- a 平面形が2～4mの円形または楕円形、断面形は円筒状または2・3段の階段状の土坑を掘削する。城下町期に比べ、土坑は円筒状に深く掘削されたものが多い。
- b 内部構造物を設置する。最下段に所在する井戸桶下端部を湧水層の砂層に差し込んでいる。
- c 井戸側の周囲を埋め立てる。

#### ② 井戸の使用 城下町期の井戸に存在した砂噴出防止用の竹編製品は全く認められなかった。

#### ③ 井戸の廃絶 井戸を廃絶する理由は、井戸枯れや屋敷内構造の変更等が考えられるが、ほとんどの場合は2基～5基の井戸が隣接して切り合っており、出水量が低下したために掘り直されたものと推定できる。井戸の廃絶の手法は、城下町期と同様、次の3タイプに分類できる。

- a 内部構造物抜取りaタイプ——内部構造物を周囲の土壌ごと除去したもの。
- b 内部構造物抜取りbタイプ——周囲の土壌を除去せず、内部構造物のみを抜き取ったもの。
- c 埋め立てタイプ——内部構造物をそのままにして石材・珪土等で埋め立てたもの。

また、井戸埋積時に竹管・鉄管を差し込んだものも見られ、息抜きを行ったものと考えられる。



**B 結桶井戸**

結桶井戸は結桶状の筒形木製品のみを内部構造物に据えたもので、宿場町期の井戸の半数を占める。

SE4097 (第7図)

61A区中央部に所在する結桶井戸で、結桶が1段残存していた。上部の内部構造物は周囲の土壌ごと除去されていた。宿場町期Ⅱ-2期に属する。

SE4014 (第7図)

93A区中央部で検出された結桶井戸で、結桶が1段残存していた。埋土中に結桶のタガが部分的に遺存していることから、上部の結桶は廃絶時に抜き取られたものと思われる。宿場町期Ⅱ-2期。

SE4022 (第7図・写真図版10)

90B区西部で検出された結桶井戸で、最下段の結桶が1段残存していた。埋土の状況から上部の結桶は抜き取られたものと考えられる。SE4023に切られており、何度か掘り直されたものと思われる。

SE4024 (第7図)

90B区西部に存在する結桶井戸で、最下段の結桶が1段残存していた。埋土の状況から上部の結桶は抜き取られたものと考えられる。SE4023に切られており、何度か掘り直されたものと思われる。

SE4026 (第7図・写真図版10・12)

90B区中央部で検出された結桶井戸である。結桶は3段残存しており、いずれも結桶の高さは85cm、口径は65cmを測る。埋土の状況から上部の結桶は抜き取られたものと考えられる。宿場町期Ⅱ期。

SE4027 (写真図版10)

90B区中央部で確認された結桶井戸で、結桶は2段残存していた。結桶内部にも結桶の部材が散乱していた。瓦積井戸SE4030に切られており、この地点で井戸が最低2回掘り直されたと思われる。

SE4045 (第7図)

62C区中央部に所在する結桶井戸で、最下段の結桶が2段残存していた。下から2段目の結桶の遺存状況は著しく不良であった。無構造物井戸SE4046に半分以上切られ破壊されており、掘り直しが行われている。宿場町期Ⅱ期。

**C 瓦積井戸**

瓦積井戸は井戸専用に焼成された瓦(第Ⅷ章第9節を参照)を円筒に積み上げた井戸側を持つもので、最下段に結桶が用いられる。宿場町期Ⅱ-2期以降に属するもののみである。

SE4021 (写真図版12)

90B区西部で検出された瓦積井戸である。8枚の瓦を用いて造った円筒を5段以上重ね、その下段には結桶が3段設置されていた。掘形は直径約1.5mのやや規模が小形の円形プランを持ち、SK4481等を切って存在している。宿場町期Ⅱ-2期に位置づけられる。

SE4030 (第8図)

90B区中央部で確認された瓦積井戸と推定される井戸である。井戸側構造物として確実に遺存していた部分はないが、埋土中に井戸専用瓦(1017~1020)が多数出土していることからこの種の井戸と推定した。SE4027を切っており、宿場町期Ⅱ-2期に属する。

#### D 陶製井戸

陶製井戸は常滑窯産陶器の円筒形井戸側が積み重ねられたもので、最下段に結桶が用いられる場合もある。時期的には、宿場町期Ⅱ期に属するもののみである。

SE4016 (第8図・写真図版12)

92C区西端部で検出された陶製井戸で大半は調査区外に存在する。常滑窯で専用に焼成された陶器井戸側が3段重ねられ、下段には結桶が2段設置されている。宿場町期Ⅱ期に位置づけられる。

SE6052

89C区中央部で確認された陶製井戸である。最下段には結桶は存在しなかった。宿場町期に属する。

#### E 漆喰井戸

漆喰井戸は漆喰を円筒状に固めた井戸側が用いられた井戸で、最下段に結桶が設置された場合もある。宿場町期Ⅱ-2期に属するもののみである。

SE4072 (第8図)

63C区東部に所在する漆喰井戸である。漆喰で造られた高さ70cm以上の井戸側を2段重ねて井戸側としている。井戸側中央には息抜きまたは吸引用の竹筒が差し込まれており、出土遺物から宿場町期Ⅱ-2期から20世紀まで機能したものと考えられる。

SE4076 (写真図版12)

63C区東部に所在する漆喰井戸である。漆喰で造られた井戸側を2段、最下段には結桶を重ねて構築されている。出土遺物から宿場町期Ⅱ-2期から20世紀まで機能したものと考えられる。

#### F 無構造物井戸

無構造物井戸の大半は、本来存在していた結桶等の内部構造物が抜き取られたと思われるものである。

SE4002 (第9図)

61A区北東部に所在する無構造物井戸で、掘形の平面形は直径2.2~2.4mの円形である。埋土の状況から内部構造物がそのまま抜き取られたものと考えられる。宿場町期Ⅱ-2期。

SE4004 (第9図)

61A区で検出された無構造物井戸である。掘形の形状は井戸内部構造物を抜き取る際にかなり破壊されており、詳細は不明である。出土遺物から宿場町期Ⅱ-2期に属する。

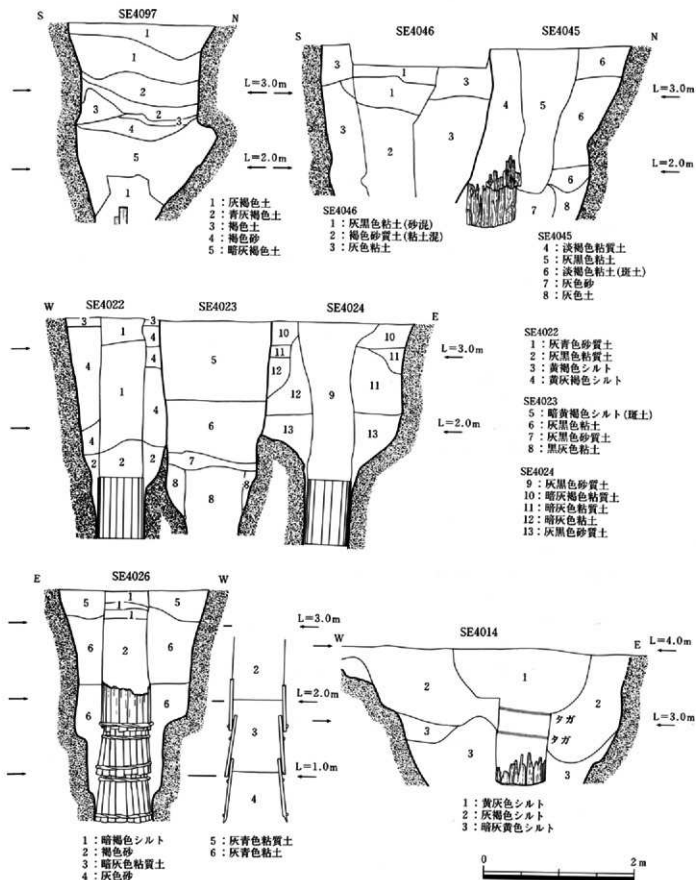
SE4044 (第9図)

62C区で確認された無構造物井戸である。掘形の平面形は直径2.0~2.4mのほぼ円形で、埋土の堆積状況とタガと思われる竹材が遺存していることから結桶が抜き取られたものと考えられる。出土遺物から宿場町期Ⅰ-2期に位置づけられる。

SE4096 (第9図・写真図版10)

61A区で検出された宿場町期Ⅱ-2期の無構造物井戸である。

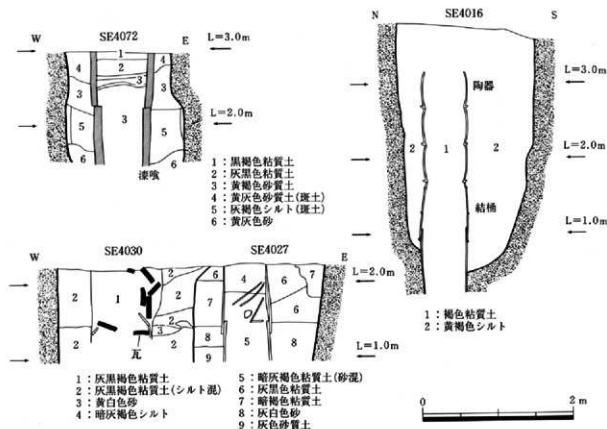
(鈴木正貴)



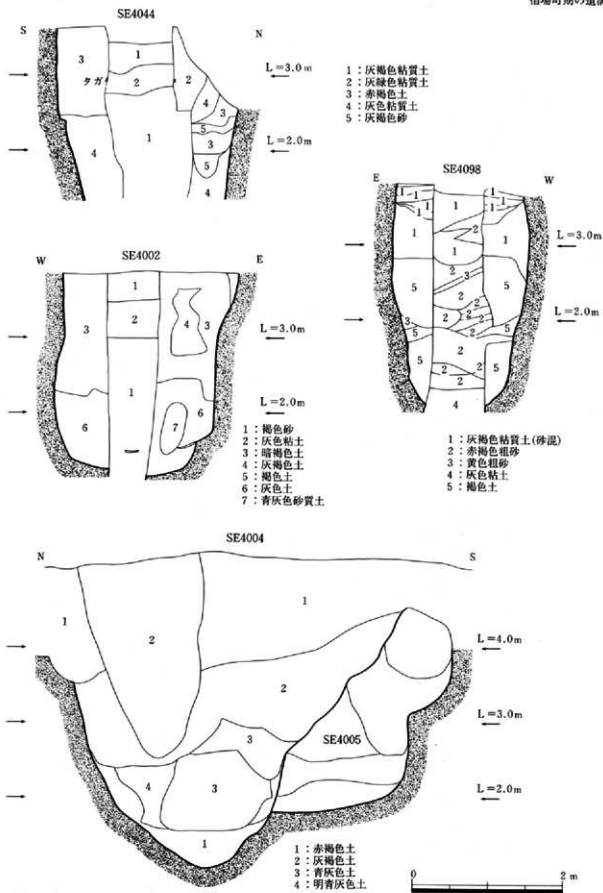
第7図 井戸土層断面図(1)

第2表 井戸一覧表

遺構番号	長軸(m)	短軸(m)	内部構造	時期	遺構番号	長軸(m)	短軸(m)	内部構造	時期
SE4002	2.46	2.22	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-2	SE4018	2.97	1.69	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ?
SE4004	2.45	1.37	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-2	SE4049	2.53	1.53	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-2
SE4005	2.07	1.00	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ	SE4050	3.53	3.41	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ
SE4006	43.45	2.07	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ	SE4051	1.99	1.68	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-1
SE4007	1.84	1.38	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-2	SE4052	3.52	3.07	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ
SE4008	2.38	2.02	結構井戸(結構2段)	Ⅱ-2	SE4053	1.74	1.66	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-2
SE4011	2.28	2.82	無雑物井戸(結構2段)	Ⅱ-2	SE4056	2.06	1.99	結構井戸(結構1段)	Ⅱ
SE4012	1.98	1.88	無雑物井戸(構造2段+結構1段)	Ⅱ-2~	SE4057	4.09	3.26	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ
SE4013	2.24	2.02	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-2	SE4059	2.48	2.26	結構井戸(結構1段)	Ⅱ
SE4014	3.46	3.10	結構井戸(結構1段)	Ⅱ-2	SE4060	4.28	3.73	結構井戸(結構1段)	Ⅱ
SE4015	1.98	1.80	コンクリート井戸?	Ⅱ-2~	SE4061	2.18	2.45	結構井戸(結構1段)	Ⅱ
SE4016	1.84	1.60	陶製井戸(陶器2段+結構2段)	Ⅱ	SE4062	1.63	1.40	結構井戸(結構1段)	Ⅱ
SE4017	1.78	0.98	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-2	SE4063	2.35	2.03	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ
SE4020	2.08	2.08	無雑物井戸(結構1段+結構1段)	Ⅱ-2	SE4064	2.04	1.93	結構井戸(結構1段)	Ⅱ
SE4021	1.95	1.50	瓦製井戸(瓦5段+結構2段)	Ⅱ-2	SE4065	2.56	2.21	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ
SE4022	2.53	2.34	結構井戸(結構1段)	Ⅱ	SE4069	3.61	1.76	無雑物井戸(結構1段)	Ⅱ-2
SE4023	1.74	1.44	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ	SE4070	2.30	0.63	結構井戸(結構1段)	Ⅱ-2-明治
SE4024	2.27	2.08	結構井戸(結構1段)	Ⅱ	SE4072	2.90	1.99	無雑物井戸(構造2段+結構1段)	Ⅱ-2-明治
SE4026	2.29	1.81	結構井戸(結構2段)	Ⅱ	SE4073	3.17	2.81	結構井戸(結構1段)	Ⅱ-2
SE4027	2.39	1.94	結構井戸(結構2段)	Ⅱ	SE4074	2.37	2.00	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ
SE4028	2.16	2.97	結構井戸(結構2段)	Ⅱ	SE4075	2.90	0.78	結構井戸(結構1段)	Ⅱ-2-明治
SE4030	2.03	1.71	瓦製井戸(瓦4段+結構1段)	Ⅱ-2	SE4078	2.06	1.87	無雑物井戸(構造2段+結構1段)	Ⅱ-2-明治
SE4031	2.34	2.00	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ	SE4077	2.37	2.13	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-2-明治
SE4032	2.27	1.68	無雑物井戸(結構1段)	Ⅱ	SE4096	1.97	1.77	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ
SE4033	1.67	1.68	無雑物井戸(構造1段)	Ⅱ	SE4097	2.20	2.12	結構井戸(結構1段)	Ⅱ-2
SE4035	2.18	2.04	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ	SE6023	4.68	4.52	結構井戸(結構1段)	Ⅱ-2
SE4038	5.32	4.27	結構井戸(結構1段)	Ⅱ	SE6027	5.84	4.53	結構井戸(結構1段)	Ⅱ
SE4040	3.90	3.28	結構井戸(結構1段)	Ⅱ	SE6031	1.45	1.22	結構井戸(結構1段)	Ⅱ
SE4041	5.32	4.27	結構井戸(結構1段)	Ⅱ	SE6047	1.83	1.70	無雑物井戸(構造2段+無蓋)	Ⅱ
SE4042	4.00	2.64	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ	SE6048	1.69	1.63	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ
SE4043	3.54	2.94	結構井戸(結構1段)	Ⅱ	SE6049	1.42	1.37	無雑物井戸(構造2段)	Ⅱ
SE4044	3.38	2.02	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-2	SE6050	1.95	0.76	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ
SE4045	3.54	2.14	結構井戸(結構2段)	Ⅱ-2	SE6051	2.46	1.07	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ
SE4046	2.47	2.19	無雑物井戸(結構状況不明)	Ⅱ-2	SE6053	1.15	1.05	陶製井戸(陶器1段)	Ⅱ
SE4047	3.82	3.12	結構井戸(結構1段)	Ⅱ	SE7009	1.84	1.72	陶製井戸(陶器1段)	Ⅱ-2



第8図 井戸土層断面図(2)



第9図 井戸土層断面図(3)

## 第7節 畝状遺構

### A 概要

小規模な溝または細長い畝状の盛土が数条平行して走る遺構群を畝状遺構とする。宿場町期の畝状遺構は本町地区及び南部地区で検出された。いずれもベースは砂質土等で構成されていたが、植生痕などは確認できなかった。畝状遺構の形状は、構成される溝または畝状盛土の長さと同隔などから以下の3類に区分できる。

畝状遺構Ⅰ類——溝の長さが5 m以下と短く、溝と溝の間隔が狭いもの。

畝状遺構Ⅱ類——溝または畝状盛土の長さが5 m以上と長く、その間隔が比較的狭いもの。

畝状遺構Ⅲ類——溝または畝状盛土の間隔が広いもの。

本町地区に所在する畝状遺構はⅠ類とⅡ類が認められ、いずれも宿場町期Ⅰ期に属する。一方、南部地区ではⅠ類とⅢ類が確認されたが、詳細な時期は特定できていない。

### B 本町地区

畝状遺構はⅠ類 (SX6013・SX6016・SX6017・SX6018) とⅡ類 (SX6021) がある。

#### SX6013

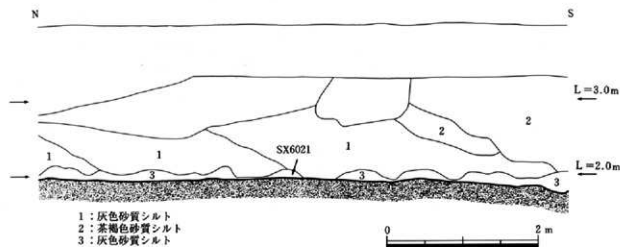
91A区中央部で確認された畝状遺構Ⅰ類であるが、溝は3列しか遺存しない小規模なものである。SB6017の北部に所在し、溝は南北方向に走っている。宿場町期Ⅰ期。

#### SX6016・SX6017・SX6018 (写真図版8)

91A区中央部に位置する畝状遺構Ⅰ類で、SB6018に付属する畑群と想定される。SX6016は南北方向の溝が2列3組存在する。SX6017はSX6016に東接し、極めて短い東西方向の溝5条で構成されている。SX6018はSX6016の南に所在する2条の東西方向の溝で構成されている。全て宿場町期Ⅰ期。

#### SX6021 (第10図・写真図版8)

89C区全域で検出された畝状遺構Ⅱ類で、一部は現五条川堤防盛土に覆われていた。宿場町期Ⅰ期。西端部は南北方向に走る畝状盛土が、それ以外は東西方向の畝状盛土が多数存在している。畝状盛土は灰色砂質シルトが盛り上げられて作られていた。



第10図 畝状遺構土層断面図

## C 南部地区

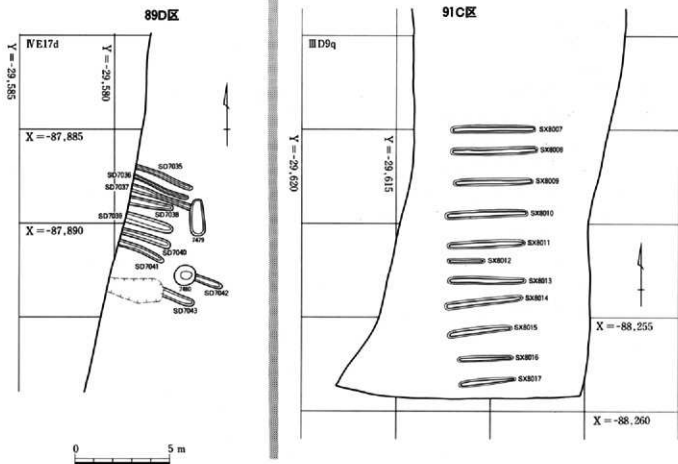
畝状遺構はⅠ類 (SD7035～SD7043) とⅢ類 (SX8007～SX8017) が存在する。

## SD7035～SD7043 (第11図)

89D区西端部で検出された畝状遺構Ⅰ類である。東西方向に走る長さ2 m前後の溝9条で成り立っている。溝内には暗褐色砂質土が充填されていた。出土遺物がほとんど存在しないことから時期は特定し得ない。

## SX8007～SX8017 (第11図)

91C区南半部に所在する畝状遺構Ⅲ類で、東西方向に走る畝状盛土が11条確認された。畝状盛土の全長は4 m前後を測り、その間隔は1 m前後と比較的広くなっている。なお、畝状盛土には植生痕は確認されなかった。天正地震による噴砂の堆積よりも上位で検出されたことと出土遺物から、この畝状遺構は宿場町期に属すると考えられる。  
(鈴木正貴)



第11図 畝状遺構平面図

## 第8節 方形石組遺構

拳大の河原石が方形に敷き並べられた遺構を方形石組遺構として報告する。方形石組遺構は五条橋地区で4基（SX4007・SX4016・SX4017・SK5222）、本町地区で1基（SX6015）が検出された。土坑中に石組されたもの（SX4007・SX4017・SK5222）と石組のみが検出されたもの（SX4016・SX6015）に区分される。方形石組遺構の機能については汚水溜や洗い場等が想定されよう。

### SK5222・SX4017（写真図版14）

63C区東部で検出された土坑群である。SX4017は長径2.88m、短径1.63mを測る楕円形の平面プランを持つ深さ0.16mの浅い土坑で、内部に拳大の石材がほぼ方形に敷き詰められていた。SK5222は長径2.74m、短径1.79mを測る楕円形の平面プランを持つ深さ0.56mの土坑である。SK5222の東端には木杭が3本打ち付けられ、西側には石材が散乱していた。石材の配列は規則的ではなく、方形石組遺構とは認定し難い。両者は井戸SE4073に隣接して設定されており、SX4017は洗い場のような機能を、SK5222は汚水溜の機能を分担していた可能性が考えられる。宿場町期Ⅱ期に属する。

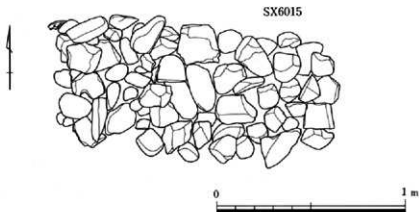
### SX6015（第12図・写真図版14）

89B区に所在する方形石組遺構で土坑の掘形等は確認できなかった。短辺0.74m、長辺1.52mを測り、やや角張った石材を用いて構成されている。SX6015が単独で検出されたため、その詳細な時期や性格は特定できない。

### SX4007（第13図・写真図版14）

90C区南東部に所在する方形石組遺構である。土坑の平面形は長径2.58m、短径2.24mのほぼ円形を呈しており、深さは1.07mを測る。石組は土坑の南寄りの位置に上下2段に敷き並べられて存在する。2段の石組の間には板材が存在しており、木製容器が配置されていた可能性が考えられる。

下段の石組は短辺が0.92m、長辺が1.14mを測り、石材が隙間なく敷き詰められていた。石組南辺と東辺は同規模の石材が1列に並べられた状態となっており、周縁部が配石された後にその内部が石材で充填されたものと思われる。使用された石材は比較的小規模な拳大のものが多く、必ずしも均質ではなかった。下段の石組の標高は約1.9mを測る。（なお、図中の網部は作図できなかった敷石の範囲である。）



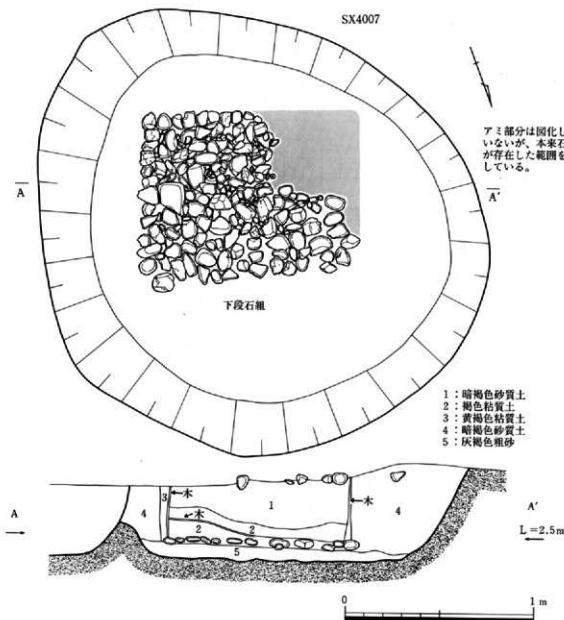
第12図 方形石組遺構平面図



上段石組は遺存状態が不良であるが、下段と同様に石材が敷かれていたと想定される。下段と上段の石組の比高差は0.32mを測り、石組の間にある木製構築物は縦板と横板が認められる。縦板は下段石組の縁辺部（4辺）の上部に合計4枚存在する。縦板の木質部分の遺存状況は不良で、4枚の板材の組構造は不明である。横板は下段石組の直上に一部が遺存しており、底板と考えられる。これらから木製構築物はおそらく箱状の木製容器であったと推定される。

下段石組の下部（土坑床面）には灰褐色粗砂層が堆積している。また、木製構築物の外側は砂質土の斑土で埋め尽くされており、木製構築物の内部下半は褐色粘質土で充填されていた。以上の状況から、SX4007の構築過程は以下のように復元できる。まず、土坑内に粗砂を敷いた後に下段石組を敷設し、木製容器の設置後に周囲を斑土で埋めている。上段石組の構築過程は特定できない。

SX4007の機能は、下部に砂や石組がある点と内部に粘土が充填されていた点から、汚水溜と想定され、清洲周辺で「タマヤ」と呼ばれるものに相当するであろう。宿場町期Ⅱ期。（鈴木正貴）



第13図 方形石組遺構平面図・断面図

## 第9節 竈状遺構

恒常的な火の使用が想定される火処の遺構と考えられるものを竈状遺構としておく。本遺跡で検出された竈状遺構は、五条橋地区に所在するSX4006の1基のみである。

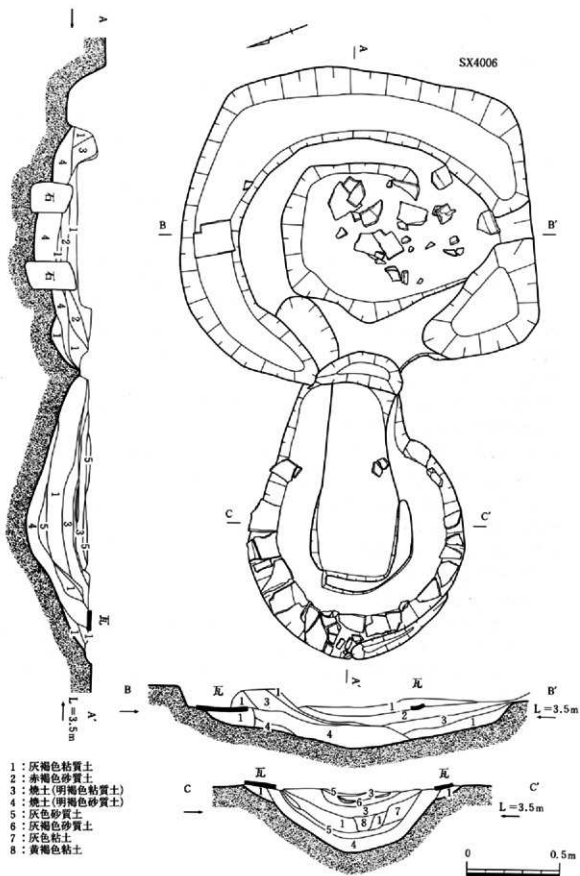
SX4006（第14図・写真図版13）

62C区中央部東寄りに存在する竈状遺構である。平面形は瓢箪形で主軸方向はほぼ東西方向を向いていた。主軸方向の全長は3.23m、主体部の直径は1.94m、焚口部の幅員は1.15mを各々測る。SX4006の上部構造は遺存せず、具体的な施設の復元はできない状況である。周囲にはSX4006に伴う付属施設の遺構は検出されなかった。

主体部の平面プランは隅丸方形に近い形態である。深さ0.40mの土坑の中央部に2個の石材が対置されて据えられており、著しく被熱されて脆くなっていた。石材は長さ約40cm、幅20cm弱、高さ20cm強を測る。石材の周囲は均質なシルトが2～4層にわたって版築状に固められており、シルト層の間には砂質土層が一部挟み込まれていた。この土層は著しく被熱されており、表面が赤褐色からオレンジ色に変色していた。シルト層の上位は浅い落込みが存在し、その中から被熱された瓦片が出土した。主体部の周縁部には、幅0.30m～0.45m、深さ0.40mの幅広で極めて浅い円形の溝が巡っている。溝の中心ラインの直径は約1.50mを測る。このリング状の溝の一部に平瓦が1枚埋め込まれるように配置されていた。本来は平瓦が円形に一列に並べられていたものと推定される。

主体部の周囲を巡る溝は、東面で焚口部に接続するため取束している。焚口部の平面形は円形をなし、深さは0.34mを測る。土坑内はシルト層が互層状に堆積しており、やはり著しく被熱されていた。シルト層上面の中央部には、平面形が長方形となる極めて浅い落込みが認められる。落込みは主体部に向かって延び、主体部との境界部で浅い溝に接続している。焚口部の周縁部には平瓦が円弧状に配列されていた。一部で欠落した部分が認められるが、主体部と同様、本来は平瓦が一列に敷き並べられていた可能性が考えられる。これらの敷瓦も著しく被熱されていた。

この遺構の機能・性格については、主体部と焚口部の各々の中央部が著しく被熱されていること、周溝上の敷瓦が構築物の基礎構造であった可能性が考えられることなどから、恒常的な火処と推定できる。この周辺では、金属滓・鋳型・焼成不良品などの鋳造関連遺物や土器焼成坑関連遺物は特に目立つ形では出土していない。SX4006以外には本遺跡では類似遺構がみられない点が疑問点として残るが、ここでは煮炊に利用された竈または風呂といった機能を推定しておきたい。遺構検出面と周辺の遺構配置の状況から宿場町期Ⅱ-2期に位置づけられよう。（鈴木正貴）



第14圖 甕状遺構平面図・断面図

## 第10節 土 坑

### A 概 要

土坑は、宿場町期の遺構が展開する調査区ではほぼ全域で検出されている。大半の土坑はその性格が明らかではない。ここでは、城下町期と同様、土坑の規模によって以下のように区分して、このうち特徴的な事例に関してのみ詳細に取り上げることにしたい。

土坑Ⅰ類——比較的小規模で、平面プランが円形または楕円形を基準とした形態となるもの。

長径が5m以下で、不定形となる場合がある。

土坑Ⅱ類——比較的大規模で、平面プランが円形または楕円形を基準とした形態となるもの。

長径が5m以上で、不定形となる場合がある。

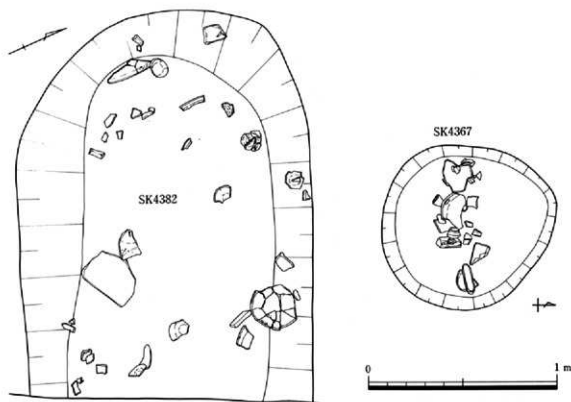
第Ⅲ章第9節「城下町期の土坑」で分類した土坑Ⅲ類は、宿場町期では確認できなかった。数量的には土坑Ⅰ類が多く認められ、土坑Ⅱ類は少ない。また、調査区による分布の偏りは認められない。

### B 五条橋地区

五条橋地区の土坑は土坑Ⅰ類が大半を占め、時期は宿場町期Ⅱ期のものが多い。

SK4382 (第15図)

93A区東端部に検出された土坑Ⅰ類で、平面形は長楕円形を呈していたと推定される。残存長2.50m、深さ0.47mを測る。出土陶磁器類から宿場町期Ⅱ-2期に属する遺構と思われる。



第15図 土坑遺物出土状態図(1)

## SK4367 (第15図)

93A区で検出された平面形が円形の土坑Ⅰ類である。長径0.91m、短径0.83mを測り、中から瀬戸美濃窯産陶磁器類や石材が出土した。宿場町期Ⅱ-1期。小形の廃棄土坑と推定される。

## SK4287 (第16図・写真図版18)

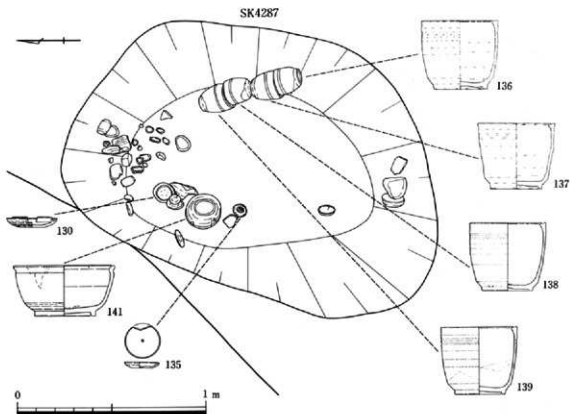
93A区西端部で確認された平面形が不定形の土坑Ⅰ類である。長径は2.00m強を測る。この土坑からは、瀬戸窯産陶器半胴甕(筒形)の完形が4点、こね鉢の完形が1点、美濃窯産陶器皿、土師器皿、太鼓のミニチュア等が出土した。半胴甕は土坑の東端部で2個づつ口縁部を合わせた状態で横位に埋設されていたが、半胴甕内部には特に何も埋納されていなかった。出土遺物等から宿場町期Ⅱ-1期に属し、遺物の出土状況から胎衣等の宗教的性格を持つ土坑と考えられる。

## SK4122

61A区中央部に存在する平面形が円形の土坑Ⅰ類で、直径0.77m、深さ0.22mを測る。土坑の四隅に産地不明のレンガが設置されていた。宿場町期Ⅱ-2期以降の年代が想定できる。

## SX4009 (第17図・写真図版15)

63C区南東部で検出された土坑Ⅱ類で、南辺と東辺は確認されていない。長辺11.16m以上、短辺4.34m以上を測る平面形が長方形と思われる土坑で、深さは2.00m強を測る。北辺には本杭列1列とそれに伴う横板が存在し、護岸施設が設置されていたと考えられる。土坑内は粘土と砂質土が堆積していた。SX4009は、清須城中堀SD6001埋没後に掘削されたことと出土遺物から宿場町期Ⅰ-1期に属する遺構である。



第16図 土坑遺物出土状態図(2)

SK5223 (第17図・写真図版18)

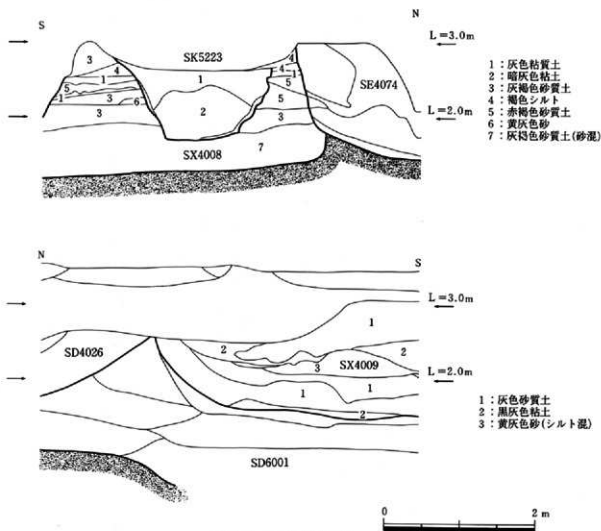
63C区東部に所在する土坑I類で、平面形は長辺2.28m、短辺1.45mを測る隅丸方形である。断面形は逆台形を呈し、深さは1.22mを測る。石と瓦を含有するシルト・砂質土の叩き締め層SX4008を掘り込んで掘削されていた。SX4008の範囲は7.30m×4.44mで、層厚1.15mを測り、SD4026の東端部を強固にしたものと推定される。SK5223からは遺物が全く出土しなかったが、SK5223の時期は遺構配置からみてSX4008・SD4026と一体となって構築されたものと考えられ、宿場町期I-1期と推定できる。

SK4128 (写真図版18)

61A区中央部東端で検出された平面形が不定形の土坑で、長径は6.33m以上を測る。多数の陶磁器・土器類の他に多量の石材が投棄されており、これらの遺物から宿場町期II-2期と位置づけられる。

SK4508 (写真図版18)

92D区西端部で確認された土坑I類である。直径が4m強の円形の平面プランであったと推定され、遺構の半分は調査区外に存在する。深さは1.55mを測り、中からは石材と陶磁器類が出土した。出土遺物から宿場町期I-2期に属する。



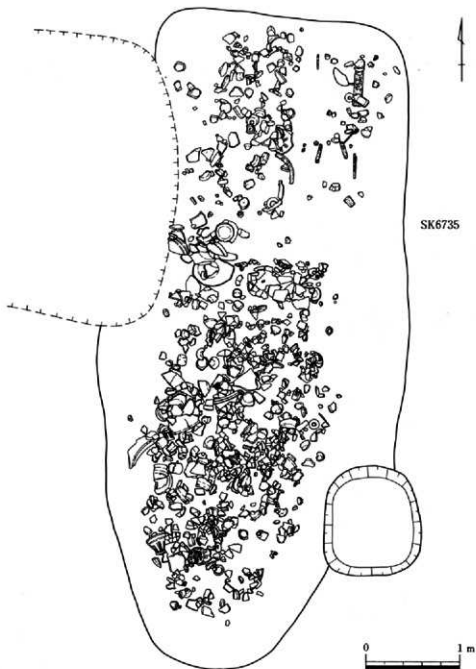
第17図 土坑土層断面図

## C 本町地区

本町地区の土坑は、Ⅰ類が大半を占めているが、一部でⅡ類が存在している。

SK6735 (第18図・写真図版15)

89B区北部に存在する土坑Ⅱ類である。長径6.97m、短径3.28mを測る隅丸長方形の平面形を持ち、深さ1.89mを測る。掘土は灰色シルトまたは粘土である。SK6749に切られ、SD6093とSK6734を切っている。発掘調査当時は五条川瀬替え以前の絶対年代が付与できる資料と位置づけられていた<sup>1)</sup>が、堤防盛土に確実に覆われていたわけではないため、この点については疑問が残っている。この土坑からは多量の陶磁器類が出土しており、これらの遺物からSK6735は宿場町期Ⅱ-1期に属する。



第18図 土坑遺物出土状態図(3)



第19図 土坑遺物出土状態図(4)



## SK6691 (第19図・写真図版16・17)

61B区中央部に所在する土坑Ⅱ類である。検出面での遺構平面プランは長径8.04m、短径6.55mを測る楕円形で、深さは1.45mを測る。SK6691の下部は平面形が馬蹄形に深く掘削されており、元来はドーナツ形の巨大な土坑であったと思われる。土坑内は灰黒色粘土等で充填されており、SD6028・SE6023・SE6027に切られている。ここからは極めて多量の遺物が出土した。上層では主に陶磁器・土器類が、下層では主に木製品・竹製品が投棄されており、良好な一括資料となっている。出土遺物から宿場町期Ⅱ-2期に位置付けられる。

## SK6730 (写真図版18)

91A区で検出された土坑Ⅰ類である。長径0.44m、短径0.39mを測る円形の平面プランを持ち、深さ0.08mを測る。中には土師器皿が1枚破損した状態で出土した。宿場町期Ⅰ期。

## SK6721

91A区に所在する土坑Ⅰ類である。長径0.75m、短径0.58mを測る円形プランを持ち、深さ0.34mを測る。SK6730と同様、土師器皿が1枚破損した状態で出土した。宿場町期Ⅰ期。

## SK6679

91A区北部に存在する長辺11.32m以上を測る土坑Ⅱ類である。平面形は隅丸方形を呈するが隣接する61B区では検出されなかった。深さは1.10m以上を測り、暗褐色砂質土の斑土で充填されていた。土量に比して遺物出土量は比較的少ない。出土遺物から宿場町期Ⅱ-1期に属する。

## SK6687

91A区中央部で検出された長辺18.28m以上を測る土坑Ⅱ類で、隣接する61B区では検出されなかった。SK6679の南に隣接しており、平面形は不定形である。深さは1.10m以上を測る。SK6679と同様、暗褐色砂質土の斑土で充填されていた。出土遺物から宿場町期Ⅰ-2期～Ⅱ-1期に属する。

## SK6146

91A区南部で確認された長径6.75m、短径5.15mを測るほぼ円形の土坑Ⅱ類である。埋土は褐色砂質土で、出土遺物は極めて少ない。宿場町期Ⅰ期に属すると推定される。

## SK6676

89E区中央部に所在する土坑Ⅰ類である。平面形は長径1.17m、短径1.07mを測るほぼ円形で、中から常滑窯産陶器壺が出土した。宿場町期Ⅰ-2期に属する。

## SX6010 (写真図版18)

89E区東端部に存在する土坑Ⅱ類である。平面形は長径5.56m以上の不定形を呈しており、内部は灰色粘質土で充填されていた。

## SX6020

89C区北半部で確認された土坑Ⅱ類である。長径6.07m、短径4.92mを測るほぼ円形の平面プランを持ち、深さは0.44mと浅い。畝状遺構SX6021を切って掘削されていた。五条川瀬替え時に掘削されたものと思われる。

(鈴木正貴)

註 (1) 鈴木正貴他 (1990) 「清洲城下町遺跡」『年報平成元年度 御愛知県歴史文化財センター』

## 第11節 その他の遺構

前節までに報告した遺構以外の特殊な形態を呈する遺構を、ここで記述する。

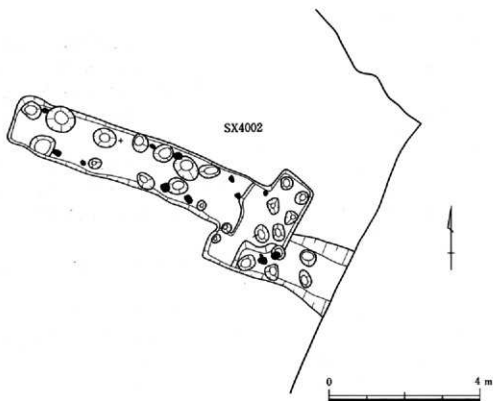
## SX4002 (第20図)

93A区東端部に所在し、細長い長方形を2つ重複させたような平面プランを持つ遺構である。

西側に存在する長方形プランの土坑(西方形土坑部と仮称する)は長辺8.15m、短辺1.50mを測り、土坑内にはピット列2列と礎石列2列が存在する。ピット列の柱間間隔は不規則であるが、大半の礎石はこうしたピット間に配置されている。北辺のピット及び礎石列と、南辺のピット及び礎石列とは各々の配置が対応していない。西方形土坑部の東端部には北側に張り出し部があり、この部分は西方形土坑部の主体部よりも深く掘り込まれている。張り出し部ではピットが2列6基検出された。

西方形土坑部の東端部に南接して同様な長方形プランの土坑(東方形土坑部と仮称する)が存在する。東方形土坑部は調査区外におよびて行き、詳細は不明である。東方形土坑部の内部にピットと礎石が存在していることから、西方形土坑部と同様にピット列2列と礎石列2列があったと推定される。

出土遺物から時期は宿場町期Ⅱ-2期以降と推定される。遺構の性格は特定し得ないが、一説では防空壕の可能性も指摘される遺構である。(鈴木正貴)



第20図 その他の遺構平面図

## 第12節 遺構配置

### A 分析の方法と区画の概要

本節では、地区毎に各種の遺構配置を分析し、遺構群のまとまりを区画（屋敷地）として認定し、区画の構造を概述していく。清洲宿場町の構造を検討するためには、遺構の複合体である区画（屋敷地）の性格を考察することが必要不可欠であろう。分析の方法として、まず同時期の遺構を抽出して遺構変遷を把握した上で、区画施設（溝・欄列等）に着目して区画の認定を行う。区画施設が検出できなかった地点においては区画（屋敷地）内に一定の個数と配置を持つ遺構（建物・井戸等）に着目することとした。

今回の調査で検出された区画は、面積と平面プランから次のように区分できる。

区画Ⅰ類——区画の幅が10m～15mを測る平面プランが長方形となるもの。

区画Ⅰa類——区画施設として溝が確認されたもの。

区画Ⅰb類——区画施設が確認されず、井戸の配置等から推測されるもの。

区画Ⅱ類——区画の幅が30m前後を測る方形または長方形の平面プランを持つもの。

区画Ⅹ類——平行に走る区画施設を認定できず、区画の規模・形態が特定できないもの。

区画を以上のように分類した結果、宿場町期の区画は大半が区画Ⅰ類であることが判明した。次項から地区毎に区画の各事例を報告する。なお、御園・本丸・田中町・南部地区については、区画を認定するほどの遺構密度はなく、屋敷等は存在しないと考えられるので、分析の対象からは除外した。

### B 五条橋地区（第21・22区）

五条橋地区は宿場町期Ⅱ期の遺構が主体となっている。この地区では区画施設はあまり検出されておらず、井戸の配置から区画Ⅰ類が連続して存在する短冊型地割が展開していたことが想定される。大部分の区画は現在の美濃街道に面する形で配置されていることから、街道沿いの町屋と推定される。井戸の切り合い関係から更に細かい時期区分が可能であるが、井戸の位置がほとんど変わらないことから区画自体はあまり変更されていなかったと思われる。

区画4008 SD4002以北の空間を区画4008とする。SD4001～4004等は現五条川にほぼ平行する形で蛇行している。SD4002とSD4003との溝心間距離は約3mであることから、SD4002とSD4003の間は道路SF4001だった可能性がある。区画4008は道路SF4001の五条川側に所在する区画Ⅹ類で、居住施設等はおそらく存在しなかったと思われる。

区画4009 SD4004とSD4008で囲まれた空間を区画4009と定義する。宿場町期Ⅱ-2期に存在した屋敷と考えられ、区画内にはSE4002等が存在する。

区画4010 SD4008・SD4010・SD4011に囲まれた空間（61A区のみ）を区画4010とする。西側の区画施設は、調査区外にあったと思われ、詳細は不明である。区画の東南部に井戸SE4004と廃棄土坑SK4128等が存在するが、建物は検出できなかった。南面に開口を持つやや変形した区画Ⅰ類と言えよう。宿場町期Ⅱ-2期に属する。

区画4011 SD4008とSD4011に囲まれた東側の空間を区画4011とする。大半は調査区外に延び、内部構造は不明である。区画4010と同様、宿場町期Ⅱ-2期に属する区画Ⅰ類と思われる。

区画4012 93A区では区画施設が検出されなかったが、井戸がおよそ3ヶ所に集中して存在するため、井戸を中心に南北に細長い区画を想定した。SE4012を中心に区画4012を設定する。区画4012は美濃街道に南面する区画I b類で、宿場町期Ⅱ-2期に属する。

区画4013 93A区SE4008・SE4013・SE4014を中心に区画4013を定義する。美濃街道に南面する区画I b類で、井戸は美濃街道から約15m離れた地点に所在している。宿場町期Ⅱ期。

区画4014 93A区SE4011・SE4015を中心にして東に広がる空間を区画4014とする。井戸群は区画の西端に所在し、井戸に隣接してSX4002がある。SX4002と美濃街道の間におそらくは建物があったと想定される。宿場町期Ⅱ期に属する区画I b類である。

区画4015 92E区は調査面積が狭小であるため区画施設や遺構配置は詳らかではない。しかし、美濃街道の交差点部の南東に位置しており、隣接する61A区や90B区の一部を含む区画を想定しにくいため、92E区を一括して区画4015とする。SE4006が92E区西端に所在する。

92D・90B・92C区では区画施設としてSD4016とSD4020が認められる。この2条の溝に挟まれた長方形の空間内に井戸群が東西方向に並んで5群存在していることから、長方形大区画内に南北に細長い区画(区画4016~4020)が存在すると思われる。また、SD4020の南は井戸群が南北方向に並んでいるため、SD4020以南は東西に細長い区画(区画4021~4038)が展開していたと考えられる。

区画4016 92C区西端部のSE4016を中心とした空間を区画4016とした。SB4001の状況から区画4017と同一の空間となる可能性も残されている。宿場町期Ⅱ期に属する。

区画4017 SE4017・SE4020を中心とした区画を区画4017とする。礎石建物SB4001が美濃街道に面して所在し、その裏手に井戸等が展開する区画I b類である。宿場町期Ⅱ期。

区画4018 SE4021を中心とした南北方向に細長い区画を区画4018とする。礎石建物SB4002・SB4003が存在し、少なくとも一度は建て替えられている。宿場町期Ⅱ期。

区画4019 SE4023等を中心とした南北方向に細長い区画を区画4019とする。宿場町期Ⅱ期。

区画4020 区画施設SD4020の北に所在するSE4027・SE4030等を中心とした方形の区画Ⅱ類である。美濃街道の交差点部の南西に位置するが、間口が北面か東面かは特定できない。

区画4021 区画施設SD4020の南部で、SE4031を中心とした東西方向に細長い区画である。礎石建物SB4004が92D区で一部確認され、その西部に井戸が所在する。宿場町期Ⅱ期。

区画4022 SE4032を中心とした東西方向に細長い区画I b類である。礎石建物SB4005が区画の大半を占めており、井戸はその西端部に存在する。宿場町期Ⅱ期に属する。

区画4023 SE4035等を中心とした東西方向に細長い区画I b類である。宿場町期Ⅱ期。

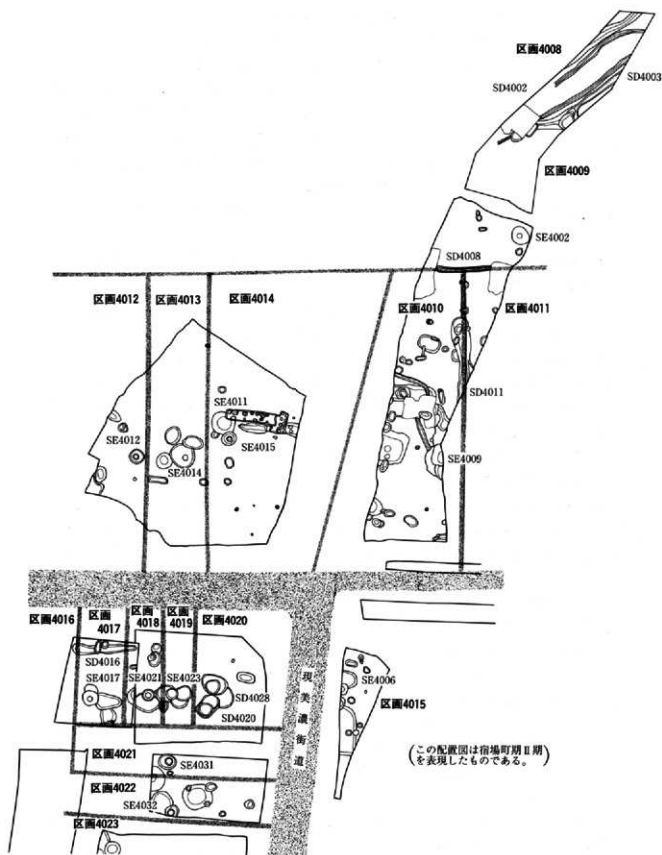
区画4024 62C区に存在するSE4038・SE4040等を中心とした東西方向に細長い区画を区画4024と定義する。区画の東端部にも井戸SE4042・SE4043があり、街道に面した部分と五条川に近い裏手部分の2ヶ所に井戸が配置されている。宿場町期Ⅱ期。

区画4025 SE4044~SE4046等を中心とした東西方向に細長い区画I b類である。竈状遺構SX4006がSE4044の東約10mに所在する。東端にはSE4053がある。宿場町期Ⅱ期。

区画4026 SE4048・SE4051等を中心とした東西方向に細長い区画である。宿場町期Ⅱ期。

区画4027 SE4057等を中心とした東西方向に細長い区画である。宿場町期Ⅱ期。

区画4028 SE4060・SE4061等を中心とした東西方向に細長い区画である。宿場町期Ⅱ期。



第21図 遺構配置図(1) (S=1:500)

区画4029 SE4059を中心とした東西方向に細長い区画を区画4029とする。宿場町期Ⅱ期。

区画4030 SE4062を中心とした東西方向に細長い区画を区画4030とする。

区画4031 SE4064を中心とした東西方向に細長い区画を区画4031とする。

区画4032 SE4063等を中心とした東西方向に細長い区画を区画4032とする。

区画4033 SE4069等を中心とした東西方向に細長い区画を区画4033とする。区画4026～区画4033までは井戸以外の区画内施設は検出できなかった。また、区画4029～区画4031では他の区画と相違して井戸が重複しておらず単独で存在することから井戸の掘り直しが行われておらず、各区画の存続期間が短かった可能性がある。このことから、ある段階で区画4029～区画4031が包括され広い屋敷に改変されてしまい、複数の井戸が不要となった可能性も考えることができよう。

区画4034 SE4073・SE4074を中心とした東西方向に細長い区画を区画4034とする。井戸以外には方形石組遺構SX4017・SK5222等が存在する。時期は宿場町期Ⅱ期に属する。

区画4035 SE4077を中心とした東西方向に細長い区画を区画4035とする。南辺はSD4045で区切られている。時期はSD4026埋没後の宿場町期Ⅱ-2期以降に位置付けられる。

区画4036 区画溝SD4045と横列SA6005で囲まれた区画を区画4036と定義する。区画内に井戸SE4076が存在する。宿場町期Ⅱ-2期以降に所属する区画Ⅰb類である。

区画4037 SE6047を中心とした東西方向に長い宿場町期Ⅱ期の区画Ⅰb類を区画4037とする。

区画4038 SE6048を中心とした東西方向に長い区画Ⅰb類を区画4038とする。宿場町期Ⅱ期に属する。なお、区画4037及び区画4038は位置的には本町地区に属するが、区画の連続性からみて4000番台の番号を付けることとした。

### C 本町地区（第22・23図）

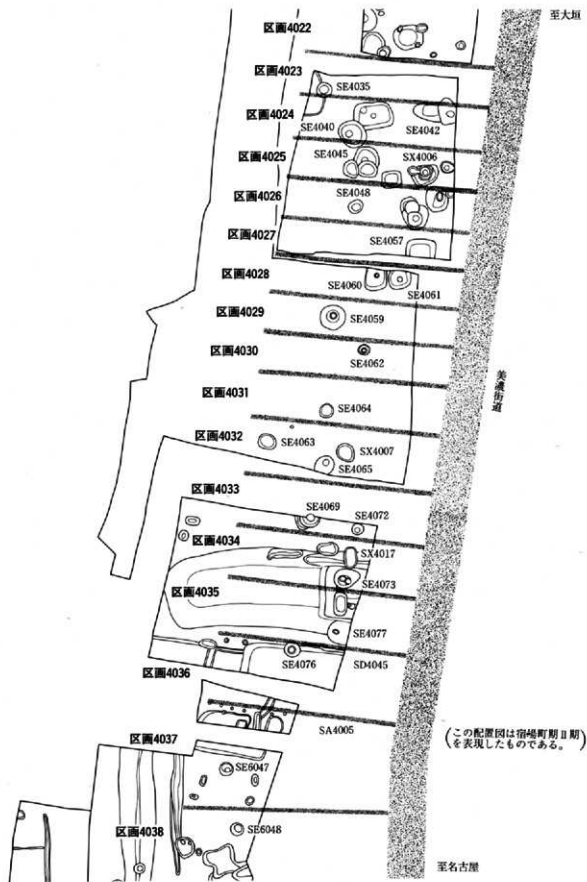
本町地区では宿場町期Ⅰ期からⅡ期までの遺構が検出されており、主要な遺構展開は2時期（宿場町期Ⅰ-2期・宿場町期Ⅱ期）に区分できる。宿場町期Ⅰ-2期では、南北方向に走る溝群が本町地区調査区の中央部に所在しており、これらの溝群に挟まれる細長い空間は道路SF6001と推定できる。道路SF6001の両側には掘立柱建物、畝状遺構や土坑等が展開しており、区画溝によって更に細かい区画（区画6026～区画6034）が想定され、ほとんどが区画Ⅱ類に属する。宿場町期Ⅰ-2期の遺構群は宿場町期Ⅱ-1期に廃絶されており、宿場町期Ⅱ期では新たな空間構成が設定された。

宿場町期Ⅱ-1期には、道路SF6001の廃絶・現五条川堤防の築堤が行われ、道路SF6001に面した区画群は消滅していった。宿場町期Ⅱ期の遺構は堤防建設の影響のため調査区東部に限定されており、巨大な廃棄土坑と井戸が少量検出されたに過ぎない。主要な遺構は調査区の更に東に展開していたと思われ、今回の調査区は屋敷等の裏手に掘削された廃棄土坑等が広がっていた部分と推定される。また、この時期の区画施設は検出されておらず、特定の区画設定は不可能である。

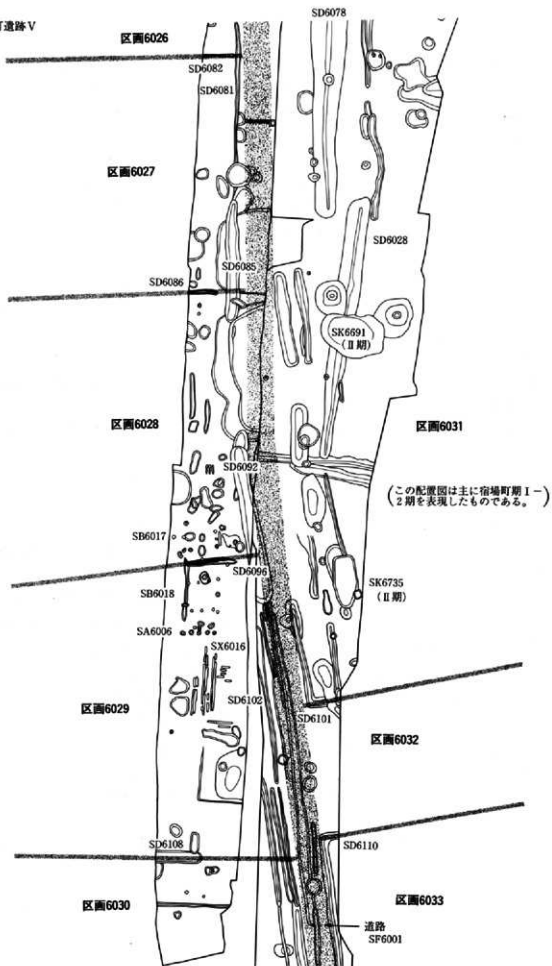
区画6026 SD6081とSD6082で囲まれた空間を区画6028と定義する。91A区に所在しており、区画の北部と西部は調査区外に延びる。区画内にはほとんど遺構は存在せず、区画内構造は不明。

区画6027 SD6081・SD6082・SD6085・SD6086で囲まれた区画Ⅱ類で、区画内には土坑が数基散在しているが、区画内構造は詳らかにし得ない。南北方向の幅は約31mを測る。

区画6028 SD6086・SD6087・SD6092・SD6096で囲まれた空間を区画6028とする。南北方向の



第22図 遺構配置図(2) (S = 1 : 500)



第23図 遺構配置図(3)



幅は約36mを測り、区画Ⅱ類に分類される。区画の南部に掘立柱建物SB6017、中央部に畝状遺構SX6013が所在する。SB6017とSX6013の間には土坑群が掘削されゴミ捨て穴として利用されたと推定される。区画の北部は遺構が散在しており、構造は不明である。宿場町期Ⅰ-2期に属する。

区画6029 SD6096・SD6092・SD6108等で囲まれた空間を区画6029と定義する。南北方向の幅は約39mを測り、区画Ⅱ類に分類される。区画の北部に掘立柱建物SB6018、中央部に畝状遺構SX6016・SX6017等が所在する。SB6018と畝状遺構の間には区画内区画施設SA6006が設置されていた。畝状遺構の南には土坑SK6146が掘削され、これはゴミ捨て穴と推定される。

区画6030 SD6108とSD6111に区画された91A区の南部に所在する区画である。区画内施設は検出されておらず、構造は不明。

区画6031 SD6078・SD6028・SD6055・SD6101等で囲まれた広い空間を区画6031とする。この区画は更に細かい区画に分かれていた可能性があるが、区画施設などが検出されておらず、不明と言わざるを得ない。区画内構造も不明。

区画6032 SD6101とSD6110の各東西溝に挟まれた空間を区画6032と定義する。道路SF6001と連続した空間設定となっており、道路である可能性も考えられるが、幅員が17m以上と広い。区画内構造物は全く検出されなかった。

区画6033 「コ」の字状に屈曲したSD6110に囲まれた空間を区画6033とするが、区画は調査区の東に延びて大半は調査区外に存在するため、詳細は明らかにし得ない。

#### D 小 結

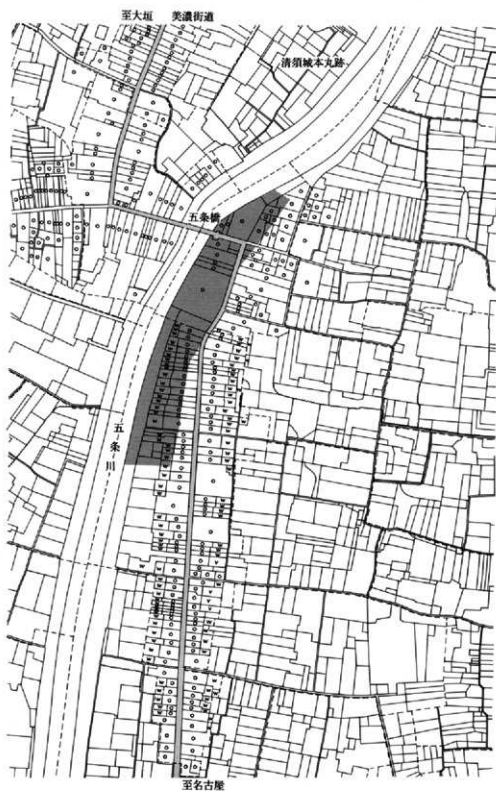
以上の分析から、宿場町期の遺構変遷をまとめると以下のように整理できる。

宿場町期Ⅰ-1期——五条橋地区南部の63C区でSD4026・SX4009が存在するのみで、今回の調査区の範囲内では、この時期の居住空間は存在しなかったと思われる。

宿場町期Ⅰ-2期——本町地区で道路SF6001を中心として区画が設定される。このうち一部の区画は建物と畝状遺構が伴っていること及び区画の広さが比較的広い（区画Ⅱ類）ことから、町屋敷を想定するよりも、道路筋に設けられた農村的な屋敷が考えられる。また、道路SF6001は城下町期中堀取東部を起点としている点を考慮すると、該期の美濃街道であった可能性が考えられる。

宿場町期Ⅱ期——五条橋地区では区画Ⅰ類が多数確認され、現美濃街道に沿って展開した短冊型地割が展開していたと考えられる。これらの区画は明治17年作成地籍図（第24図）ともほぼ合致し、町屋敷と推定できる。一方、本町地区では調査区が現美濃街道から遠ざかっているため町屋敷の主体部を検出することができず、屋敷裏手の廃棄土坑などを検出できたに過ぎない。

この結果、五条川東岸では1794年以降に清洲宿場町の拡張が行われたと評価できる。（鈴木正貴）



第24図 調査区周辺の地籍図 (S=1/5000)

凡例：○ 宅地  
W 藪・草生

なお濃い網部は発掘調査区の一部を示している。

## 第Ⅶ章 宿場町期の遺物

## 第1節 出土遺物の概要と分析方法

### A 遺物の概要と整理方針

今回の調査で出土した宿場町期の遺物は数十万点（27リットル入コンテナで約800箱）を数え、その内容は多種多様である。このような膨大な遺物を整理・報告するに際しては、全出土遺物の図化による資料紹介は現実的に不可能であるため、①代表的な一括資料の図化による紹介、②遺物出土量と組成による紹介を行うことによって報告としたい。

上記の分析を行うため、以下の整理作業を実施した。

- ① 遺物を材質・時期（城下町期以前・城下町期・宿場町期）別に区分する。

（石製品・金属製品の時期区分は困難が伴う。従って、ここでは宿場町期の遺構出土資料を基準に報告することとした。調査区別の出土量に関しては「清洲城下町遺跡Ⅳ」を参照されたい。）

- ② 遺構出土遺物のみをあらかじめ設定した分類別にカウントする。  
③ カウントと同時に一括性の高い遺構の出土遺物を図化し、報告する。

### B 分析（カウント）の方法

今回整理作業の中で用いた遺物の数量化作業（カウント）の方法を示す。

数量化の主要な目的は、①江戸時代における本遺跡の基本的な遺物組成を明らかにすること、及び②調査区別の遺物様相の差異を明確にすることである。

分析の対象は、遺構から出土した遺物のうち、口縁部が遺存するものだけに限定した。本来は包含層出土資料及び口縁部が遺存しない資料も数量化すべきであるが、今回は割愛することとした。

求める数値は、口縁部遺存資料を対象としていること及び器種構成比率の算出を目的としていること等から、口縁残存率（12分の1単位）のみとした。破片数は求めている。

データの収集方法は、口縁部を有する遺物について、接合した後の破片1点につき1データとして記録用紙に記入した。データの内容は出土地点・分類・口縁残存率等である。なお、長辺が1cm以下の小破片は原則として分析対象から除外した。

データの集計方法は、記録されたデータを表計算ソフトに入力し、あらかじめ設定された集計項目に則り計算作業を実施した。集計は調査区別、分類別データを口縁残存率の合計で求めた。

データの内容は、①調査区、②グリッド、③遺構番号、④産地材質、⑤器類、⑥器種、⑦器形、⑧軸索、⑨使用痕、⑩口縁残存率、⑪備考の11項目である。④産地材質、⑤器類、⑥器種、⑦器形、⑧軸索、⑨使用痕はあらかじめ設定された分類案の記号を記入する。⑩口縁残存率は、口縁部が完存した場合を1として遺存している口縁部の割合を12分の1単位で計測した数値である。なお、口縁残存率は12分の1以下を切り上げて算定しており、12分の0より大きく12分の1以下を1、12分の11より大きく12分の12以下を12とした。詳細な計測方法は「清洲城下町遺跡Ⅳ」による。なお、本文中及び巻末の遺物集計表には12分の1単位の数値が表示されており、実際の個体数はこれを12で割った数値に理論上換算される。

### C 陶磁器・土器類の分類

清洲城下町遺跡から出土した宿場町期の陶磁器・土器類を5つのランク（産地材質、器類、器種、器形、釉薬）で区分した。ここで用いた分類は、宿場町期と同時期の武家屋敷遺跡である名古屋城三の丸遺跡の分類<sup>41)</sup>に依拠し、その一部を改変したものである。後日共通の分類で比較検討を実施する点を配慮しての措置である。以下に分類の概要を記述する。

#### ① 産地材質

胎土と焼成技法から陶磁器・土器類を以下の11類に区分する。

- 1 瀬戸美濃窯産陶器——黄白色・灰白色の胎土を基本とする瀬戸または美濃窯で生産された陶器。  
なお、近世陶器は瀬戸窯産と美濃窯産の区別が可能な場合が多く、図化資料では分けて表記した。
- 2 瀬戸美濃窯産磁器——胎土・釉薬等の特徴から瀬戸または美濃窯で生産された磁器。
- 3 肥前窯産陶器——胎土・釉薬等の特徴から肥前窯で生産された陶器。
- 4 肥前窯産磁器——胎土・釉薬等の特徴から肥前窯で生産された磁器。
- 5 常滑窯産陶器——暗褐色または淡褐色の胎土を基本とする常滑窯周辺で生産された陶器。
- 6 土師器——黄灰色の胎土を基本とする素焼の土器。
- 7 瓦器——灰白色の胎土を基本とし、器表面をいぶした土器。
- 8 その他陶器——上記以外の産地（関西系・備前・信楽等）で生産された陶器。
- 9 その他磁器——上記以外の産地（関西系・中国等）で生産された磁器。
- 10 不明陶器——産地が特定できない陶器。
- 11 不明磁器——産地が特定できない磁器。

以上11類に区分したが、カウント作業における産地の認定が不確実であるため、本書での遺物集計は瀬戸美濃窯産・常滑窯産陶器以外の陶器、肥前窯産磁器以外の磁器は一括して行うこととした。

#### ② 器類

法量と全体の形態及び一部機能を加味して陶磁器・土器類を区分すると、以下の7類に区分できる。

- 1 碗——口径10cm前後、器高7cm前後の小形容器。
- 2 皿——口径10cm前後、器高2cm前後の小形容器。
- 3 鉢——碗・皿に属さない逆ハの字状に開く容器、または直立する容器。
- 4 壺・瓶——袋形を呈する容器。
- 5 鍋・釜——煮炊・煮沸等に使用されたとと思われる容器。土師器・瓦器に限定。
- 6 甕——口径が大きく袋形を呈する大形容器。常滑窯産陶器に限定。
- 7 その他——以上の分類に属さないもの。

#### ③ 器種・器形

各々の産地材質や器種によって個別に細分類した。ただし、常滑窯産陶器と土師器と瓦器以外の陶器・磁器については共通の細分類を用いている。ここでは主要な産地材質と器類についてのみ具体的な内容を記述する（第25・26図を参照）。

## 陶器・磁器（産地材質：1～4または8～11）

- 碗
- 1 天目茶碗——高台を削り出し、体部は逆ハの字状に開き、口縁部が屈曲する碗。
  - 2 丸碗——腰部が丸い形状の碗。この中で時期が限定される以下のものを記号化する。
    - 1 尾呂茶碗——口縁部付近に白濁色の灰釉を掛けた鉄軸丸碗。
    - 2 御室茶碗——崩れた楼閣山水文の呉須絵を施した灰軸丸碗。
    - 3 腰錆茶碗——体部に沈線が存在し外面下部に鉄軸を施した灰軸丸碗。
    - 4 鍔茶碗——外面下部にミシン目のような刺突文を施した丸碗。
    - 5 端反碗——口縁部が外反する丸碗。
    - 6 その他の碗——上記に属さない丸碗。
  - 3 腰折碗——腰部が屈曲する碗。
    - 1 せんじ碗——器高が低く高台径が小さい腰折碗。
    - 2 その他の碗——せんじ碗以外の腰折碗。
  - 4 平碗——高台脇から口縁部にかけて逆ハの字状に開く碗。
    - 1 柳茶碗——柳文の鉄絵が施された灰軸平碗。
    - 2 広東茶碗——高い高台を持つ染付平碗。
    - 3 その他の碗——上記に属さない平碗。
  - 5 小碗——口径が8.5cm未満の小形の碗。
    - 1 箱形湯呑——腰部がほぼ直角に折れ曲がり口縁部が直立する小碗。
    - 2 その他の碗——箱形湯呑以外的小碗。
  - 6 仏飯器——高杯状の器。
  - 7 その他——以上の分類に属さないもの。
- 皿
- 1 丸皿——腰部が丸い形状で平面形が円形の有高台皿。
  - 2 腰折皿——腰部が屈曲する平面形が円形の有高台皿。
  - 3 非円形皿——平面形が円形にならない有高台皿。
  - 4 灯蓋——内面に受部を持つ皿。
  - 5 無高台皿——高台を持たない皿。但し基筒底の製品も含有する。
  - 6 小型皿——口径5cm未満の皿。
  - 7 その他——以上の分類に属さないもの。
- 鉢
- 1 丸鉢——腰部が丸い形状の鉢。
  - 2 平鉢——高台脇から口縁部にかけて逆ハの字状に開く鉢。
  - 3 播鉢——内面に播目を持つ鉢。（播鉢は更に口縁形態で細分した<sup>①</sup>。）
  - 4 筒形鉢——体部が直立する平面形が円形の鉢。
  - 5 鬘盤——体部が直立する平面形が楕円形の鉢。
  - 6 腰折鉢——腰部が屈曲する鉢。
  - 7 植木鉢——焼成前に底部が穿孔された鉢。
  - 8 大皿——口径が15cm以上の皿形の鉢。

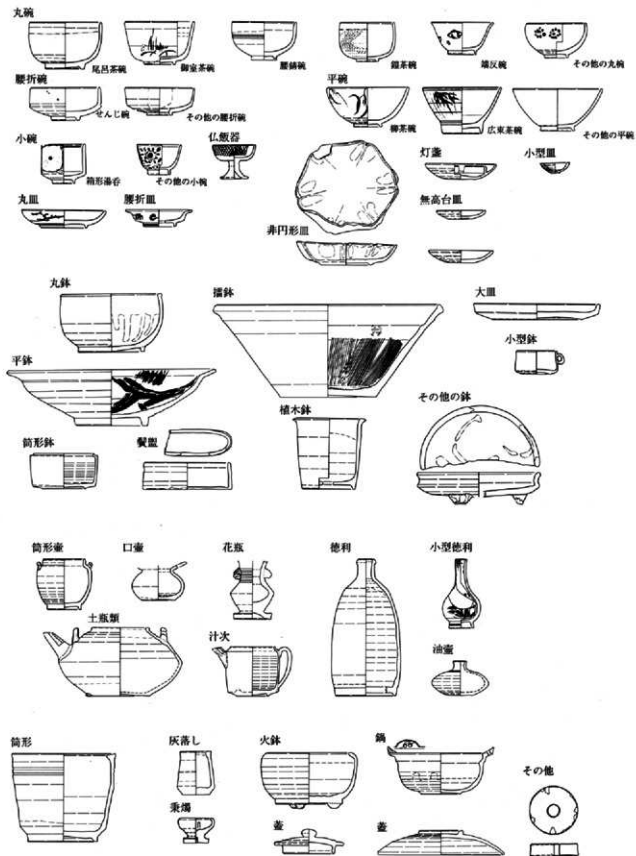
- 9 小型鉢——小形の鉢。餌鉢。
- 10 その他——以上の分類に属さない鉢。向付を含む。
- 壺・瓶
- 1 筒形壺——最大径と口径があまり変わらない壺。
- 2 肩壺——最大径が胴部上方にある壺。
- 3 口壺——最大径が口径となるもの。
- 4 小型壺——小形の壺。
- 5 花瓶——口縁部がラッパ状に開き、双耳状の飾りがつく壺。
- 6 土瓶類——注口と吊り手2つまたは把手がつく壺。
- 7 汁次——環状把手と注口がつく壺。
- 8 德利——大形で、全体の形状が細長く頸部が細い瓶。
- 9 小型德利——小形で、全体の形状が細長く頸部が細い瓶。
- 10 油壺——小形で胴部が算盤玉形に膨らむ壺。
- 11 その他——以上の分類に属さない壺・瓶。
- その他
- 1 筒形——体部が筒形のもの。半胴壺・錢壺・花生等。
- 2 灰落し——体部が底部から大きく屈曲せずにそのまますぼむもの。
- 3 柄杓——柄の接続部が存在する筒形容器。
- 4 乗燭——受け皿と灯心立てで構成される容器。
- 5 燭台——蠟燭を乗せる台。
- 6 盤——非常に浅い皿形のもの。
- 7 火鉢——口縁部が内傾し、内面が全面施釉されない容器。
- 8 行平——主体部は鉢形で把手と注口を持つもの。
- 9 鍋——鉢形容器で吊り手が2個付属したもの。
- 10 蓋——蓋と考えられるものを一括する。
- 11 その他——以上の分類に属さないものを一括する。

## 常滑窯産陶器（産地材質：5）

- 甕————口縁部がややくびれる大形の容器。
- その他————火鉢・蚊いぶし等が含まれる。

## 土師器（産地材質：6）

- 皿————器高2cm以下の浅い容器。
- 鍋・釜
- 1 羽付鍋——鉢形の煮炊具で体部上方に鐙が設置されたもの。いわゆる羽釜。
- 2 釜————壺形の煮炊具。
- 3 炮烙鍋——浅鉢形の煮炊具で、通常内面に耳が付属する。
- 4 内耳鍋——鉢形の煮炊具で、内面に耳が付属する。
- 焼塩壺————筒形の小形鉢で、通常著しく被熱されている。
- その他————五徳・壺等が含まれる。



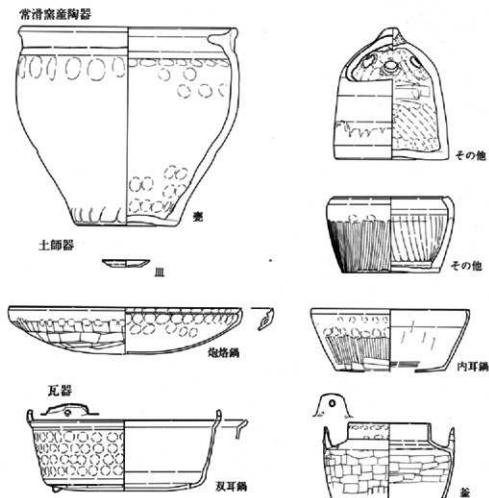
第25図 遺物器種分類図(1) (S=1:8)



## ④ 釉薬

宿場町期の釉薬は城下町期のものよりも微細に観察すれば多様なものが存在するが、カウントにおける釉薬の分類は以下のように包括して区分することとした。なお、図化資料の紹介における記述は通有の記述に合わせることにし、以下の分類はカウントのみを対象としている。掛け分けの製品については全ての釉薬を記載した。また、施釉製品の露胎部に関しては無釉とは表記しなかった。

- 1 灰釉——灰釉・透明釉・黄瀬戸釉・長石釉等の釉薬を灰釉と一括する。
- 2 鉄釉——鉄釉・鉄錆釉・鉛釉・柿釉等の釉薬を鉄釉と一括する。
- 3 染付——呉須絵を下絵に描き透明釉を施したものを染付とする。
- 4 銅緑釉——深緑色の銅緑釉・上野釉などを一括する。
- 5 無釉——釉薬を全く施さない製品を一括する。ただし常滑窯産陶器は除く。
- 6 青磁——磁器で緑色系の発色をする青磁を指す。
- 7 白磁——磁器で透明釉のみが施された製品を指す。
- 8 その他——上記の分類に属さない釉薬を一括する。
- 9 真焼——常滑窯産陶器の内、堅緻に焼き締まった暗褐色の胎土を持つ真焼製品。
- 10 赤物——常滑窯産陶器の内、焼きが甘く淡褐色の胎土を持つ赤物製品。



第26図 遺物器種分類図(2) (S=1:8)

## ⑤ 使用痕

使用痕は以下の15類を取り上げたが、重複するものは併記した。

- 1 ガラス継ぎ——破損した製品を鉛ガラスで接合（焼継）した痕跡が残るもの。
- 2 口欠け——口縁端部のみが細かく欠けている、または磨滅しているもの。
- 3 穿孔——焼成後に孔を設けているもの。
- 4 内面磨滅——容器の内面が磨滅しているもの。すり減っているもの。
- 5 焦げ——焦げて黒色化しているもの。火を利用した用途が考えられる。
- 6 煤付着——煤が付着するもの。煮沸・煮炊に利用されたと推定できる。
- 7 タール付着——口縁部にタールが付着したものの。灯明としての利用が予想される。
- 8 銅物付着——金属・金属滓等が付着したものの。
- 9 墨書——墨による文字・記号・絵画が記されたもの。
- 10 刻書——刻み込んで文字・記号・絵画が記されたもの。
- 11 漆継——破断面に漆が付着したものの。破損した製品を補修した痕跡である。
- 12 朱付着——赤色付着物が認められるもの。紅皿等の用途が想定される。
- 13 漆付着——内面・外面に漆が塗布されたもの。
- 14 高台磨滅——高台端部のみが細かく欠けている、または磨滅しているもの。
- 15 その他の付着——以上の分類に属さない付着物が存在するもの。

## D 分析の結果と問題点

今回の出土量の数量化作業（カウント）では、主要遺構（SX4009・SD6092・SK4287・SK6735・SK6691の5遺構）別の数値（第3表）と各調査区別の数値（巻末遺物集計表）を算定したのみである。特に主要遺構別の数値をみると、遺構によって器種組成が著しく異なる場合が認められる。こうした相違が遺構の性格を物語るのか、時期差を表現しているかはより詳細な検討が必要となろう。さて、ここでは今回の作業上の問題点を指摘しておく。なお、『清洲城下町遺跡Ⅳ』で取り上げた問題点はここでは割愛している。

- ① 産地の同定が困難であり、記録されたデータに多くの誤謬が存在すると思われる点があげられる。今回は整理作業の前半でカウント作業を実施したため、その後判明した産地材質に関する知見が生かせなかった反省がある。しかも、現状では未だ産地材質の同定に不明瞭な点が多く残されており、近世における産地別組成の算定は問題点を多く抱えている状況と言える。
- ② 器種の多様化に伴い、簡略化した分類作成が困難であったことも問題点の一つである。器種の包括の仕方によっては、本来意図したデータとは異なる結果となってしまう場合もみられる。
- ③ 使用痕等を用いた詳細な分析、各区画毎の集計等を実施することはできなかったことも今後の課題である。今回は整理作業の便宜上、調査区という極めて現代的な空間区分での整理であり、本来意図すべき空間区分ではないのである。（鈴木正貴）

註 (1) 松田訓編（1995）『名古屋城三の丸遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第60集。

(2) 遠藤才文の分類に依拠した。遠藤才文編（1993）『名古屋城三の丸遺跡（Ⅳ）』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第44集。

## 第2節 SX4009 (第27～29図1～69)

SX4009は63C区に所在する巨大な土坑で、城下町期Ⅲ期の中掘SD6001を切って存在している。ここからは瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・肥前窯産陶器・肥前窯産磁器・常滑窯産陶器・土師器・木製品・石製品・金属製品等の多様な遺物が出土した。陶磁器類の器種は椀、皿、鉢、甕類が一定量認められるが、蓋類はあまり存在しない。瀬戸及び美濃窯産陶器の年代観から、宿場町期Ⅰ～Ⅱ期に属する資料である。

椀は美濃窯産陶器天目茶碗・丸碗、瀬戸窯産陶器丸碗・腰折碗、肥前窯産磁器丸碗、木胎漆器椀等が存在する。美濃窯産丸碗には腰鎗茶碗(7・8)、長石軸丸碗(15)・口縁部付近に灰釉を施した尾呂茶碗(2・3・6・9・13・16)等がある。瀬戸窯産陶器には長石軸に鉄絵を施した碗(1)、尾呂茶碗(5)、腰折碗(4)等がある。11は肥前窯産磁器丸碗で17世紀末から18世紀前葉に位置づけられる製品である。12は肥前窯産陶器丸碗で高台内に「清」字の刻印が押されている。木胎漆器椀は高台が高く腰部が丸みを帯びて立ち上がる椀A類(17・19)、高台が低く腰部が丸みを帯びて立ち上がる椀B類(18)、腰部が屈曲して体部が直立する椀E類等がある。椀E類は屈曲点が1段のもの(20・22・23・25)と屈曲点が2段のもの(26)に区分できる。20・22は比較的浅く高台の低い椀で体部はやや開くものである。なお、38は木胎漆器蓋で外面に草花紋が描かれている。木胎漆器の施紋紋様は、城下町期に通有みられる吉祥紋は少なく、花草紋、草花紋等が多く描かれている。

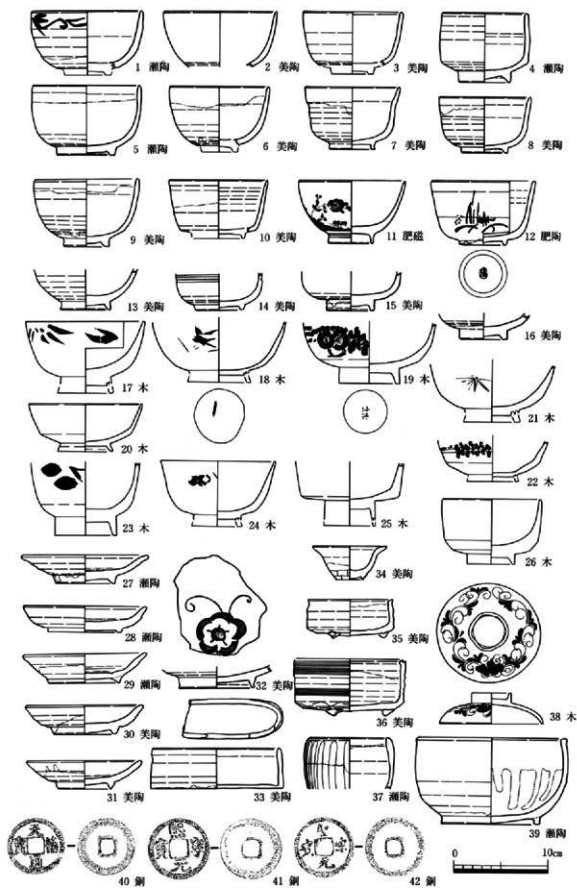
皿は美濃窯産陶器及び瀬戸窯産陶器のみが存在する。淡緑灰色の灰釉(長石軸)が施された丸皿(27～31)が多く認められた。内面には円形状の重ね焼き痕が残存している。また、内面に鉄絵が描かれた美濃窯産陶器長石軸皿(32)も存在する。

鉢は美濃窯産陶器丸鉢(50)、瀬戸窯産陶器播鉢(52～54)・向付(44)・丸鉢(39)、肥前窯産陶器平鉢(51)等がある。播鉢の口縁部形態は藤澤編年第5～6小期<sup>1)</sup>に属するものであり、54は底部に回転糸切り痕が残存している。この他に美濃窯産陶器鬘皿(33)や灰落し(37)、筒形鉢(香炉:35・36)も認められる。木製品としては曲物桶(43)が存在する。表面を粗く削った底板の上に一重巻の銅板をのせて桜皮で綴じている。

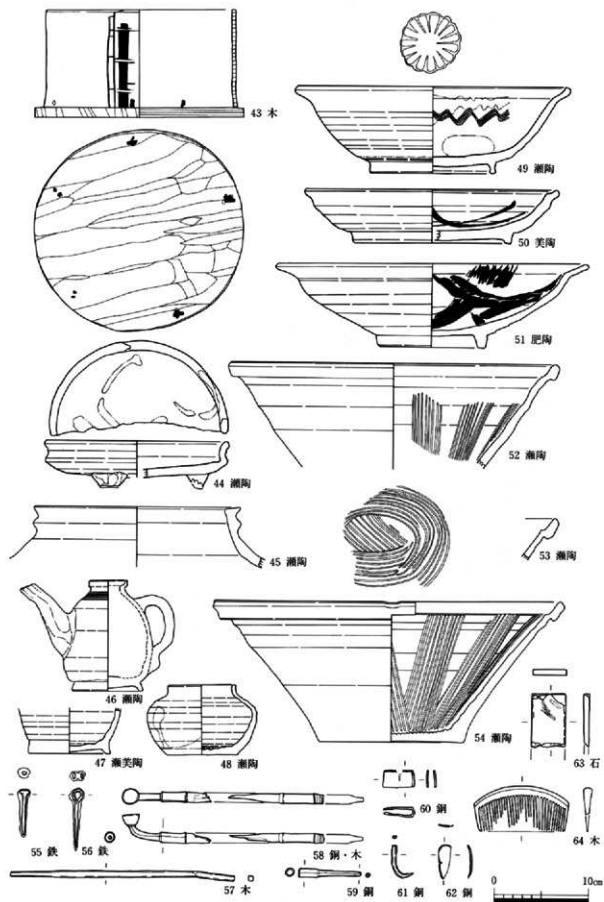
瓶・壺は瀬戸窯産陶器甕(45)・汁次(46)・壺(48)、瀬戸または美濃窯産陶器壺(47)、常滑窯産陶器甕(69)等が存在する。瀬戸窯産陶器甕(45)の口縁部は緑帯部が強くヨコナデされ2段の突帯状となっている。常滑窯産陶器甕(69)の口縁部は断面形が「T」字状であるが、外側に折り返された緑帯の痕跡も未だ残存している。

その他のものには、木製下駄、木製箸(57)、木製横櫛(64)、鉄製釘(55・56)、銅製煙管(58・59)、銅製金具(60～62)、銭貨(40～42)、石製砥石(63)等が存在する。下駄には連南下駄(65・67)と差南下駄(66・68)があり、平面形が楕円形になるもの(65・66)と長方形になるもの(67・68)にも区分できる。67は用材が節を持った粗悪なもので、歯部の作りだしが不整形になっている。58は銅製煙管で雁首部と吸口部の一部及び竹製の管(羅字)が残存している。銭貨(40～42)はすべて中国銭である。(鈴木正貴)

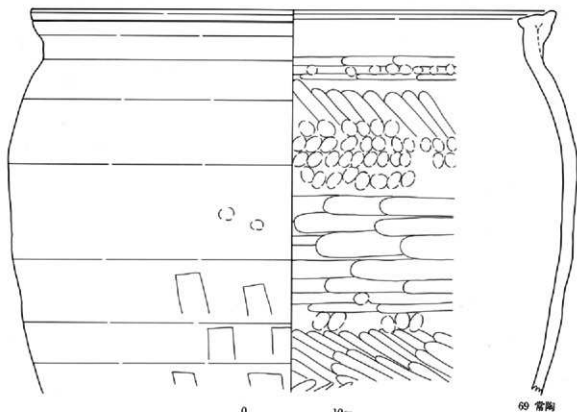
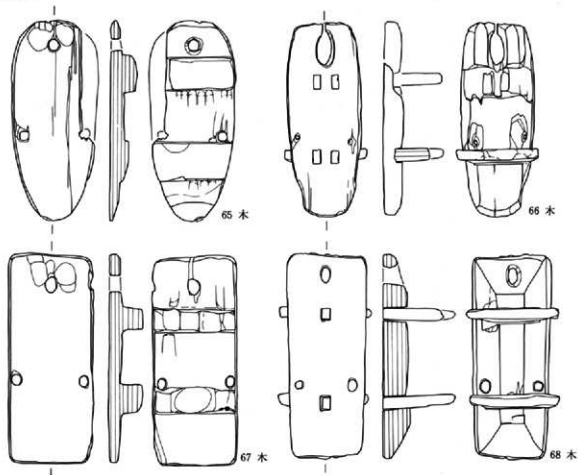
註(1) 本章の藤澤編年は次の文献による。藤澤良祐(1987～1989)『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅵ～Ⅷ』



第27図 SX4009 遺物実測図 (1) (40~42はS≒2:3)



第28図 SX4009 遺物実測図(2)



第29図 SX4009 遺物実測図(3)

### 第3節 SD6092 (第30・31図70～125)

SD6092は91A区から89B区にかけて存在する溝で、現五条川堤防の直下で検出された遺構である。今回提示する資料は、確実に現五条川堤防築堤以前と位置づけられる調査区91A区の範囲で検出されたSD6092から出土したもので、1794年以前という絶対年代が与えられる。SD6092(91A区)からは瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・肥前窯産磁器・土師器・石製品等が存在し、木製品は出土しなかった。陶磁器類の器種としては碗・皿・鉢・蓋等が認められる。柳茶碗や広東茶碗を全く含まない点、および瀬戸及び美濃窯産陶器の年代観等から、宿場町期Ⅰ-Ⅱ期に属する資料と考えられる。

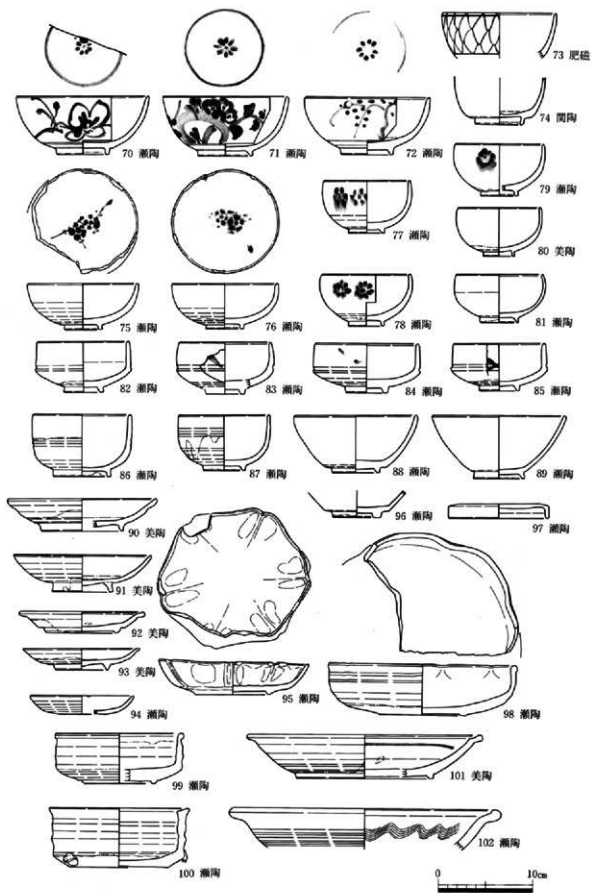
碗は瀬戸窯産陶器丸碗・腰折碗・平碗、美濃窯産陶器丸碗、肥前窯産磁器丸碗等が存在する。出土量的には瀬戸窯産陶器の製品が圧倒的に多く、美濃窯産陶器のもの(80)や肥前窯産磁器のもの(73)は非常に少ないのが特徴である。瀬戸窯産陶器碗では、外面に呉須絵で草花紋を描いた灰軸丸碗(70～72)、内面に呉須絵で梅花紋を描いた灰軸丸碗(75・76)、外面に呉須絵で梅花紋を描いた小形灰軸丸碗(77～79)、屈曲した腰部に浅い沈線が認められるせんじ碗(82～85)、腰鑄茶碗(86・87)、白化粧が施された刷毛目碗(88)、全面に灰軸が施された平碗(89・96)等がある。美濃窯産陶器碗は小形の丸碗(80)等が認められるのみである。

皿は美濃窯産陶器の製品が大部分を占め、丸皿が多く存在する。高台を持つ丸皿は灰軸の製品が多く、92は折線状の口縁形態をなしている。94は鉄軸無高台皿で口縁部にケールが付着している。95は平面形が六角形の瀬戸窯産陶器輪花皿である。

鉢は美濃窯産陶器の丸鉢、瀬戸窯産陶器の丸鉢・楕鉢・筒形鉢等が存在する。103～105は丸鉢(こね鉢)で、103は鉄軸が施されている。瀬戸窯産陶器楕鉢は、口縁部形態が4類(112・115)、5類(110・111)、6類(107・108)、7類(106・109)のものがある。7類(106・109)は藤澤編年の第8小期に属するものである。

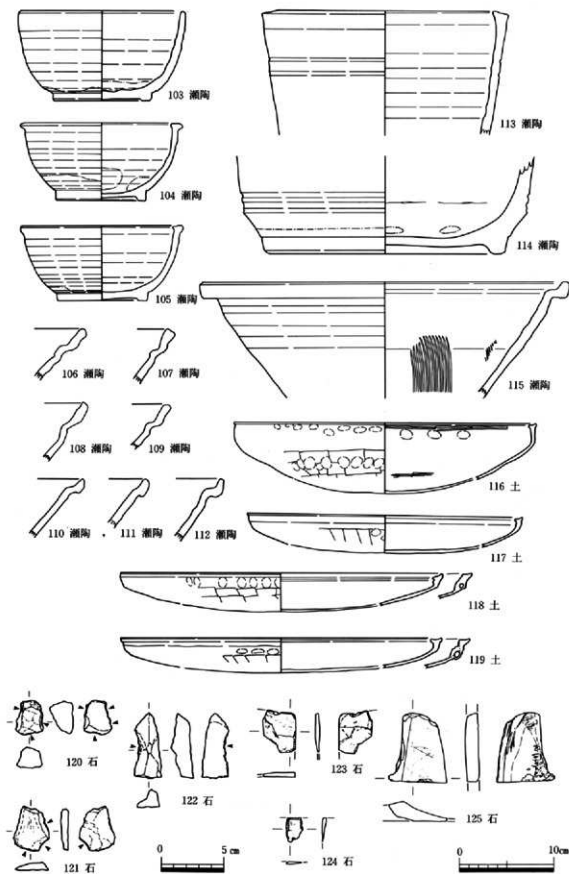
土師器鍋は炮烙鍋のみが認められ、全体の形状で2類に細分できる。炮烙鍋1類は底部から屈曲して立ち上がる体部(口縁部)が高くなり、結果として器高が深くなるもの(116)である。炮烙鍋2類は体部(口縁部)の立ち上がりが低く浅い形状のもの(117～119)である。炮烙鍋の調整痕は両者とも共通している。底部外面は板状圧痕が残存し、その周囲はヘラケズリされている。体部は指ナデあるいは指オサエが施され、口縁部は強く面を作ってナデている。内面も口縁部付近は指による横ナデがなされるが、底部には特に調整痕は認められない。炮烙鍋成形時に内型を用いていた可能性が考えられる。

石製品は、火打ち石と砥石が存在する。火打ち石(120～122)はいづれもチャート素材として使用している。微細に剥落した部分(図中の矢印部分)が数カ所認められ、ほとんどの場合には鉄粉が付着して錆び付いた部分が残存している。砥石(123～125)は欠損が著しく全形が判明しないものばかりである。おそらく平面形と断面形が長方形の直方体の形状をもつものと推定され、材質から中砥か仕上げ砥と思われる。(鈴木正貴)



第30图 SD6092 遺物実測図(1)



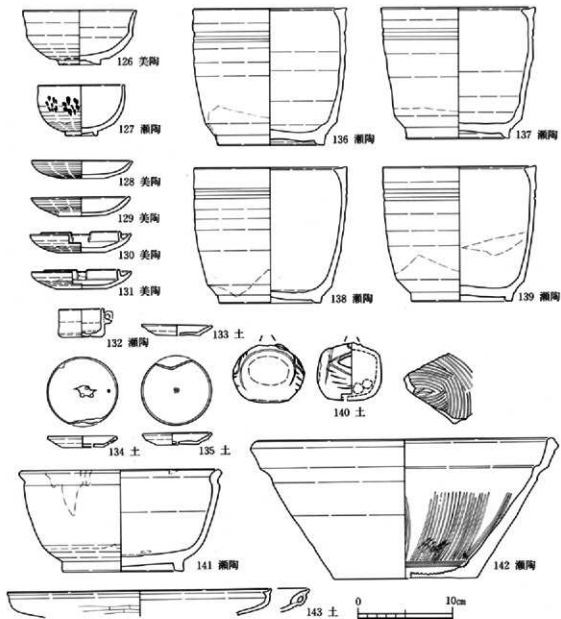


第31図 SD6092 遺物実測図(2) (120~122はS=1:3)

## 第4節 SK4287 (第32図126~143)

SK4287は93A区で検出された土坑である。半胴甕が2個づつ合わせ口になって出土した特殊な出土状況を持っている。ここからは瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・土師器等が出土し、木製品や金属製品は出土しなかった。瀬戸・美濃窯産陶器の年代観から宿場町期Ⅱ-1期に属すると思われる。

椀は美濃窯産陶器丸碗と瀬戸窯産陶器丸碗がある。前者は口縁部がやや端反の形状になった灰軸丸碗(126)であり、後者は外面に梅花紋を描いた染付丸碗(127)である。SK4287は碗類の出土量が他の遺構に比べ少ないという特徴が認められる。



第32図 SK4287 遺物実測図

皿は美濃窯産陶器の無高台皿と灯臺、及び土師器皿のみが出土している。美濃窯産陶器の無高台皿(128・129)と灯臺(130・131)は鉄釉が施され、128は口縁部にケールが付着している。土師器皿は底部に回転糸切痕が残存したロクロ成形の皿で白色の胎土を持っている。底部が穿孔されており、134は底部中央に3個と体部に1個の孔があったと推定され、135は底部中央に1個の孔が穿たれている。

鉢は瀬戸窯産陶器のものがあり、こね鉢(141)、搦鉢(142)、半胴甕(筒形鉢)が認められる。136と137、138と139が各々セットとなって出土したものである。搦鉢は7類に属する形態で瀬戸窯産陶器の藤澤編年では第8小期に属する資料である。

土師器は、前述した皿の他に、炮烙鍋とミニチュアが存在する。炮烙鍋(143)はSD6092分類の2類に属する。また、140は太鼓のミニチュアで外面に赤色彩色が施されている。内部は中空で中に玉が2個入って底部に孔が1個穿たれており、鈴となっている。

第3表 主要遺構遺物集計表(口縁部計測法で1/12を単位とする。)

	EX4009	SD6092	SK4287	SK6735	SK6601		EX4009	SD6092	SK4287	SK6735	SK6601
瀬戸美濃陶器類	93	189	27	1236	1909	天目茶碗	1	0	0	0	0
瀬戸美濃陶器皿	56	58	50	334	861	丸碗	70	107	15	613	182
瀬戸美濃陶器鉢	86	68	32	176	777	煎茶碗	11	31	12	21	12
瀬戸美濃陶器壺・瓶	20	12	0	148	719	平碗	0	11	0	340	1142
瀬戸美濃陶器その他	3	24	49	200	945	小碗	0	11	0	76	413
瀬戸美濃陶器類合計	27	24	4	43	185	飯椀	0	0	0	30	64
瀬戸美濃陶器類合計	258	351	158	2094	5211	碗類その他	0	5	0	1	24
常滑陶器類	10	1	0	21	221	丸皿	56	39	1	194	370
常滑陶器その他	13	2	0	52	402	煎茶皿	0	7	0	0	0
常滑陶器類合計	23	3	0	73	623	非円形皿	0	7	0	0	3
その他陶器類	36	0	0	18	37	灯さん	0	0	24	28	190
その他陶器類合計	1	0	1	0	7	無高台皿	0	4	23	91	292
土師器類	12	3	0	0	3	小皿	0	0	0	0	0
土師器類合計	0	0	0	0	47	風瓶その他	0	0	0	0	0
土師器類合計	2	0	0	0	65						
土師器類合計	51	3	1	18	159	丸鉢	15	27	12	61	230
陶器類合計	352	357	159	2185	5993	平鉢	4	4	0	8	6
						煎茶鉢	27	24	4	43	185
肥前磁器類	12	5	2	104	200	飯鉢	19	12	6	41	124
肥前磁器皿	1	0	1	23	311	煎茶鉢	14	1	0	0	0
肥前磁器鉢	0	0	0	12	33	びんだら	4	0	0	0	9
肥前磁器壺・瓶	0	0	0	0	0	榎木鉢	0	0	0	0	52
肥前磁器その他	0	0	0	0	18	大皿	0	0	0	16	74
肥前磁器類合計	15	5	3	127	663	小鉢	0	0	10	0	25
その他磁器類	8	1	0	9	1463	鉢類その他	3	0	0	3	59
その他磁器類合計	1	0	0	2	90	陶器類	0	0	0	39	41
土師器類	0	0	1	0	42	煎茶碗	3	0	0	9	61
土師器類合計	0	0	0	0	111	口碗	0	0	0	0	0
土師器類合計	0	0	0	0	95	小形壺	3	0	0	0	2
土師器類合計	9	1	3	31	3804	花瓶	0	0	0	0	0
土師器類合計	22	6	4	168	2467	土瓶	10	12	0	1	129
						汁次	0	0	0	3	44
						飯椀	2	0	0	70	241
土師器類	0	0	29	0	0	小徳利	0	0	0	24	66
土師器皿	16	275	7	351	182	油壺	0	0	0	0	20
土師器鉢	2	0	0	0	12	煎茶類その他	0	0	0	0	15
土師器壺・瓶	0	0	0	0	0	圓形	2	3	48	19	148
土師器類合計	18	275	38	351	193	既済し	1	0	0	27	0
土師器類合計	0	0	5	45	50	納付	0	0	0	0	0
土師器類合計	16	275	41	416	254	ひょうそく	0	0	0	6	53
陶器類合計	372	638	204	2769	8714	壺	0	0	0	0	8
						釜	0	7	0	0	0
						火鉢	0	0	0	17	68
						平	0	0	0	0	0
						煎茶	0	0	0	2	107
						壺	0	14	0	63	400
						その他	0	0	1	66	157
瀬戸美濃陶器	EX4009	SD6092	SK4287	SK6735	SK6601	唐鉢1皿	0	0	0	0	0
天目茶碗	22	4	0	1	0	唐鉢2皿	0	0	0	0	0
煎茶茶碗	8	0	0	0	0	唐鉢3皿	2	2	0	1	3
煎茶茶碗	18	21	1	26	10	唐鉢4皿	8	6	0	0	1
煎茶碗	0	0	0	13	6	唐鉢5皿	2	4	0	0	1
唐反碗	3	1	0	0	70	唐鉢6皿	13	0	0	1	6
その他丸形	17	81	15	544	91	唐鉢7皿	2	12	3	11	0
平んじ	0	31	0	31	0	唐鉢8皿	0	0	1	28	178
その他の煎茶碗	11	0	12	0	12	唐鉢9皿	0	0	0	0	0
煎茶碗	0	0	0	208	0	唐鉢10皿	0	0	0	0	0
広東茶碗	0	0	0	0	1142						
その他の平碗	0	8	0	132	0						
飯形湯呑	0	2	0	29	264						
その他の小碗	0	9	0	47	149						

## 第5節 SK6735 (第33~43図144~355)

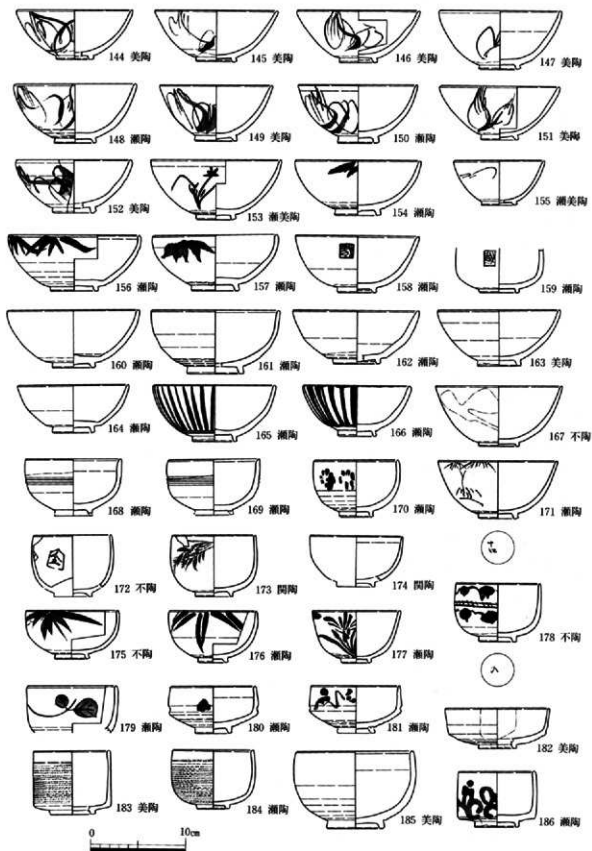
SK6735は89B区北部で検出された巨大な廃棄土坑である。1794年の五条川瀬替えの際に宿場町の拡張に伴って掘削されたものと思われる。1794年前後の年代が与えられる資料である。ここからは瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・肥前窯産陶器・関西系窯産陶器・常滑窯産陶器・肥前窯産磁器・関西窯産磁器・土師器・瓦器・瓦・石製品・金属製品等が出土したが、木製品は全く遺存しなかった。器種構成からみれば、前述の遺構出土資料に比べ蓋の出土量が増加している点が注目できる。柳茶碗が主体を占める点等から宿場町期Ⅱ-1期に位置づけられる資料である。

碗は美濃窯産陶器碗、瀬戸窯産陶器碗、肥前窯産陶器碗、関西系窯産陶器碗、肥前窯産磁器碗、関西窯産磁器碗がある。この中で、美濃窯産陶器の柳茶碗(144~147等)が多く認められ、広東茶碗が全く存在しない点がこの遺構の特徴である。美濃窯産陶器碗は他に平碗(163)、甕茶碗(183)、腰折碗(182)等がある。182は腰折碗で錆軸と灰釉で掛け分けられている。瀬戸窯産陶器碗は柳茶碗(148等)、腰錆碗(168・169)、刷毛目碗(160・164)、麦藁手丸碗(165・166)、せんじ碗(180・181)、呉須絵を施した灰釉丸碗(201~203)等がある。また、灰釉丸碗に上絵付を施した製品(175~177・179)も見られ、笹紋が描かれる場合が多い。172~174は関西系窯産陶器の丸碗で、白色の緻密な胎土に透明釉が施されたものである。172・173は外面に上絵付が描かれており、174も同様のものである。167は黒褐色の胎土に白土による施紋をした後、透明釉を掛けた平碗であり、産地は特定できない。肥前窯産磁器碗は梅樹紋を描いた染付丸碗(187~190)と赤色の上絵付を施した薄手の白磁小丸碗(194・195・197・198)が比較的多く認められる。また、内面にコンニャク印版の五弁花紋が施された箱形湯呑(200)も存在する。

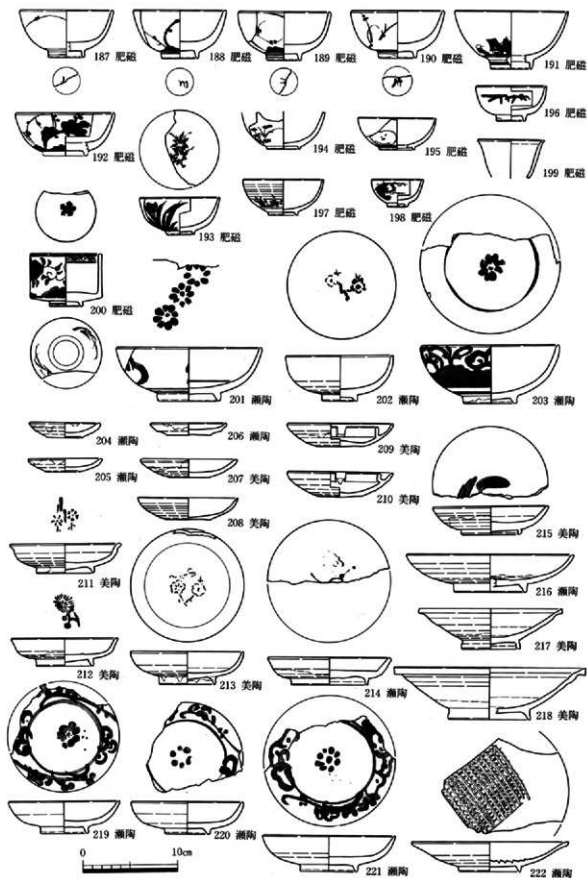
皿は美濃窯産陶器丸皿・無高台皿・灯蓋と瀬戸窯産陶器丸皿・無高台皿等がある。美濃窯産陶器丸皿には、内面に襷絵が施されたものが多く、口縁部が外反するタイプ(211・212)と直立するタイプ(213・214)が存在する。また、体部が逆ハの字状に開き口縁部が外折するもの(217・218)も多い。瀬戸窯産陶器丸皿は内面に呉須絵が施されたもの(219~221)が多く、中には鉄錆軸が施された卸皿(222)も認められる。無高台皿は、底部が萐筍底状に削られた瀬戸窯産陶器灰釉皿(204・205)、完全な平底の美濃窯産陶器鉄釉皿(206~208)等が存在する。

蓋は瀬戸窯産陶器、美濃窯産陶器、関西系窯産磁器、肥前窯産磁器、瓦器等のものがある。関西系窯産磁器(223)及び肥前窯産磁器(224・225)染付蓋は環状の柄みを持つものである。瀬戸・美濃窯産陶器蓋は落し蓋で口縁部の折り返しの無いもの(227)と柄みがなく返しのあるもの(231)とが存在する。美濃窯産陶器は落し蓋で口縁部の折り返しの無いもの(226)と柄みも返しも無い被せ蓋(228・229)がある。瓦器の蓋は孔を持つ柄みがあり返しを持つ蓋(230)で、瓦器釜に付属する蓋と推定される。

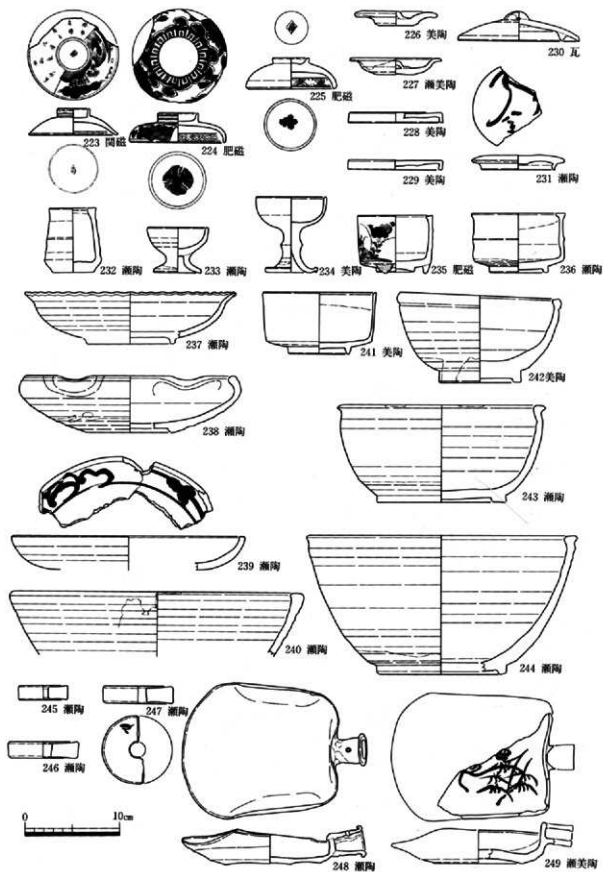
鉢は瀬戸窯産陶器大皿・丸鉢・播鉢、美濃窯産陶器丸鉢、筒形鉢等がある。美濃窯産陶器丸鉢は灰釉こね鉢(242)である。238は瀬戸窯産陶器輪花大皿で、底部は萐筍底に造り、内面にトチン痕が残存している。瀬戸窯産陶器播鉢(285~288)は口縁部形態が8類のものが大半を占めている。これらの播鉢は藤澤編年では第9小期に位置づけられる。



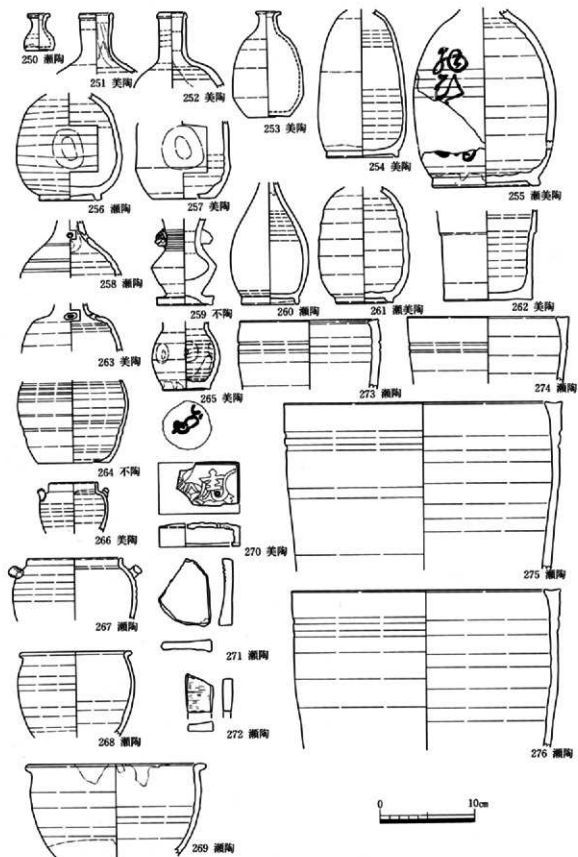
第33図 SK6735 遺物実測図(1)



第34図 SK6735 遺物実測図(2)

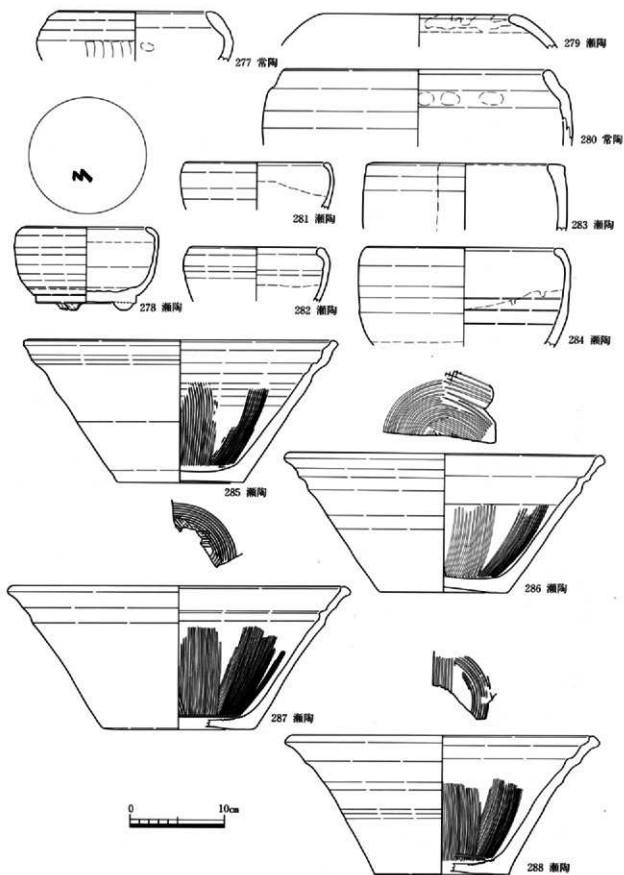


第35図 SK6735 遺物実測図(3)



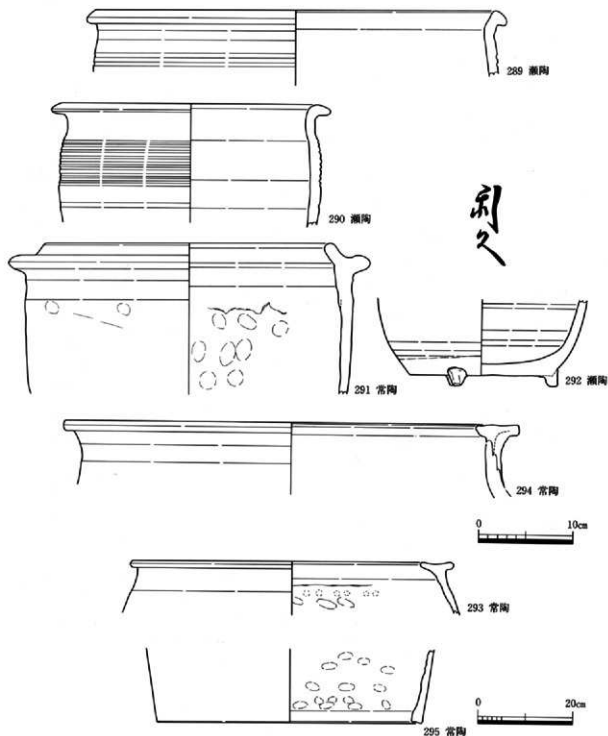
第36図 SK6735 遺物実測図 (4)



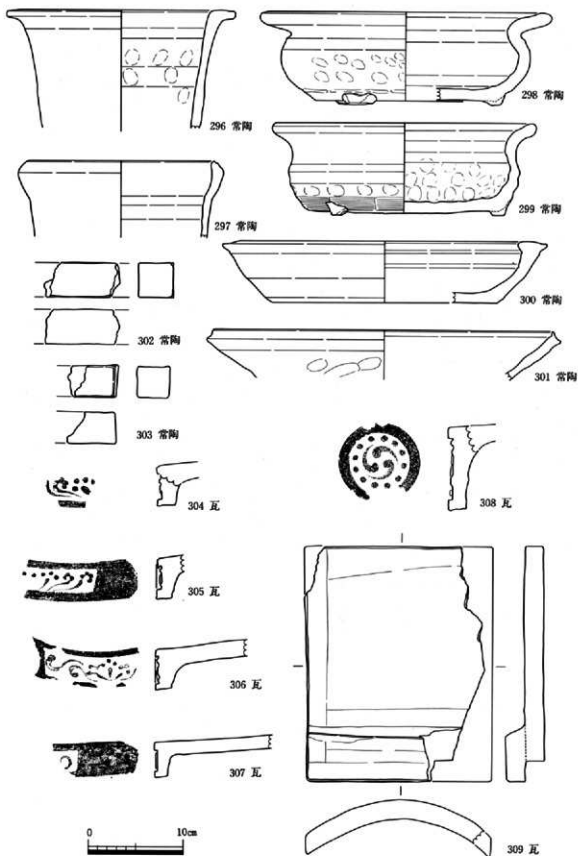


第37図 SK6735 遺物実測図(5)

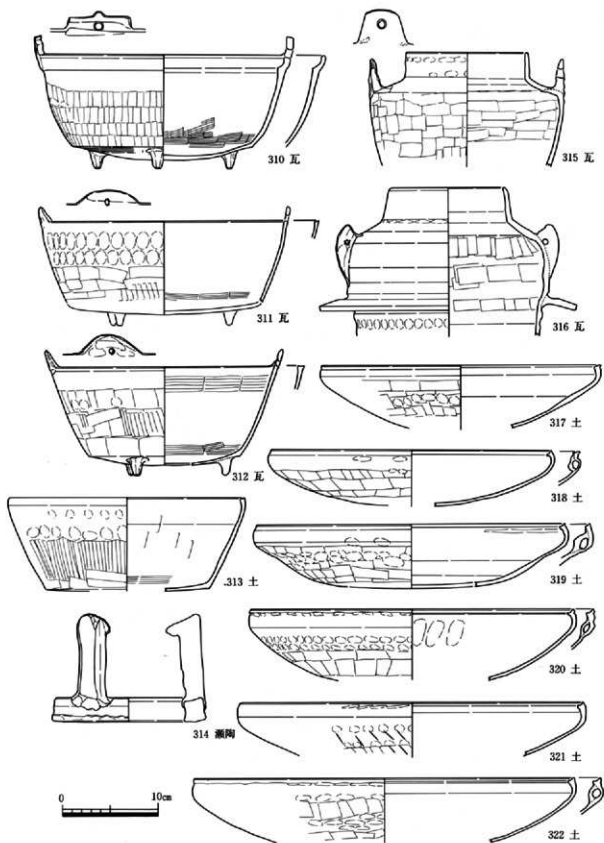
瓶は美濃窯産陶器徳利・チロリ、瀬戸窯産陶器徳利、産地不明陶器徳利・花瓶等が存在する。250は瀬戸窯産陶器の小徳利である。258と263は頸部から肩部にかけての位置に焼成後に穿孔されている。259は産地が特定できない花瓶である。黄白色の緻密な胎土で内面には灰釉が施されているが、外面には黒色漆が塗布されており陶胎漆器と考えられる。獅子頭の耳が付着している。255は瀬戸窯産陶器徳利で、体部には刻書と呉須絵で文字が記されている。264は備前産陶器と推定される産地不明の瓶で無釉の焼締製品である。



第38図 SK6735 遺物実測図(6) (293・295はS=1:8)



第39図 SK6735 遺物実測図(7)



第40圖 SK6735 遺物実測圖(8)



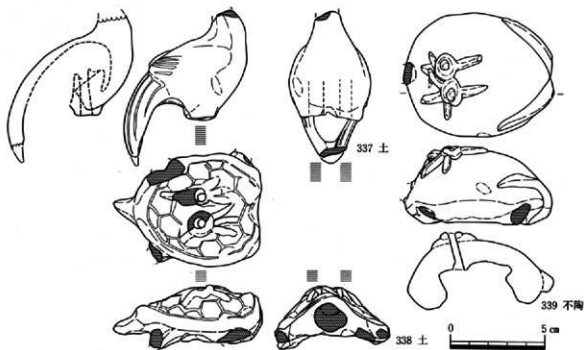
第41図 SK6735 遺物実測図(9)

壺は美濃窯産陶器双耳壺(266)等がある。口縁部が内傾する無頸壺の形態をなす火鉢類は、瀬戸窯産陶器と常滑窯産陶器のもの等がある。常滑窯産陶器無頸壺(277・280)は口縁端部のみを横ナデしてやや肥厚するタイプである。瀬戸窯産陶器火鉢は口径が15cm以下の大きさのもの(278・281・282)と20cm前後の規模のもの(283・284・292)とが存在する。

甕は瀬戸窯産陶器の製品と常滑窯産陶器の製品がある。瀬戸窯産陶器甕は胴丸形で体部上位に沈線が多数存在するもの(289・290)と筒形の半胴甕(275・276)がある。常滑窯産陶器甕は口縁部の断面形がY字形の小形甕(291)と口縁部の断面形がT字形の大形甕(293・294)に区分できる。291の内面には褐白色の付着物が多量に存在している。

鍋・釜は瓦器双耳鍋・釜、土師器内耳鍋・炮烙鍋がある。瓦器双耳鍋は、底部外面に板状圧痕が、体部外面に横方向のヘラケズリ痕が残存し、内面は体部下位にハケメが残る他は調整痕が不明である。耳の形状から、平坦な頂部に突起を持つⅠ類(310)と丸く盛り上がる形状となるⅡ類(311・312)に区分できる。Ⅰ類は口縁部を強くナデて受け口状の段を持って丁寧に作られており、Ⅱ類よりも古いタイプかも知れない。瓦器釜は鐙を持たないもの(315)と鐙を持つもの(316)がある。土師器内耳鍋(313)は体部外面下半部を横方向にヘラケズリされている。土師器炮烙鍋(317~322)は体部が逆ハの字状に開くもので、外面は底部から口縁部に向けて板状圧痕・横方向のヘラケズリ・横ナデが施されている。炮烙鍋の内耳は、平面形で二等辺三角形の配置に3個付けられている。

陶磁器類のその他の器種として、瀬戸窯産陶器香炉(236)・戸車(245~247)・五徳(314)、美濃窯産陶器仏飯器(234)・水滴(270)、常滑窯産陶器筒形鉢(296)・土管? (297)・盤(300)・平鉢(301)・角柱状製品(302・303)がある。瀬戸美濃窯産陶器十徳(249)は内面に呉須絵を施した製品で、底部に回転ヘラケズリ痕が残存している。常滑窯産陶器火鉢? (298・299)は体部が丸みを持ち口縁部が折り返されている。内面上部の屈曲部に煤が付着していることから火鉢と想定される。



第42図 SK6735 遺物実測図(0)

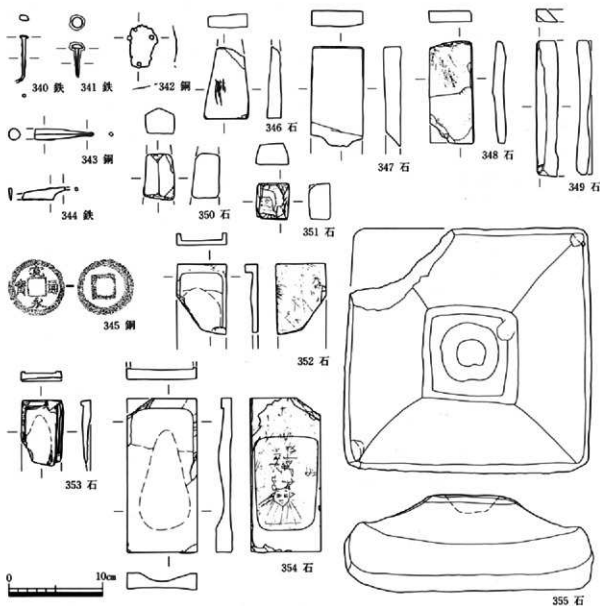
瓦は平瓦 (309)、棧瓦、軒棧瓦 (304~308) 等が存在している。

人形・玩具類は25点出土した。土師器の人形 (323~333)、ミニチュア (334)、面 (335) の他、土師器仏具 (336~338)、産地不明陶器仏具 (339) がある。327は型作りの馬であるが、上部には手捺りの人物が乗っている。333は薄手に作られた金魚の浮き人形である。

陶磁器類に墨書が記されたものには碗・戸車・瓶・火鉢がある。碗・戸車・瓶は底部外面に、火鉢は内面底部に墨書されている。数字や記号が記されるものが多く、「利休」と記されたもの (292) も見られる。

金属製品は、鉄製釘 (340)、鉄製小形刃物類 (344)、銅製金具類 (342)、銭貨 (345) 等が存在する。342はバチ形の薄い銅板に少なくとも3個の孔が穿たれており、飾金具の一種と推定される。

石製品は、五輪塔、砥石、硯が存在する。砥石は石材の種類で荒砥 (350) と中砥または仕上げ砥 (346~349・351) に区分できる。硯はいづれも長方硯 (352~354) であり、このうち354は裏面に文字と人物が刻書されている。五輪塔火輪部 (355) は比較的偏平な形状である。 (鈴木正貴)



第43図 SK6735 遺物実測図 (1) (345のみ S=2:3)

## 第6節 SK6691 (第44~80図356~920)

SK6691は61B区中央部で検出された巨大な廃棄土坑である。ここからは瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・関西系窯産陶器・常滑窯産陶器・瀬戸窯産磁器・関西系窯産磁器・肥前窯産磁器・土師器・瓦器・木製品・金属製品・石製品等の多量な遺物が出土した。広東茶碗等の器種が多くみられることから宿場町期Ⅱ-2期に属する資料と位置づけられる。

椀は瀬戸窯産陶器碗・美濃窯産陶器碗・関西系窯産陶器碗・瀬戸窯産磁器碗・関西系窯産磁器碗・肥前窯産磁器碗・木胎漆器碗等がある。器種としては広東茶碗が圧倒的多数を占め、丸碗・端反碗・箱形湯呑・小碗・沓茶碗等も認められるが、柳茶碗は全く存在しなかった。

広東茶碗は美濃窯産陶器と瀬戸窯産磁器のものが多く、形態から3類に分類できる。Ⅰ類は口径が大きく内底面に平坦面を持ち体部が直線的に開くもの(365・382等)、Ⅱ類は内底面が丸みを持って凹むもの(356・370等)、Ⅲ類は小形で体部が丸みを持って立ち上がるもの(367・385等)である。また施紋については手書きによるもの(373・377等)とスタンプ(印版)によるもの(356・360等)がある。後者は桜花紋や梅花紋に多く、ほとんどの場合は施紋は3単位見られる。

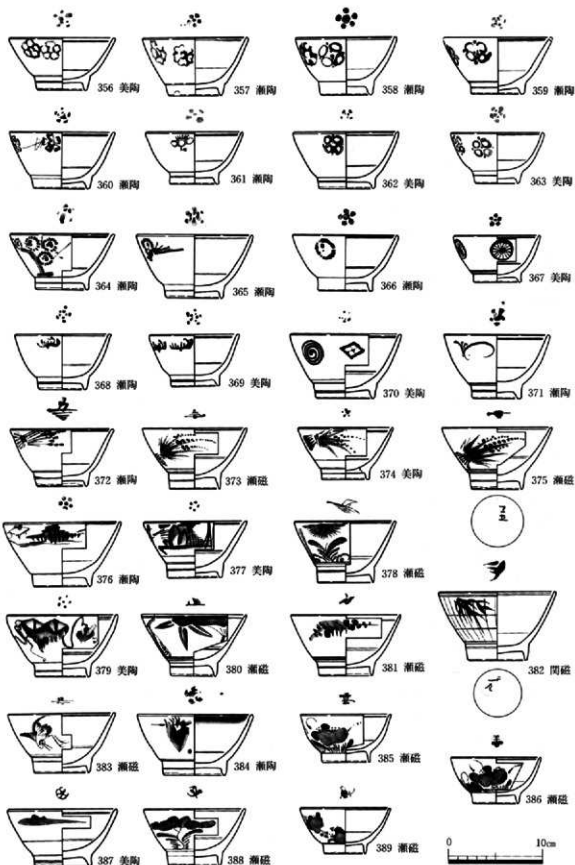
端反碗は瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・関西系窯産陶器・瀬戸窯産磁器・関西系窯産磁器等多様な製品が認められる。形態から小形で口縁部が外折するもの(404・405等)、小形で口縁部が僅かに反るもの(406~408等)、小形で口縁部が薄く外折する安南茶碗を模倣したもの(420)、やや大形で口縁部が緩やかに反るもの(423~425等)、やや大形で口縁部が外折するもの(432)、大形で口縁部が緩やかに反るもの(426・427・433)等に分類できる。

箱形湯呑は美濃窯産陶器・瀬戸窯産磁器・関西系窯産磁器・肥前窯産磁器等が認められる。458は長石釉に鉄銹を施した沓茶碗で、復興(再興)織部の製品と思われる。459はうのふ軸を口縁部に流し掛けた碗で高台底面に「景正」と刻印されている。小碗は腰部が丸みを持って立ち上がるもの(461~471・489)、逆ハの字状に直線的に開く小杯タイプのもの(472~475)、端反のもの(487)、筒形のもの(488)等に区分できる。猪口は肥前窯産磁器(476・482)と瀬戸窯産陶器(477~479・483・484)があり、小形の猪口(481)も認められる。小杯は磁器と木胎漆器のものがある。507・508は関西系窯産または産地不明磁器小杯で高い高台を持ち、509は肥前窯産磁器で低い高台を持つ。503は赤色漆が塗布された木胎漆器小杯で、内面に金色の「寿」字が記されている。

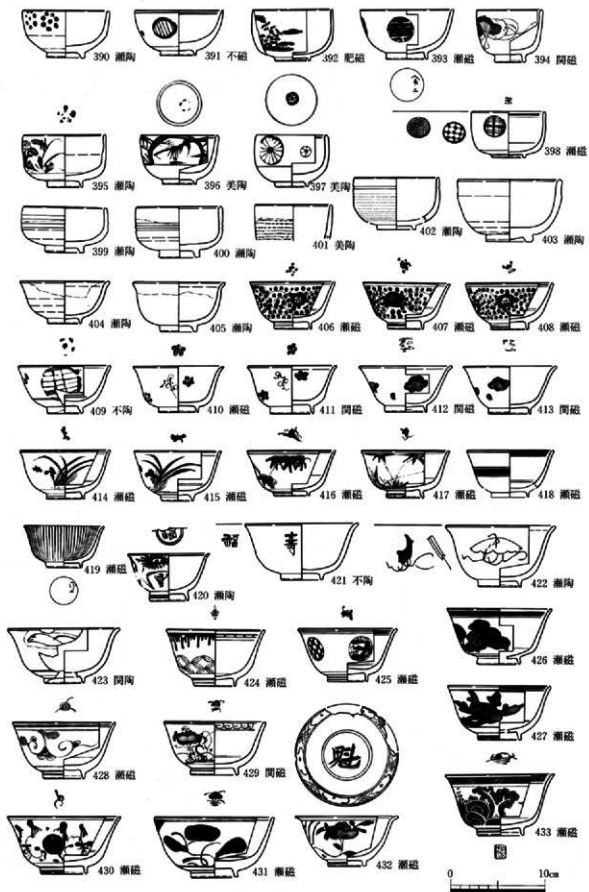
木胎漆器碗は4類に区分できる。Ⅰ類は腰部に2段の稜線を持つもので、体部に尖帯を持つもの(449)と口縁部が強く外反するもの(450)に細分できる。Ⅱ類は腰部に1段の稜線を持つもの(451・452)、Ⅲ類は腰部が丸く立ち上がり器壁が薄いもの(453・454・456)、Ⅳ類は腰部が丸く立ち上がり器壁が厚いもの(455)である。木胎漆器は総じて漆膜の遺存状態が不良であった。

皿は瀬戸窯産陶器皿・美濃窯産陶器皿・瀬戸窯産磁器皿・肥前窯産磁器皿等があり、土師器皿は全く存在しなかった。肥前窯産磁器丸皿は18世紀後半に位置づけられるものが多い。美濃窯産陶器丸皿は内面に菊花紋を鉄銹スタンプし輪軸となるもの(552等)が目立つ。無高台皿は瀬戸窯産陶器・美濃窯産陶器・瀬戸窯産磁器の製品があり、すべて完全な平底となっている。灯臺は内面の尖帯が口縁部よりも低いタイプのもの(517~523)である。526は貝殻状の形態をした産地不明陶器皿で、外面に貼り付けの三脚と6個の突起及び菊花のスタンプ紋が押印されている。

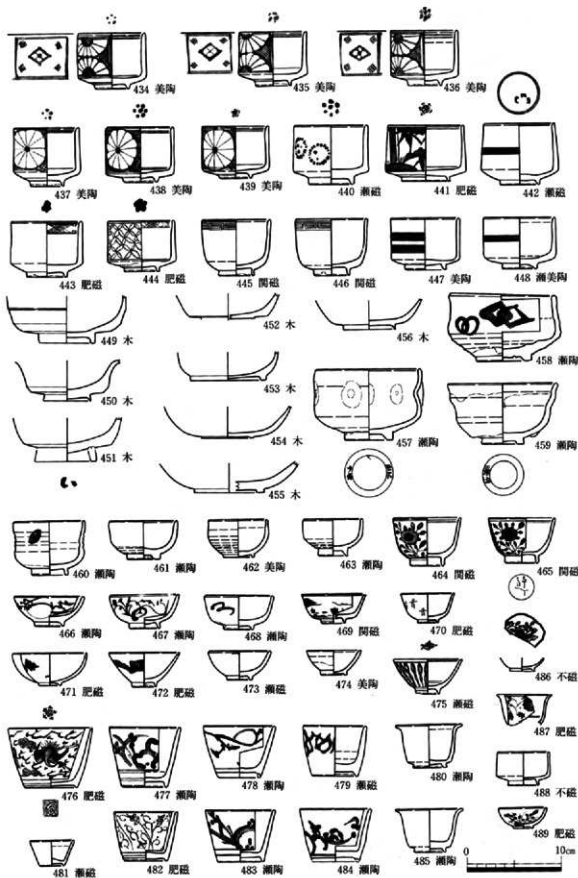




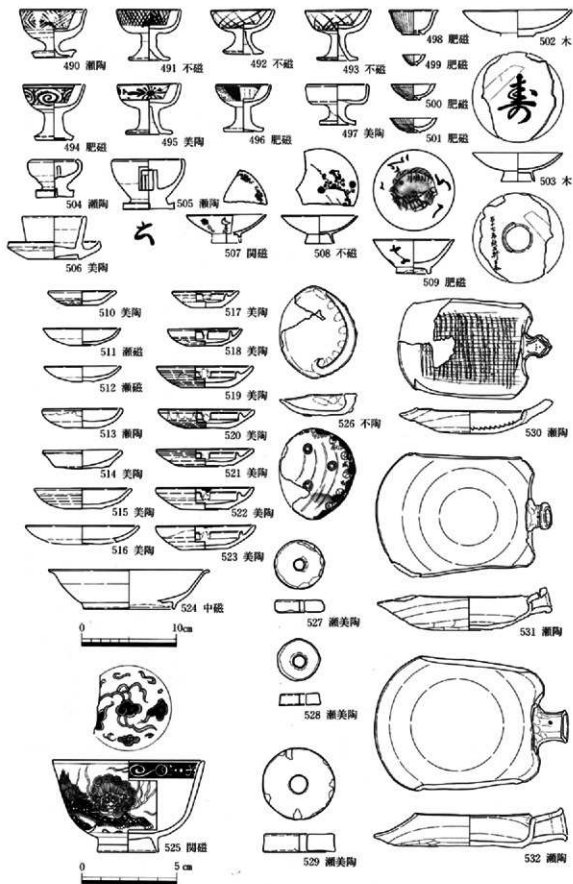
第44図 SK6691 遺物実測図(1)



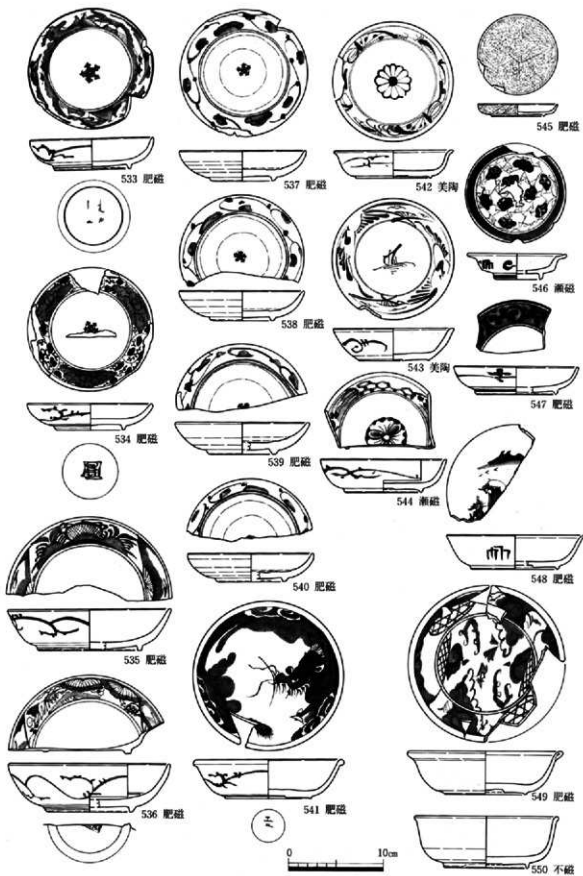
第45図 SK6691 遺物実測図(2)



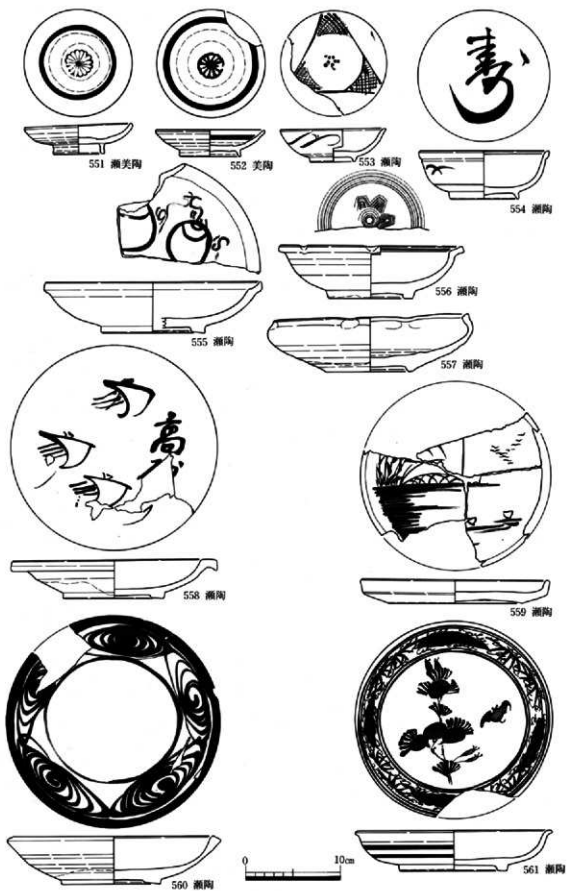
第46図 SK6691 遺物実測図(3)



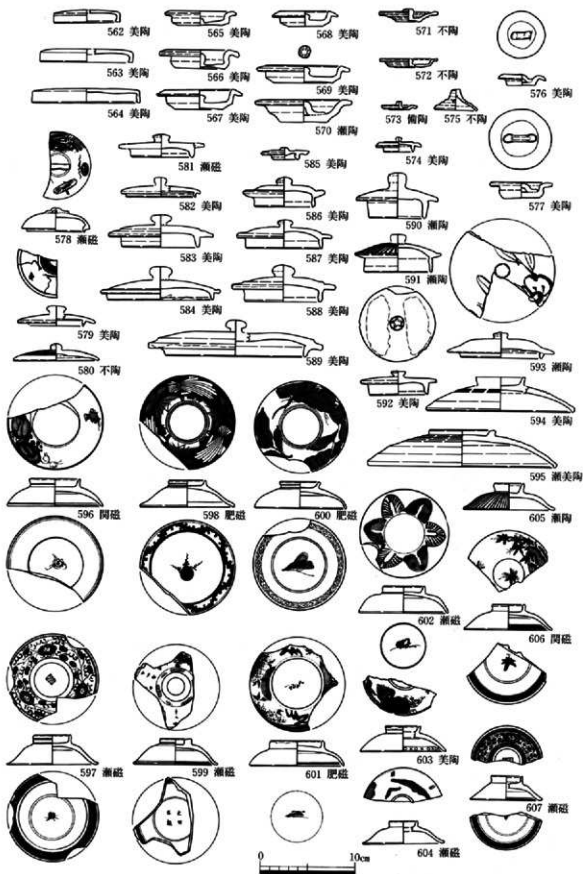
第47図 SK6691 遺物実測図 (4) (525のみS = 1 : 2)



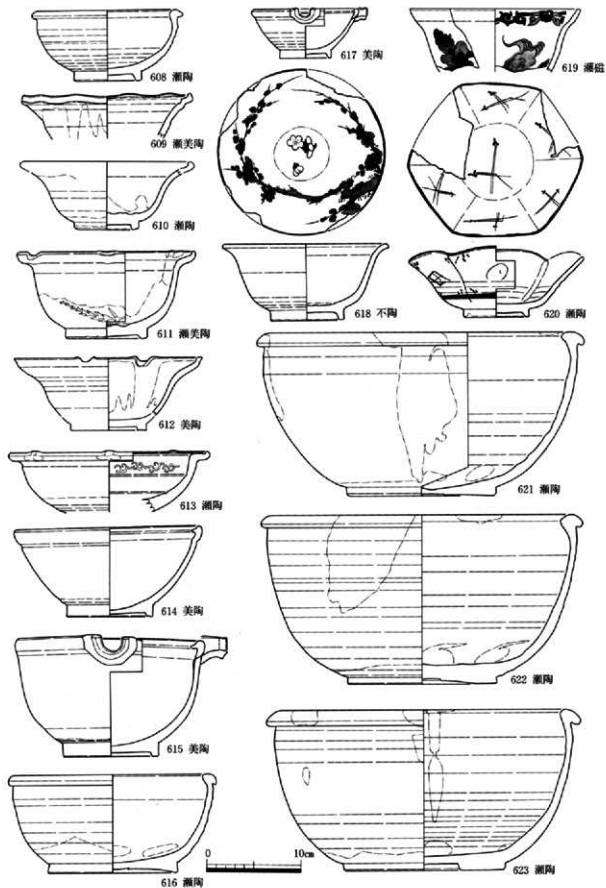
第48図 SK6691 遺物実測図(5)



第49図 SK6691 遺物実測図(6)

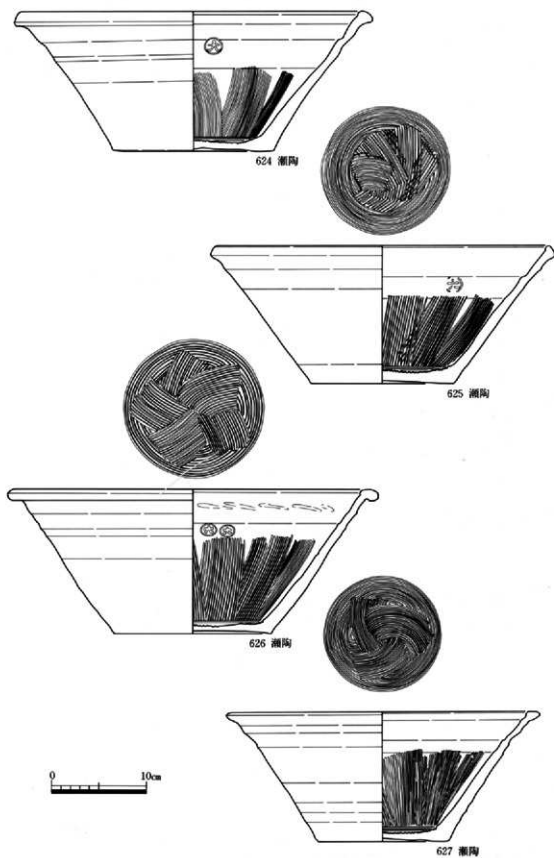


第50図 SK6691 遺物実測図(7)

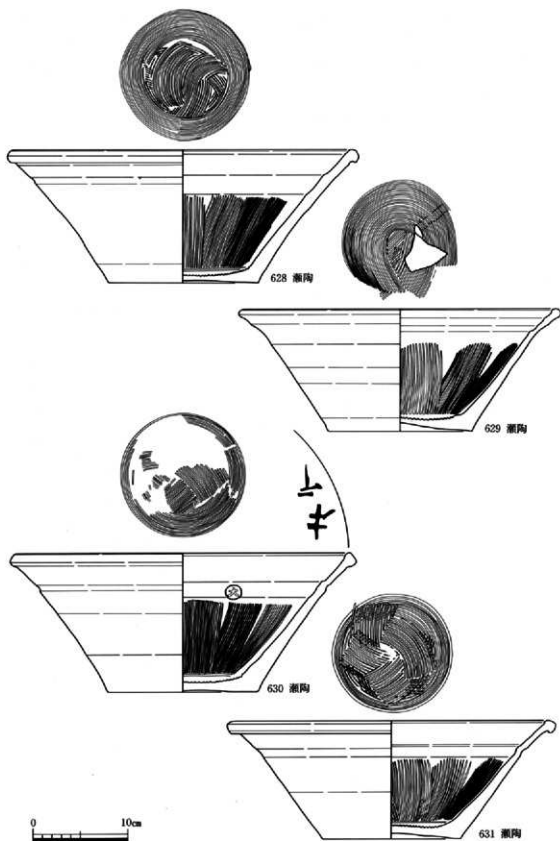


第51圖 SK6691 遺物実測図 (8)



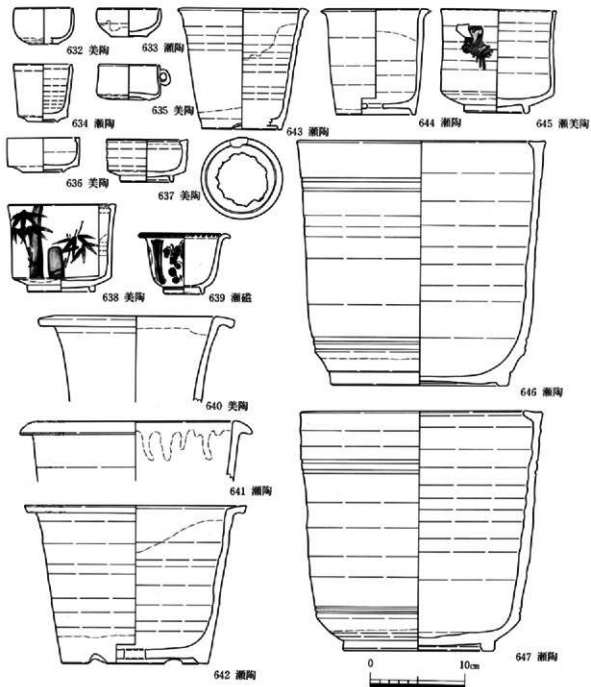


第52図 SK6691 遺物実測図(9)



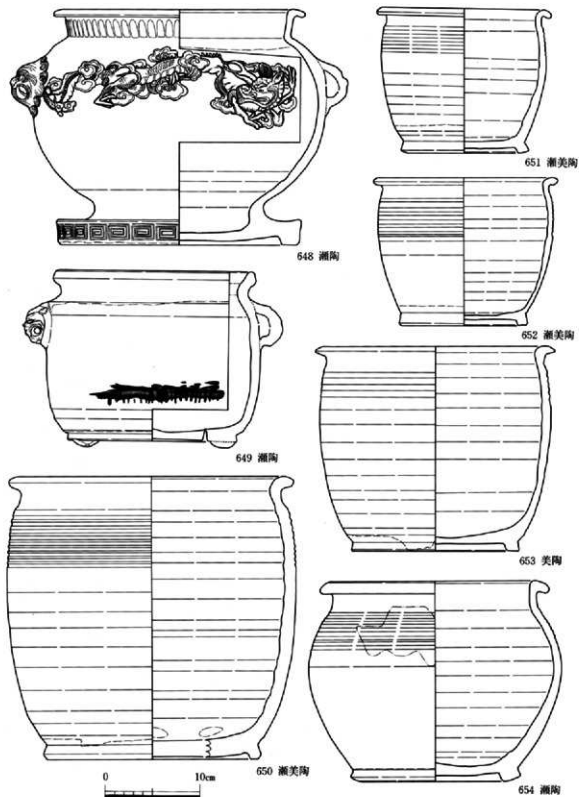
第53図 SK6691 遺物実測図 (0)

蓋は瀬戸窯産陶器蓋・美濃窯産陶器蓋・瀬戸窯産磁器蓋・関西系窯産磁器蓋・肥前窯産磁器蓋の他、産地が特定できないもの等も存在する。蓋は形態から7類に分類できる。Ⅰ類(562-564)は摘みと返しの無い偏平な形状のもので、美濃窯産陶器のみが存在する。Ⅱ類(565-573・576・577)は落し蓋で摘みを持ち折返しがあるもので、瀬戸・美濃窯産陶器の他に黒褐色の胎土を持つもの(571-573)が存在する。Ⅲ類(580)は偏平蓋で返りのない産地不明磁器蓋である。Ⅳ類(574・579・581-593)は偏平蓋で突起状の摘みを持ち返りのあるもので陶器が多く認められる。Ⅴ類(578)は摘みが紐状

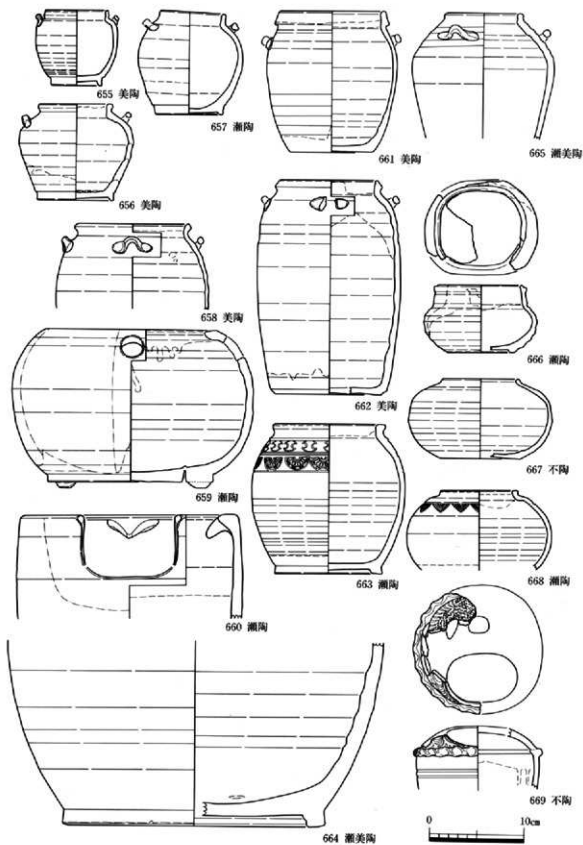


第54図 SK6691 遺物実測図(1)

で返りを持つ関西系磁器蓋である。VI類 (594～607) は環状の摘みを持ち返しの無いもので、瀬戸・美濃窯産陶器は少なく、磁器製品が多い。VII類 (575) は摘みと返しが無い山形の産地不明陶器蓋である。

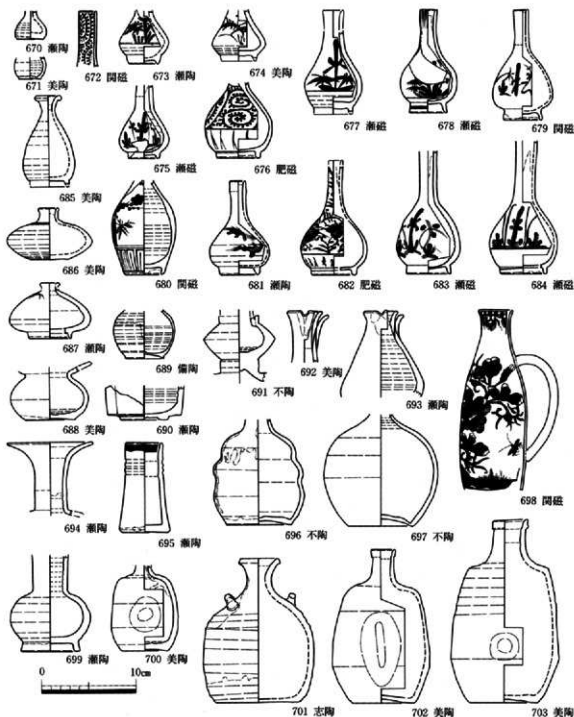


第55図 SK6691 遺物実測図 (12)

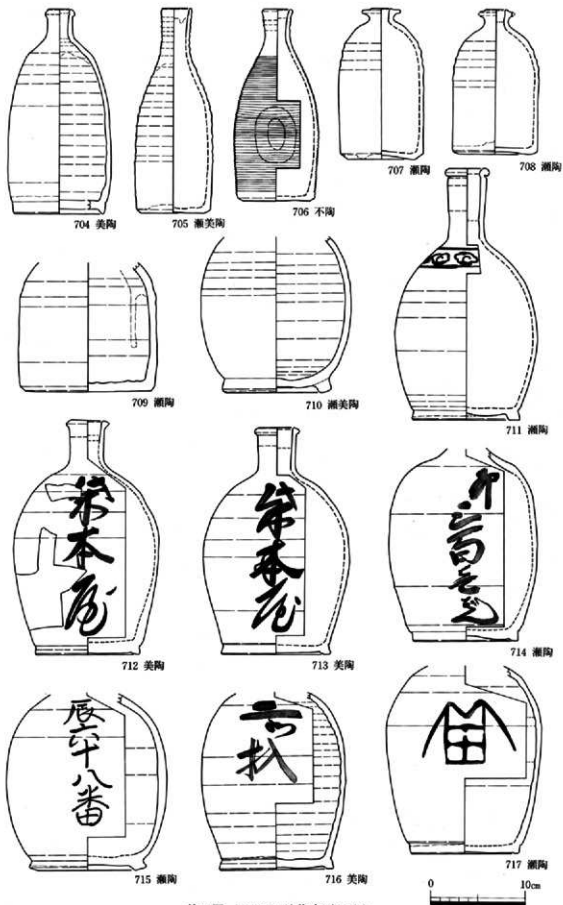


第56図 SK6691 遺物実測図 (13)

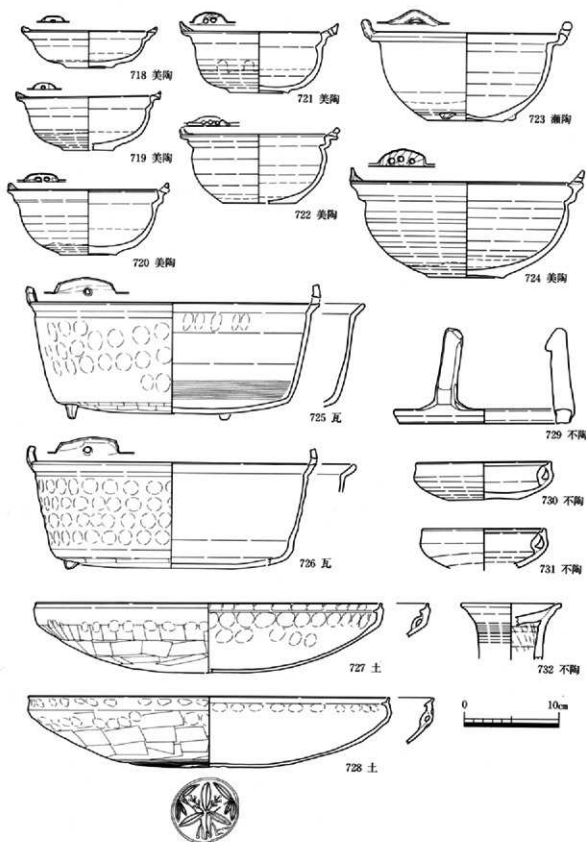
鉢は瀬戸窯産陶器丸鉢・筒形鉢・大皿・擋鉢、美濃窯産陶器丸鉢・筒形鉢・大皿、瀬戸窯産磁器丸鉢等の他、産地が特定し得ないものもいくつか認められる。611は黄白色の胎土に黒褐色粘土を塗布し透明釉を掛けたもので、体部外面の黒褐色粘土を一部掻き落として文様としている。618は黒褐色の胎土を持つ丸鉢で、内面に白土を塗布し透明釉を掛けている。見込み部分は白土を掻き落としており、内面全体に呉須絵と鉄絵で梅樹紋を描いている。擋鉢は口縁部の形態から8類に属するもの(624~631)で、藤澤編年の第10・11小期に位置づけられる。体部内面に「丸大」のスタンプが押印されているもの(624・625・630)も存在する。643は植木鉢で、底部が焼成後に更に大きく穿孔されている。



第57図 SK6691 遺物実測図 04

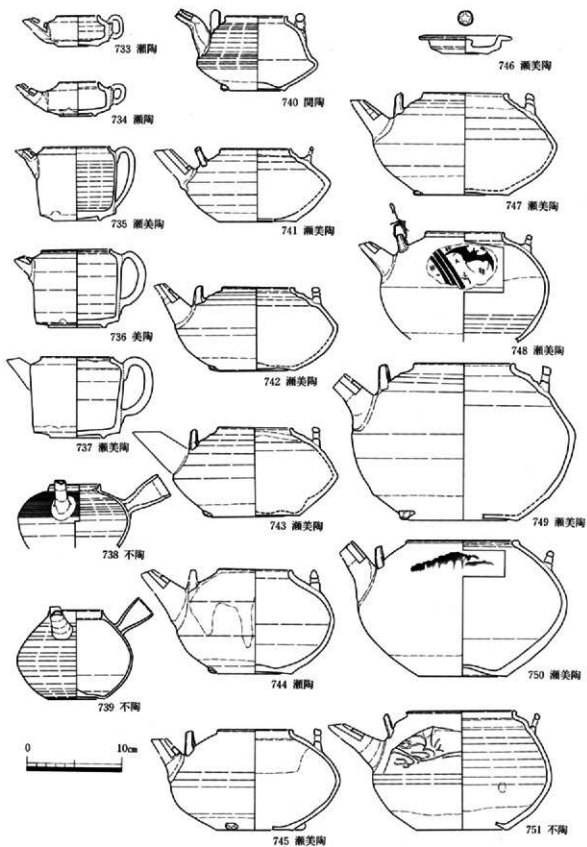


第58図 SK6691 遺物実測図 (19)

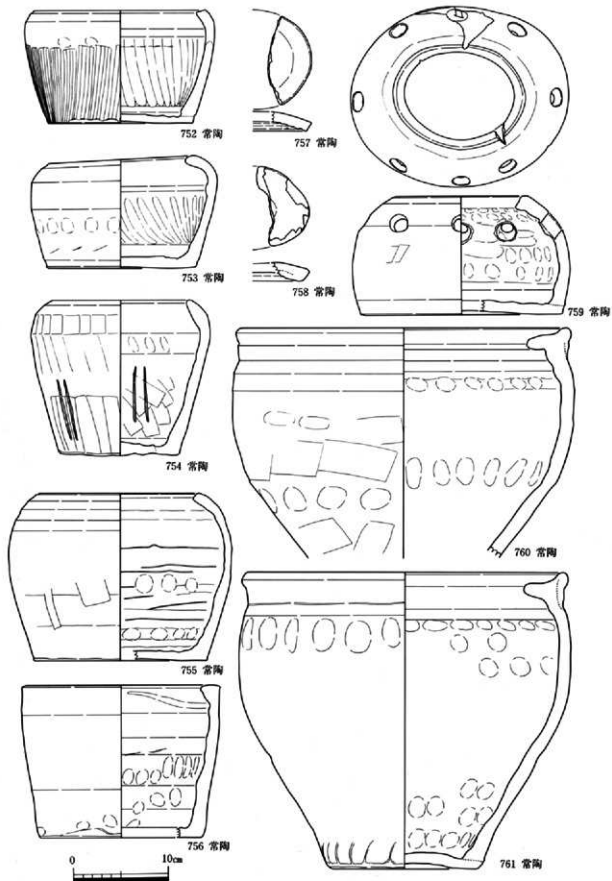


第59圖 SK6691 遺物実測図 ①6

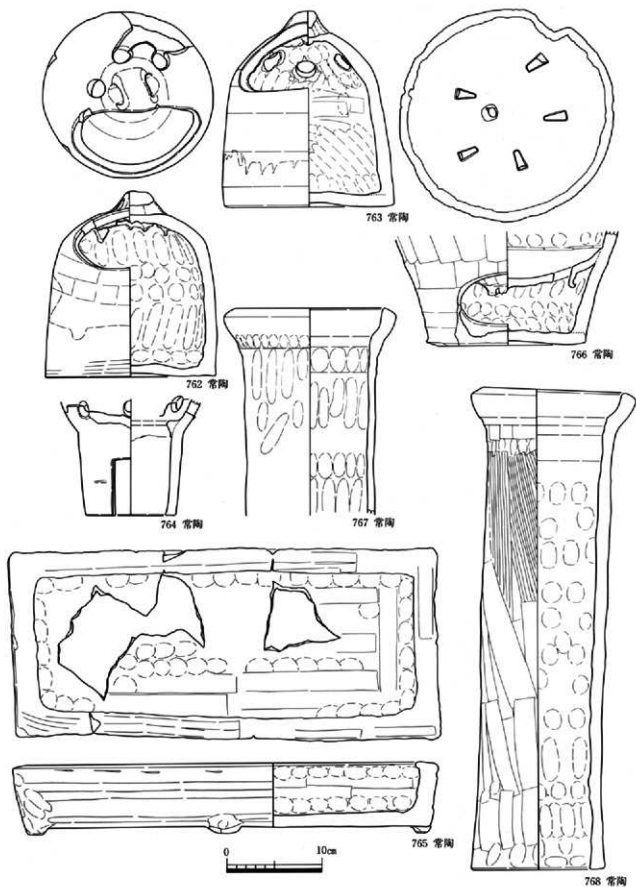




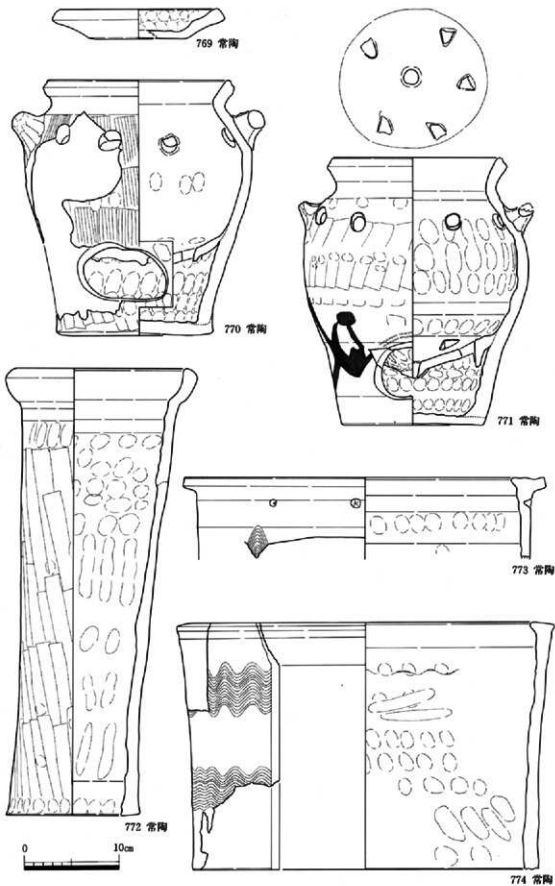
第60図 SK6691 遺物実測図 (17)



第61図 SK6691 遺物実測図 08



第62図 SK6691 遺物実測図 (19)



第63図 SK6691 遺物実測図(2)

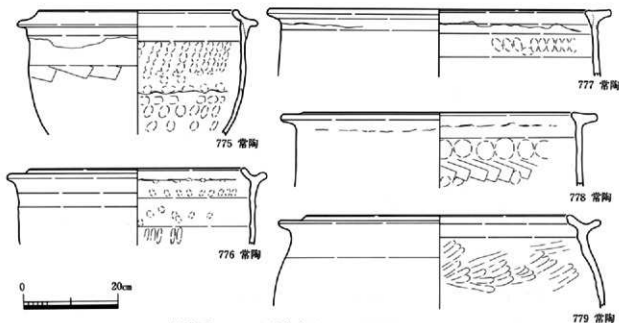
壺は美濃窯産陶器、瀬戸窯産陶器等があり、器種も双耳壺、三耳壺、短頸壺等と多様である。667は無釉短頸壺で底部が回転ヘラケズリされた産地不明陶器、669は灰釉を施した手培り形製品である。

瓶は美濃窯産陶器瓶・瀬戸窯産陶器瓶・瀬戸窯産磁器瓶・関西系窯産磁器瓶・肥前窯産磁器瓶等多様な産地の製品があり、形状から10類に分類できる。Ⅰ類は鶴首形で高台を持つ小型徳利(672-679・681-684)、Ⅱ類は口縁部が外反し高台を持つ小型徳利(685)、Ⅲ類はⅠ・Ⅱ類より更に小形の瓶(670・671)、Ⅳ類は体部が算盤玉形の油壺(686-687)、Ⅴ類は口縁部がラッパ状に開く唾壺(688)である。Ⅵ類は丸い胴部を持つ平底の徳利で、双耳の付くもの(701)と付かないもの(696・697・709)がある。Ⅶ類は口縁部が直線的に延びる平底の徳利で、片口を持つもの(692・693・698)と持たないもの(705・706)がある。Ⅷ類は口縁部を折り返して縁帯を持つ平底の徳利で、体部が凹むもの(700・702・703)と凹まないもの(704)がある。Ⅸ類は口縁部が横に広がる平底の徳利(707・708)である。Ⅹ類は高台を持つ大形徳利(710-717)で、このうち712-717は呉須で①地名(清洲宿・二ツ杵等)、②店名(柴本屋・山田等)、③番号(卯三百壱ばん・辰六十八番等)が記されている。

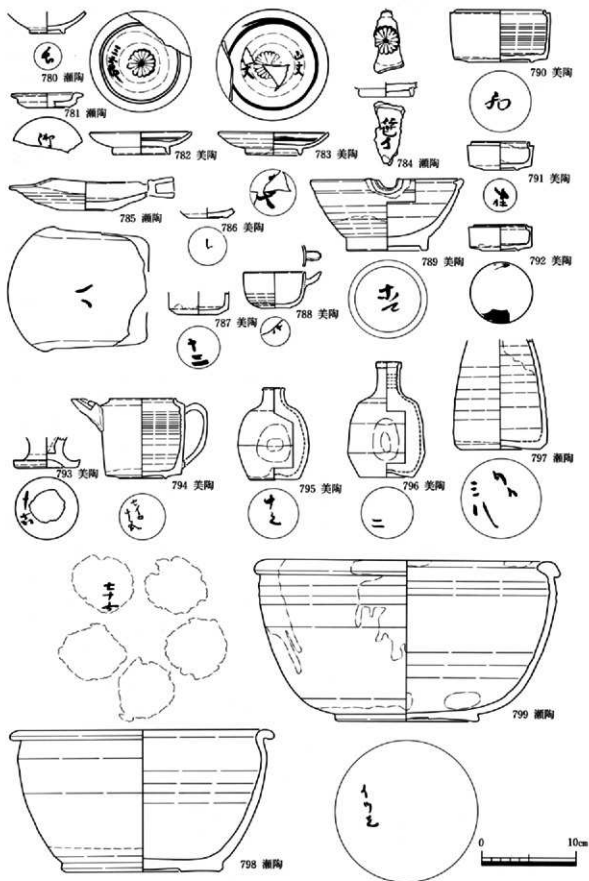
鍋は美濃窯産陶器双耳鍋(718-722・724)・瀬戸窯産陶器双耳鍋(723)・瓦器双耳鍋(725・726)・土師器炮烙鍋(727・728)等があり、釜は全く認められなかった。瓦器双耳鍋の耳は頂部が偏平となっている。728は底部に沢渦紋のスタンプが押印されており、炮烙鍋製作の際の外型に施された文様が転写されたものと推測される。730・731は産地不明陶器の小形炮烙鍋で内面には著しく黒色の付着物が存在している。732は頂部の平坦面に煤が多量に付着している。

汁次・土瓶は瀬戸・美濃窯産陶器の他に産地不明の陶器が多く存在する。738・739は暗褐色の胎土を持つ急須で産地は特定できない。土瓶は形状から3類に区分できる。Ⅰ類は体部中央が広がり算盤玉形の形状になるもの(741-747)であり、この類が最も多く認められる。Ⅱ類は球状の体部を持つもの(748-751)で大形のものが多い。Ⅲ類は体部上方が膨らむ形状(740)である。

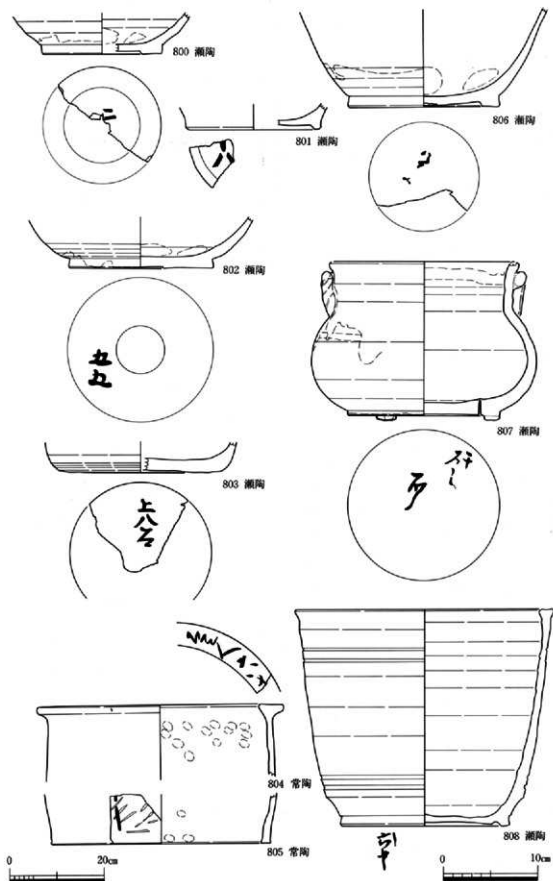
常滑窯産陶器は無頸壺、筒形鉢(756)、壺、火器、土管、蓋(757・758)等の器種が存在する。無頸壺は体部に多数の孔を持つもの(759)と持たないもの(752-755)に区分され、口縁端部に面を



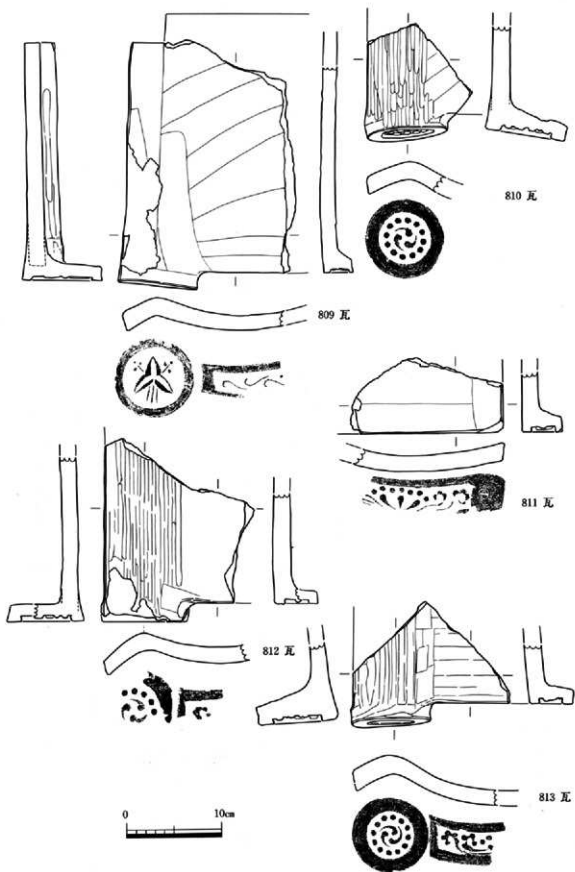
第64図 SK6691 遺物実測図(2) (全てS=1:8)



第65図 SK6691 遺物実測図 ②

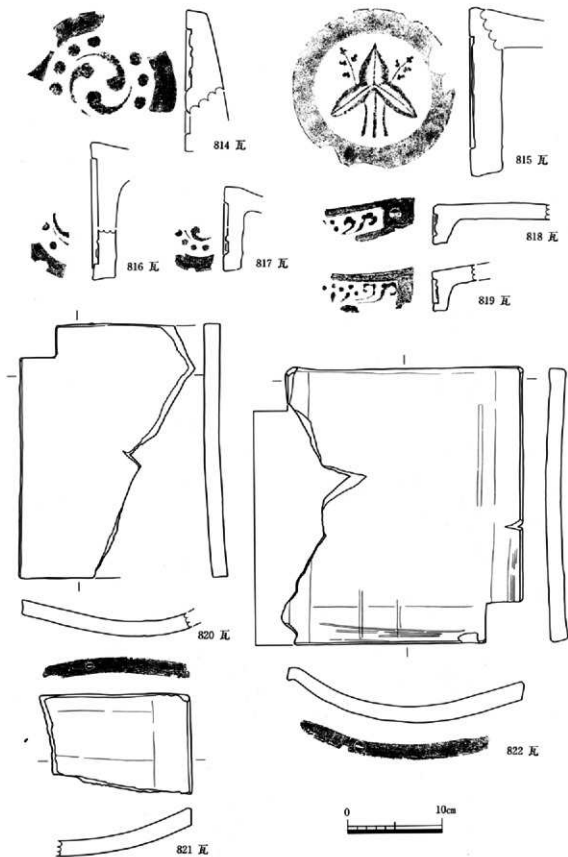


第66図 SK6691 遺物実測図 ② (804・805はS = 1 : 8)

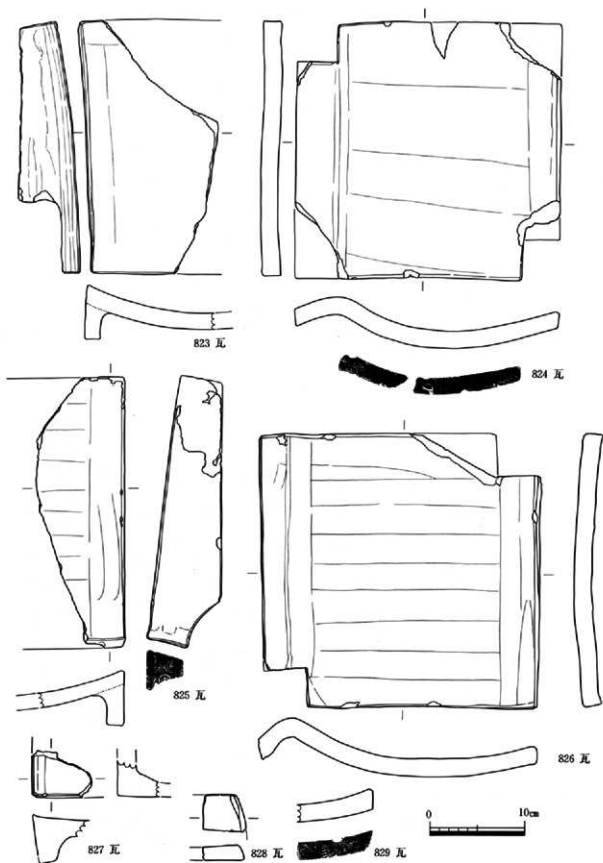


第67图 SK6691 遺物実測図 24

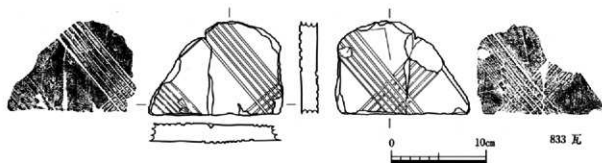
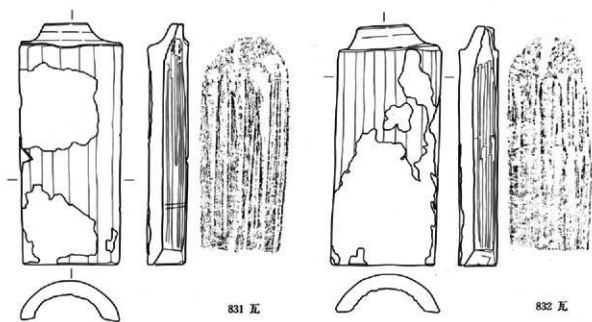
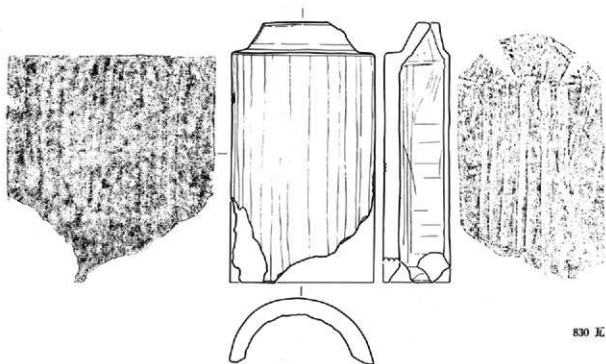




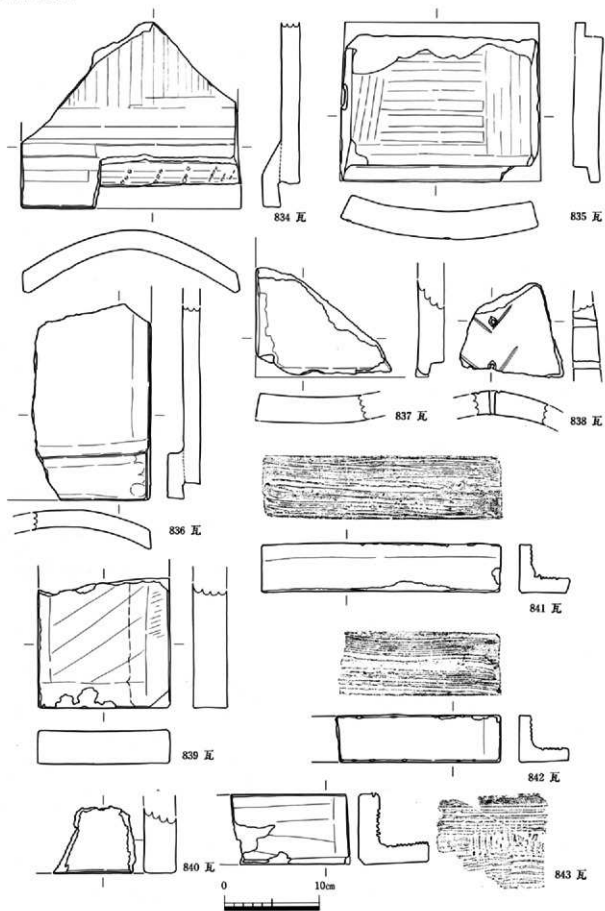
第68図 SK6691 遺物実測図 ㊦



第69図 SK6691 遺物実測図 ㉒

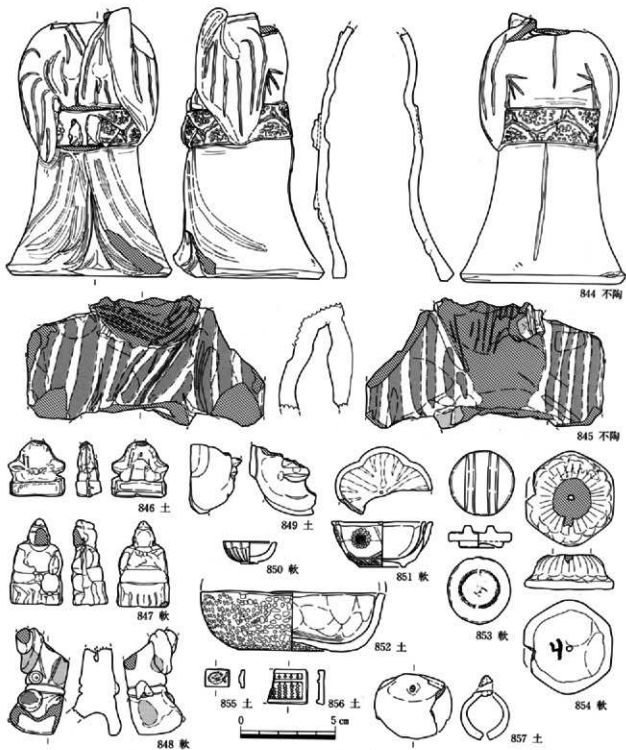


第70図 SK6691 遺物実測図 (2)

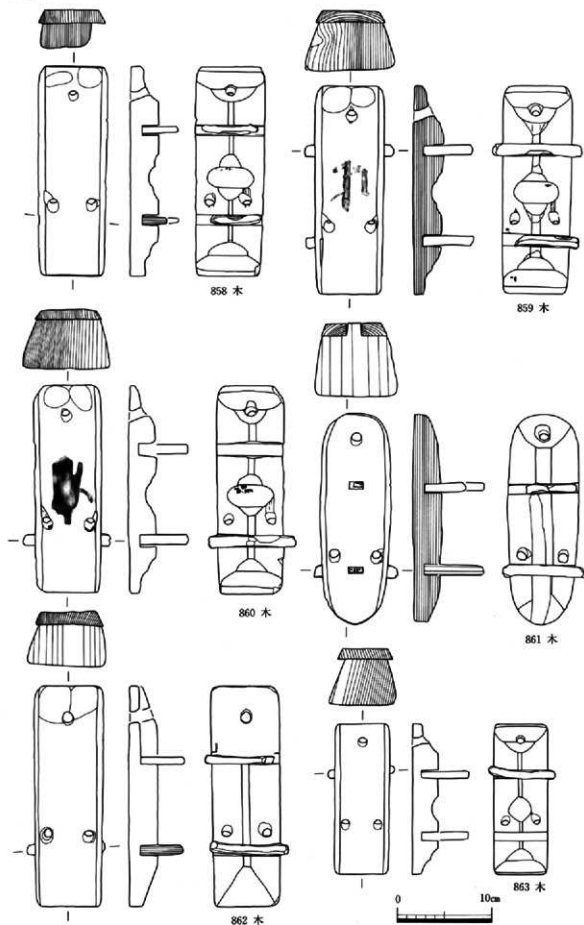


第71圖 SK6691 遺物実測図 28

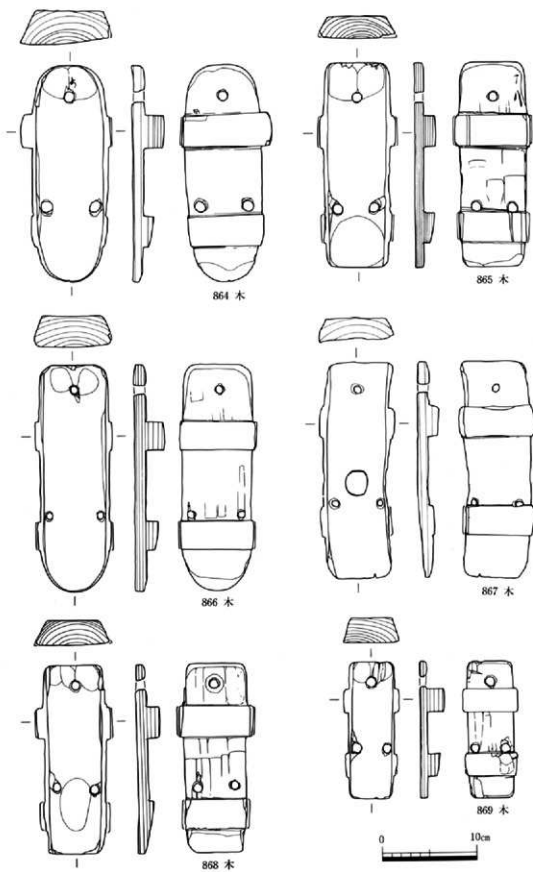
持つもの (752・755・759) と持たないもの (753・754) にも区分できる。蹠は小形蹠 (760・761) と大形蹠 (775~779) が存在する。前者は内側の突帯が内傾した口縁部を持ち、後者はY字またはT字状の口縁部となっている。火器は5類に区分できる。Ⅰ類はドーム状の体部に窓が1個存在し、孔3個と吊り手1個が付属するもの (762・763) である。Ⅱ類は壺形の体部に中底を持ち、体部下半部には窓が、体部上方には多数の孔が穿たれ、吊り手が2個存在するもの (766・770・771) である。



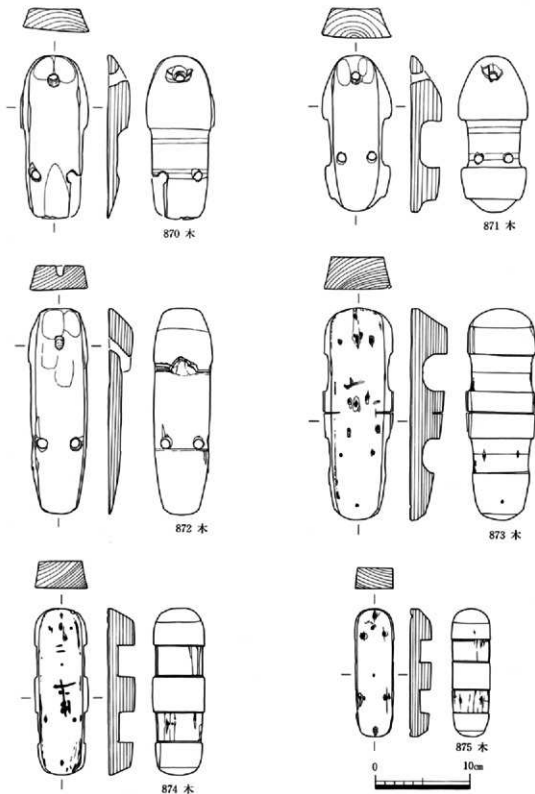
第72図 SK6691 遺物実測図 ②



第73図 SK6691 遺物実測図 (x)



第74図 SK6691 遺物実測図 (3)



第75図 SK6691 遺物実測図 ㉔

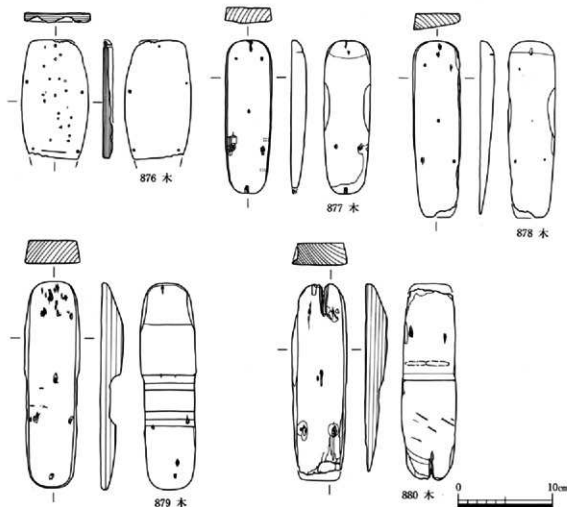


いわゆる「蚊いぶし」と呼ばれる器種である。Ⅲ類は全体の形状が不明であるが、底を持たない筒状の体部が上方で開き孔を持つもの(764)、Ⅳ類は平面形が長方形の浅鉢形で口縁端部に面を持つもの(765)、Ⅴ類は底を持たない筒形の製品で長方形の窓を持つ「くど」と考えられるもの(773・774)である。土管(767・768・772)は口縁部が受け口状になっている。

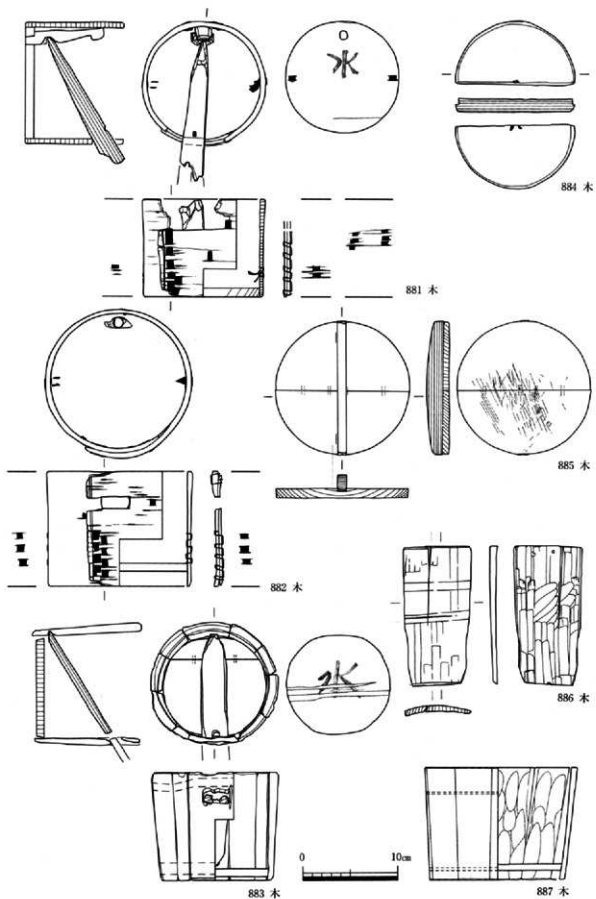
墨書が記された製品は皿類、鉢類、瓶類が多く、僅かに碗類、壺類等が認められる。墨書される部位は底部外面が多いが、底部内面(782・783・798)、体部内面(630)、体部外面(805)、口縁端部(804)に記されるものも見られる。

瓦は軒棧瓦、軒丸瓦、平瓦、丸瓦、棧瓦、道具瓦等が存在する。軒棧瓦は瓦当紋から2類に区分できる。軒棧瓦Ⅰ類は、丸瓦部に沢渦紋を、平瓦部に3反転の唐草紋を配置するもの(809)である。軒棧瓦Ⅱ類は、丸瓦部に左巻巴紋と珠紋12個を配置し、平瓦部に3子葉の中心飾りと2反転の唐草紋を配置するもの(810-813・817-819)である。軒丸瓦も同様に、沢渦紋を持つⅠ類(815)と左巻巴紋に珠紋を12個配置するⅡ類(814)に区分できる。平瓦の端面には丸一のスタンプ紋が押印されるもの(821・822・824・825・829)がある。丸瓦は内面にコビキB・布目・叩き痕が残存している。

人形・玩具類は、36点出土した。土師器の人形(846・849)・ミニチュア(852)・芥子面(855・856)・鈴(857)、軟質陶器の人形(847・848)・ミニチュア(850・851・853・854)、産地不明陶器人形(844・



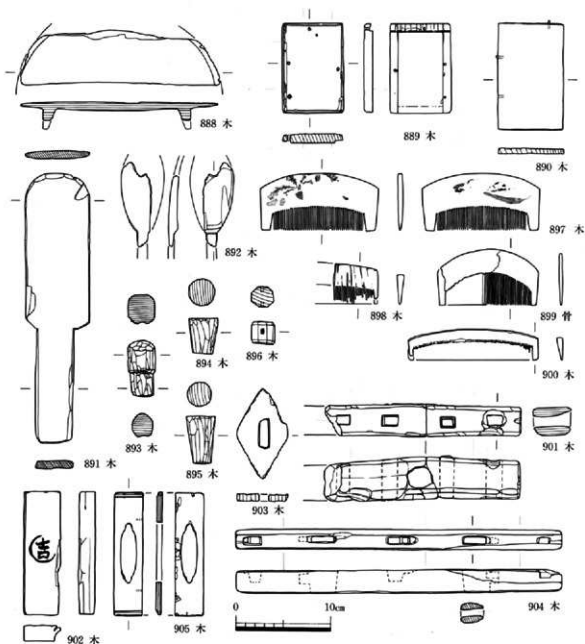
第76図 SK6691 遺物実測図 G3



第77図 SK6691 遺物実測図 34

845) 等がある。854は灯笼の台座部分で裏底に墨書が記されている。844は朱泥のような肌理の細かい赤褐色の胎土で、外面に光沢を持つ部分が認められる人物像である。上半身と下半身を別々に製作して接合している。下半身は粘土紐巻き上げ成形、上半身は板作り型押し成形と思われる。帯の文様と着物のしわは手描きで表現されている。

木製下駄は連歯下駄・差歯下駄・板草履に大別できる。差歯下駄は歯を差し込むほぞが貫通し平面形が楕円形となるもの(861)とはほぞ孔が貫通せず平面形が長方形のもの(858~860・862・863)がある。また、下駄本体下面中央部の削りが2段になるもの(858~860)、1段になるもの(863)、削らないもの(861・862)にも区分できる。連歯下駄は歯部の製作方法から3類に分類できる。I類は平面形が長方形の歯部を削り出しているもの(864~869)、II類は中央部と後部のみを削っているも

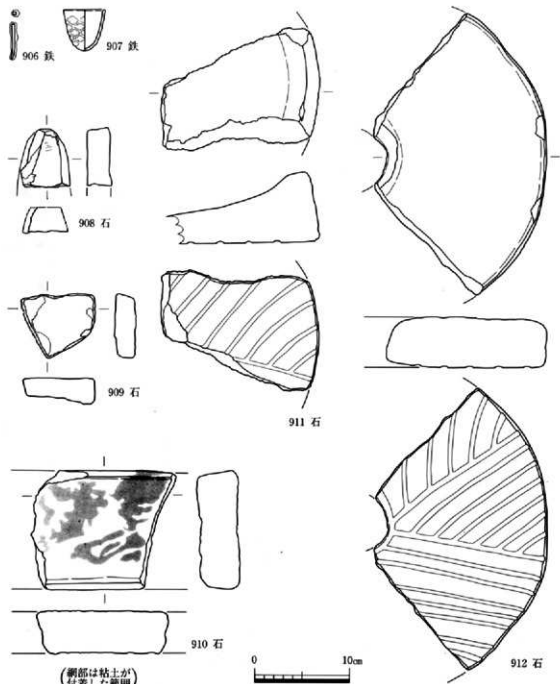


第78図 SK6691 遺物実測図 09

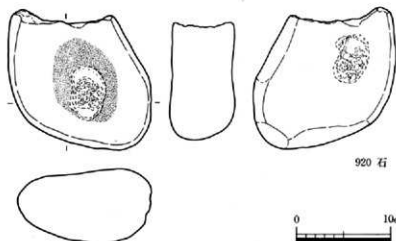
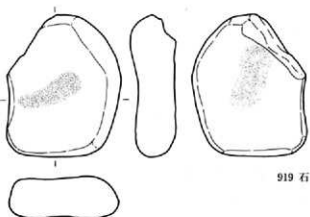
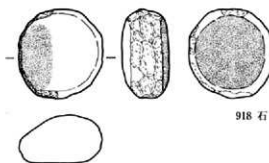
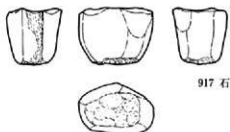
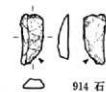
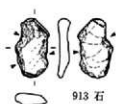
の(870~872)、Ⅲ類は中央部を2列削って歯部が3本となるもの(873~875)である。板草履は本体中央を削るもの(879・880)と削らないもの(876~878)があり、全て多数の釘孔が穿たれている。

その他の木製品には、曲物桶柄杓(881・882)、結桶柄杓(883)、結桶(886・887)、箱物(889・890)等の容器類、横櫛(897・898・900)、木胎漆器杓子(892)等の道具類の他901・903~905のような建具類の一部も存在する。柄杓の底板には「水」と墨書されているもの(881・883)がある。

石製品は火打ち石(913~916)・叩き石(917・918)・擦石(919・920)・砥石(908・909)・石臼(911・912)等が存在する。917・918には敲打痕が、917~920には石材の平坦面に摩滅した痕跡が残存している。910は表面に粘土が付着し被熱された直方体の石材で竈か炉に使用されたものであろう。(鈴木正貴)



第79図 SK6691 遺物実測図 06



第80图 SK6691 遺物実測図 ⑦ (913-916はS = 1 : 3)

## 第7節 人形・玩具類 (第81～84図921～1001)

人形・玩具類の総数は350 (474) 点である<sup>91)</sup>。その内遺構からの出土は161 (217) 点で全体の半数近くを占めた。材質は土師器及び軟質陶器が中心であるが、一部に陶器、磁器、ガラス製品も含む。種別は人形、ミニチュア、面、面型、芥子面、鈴などがあり、他にミニチュア製品製作用の雛型も出土した。

以下、内容について種別ごとに説明していくこととする。人形・玩具類の大部分は人形とミニチュアで、人形が全体のおよそ半数、ミニチュアが4分の1を占めている (付表3)。

人形には神像、人物、動物を象ったものの3種類がある。神像に類するものには天神、恵比須、大黒の他、布袋、達磨、福助などがあつた。但し、同形のもの323の天神が5点出土した以外にはない。人物には童子、唐子、虚無僧などがある。動物には猿、馬、犬、猫、鳩、鶏、鷹、雀、稲荷狐、蛙、亀、金魚などがある。このうち猫が最も多く、12点出土している。この大部分が328・964と同形で大きさも殆ど同じであつた。次に多かったのが雀で、8点出土している。いずれも331と同形の手捻りのものだが、大きさや仕上げにへらを使用するかどうかにより若干の違いがある。一部には茶と黒の彩色が残っていた。なお、鳥には笛になっているもの(966・967)、魚と亀には浮き人形になっているもの(333・958)がある。

ミニチュアでは器物を象ったものと建造物を象ったものの2種類がある。器物には碗、土(鉄)瓶、土鍋、蓋などがあつた。建造物には灯籠、橋、茶室、鳥居、神輿などがあるが、いずれも中・小型品である。

芥子面(けしめん)とは、片面のみを型成形で立体的に抜き出した、極小型の「面子」と考えられている土師器の製品である<sup>92)</sup>。全部で12点出土しており、モチーフには神像、人物、唐傘小僧? (985)の他、算盤、硯、魚付の皿? (855)などの器物を象ったものもあつた。裏面はへらで削り落しになっているが、指で押圧してくぼませたもの(929・930・931・982)、なでて滑らかにしたもの(855・856)などもある。これらがすべて「芥子面」と称されるものに当たるかどうかには問題があるが、他の人形と区別して取り合えずこの名称を使用しておく。

面は、5 (6) 点出土した。335、988、989は人物を象ったもので、裏側の土手状になった部分に孔が開けられている。989の鼻には木目が付いており、これらは表裏二面の木型によって粘土をプレスして作られたものと推定できる。他にやや大型のものに990の恵比須がある。これはこめかみに孔が開けられている。

面型は小型の雛型で、粘土をつめて形を抜き出して遊ぶものである。991が1点のみ出土している。鈴は全部で48 (52) 点出土した。この中には『清洲城下町遺跡Ⅳ』で報告された戦国時代に属すると考えられる鈴は一切含まれていない。形の判別できるもののうち、857・993と同形の鈴が13点、992と同形の巾着形の鈴が6点でその殆どを占めている。前者には赤い彩色の残るものがあった。

ガラス製品で「おはじき」らしきものが3点あつた。1000・1001は表裏両面を型押しされており、頂部にへた状のはみだしがある。

その他に、ミニチュア製作用の離型が2点出土している。SD6078から出土した933は灯籠の台座部分の離型と思われる。998は碗または皿の離型で、924はかなり小型になるが、この離型で製作したものと類似している。離型はどちらも素焼で彫りがあまく、原型の造りも粗雑なものである。

円板状の泥面子は1点も出土していない。焼物のかげらを丸く打ち欠いた転用円板は、近世陶器で作られたものも多数出土しているが、今回は時間の都合上カウントできなかった。

遺構の相伴遺物から確認できる人形・玩具類の出現の時期は、宿場町Ⅰ-2期からⅡ-1期にかけてである。Ⅰ期では937の天神の他、数点の破片がある。Ⅰ-2期からⅡ-1期にかけては977の神輿、SD6078出土品(921-933)等がある。

人形・玩具類がまとまって出土する遺構が現れるのはⅡ-1期からである。SD6078からは20(32)点、SK6735からは25(36)点が出土している。Ⅱ-2期ではSK6691から36(60)点、SX4015から16(18)点が出土しているが、Ⅱ-1期の遺物と形の共通するものは殆どない。

大きさは大部分が15cm以下の中・小型品で、20cm以上に達するような大型品はわずかである。大型品では陶器製の845の人物立像の他、破片から形の推定できるものに、人物(849)、狎(962)、天神等があった。

文字資料としては、853の蓋と1001のガラス製おはじきに浮印が、956の猿、961の稲荷狐、968の鍋、854・975の灯籠、998の離型に墨書がある。

最後に、本調査地点出土の人形・玩具類の全体的な特徴を以下にまとめておくこととする。

- 1 人形・玩具類の出現は、18世紀後半以降である。18世紀前半までの遺構からは殆ど出土しない。
- 2 同形で複数以上出土している人形は、323の天神、921の童子座像、327の馬、328・964の猫、330の鷹、手捻りの331の雀、332の鶴などである。天神を除けば、これらが少なからず出土することは名古屋城三の丸遺跡の各調査地点にも共通する傾向である。本調査地点においてはこれらはすべて18世紀末から19世紀初頭の遺構から出土している。
- 3 ミニチュアは種類が少ない。器物形では碗、蓋、土鍋、土瓶などに限られ、こんろ類がない。建造物形では灯籠が大部分を占める。
- 4 名古屋城三の丸遺跡ではこれまで殆ど報告されてこなかった芥子面が若干出土している。
- 5 名古屋城三の丸遺跡と比較すると、全体的に出土量が少ない。名古屋城三の丸遺跡のうち出土量の比較的少なかった宮林番地点<sup>註)</sup>では調査面積(概数)比で1㎡あたり0.112点であったのに対して、本調査地点では0.016点、遺物出土量の多い本町地区に限っても0.030点で圧倒的に少ない。
- 6 円板形の泥面子は1点も出土していない。

以上の他に、本調査地点において2点の製作用の離型が出土したことは、名古屋周辺の近世人形・玩具類の生産状況を考える上で一つの注目すべき事例といえよう。(八木佳実夫)

註 (1) 数値は識別可能な限りの個体数である。( )内は接合前破片数。

(2) 松井かおる(1991)「型抜き遊びについて」『江戸在地系土器の研究Ⅰ』。

(3) 松田訓編(1995)「名古屋城三の丸遺跡Ⅴ」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第60集。

第4表 人形・玩具類観察表

図番	遺物番号	材質	類別	形状	成形	胎土・滑石・焼成	胎・彩色	高	幅	奥行	備考
	148	503726	土師製	土師/F	丸型	男/子供? 中位 顔径1.1	赤灰色/焼	5.8	7.5	8.7	内縁に凸出
	323	503725	土師製	人形	天神	男/半端 顔径1.1 乳眉	黄白色/焼	4.9	3.0	2.1	分形%14
	324	503725	土師製	人形	童子	男/半端 顔径1.3×2.2	黄白色/焼	3.1	2.5	1.3	足形
	325	503725	土師製	人形	童子/半手?	男/半端 中位	黄白色/焼	4.9	4.0	2.1	
	326	503725	土師製	人形	嬰	手盛り 中位	黄白-黒灰色/焼	4.1	4.1	3.2	3.4
	327	503725	土師製	人形	嬰-人	男/左右手 中位 左足径1.3×横径0.6	黄白色/焼	7.7	4.2	4.5	分形%15
	328	503725	土師製	人形	嬰	男/半端 中位 顔径1.1	黄白-灰白色	5.8	4.0	4.1	
	329	503725	土師製	人形	大人	手盛り	黄灰色	7.7	5.3	5.0	8.8
	330	503725	土師製	人形	嬰	男/左右 中位 顔径1.5	黄白色	7.7	5.3	5.0	8.8
	331	503725	土師製	人形	嬰	手盛り	黄	4.0	3.2	4.5	分形%17
	332	503725	土師製	人形	嬰	手盛り 顔径0.7	黄白色/焼	4.6	4.2	4.2	分形%18
	333	503725	土師製	人形/半	赤色	男/上下 中位 顔径1.1 両手 内縁径	黄白-淡褐色	5.8	5.0	4.2	下部に土士の盛り
	334	503725	土師製	土師/F	坐童	男/中位/半端 顔径1.3×1.0	黄灰色/焼	2.4	2.8	1.3	突脚 入口は開口
	335	503725	土師製	丸型	童比賣?	男/中位/半端 土手顔径1.2	黄褐色/焼	4.4	4.4	1.8	
	336	503725	土師製	土師/F	赤色	男/幼少 顔径1.1	黄白色/焼	4.9	5.3	4.7	
	337	503725	土師製	土師/F	赤色	男/幼少? 顔径1.1 顔径1.4×2.2	黄白-黒色/焼	7.8	4.7	4.5	
	338	503725	土師製	土師/F	赤色	男/幼少 顔径1.1 顔径1.4×2.2	黄白-黒色/焼	2.3	4.1	2.4	踵見付?
	339	503725	陶器	土師/F	赤色	手盛り 顔径1.4×2.2	黄褐色/焼	4.1	4.6	4.0	踵見付?
	844	503818	陶器	人形	人物	手盛り? 顔径1.0	褐色/焼、砂状/赤	4.0	3.3	3.8	
	845	503819	陶器	人形	人物	手盛り 顔径1.0? 顔径1.0 顔径1.0	黄白色/焼/焼	4.9	4.9	4.6	4.2
	846	503819	土師製	人形	天神	男/半端 顔径1.3×横径1.3	黄灰色	2.8	2.8	1.3	
	847	503819	軟質陶器	人物	童比賣?	男/半端 乳眉	黄白色/焼	4.5	2.7	1.9	
	848	503819	軟質陶器	人物	童子?	手盛り 右顔径2.1×左4.4	黄白色/焼	4.8	3.7	4.0	
	849	503819	土師製	人形	人物	男/半端 中位 赤色	赤色/焼	3.6	3.6	3.5	2.7
	850	503819	軟質陶器	土師/F	赤色	男/半端	白色	1.1	2.8	0.8	
	851	503819	軟質陶器	土師/F	赤色	男/半端?	黄白色	3.4	5.2	2.2	赤脚?
	852	503819	軟質陶器	土師/F	赤色	男/上下	灰白色/焼	2.1	5.0	0.9	内縁に凸出
	853	503819	軟質陶器	土師/F	赤色	男/上下	淡褐色/焼	1.1	2.2	5.0	分形%1人(赤印)
	854	503819	軟質陶器	土師/F	打鐘	男/半端 顔径1.1 顔径1.3	黄白色	1.9	4.7	5.0	分形%人(黒印)土上
	855	503819	土師製	童子	赤かき廻り?	男/半端 顔径1.1	黄白色/焼	0.9	1.2	0.2	足形
	856	503819	土師製	童子	赤色	男/半端 顔径1.1	黄灰色	1.6	1.2	0.3	
	857	503819	土師製	嬰		手盛り 顔径1.1	灰白色	1.5	1.7	1.8	
	921	504076	土師製	人形	童子/半端	男/半端 中位 顔径1.3	黄褐色/焼	5.5	5.5	4.6	分形%13
	922	504076	土師製	人形	赤色	男/半端 中位	淡褐色/焼/赤	5.1	4.1	4.3	
	923	504076	土師製	人形	童子	男/半端 顔径1.2×横径1.5	黄白色	1.8	1.8	2.4	1.0
	924	504076	土師製	土師/F	赤色	男/半端	黄白色	2.8	4.8	2.4	
	925	504076	陶器	土師/F	赤色	手盛り 顔径1.1×1.1	黄白色/焼	2.8	4.0	2.4	足形
	926	504076	軟質陶器	土師/F	赤色	手盛り	黄褐色/焼	3.9	3.9	2.5	
	927	504076	軟質陶器	土師/F	赤色	男/上下	黄白色/焼	1.8	2.0		分形%20
	928	504076	軟質陶器	土師/F	赤色	男/半端 顔径1.1	黄白色	1.6	4.4		
	929	504076	土師製	童子	天?	男/半端 顔径1.1×横径1.2	黄白-黒灰色/焼	2.1	2.0	1.1	
	930	504076	土師製	童子	赤色	男/半端 顔径1.1×横径1.2	黄白色/焼	1.2	1.7	1.1	
	931	504076	土師製	童子	赤色	男/半端 顔径1.1×横径1.2	白色	1.7	1.1	0.5	
	932	504076	土師製	嬰		手盛り	褐色/焼	2.0	2.9	1.9	
	933	504076	土師製	童子	赤色	男/半端 顔径1.1×横径1.2	黄白色/焼/赤	3.0	3.0	1.4	
	934	軟質陶器	人形	天神	男/半端 顔径1.1	灰白色	2.1	2.0	1.4	分形%1人(黒印)土上	
	935	土師製	人形	天神	男/半端 顔径1.3×2.8	褐色	2.0	2.6	1.5	分形%2	
	936	軟質陶器	人形	天神	男/半端 乳眉	黄白色	4.3	2.7	2.0	足形	
	937	504346	土師製	人形	天神	男/半端 顔径1.1×2.1	黄白色	3.6	3.5	2.1	分形%2
	938	軟質陶器	人形	天神	男/半端 顔径1.2×1.7	黄白色/焼/赤	3.7	4.0	2.3		
	940	土師製	人形	嬰	男/半端 中位 乳眉	淡褐色/焼	3.0	2.7	1.8		
	941	軟質陶器	人形	人物/半	男/半端 顔径1.3×2.2 外縁径	黄白-灰白色/焼	5.1	2.4	1.8	足形	
	942	軟質陶器	人形	童子/半手	男/半端 乳眉	黄白色/焼	3.8	2.7	1.8		
	943	504343	軟質陶器	人形	童子/半手	男/半端 中位	白色	4.3	5.1	4.1	足形
	944	土師製	人形	人物	手盛り-黄褐色	黄白-黄灰色/焼	7.3	1.9	2.2		
	945	土師製	人形	童子/半手	男/半端 中位	黄白色/焼	4.7	3.2	2.1		
	946	土師製	人形	人物	男/半端 中位	白色/焼	4.2	2.7	1.2		
	947	土師製	人形	人物	男/半端 中位 顔径1.1	黄白-黄灰色/焼	5.5	3.8	2.2		
	948	土師製	人形	赤色	男/半端 中位 乳眉	黄灰色	3.7	2.5	2.5	足形	
	949	土師製	人形	少年	男/半端 顔径1.1	赤灰色/焼/赤	2.7	2.5	2.5		
	950	土師製	人形	少年	男/半端 顔径1.1	黄白色/焼	3.0	4.7	4.5	分形%3	
	951	土師製	人形	少年	男/半端 中位 顔径1.3	白色/焼	4.6	5.2	4.4		
	952	504318	土師製	人形	人物	男/半端 中位 顔径1.3	黄白-黄灰色/焼/赤	5.5	4.6	3.7	
	953	磁器	人形?	嬰	男/半端 中位 顔径1.4×2.4	白色/黄灰色/赤	1.4	4.0	2.0	5.7	4.6?
	954	磁器	人形	嬰	男/半端 顔径1.5 両手	白色	5.7	4.5	4.1	足形	
	955	磁器	人形	人物	男/上下 中位 顔径1.1	白色/灰白/赤	5.4	2.4	1.5		
	956	土師製	人形	人物	男/半端 中位? 乳眉	白色	4.8	2.8	2.5	足形	
	957	土師製	人形	嬰	男/半手 顔径1.1 顔径1.1の横目	黄白色/焼	4.6	7.9	4.3	分形%4 顔径1.1×横径1.1	
	958	土師製	人形	嬰	手盛り 1.4×1.4の横目	黄白色	4.1	3.1	5.5	足形	
	959	磁器	人形	鳥	男/上下 中位 顔径1.1以下	白色	5.7	4.4	4.0	足形	

※成形槽の「乳」の後は、孔直径×深さ（cm単位）を数字のみ記載する。

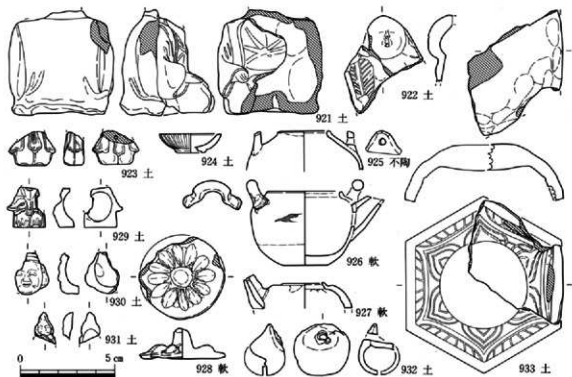
※法量単位の単位はcmである。

※器物形式ミニチュアの法量単位の単位は、「幅」欄に口径を、「奥行」欄に底径を記載する。

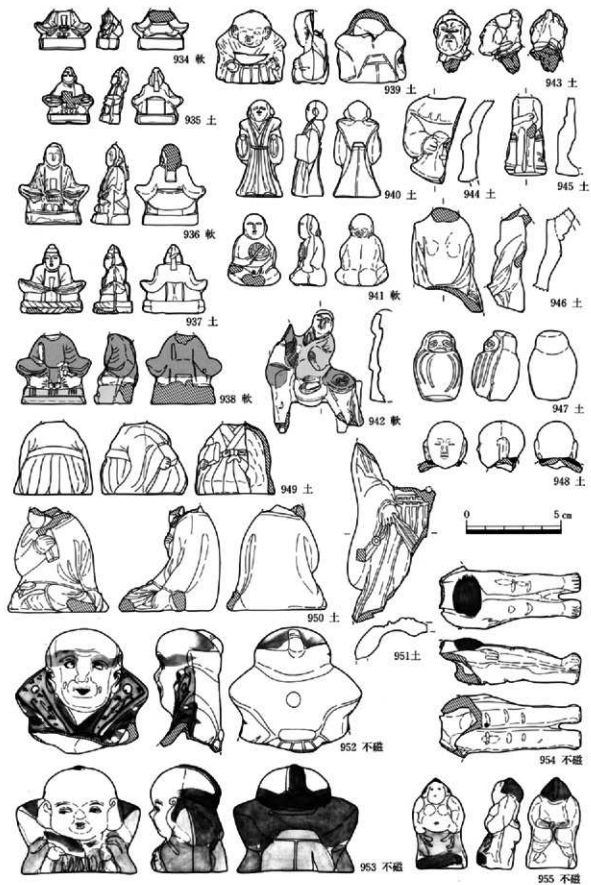


第5表 人形・玩具類観察表

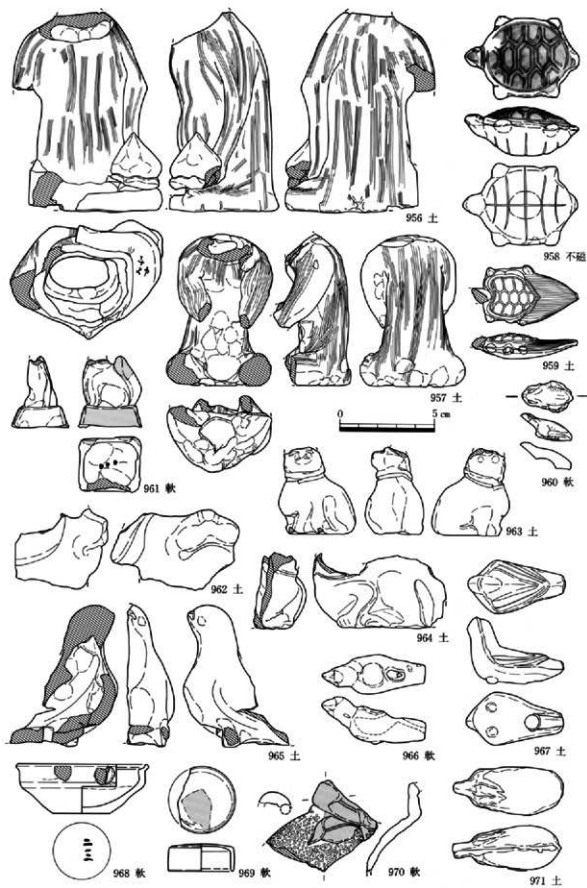
図番(遺物番号)	材質	種別	形状	成形法	胎土色/顔彩/彫刻	顔・彩色	高	幅	奥行	備考
956	土師器	人形	丸	型/上下? 丸顔孔(丸径×1.2)	黄白色/彫/無	黄白色/無	1.3	3.1	無	5.6
960	灰被陶器	人形	卵	型/平面 顔部×10	黄白色/無	灰被(彫)	1.4	1.6	2.7	[2]202
961	土師器	人形	楕圓筒	型/左右 平面(台座)	黄白-黄白色	灰被(彫) 胎土/白-彫、白化(彫)/無	無	3.8	3.7	3.0
962 S24013	土師器	人形	丸	型/前後 中径 鼻目	黄白色	無	無	4.3	無	4.0 分析№1
963 S2404	土師器	人形	扁	型/前後 中径 鼻孔1.1	淡褐色/無	無	無	4.6	3.1	4.0
964	土師器	人形	扁	型/前後 中径 鼻孔1.7	黄白色	無	無	4.0	2.7	2.0 分析№10
965 S27003	土師器	人形	丸	型/左右 中径 鼻孔1.5	黄白-灰色/無	無	無	7.5	無	5.6
966	灰被陶器	人形/扁	扁	手捻り/中径 吹口孔1.2	黄白色/無	灰被(彫) 胎土/無、顔(彫)	2.5	2.1	5.5	202
967	土師器	人形/扁	扁	型/上下 吹口孔1.8	黄灰色/彫/無	無	3.5	2.0	5.1	202
968	灰被陶器	土師器	丸くろ	丸くろ	黄白色/彫/無	灰被(彫) 胎土/無	2.6	4.7	3.0	202
969	灰被陶器	土師器	丸くろ	丸くろ	黄白色/無	灰被(彫) 胎土/無	1.5	3.4	無	内蔵(打痕)
970	灰被陶器	土師器	短てんぼ?	型/前後? 中径 へた部孔1.5	黄白色/無	灰被(無、彫/無)	無	4.0	5.9	無
971	土師器	土師器	獅子	型/上/下 中径 押手	白色/彫/無	無	2.3	5.0	2.6	
972	土師器	土師器	大蛇宝珠	型/平面 鼻部×10	黄白色/無	無	4.5	4.1	1.1	
973	灰被陶器	土師器	灯籠	型/前後 平面(台座) 中径 乳輪	褐色/無	灰被(彫) 胎土/白化(彫)/無	無	6.7	6.6	5.0
974	土師器	土師器	灯籠	型/前後 中径	淡褐色/無	胎土(白、鼻、輪部)1.5、2.0	無	4.0	4.4	4.2
975	灰被陶器	土師器	灯籠/台座	型/平面 鼻部×10	黄白色/無	灰被(彫) 胎土/無	無	1.5	4.4	4.5 鼻部(5)
976	灰被陶器	土師器	灯籠/台座	型/平面(手)×10	黄白色/無	灰被(彫) 胎土/無	無	2.7	4.4	無
977 S2447	土師器	土師器	神駒	型/前後 底孔1.3×1.0	黄白-黄灰色/無	無	無	3.5	2.3	2.3
978	灰被陶器	土師器	鳥形	型/平面 鼻部×10	褐色/無	灰被(彫) 胎土/無、白化(彫) 胎土/無	無	3.0	4.9	6.0
979	土師器	人形?	鳥形(虎骨?)	型/平面 鼻部×10	黄白色	無	2.4	3.1	1.7	
980	灰被陶器	人形?	人物	型/平面 鼻部×10	黄白色/彫/無	灰被(彫) 胎土/無	3.1	2.4	1.4	無(右腕部あり)
981	土師器	茶子面	圓形鼻	型/平面 鼻部×10	白色	無	2.2	1.9	0.7	
982	土師器	茶子面	伊才次?	型/平面 鼻部×10	黄白色/無	無	2.1	1.6	0.7	
983	土師器	茶子面	力士?	型/平面 鼻部×10	黄白色	無	2.9	1.6	0.7	
984	土師器	茶子面	人物	型/平面 鼻部×10	黄白色	無	1.6	1.3	0.5	
985	土師器	茶子面	帶輪小僧	型/平面 鼻部×10	黄灰色/無	無	2.9	1.9	0.8	
986 S24015	土師器	茶子面	福良童	型/平面 鼻部×10 貫付	黄白色/彫/無	無	3.1	2.8	0.9	分析№2
987	土師器	茶子面	童	型/平面 鼻部×10	淡褐色/無	無	1.6	0.7	0.2	
988	土師器	人物	鳥形(虎骨?)	型/平面 鼻部×10	黄白色/無	無	2.7	2.4	1.6	分析№8
989	土師器	人物	鳥形(虎骨?) 土手部孔1.2	黄白色	無	無	4.1	4.4	1.5	
990 S24021	土師器	面	圓形比喙(大)	型/平面 鼻部×10 台こめかみ孔1.4	黄白色/無	黄色(口ノ一)	無	4.0	5.7	2.6
991 S2474	土師器	面	圓形比喙	型/平面 鼻部×10	黄白色/無	無	1.4	4.1	5.1	分析№11、冠形
992	土師器	面	手捻り 鼻孔1.2	手捻り 鼻孔1.2	黄白色/無	無	3.5	4.0	2.8	
993	土師器	面	手捻り 鼻孔1.3	手捻り 鼻孔1.3	淡褐色/無	黄色(口)	4.0	4.5	2.8	
994 S2447	土師器	面	手捻り 鼻孔1.3	手捻り 鼻孔1.3	黄灰色/無	無	3.0	3.0	2.7	
995 S2470	土師器	面	手捻り 鼻孔1.2	手捻り 鼻孔1.2	黄白色/無	無	3.6	2.7	2.8	分析№12
996	土師器	面	手捻り 鼻孔1.3	手捻り 鼻孔1.3	黄灰色/無	無	2.2	無	1.6	
997 S2475	土師器	面	手捻り 鼻孔1.1	手捻り 鼻孔1.1	黄灰色/無	無	1.2	1.1	1.2	
998	土師器	面	手捻り 鼻孔1.1	手捻り 鼻孔1.1	黄白色/無	無	2.3	3.8	5.0	分析№4、鼻部?
999 S2476	土師器	面	手捻り 鼻孔1.1	?	黄色	無	1.2	1.4	0.4	202
1000	土師器	面	手捻り 鼻孔1.1	型/前後	黄色	無	1.9	1.5	0.8	202
1001	土師器	面	手捻り 鼻孔1.1	型/前後	淡黄色	無	2.2	2.2	0.6	冠形(厚部)あり



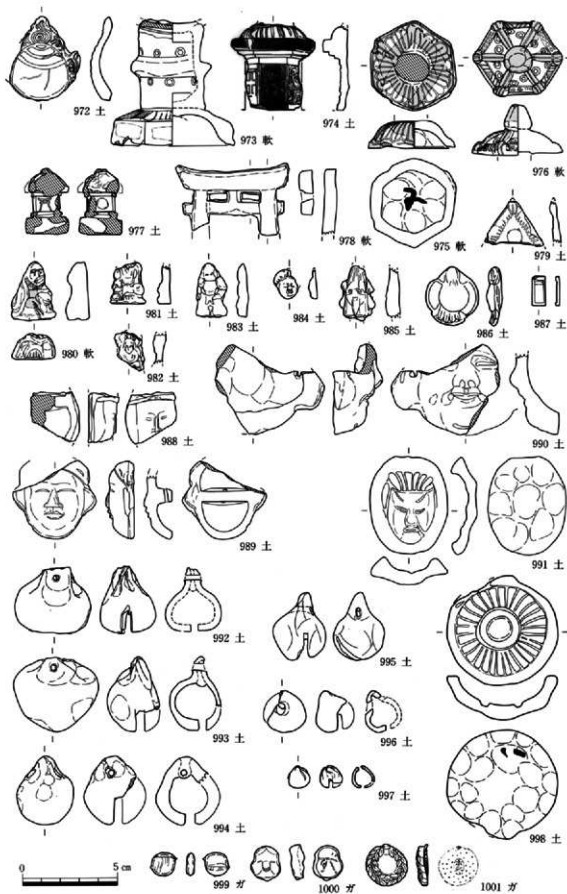
第81図 人形・玩具類実測図(1)



第32圖 人形・玩具類実測圖(2)



第83圖 人形・玩具類実測図(3)



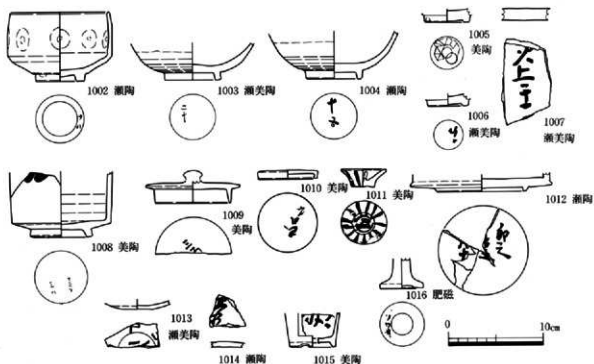
第84図 人形・玩具類実測図(4)

## 第8節 墨書 (第85図1002~1016)

ここでは墨書が施された陶磁器類について報告する。遺構から出土した宿場町期の墨書資料は全部で62点を数える。このうち瀬戸窯産陶器または美濃窯産陶器が全体の約9割を占めており、この他に常滑窯産陶器と肥前窯産陶器等が存在するのみである。墨書される器種は、碗類が11点、皿類が7点、鉢類が20点、瓶類5点等となっており、鉢類が最も多く認められ、この中でもこね鉢が多い。また、墨書される部位は大半が外面底部であるが、鉢類・蓋類等には内面に記されるものも存在する。例外的なものとして、常滑窯産陶器甕は体部外面、常滑窯産陶器井筒は口縁端部に記されるものも見られる。

墨書される記述内容は大きく4類に区分できる。墨書Ⅰ類は数字を記述したものである。稀に末尾に「石」等の単位を記したものも認められる。墨書Ⅱ類はカタカナを記したもので、機能を表現したと考えられるものやこれに数字を組み合わせたもの等が存在する。墨書Ⅲ類は漢字を記したもので、主に人名や屋号と思われる内容が記載されている。常滑窯産陶器甕に記された「宿」は「清洲宿」を表現したものと考えられる。墨書Ⅳ類は記号または幾何学的な文様を記載したもので、意味が不明なものが多い。この類は碗・蓋等の供膳具に多く見られるようである。

また、墨書とは異なるが、ガラス継ぎ(焼継)が施された製品の一部には、その材料で文字を記載する場合が多く認められる。記入されるのは瀬戸・関西系・肥前等の各窯産磁器に限定され、器種は碗類・皿類の供膳具のみである。記載部位は底部外面のみで、内容は仮名と数字の組み合わせが大半を占めている。文字の色調は、ほぼ透明なものも赤色になるものの2者が認められる。(鈴木正貴)



第85図 墨書陶磁器実測図

第6表 遺構出土墨書・ガラス継ぎ文字一覧表

図版番号	調査区	遺構番号	産地	材質	器種	位置	層位	種類	記述内容
171	89B	SK6735	瀬戸	陶器	平手	竈	底	墨書	「十四」
178	89B	SK6735	瀬戸	陶器	平手	竈	底	墨書	「×」
247	89B	SK6735	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「九」
265	89B	SK6735	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
278	89B	SK6735	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
292	89B	SK6735	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
630	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
780	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
781	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
782	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
783	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
784	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
785	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
786	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
787	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
788	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
789	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
790	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
791	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
792	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
793	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
794	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
795	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
796	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
797	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
798	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
799	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
800	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
801	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
802	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
803	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
804	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
805	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
806	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
807	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
808	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1002	61A	SX4015	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1003	61A	SX4015	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1004	61A	SX4015	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1005	63C	SD6001	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1006	63C	SX4009	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1007	91B	SK7016	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1008	61D	SD7005	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1009	62C	SE4044	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1010	61A	SE4097	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1011	61A	SX4015	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1012	62C	SE4040	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1013	89E	SD6078	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1014	89E	SK6659	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1015	89E	SD6078	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
1016	89B	SK6710	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	61A	SK4116	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	63C	SD4041	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	89B	SD6068	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	89B	SD6092	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	89B	SK6710	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	89B		瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	89E	SD6078	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	89E	SX6010	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	92C	SK4477	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	93A	SE4007	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
375	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
382	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
393	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
419	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
465	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
541	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	61A	SX4015	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	61B	SK6691	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」
	63C	SE4069	瀬戸	陶器	小	竈	底	墨書	「口」

## 第9節 井戸側出土資料

この節では、井戸側を構成する遺物を一括して取り上げる。前章第6節で分類した通り井戸側の材料として結桶・瓦・漆喰・常滑窯産陶器が存在する。

### A 結桶（『清洲城下町遺跡Ⅳ』資料編表22を参照）

現在残存する宿場町期に属する井戸に用いられた結桶は13基18点が存在する。全て宿場町期Ⅱ期に属し、最大径は60cm～95cm、器高は70cm～157cmに分布する。内面と外面に銅による切断痕が残存するもの（SE4026・SE4027・SE4028・SE4073・SE4076・SE4077の各井戸側）が大半を占め、精良な板材を割製法のみで製板された確実な結桶は認められない。側面は台カンナで調整され、格子状の傷や穴が開けられたものも見られる。

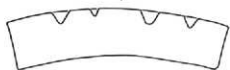
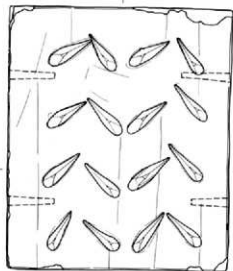
### B 瓦（第86・87図1017～1023）

宿場町期の瓦積井戸はSE4021・SE4030等が存在する。これらは厚手平瓦状の瓦を8枚用いて円筒を作り、これを漆喰で接続しながら積み重ねている。井戸側用瓦は側面に接合のための長方形の穴が上下2ヶ所に設けられている。井戸側用瓦は3類に分類できる。Ⅰ類は凸面に巨大な刺突紋が4列16個施されるもの（1017・1018）、Ⅱ類は凸面に巨大な刺突紋が4列12個施されるもの（1021～1023）、Ⅲ類は凸面に刺突紋が存在しないもの（1019・1020）である。Ⅰ類は厚さが約5.0cmと厚く、Ⅱ類とⅢ類は厚さが約3.0cmと薄いものである。

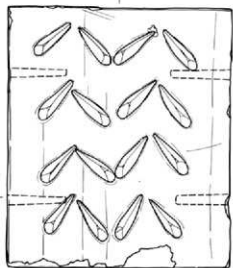
### C 常滑窯産陶器（第87図1024）

陶製井戸に用いられる井戸側は、常滑窯産陶器の赤物製品の井筒である。この製品は井戸専用に焼成されたもので、円筒状の形態をなしている。SE4016から出土した井筒は胴部が丸みを持ち、口縁部がY字形となっているものである。SE6078から出土した井筒（1024）は胴部が直線的に垂直に立ち上がり、口縁部はT字形となっているものである。体部の外面には墨書が記されている。

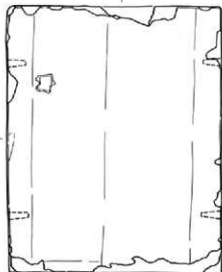
（鈴木正貴）



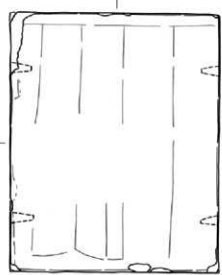
1017 瓦



1018 瓦



1019 瓦

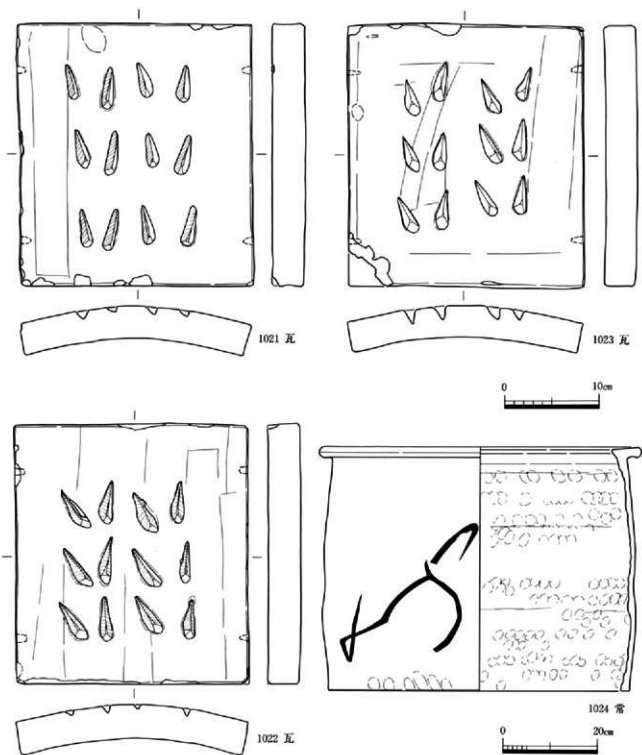


1020 瓦



第86図 井戸側実測図(1)





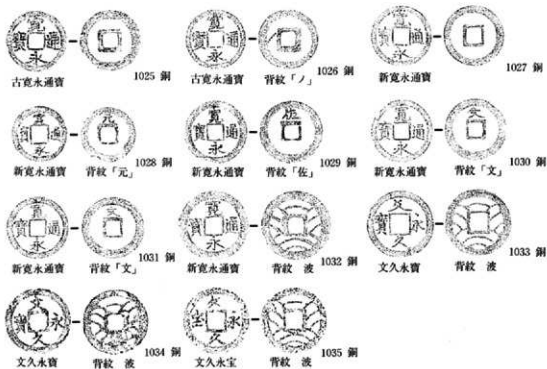
第87図 井戸側実測図(2) (1024はS=1:8)

## 第10節 金属製品 (第88図1025～1035)

宿場町期の金属製品は多岐に互る製品が存在すると思われるが、宿場町期の遺構から出土したものの以外の製品については時期が特定できない側面があり、宿場町期の金属製品の抽出は困難を伴う。ここでは、個別の遺構出土資料では十分に紹介できなかった銭貨に関してのみ取り上げて報告することにした。

宿場町期の銭貨は総数111枚出土しており、銭種は寛永通宝 (1025～1032) 105枚と文久永宝 (1033～1035) 6枚が認められる。寛永通宝は一般的に古寛永通宝 (1025・1026) と文銭 (1030・1031) と新寛永通宝 (1027等) に区分でき、それぞれ26枚、11枚、68枚出土している。新寛永通宝は、背紋に波紋を持ついわゆる「波銭」9枚 (1032)、背紋に「元」と記されるもの3枚 (1028)、背紋に「佐」と記されるもの3枚 (1029) 等がある。調査区別に出土量を検討すると61A区・62C区・89E区・61D区で多く出土しているが、特定の傾向は看取できなかった。

(鈴木正貴)



第88図 金属製品 (銭貨) 拓影図 (5×2:3)

## 第Ⅷ章 自然科学分析

## 第1節 清須城下町出土漆器資料の製作技法

### A はじめに

清洲城下町遺跡(朝日西遺跡を含む)からは、城下町期(1478年～1613年)と宿場町期(1613年～1891年)の遺構・遺物が多数検出されており、その中には多数の漆器資料も含まれている。本節では本遺跡から出土した漆器の製作技法について、自然科学的手法を用いた調査を行ったので、その結果を報告する。

### B 調査の方法

一般に漆器の製作は、原木から木地をつくり挽き物・板物の形態にする木胎製作の工程と、その木胎に下地及び漆を塗布し、裝飾、研磨作業を行う漆工の工程から成り立っている。このような漆器資料の製作技法を調査することは、個々の資料の性格を正確に把握する上で有効な方法であり、それらが出土した遺構・遺跡の性格を考える上でも意味があろう。本稿では、漆器資料の製作技法に関する調査として、まず形態、塗り表面の状況を表面観察した後、①用材選択、②木取り方法、③漆膜面の塗り構造、④色漆の使用顔料等の項目別に自然科学的な手法を用いた分析を行った。以下に、項目別に調査方法を記す。

#### ① 用材選択(樹種鑑定)

樹種の同定作業は、出土木材の内部形態の特徴を顕微鏡で観察し、その結果を新材と比較することでなされる。試料は、遺物本体をできるだけ損傷しないように破切面等オリジナルでない面から木口・柀目・板目の三方向の切片をカミソリの刃を用いて作成した。切片は常法に従い脱水し、鏡筒プレバートに仕上げた。

#### ② 木取り方法

挽き物類である漆器資料の木取り方法の調査は、樹種鑑定用の切片作成時に同時に行った。

#### ③ 漆膜面の塗り構造

まず、肉眼で漆器資料の漆塗表面の状態を観察した後、簡易顕微鏡を用いて細部の観察を行った。次に漆器資料の表面洗浄作業の際に出た1mm×3mm程度の漆剥落片を採取し合成樹脂(エポキシ系樹脂/アラルグイトGY1251 JP、ハードナーHY837)を包埋させた後、断面を研磨し、漆膜の厚さ・塗り重ね構造・顔料粒子の大きさ・下地の状態について顕微鏡観察を行った。

#### ④ 色漆の使用顔料の定性分析

色漆に用いられた顔料の無機物に関する定性分析には、先の漆膜剥落片をカーボン台に取り付け、日立製作所S-415型の走査電子顕微鏡に堀場製作所EMAX-2000エネルギー分散型X線分析装置(X線マイクロアナライザー)を連動させてそれを用いた。分析設定時間は500SEC、分析ポイントは30倍スポット照射。なお、分析チャートの補正には、Geochemical Journal vol.P175-192(1974)「1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference sample JG-1 grandiorite and JB-1 basalt」Atusi Ando and othersのJG-1、JB-1サンプルを用いた。

## C 調査結果

今回、調査を行った漆器資料は合計770点である。これらについて、前項で項目別に記した方法を用いて調査を行った。その結果を第8表に示す。

まず、挽き物類である本漆器資料の形態をみてみると、椀・蓋・皿形を中心としており、それぞれ当時の基本的な飲食器類である飯椀・汁椀・茶椀等に対応するものと考えられる<sup>11)</sup>。また、板物類は箱物・曲物の部材破片を中心としており、いずれも日常生活什器である各種調度品類に対応するものであろう。

## ① 用材選択 (樹種鑑定)

個々の資料の材の利用 (用材選択) の状況をみてみると、挽き物類では広葉樹のブナ・クリ・コナラ (もしくはクスギ) ・その他シイノキ等のブナ科・トチノキ・カツラ・カエデ属・ケヤキ等のニレ科・ミズメ (もしくはアサダ) ・ハンノキ・その他のカバノキ科・サクラ亞属等のバラ科・シオジ等のモクセイ科・ミズキ・ホオノキ材等が、板物類では針葉樹のヒノキ・スギ・アスナロ材等が、その他の器種ではタケ・イスノキ材等が確認され、合計で22種を数える。

末沢 (1975) の研究によると、近世以降のろくろ挽き物である漆器類の用材には、早晚材の組織差が少ない広葉樹の散孔材、もしくは環孔材ではあるが韌性がある材を適材であるとしている (第7表)。また、板物である漆器類の用材には、アテ (アスナロ) ・ヒノキを最良材とし、ネズコ・サワラ・ヒバ・スギ・モミ・マツ等の針葉樹を適材であるとしている<sup>12)</sup>。この点を考慮に入れて、本漆器資料の用材選択の傾向をみてみると、挽き物類・板物類ともに最良材であるケヤキ等ニレ科の材・ヒノキ材などと、かたや加工や入手の容易さという大量生産の点からみて、廉価で一般性が高いとされるトチノキ材・ブナ材・スギ材などの2種類のグループに分かれた。

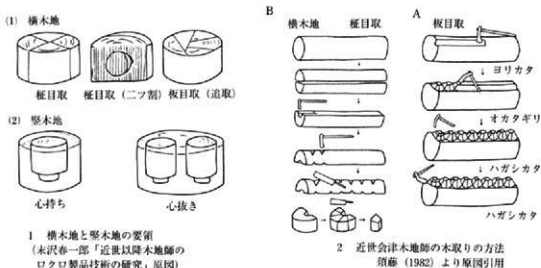
## ② 木取り方法 (第89図)

挽き物類である漆器資料の木取り方法は、いずれも横木地が中心であり、板目取りと徑目取りの2種類が見い出された。中・近世の挽き物類である漆器椀の木取り方法の多くは材の割れ、狂いを考慮に入れて、木芯を外した横木地を用いる例が大半であり、本漆器資料の木胎製作の工程もその範囲に入るものである。すなわち、それぞれの材の性質を考慮に入れたものであった可能性が理解される<sup>13)</sup>。

A 環孔材	a. ケヤキ系 ニレ、ケヤキ、シオジ、ハリギリ、クリ、ヤマグワなど	木目が明瞭に表れる。堅硬であるが韌性もあり、木皿など薄手の物に適する。
B 散孔材	b. サクラ、カエデ系 イタヤカエデその他のカエデ類、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、ミズメなど	白木で美しい光沢があり、白木地物にも適している。割れ狂いが少なく、やや堅さはあるが加工は容易。下地が少量で足りるので、塗り物にもっとも適する。
	c. ブナ、トチノキ系 トチノキ、ブナ、ミズキ、カツラ、ホオノキなど	軟らかくて加工は容易であるが、乾燥が難しく狂いも多い。しかし、大量に入手できるので使用量は大きい。
	d. エゴノキ系 エゴノキ、アオハダなど	白く軟かく加工が容易である。仕上げは見た目によく、彩色もし易いので、玩具、小物等に向いている。とくにエゴノキは大材を得られないが、入手が容易であり、割れにくいので使用に適する。

橋本鉄男 (1979) 「ろくろ、もの」と人間の文化史3」などを参考にして作成

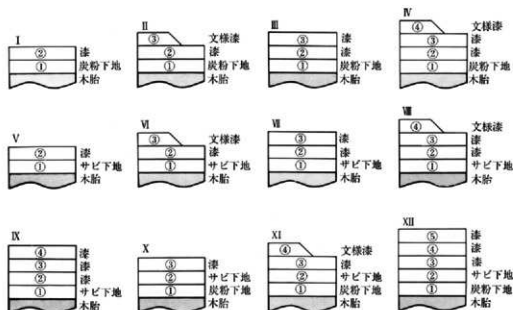
第7表 ろくろ挽き物の用材分類一覧表



第89図 近世以降の漆器（挽き物類）の木取り方法

③ 漆膜面の塗り構造

個々の漆器表面の漆塗り技法をみてる。塗りは地と文様からなり、本漆器資料の場合、無文様で地塗りのみの資料と家紋等の漆絵文様を地外面に描く資料に分かれた。漆塗り面の構造、特に各漆器資料の堅牢性を知る目安となる木胎と漆塗り層との間の下地層を定性分析してみると、無機物を含んでいないためピークがほとんど見出されない資料と、Al (アルミニウム)・Si (シリカ)・K (カリウム)・Ca (カルシウム)・Fe (鉄) 等粘土鉱物もしくは珪藻土の構成要素に近いピークが認められる資料に分けられた (第91図)。さらにこれらを顕微鏡観察することにより、前者を炭粉を柿渋やにかわ等に混ぜて用いる炭粉下地 (代用下地)、後者を細かい粘土もしくは珪藻土を生漆等に混ぜ



第90図 漆塗り構造の分類

て用いるサビ下地（堅下地もしくは本下地ともいう）と理解した。また、地の塗り層は、いずれも1層塗りから3～4層塗りまで見出しされ、口縁部分や高台縁部分に布着せ補強を施したり、9層塗り（No490）等の多層塗り構造を持つ資料もいくつか存在する。なお、本漆器資料の加飾はいずれも地の上塗り層の上に描かれていた。

このような近世漆器の製作技法のあり方を示す民俗事例の1つに、新潟県糸魚川市大所町のナカシマ家小椋丈助氏による実用に即した近世木地師、漆器碗の製作技法に関する口承資料がある<sup>14)</sup>。それによると以下のように各漆器ランク別の工程をよく示している。

〈上品〉 布着せ補強（碗の欠け易い縁や糸じりに麻布を巻く）→サビ下地（砥の粉を生漆に混ぜたサビを二回塗布）→下塗り（生漆）→上塗り（生漆に赤色系顔料もしくは黒色系顔料を混ぜた赤色系漆もしくは黒色系漆）の工程をふみ、人一代は持つ堅牢なもの。

〈下品〉 炭粉下地（柳や松濃を柿渋に混ぜて用いるサビ下地の代用下地）→上塗り（生漆の使用量を節約するために偽漆である不純物を多く混入して用いる粗悪な漆）。

〈中品〉 下品とほぼ同様の工程をふむが上塗りの漆を濃く塗布したり、ミガキを丁寧にしたりする。下品よりかなり持ちが良い。

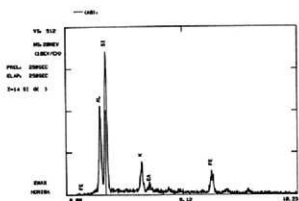
この事例を参考にして、本漆器資料の塗り構造をみると、きわめて簡素で一般的な日用漆器の塗り構造を持つ資料から、やや堅牢で複雑な多層塗り構造を持つ優品資料まで、いくつかのランクに分類されることがわかった（第90図）。

#### ④ 色漆の使用顔料の定性分析

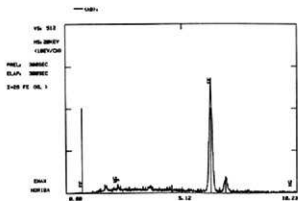
色漆の性質についてみる。赤色系漆の使用顔料の定性分析結果では、Fe（鉄）のピークが強く認められる資料（第92図）、Hg（水銀）およびS（硫黄）のピークが強く認められる資料（第93図）、その両者が強く認められる資料（第94図）の3種類に分けられた。これらをさらに顕微鏡観察することで、それぞれベンガラ（酸化第二鉄 $Fe_2O_3$ ）、朱（辰砂もしくは水銀朱 $HgS$ ）、ベンガラ+朱の異なる赤色系顔料を用いた赤色系漆であると理解した。ベンガラ・朱ともに赤色系顔料としての歴史は古いが、近世以降の漆器資料の顔料としては、江戸中期以降幕府の統制物資となる朱に比較して、ベンガラの方が廉価で一般的であったようである<sup>15)</sup>。しかし、本漆器資料の場合、朱を使用する事例がきわめて多く、その様相が大きく異なることが理解された。

次に金粉状装飾（金彩）・銀粉状装飾（銀彩）の定性分析結果では、Au（金）・Ag（銀）のピークが認められる資料（第95図・第97図）の他、Sn（スズ）やAs+S（石黄、硫化砒素）のピークが強く認められる資料が確認された（第96図・第98図）。この結果は、本漆器資料の金粉状装飾（金彩）・銀粉状装飾（銀彩）として、金粉・銀粉自体を使用する例とともに、石黄粉や錫粉等の代用金粉を使用する例の存在を示すものと理解され、個々の漆器資料の性格を考える上で一つの指標となろう。

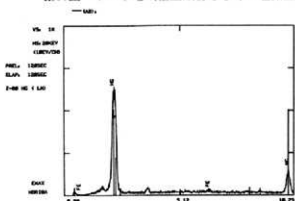
いずれにしても、本漆器資料を製作技法の面からみると、簡素で量産型のつくりで極めて実用に即した日常什器から堅牢で複雑な漆工技法を有する優品に至るまで、いくつかのランク別のグループに分類され、その前者が占める割合が高いようである<sup>16)</sup>。さらに各年代別（時期別）にこれらの品質組成の傾向をまとめてみると、それぞれ若干の差異が認められた（第99図）。（北野信彦）



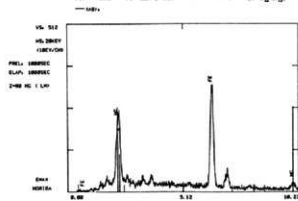
第91図 サビ下地 (粘土鉱物もしくは珪藻土)



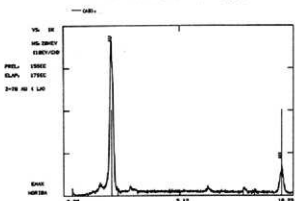
第92図 赤色系漆 ベンガラ ( $Fe_2O_3$ )



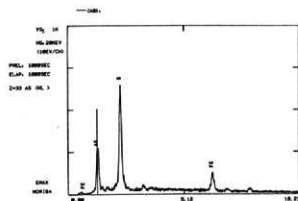
第93図 赤色系漆 朱 ( $HgS$ )



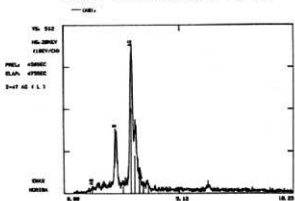
第94図 赤色系漆 朱+ベンガラ ( $HgS+Fe$ )



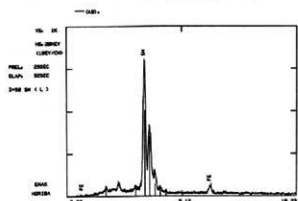
第95図 金粉状装飾 (金彩) 金 ( $Au$ )



第96図 石黄 (硫化ヒ素As+S)



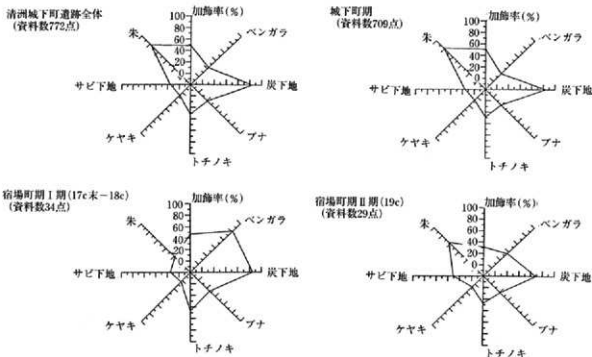
第97図 銀粉状装飾 (金彩) 銀 ( $Ag$ )



第98図 金粉状装飾 (金彩) 錫 ( $Sn$ )

X線分析結果





第99図 年代別出土漆器資料の品質組成の傾向(集計例)

註 (1) 一覧表に記載した木胎漆器碗および皿の器種分類は以下のとおりである。基本的には、鈴木正貴(1992)「清洲城下町から出土した漆器について」『朝日西遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集で用いた分類を参考にして一部を改変した。(鈴木正貴補筆)

碗A——口縁部が直線的または内彎し、高い高台を持つ碗。

碗B——口縁部が直線的または内彎し、低い高台を持つ碗。

碗C——法量が小さい小碗。

碗D——口縁部が外反し、高い高台を持つ碗。

碗E——腰部に絞線を持つ碗。

皿A——口縁部が内彎する皿。

皿B——口縁部が外反する皿。

- (2) 末沢春一朗(1975)「近世以降木地師のロクロ製品製作技法の研究」『京都大学農学部林学科卒業論文』、橋本鉄男(1979)『ろくろ ものと人間の文化史31』法政大学出版局。
- (3) 須藤謙(1982)『日本人の生活と文化⑤暮らしの中の木器』日本観光文化研究所編 ぎょうせい。
- (4) 文化庁文化財保護部編(1974)『木地師の習俗 民俗資料選集2』国土地理協会。
- (5) 輪島市教育委員会(1973)『輪島市史 第六巻 資料編』。
- (6) 北野信彦(1990)「近世尾張における生活什器として出土漆器資料」『愛知大学総合郷土研究所 紀要35巻』愛知大学、北野信彦(1992)「近世武家社会における生活什器として漆器資料」『愛知大学総合郷土研究所 紀要38巻』愛知大学。

第8表 漆器一覧表

## 凡例

- 「報告書」は本センター刊行の報告書名の略称を示した。
- 「時期」は『清洲城下町遺跡Ⅳ』・『清洲城下町遺跡Ⅴ』に示された区分に統一した。
- 「木取り」は横木地板目取りをA、横木地柵目取りをBとした。
- 「表面」は表面塗り技法を内（内面）・外（外面）・文様の項目に分けて、色を表示した。
- 「顔料」は使用顔料の定性分析結果を内・外・文様の項目に分けて記載した。
- 「構造」は漆膜面の塗り構造を、第90図の分類に従って内・外の項目に分けて記載した。
- 高台内・口縁部の塗り技法は備考に一括した。
- 膜面のみ遺存したもの、容器ではないもの等の内外面の区分が困難なものは、全て「外」に記載した。

器名	報告書	調査期	発掘層	位置	形状	材質	木取	表面	顔料	構造	高台内	口縁部	備考
1	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	フナ	B	赤	黒	赤	赤	赤	
2	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	フナ	B	赤	黒	赤	赤	赤	
3	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	B	赤	黒	赤	赤	赤	
4	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	B	赤	黒	赤	赤	赤	
5	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
6	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
7	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	B	赤	黒	赤	赤	赤	
8	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
9	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
10	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	B	赤	黒	赤	赤	赤	
11	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
12	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
13	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
14	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	B	赤	黒	赤	赤	赤	
15	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
16	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
17	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
18	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
19	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
20	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
21	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
22	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
23	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
24	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
25	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
26	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
27	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
28	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
29	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
30	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
31	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
32	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
33	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
34	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
35	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
36	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
37	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
38	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
39	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
40	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
41	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
42	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	
43	清洲Ⅰ	007	S2018	堀上(1~8)	椀	式部輪切目	A	赤	黒	赤	赤	赤	

















番号	発掘層	地層	発掘層番号	地層	建物	用途	形状	基壇	柱石(内)	柱石(外)	基壇(内)	基壇(外)	壁(内)	壁(外)	敷石(内)	敷石(外)	備考
160	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀	137.7	A	瓦	瓦								
161	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀	7.7											1 1
162	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀	7.7								V字			1 1
163	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀									V字			1
164	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀	1.4								瓦葺			溝渚0A、瓦葺
165	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀	1.4	A	瓦	瓦					V字	V字		1+1
166	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀	1.4	A	瓦	瓦					瓦			1 1
167	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀	7.7	B	瓦	瓦					V字			1 1
168	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀	9.9+7	A	瓦	瓦					瓦			V 堀
169	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
170	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀									V字	V字		1 1+V
171	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀									V字	V字		1 1+V
172	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
173	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
174	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
175	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
176	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
177	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
178	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
179	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
180	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
181	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
182	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
183	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
184	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
185	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
186	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
187	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
188	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
189	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
190	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
191	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
192	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
193	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
194	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
195	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
196	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
197	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
198	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
199	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀
199	溝渚V	03	23300	瓦葺	堀												V 堀



## 第2節 近世土師質人形の蛍光X線分析

### A はじめに

全国各地に残されていた窯跡出土須恵器を大量に採集して分析した結果、K、Ca、Rb、Srの4因子がとくに有効に地域差を表示することが明らかになった。現在、これら4因子は母岩の長石類に由来したものと考えられている。その他、ソーダ長石に由来したとみられるNaや雲母、角閃石、輝石などの鉄化合物から由来したとみられるFeも地域差を表示する場合がある。地域差を示す元素をまとめて化学特性という。土器のもつ化学特性は余程大量の添加物でもない限り、素材として使用した粘土の化学特性である。そして、粘土の化学特性は母岩を構成する鉱物（化合物）の種類に支配される。このように、窯跡出土須恵器にみられる地域差は人為的なものではなく、地質的なものである。そうすると、上記の元素は土師器や弥生土器などのような須恵器以外の土器の胎土の化学特性をも表示するはずである。現在、これらの土器胎土の化学特性に関する基礎データもこつこつと集積されつつある状況である。

これまでのデータをみる限り、古代・中世では粘土を運んだ例はない。素材となる粘土を求めて窯を設定し、運搬したのは製品の土器であった。しかし、運搬手段が発達している現代では陶器製品のみならず、粘土をも運搬することは周知の事実である。近世ではどうであろうか。もし、遠方から粘土を搬入していると、同一の産地で作られた製品を分析しても、まとまりのないデータが得られることになり、供給先の遺跡から出土した土器は分類が不可能なくらい複雑な胎土をもつはずである。このことを確かめるには、実際に、近世の土器片を分析してみなければわからない。

本節では、清洲城下町遺跡や名古屋城三の丸遺跡等から出土した近世土師質人形<sup>1)</sup>の蛍光X線分析の結果について報告する。なお、分析した試料の内容は第9表の通りである。

### B 分析方法

須恵器の場合と同様、土師質人形の表面を研磨して軸などの付着物を除去したのち、100メッシュ以下に粉砕された粉末試料をプレスして固め、内径20mm、厚さ5mmのコイン状の錠剤試料を作成して蛍光X線分析を行った。

蛍光X線分析には波長分散型の分析装置（理学電機製3270型機）を使用した。この装置には同時に48個の試料が装填できる自動試料交換機が連続されている。通常、48試料のうちの1個は必ず、岩石標準試料JG-1である。JG-1は定量分析のための標準試料であるとともに、自動分析が定常状態で進行したことを確認するためのモニターとしての役割をもっている。

データ解析には本来、多変量解析法を使用するのであるが、本報告ではわかり易く説明するため、K-Ca分布図とRb-Sr分布図を使用することにした。

### C 分析結果

分析値は第10表に提示した。全分析値は同時に測定された標準試料JG-1の各元素の蛍光X線強度を使って標準化された値で表示されている。

第100図は清洲城下町遺跡出土人形のK-Ca分布図である。No.9、21、22、23、24、26の6点を除いて他の試料はよくまとまって分布していることがわかる。また、第101図にはRb-Sr分布図を描いたが、ここでも、No.9、21、22、23、24、26の6点は集団から大きくずれている。第101図ではNo.5も大きくずれている。そこで、まとまって分布した試料をA群として一括し、これらを包含するようにしてA群領域を描いた。A群領域は定性的にしか領界を表わさないが、類似性を比較する場合には、十分対照領域として使用できる。A群に分類された試料はK、Ca、Rb、Srの4因子からみて、類似した胎土をもっていると判断される。これらはFe、Na因子でも類似していることは第10表からもわかる。

第102図と第103図には、それぞれ名古屋城三の丸遺跡出土人形のK-Ca分布図とRb-Sr分布図を示した。第102図には第100図で描いたA群領域を、第103図には第101図で描いたA群領域をそれぞれ描くと、名古屋城三の丸遺跡出土の人形の大部分もA群領域に分布することがわかる。しかも、第10表よりFe、Na因子でも類似していることがわかる。従って、これらの清洲城下町遺跡および名古屋城三の丸遺跡出土の人形は同じ素材粘土で作られていたわけであり、もし、粘土を運搬していないと仮定すると、同じ産地で作られた人形であると考えられる。なお、名古屋城三の丸遺跡出土の人形でA群に分類されなかったのはNo.28、32、33、34、35、38、41、45、48、55、59の11点である。

次に、これら未分類の試料の中に類似した胎土をもつものがないかどうかを第101～103図から探してみた。そうすると、近接して分布するNo.21、28、41の3点はFe、Na因子でも類似しており、これら3点をB群として分類することにした。

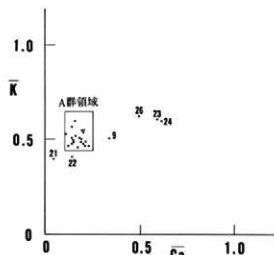
以上の分類結果は、第10表の中央に示されている。清洲城下町遺跡と名古屋城三の丸遺跡出土の人形の胎土はA群が43点、B群が3点、未分類試料が15点で、意外にまとまっていることがわかった。このことはA群の人形については1ヶ所で製作しており、製品を清洲城下町遺跡や名古屋城三の丸遺跡へ供給したことを示唆している。1ヶ所と考えられる人形産地は窯跡出土須恵器の分布位置と比較すると、三河側ではあり得ない。尾張あるいは知多半島を考えなければならないだろう。

また、「型作り」、「手捻り」等の人形成形技法と胎土との間には特に関係がなく、また「犬」とか「鳥」とかの人形の形態<sup>⑧</sup>と胎土の間にも関係がないことが判明した。しかし、鈴に関しては形態と胎土との間に一定の関係があり、鈴C・Dタイプ<sup>⑨</sup>はA群に、鈴AタイプはB群に分類され、さらに鈴B・Eタイプは未分類の胎土であった。

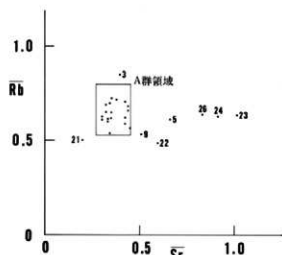
B群の胎土には第10表からみてわかるように、Na量が少ない点が注目される。B群の人形の産地はA群とは別場所であり、尾張地域内か、美濃地域の可能性もある。

未分類試料の中にはNo.34のように、他の試料に比べてFe、Na量が多いものがあり、必ずしもまとまった化学特性をもつ胎土ではない。従って、同一場所で作られた人形であるかどうかはわからない。

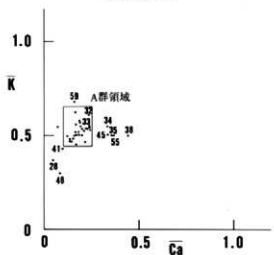
次に、三河地域にある西尾城遺跡、吉田城遺跡、それに、尾張地域にある古渡城遺跡出土人形のK-Ca分布図を第104図に、またRb-Sr分布図を第105図に示す。7点の試料のうち、古渡城遺跡のNo.67は明らかにA群の胎土であるが、他はA群でもB群でもない。このうち、No.62、63は第104・105図のみならず、Fe、Na因子でも類似しており、これをC群とした。同様に、No.65、66も互いに類似し



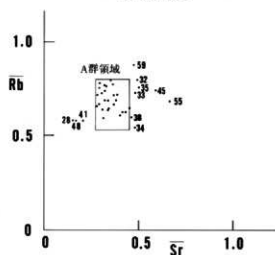
第100図 清洲城下町遺跡出土土人形の K-Ca分布図



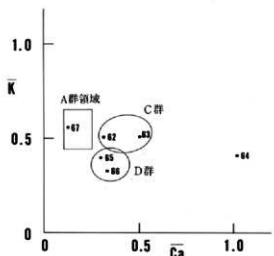
第101図 清洲城下町遺跡出土土人形の Rb-Sr分布図



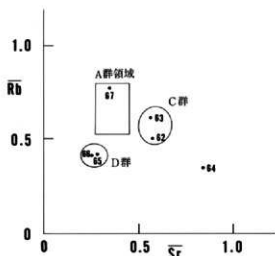
第102図 名古屋城三の丸遺跡出土土人形の K-Ca分布図



第103図 名古屋城三の丸遺跡出土土人形の Rb-Sr分布図



第104図 西尾城遺跡、吉田城遺跡、古渡城遺跡出土土人形の K-Ca分布図



第105図 西尾城遺跡、吉田城遺跡、古渡城遺跡出土土人形の Rb-Sr分布図

た化学特性をもっており、D群とした。No. 64のみは全く異質の胎土である。C、D群はA群領域に比べて、K、Rb量が若干少ないのが特徴であり、須恵器や中世陶器の胎土を参考にすると、三河地域の粘土を素材とした人形と推察される。在地産の人形ということになる。No. 64のみは異質の胎土であり、Ca、Sr量が異常に高い。何かの混入物があったのか、それとも、尾張、三河地域以外の地からの搬入品かのいずれかが考えられる。

近世の土師質人形の胎土はもっとばらつくものと予想していたが、意外によくまとまっており、中世陶器と同様、特定の産地で在地の粘土を使い、人形を製作していたことが伺われる。(三辻利一)

註 (1) 本項では「人形」の名称により、人形、ミニチュア、面、面型、鈴、雛型、泥面子、及び戦国時代の土犬を総称する。

(2) 以下の試料は形態・大きさがほぼ一致しているものである。

「馬(十人)」 No. 15・60 「童子坐像」 No. 19・58

「鷹」 No. 16・45・63 「狛抱き童子」 No. 36・59

(3) 鈴は形態によって便宜的にA～Eの5タイプに分類した。

鈴Aタイプ 紐は方形を呈し、紐孔と直角方向に鈴口が開けられる。

胴に1条の沈線が走る。戦国時代に属する。

鈴Bタイプ 紐は台形を呈し、紐孔と平行方向に鈴口が開けられる。戦国時代に属する。

鈴Cタイプ 紐は角状に振り上げられ、紐孔と直角方向に鈴口が開けられる。

鈴Dタイプ 紐は巾着状にたたみこまれ、紐孔と直角方向に鈴口が開けられる。

体部は横広の球形を呈する。

鈴Eタイプ 紐はたたみこまれた後扁平に指で押圧され、紐孔と直角方向に鈴口が開けられる。

体部は横広の球形を呈する。

(八木佳素実補筆)



第106図 土師器鈴分類図 (S = 1 : 4)

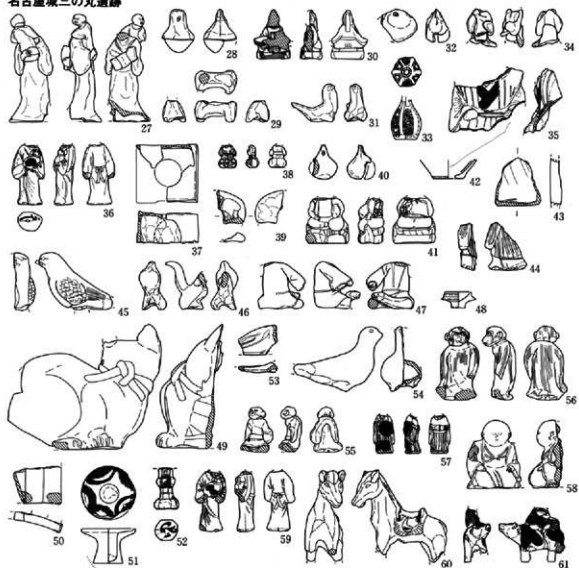


第107図 蛍光X線分析関連遺跡位置図

清洲城下町遺跡

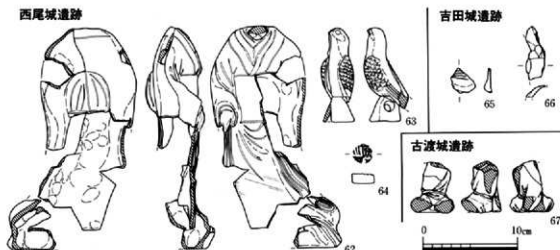


名古屋城三の丸遺跡



第108図 胎土分析試料実測図(1)





第109図 胎土分析試料実測図(2)

## 第9表の凡例

- 「遺構番号」は各報告書記載の遺構番号である。( )内は旧遺構番号である。
  - 「成形法」の「孔」の後の数値は、孔直径×深さ (cm単位) を表す。
  - 法量の単位はcmである。
  - 器物形ミニチュアの法量は、「幅」欄に口径を、「奥行」欄に底径を記載した。
  - 「備考」の「報文」は以下の参考文献の略称、数字は図版番号である。
- 報文1 鈴木正貴編 (1994) 『清洲城下町遺跡Ⅳ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集  
 報文2 鈴木正貴編 (1995) 『清洲城下町遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第54集  
 報文3 梅本博志編 (1990) 『名古屋城三の丸遺跡Ⅰ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集  
 報文4 梅本博志編 (1990) 『名古屋城三の丸遺跡Ⅱ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第16集  
 報文5 金子健一編 (1992) 『名古屋城三の丸遺跡Ⅲ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第37集  
 報文6 遠藤才文編 (1993) 『名古屋城三の丸遺跡Ⅳ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第44集  
 報文7 川井啓介編 (1992) 『吉田城遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第26集  
 報文8 南山大学古渡城発掘調査会 (1993) 『古渡城遺跡』南山大学大学院先史考古学研究报告第1冊
- 「時期」は資料自体の時期ではなく、出土遺構の時期 (主として共存遺物の年代観による) を表す。
  - 「登録番号」は発掘調査毎に付けた遺物の整理番号である。既報告分の未発表資料の登録番号は今回改めて追加した番号である。

## 第10表の凡例

- 「分類」は本文中に記された分類基準を記載した。
  - 「色調」は胎土の色調を表面観察した結果である。鈴木正貴による。
  - 「胎土」・「備考」は胎土の表面内眼観察による結果である。永草康次による。
- 「胎土」は以下の分類を用いた。

- A Mfが比較的多いもの。一般に砂礫が少な目で素地は細かい。  
 A1 Micaがほとんど含まれないもの。  
 A1 Micaを若干量伴うもの。  
 B Btが多いもの。砂礫が多いものが多い。  
 C MfもMicaもほとんど含まないもの。  
 C1 Chを伴うもの。  
 C2 Chを伴わないもの。  
 D その他・不明

「備考」等に用いた略号は以下の通りである。

Mf	有色鉱物 (雲母を除く)	Mv	白雲母
Mica	雲母	Ch	チャート岩片
Bt	黒雲母	VG	火山ガラス

No.	遺構名・調査区	遺構番号	種類	形状	構成法	輪・彩色	高	幅	奥行	備考	時期	登録番号
1	遺跡跡下町 68A	204015	人形	犬	型/前後 中空 布目		規 4.2	規 8.8	規 4.0	規文2-162	160中～後	68A E- 109
2	遺跡跡下町 68A	204015	刀子衝	楕円形	型/半面 裏面付 雲母		3.1	2.0	0.9	規文2-168	160中～後	68A E- 117
3	遺跡跡下町 68A	(出土)	人形	童子	型/前後 裏面付	彩色(透肌・線)	規 3.8	4.2	4.5	規文2-94	—	68A E- 103
4	遺跡跡下町 68A	204014	組立	皿	型/半面 指付		2.3	2.0	5.8	規文2-198	—	68A E- 121
5	遺跡跡下町 68A	(南北目)	駒	耳付	手塗り 顔孔1.1		3.4	3.3	3.2	規文2-180と同形?	—	68A E- 127
6	遺跡跡下町 68B	(出土)	人形	童子	製作中/手塗り 裏面付		規10.6	規7.0	規1.0	規文2-95	—	68A E- 107
7	遺跡跡下町 68B	204011	ミニチュア	建	型/上下	顔孔(透肌)	1.1	2.2	3.4	規文2-256	160中～後	68B E- 193
8	遺跡跡下町 68B	204011	ミニチュア	人形	型/半面 裏面付 顔孔1.3	顔孔(透肌・線)	規 1.9	4.7	5.0	規文2-254	160中～後	68B E- 244
9	遺跡跡下町 68C	(2002)	人物	男+人形	顔の彫り/指付		規 2.7	規 2.6	1.6	規文2-188	近世	68C E- 304
10	遺跡跡下町 68D	(2003)	人形	童子	型/前後 中空 顔孔1.7		規 4.0	規 2.7	2.0	規文2-164	—	68D E- 203
11	遺跡跡下町 68D	203716	組立	人形	型/半面 裏面付		1.4	4.1	5.1	規文2-191	近世	68D E- 304
12	遺跡跡下町 68D	203700	駒	CMP	手塗り 顔孔1.2		3.0	2.7	2.8	規文2-185	近世	68D E- 304
13	遺跡跡下町 68D	203700	駒	D+P	手塗り		規 2.8	規 3.1	3.1	規文2-192と同形	近世	68D E- 306
14	遺跡跡下町 68D	203725	人形	天神	型/半面 裏面付 乳孔	彩色(顔)	4.0	3.0	2.1	規文2-123	160末～160初	68D E- 283
15	遺跡跡下町 68D	203735	人形	男+人形	型/左+手 中空 左乳孔1.3×乳1.0		規 7.7	4.2	6.5	規文2-127	160末～160初	68D E- 297
16	遺跡跡下町 68D	203735	人形	童子	型/左右 中空		規 4.4	規 2.1	1.8	規文2-128と同形	160末～160初	68D E- 295
17	遺跡跡下町 68D	203735	人形	童子	手塗り		4.0	2.2	4.5	規文2-131	160末～160初	68D E- 291
18	遺跡跡下町 68D	203735	人形	童子	手塗り 裏面付		規 6.5	規 4.2	4.2	規文2-132	160末～160初	68D E- 292
19	遺跡跡下町 68E	204018	人形	童子/指付	型/前後 中空 顔孔1.3		規 5.5	規 5.5	4.0	規文2-121	160末～160初	68E E- 151
20	遺跡跡下町 68E	204018	ミニチュア	土器	型/上下	顔孔(透肌・線)	規 1.8	2.0	—	規文2-127	160末～160初	68E E- 157
21	遺跡跡下町 68E	204023	駒	D+P	手塗り 顔孔1.2		規 3.6	3.4	3.3	規文2-118と同形	160中	68E E- 177
22	遺跡跡下町 68E	(2001)	土犬	土犬	手塗り		4.0	2.4	4.2	規文2-146	—	68E E- 15
23	遺跡跡下町 68E	190102	土犬	土犬	手塗り		規 1.2	1.6	2.7	170駒→前	68E E- 51	
24	遺跡跡下町 68E	203700	土犬	土犬	手塗り		規 3.2	規 2.4	規 3.0	規文2-147と同形	160末～160初	68E E- 11
25	遺跡跡下町 68E	204022	土犬	土犬	手塗り		規 2.8	規 2.3	規 4.1	規文2-147と同形?	160初	68E E- 129
26	遺跡跡下町 68E	(南北目)	土犬	土犬	手塗り		規 3.4	規 2.3	規 4.8	—	68E E- 178	
27	名古屋城三の丸 63A	204014	人形	童子	手塗り 裏面付		規11.4	規4.0	規4.2	規文4-190と同形	近世	63A E- 6023
28	名古屋城三の丸 63F	201 01	駒	D+P	手塗り 顔孔1.1		4.8	3.4	3.4	—	160初～160中	63F E- 6055
29	名古屋城三の丸 90	201 07	土犬	土犬	手塗り		規 2.3	規 2.4	規 4.5	規文2-88と同形?	160初	90 E- 1657
30	名古屋城三の丸 90	201 14	人形	天神	型/前後 乳孔	顔孔(透肌・線)	5.1	3.8	2.3	規文2-138と同形?	170初	90 E- 1654
31	名古屋城三の丸 90	201 17	人形	童子	手塗り		4.0	4.0	2.4	規文2-949と同形	160初	90 E- 1650
32	名古屋城三の丸 90	201 17	駒	D+P	手塗り 顔孔1.4		3.5	3.0	2.4	規文2-97と同形	160初	90 E- 1680
33	名古屋城三の丸 90	201 22	ミニチュア	熊	型/前後	顔孔(線)	規 4.6	3.1	—	—	90 E- 1661	
34	名古屋城三の丸 90	201 04	人形	童子	手塗り		規 4.0	規 2.7	2.4	規文2-125と同形	170初～160末	90 E- 1653
35	名古屋城三の丸 90	201 44	人形	獅子	型/前後 中空 右目 左手	彩色(顔)	規 5.8	規 8.0	4.0	—	160初	90 E- 1654
36	名古屋城三の丸 90	201 44	人形	童子/指付	型/前後 中空 顔孔1.2	顔孔(透肌・線)	規 3.5	3.4	2.3	—	160初	90 E- 1662
37	名古屋城三の丸 90	201 44	ミニチュア	熊	型/半面 裏面付 毎日 左手		3.4	6.5	8.2	—	160初	90 E- 1665
38	名古屋城三の丸 90	201 47	人形	大黒	顔の彫り/指付		規 2.4	1.9	1.7	規文2-112と同形?	160初	90 E- 1655
39	名古屋城三の丸 90	201 47	組立	人形	型/半面 裏面付		規 1.0	規 3.0	規 3.5	—	160初	90 E- 1647
40	名古屋城三の丸 90	201 32	駒	CMP	手塗り 顔孔1.2		3.5	規 2.6	規 2.5	規文4-1815と同形	160初	90 E- 1669
41	名古屋城三の丸 90	201 32	人形	狸?P	型/前後 顔孔1.3×乳1.0		規 4.6	4.5	2.7	—	160初	90 E- 1669
42	名古屋城三の丸 90	201 26	ミニチュア	狸?	うくろく		規 2.0	—	規 2.2	—	160初	90 E- 1670
43	名古屋城三の丸 90	201 26	人形	西行	型/前後		規 5.2	規 4.0	規 0.7	規文2-1(部分)	160初	90 E- 1540
44	名古屋城三の丸 90	201 44	人形	西行	型/前後 裏面付	彩色(顔)	規 5.0	規 4.5	規 1.1	規文2-14と同形	160初	90 E- 1671
45	名古屋城三の丸 90	201 44	人形	狸	型/左右 中空 顔孔1.4		規 5.1	規 2.2	規 2.8	規文2-851と同形	160初	90 E- 1672
46	名古屋城三の丸 90	201 44	人形	熊	手塗り		5.1	2.6	規 4.5	規文2-91と同形?部分	160初	90 E- 1673
47	名古屋城三の丸 90	201 87	人形	人物	手塗り		規 4.9	規 5.0	4.0	規文2-1501と同形	160初	90 E- 1674
48	名古屋城三の丸 90	201 87	ミニチュア	湯釜	うくろく		1.7	2.7	1.3	—	160初	90 E- 1675
49	名古屋城三の丸 90	201 43	人形	熊	型/前後 中空 顔孔1.4		規11.2	規18.2	規 7.1	規文2-88と同形?	160初	90 E- 1676
50	名古屋城三の丸 90	201 43	ミニチュア	熊	手塗り	顔孔(透肌)	規 2.3	規 5.1	規 4.0	—	160初	90 E- 1677
51	名古屋城三の丸 90	201 44	ミニチュア	狸?	うくろく		3.7	5.5	2.9	規文4-1558と同形	160初	90 E- 1678
52	名古屋城三の丸 90	201 82	ミニチュア	狸?	型/前後 中空 乳孔 右目	顔孔(透肌・線)	規 4.3	2.4	2.2	—	160初	90 E- 1679
53	名古屋城三の丸 90	201 83	人形	「善悪」	型/前後 中空 右目		規 1.0	規 4.1	規 1.1	規文4-4(部分)	160初	90 E- 1542
54	名古屋城三の丸 90	201 84	人形	鳩	型/左右 中空 顔孔1.4		6.0	規 3.3	規 5.4	規文2-868と同形	160初	90 E- 1680
55	名古屋城三の丸 90	190101	組立	人形	手塗り 右顔孔1.1(顔なし/裏面)		規 4.8	規 2.3	規 2.3	—	近世	90 E- 1681
56	名古屋城三の丸 90	190101	人形	熊	手塗り 型/半面		規 7.8	規 4.9	規 3.5	規文2-138と同形	近世	90 E- 1682
57	名古屋城三の丸 91	203101	人形	西行	顔の彫り/指付 乳孔	顔孔(透肌・線)	規 4.0	2.2	1.7	—	160中	91 E- 6021
58	名古屋城三の丸 91	203101	人形	童子/指付	型/前後 中空		7.2	規 5.4	規 3.5	規文2-31と同形	160中	91 E- 6002
59	名古屋城三の丸 91	203101	人形	童子/指付	型/前後 中空 顔孔1.2	顔孔(透肌・線)	規 8.4	3.3	2.1	—	160中	91 E- 6003
60	名古屋城三の丸 91	203101	人形	馬	型/左右 中空 乳孔	彩色(顔)	規 5.0	4.2	規 16.0	規文2-916と同形	160中	91 E- 6004
61	名古屋城三の丸 91	203101	人形	童子/指付	型/前後 顔孔1.3×乳1.6	顔孔(透肌・線・点)	規 5.8	2.9	規 8.9	規文2-87+4	160中	91 E- 5006
62	西尾城 SHANNI	(伊勢)	人形	「立役」	型/前後 中空 布目	顔孔(透肌・線)	規14.0	規13.5	規 7.2	—	—	—
63	西尾城 SHANNI	(土浦藩)	人形	狸	型/左右 中空 顔孔1.4 右顔孔1.1		9.9	3.4	規 4.6	—	—	—
64	西尾城 SHANNI	(徳川幕府上?)	組立	狸?	型/半面		1.0	2.3	2.3	—	—	—
65	西尾城 藩	190101	人形	獅子	型/前後 中空		規 2.9	規 2.6	規 6.0	規文2-107(部分)	近世	90 E- 327
66	古名城 藩	(土浦藩)	人形	狸?	型/前後 中空		規 5.5	規 2.0	規 1.2	—	近世	90 E- 382
67	古名城	201 15	人形	人物	手塗り		規 5.4	規 4.0	規 4.2	規文2-172	160初	—

第9表 蛍光X線分析試料一覧表

No	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類	色調	粘土	備考
1	0.506	0.137	1.03	0.629	0.303	0.194	A	黄白色	A1	
2	0.477	0.198	1.18	0.726	0.349	0.137	A	橙白色	A1	財少なめ V6含む 表面にはBl・Mv (Bl>Mv)
3	0.547	0.190	0.931	0.849	0.394	0.217	A	黄白色	C2	
4	0.470	0.232	1.26	0.618	0.442	0.167	A	橙白色	A1	砂礫少なめ V6含む 表面にはBl
5	0.537	0.202	1.13	0.610	0.655	0.152	未分類	橙白色	A1	V6やや多く含む (色付ガラスあり)
6	0.484	0.209	1.18	0.662	0.435	0.211	A	黄白色	A1	海抜高い
7	0.534	0.105	1.65	0.619	0.333	0.147	A	淡褐色	B	
8	0.553	0.202	0.978	0.574	0.452	0.168	A	橙白色	A1	砂礫多い
9	0.513	0.335	1.78	0.537	0.510	0.148	未分類	橙白色	A1	財少なめ
10	0.480	0.143	1.34	0.652	0.318	0.183	A	黄白色	A1	表面にはMv
11	0.499	0.145	1.32	0.605	0.332	0.172	A	橙白色	A1	
12	0.601	0.157	1.61	0.593	0.423	0.136	A	橙白色	A1	砂礫多い
13	0.585	0.140	1.65	0.718	0.376	0.126	A	黄白色	A1	やや赤み強い
14	0.488	0.154	1.25	0.700	0.335	0.204	A	黄白色	A1	V6含む
15	0.523	0.159	1.33	0.683	0.322	0.224	A	黄白色	A1	表面には多量のBl
16	0.472	0.207	1.17	0.678	0.436	0.198	A	橙白～黒灰色	A2	表面のBl混入か?
17	0.474	0.127	1.22	0.614	0.382	0.146	A	橙白色	A1	
18	0.509	0.176	1.26	0.705	0.422	0.205	A	黄白色	A1	財少なめ
19	0.491	0.185	1.33	0.651	0.347	0.156	A	淡褐色	A1	表面にはMv V6含む
20	0.486	0.189	1.08	0.621	0.347	0.189	A	黄白色	A1	財少なめ
21	0.462	0.044	1.58	0.583	0.196	0.044	B	橙白色	A1	砂礫多い割に財少くCh混入? C1?
22	0.411	0.140	1.58	0.462	0.580	0.116	未分類	黄白色	A1	
23	0.611	0.592	1.82	0.637	1.010	0.488	未分類	黄褐色	B	Mica (Bl) 少なめ
24	0.604	0.512	1.64	0.627	0.908	0.450	未分類	黄褐色	A2	砂礫や多量 Ch含む
25	0.464	0.170	1.40	0.542	0.340	0.153	A	橙白色	A1	
26	0.626	0.490	1.96	0.638	0.827	0.423	未分類	茶褐色	B	Bl大きい Ch含む
27	0.496	0.122	1.45	0.661	0.275	0.135	A	黄白色	A1	
28	0.372	0.048	1.36	0.578	0.152	0.034	B	淡褐色	C1	砂礫多い
29	0.474	0.136	1.37	0.744	0.320	0.136	A	淡褐～黒灰色	A1	財少なめ
30	0.562	0.168	1.22	0.630	0.412	0.173	A	黄白色	A2	やや海抜高い
31	0.505	0.171	1.19	0.729	0.301	0.134	A	橙白色	A2	表面のBl混入か?
32	0.608	0.231	1.34	0.787	0.487	0.146	未分類	橙白色	A2	表面のBl混入か? V6含む
33	0.568	0.190	1.19	0.731	0.477	0.182	未分類	橙白色	A2	
34	0.548	0.320	2.70	0.545	0.478	0.302	未分類	褐色	A1	黒地やや多い
35	0.501	0.348	1.58	0.758	0.499	0.159	未分類	茶褐色	A2	表面には多量のMv
36	0.481	0.136	0.899	0.689	0.383	0.142	A	黄白色	A1	
37	0.536	0.232	1.07	0.779	0.359	0.159	A	黄白色	A1	
38	0.498	0.444	2.94	0.596	0.463	0.196	未分類	褐色	B	砂礫多くBl大きい 表面にはMv やや茶色み
39	0.541	0.233	0.875	0.719	0.367	0.183	A	黄白色	A1	V6含む
40	0.521	0.182	1.65	0.723	0.384	0.147	A	黄白色	A1	財少なめ
41	0.431	0.097	1.04	0.580	0.205	0.052	B	淡褐～黄白色	C1	砂礫多い 表面褐色で断面白
42	0.577	0.190	2.36	0.607	0.402	0.130	A	褐色	B	
43	0.527	0.244	1.60	0.716	0.280	0.127	A	褐色	B	Mica (Bl少なめ)
44	0.489	0.155	1.52	0.643	0.309	0.153	A	黄白色	B	砂礫少なく不明 表面には多量のMv
45	0.505	0.333	1.47	0.744	0.586	0.146	未分類	橙白～灰白色	A1	裏面にはMv (裏面にもあり)
46	0.508	0.179	1.19	0.670	0.369	0.198	A	橙白～灰白色	C2	V6含む
47	0.534	0.111	1.02	0.796	0.347	0.083	A	橙白色	A2	Mf, Mica (Bl・Mv) とともに少なめ
48	0.285	0.084	1.81	0.476	0.168	0.026	未分類	褐色	B	Bl多い (Mvも含む)
49	0.466	0.151	1.28	0.692	0.317	0.148	A	黄白～橙白色	A1	財少なめ 表面には多量のBl
50	0.448	0.185	1.31	0.585	0.309	0.168	A	淡褐色	C2	V6多い 茶地黒っぽい
51	0.554	0.066	0.832	0.758	0.289	0.080	A	白色	A1	
52	0.551	0.237	0.957	0.647	0.343	0.189	A	橙白色	A1	
53	0.550	0.191	1.53	0.784	0.294	0.190	A	淡褐色	B	砂礫多いがMica (Bl) 少ない V6含む
54	0.516	0.168	1.19	0.766	0.321	0.151	A	黄白色	A1	表面には多量のMv
55	0.495	0.364	1.81	0.685	0.663	0.138	未分類	橙白色	A1	やや赤み強い
56	0.471	0.140	1.39	0.666	0.294	0.138	A	黄白色	A1	砂礫少なめ
57	0.628	0.157	1.35	0.770	0.325	0.073	A	黄白色	A1	V6含む
58	0.473	0.215	1.11	0.653	0.453	0.202	A	黄白色	A1	やや砂礫多い 表面にはBl
59	0.677	0.156	1.11	0.881	0.471	0.141	未分類	橙白色	A1	
60	0.502	0.196	1.29	0.687	0.342	0.193	A	黄白色	A1	表面には多量のBl
61	0.540	0.197	1.21	0.628	0.433	0.148	A	黄白色	D	砂礫少く不明
62	0.508	0.379	2.19	0.511	0.574	0.268	C	淡褐色	B	Bl>Mv
63	0.509	0.496	1.37	0.616	0.563	0.150	C	橙白～黒灰色	A2	Blは少なめ
64	0.410	1.020	3.52	0.349	0.642	0.441	未分類	褐色	D	Bl, Mfを含むが黒色薄片(?) を多くともう
65	0.402	0.298	2.29	0.427	0.277	0.081	D	褐色	B	Mv±Bl
66	0.333	0.330	1.13	0.415	0.249	0.080	D	淡褐色	B	Mica (Bl・Mv) 少なめ
67	0.556	0.124	1.03	0.780	0.345	0.100	A	黄白～灰白色	A1	砂礫黒っぽい

第10表 蛍光X線分析結果等一覧表

### 第3節 金属滓分析

#### A はじめに

本節では、清洲城下町遺跡から出土した金属滓（金属塊を含む）に関する自然科学的な調査の結果を報告する。分析の主眼は、金属生産工程や製鉄原料の推定を行うことによって、清洲城下町における製鉄・鍛冶の諸様相を解明することを目的としている。

#### B 分析の方法

今回の金属滓（金属塊）の調査は次の工程を経ている。まず、本書が対象とする調査区から出土した金属質の遺物のうち、表面観察及びX線写真から金属滓と判断・推定されるものを全て抽出し分析対象とした。次に、①全金属滓（金属塊）の肉眼観察及び簡易な検査を行い一覧表を作成した後に、②特に分析が必要と思われる32点については自然科学的な分析を実施した。自然科学的な調査は川鉄テクノロジー株式会社分析・評価センターの岡原正明・伊藤俊治の分析結果による。

##### ① 肉眼観察及び簡易検査の調査方法

全金属滓（金属塊）703点について以下の12項目の調査を実施した。

- a 種別 表面観察及びX線写真から金属種類と滓または塊の区分を便宜的に実施した。
- b 重量 資料の全重量を0.1g単位で計測した。
- c 着磁度 直径30mm・1300ガウス（0.13テスラ）のリング状フェライト磁石を用いて、着磁反応を示す距離を測定し、0から4までの5段階に着磁度を区分して表示した。
 

0——全く反応しないもの	3——2cm～3cmの範囲で着磁反応するもの
1——0cm～1cmの範囲で着磁反応するもの	4——3cm～4cmの範囲で着磁反応するもの
2——1cm～2cmの範囲で着磁反応するもの	
- d 形状 資料の形状を楕状・偏平・凹凸・碗型等に区分して表記した。  
なお、形状の判定は川鉄テクノロジー株式会社によるものと異なる場合がある。
- e 完欠 資料の遺存状況を示した。
- f 発泡 資料中に気泡の痕跡が存在するものに○を記載した。
- g 小石粒 資料中に小石粒を包含するものに○を記載した。
- h 植物残渣 資料中に植物繊維状の圧痕等が残存するものに○を記載した。
- i 木炭 資料中に木炭を包含するものに○を記載した。
- j 炉材 資料表面に炉材の一部と思われる粘土・石材が付着するものに○を記載した。
- k ガラス質 資料中にガラス質（透明な部分）を包含するものに○を記載した。
- l 備考 資料表面の付着物・固着（粘土等と共に水酸化鉄が固着した現象を指す）の有無等の特記事項を記載した。

## ② 自然科学的な調査方法

全資料中から更に詳細な分析が必要と認められた32点については、以下の5種の自然科学的な調査を適宜実施した。分析した資料及びその内容の一覧は、第11表の備考欄に示している。

## a 外観の観察と写真撮影

各種試験用試料を採取する前に、資料の両面をmm単位まであるスケールを同時写し込みで撮影した(第110~112図)。また、試料採取時の特異部分についても撮影を行った。

## b 化学成分分析

化学成分分析はJISの分析法に準じて行った<sup>11)</sup>。

鉄滓は、製鉄に使用した原料の推定と生産工程のどの部分で発生した鉄滓かを判断するデータを得るために、18項目について調査した。鉄塊は、原料鉄源やどのような加工が行われていたのかを判断するために、13項目について分析した。また、銅滓は22項目、銅塊は21項目、鉛塊は9項目について各々成分分析を実施した。なお、各々の項目別の具体的な分析方法に関しては、第12~16表に併記した。

## c 顕微鏡組織写真

まず鉄塊については、試料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨(鏡面仕上げ)した。その後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、溶融状況や介在物(鉱物)の存在状態等から加工状況や材質を判断した。鉄滓・銅滓の場合にも、鉄塊同様に処理・観察をおこない、製鉄・鍛冶過程での状況を推定した。原則として100倍と400倍で撮影したが、必要に応じて低倍率での撮影も行った(第113・114図)。

## d X線回折測定

試料を粉砕して板状に成形しX線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれの固有の反射(回折)をするX線が検出されることを利用して、試料中の未知の化合物を観察・同定した。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定された(第115~118図)。

## e EPMA(X線マイクロアナライザー)による観察

高速電子線を2 $\mu$ m $\phi$ 程度に絞って、分析対象試料面に照射し、その微小部に存在する元素から発生する特性X線を測定するもので、金属鉄中の介在物、鉄滓の成分構成、金属銅や金属鉛と同伴する金属を視覚で確認するために、二次元の面分析を行った。また、EPMAに付属する特性X線分光分析装置(EDX)を用いて、1点のみ高速定性分析を実施した。

## C 調査結果

肉眼観察及び簡易検査の結果は、第11表に示した。金属滓(金属塊)試料の総数は703点で、これを発掘調査区ごとに整理している。また、自然科学的な調査の結果は、b化学成分分析は分析した32点全てのデータを第12~16表に示したが、a外観観察と写真・c顕微鏡組織写真・dX線回折測定による分析結果は、その結果の一部のみを提示した(第110~118図)。なお、提示した結果以外のデータは明愛知県埋蔵文化財センターで保管している。

#### D 考察 I 製鉄に関する分析結果

##### ① 鉄の生産工程と鉄滓

鉄・鉄製品の生産は大きく製錬・精錬鍛冶・鍛造または鑄物の工程を経て行われる。鉄滓は各工程の中で発生するものであり、各工程固有の特徴を持つ鉄滓が生成される。この鉄滓の発生を鉄の生産工程から大きく分類すると、以下の4種が存在する。

製錬鉄滓	砂鉄や鉄鉱石を還元して、酸素を取り除き、金属鉄を取り出す時に発生するもの。炉内滓や炉底滓及び炉外流出滓等がある。
精錬鍛冶滓	製錬でできた鉄塊から、更に不純物を取り出して加工しやすい状態の鉄塊にする時に生成するもの。大鍛冶滓。
鍛錬鍛冶滓	鉄を加熱・鍛打して、鉄製品を作っていく過程で生成する鉄滓。小鍛冶滓。その生成過程により、椀型鍛冶滓・鍛造削片・湯玉状鉄滓等の形となる。
鑄物滓	鉄を溶解し、鑄型に流し込んで鑄物を作る時に生成するもの。

また、製鉄原料についても、大きく砂鉄を用いるものと鉄鉱石を用いるものに分けることができる。

##### ② 自然科学的な調査による資料の分類

自然科学的な調査を実施した25点の製鉄関連の資料を、上述の生産工程からみた分類に基づいて整理すると、以下のようにまとめられる。

種別	資料番号
製錬鉄滓	108・152
精錬鉄滓	65・173・428・444・496・503・622・623
原料砂鉄?	(444・503)
原料鉄石?	(173・496)
精錬椀型鉄滓	14・30・44・116・150・153・158・508・516・582
原料砂鉄?	(14・44・153・508・582)
原料鉄石?	(30・150・516)
銹化鉄塊	39・106・107・110・617

##### ③ 製錬鉄滓

製錬鉄滓の自然科学的な特徴を具体的な事例を取り上げ、評述する。

製錬鉄滓 (資料番号108-61A区)

滓断面の顕微鏡写真 (第113図) によると、灰白色の酸化第一鉄 (ウスタイト:  $\text{FeO}$ )<sup>23)</sup> の結晶が集まった部分、針状のファイヤライト ( $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ )<sup>24)</sup> が観察される。ファイヤライトは鉄製錬時の高温の下 (溶融状態) で滓の中に出現する鉱物である。さらにウスタイト中に灰色六角板状の結晶があるが、これはウルボスピネル ( $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ )<sup>25)</sup> で砂鉄製錬の際、原料のチタニウム分が多い場合に特徴的に現れる。

化学成分分析の結果でも、 $\text{TiO}_2$ が0.36%となっている。また造滓成分の値は68.8%と多く、全鉄分 (T.Fe) は19.4%と低い。一方、アルカリ金属 ( $\text{Na}_2\text{O} \cdot \text{K}_2\text{O}$ ) が多く含まれており製錬過程で炉壁などの粘土類を溶解したのではないかと推測される。

X線回折ではウスタイトの存在ピークは検出されなかったが、四三酸化鉄 (マグネタイト:  $\text{Fe}_3\text{O}_4$ )<sup>26)</sup>

の他多量のファイヤライトや石英（シリカ： $\text{SiO}_2$ ）の存在が認められ（第115図）、顕微鏡観察結果とはほぼ一致する。

以上の考察を総合すると、この滓は精錬鉄滓や鍛冶鉄滓ではなく、製錬鉄滓と考えられる。

#### ④ 精錬鍛冶鉄滓

精錬鍛冶鉄滓は形状から精錬鉄滓と精錬坩堝型鉄滓に分けられる。また、化学成分分析値から $\text{TiO}_2$ ・V・Cuや燐（ $\text{P}_2\text{O}_5$ ）が多い資料と少ない資料にも分類できる。化学成分分析値の差異は、鉄原料の相違を物語っているだろう。以下に、上述した2種の区分を組み合わせた各類の具体的な事例を取り上げる。

##### 精錬坩堝型鉄滓—原料砂鉄（資料番号14—61A区）

大きさが $50 \times 35\text{mm}$ 、底部に裸を噛み込んだ扁平な坩堝型鉄滓と見られる資料である（第111図）。

低倍率の実体顕微鏡写真（第114図）では、金属鉄が錆化した緻密なオキシ水酸化鉄<sup>10</sup>と推定される黒色物が認められる。また滓断面の写真では、密に析出した繭状のウスタイトの部分と針状のファイヤライトと板状のチタニウムを含むウルボスピネルの結晶が観察される。X線回折のピーク観察（第116図）でも、同様の結果となっている。

化学成分分析でFeOが48.3%、T.Feが47.4%の値を示すことから、この資料は鉄滓であることが判る。造滓成分は34.54%とやや多い。 $\text{TiO}_2$ は0.30%、Vは0.010%とやや多い。X線回折ではウルボスピネルは検出できなかったが、ウスタイトやファイヤライトが多く存在すると示唆された。

以上の結果を総合すると、砂鉄を原料とした精錬鉄滓と推定できる。

##### 精錬坩堝型鉄滓—原料鉱石（資料番号30—61A区）

大きさが $90 \times 60\text{mm}$ のコロケ状の肉厚の坩堝型鉄滓と見られる資料である（第111図）。

滓断面の顕微鏡による観察（第114図）から、繭状のウスタイトと若干のファイヤライトの針状結晶が認められる。X線回折の結果（第117図）もウスタイトと若干のファイヤライトおよび鉱物質のピークが観察され、顕微鏡による知見と一致する。

化学成分分析でT.Feは56.4%でその大部分は60.1%のFeOが占めている。造滓成分は21.2%であり、 $\text{TiO}_2$ は0.08%、Vは0.003%と少ない。反対にCuは0.015%と多い。

以上の結果を総合すると、精錬鉄滓と推定できる。

##### 精錬鉄滓—原料砂鉄（資料番号44—91A区）

赤褐色の滓と灰黒色のガラス状部分に分かれた塊であり、金属鉄の反応がある。

実体顕微鏡による視野の範囲には、滓および金属鉄は認められなかったが、黒く見える鉄滓が観察された。この部分のEPMAによる面分析では、Fe、Si、Al、Caなどの元素の酸化物で形成されていることが判る。化学成分分析ではT.Feは27.3%と値が低かったが、この中で金属鉄（M.Fe）が17.6%も含まれていた。また、造滓成分の値は62.2%と多い。 $\text{TiO}_2$ は0.31%、Vの含有量も0.023%と多い。またCuの値も0.12%が高い。

これらの結果から、この資料は精錬鉄滓と考えられる。

##### 精錬鉄滓（資料番号622—91A区）

大きさが $30 \times 45\text{mm}$ の中央に亀裂のある、残存金属鉄を含む資料である。着磁度は強い。

実体顕微鏡による観察では、中央部に鉄の錆化した部分が認められる。X線回折の結果では、ウス

タイトとファイヤライトとが存在する。また、EPMAによる面分析では、酸化鉄とAl、Caおよび少量のTiを含有するファイヤライトが観察される。残存金属鉄の化学成分分析結果によると、Cは0.096%と極めて少ない。SiやAlはやや多い。しかし、TiO<sub>2</sub>およびVの含有量はそれぞれ0.004%、0.001%と非常に少なく、Cuも0.005%と少ない。P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>の値が0.020%とやや高い。

以上の結果から、この資料は金属を含む精錬鉄滓といえる。

#### ⑤ 錆化鉄塊

錆化鉄塊中の鉄塊は、非金属介在物が少なく、比較的純度が高いものである。錆化鉄塊は金属中の炭素分が少ないものと多いものに区分できる。

##### 錆化鉄塊—炭素少量（資料番号106-61A区）

錆化進行中の3個に分割されている資料である。この他小片2個がある。着磁度は強い。

実体顕微鏡の観察では、付着した土に包まれて緻密な鉄錆が黒く見える。この写真の視野に写っていないが、化学成分分析の結果では金属鉄（M.Fe）が10.7%も含まれている。酸化第二鉄（ヘマタイト：Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）<sup>77</sup>が45.6%、C.W.（結合水）が5.51%存在することから、鉄塊が酸化してオキシ水酸化鉄に変化したものと考えられる。

##### 錆化鉄塊—炭素多量（資料番号617-91A区）

径20-25mmの梅干し大の、衝撃で割られた部分のある褐色の錆に覆われた資料である。メタルチェッカーで残存金属が認められ、従って着磁度は強い。

実体顕微鏡による観察では、金属鉄の錆化した部分や金属は観察されなかった。しかし、別の箇所から金属鉄を取り出して化学成分分析を行った。

その結果によると、Cが3.37%も含まれていた。Ti<sub>2</sub>O<sub>3</sub>およびVの含有量はそれぞれ0.001%と非常に少なかったが、Cuは0.055%と多い。また、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>の値が0.240%と非常に高い。

これらの結果を総合すると、この資料は炭素分の高い鉄を含む錆化鉄塊と考えられる。

#### ⑥ 原料について

一般に製鉄に使用された原料が砂鉄か否かを判定する場合、鉄滓や金属鉄の介在物（不純物）にチタン（TiO<sub>2</sub>）やバナジウム（V）が含まれているので、これらの元素の多寡で判断することができる。同様に、原料に鉱石が用いられた時は、砂鉄にほとんど存在しないが鉄鉱石に含まれる銅等の元素が入ってくるので、その量によって判断が可能となる。

今回の分析・調査では、製錬鉄滓、精錬鉄滓あるいは鉄塊中の金属鉄の化学成分分析の値で、TiO<sub>2</sub>・V・Cuや燐（P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>）が多い資料と少ない資料が混在した。このことから、鉄原料は砂鉄と鉱石の2種類であった可能性が高いと考えられる。つまり、鉄原料・鉄製品が1ヶ所のみではなく、2ヶ所以上の生産地域から入手されたのではないかと推定される。

#### ⑦ 鉄滓の分布からみる清洲城下町における製鉄

以上、自然科学的な調査による鉄滓（鉄塊）の分類を行い、どの生産工程から生成した鉄滓（鉄塊）か、あるいはどのような原料を用いたかを個々に推定した。これらを発掘調査区別にみると、

61A区 製錬鉄滓1、精錬塊型鉄滓4（うち砂鉄2、鉱石2）、精錬鉄滓1、錆化鉄塊4

61C区 製錬鉄滓1、精錬塊型鉄滓3（うち砂鉄1、鉱石1）、精錬鉄滓1（うち鉱石1）

91A区 精錬塊型鉄滓3（うち砂鉄2、鉱石1）、精錬鉄滓6（うち砂鉄2、鉱石1）、錆化鉄塊1



のようにまとめられる。上記25点における調査では、調査区別の原材料や工程上の差異は特に認められない。ただし、61A区と61C区で製錬鉄滓が認められ、五条橋地区及び南部地区で鉄製錬が行われた可能性が生じたことは興味深い。

また、自然科学的な調査を実施しなかったものも含めて、鉄滓（鉄塊）の分布状況を検討すると、以下のような特徴が読み取れる。

- 鉄滓の分布は61A区・61C区・61D区・63C区・89B区・91A区に偏って多く出土している。
- このうち、椀型鉄滓（肉眼観察による）は61C区・91A区で10点以上出土した。
- 61C区・61D区で出土した鉄滓（特に椀型鉄滓）の大部分はSK7029から出土している。なお、SK7029からは羽口等の製品も比較的多量に認められる遺構である。

これらの結果から、鉄滓は特定の地区（①五条橋地区北部61A区・②本町地区南半部89B区と91A区・③南部地区北部61CD区）に集中して認められ、この地区に製鉄関連の遺構（すなわち製鉄関連の職人が活動した場所）が存在した可能性が高い。そのうち、①五条橋地区北部61A区、及び③南部地区北部61CD区では製錬鉄滓を持つことから、製錬または製錬された材料を持ち込んで行う精錬鍛冶（大鍛冶）が行われた可能性が指摘されよう。また、②本町地区南半部89B区と91A区では多量の椀型鉄滓を含む精錬鉄滓が多いことから、精錬鍛冶または鍛錬鍛冶（小鍛冶）が行われた可能性がある。

なお、鉄滓の時期は特定し難い点も多いが、およそ以下の通りである。

五条橋地区北部61A区	宿場町期Ⅱ期（一部城下町期の可能性も残る）
本町地区南半部89B区と91A区	城下町期Ⅱ－2期～城下町期Ⅲ期
南部地区北部61CD区	城下町期Ⅲ－2期

各時期における地点の性格は、いずれも短冊型地割が並ぶ町屋と考えられる。

## E 考察Ⅰ 製鋼に関する分析結果

### ① 自然科学的な調査による資料の分類

自然科学的な分析を行った鋼滓は6点を数え、鋼の純度と鉛・錫の添加量によって区分できる。

種別	資料番号
金属鋼を含む鋼滓	28・328・507
銅・青銅を含む青銅滓	376・424・473

### ② 鋼滓

鋼滓は金属鋼の含有量が約95%の純度の高いものと、純度の低いものがある。前者は鋼の加工品や銅鋳物あるいは青銅の製造のために使用されたものであろう。

金属鋼を含む鋼滓—純度が高い（資料番号328—63C区）

径約30mmの濃緑黒色で凹凸と突出部が多い、偏平な塊資料である（第112図）。メタルチェッカーの検査で金属の反応があった。資料断面の実体顕微鏡による観察では、中央部に滓とともに凝固した気孔の多い金属鋼が認められた。

金属の化学成分分析によると、Cuが97.7%と非常に高く、Pbが0.32%、Asが0.31%存在する。Sn等の他の元素も非常に少ない。従って、金属部分は純粋の金属鋼に近いといえる。またE PMAによ

る面分析の結果をみても、Cuの存在パターンのみが検出されたので純銅であることが確かめられた。

したがって、この資料は銅を溶解した際の金属銅を含む銅滓である。

金属銅を含む銅滓—純度が低い（資料番号28-61A区）

大きさが径35mmで緑青色部が一面に分布する塊で、木炭片の噛み込みがある。

低倍率の実体顕微鏡による断面の写真で白く見えるところが金属銅である。金属部分の顕微鏡組織は蜂の巣状になっていて、凝固が比較的ゆっくり進んだものと見受けられる。

銅滓の化学成分分析値をみると、銅（Cu）が58.7%と多く、さらに鉛（Pb）が5.71%、砒素（As）が5.23%存在する。灼熱減量（lg-loss）は4.10%であった。試料を採取する前に極力木炭を取り除いたが、その一部が残ったのと結晶水等によるものと考えられる。青銅に一般に含まれる錫（Sn）は0.22%と少なかった。Asは原料とした銅鉱石に含まれていたものがそのまま残ったものと考えられる。

銅鉱石には通常これほど多くのPbを含まないので、合金や鑄造を目的とし、製錬途中あるいは銅の溶解中に添加したとしか考えられない。なお銅滓の分析値の合計が100%にならないのは、金属元素等を全て金属として計算しているためである。

滓部分のX線回折の結果（第118図）では、金属銅の存在は検出できなかったが、銅化合物の酸化第一銅（Cu<sub>2</sub>O）、塩化第一銅（CuCl）やアタカマイト [Cu<sub>2</sub>Cl(OH)]<sub>2</sub> のピークが認められた。塩素（Cl）が何処から取り込まれたのかは明らかではないが、地下水や農薬等の影響が考えられる。

以上の結果からこの資料は金属銅を含む金属溶解過程での銅滓と推定される。

### ③ 青銅滓

青銅滓はCuにPb単独、あるいは更にSnが多量に添加されている資料がある。青銅の鑄造品の作成が行われており、そこで鑄造のための溶解と成分の調合がなされていたことが示唆される。

青銅を含む青銅滓（資料番号473-91A区）

径が約40mmで灰緑色の繊維痕の多い銅滓と思われる資料である（第112図）。木炭痕も観察される。

化学成分分析によると、Cuが47.7%、Snが6.59%、Pbは26.7%も含まれていた。なお、これらの元素は全て金属ベースで分析値を求めているから、各々の分析項目の合計が100%にはなっていない。しかし、前記の3元素のみの合計は81.0%に達し、この値を基準にとる（100として）と、Cuが58.9%、Snが8.1%、Pbが33.0%となり、鉛の非常に多い青銅であるといえる。

これらの考察からこの資料は、溶解あるいは鑄造時の青銅を含む青銅滓といえる。

### ④ 銅滓の分布からみる清洲城下町における製銅

銅滓（青銅滓）は総数9点のみであり、このうち半数以上の5点が91A区から出土している。また五条橋地区南部の63C区と90C区でも各1点づつの銅滓（青銅滓）が認められる。Pb・Snの含有量が比較的多いことも考えあわせると、本町地区及び五条橋地区南部の一角で青銅の鑄造活動が行われた可能性が指摘されよう。なお、銅滓の時期は特定できないものが多い。

## F 考察Ⅲ 鉛に関する分析結果

### ① 鉛塊の自然科学的な調査

金属鉛の自然科学的分析は、1点のみ実施した。高純度の金属鉛であり、驚くべき資料であった。

金属鉛 (資料番号413-89E区)

長さ80mm×幅30mmの白灰色の熔融金属が凝固したような塊状の資料で、金属反応がある (第112図)。

実体顕微鏡による断面の観察では、運河のような模様が一面に観察される。資料の表面部分を含む断面のE PMAによる面分析では、金属鉛の他にアルミニウム (Al) が一様に分散して含まれている。特に表面部分に多く存在している。このことはE PMAによる高速定性分析の結果からも理解できる。

化学成分分析でもPbは99.0%と多量に存在し、他元素 (As, Sn, ZnやCu) の含有量は非常に少ない。

以上の結果からこの資料は純度の高い金属鉛といえる。

### ② 鉛塊 (鉛滓) の分布からみた清須城下町における製鉛

鉛塊 (鉛滓) は89E区のみで認められた。自然科学的な調査を実施した資料は1点のみであったが、純度が極めて高いものである。この結果、89E区での製鉛あるいは鉛加工 (例えば鉄砲玉製作等) が行われた可能性が指摘されるが、いずれかは特定できない。また、時期も特定できない。

## G まとめ

以上の分析の結果を箇条書にまとめる。

- ① 製鉄工程のうち、製練・精練に関わる鉄滓 (鉄塊) が確認された。
- ② 製鉄原料として、砂鉄と鉄鉱石の二種が使用された可能性が考えられる。
- ③ 61A区・91A区・61CD区等に偏重して鉄滓が出土しており、製鉄は特定地区で行われただろう。
- ④ 鉄滓集中部は、城下町期Ⅱ-2期・Ⅲ期・宿場町期Ⅱ期の町屋推定域に相当する。
- ⑤ 製鋼工程のうち、銅を溶解または青銅の鑄造に関わる銅滓 (青銅滓) が確認された。
- ⑥ 鉄の場合と同様、五条橋地区南部・91A区に偏重して銅滓が存在している。
- ⑦ 鉛塊は89E区のみで確認され、89E区で鉛に関わる製造が行われた可能性が指摘できる。

今回の分析では、限られた資料に関してのみ自然科学的な調査を実施したもので、決して充分なものとは言えないが、多くの成果も得ることができた。今後の更なる調査を期待したい。(鈴木正貴)

- 註 (1) 分析結果表 (第12表) に記載されている全鉄分 (Total Fe=T.Feと表示) の量と、その後に記載されている金属鉄 (M.Fe)、酸化第一鉄 (FeO) および酸化第二鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) との関係は、後者2つは酸化鉄を示しており、それらの中の鉄 (Fe) の量と金属鉄 (M.Fe) を合計したものが前者の全鉄分 (T.Fe) となる。
- (2) ウスタイト: Wustite (FeO) は白色の蘭玉または葡萄の房状の結晶を指す。
- (3) ファイヤライト: Fayalite (2FeO・SiO<sub>2</sub>) は褐色針状やレース状の長い結晶を指す。
- (4) ウルボスピネル: Ulvospinel (2FeO・TiO<sub>2</sub>) は淡褐色の角尖状~六角形状の結晶を指す。
- (5) マグネタイト: Magnetite (Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) は白色で多角盤状または樹枝状の結晶を指す。
- (6) 水分との接触が多い鉄滓には、水分と酸化第二鉄とが結合したオキシ水酸化鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>・H<sub>2</sub>O=2FeOOH) が生成する。
- (7) ヘマタイト: Hematite (α-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) は赤褐色~赤紫色を呈す。

第11表 金屬滓(金屬塊)一覽表

番号	調査区	発見層位	形状	重量(g)	寸法(mm)	材質	文	用途	小片数	割断面	表面	厚さ	#12目	備考
1	Ⅱ区	20407	鉄滓	14.8	2	鍛冶	文無							前巻多C不明
2	Ⅱ区	20407	鉄滓	21.7	2~3	鍛冶	文無							小片多数、鉄滓?
3	Ⅱ区	20407	鉄滓	12.2	3	鍛冶	文無?							白物付鉄滓物
4	Ⅱ区	20407	鉄滓	26.0	3	鍛冶	文無							
5	Ⅱ区	20404	鉄滓	119.4	3	鍛冶(石)	文無							紫物付鉄滓物
6	Ⅱ区	20404	鉄滓	87.0	3~4	鍛冶(石)	文無							赤褐色付鉄滓物
7	Ⅱ区	20404	鉄滓	124.4	3~4	鍛冶(石)	文無							
8	Ⅱ区	20404	鉄滓	129.4	2~4	鍛冶	文無							
9	Ⅱ区	20404	鉄滓	81.5	1~2	鍛冶	文無							
10	Ⅱ区	20404	鉄滓	66.4	2	鍛冶(石)	文無							
11	Ⅱ区	20404	鉄滓	71.2	2	鍛冶	文無?							
12	Ⅱ区	20404	鉄滓	48.8	2~3	鍛冶	文無							
13	Ⅱ区	20404	鉄滓	51.7	2~3	鍛冶	文無							
14	Ⅱ区	20404	鉄滓	37.1	2	鍛冶	文無							成分不明、1区-5区
15	Ⅱ区	20404	鉄滓	45.1	2~3	鍛冶	文無							
16	Ⅱ区	20404	鉄滓	25.4	2~3	鍛冶	文無							
17	Ⅱ区	20404	鉄滓	71.2	1~2	鍛冶	文無							
18	Ⅱ区	20404	鉄滓	14.0	2	鍛冶	文無							
19	Ⅱ区	20404	鉄滓	5.5	2~3	鍛冶	文無?							
20	Ⅱ区	20404	鉄滓	51.1	3	鍛冶	文無							
21	Ⅱ区	20404	鉄滓	41.0	2~3	鍛冶	文無							紫物付鉄滓物
22	Ⅱ区	20404	鉄滓	37.4	1~3	鍛冶	文無							紫物付鉄滓物、第1層C付着
23	Ⅱ区	20404	鉄滓	14.0	2	鍛冶	文無							
24	Ⅱ区	20404	鉄滓	8.2	2	鍛冶	文無							
25	Ⅱ区	20404	鉄滓	2.4	1~2	鍛冶	文無							紫物付鉄滓物
26	Ⅱ区	20404	鉄滓	8.2	1	鍛冶	文無							
27	Ⅱ区	20404	鉄滓	8.2	1	鍛冶	文無							
28	Ⅱ区	20411	鉄滓	27.4	0	鍛冶	文無							成分不明、1区-5区
29	Ⅱ区	20411	鉄滓	25.2	2	鍛冶	文無							紫物付鉄滓物
30	Ⅱ区	20411	鉄滓	166.0	2~3	鍛冶	文無							成分不明、1区-5区
31	Ⅱ区	20417	鉄滓	4.7	3	鍛冶	文無							
32	Ⅱ区	20417	鉄滓	34.4	2~3	鍛冶	文無							
33	Ⅱ区	20418	鉄滓	18.1	1~2	鍛冶	文無							白物付鉄滓物
34	Ⅱ区	20510	鉄滓	14.7	2~3	鍛冶	文無							小片多数
35	Ⅱ区	20510	鉄滓	11.7	2~3	鍛冶(石)	文無							前巻多C不明
36	Ⅱ区	20510	鉄滓	24.0	1~2	鍛冶	文無							緑色付鉄滓物
37	Ⅱ区	20510	鉄滓	24.9	2~3	鍛冶	文無							
38	Ⅱ区	20510	鉄滓	25.4	2~3	鍛冶	文無							前巻多C不明
39	Ⅱ区	20510	鉄滓	25.9	4	鍛冶	文無							成分不明、2区-5区
40	Ⅱ区	20510	鉄滓	12.4	1~2	鍛冶(石)	文無?							
41	Ⅱ区	20510	鉄滓	4.2	1	鍛冶	文無							
42	Ⅱ区	20510	鉄滓	24.7	1~2	鍛冶	文無							前巻多C不明
43	Ⅱ区	20510	鉄滓	41.2	2~3	鍛冶(石)	文無							
44	Ⅱ区	20510	鉄滓	106.5	2~3	鍛冶	文無							成分不明、1区-5区
45	Ⅱ区	20510	鉄滓	175.1	2~3	鍛冶(石)	文無							大砂付着?
46	Ⅱ区	20510	鉄滓	337.1	2	鍛冶(石)	文無?							
47	Ⅱ区	20510	鉄滓	2.5	1~2	鍛冶	文無							砂付
48	Ⅱ区	20510	鉄滓	116.5	3	鍛冶(石)	文無							第1層C付着
49	Ⅱ区	20510	鉄滓	142.0	2~3	鍛冶	文無							
50	Ⅱ区	20510	鉄滓	44.2	2~4	鍛冶(石)	文無							
51	Ⅱ区	20510	鉄滓	105.1	2~3	鍛冶	文無							
52	Ⅱ区	20510	鉄滓	51.0	2~4	鍛冶(石)	文無							
53	Ⅱ区	20510	鉄滓	142.4	3	鍛冶	文無							鉄滓?
54	Ⅱ区	20510	鉄滓	53.9	2	鍛冶	文無							紫物付鉄滓物
55	Ⅱ区	20510	鉄滓	71.7	3	鍛冶	文無							紫物付鉄滓物
56	Ⅱ区	20510	鉄滓	42.1	1~3	鍛冶(石)	文無							
57	Ⅱ区	20510	鉄滓	25.5	2	鍛冶(石)	文無							
58	Ⅱ区	20510	鉄滓	51.4	2~3	鍛冶	文無							
59	Ⅱ区	20510	鉄滓	42.7	2~3	鍛冶(石)	文無							
60	Ⅱ区	20510	鉄滓	44.4	2~3	鍛冶(石)	文無							
61	Ⅱ区	20510	鉄滓	25.4	1~3	鍛冶	文無							前巻多C不明
62	Ⅱ区	20510	鉄滓	24.4	2	鍛冶(石)	文無							
63	Ⅱ区	20510	鉄滓	31.4	2~3	鍛冶(石)	文無							
64	Ⅱ区	20510	鉄滓	23.1	2~3	鍛冶	文無							
65	Ⅱ区	20510	鉄滓	54.7	3	鍛冶	文無							鉄滓? 成分不明、1区-5区
66	Ⅱ区	20510	鉄滓	24.1	2~3	鍛冶	文無							紫物付鉄滓物、砂付着
67	Ⅱ区	20510	鉄滓	25.3	1~2	鍛冶	文無							紫物付鉄滓物
68	Ⅱ区	20510	鉄滓	11.4	1~2	鍛冶	文無							紫物付鉄滓物
69	Ⅱ区	20510	鉄滓	22.7	3	鍛冶	文無							
70	Ⅱ区	20510	鉄滓	12.1	2	鍛冶	文無							
71	Ⅱ区	20510	鉄滓	14.1	2~3	鍛冶	文無							

序号	地区	基本数据	类型	重量/g	检测数	方法	中文	费用	小包装	检测周期	备注	备注	备注	备注
71	EA	197	粮食	2.2	1	理化	常规	0						
72	EA	197	粮食	10.1	2~3	理化	常规	0						
73	EA	197	粮食	10.5	2~3	理化	常规	0	0					
74	EA	197	粮食	12.7	2~3	筛分	常规	0		0				其他检测项目
75	EA	197	粮食	7.6	1	理化	常规	0	0					
77	EA	197	粮食	2.8	1	理化	常规	0			0			检测多久时间
78	EA	197	粮食	1.5	1~2	理化	常规	0	0			0		
79	EA	197	粮食	0.8	1	理化	常规	0		0				
80	EA	197	粮食	0.8	2~3	理化	常规	0						
81	EA	197	粮食	0.4	1~2	理化	常规	0						
82	EA	-	粮食	200.0	2~3	理化	常规	0	0	0		0		
83	EA	-	粮食	100.0	2~3	物理筛分	常规	0		0				
84	EA	-	粮食	10.7	2~3	理化	常规	0	0					检测周期多久
85	EA	-	粮食	40.0	3~4	理化	常规	0	0					其他检测项目
86	EA	-	粮食	6.7	3	理化	常规	0	0					其他检测项目
87	EA	-	粮食	5.1	1~2	理化	常规	0	0	0				其他检测项目
88	EA	-	粮食	4.0	3	理化	常规	0	0					其他检测项目
89	EA	-	粮食	2.0	2	理化	常规	0	0				0	
90	EA	-	粮食	5.1	3	理化	常规	0	0					
91	EA	-	粮食	2.0	3	理化	常规	0	0					
92	EA	-	粮食	2.1	3	理化	常规	0	0				0	
93	EA	-	粮食	1.0	2	理化	常规	0	0					
94	EA	-	粮食	1.0	2~3	理化	常规	0	0					
95	EA	-	粮食	1.7	2	理化	常规	0	0					
96	EA	-	粮食	0.3	2	理化	常规	0	0					
97	EA	-	粮食	0.3	3	理化	常规	0	0					
98	EA	-	粮食	1.0	2~3	理化	常规	0	0					
99	EA	-	粮食	0.5	2	理化	常规	0	0					检测周期多久
100	EA	-	粮食	0.5	3	理化	常规	0						
101	EA	-	粮食	1.0	1~2	理化	常规	0						
102	EA	粮食	粮食	10.0	2~3	物理筛分	常规	0						小包装
103	EA	粮食	粮食	10.0	3	理化	常规	0						小包装 费用?
104	EA	粮食	粮食	10.1	2~3	物理筛分	常规	0		0				检测多久时间
105	EA	粮食	粮食	100.0	3	筛分	常规	0		0				
106	EA	粮食	粮食	10.0	3	理化	常规	0						小包装
107	EA	粮食	粮食	10.0	3	理化	常规	0						成分-检测-1周-常规
108	EA	粮食	粮食	17.0	2	理化	常规	0						成分-检测-1周-常规
109	EA	粮食	粮食	1.7	2~3	筛分	常规	0	0				0	其他检测项目(检测费用)
110	EA	粮食	粮食	10.0	3	理化	常规	0						小包装
111	EA	粮食	粮食	10.0	1~2	理化	常规	0		0				
112	EA	粮食	粮食	100.0	2~4	物理筛分	常规	0	0					其他检测项目
113	EA	粮食	粮食	10.0	1~2	物理筛分	常规	0		0			0	5天
114	EA	粮食	粮食	10.0	3~4	理化	常规	0						检测多久时间 费用?
115	EA	粮食	粮食	10.0	2~3	理化	常规	0			0			
116	EA	粮食	粮食	100.0	2	筛分	常规	0	0					成分-检测-1周-常规
117	EA	粮食	粮食	10.0	3	理化	常规	0						
118	EA	粮食	粮食	10.0	2~3	理化	常规	0	0					0
119	EA	粮食	粮食	10.0	1~3	理化	常规	0						检测多久时间
120	EA	粮食	粮食	40.0	2	理化	常规	0		0				其他检测项目
121	EA	粮食	粮食	0.0	1	理化	常规	0						
122	EA	粮食	粮食	17.1	3	理化	常规	0						检测多久时间 费用? 检测多久时间
123	EA	粮食	粮食	10.0	1	理化	常规	0						
124	EA	粮食	粮食	10.0	1~2	筛分	常规	0		0				
125	EA	粮食	粮食	10.0	1~2	理化	常规	0						
126	EA	粮食	粮食	1.0	1~2	理化	常规	0						
127	EA	粮食	粮食	10.0	3~4	理化	常规	0						检测多久时间 费用?
128	EA	粮食	粮食	1.7	2~3	理化	常规	0						检测多久时间
129	EA	粮食	粮食	1.0	1~2	理化	常规	0			0			
130	EA	粮食	粮食	10.0	1~2	物理筛分	常规	0	0	0			0	
131	EA	粮食	粮食	10.0	2	筛分	常规	0	0					检测周期?
132	EA	粮食	粮食	10.0	2	理化	常规	0		0				
133	EA	粮食	粮食	1.0	0~1	理化	常规	0						其他检测项目
134	EA	粮食	粮食	4.0	1~2	理化	常规	0						
135	EA	粮食	粮食	4.0	1~2	理化	常规	0						检测周期多久检测
136	EA	粮食	粮食	10.0	2~3	物理筛分	常规	0		0				
137	EA	2010A	粮食	10.0	2	筛分筛分	常规	0						
138	EA	2010B	粮食	1.0	1~3	理化	常规	0	0				0	
139	EA	2010C	粮食	10.0	1~2	理化	常规	0					0	5天检测?
140	EA	2010D	粮食	10.0	2~3	筛分	常规	0				0		
141	EA	2010E	粮食	10.0	1~2	理化	常规	0		0			0	其他检测项目
142	EA	2010F	粮食	10.0	4	筛分筛分	常规	0		0				检测项目

番号	調査区	調査年度	種類	重量 (g)	長 (mm)	形状	土文	発出	小刀型	器物名	高	中径	口径	備考	備考
140	E1C	S1703	磁片	151.2	2~3	磁片	文無	○							
141	E1C	S1703	磁片	34.7	3~4	磁片	文無	○				○			
142	E1C	S1703	磁片	147.1	2~3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
143	E1C	S1703	磁片	44.1	2~3	磁片	文無	○	○				○		黒色付着物
144	E1C	S1703	磁片	76.9	2~3	磁片	文無	○	○				○		黒色付着物
145	E1C	S1703	磁片	1.5	2	磁片	文無	○	○						黒色付着物
146	E1C	S1703	磁片	187.2	3	磁片	文無	○	○				○		石付着物
147	E1C	S1703	磁片	187.2	3	磁片	文無	○	○				○		黒色付着物
148	E1C	S1703	磁片	154.3	3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
149	E1C	S1703	磁片	146.2	2~3	磁片	文無	○	○				○		高台・磁器・瓦類
150	E1C	S1703	磁片	180.0	2~3	磁片	文無	○	○				○		黒色付着物
151	E1C	S1703	磁片	222.2	2~3	磁片	文無	○	○				○		高台・磁器
152	E1C	S1703	磁片	222.2	2~3	磁片	文無	○	○				○		高台・磁器
153	E1C	S1703	磁片	222.2	2~3	磁片	文無	○	○				○		高台・磁器
154	E1C	S1703	磁片	222.2	2~3	磁片	文無	○	○				○		高台・磁器
155	E1C	S1703	磁片	179.1	2~3	磁片	文無	○	○				○		高台・磁器
156	E1C	S1703	磁片	11.4	2	磁片	文無	○	○						
157	E1C	S1703	磁片	181.6	2~3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
158	E1C	S1703	磁片	157.2	3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
159	E1C	S1703	磁片	158.6	2~3	磁片	文無	○	○						高台・磁器・瓦類
160	E1C	S1703	磁片	22.0	2~3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
161	E1C	S1703	磁片	22.0	2~3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
162	E1C	S1703	磁片	22.0	2~3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
163	E1C	S1703	磁片	22.0	2~3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
164	E1C	S1703	磁片	22.0	2~3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
165	E1C	S1703	磁片	22.0	2~3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
166	E1C	S1703	磁片	22.0	2~3	磁片	文無	○	○						黒色付着物
167	E1C	S1703	磁片	22.0	2	磁片	文無	○	○						黒色付着物
168	E1C	S1703	磁片	22.0	2	磁片	文無	○	○						黒色付着物
169	E1C	S1703	磁片	22.0	2	磁片	文無	○	○						黒色付着物
170	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
171	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
172	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
173	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
174	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
175	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
176	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
177	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
178	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
179	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
180	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
181	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
182	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
183	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
184	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
185	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
186	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
187	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
188	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
189	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
190	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
191	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
192	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
193	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
194	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
195	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
196	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
197	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
198	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
199	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
200	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
201	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
202	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
203	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
204	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
205	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
206	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
207	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
208	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
209	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
210	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
211	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
212	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						
213	E1C	S1703	磁片	17.2	2~3	磁片	文無	○	○						

序号	采样点	检测项目	结果	重量/g	检测时间	采样	备注	污染	小计	检测项目	结果	采样	备注	重量/g	检测项目	结果	
214	E10	201007	检测	10.5	2	检测点内	无盖										类别:打猎物
215	E10	201007	检测	49.5	2~3	检测点内	无盖		0	0							类别:打猎物
216	E10	201007	检测	10.4	2~3	检测点内	无盖				0						类别:打猎物
217	E10	201007	检测	55.6	3	检测点内	无盖										类别:打猎物
218	E10	201007	检测	40.9	3	检测点内	无盖				0						类别:打猎物
219	E10	201007	检测	21.1	2	检测点内	无盖				0						
220	E10	201007	检测	22.1	2	检测点内	无盖										
221	E10	201007	检测	20.1	2~3	检测点内	无盖				0						
222	E10	201007	检测	20.4	2~3	检测点内	无盖				0						
223	E10	201007	检测	6.9	2	检测	无盖										
224	E10	201007	检测	26.9	3	检测点内	无盖?				0						
225	E10	201007	检测	26.1	2	检测点内	无盖?										类别:打猎物
226	E10	201007	检测	10.2	2~3	检测点内	无盖				0						中:上:打猎
227	E10	201007	检测	10.3	2	检测点内	无盖?										
228	E10	201007	检测	10.4	2	检测点内	无盖										
229	E10	201007	检测	22.5	2	检测点内	无盖										类别:打猎物
230	E10	201007	检测	10.1	2~3	检测	无盖										
231	E10	201007	检测	4.9	2~3	检测	无盖										类别:打猎物-无盖?
232	E10	201007	检测	21.7	3	检测	无盖										
233	E10	201007	检测	10.6	2~3	检测点内	无盖?										
234	E10	201007	检测	12.1	1~2	检测	无盖?										
235	E10	201007	检测	10.4	2~3	检测	无盖				0						
236	E10	201007	检测	10.5	1~2	检测点内	无盖										
237	E10	201007	检测	12.7	2	检测	无盖										
238	E10	201007	检测	10.1	1~2	检测	无盖?				0						
239	E10	201007	检测	1.3	1~2	检测点内	无盖										
240	E10	201007	检测	10.1	3	检测	无盖										类别:打猎物
241	E10	201007	检测	12.4	2~3	检测	无盖										类别:打猎物
242	E10	201007	检测	12.9	3	检测	无盖				0						
243	E10	201007	检测	5.6	1~2	检测点内	无盖										
244	E10	201007	检测	7.9	2	检测	无盖				0						
245	E10	201007	检测	6.5	1~2	检测点内	无盖				0						
246	E10	201007	检测	7.1	3	检测	无盖				0						
247	E10	201007	检测	6.5	2~3	检测	无盖										
248	E10	201007	检测	4.3	3	检测	无盖				0						无盖无盖
249	E10	201007	检测	11.9	1~2	检测点内	无盖										
250	E10	201007	检测	7.9	1~2	检测点内	无盖				0						
251	E10	201007	检测	6.5	2	检测点内	无盖				0						
252	E10	201007	检测	1.5	3	检测点内	无盖				0						
253	E10	201007	检测	11.1	2~3	检测	无盖?										
254	E10	201007	检测	7.5	1~2	检测	无盖				0						
255	E10	201007	检测	1.5	2~3	检测点内	无盖				0						
256	E10	201007	检测	10.1	1~2	检测点内	无盖				0						无盖无盖
257	E10	201007	检测	1.7	1~2	检测点内	无盖?				0						
258	E10	201007	检测	6.3	1	检测	无盖				0						
259	E10	201007	检测	1.6	2	检测	无盖				0						
260	E10	201007	检测	6.1	2~3	检测	无盖				0						
261	E10	201007	检测	6.3	1~2	检测	无盖				0						
262	E10	201007	检测	1.6	2~3	检测	无盖				0						
263	E10	201007	检测	1.6	2~3	检测	无盖				0						
264	E10	201007	检测	6.9	3	检测	无盖				0						类别:打猎物
265	E10	201007	检测	7.2	1~2	检测点内	无盖				0						
266	E10	201007	检测	1.9	1~2	检测	无盖				0						
267	E10	201007	检测	4.5	2~3	检测	无盖				0						
268	E10	201007	检测	3.7	2	检测	无盖				0						
269	E10	201007	检测	1.0	2~3	检测点内	无盖				0						
270	E10	201007	检测	4.7	3~4	检测点内	无盖?				0						
271	E10	201007	检测	4.4	2~3	检测	无盖				0						
272	E10	201007	检测	6.5	2~3	检测	无盖				0						
273	E10	201007	检测	3.0	1~2	检测	无盖				0						
274	E10	201007	检测	1.9	2	检测	无盖				0						
275	E10	201007	检测	1.6	2	检测	无盖				0						
276	E10	201007	检测	1.4	1~2	检测	无盖				0						
277	E10	201007	检测	2.2	2~3	检测	无盖				0						
278	E10	201007	检测	7.5	2~3	检测	无盖				0						类别:打猎物
279	E10	201007	检测	1.1	2	检测	无盖				0						
280	E10	201007	检测	3.5	2	检测	无盖				0						
281	E10	201007	检测	2.3	2~3	检测点内	无盖				0						
282	E10	201007	检测	2.0	3	检测	无盖				0						
283	E10	201007	检测	1.4	1~2	检测	无盖				0						
284	E10	201007	检测	1.9	3	检测	无盖				0						

清洲城下町遺跡V

番号	発掘区	発掘層	層別	位置(A)	面積	形状	完工	用途	小石	遺物種類	基礎	形状	平土	備考
186	E10	S2707	焼物	2.2	2	楕円	瓦葺?							
186	E10	S2707	焼物	1.8	2	楕円	瓦葺		○					
187	E10	S2707	焼物	2.2	1	楕円	瓦葺							
186	E10	S2707	焼物	2.4	2	楕円	瓦葺		○					焼物付遺物有
188	E10	S2707	焼物	2.2	2	楕円	瓦葺		○					
189	E10	S2707	焼物	2.2	2	楕円	瓦葺		○					
190	E10	S2707	焼物	2.2	2	楕円	瓦葺		○					
191	E10	S2707	焼物	2.2	2	楕円	瓦葺		○					
192	E10	S2707	焼物	2.2	2~3	楕円	瓦葺		○					高橋瓦土 焼物付遺物有
193	E10	焼物	焼物	119.2	3	楕円	瓦葺		○					
194	E10	S2401	焼物	295.4	3	楕円	瓦葺			○				
195	E10	S2401	焼物	5.4	1	楕円	瓦葺			○		○	○	
196	E10	S2401	焼物	6.7	1~2	楕円四角	瓦葺			○			○	
197	E10	S47	焼物	6.4	1	楕円	瓦葺		○	○		○	○	
198	E10	焼物	焼物	67.4	2~3	楕円四角	瓦葺		○	○				
199	E10	焼物	焼物	72.5	3	楕円	瓦葺							焼物有?
200	E10	焼物	焼物	71.9	1	楕円	瓦葺					○		中環堀に付属?
201	E10	焼物	焼物	24.0	2	楕円四角	瓦葺		○					
202	E10	焼物	焼物	47.7	3~4	楕円	瓦葺							焼物有?
203	E10	焼物	焼物	31.0	3	楕円	瓦葺							焼物有?
204	E10	焼物	焼物	19.1	3	楕円四角	瓦葺							焼物有?
205	E10	焼物	焼物	4.5	2~3	楕円四角	瓦葺							焼物有?
206	E10	焼物	焼物	4.7	1	楕円四角	瓦葺							
207	E10	焼物	焼物	3.2	1~2	楕円四角	瓦葺							
208	E10	焼物	焼物	1.0	1~2	楕円四角	瓦葺							中石
209	E10	焼物	焼物	14.7	1~2	楕円	瓦葺?	○	○					
210	E10	焼物	焼物	3.7	1~2	楕円	瓦葺	○	○	○		○	○	
211	E10	S2313	焼物	15.0	3	楕円	瓦葺							瓦葺多土(瓦)
212	E10	焼物	焼物	49.3	3~4	楕円四角	瓦葺							焼物付遺物有
213	E10	焼物	焼物	27.1	1~2	楕円四角	瓦葺		○					中環堀付遺物有、10%に付属
214	E10	焼物	焼物	3.4	2	楕円	瓦葺		○					瓦葺多土(瓦)
215	E10	S47	焼物	57.9	2~3	楕円	瓦葺			○				焼物付遺物有
216	E10	S2401	焼物	25.2	2~3	楕円	瓦葺		○	○				中環堀をめぐって付属
217	E10	S2313	焼物	71.1	0~2	楕円	瓦葺					○		瓦葺多土(瓦)
218	E10	S2314	焼物	19.9	1~2	楕円	瓦葺							瓦葺多土(瓦)
219	E10	-	焼物	14.2	3	楕円	瓦葺			○				瓦葺多土(瓦)
220	E10	焼物	焼物	104.0	2~3	楕円	瓦葺?	○	○					
221	E10	焼物	焼物	12.2	2	楕円	瓦葺							焼物付遺物有、10%に付属
222	E10	焼物	焼物	11.9	1~2	楕円	瓦葺		○					
223	E10	S2411	焼物	48.4	2~3	楕円	瓦葺?	○	○					焼物付遺物有
224	E10	S2411	焼物	21.0	3	楕円	瓦葺				○			瓦葺多土(瓦)
225	E10	S2411	焼物	4.5	3	楕円	瓦葺							
226	E10	S2411	焼物	141.7	3~4	楕円	瓦葺			○				瓦葺多土(瓦)
227	E10	S2411	焼物	4.3	2	楕円	瓦葺			○			○	
228	E10	S2411	焼物	19.3	0	楕円四角	瓦葺?	○	○		○			中環堀付遺物有 高橋瓦土(瓦)
229	E10	S2411	焼物	74.7	2	楕円四角	瓦葺?	○	○					瓦葺多土(瓦)
230	E10	S2411	焼物	67.9	3	楕円	瓦葺			○		○		
231	E10	S2411	焼物	26.4	2	楕円	瓦葺			○			○	
232	E10	S2411	焼物	21.4	2~3	楕円四角	瓦葺			○				
233	E10	S2411	焼物	55.1	2~3	楕円四角	瓦葺?	○	○					焼物付遺物有
234	E10	S2411	焼物	22.1	2~3	楕円	瓦葺			○				
235	E10	S2411	焼物	148.5	3	楕円	瓦葺			○		○		
236	E10	S2411	焼物	14.5	2	楕円	瓦葺			○			○	
237	E10	S2411	焼物	16.5	3	楕円四角	瓦葺?	○			○			焼物付遺物有
238	E10	S2411	焼物	29.2	2~3	楕円	瓦葺							瓦葺多土(瓦)
239	E10	S2411	焼物	14.9	2	楕円四角	瓦葺			○				
240	E10	S2411	焼物	22.7	2~3	楕円	瓦葺			○			○	
241	E10	S2411	焼物	67.7	3	楕円	瓦葺?	○	○		○			
242	E10	S2411	焼物	4.0	0~1	楕円	瓦葺					○		中環堀に付属?
243	E10	S2411	焼物	4.9	2	楕円四角	瓦葺?	○					○	
244	E10	S2411	焼物	74.0	3	楕円	瓦葺?	○			○			
245	E10	S2411	焼物	14.0	1~2	楕円四角	瓦葺			○				焼物付遺物有
246	E10	S2411	焼物	12.1	2	楕円四角	瓦葺			○				焼物付遺物有
247	E10	S47	焼物	1.2	3	楕円	瓦葺							瓦葺多土(瓦)
248	E10	S47	焼物	21.0	2	楕円	瓦葺?	○				○		瓦葺多土(瓦)
249	E10	S47	焼物	11.0	3	楕円四角	瓦葺							瓦葺多土(瓦) 焼物?
250	E10	S47	焼物	4.1	2~3	楕円	瓦葺							焼物付遺物有
251	E10	S47	焼物	72.1	2~3	楕円	瓦葺?	○	○		○			瓦葺多土(瓦)
252	E10	S47	焼物	47.0	3~4	楕円	瓦葺?	○	○		○			
253	E10	S47	焼物	130.0	2~3	楕円四角	瓦葺			○				焼物付遺物有
254	E10	S47	焼物	4.1	2~3	楕円	瓦葺			○		○		
255	E10	S47	焼物	25.1	2~3	楕円四角	瓦葺			○				焼物付遺物有



序号	品名	来源	重量(g)	规格	形状	性状	类别	小包装	植物来源	来源	产地	生产日期	备注
331	BC	197	13.9	1~2	薄片	灰黑	0	0	0			0	
332	BC	-	11.9	3	薄片	灰黑	0	0				0	
333	BC	-	1.5	2~3	薄片	灰黑	0	0				0	
334	BC	-	1.8	3	薄片	灰黑	0	0				0	
335	BC	散装	21.7	1~2	薄片(压)	灰黑?	0					0	
336	BD	散装	18.1	3	薄片	灰黑?	0	0				0	鉴别材料少量有
337	BD	散装	4.9	2	薄片	灰黑?	0					0	
338	BD	散装	4.8	2	薄片	灰黑	0	0				0	鉴别材料有
339	BD	197	1.8	2	薄片	灰黑	0					0	鉴别材料有
340	BD	197	237.9	2~3	薄片	灰黑?	0		0			0	鉴别材料有
341	BD	散装	13.5	3	薄片	灰黑?	0					0	鉴别材料有
342	BD	散装	25.1	2~3	薄片(压)	灰黑	0					0	鉴别材料有
343	BD	散装	128.5	2~3	薄片	灰黑?	0					0	鉴别材料有
344	BD	散装	28.6	3	薄片	灰黑	0					0	鉴别材料有
345	BD	散装	28.1	1~2	薄片	灰黑	0	0				0	
346	BD	散装	128.6	2~3	薄片(压)	灰黑?	0		0			0	
347	BD	散装	28.9	2	薄片	灰黑?	0			0		0	
348	BD	BD11	14.6	2	薄片	灰黑	0	0			0	0	鉴别材料有
349	BD	BD11	1.7	1~3	薄片	灰黑	0	0			0	0	鉴别材料有
350	BD	BD16	11.6	2	薄片	灰黑?	0	0			0	0	
351	BD	BD16	1.9	0	薄片	灰黑	0	0	0		0	0	鉴别, 鉴别材料有 成分: 工业-酒精
352	BD	BD16	1.5	1~2	薄片	灰黑?	0				0	0	
353	BD	BD16	4.8	1~2	薄片	灰黑?	0				0	0	
354	BD	BD18	21.1	2	薄片	灰黑	0	0			0	0	
355	BD	BD18	25.5	2	薄片(压)	灰黑	0				0	0	
356	BD	BD18	288.9	1~2	薄片	灰黑	0	0			0	0	
357	BD	BD18	288.4	2~4	薄片(压)	灰黑	0				0	0	
358	BD	BD18	51.7	2	薄片	灰黑	0	0			0	0	
359	BD	BD18	11.7	2	薄片	灰黑	0				0	0	
360	BD	BD18	24.9	3	薄片(压)	灰黑	0	0			0	0	
361	BD	BD18	1.7	2	薄片	灰黑	0	0			0	0	鉴别?
362	BD	BD18	47.9	1~2	薄片	灰黑	0	0			0	0	鉴别材料有
363	BD	197	1.5	1	薄片	灰黑	0				0	0	
364	BD	-	0.6	2~3	薄片	灰黑	0	0	0		0	0	
365	BD	-	27.4	1~2	薄片	灰黑	0			0	0	0	
366	BD	-	24.9	1	薄片	灰黑	0			0	0	0	
367	BD	-	0.5	2	薄片	灰黑	0	0	0		0	0	
368	BD	散装	18.9	1	薄片	灰黑	0			0	0	0	
369	BD	散装	81.6	3~4	薄片	灰黑?	0	0			0	0	鉴别材料有
370	BD	散装	81.4	3	薄片	灰黑?	0				0	0	
371	BD	散装	124.9	3	薄片	灰黑	0				0	0	
372	BD	散装	124.8	3	薄片	灰黑	0	0	0		0	0	
373	BD	散装	148.7	2	薄片	灰黑?	0				0	0	
374	BD	散装	18.7	2	薄片(压)	灰黑	0		0		0	0	
375	BD	散装	21.2	2	薄片	灰黑	0				0	0	鉴别材料有 鉴别?
376	BD	散装	25.3	3	薄片	灰黑	0				0	0	鉴别材料有
377	BD	BD17	4.1	2	薄片	灰黑	0				0	0	
378	BD	BD17	3.6	1~2	薄片	灰黑	0	0			0	0	
379	BD	散装	14.1	2~3	薄片	灰黑	0	0	0		0	0	鉴别材料有
380	BD	散装	07.7	1~2	薄片(压)	灰黑?	0				0	0	
381	BD	散装	4.1	2	薄片	灰黑	0			0	0	0	鉴别材料有 鉴别材料有 1H-2 鉴别
382	BD	散装	11.2	3	薄片	灰黑	0		0		0	0	
383	BD	BD10	7.9	2~3	薄片	灰黑	0				0	0	鉴别材料有
384	BD	BD10	22.2	3	薄片(压)	灰黑	0	0	0		0	0	鉴别材料有
385	BD	BD10	11.9	2~3	薄片	灰黑	0				0	0	
386	BD	散装	4.2	3	薄片	灰黑	0				0	0	鉴别材料有
387	BD	散装	127.7	3	薄片	灰黑	0	0			0	0	鉴别材料有
388	BD	散装	124.5	0	薄片	灰黑?	0				0	0	鉴别材料有
389	BD	散装	11.7	0	薄片(压)	灰黑?	0				0	0	鉴别材料有
390	BD	散装	17.4	0	薄片(压)	灰黑?	0				0	0	鉴别材料有
391	BD	散装	1.5	0	薄片	灰黑?	0				0	0	鉴别材料有
392	BD	散装	7.9	0~1	薄片	灰黑	0			0	0	0	鉴别材料有
393	BD	散装	8.9	0~1	薄片	灰黑	0				0	0	鉴别材料有
394	BD	散装	1.9	1~2	薄片	灰黑	0				0	0	鉴别材料有
395	BD	BD10	154.4	3	薄片	灰黑?	0	0			0	0	鉴别材料有
396	BD	BD10	28.1	1~2	薄片	灰黑	0				0	0	鉴别材料有
397	BD	197	11.2	3	薄片	灰黑	0				0	0	鉴别, 鉴别材料有
398	BD	-	81.3	3	薄片	灰黑?	0				0	0	鉴别材料有
399	BD	散装	24.2	0	薄片(压)	灰黑	0				0	0	鉴别, 鉴别材料有
400	BD	散装	11.4	1~2	薄片(压)	灰黑	0	0			0	0	鉴别材料有
401	BD	散装	81.4	3	薄片	灰黑	0				0	0	鉴别材料有

番号	調査区	発見種別	種類	数量(個)	数量(組)	形状	文文	用途	小石	動物骨	土器	貨幣	その他	備考	分布状況	備考
407	5/A	S0010	磁器	14.4	3	磁器(扁平)	文器	文器	○							
408	5/A	S0011	磁器	107.2	3	磁器	文器	文器	○							
409	5/A	S0012	磁器	4.7	2	磁器	文器	文器	○							成分・組織・X線・写真
410	5/A	S0013	磁器	7.4	2	磁器	文器	文器	○	○					○	
411	5/A	S0015	磁器	207.5	2~3	磁器	文器?	文器?	○	○						
412	5/A	S0015	磁器	155.4	2~3	磁器	文器	文器	○	○						
413	5/A	S0019	磁器	48.2	1~2	磁器	文器	文器	○							調査多(不明) 磁器?
414	5/A	S0019	磁器	39.5	2~3	磁器	文器?	文器?	○						○	調査多(不明)
415	5/A	S0019	磁器	4.7	1	磁器(扁平)	文器	文器	○							
416	5/A	S0019	磁器	49.6	2	磁器(扁平)	文器	文器	○							
417	5/A	S0017	磁器	5.6	1~2	磁器	文器	文器	○	○					○	
418	5/A	S0018	磁器	4.0	2~3	磁器	文器?	文器?	○							動物(骨)骨物
419	5/A	S0018	磁器	130.9	2~3	磁器	文器	文器	○							調査多(不明)
420	5/A	S0018	磁器	130.9	2~3	磁器	文器	文器	○							調査多(不明)
421	5/A	S0018	磁器	2.6	3	磁器	文器	文器	○							調査多(不明)
422	5/A	S0017	磁器	14.7	2~3	磁器	文器?	文器?	○							調査多(不明)
423	5/A	S0015	磁器	19.4	3	磁器	文器?	文器?	○							調査多(不明)
424	5/A	S0017	磁器	21.4	2	磁器	文器	文器	○	○						
425	5/A	S0017	磁器	5.0	3	磁器	文器	文器	○						○	○
426	5/A	S0017	磁器	19.8	3	磁器	文器	文器	○	○						成分・組織・X線・写真
427	5/A	S0019	磁器	2.0	1	磁器	文器	文器	○							
428	5/A	S0018	磁器	42.7	1~3	磁器	文器	文器	○	○						
429	5/A	S0018	磁器	36.1	3	磁器	文器	文器	○							
430	5/A	S01-11	磁器	31.2	2	磁器(円筒)	文器?	文器?	○							
431	5/A	S01-11	磁器	38.2	2~3	磁器	文器?	文器?	○							調査多(不明)
432	5/A	S01-11	磁器	18.5	3~4	磁器(扁平)	文器	文器	○							
433	5/A	S01-11	磁器	68.1	2~3	磁器	文器	文器	○	○						
434	5/A	S01-11	磁器	22.5	2~3	磁器	文器	文器	○	○						
435	5/A	S01-11	磁器	38.4	2~3	磁器	文器	文器	○	○						
436	5/A	S01-11	磁器	81.7	2~3	磁器	文器	文器	○	○						調査多(不明)
437	5/A	S01-11	磁器	7.5	2~3	磁器(扁平)	文器?	文器?	○	○						調査多(不明)
438	5/A	S01-11	磁器	27.2	2	磁器(扁平)	文器	文器	○	○						
439	5/A	S01-11	磁器	69.4	2	磁器(扁平)	文器	文器	○	○						
440	5/A	S01-11	磁器	51.9	2~3	磁器(扁平)	文器	文器	○	○						
441	5/A	S01-11	磁器	18.7	3	磁器	文器	文器	○	○						
442	5/A	S01-11	磁器	15.4	1~3	磁器	文器	文器	○	○					○	
443	5/A	S01-11	磁器	158.7	3	磁器	文器	文器	○	○						
444	5/A	S01-11	磁器	64.2	1~2	磁器	文器	文器	○	○					○	○
445	5/A	S01-11	磁器	25.1	2~3	磁器	文器?	文器?	○							調査多(不明)
446	5/A	S01-11	磁器	4.1	3	磁器	文器?	文器?	○							調査多(不明)
447	5/A	S01-11	磁器	8.0	2~3	磁器	文器	文器	○	○						○
448	5/A	S01-11	磁器	8.1	2~3	磁器	文器?	文器?	○							調査多(不明)
449	5/A	S01-11	磁器	12.3	2~3	磁器	文器	文器	○							
450	5/A	S01-11	磁器	22.1	2~3	磁器	文器?	文器?	○							調査多(不明)
451	5/A	S01-11	磁器	24.6	2~3	磁器	文器?	文器?	○							調査多(不明)
452	5/A	S01-11	磁器	8.8	1~2	磁器	文器	文器	○							○
453	5/A	S01-11	磁器	7.1	2	磁器	文器	文器	○							調査多(不明)
454	5/A	S01-11	磁器	48.8	0	磁器	文器?	文器?	○	○						付着
455	5/A	S01-11	磁器	8.1	3	磁器(扁平)	文器	文器	○							成分・組織
456	5/A	S01-11	磁器	18.6	2~3	磁器(円筒)	文器	文器	○	○						○
457	5/A	S01-11	磁器	20.8	1~2	磁器(円筒)	文器	文器	○	○						○
458	5/A	S01-11	磁器	17.1	2	磁器	文器?	文器?	○							調査多(不明) 磁器?
459	5/A	S01-11	磁器	10.6	2~3	磁器(扁平)	文器	文器	○							調査多(不明) 磁器?
460	5/A	S01-11	磁器	11.4	2	磁器(扁平)	文器	文器	○							磁器?
461	5/A	S01-11	磁器	42.9	1~2	磁器	文器	文器	○	○						○
462	5/A	S01-11	磁器	62.5	2	磁器	文器	文器	○	○						
463	5/A	S01-11	磁器	1.7	3	磁器	文器	文器	○	○						
464	5/A	S01-11	磁器	24.6	2~3	磁器	文器	文器	○							空白(骨)骨物? 調査多(不明)
465	5/A	S01-11	磁器	21.8	1~2	磁器	文器	文器	○							
466	5/A	S01-11	磁器	218.7	2~3	磁器	文器?	文器?	○	○						調査多(不明) 磁器?
467	5/A	S01-11	磁器	61.2	2~3	磁器(扁平)	文器?	文器?	○							調査多(不明)
468	5/A	S01-11	磁器	18.9	2	磁器	文器	文器	○							○
469	5/A	S01-11	磁器	28.6	2~3	磁器(扁平)	文器	文器	○	○						調査多(不明)
470	5/A	S01-11	磁器	1.8	2	磁器	文器	文器	○							○
471	5/A	S01-11	磁器	27.7	3~4	磁器	文器?	文器?	○							調査多(不明)
472	5/A	S01-11	磁器	18.4	1~2	磁器	文器	文器	○							
473	5/A	S01-11	磁器	24.8	2~3	磁器	文器	文器	○							
474	5/A	S01-11	磁器	27.2	3	磁器(円筒)	文器	文器	○							○
475	5/A	S01-11	磁器	17.4	2	磁器	文器	文器	○							小片多数 磁器?
476	5/A	S01-11	磁器	8.6	2	磁器	文器	文器	○							磁器?
477	5/A	S01-11	磁器	143.8	2~4	磁器(扁平)	文器	文器	○							調査多(不明)
478	5/A	S01-11	磁器	11.1	2	磁器	文器	文器	○							成分・組織・X線・写真

序号	测点号	测点名称	种类	数量(m)	测深(m)	层号	层名	层厚	小层号	层厚(m)	层名	层厚	层名	层厚	备注
480	35A	28179	砂层	21.5	2	砂层	灰黄	0		0					
481	35A	28179	砂层	42.4	2	砂层	灰黄	0		0					灰白色砂质粉土
482	35A	28177	砂层	14.9	2~3	砂层	灰黄	0	0						夹中砂质粉土
483	35A	28180	砂层	22.7	3	砂层	灰黄	0							
484	35A	28183	砂层	12.5	3	砂层	灰黄?								层多夹中砂 裂隙?
485	35A	28187	砂层	61.5	2~3	砂层	灰黄	0							夹中砂质粉土
486	35A	28187	砂层	4.9	1~2	砂层	灰黄	0	0						夹中砂质粉土 成分: 细砂、中砂
487	35A	28187	砂层	14.2	2	砂层	灰黄?								层多夹中砂 裂隙?
488	35A	28188	砂层	47.2	2	砂层	灰黄	0							
489	35A	28194	砂层	4.9	0	砂层	灰黄?								层多夹中砂
490	35A	28192	砂层	61.7	2~3	砂层	灰黄?	0	0	0					成分: 中砂、细砂
491	35A	28192	砂层	2.4	2~3	砂层	灰黄								成分: 细砂、中砂、中粗砂
492	35A	192	砂层	22.1	2	砂层	灰黄	0	0	0	0				层多夹中砂
493	35A	192	砂层	25.2	2~3	砂层	灰黄	0	0	0	0				
494	35A	192	砂层	24.3	2	砂层	灰黄	0	0	0	0				
495	35A	192	砂层	25.9	2~3	砂层	灰黄?								中砂层
496	35A	192	砂层	49.9	2~3	砂层	灰黄								中砂层
497	35A	--	砂层	46.2	2	砂层	灰黄								中砂层
498	35A	--	砂层	114.2	2~3	砂层	灰黄?	0		0					夹中砂质粉土 成分: 细砂、中砂、中粗砂
499	35A	--	砂层	3.1	3	砂层	灰黄?								层多夹中砂 裂隙?
500	35A	--	砂层	2.4	2~3	砂层(夹)	灰黄	0	0						
501	35A	--	砂层	28.1	2~3	砂层	灰黄	0	0						层多夹中砂
502	35A	--	砂层	4.4	2~3	砂层	灰黄								中心点砂质粉土 层多夹中砂
503	35A	--	砂层	114.1	2	砂层	灰黄?								中砂层
504	35A	测头	砂层	4.4	1~2	砂层(夹)	灰黄	0	0						
505	35A	测头	砂层	71.5	2	砂层	灰黄								
506	35A	测头	砂层	2.4	3	砂层	灰黄								中砂层
507	35A	测头	砂层	14.4	2	砂层	灰黄								层多夹中砂
508	35A	测头	砂层	11.4	2~3	砂层	灰黄?	0	0						层多夹中砂 裂隙?
509	35A	测头	砂层	21.2	3	砂层	灰黄								中砂层
510	35A	测头	砂层	14.4	1~2	砂层	灰黄								层多夹中砂 裂隙?
511	35A	测头	砂层	4.4	1	砂层	灰黄	0	0						层多夹中砂
512	35A	测头	砂层	21.9	1~2	砂层	灰黄	0	0						层多夹中砂
513	35A	测头	砂层	3.1	1~2	砂层	灰黄?								层多夹中砂
514	35A	测头	砂层	22.4	2	砂层(夹)	灰黄	0	0						
515	35A	测头	砂层	12.8	2~3	砂层	灰黄								
516	35A	测头	砂层	21.7	1~2	砂层	灰黄	0	0						
517	35A	测头	砂层	17.1	2	砂层	灰黄								
518	35A	测头	砂层	18.1	2	砂层	灰黄	0							
519	35A	测头	砂层	4.2	1~2	砂层	灰黄	0							层多夹中砂
520	35A	测头	砂层	4.1	2	砂层	灰黄								层多夹中砂
521	35A	测头	砂层	18.1	2~3	砂层	灰黄?	0							层多夹中砂
522	35A	测头	砂层	28.4	2~3	砂层	灰黄								层多夹中砂
523	35A	测头	砂层	4.2	1~2	砂层	灰黄	0	0						
524	35A	测头	砂层	11.4	1~2	砂层	灰黄	0	0						层多夹中砂
525	35A	测头	砂层	6.4	1~2	砂层	灰黄								层多夹中砂
526	35A	测头	砂层	2.2	2~3	砂层	灰黄								层多夹中砂
527	35A	测头	砂层	12.4	2~3	砂层	灰黄								层多夹中砂 裂隙?
528	35A	测头	砂层	107.1	2~3	砂层	灰黄	0	0	0					层多夹中砂
529	35A	测头	砂层	61.5	2~3	砂层(夹)	灰黄	0	0	0					
530	35A	测头	砂层	22.7	2~3	砂层	灰黄								层多夹中砂
531	35A	测头	砂层	46.4	3~4	砂层	灰黄?								裂隙?
532	35A	测头	砂层	17.1	3~4	砂层	灰黄								裂隙?
533	35A	测头	砂层	18.4	2	砂层	灰黄								层多夹中砂
534	35A	测头	砂层	17.1	2	砂层	灰黄	0							
535	35A	测头	砂层	17.4	2	砂层	灰黄	0	0						层多夹中砂
536	35A	测头	砂层	12.4	2	砂层(夹)	灰黄	0	0	0					
537	35A	测头	砂层	52.4	2~3	砂层	灰黄								层多夹中砂 裂隙?
538	35A	测头	砂层	21.4	2~3	砂层	灰黄	0	0						裂隙?
539	35A	测头	砂层	45.9	3	砂层	灰黄	0							
540	35A	测头	砂层	104.1	2	砂层	灰黄	0	0	0					层多夹中砂
541	35A	测头	砂层	113.4	2~3	砂层	灰黄?	0	0	0					层多夹中砂
542	35A	测头	砂层	34.2	2~3	砂层	灰黄	0	0	0	0				
543	35A	测头	砂层	2.4	1	砂层(夹)	灰黄								
544	35A	测头	砂层	2.4	3	砂层	灰黄	0	0						
545	35A	测头	砂层	45.4	2~3	砂层	灰黄	0	0						
546	35A	测头	砂层	14.5	2~3	砂层(夹)	灰黄?	0							
547	35A	测头	砂层	11.1	3	砂层(夹)	灰黄?								
548	35A	测头	砂层	14.4	1~2	砂层	灰黄	0	0						
549	35A	测头	砂层	55.7	2~3	砂层(夹)	灰黄								层多夹中砂
550	35A	测头	砂层	18.1	2	砂层(夹)	灰黄	0	0						

番号	遺跡区	発掘層	層別	層数(高)	埋藏状況	形状	方位	面積	小口積	埋物種類	土表	浮出	石工工	備考
139	ⅡA	埋藏	埋藏	2.4	1-3	埋藏	支那	0	0	0		0	0	発出埋物有り
170	ⅡA	埋藏	埋藏	18.3	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
171	ⅡA	埋藏	埋藏	25.3	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
172	ⅡA	埋藏	埋藏	71.3	1-3	埋藏	支那	0	0	0			0	埋藏?
173	ⅡA	埋藏	埋藏	79.3	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
174	ⅡA	埋藏	埋藏	66.3	1-4	埋藏	支那	0	0	0		0		埋藏多(不明) 埋藏?
175	ⅡA	埋藏	埋藏	15.3	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
176	ⅡA	埋藏	埋藏	15.3	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明) 埋藏?
177	ⅡA	埋藏	埋藏	18.4	1-4	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
178	ⅡA	埋藏	埋藏	115.1	1-4	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
179	ⅡA	埋藏	埋藏	20.3	1	埋藏	支那	0	0	0		0		埋藏多(不明)
180	ⅡA	埋藏	埋藏	100.3	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
181	ⅡA	埋藏	埋藏	18.3	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
182	ⅡA	埋藏	埋藏	200.4	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明) 成分・埋藏・土器・瓦類
183	ⅡA	埋藏	埋藏	47.3	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
184	ⅡA	埋藏	埋藏	85.1	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
185	ⅡA	埋藏	埋藏	8.7	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
186	ⅡA	埋藏	埋藏	18.4	1-2	埋藏	支那	0	0	0		0		埋藏多(不明)
187	ⅡA	埋藏	埋藏	117.7	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
188	ⅡA	埋藏	埋藏	240.5	1-4	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
189	ⅡA	埋藏	埋藏	31.1	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明) 埋藏?
190	ⅡA	埋藏	埋藏	52.5	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
191	ⅡA	埋藏	埋藏	71.3	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
192	ⅡA	埋藏	埋藏	15.3	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
193	ⅡA	埋藏	埋藏	18.0	1-3	埋藏	支那	0	0	0			0	埋藏多(不明)
194	ⅡA	埋藏	埋藏	6.7	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
195	ⅡA	埋藏	埋藏	18.1	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
196	ⅡA	埋藏	埋藏	28.3	1-4	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
197	ⅡA	埋藏	埋藏	6.4	1-2	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
198	ⅡA	埋藏	埋藏	14.7	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
199	ⅡA	埋藏	埋藏	75.0	1-3	埋藏	支那	0	0	0				発出・埋藏多(不明)
200	ⅡA	埋藏	埋藏	10.1	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
201	ⅡA	埋藏	埋藏	4.7	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
202	ⅡA	埋藏	埋藏	101.5	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
203	ⅡA	埋藏	埋藏	10.3	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
204	ⅡA	埋藏	埋藏	18.0	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
205	ⅡA	埋藏	埋藏	17.0	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
206	ⅡA	埋藏	埋藏	4.7	1-4	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
207	ⅡA	埋藏	埋藏	14.7	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
208	ⅡA	埋藏	埋藏	12.3	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
209	ⅡA	埋藏	埋藏	102.1	1-2	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
210	ⅡA	埋藏	埋藏	5.5	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
211	ⅡA	埋藏	埋藏	101.1	1-4	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
212	ⅡA	埋藏	埋藏	6.4	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏埋藏?
213	ⅡA	埋藏	埋藏	42.4	1-4	埋藏	支那	0	0	0				発出埋物あり
214	ⅡA	埋藏	埋藏	12.3	1	埋藏	支那	0	0	0				中に埋藏あり?
215	ⅡA	埋藏	埋藏	24.0	1	埋藏	支那	0	0	0				中に埋藏あり?
216	ⅡA	埋藏	埋藏	25.5	0-2	埋藏	支那	0	0	0		0	0	発出埋物有り
217	ⅡA	埋藏	埋藏	20.0	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明) 成分・埋藏・土器
218	ⅡA	埋藏	埋藏	5.4	1	埋藏	支那	0	0	0				石工有り?
219	ⅡA	埋藏	埋藏	52.0	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
220	ⅡA	埋藏	埋藏	17.4	1-2	埋藏	支那	0	0	0		0	0	埋藏多(不明)
221	ⅡA	埋藏	埋藏	17.7	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
222	ⅡA	埋藏	埋藏	40.0	1-4	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明) 埋藏? 成分・埋藏・土器・瓦類
223	ⅡA	埋藏	埋藏	24.4	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
224	ⅡA	埋藏	埋藏	19.0	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
225	ⅡA	埋藏	埋藏	28.1	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
226	ⅡA	埋藏	埋藏	40.5	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
227	ⅡA	埋藏	埋藏	22.1	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
228	ⅡA	埋藏	埋藏	15.0	1-3	埋藏	支那	0	0	0			0	埋藏?
229	ⅡA	埋藏	埋藏	5.1	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
230	ⅡA	埋藏	埋藏	11.7	1-2	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
231	ⅡA	埋藏	埋藏	4.1	1-2	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
232	ⅡA	埋藏	埋藏	42.0	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
233	ⅡA	埋藏	埋藏	7.7	1-2	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
234	ⅡA	埋藏	埋藏	18.1	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏?
235	ⅡA	埋藏	埋藏	12.7	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
236	ⅡA	埋藏	埋藏	18.5	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明) 成分・埋藏・土器・瓦類
237	ⅡA	埋藏	埋藏	2.5	1	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)
238	ⅡA	埋藏	埋藏	1.5	0	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明) 発出埋物?
239	ⅡA	埋藏	埋藏	112.1	1-3	埋藏	支那	0	0	0				埋藏多(不明)

序号	测区名称	测点编号	测点	高程(m)	测深度	岩性	文字	方位	小层号	测物名称	本层	层号	子层号	备注
140	BA	测点	测井	14.4	1	泥平	无层	0				0		
141	BA	测点	测井	11.5	2	泥平	无层	0						
142	BA	测点	测井	4.7	1~2	泥平	无层	0		0		0		
143	BA	测点	测井	17.3	2~3	泥平	无层?	0						测点多土层
144	BA	测点	测井	14.5	2	泥平(层)	无层	0	0					
145	BA	测点	测井	18.3	2~3	泥平	无层	0	0			0		
146	BA	测点	测井	1.7	2	泥平	无层	0	0					
147	BA	测点	测井	1.9	2~3	泥平	无层	0						
148	BA	测点	测井	18.4	2	泥平(层)	无层	0						小层数据
149	BA	测点	测井	14.9	2~3	泥平(层)	无层?	0	0					
150	BA	测点	测井	18.4	2~3	泥平	无层	0	0					测点多土层(测点?)
151	BA	测点	测井	1.7	2~3	泥平	无层	0		0				
152	BA	测点	测井	1.9	3	泥平	无层	0		0				测点多土层
153	BA	测点	测井	1.9	1~2	泥平	无层?	0		0				测点多土层
154	BA	测点	测井	1.6	2~3	泥平	无层	0	0			0		
155	BA	测点	测井	0.7	3	泥平	无层	0						
156	BA	测点	测井	1.5	3	泥平	无层	0	0					小层
157	BA	测点	测井	1.4	3	泥平	无层	0						测点多土层 无层(测物?) 测物?
158	BA	测点	测井	1.7	3	泥平	无层	0						测点多土层 测物?
159	BA	测点	测井	0.9	3	泥平	无层	0						测点多土层 测物?
160	BA	测点	测井	1.1	3	泥平	无层	0						测点多土层 测物?
161	BA	测点	测井	1.4	3	泥平	无层	0		0				测点多土层 测物?
162	BA	测点	测井	1.6	3	泥平	无层	0						测点多土层 测物?
163	BA	测点	测井	1.3	3	泥平	无层	0						测物?
164	BA	测点	测井	18.9	2~3	泥平	无层	0						测点多土层
165	BA	测点	测井	46.7	2	泥平	无层?	0		0				测点多土层
166	BA	测点	测井	18.4	1~2	泥平(层)	无层	0				0	0	
167	BA	测点	测井	4.7	0~2	泥平	无层	0	0					小层数据?
168	BA	测点	测井	1.4	1	泥平	无层	0	0					小层数据?
169	BA	测点	测井	1.3	2	泥平	无层	0						
170	BA	测点	测井	11.6	3	泥平	无层	0						测点多土层
171	BA	测点	测井	14.9	2	泥平	无层	0	0			0		
172	BA	测点	测井	18.7	3	泥平(层)	无层	0	0			0		测点多土层
173	BA	测点	测井	21.1	1~2	泥平	无层?	0						测物(测物?)
174	BA	测点	测井	21.9	2	泥平	无层	0	0			0		测物(测物?)
175	BA	测点	测井	18.7	2	泥平	无层	0	0					
176	BA	测点	测井	167.9	3	泥平	无层	0	0			0		测点多土层
177	BA	测点	测井	166.4	2~3	泥平	无层	0		0				测点多土层
178	BA	测点	测井	21.9	2~3	泥平	无层?	0						
179	BA	测点	测井	137.9	3~4	泥平	无层	0				0		测物(测物?) 测物?
180	BA	测点	测井	11.9	2~3	泥平	无层?	0						测点多土层
181	BA	测点	测井	17.4	3~4	泥平	无层?	0		0				测点多土层
182	BA	测点	测井	18.7	3	泥平	无层	0						测点多土层
183	BA	测点	测井	188.4	2~3	泥平	无层?	0						测点多土层
184	BA	测点	测井	46.1	2~3	泥平	无层	0	0			0		测点多土层
185	BA	测点	测井	14.2	1~3	泥平(层)	无层	0				0	0	测物(测物?)
186	BA	测点	测井	21.4	3	泥平	无层	0						测点多土层 测物?
187	BA	测点	测井	11.6	2~3	泥平	无层?	0						测点多土层
188	BA	测点	测井	4.9	2~3	泥平	无层?	0						测点多土层
189	BA	测点	测井	27.9	2~3	泥平	无层	0	0			0		
190	BA	测点	测井	21.1	3	泥平	无层	0						测点多土层
191	BA	测点	测井	1.3	2~3	泥平	无层	0						测点多土层
192	BA	测点	测井	11.1	3	泥平(层)	无层	0						
193	BA	测点	测井	12.6	2~3	泥平	无层	0						
194	BA	测点	测井	1.6	1~2	泥平	无层	0	0					测物(测物?)
195	BA	测点	测井	11.4	2	泥平(层)	无层	0	0			0		小层数据
196	BA	测点	测井	187.9	1~3	泥平	无层?	0						测点多土层
197	BA	测点	测井	21.6	0~1	泥平	无层	0				0		测物(测物?)
198	BA	测点	测井	1.1	2~3	泥平(层)	无层	0						测物(测物?)
199	BA	测点	测井	0.9	3	泥平	无层?	0						测物, 测物(测物?)
200	BA	测点	测井	7.1	2	泥平	无层	0	0					
201	BA	测点	测井	18.6	1	泥平	无层	0				0		测物, 测物(测物, 测物?) 测物
202	BA	测点	测井	187.4	2~3	泥平	无层?	0	0			0		
203	BA	测点	测井	1.9	3	泥平	无层?	0						测点多土层

第12表 化学成分分析結果一覧表（鉄滓関係）

	T.Fe	M.Fe	FeO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	MgO	TiO <sub>2</sub>	MnO	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	C	V	Cu	C.W
14	47.4	0.11	48.3	14	27	5.43	1.72	0.39	0.3	0.13	0.5	<0.01	1.08	1.61	0.083	0.01	0.001	0.4
30	56.4	0.22	60.1	13.6	15.4	3.18	2.05	0.56	0.06	0.16	0.36	<0.01	0.36	2.53	0.053	0.003	0.041	0.68
44	30.8	0.11	26.7	14.2	48.3	8.16	2.31	0.75	0.24	0.22	0.47	<0.01	1.44	2.98	0.33	0.004	0.002	0.96
65	61.3	0.11	67.1	12.9	12.6	1.94	1.27	0.44	0.02	0.18	0.37	<0.01	0.63	1.3	0.022	0.01	0.002	0.07
106	48	10.7	7.04	45.6	20.7	3.42	0.25	0.09	0.03	0.1	1.44	<0.01	0.61	0.84	0.74	0.004	0.003	5.51
107	46.1	0.35	7.9	56.3	21.6	4.05	0.33	0.18	0.05	0.1	1.13	<0.01	0.69	0.93	0.63	0.003	0.003	5.5
108	19.4	0.22	16.5	9.09	53.6	11	3.3	0.91	0.36	0.23	0.65	0.01	2.2	3.64	0.056	0.003	0.003	0.42
110	46.7	0.11	62.5	12.1	16.7	2.88	1.11	0.35	0.02	0.21	0.65	<0.01	0.56	1.49	0.1	0.013	0.002	0.82
116	57.1	0.11	62.5	12.1	16.7	2.88	1.11	0.35	0.02	0.21	0.65	<0.01	0.56	1.49	0.1	0.013	0.002	0.82
150	56.8	3.69	56.6	15.9	13.3	1.89	1.66	0.28	<0.01	0.15	0.57	<0.01	0.26	1.1	0.42	0.001	0.022	1.21
152	13.6	0.11	7.33	11.1	62.1	12.6	1.59	0.61	0.23	0.18	0.18	<0.01	1.78	3.61	0.027	0.002	0.004	0.24
153	45.3	0.34	44.6	14.7	24.1	4.84	1.95	0.86	0.13	0.33	1.7	<0.01	0.51	3.54	0.44	0.003	0.01	1.04
156	60.3	2.46	58.3	17.9	13.4	2.33	0.69	0.28	0.03	0.12	0.36	<0.01	0.28	0.73	0.3	0.003	0.005	1.1
173	57.4	0.22	64.7	9.88	17.6	2.89	1.84	0.51	0.05	0.13	0.31	<0.01	0.53	1.2	0.023	0.003	0.072	0.24
376	3.45	1.9	2.01	0.01	63.2	14.3	1.86	1.1	0.11	0.24	0.61	0.03	2.97	5.01	0.077	0.001	2.4	0.4
428	61.3	0.67	62.8	16.8	11.9	1.8	0.65	0.37	0.01	0.16	0.86	<0.01	0.34	0.6	0.1	0.006	0.003	1
444	27.3	17.6	4.88	8.45	43.2	9.54	8.61	0.63	0.31	1.12	0.29	0.12	0.35	1.4	2.03	0.023	0.12	1.2
496	57.7	0.45	42.8	34.3	14.4	2.27	0.23	0.18	0.06	0.09	0.48	<0.01	0.29	0.48	0.14	0.004	0.067	2.26
503	44	0.67	34.3	23.9	26.6	5.18	1.03	0.37	0.13	0.39	0.39	<0.01	0.64	1.65	0.2	0.004	0.009	2.54
508	51	0.67	27.9	41	21.2	2.44	0.22	0.16	0.17	0.1	0.23	<0.01	0.23	1.08	0.43	0.034	0.001	3.54
508	54.4	0.67	33.3	17.6	21.4	2.06	0.96	0.21	0.06	0.14	0.18	<0.01	0.16	1.1	0.09	0.006	0.001	1.56
516	58.5	0.45	64	11.9	14.9	2.42	1.54	0.28	0.03	0.12	0.38	<0.01	0.32	0.96	0.12	0.003	0.03	0.98
582	56.3	0.34	57.8	15.8	17.2	3.26	1.69	0.49	0.28	0.19	0.29	<0.01	0.39	1.12	0.097	0.03	0.002	1.15
623	47.7	0.34	54.6	7.06	27.1	4.18	2.69	0.68	0.07	0.18	0.44	<0.01	0.74	1.87	0.059	0.003	0.003	0.64

【分析方法】分析方法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

T.Fe：三塩化チタン還元ニクロム酸カリウム滴定法

M.Fe：原素メタケル分解-EDTA滴定法

FeO：ニクロム酸カリウム滴定法

Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>：計算

C.W：カーネルフイッシャー法

SiO<sub>2</sub>、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、CaO、MgO、TiO<sub>2</sub>MnO、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、K<sub>2</sub>ONa<sub>2</sub>O、Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、V、Cu

：ICP発光分光分析法又は原子吸光法

C：燃焼-赤外線吸収法

SiO<sub>2</sub>、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、CaO、MgO、TiO<sub>2</sub> } ガラスビード蛍光X線分析法MnO、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、K<sub>2</sub>ONa<sub>2</sub>O、Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、V、Cu

：ICP発光分光分析法又は原子吸光法

C：燃焼-赤外線吸収法

第13表 化学成分分析結果一覧表 (鉄塊関係)

	C	Si	Mn	P	S	V	Cu	Ca	Mg	Al	Ni	Ti	Cr	Fe
39	1.05	0.07	<0.01	0.23	0.04	0.027	0.006	0.016	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	残
617	3.37	<0.01	<0.01	0.24	0.09	0.001	0.055	<0.001	<0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	残
622	0.096	0.05	<0.01	0.02	0.1	0.001	0.005	0.005	0.005	0.024	0.001	0.004	0.001	残

【分析方法】 分析方法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

C, S: 燃焼-赤外線吸収法  
 Si, Mn, P: 燃焼-赤外線吸収法  
 V, Cu, Al: ICP発光分光分析法  
 Ni, Ti, Cr

第14表 化学成分分析結果一覧表 (銅塊関係)

	Cu	Sn	Pb	Zn	Sb	As	Nb	Mn	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	MgO	TiO <sub>2</sub>	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	NI	S	P	BI	AE	Loss
28	56.7	0.22	5.71	0.05	0.33	3.23	0.05	0.02	0.6	9.78	1.76	0.77	0.07	0.03	0.42	0.43	0.08	0.21	0.04	<0.01	0.05	4.1
424	35.6	13.4	15	0.05	0.08	0.01	0.01	0.01	2.4	10.6	2.13	5.63	0.33	0.09	0.58	1.36	0.06	0.32	0.04	<0.01	0.02	3.08
473	47.7	6.59	26.7	0.07	0.06	<0.01	<0.01	<0.01	0.5	9.2	1.36	0.34	0.03	0.04	0.22	0.25	0.04	0.55	0.07	<0.01	0.04	2.74

【分析方法】 分析方法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

Cu: 燃焼重量法  
 Sn, As, Nb: ICP発光分光分析法  
 S: 燃焼-赤外線吸収法  
 TiO<sub>2</sub>, SO<sub>2</sub>: ICP発光分光分析法  
 P, Bi: 重量法  
 Pb, Zn, Sb, Mn, Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>: 原子吸光法  
 Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, CaO, MgO: 原子吸光法  
 K<sub>2</sub>O, Ni, Ag

第15表 化学成分分析結果一覧表 (銅塊関係)

	Cu	Sn	Pb	Zn	Sb	As	Nb	Mn	Fe	Si	Al	Ca	Mg	Ti	Na	K	NI	S	P	BI	AE
328	97.7	0.02	0.32	0.01	0.08	0.31	0.01	0.01	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.009	<0.01	<0.01	0.01
507	94.7	0.06	0.51	0.03	0.04	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	<0.001	<0.01	<0.01	0.02

【分析方法】 分析方法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

Cu: 燃焼重量法  
 Sn, As, Nb: ICP発光分光分析法  
 S: 燃焼-赤外線吸収法  
 Si, P, Bi: 原子吸光法  
 Pb, Zn, Sb, Mn, Fe, Al, Ca, Mg: 原子吸光法  
 K, Ni, Ag

第16表 化学成分分析結果一覧表 (銅塊関係)

	Pb	As	Sn	Sb	Zn	Cu	BI	Fe	AE
413	99	0.01	0.03	0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02

【分析方法】 分析方法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

Pb: 容量法 (EDTA測定)  
 As, Sn, Sb: ICP発光分光分析法  
 Zn, Cu, Bi: ICP発光分光分析法  
 Fe, Ag

単位: % (m/m)



製錬鉄滓 (資料 108)



精練鉄滓、原料砂鉄？ (資料 503)



精練鉄滓、原料磁石？ (資料 173)

第110図 鉄滓外觀写真 その1

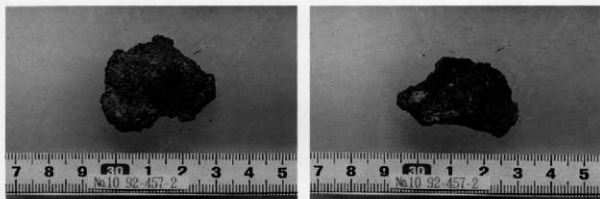




精練純型鉄滓、原料砂鉄？ (資料 14)

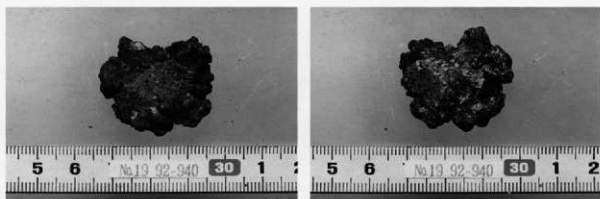


精練純型鉄滓、原料鉱石？ (資料 30)



錆化鉄滓 (資料 39)

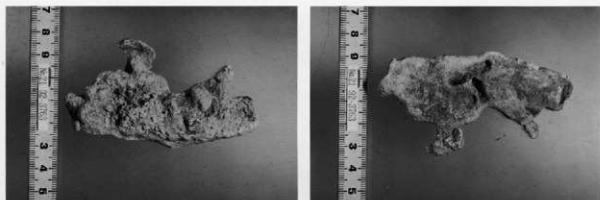
第1111図 鉄滓外觀写真 その2



銅 滓 (資料 328)

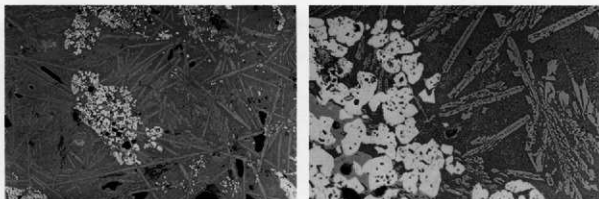


青銅 滓 (資料 473)

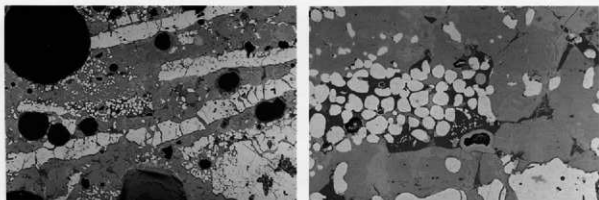


金属 鉛 (資料 413)

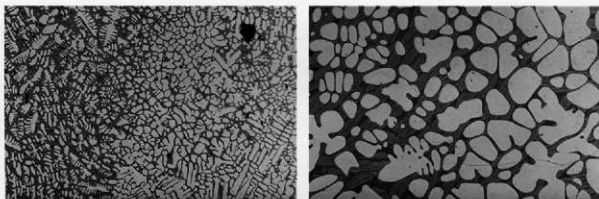
第112図 銅、青銅滓および金属鉛の外観写真



製練鉄滓 (資料 108, 左: 100倍, 右: 400倍)



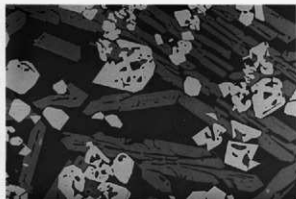
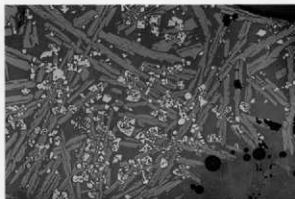
精練鉄滓、原料砂鉄? (資料 503, 左: 100倍, 右: 400倍)



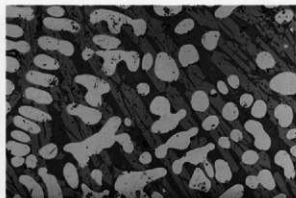
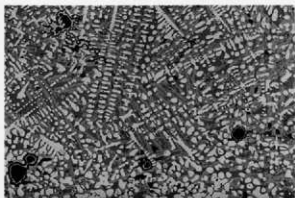
精練鉄滓、原料鉱石? (資料173, 左: 100倍, 右: 400倍)

第113図 鉄滓顕微鏡写真 その1

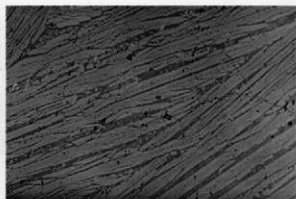
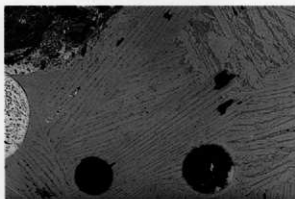
(第113図、第114図とともに掲載の都合上、写真を60%に縮小した)



精練純型鉄滓、原料砂鉄？ (資料14、左：100倍、右：400倍)

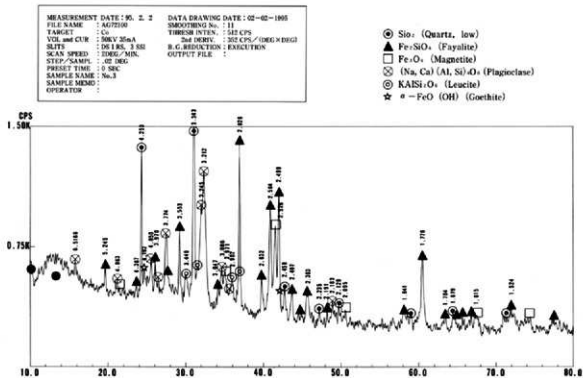


精練純型鉄滓、原料鉱石？ (資料30、左：100倍、右：400倍)

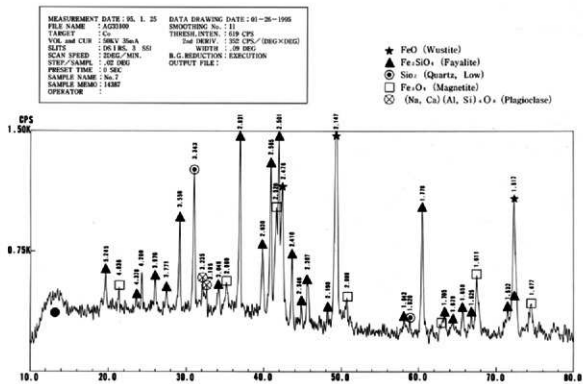


錆化鉄塊 (資料39、左：100倍、右400倍)

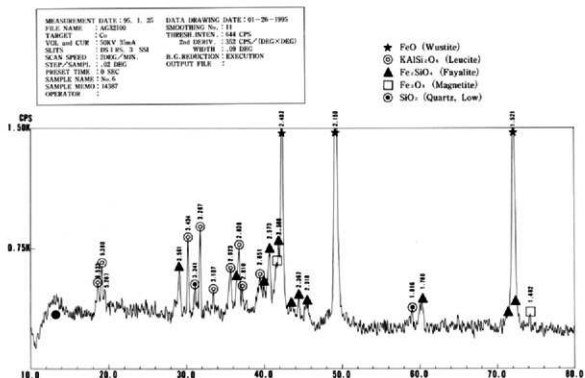
第114図 鉄滓顕微鏡写真 その2



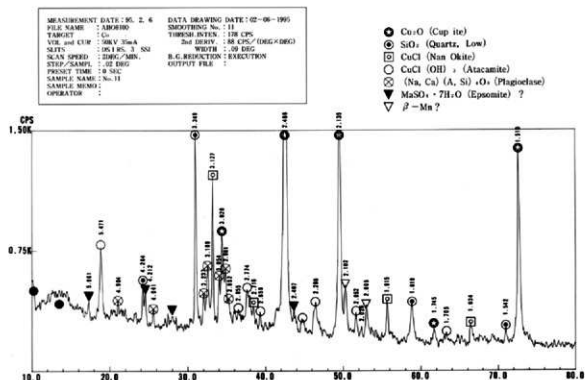
第115図 製練鉄滓 (資料108) のX線回折分析チャート



第116図 精練椀鉄滓 (原料砂鉄? 資料14) のX線回折分析チャート



第117図 精錬何型鉄滓（原料砂鉄？資料 30）のX線回折分析チャート



第118図 銅滓（資料 28）のX線回折分析チャート

## 第4節 人骨に施された傷について

### A はじめに

自然河道(旧五条川)と推測される遺構NR4001から多くの自然遺物とともにヒトの頭蓋骨が出土した。この人骨には刀創と思われる傷が無数に施されている。本論では、この人骨について形態および傷の記載を行う。

### B 資料

本資料は、骨片ごとにやや歪が生じているものの保存状態は良好である。欠損部分は以下の通りである。後頭骨は左最上項線付近から下部、右上項線から下部を欠損する。左側の欠損部の上部には切断面が認められる。右側頭骨は前部の一部と茎状突起などの頭蓋底部分を欠損する。乳様突起は残存する。左側頭骨は前部および頭蓋底部分と乳様突起の先端を欠損するが、左右ともに頬骨は欠損し、頬骨突起のみ残存する。右側頭骨はほぼ全部が残存する。左側頭骨は鱗状縫合および冠状縫合付近を欠損する。ラムダ付近の左右の頭頂骨が一部欠損している。前頭骨は左右側頭線以下を欠損する。顔面の骨はすべて欠損している(第119図)。

本資料の性別は、乳様突起が大きいこと、前頭隆起の間隔が広いこと、眉上丘が発達していること、外後頭突起がよく発達していることから男性と推定される。また年齢については、矢状縫合および冠状縫合が内側のみ癒着し、人字縫合は一部完全に癒着しているが部分的に開離していることから、熟年～老年であると推定される。また、頭蓋最大長が184mm、頭蓋最大幅132mmと計測されることから、長幅示数71.7となり長頭系に属する。また外後頭突起がよく発達していることなど、中世の人骨に見られる特徴を備えている(京都大学霊長類研究所毛利俊雄氏の御教示による)。

### C 損創

本資料は、矢状縫合を頭頂部で左右に横断するものをはじめとする多くの傷が施されている。以下に主な傷について、長さや傷の伸びる方向などを鈴木(1954)に従って記載を行う。

#### ① 上面観で観察される傷

矢状面に対しほぼ垂直に交差する傷は大きなもので4本、小さなものは無数に認められる。

最大のものは、ナジオンより147mm後方の点と左右の耳をむすぶ線上に延びている。創長は175mm、最大幅は12mm、創線角(上面観において正中矢状線となす角度。矢状方向を0度とし、時計周りに進む。)は90度である。頭頂部において外板から内板までを切断している。切断面は少なくとも3面認められる。それぞれの創面角(耳眼水平面となす角度で、左側面観において顔面の方向を0度とする。)は、前方に位置するものから順に40、80、140度である。40度と140度の面をなす創面は、曲面をなしている。創面の観察より、まず前方に傾いた面が形成され、次いで後方に傾く面が、最後にはほぼ正中面をなす面がつけられたと考えられる。また、創線と平行な条線が数本認められる。

矢状面に対して垂直な傷は、大きなもので8本確認することができる。ナジオンからの距離は、前方のものより88、103、132、137、170、173、190、225mmとなり、132mmのものはバジオンを通るものである。創長は18、22、20、14、10、8、12、18mm、創線角は90、95、85、90、80、90、85、70度で

ある。創面角は60-70度をなす。いずれも外板のみを切断する程度の浅いものである。なお、これら前頭骨および右頭頂骨後部に見られる傷の付近には、これらにはほぼ平行に走る無数の小さな条線が観察される。

矢状面に対して水平の傷が、頭蓋骨を切断する傷よりも後方に7本認められる。最も大きいものは、創長60mm、創線角80度、創面角約70度で、矢状縫合を横切っている。外板のみを切断している。断面は左側に傾くV字をなしている。また頭蓋骨を切断している創によって斬られている。

この傷の左右にはそれぞれ3本ずつ合計6本の傷が頭頂面より観察される。

右頭頂骨にあるものは、縫合線より46、47、55mm離れたところに存在する。傷の中心のナジオンからの距離はいずれも175mm程度である。創長はそれぞれ20、32、32mmである。創線角はほぼ0度である。創面角はいずれも測定できないが、断面はいずれも下方に傾いたV字をなしている。

左頭頂骨には31、39、50mmのところ矢状面に対し平行な傷が存在する。それぞれの創長は28、30、40mmである。創線角はほぼ0度である。傷の断面形は上方に傾いたV字をなしている。またこれらの傷と平行になる小さな傷が無数に観察される。

#### ② 右側面観で観察される傷

右側面では、鱗状縫合に沿うように延びる傷が頭頂骨上に多数認められる。まず鱗状縫合の上部付近の頭頂骨に2本認められる。創線角は耳眼線に対してはほぼ10度をなす。創長は頭頂に近いものから50、20mm、いずれも外板のみにつけられた傷で板障には至っていない。断面はV字をなす。またエンタミオンより20mm程度上部には、耳眼面に対し20、10度をなす傷が確認される。創長はともに40mmである。下部の傷はアステリオンの10mm上方からのびており、側頭骨までおよんでいる。いずれも板障までは至っていない。

また鱗状縫合の上部につけられた傷の上方の長径50mm、短径20mmの楕円形をなす範囲には、耳眼面に対し170度をなす細かい条線が認められる。他に側頭骨の道上稜および乳突上稜には擦られたような跡がみられる。また、外耳口の上部には3本の垂直な傷が認められる。創長は前方に位置するものから、7、5、7mmである。傷の断面はいずれも前方に広がったV字をなしている。

#### ③ 左側面観で観察される傷

左側面では、鱗状縫合の部分が欠損しているために大きな傷を正確に捉えることができないが、左側頭骨と左頭頂骨に残された傷の方向から、耳眼面とほぼ平行な方向に大きな傷が存在したと推定される。推定される傷は、人字縫合より約4cm後方から頬骨突起の上方まで延びる創長約45mmのものである。傷の深さは不明であるが、左側頭骨に残る切断面の観察から、外板、板障、内板までを切断している。創線角は約120度、創面角は約60度である。傷の断面はなめらかである。他にエンタミオンの上方に2本の傷が認められる。矢状縫合からの距離は100、110mmである。創長は2本とも40mmで、耳眼線となす角度は170、150度である。またこれらの傷の上にはこれらに平行な条線が多数みられる。

前頭骨の左側頭線付近に小さな平行な傷数本が認められるとともに、擦られて滑らかになっている。小さな傷は創線角70度、耳眼線に対し約50度の角度をなしている。

左右の鱗状縫合付近の傷は、互いに平行ではなくねじれの関係にある。

#### ④ 後頭面観で観察される傷

後頭骨には、先に述べた左側頭骨からのびる傷の他に、外後頭隆起より約35mm上には敲打によって



破損したと思われる三角形の傷が認められる。この傷は、矢状線よりもやや右側に位置しており、矢状線から右方向に広がる三角形を成している。矢状線に最も近い頂点が最深部にあたり、深さは約2.7mmで板障まで至っている。

#### D まとめ

清洲城下町遺跡で出土した傷を施された人骨について、その性別、年齢を推測するとともに、傷についての観察記載を行った。その結果、正中面に水平な傷は前方に、矢状面と平行な傷は後方にと、傷の方向と施された位置には偏りがあることが判明した。また傷面の観察から、傷を施した時期が生前もしくは死後間もない頃と推定された。

今回記載を行った頭蓋骨のように無数の傷を施された人骨は、1953年の鎌倉材木座の発掘調査で多数出土している（鈴木1953）。鎌倉材木座で出土した傷のある人骨について、傷の方向および平行な傷の間隔から、合戦の際につけられたものではなく、頭部から頸部をはぎ取るために施された傷であると推測されている（鈴木1953）。今回報告を行った清洲城下町遺跡出土の人骨の傷についても、平行な傷が多くみられることなどから、同様な推測を行うことができる。

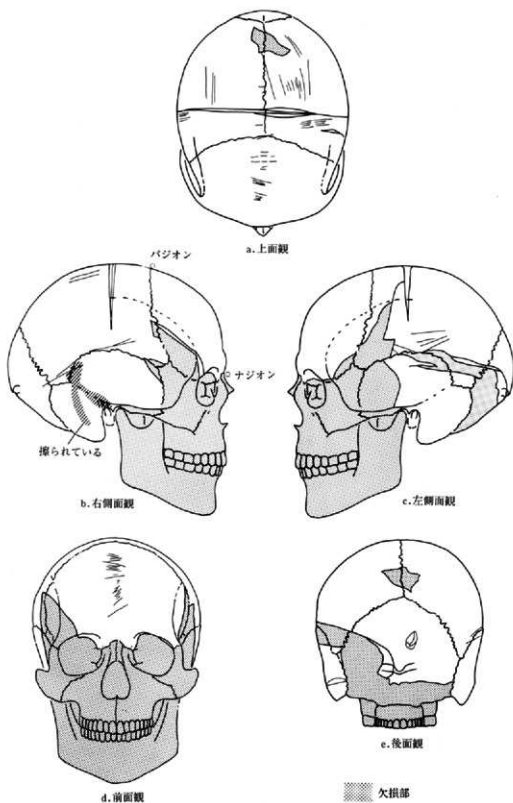
#### 謝 辞

本論をまとめるにあたり、京都大学霊長類研究所の毛利俊雄先生には、人骨の性別および年齢の推定をして頂くとともに、傷に関して御教示を頂いた。また、奈良国立文化財研究所の松井章先生、京都大学名誉教授の池田次郎先生からは貴重な御教示を頂いた。記して感謝の意を表します。

（堀本真美子）

#### 参考文献

- 池田次郎・多賀谷昭（1979）「刀傷のある中世人骨頭蓋について」『人類学雑誌87（3）』、347-351
- Iwataro MORIMOTO（1987）Note on the Technique of Decapitation in Medieval Japan. *J. Anthropol. Soc. Nippon*. 95（4）. 477-489.
- Iwataro MORIMOTO・Kazuaki HIRATA（1992）A Decapitated Human Skull from Medieval Kamakura. *J. Anthropol. Soc. Nippon*. 100（3）. 349-358.
- 鈴木尚（1958）「人骨の損傷」『鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨』岩波書店、30-57、63-66.



第119図 NR4001出土人骨

## 第5節 獣骨にみられる傷について

清洲城下町遺跡から出土したシカ・ウシ・イヌの骨には、人工的に傷をつけられたものが数点含まれていた。本節では、それらの獣骨につけられていた傷の観察報告を行う。

### シカ 頭骨 (90D Xb-120) (第120図-1)

左右の角座下部で角が切断された頭骨。切断面の形状からのこぎり状のもので切断されたと推測される。右の角座下部には、切断面に平行な3本の傷が認められる。傷長は下部のものより18.7、17.8、24.8mm。また上部2本は互いに平行である。左角の断面は後方が欠けており、前方を切断してゆき、最後に後方に向かって折られたものと考えられる。

### シカ 頭骨 (63R Xb-007)

頭頂骨を含んだ右角座前半部。角座付近の前方には4本の傷が認められる。断面は少なくとも2面認められる。角座の切断面に対し垂直な傷も認められる。

### シカ 角 (90C Xb-006)

又の部分。主幹を又の上下で切断したもの。下位のもののは枝の伸長方向に伸びる面で、上方の面は主幹に対し垂直な面でそれぞれ切断されている。

### シカ 左脛骨 遠位端 (90D Xb-017) (第120図-4)

遠位端上部で骨体と切り離されている。切断面は少なくとも3面確認される。1面は後方から、残り2面は右側からつけられたものと思われる。後面の切断面の下位には2本の傷が認められる。切断の順序は右側からはじまり、最後に後方から切込みをいれてゆき割れたと推測される。

### シカ 左脛骨 骨体および近位端 (90D Xb-027)

骨体中央の全面に2本の平行な傷が認められる。傷の方向は骨軸方向に対して垂直である。上位から3.7×0.5mm、5.3×1.2mm。

### シカ 右脛骨 骨体および近位端 (90D Xb-024) (第120図-3)

近位端後面の三角後部分は破損しており、残存部には獣の歯痕が無数につけられている。骨体中央の全面に、骨軸に対してほぼ垂直な曲線が3本観察される。

### シカ 左寛骨 (雌) (90D Xb-115)

寛骨臼の後部に15mmの直線的な傷。

### シカ 右寛骨 (雄) (90B Xb-006) (第120図-2)

寛骨臼の右外側に7mmの傷。腸骨部分に水平面とほぼ平行な27.8mmの傷が1本、内側部分には骨体に対して斜めに4.5mmのものが3本認められる。恥骨部分に外側から6.2、12.4mmと2本の傷が認められる。また座骨の一部がそがれている。

### ウシ 左腕骨 (62C Xb-021)

骨体中央前面および後面に、13.0、7.0、8.8、12.0mmの4本の傷が認められる。骨の保存状態が不良のため、何によって傷つけられたのかは不明である。

### ウシ 右肩甲骨 (62C Xb-022) (第120図-5)

肩甲骨から上縁にいたる長さ43.5mm、深さ2.8mmの傷。

イヌ 頭骨 (90D Xb-112・118) (第120図-6)

頭頂骨の後部に1×4mmの傷。正中線に対し45°右に振った角度をなす。

イヌ 軸椎 (90B Xb-040) (第120図-7)

棘突起後部に、矢状面に対してほぼ垂直な方向でつけられたもの。長さ15.8mm。

イヌ 胸椎 (90B Xb-003) (第120図-9)

関節面が左右非対称となっている。右側の面が上方へずれている。

イヌ 腰椎 (90B Xb-001) (第120図-8)

椎体の左側に前下方向から後上方に延びる20.3mmの傷。

イヌ 左上胸骨 骨体 (90D Xb-021)

骨体中央部よりやや上方に骨軸に対し垂直な方向に7.4mmの傷。中央部より下部には打ち欠いた傷2点。

イヌ 右大腿骨 近位端 (90B Xb-004) (第120図-10)

大転子下部に3本、大転骨頭と小転子の間に2本。骨軸に対してほぼ垂直である。

以上16点の獣骨につけられた傷について、各資料毎に簡単な記載を行った。これらの傷は、おもに動物の解体時や、獣骨の加工時につけられた人為的なものと思われる。また獣の歯痕のある獣骨(90DXb-024)が見られることから、解体された獣などがすぐに埋められたのではなく、ある期間放置されていたことが推測される。

これまで、自然遺物から推測される食生活に関する研究は、遺物の種類や量等から、おもに縄文時代の遺跡で多く行われてきた。しかし、1994年の広島県草戸千軒町遺跡の報告では、魚骨やイヌの骨に解体痕が見られること等から、中世の人々の食生活を推定する研究が進められている。そのなかでも特にイヌの骨にも解体痕が見られることから、イヌも食されていたと推測されている(松井1994)。今回調査した清洲城下町遺跡から出土したイヌにも、加工以外の目的でつけられた傷が見られること(90B Xb-112・118・001)から、シカやウシと同様に、イヌも食されていた可能性が考えられる。

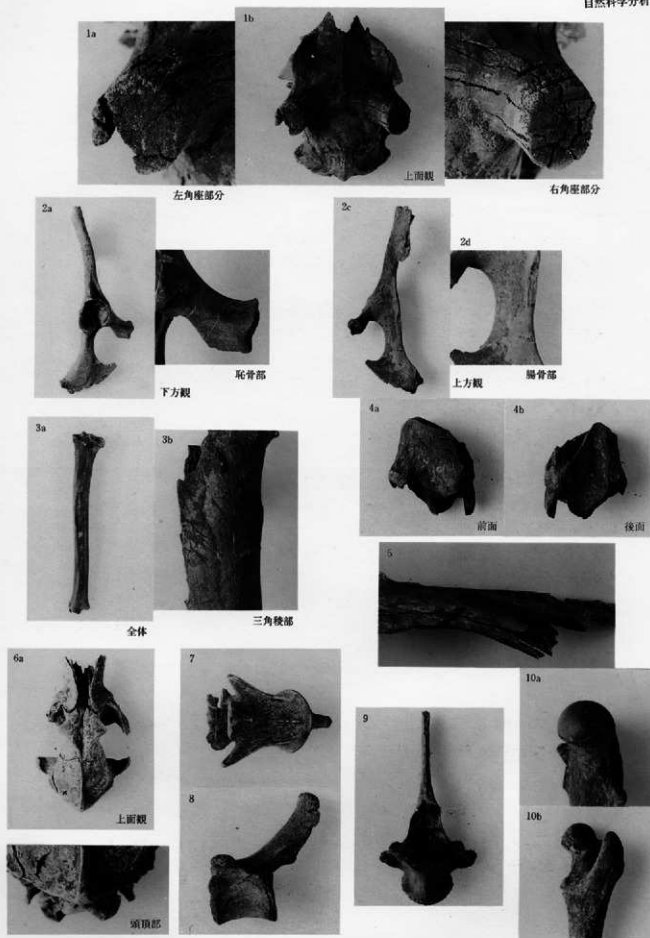
今後、中世の遺跡から出土する自然遺物につけられた傷などから、当時の人々の食生活はもとより、調理方法などが解明されてゆくことと思われる。

## 謝 辞

出土した遺物の同定および傷に関して、奈良国立文化財研究所の松井章氏の御指導・御教示を頂きました。また愛知教育大学の河村善也氏には現生骨格標本を借用させて頂きました。記して感謝の意を表します。(堀木真美子)

## 文 献

松井 章(1994)「草戸千軒町遺跡第36次調査出土の動物遺存体」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所、343-364



第120図 獣骨にみられた傷



## 第Ⅸ章 考 察

## 第1節 清洲城下町の遺物様相

### 1 はじめに

前書（『清洲城下町遺跡Ⅳ』）では、城下町期を3期（6小期）に区分して遺構の変遷を検討した。しかし、前書にはその基準となる各時期の遺物の具体的様相が必ずしも明確にされているわけではなく、この点を総体的に解決しておく必要がある。ここでは、城下町期の遺物編年・様相を考察し、次節の清洲城下町の復元へつなげることにしたい。

### 2 研究史と分析の方法

清洲城下町遺跡から出土する城下町期の遺物は、基本的に消費地から出土する遺物群の様相である。そこでは、各種の製品が産所から搬入され、使用された後に、廃棄されたものが出土遺物となるのである。従って、消費地遺跡の遺物編年は、複数の種別・生産地の製品の編年の集合体と考えた方が整理し易いであろう。つまり、消費地遺跡出土遺物の様相を編年として構造的にまとめるためには、形式・型式・様式という概念のみに押し込めて分析するのではなく、多様な内容を持つ形式を材質・産地・器類・器種等に分解した方が無理がないと思われる。これは先史時代の考古学での「系統」・「 $\langle$ 系 $\rangle$ 」等という概念が存在して形式を包括しているのに対応する。特に戦国時代においては、ある程度は材質・産地の区分が可能であるためにこうした概念の分解が適切であろう。

こうした遺物の性格を考慮して、小野正敏はアセンブリッジ（Assemblage）という概念を提示した<sup>10</sup>。アセンブリッジとは、遺跡・区画・遺構単位における生活の道具全体の組成を意味しており、どのように使用されたかという点に関心が寄せられた視点である。特に、專業化された生産地と流通機構が確立された時代においては、流通の問題としての各遺跡別の産地組成という問題が重要となり、小野はこの点を明確に提示したのであ

る。更に、これを押し進めていくと組成の数量化が問題となり、現在では様々な数量化の手法が用いられている。

一方、実際の遺跡の構造を理解する上で基本となる事柄の一つは時期（年代）設定であり、このために年代の物差しとしての遺物編年が必要となる（もちろん編年自体をタイムスケールのみには矮小化させることを意図するわけではない）。多様な器種の年代観を把握する必要があるのである。

従って、本節の分析は、各器種の形態上の変化（タイムスケール）の把握を第一義とするが、更に押し進めて、遺物様相の画期・遺構と遺跡を理解するためのアセンブリッジ（組成）を検討する足がかりを得ることを目的としている。

具体的に消費地遺跡で編年を組むに当たり、各器種（形式）の型式学的検討を重ねるのであるが、特にその遺跡で出土する主要器種の型式細分を主体に置くのが望ましいと思われる。特殊器種を基準に据えようと、特殊である故の使用の特性・廃棄の特殊性が反映される可能性が高く、誤差が生じ易いと考えられるからである。

さて、筆者は前著で清洲城下町遺跡の遺物を産地材質・器類・器種のランクを用いて整理した。この分類をもとにした、清洲城下町から出土した遺物の主要器種は何であろうか。産地材質別にみると、土師器と瀬戸美濃窯産陶器が全体の8割以上を占め、次いで常滑窯産陶器、中国窯産陶磁器、木製品等が存在する。このうち、土師器皿、土師器鍋・釜、瀬戸美濃窯産陶器椀・皿・搦鉢が主要5器類となっている<sup>11</sup>。従って、分析に際してはこの5器類を中心に分析すればよいと思われる。

では、それぞれの編年について個別に研究史を振り返り、清洲城下町において認められる問題点を整理してみる。



### 3 各編年の研究史と問題点

主要5器類に関するこれまでの編年研究を、ここで産地材質別に振り返っておく。

#### A 土師器

土師器には皿、鍋、釜の他に、蓋、火容、壺などがある。土師器皿と土師器鍋・釜については若干の考察が存在するが、その他の器種に関しては出土量が少ないため、様相は詳らかではない。

土師器皿については、佐藤公保<sup>41)</sup>の一連の研究があり、12世紀以降の尾張地域での土師器皿の変遷を明らかにした。残された課題として、戦国時代の土師器皿を更に詳細に形式分類を行い、清須城下町の土師器皿の様相を把握することが挙げられる。

また、土師器鍋・釜については佐藤公保<sup>41)</sup>と鈴木正貴<sup>30)</sup>の分析がある。佐藤は愛知県内を分析の範囲として器種構成の変遷を明らかにした。鈴木はこれを受けて鍋・釜の器種分類を改めて再編し、15世紀後半から18世紀前半までを2期7段階に編年区分を試みた。清須城下町に関連する部分は、鈴木編年のI期1段階からII期2段階に相当する。

土師器皿・鍋・釜の編年研究は、まず器種構成と概略の変遷を明らかにした後に、各器種の形式変化の把握を試みる手順を経ている。今後は形式分類の厳密化と各器種の系譜や併行関係の把握が問題となろう。

#### B 瀬戸美濃窯産陶器

瀬戸美濃窯産陶器の大窯編年研究は赤坂幹也によって始められ<sup>42)</sup>、梶崎彰一が提示した五期区分<sup>43)</sup>が定説化した。五期区分は特殊器種や軸葉の出現を画期とする大窯編年で、井上喜久男氏が更にI期とII期を細分し年代観を提示した<sup>44)</sup>。この編年は、各器形の型式学的な変遷が把握されてなく、消費地遺跡での時期決定に明確な基準が無い点や、大窯IV期のような1形式5年という区分が消費地遺跡での資料では十分に抽出できない点などが問題となっている。これに対し、藤澤良祐の主要器種の型式の変遷と組み合わせを重視した5段階区分<sup>45)</sup>

と、伊藤嘉章の匣鉢詰め方法と器形の組み合わせと施軸方法の変遷を一体的に捉えた前後2様式4段階区分<sup>46)</sup>等が提出されている。

一方、消費地遺跡の出土資料を用いた編年的研究も試みられているが、生産から廃棄までの期間を考慮する必要があり、資料操作に難しい側面が認められる。藤澤良祐<sup>41)</sup>と鈴木正貴<sup>42)</sup>等は消費地遺跡の時期決定に際しては、消費率の激しい(消費サイクルの短い)器種による分析が有効であるとしている。このように、生産の様相と消費の様相のずれが存在する事情から、消費地遺跡における遺物様相の分析には新たな視点が求められている。時期の設定を主眼に置くのであれば、生産地から提示された形式編年を基準に遺物様相を考える方法が容易かつ適切であると思われる。

ここでは、消費地遺跡の分析であるため、主要器種の型式変遷を重視した藤澤良祐の大窯編年5段階区分を参考にした。また、清須城下町の遺物様相の初期は、大窯期よりも以前の窯業段階の時期を包含しており、この編年については同じく藤澤良祐の説<sup>45)</sup>を参考にした。しかし、個別の器種分類や変遷については変更を加えている。

### 4 主要5器類の分類

ここでは主要5器類(土師器皿、土師器鍋・釜、瀬戸美濃窯産陶器椀、瀬戸美濃窯産陶器皿、瀬戸美濃窯産陶器挿鉢)を細分類する。

#### A 土師器皿

土師器皿は前者(「清洲城下町遺跡IV」)ではロクロ成形と非ロクロ成形に2大別し、各々3類に細分した。ここでは、ロクロ成形と非ロクロ成形の大別をそのまま依拠しつつ、分類の再編成を試みた。

ロクロ成形A類——口径が12~18cmの大型土師器皿で、体部下半と体部上方の外面に強くヨコナデ(2段ヨコナデ)して、結果として体部が外反するもの。器壁は比較的厚く、底部が僅かに

突出する形態である。

ロクロ成形B類——口径が8～18cmの大形土師器皿で、体部下端部から口縁部まで直線的に逆「ハ」の字状に開くもの。器壁は比較的薄く、体部にはロクロ引きで生じた凹凸の痕跡が存在する。

ロクロ成形C類——口径が10～16cmのやや大形の土師器皿で、体部下半部が丸みを帯びて立ち上がり口縁部が内彎するもの。底部内面中央部は凹み、内面の底部と体部の境界部を強くヨコナデされる。器壁は厚く、底部が僅かに突出する場合がある。

ロクロ成形D類——口径が8～12cmの中形土師器皿で、体部下半と体部上方の外表面を強く2段ヨコナデされたもの。口縁部は外反し、器壁はやや厚く、底部が僅かに突出する。

ロクロ成形E類——口径が8～12cmの中形土師器皿で、体部下端から口縁部まで逆「ハ」の字状に開くが、口縁部端部がつまむようにやや強くヨコナデされたもの。底部内面中央は凹みものが多い。なお、ロクロ成形B類との区分は困難である場合が多い。

ロクロ成形F類——口径が6～10cmのやや小形の土師器皿で、器高が低く、体部がつまみ上げられるようにヨコナデされ直線的に開くもの。器壁は薄い。

ロクロ成形G類——口径が4～6cmの小形土師器皿で、器高が著しく低く、内面のみヨコナデされて直線的に開くもの。底部の切り離しは乱雑である。非ロクロ成形土師器皿を模倣したものであろう。

非ロクロ成形A類——口径が4～8cmの小形土師器皿で、体部を上方につまみ上げるようにヨコナデされるもの。底部内面は一回転のヨコナデをし、底部外面は指オサエまたは無調整である。

非ロクロ成形B類——口径が4～8cmの小形土師器皿で、体部外面のみを上方につまみ上げる

ようにヨコナデされるもの。器高は著しく低く、底部内面は一回転のヨコナデをする。

非ロクロ成形C類——口径が4～8cmの小形土師器皿で、体部にヨコナデが存在せず、指オサエで体部をつまみ上げているもの。底部内面は一回転のヨコナデをする。

非ロクロ成形D類——口径が4～8cmの小形土師器皿で、体部にヨコナデが存在せず、底部と体部の境界が不明瞭なもの。底部内面は一方のナデが施されるものが多い。

非ロクロ成形E類——口径が12～18cmの大形土師器皿で、口縁部が肥厚するもの。内面は一回転のヨコナデをし、体部外面にもヨコナデが存在する。

各類は各々共存しながら消長していたと思われ、この分類は型式分類というより器種（形式）分類に当てはまるものである。なお、各器種の細分及び型式学的な変化の傾向が若干認められる。

ロクロ成形A類——体部が強く外反する第1型式、やや弱く外反する第2型式、緩やかに外反する第3型式に区分でき、第1型式から第3型式へ変化している。

ロクロ成形D類——器高が高く口縁部部に面を持つ第1型式、器高が高く口縁部部に面を持たない第2型式、器高が低い第3型式に分類でき、第1型式から第3型式へ変化している。

この他の器種については、変化の傾向は認められるものの、それを定義することは困難であるため、図示のみに止めた。

#### B 土師器鍋・釜

土師器鍋の器種分類は、鈴木分類<sup>(10)</sup>を使用する。

鍋A類——半球型の鉢形煮炊具で、鋳があるもの。羽付鍋。

鍋Ba類——半球型の鉢形煮炊具で、鋳がなく、内耳があるもの。口径は27cm以上の大形内耳鍋。

鍋Bb類——半球型の鉢形煮炊具で、鈎がなく、内耳があるもの。口径は21~26cmの中形内耳鍋。

鍋Bc類——半球型の鉢形煮炊具で、鈎がなく、内耳があるもの。口径は20cm以下の小形内耳鍋。

鍋C類——極めて浅い鉢形煮炊具で、鈎がなく、内耳があるもの。炮烙鍋。

釜A類——壺形煮炊具で、鈎があるもの。

釜B類——壺形煮炊具で、鈎がないもの。

鍋C類と釜B類は城下町期Ⅱ-2期以降に見られる器種で、その他の器種はほぼ城下町期を通じて存在している。主な器種の型式的变化は以下の通りである。

鍋A類——体部上方が直立し鈎から上部が高いものを第1型式、口縁部がやや内傾し鈎から上部が低いものを第2型式とする。第1型式から第2型式への変化が認められる。

鍋Bb類——口縁部が直線的に伸びるものを第1型式、口縁部が内傾し体部と底部の境界が明瞭なものを第2型式、体部下半が丸みを持ち体部と底部の境界が不明瞭になるものを第3型式、体部が直立し桶形を呈するものを第4型式とする。第1型式から第3型式への変化が認められ、第4型式は第3型式と並行している。

鍋Ba類——鍋Bb類と同様の分類が可能であるが、鍋Bb類第4型式に相当する形状は今のところ存在しない。

鍋Bc類——鍋Bb類と同様の分類が可能と思われるが、詳細は不明である。

釜A類——直口する口縁部が高く伸び紐状の耳が付属する第1型式、直口する口縁部が低く紐状の耳が付属する第2型式、直口する口縁部が低く板状の耳が付属する第3型式が認められ、第1型式から第3型式への変化が認められる。

釜B1類——直口する口縁部が低く紐状の耳が付属するものと、直口する口縁部が低く板状の

耳が付属するものに区分される。

#### C 瀬戸美濃窯産陶器碗

瀬戸美濃窯産陶器碗は前者（『清洲城下町遺跡Ⅳ』）で6器種に分類し、特に天目茶碗は口縁部と底部を各々6類に区分した。ここでは天目茶碗について再分類を試みる。

天目茶碗は器高によって2系列に分類できる。但し、城下町期Ⅱ-1期以前においては、この区分は明瞭ではない。

天目茶碗Ⅰ類——器高が比較的高いもの。

天目茶碗Ⅱ類——器高が比較的低いもの。

それぞれの天目茶碗は、口縁部と高台の形態から6型式に区分できる。第1型式は口縁部が短くくびれ化粧掛した輪高台のもの（口縁部1類・底部1類）である。第2型式は口縁部が直立し口唇部が玉縁状になり化粧掛した輪高台のもの（口縁部2類・底部2類）である。第3型式は口縁部が直立して外反し化粧掛した内反高台のもの（口縁部3類・底部3類）である。第4型式は口縁部が直立して外反しくびれた部分がやや肥厚する化粧掛のないもの（口縁部4または5類・底部4または5類）である。第5型式は口縁部がS字状になり化粧掛のないもの（口縁部4または5類・底部4または5類）である。第6型式は口縁部の直立部分の高さが高く高台も高いもの（口縁部6類・底部6類）である。

天目茶碗の年代的な序列は、両類とも第1型式から順に第6型式へという変遷を辿ったと思われる。

#### D 瀬戸美濃窯産陶器皿

瀬戸美濃窯産陶器皿は前者（『清洲城下町遺跡Ⅳ』）で11器種に分類した。ここでは前者の分類をそのまま採用することとし、この記述を省略する。

各器種は各々共存しながら消長していたと思われるが、なお、一部の器種で細分及び型式学的な変化の傾向が若干認められる。以下に特徴的な変

化の認められる器種を取り上げ、説明する。

腰折皿——器高が高い第1型式と低い第2型式が認められ、第1型式から第2型式へ変化する。

折縁皿——口縁部の屈曲が明瞭である第1型式、屈曲がやや緩やかで端部の積み上げが明瞭である第2型式、屈曲が緩やかで積み上げも弱い第3型式に区分でき、第1型式から第3型式へ変化している。

重圏皿——螺旋状圏線で口縁端部が内傾する第1型式、螺旋状圏線で口縁部が直線的に延びる第2型式、同心円状圏線で無軸の第3型式、同心円状圏線で筋軸が施された第4型式に区分でき、第1型式から第4型式へ変化している。

#### E 瀬戸美濃窯産陶器播鉢

瀬戸美濃窯産陶器播鉢は前著（『清洲城下町遺跡IV』）で11器形に分類した。ここでは前著の分類をそのまま採用するが一部を細分した。

播鉢1類——口縁部の内側に突帯が巡るもの。

播鉢2類——口縁端部を内側に屈曲させ、上方に伸ばしたものの。

播鉢3類——口縁端部に面を持ち、断面形が三角形になるもの。

播鉢4類——口縁端部に凹線状の凹みが巡るもの。

播鉢5類——口縁端部を外側に折り返し、玉縁状に丸くなるもの。

播鉢6類——口縁端部を外側に折り返して縁帯を作り、上端部が丸まっているもの。

播鉢7類——口縁端部を外側に折り返して縁帯を作り、上端部が平らな面となるもの。

播鉢8類——口縁部に内傾するやや幅広い平坦面を持ち、平坦面が丸みを持つもの。

播鉢8a類——平坦面が僅かに外側に傾くもの。

播鉢8b類——平坦面が水平あるいは僅かに内側に傾くもの。

播鉢9類——口縁部に内傾するやや幅広い平坦面を持ち、平坦面が凹むもの。

播鉢10類——口縁部に内傾する平坦面直下に段を持ち、上端部が平らな面を持つもの。

播鉢11類——口縁部に内傾する平坦面直下に段を持たず、屈曲する形態となるもの。

上記の分類は型式分類に属すると思われ、瀬戸美濃窯産陶器播鉢の型式学的な変化は、藤澤も分類しているように、2系列にまとめることができる（但し播鉢1類を除く）。I類は播鉢2類から7類までを含むもの、II類は播鉢8類から11類までを含むものと整理できる。これらは各々2類→3類→4類→5類→6類→7類と、8a類→8b類→9類→10類→11類という時間的な変化が認められるものである。

## 5 城下町期の遺物編年

以上の分類を踏まえた上で、各時期の遺物の様相を概説する。

### A 城下町期I期

基準資料はISD136・ISD112・IVNR4001等である。

主要5器類の器種組成は、土師器皿ロクロ成形A類・B類・D類・F類、土師器皿非ロクロ成形A類・B類・C類・E類、土師器鍋A類・Ba類・Bb類・Bc類、土師器釜A類、天目茶碗、縁軸皿・腰折皿・端反皿、播鉢1類・2類・3類・4類・8a類が存在する。主要5器類以外でこの時期特有の器種と考えられるものは、瀬戸美濃窯産陶器灰釉丸碗・平碗・台付碗・平鉢・花瓶・袴形香炉・鍋・釜、常滑窯産陶器平鉢、中国産磁器白磁割高台皿、中国産磁器青花碗I類・碗VI①類・皿I類・皿II類等が存在する。

城下町期I期は瀬戸美濃窯産陶器によって細分が可能である。

城下町期I-1期は、IVNR40014群・5群等を基準資料とする。天目茶碗第1型式、縁軸皿、

腰折皿第1型式、重圍皿第1型式、搦鉢1類・2類、土師器皿ロクロ成形A類・D類第1型式、土師器鍋B類第1型式が存在する段階である。

城下町期Ⅰ-2期は、IVNR40012群・ISD136等を基準資料とする。天目茶碗第2型式、端反皿、腰折皿第2型式、重圍皿第2型式、搦鉢3類・4類・8a類、土師器皿ロクロ成形A類・D類第2型式、土師器鍋B類第2型式が存在する段階である。

### B 城下町期Ⅱ期

基準資料はISD110・IVSK6571等である。特に清洲城下町遺跡では城下町期Ⅱ-1期の良好な一括資料に恵まれない傾向があり、名古屋城三の丸遺跡Ⅳの資料<sup>123)</sup>を参考資料として用いた。

主要5器類の器種組成は、土師器皿ロクロ成形C類・E類・F類、土師器皿非ロクロ成形A類・B類・D類、土師器鍋A類・Ba類・Bb類・Bc類・C類、土師器釜A・B類、天目茶碗、丸皿・稜皿・折縁皿・内禿皿、搦鉢5類・6類・8b類・9類が存在する。主要5器類以外でこの時期特有の器種と認定されるものは、中国産磁器青花碗Ⅱ類・碗Ⅷ類・皿Ⅰ類・皿Ⅲ類等が存在する。

城下町期Ⅱ期は瀬戸美濃窯産陶器によって細分が可能である。

城下町期Ⅱ-1期は、ISD110・名古屋城三の丸遺跡IVSK303等を基準資料とする。天目茶碗第3型式、丸皿・稜皿、搦鉢5類・8b類が存在する段階である。

城下町期Ⅱ-2期は、IVSK6571等を基準資料とする。天目茶碗第4型式、折縁皿第1型式・内禿皿・菊皿、搦鉢6類・9類が存在する段階である。土師器鍋C類・釜B類が出現する段階でもある。

### C 城下町期Ⅲ期

基準資料はISD39・IVSK7029等である。

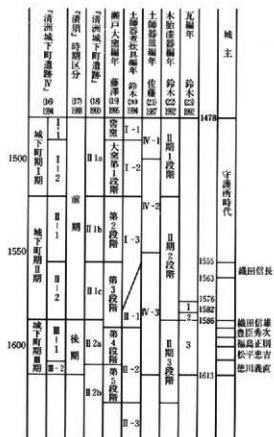
主要5器類の器種組成は、土師器皿ロクロ成形C類・E類・F類・G類、土師器皿非ロクロ成形

D類、土師器鍋A類・Ba類・Bb類・Bc類・C類、土師器釜A類・B類、天目茶碗、長石軸皿、折縁皿、搦鉢7類・10類・11類が存在する。主要5器類以外でこの時期特有の器種と認定されるものは、瀬戸美濃窯産陶器香茶碗・向付、備前窯産陶器、唐津窯産陶器、中国産磁器青花碗Ⅲ類・碗Ⅳ類・碗Ⅵ類・碗Ⅶ類・皿Ⅵ類・皿Ⅷ類等が存在し、多様な生産地からの製品が認められる。

城下町期Ⅲ期は瀬戸美濃窯産陶器によって細分が可能である。

城下町期Ⅲ-1期は、IVSK6151等を基準資料とする。天目茶碗第5型式、折縁皿第2型式、搦鉢7a類・10類、土師器釜A類第3型式等が存在する段階である。

城下町期Ⅲ-2期は、IVSK7029等を基準資料とする。天目茶碗第6型式、折縁皿第3型式、菊



第121図 各編年対照図

皿5類、摺鉢7b類・11類、土師器皿口クロ成形成G類が存在する段階である。

## 6 各時期の年代観

以上概略であるが、城下町期を3期6小期区分した。この項では、上記の時期区分とこれまでの編年との対応関係と年代観を問題としたい。

### A これまでの編年との対応関係

これまでの編年との対応関係は第121図の通りである。

### B 年代観

年代観を考察するためには、①これまで分析された編年案の年代を参考にする方法、②遺跡固有の年代または遺跡の画期を基準にする方法、③共存する紀年銘資料をもとに考える方法の3者がある。

#### ① 編年案の年代観

これまでの編年案の中で、具体的な年代観を考察したものは少なく、瀬戸美濃窯産陶器の年代観が存在するのみである。井上編年<sup>27)</sup>と藤澤編年<sup>28)</sup>共に年代観が提示されているが、ここでは藤澤編年の年代観を記述しておく。

- 大窯第1段階——1490年頃～1520年頃
- 大窯第2段階——1520年頃～1555年頃
- 大窯第3段階——1555年頃～1590年頃
- 大窯第4段階——1590年頃～1610年頃
- 大窯第5段階——1610年頃～1630年頃

#### ② 遺跡固有の年代

地層の堆積状況から判定される年代として、地震痕が挙げられる。このうち、城下町期に関連するものとして天正13年11月(1586年1月)に発生した天正地震が存在する<sup>29)</sup>。上記区分との対応関係は、城下町期Ⅱ期とⅢ期の境にこの地震が位置づけられる。

また、遺跡が持つ歴史的背景による年代観がある。これによれば、①遺跡の本格的な開始を守護所移転の1478年に当てること(城下町期Ⅰ期の開

始を1478年とする)、②遺跡の終末を清須越し完了の1613年に当てること(城下町期Ⅲ期の終末を1613年とする)、③遺跡全体を包括する総構え構築を織田信雄の清須入城に当てること(城下町期Ⅱ期とⅢ期の境界を1586年とする)の3つが取り上げられよう<sup>27)</sup>。

#### ③ 紀年銘資料

清洲城下町遺跡から出土した紀年銘資料はこれまで5種存在する。

- 1 永正5年(1508年)11月23日銘木製卒塔婆  
IVNR4001出土(城下町期Ⅰ-2期)
- 2 天正14年(1586年)銘九瓦  
II SD39出土(城下町期Ⅲ期)
- 3 文禄2年(1593年)銘瀬戸美濃窯産陶器碗  
西SD200(城下町期Ⅲ期)
- 4 慶長3年(1598年)銘木製卒塔婆  
西SD200(城下町期Ⅲ期)
- 5 慶長4年(1599年)銘木製卒塔婆  
西SD200(城下町期Ⅲ期)

#### ④ まとめ

以上の事実を踏まえ現状での年代観を当てはめると以下の通りである。

- 城下町期Ⅰ-1期——1478年頃～1490年頃
- 城下町期Ⅰ-2期——1490年頃～1520年頃
- 城下町期Ⅱ-1期——1520年頃～1555年頃
- 城下町期Ⅱ-2期——1555年頃～1586年
- 城下町期Ⅲ-1期——1586年～1610年頃
- 城下町期Ⅲ-2期——1610年頃～1613年頃

#### C 遺物からみる画期の設定

これまで前著「清洲城下町遺跡Ⅳ」に従って、城下町期の3期6小期区分をベースに分析を進めた。この区分は、遺構の時期を決定する際に全遺跡的な統一基準をあらかじめ設けるために、瀬戸美濃窯産陶器を主体に設定した。また、6小期を3期に大別した理由は、比較的時期のまとまりが容易に認められる段階が城下町期Ⅰ期と城下町期Ⅲ期であり、城下町期Ⅱ期の様相が明確でないた

め、結果として暫定的な大別を行わざるを得なかったからである。

今、改めて瀬戸美濃窯産陶器等を除く器種構成から遺物変遷をみると、城下町期Ⅱ-2期に一つの画期を読み取ることができる。この画期は土師器鍋C類、土師器釜B類、瓦の登場と土師器皿口クロ成形A類・B類・D類の消滅、土師器皿非口クロ成形A類・B類の減少という現象を引き起こしている。この区分は土師器や瓦といった在地的？な遺物に認められる画期と評価できよう。

ここで問題となる点は、瀬戸美濃窯産陶器を主にして導かれた3期6小区区分と、在地的？な遺物に認められる画期の現象が年代的に合致するか否かという点である。すなわち、前項では城下町期Ⅱ-2期を1555年頃～1586年に比定して考えたが、土師器や瓦に認められる変化の画期を同様に1555年頃に位置づけられるか否かという問題に置き換えられよう。根拠を明確に示すことはできないが、遺構展開との関わりの中で、後者の画期は城下町期Ⅱ-2期の中で起こった現象という可能性もまた残されているのである。少なくとも瓦についてはその出現の時期を1576年に当てる考察があり<sup>20)</sup>、城下町期Ⅱ-2期の遺物様相は複雑であり、細分化して更に検討を進める必要がある。

## 7 まとめ

以上、清須城下町に関わる遺物の幅年・年代観について記述し、次節での立論の前提となる時期区分を設定した。しかしながら、城下町期Ⅱ-2期という城下町期にとって重要な年代について疑問が残されており、この点を保留せざるを得ない筆者の力量不足を認めなければならない。今後の課題としたい。(鈴木正貴)

## 補註

第Ⅸ章全体では、清須城関連の遺構の記載に際しては次の方式を採用した。

- ① 御愛知埋蔵文化財センターが調査した調査区内、報告書刊行済の遺構は「報告書名の略号+報告書使用の遺構名」で表記した。報告書名の略号は以下のとおりである。

「清洲城下町遺跡Ⅰ」(1990)	—————Ⅰ
「清洲城下町遺跡Ⅱ」(1992)	—————Ⅱ
「清洲城下町遺跡Ⅲ・外町遺跡」(1994)	—————Ⅲ
「清洲城下町遺跡Ⅳ」(1994)	—————Ⅳ
「清洲城下町遺跡Ⅴ」(1995)	—————Ⅴ
「廻間遺跡」(1990)	—————廻
「朝日西遺跡」(1992)	—————西

- ② 御愛知埋蔵文化財センターが調査した調査区内、報告書未刊行の遺構名は「発掘調査区+遺構名」で表記した。

- ③ 清洲町教育委員会が調査した調査区内、報告書刊行済の遺構は「報告書名の略号+報告書使用の遺構名」で表記した。報告書名の略号は以下のとおりである。

「清洲城下町遺跡Ⅰ」(1987)	—————①
「清洲城下町遺跡Ⅱ」(1990)	—————②

- ④ 清洲町教育委員会が調査した調査区内、報告書未刊行の遺構名は「発掘調査区の略号+遺構名」で表記した。発掘調査区の略号は以下のとおりである。

「ふれあい広場地点」	—————ふ
「本丸地点」	—————本
「助七西市場報地点」	—————助
「清洲町勤労福祉会館地点」	—————勤

註(1) 小野正敏(1985)「出土陶磁よりみた十五・十六世紀における画期の素樸」『ミュージアムNo. 416』。

(2) 清洲城下町遺跡における主要5器種の出土量の割合は、瀬戸美濃窯産陶器碗が6.6%・皿が10.8%・楕鉢が8.7%、土師器皿が38.8%・鍋と釜が18.0%となっている。ただしこの数値は「清洲城下町遺跡Ⅳ」遺構出土資料の破片数合計をもとに計算した。

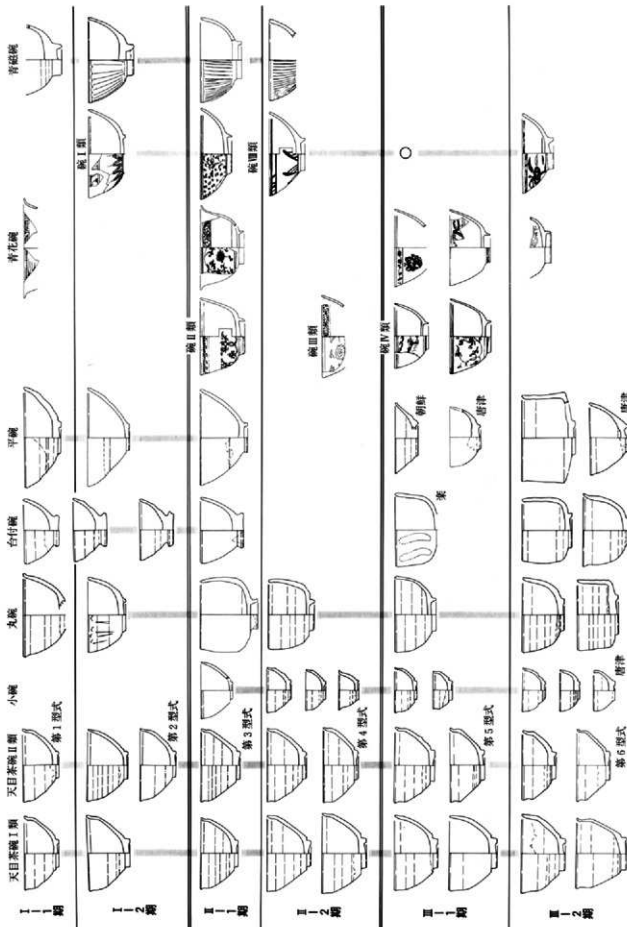
(3) 佐藤公保(1986)「中世土師器研究ノート(1)」『年報昭和60年度』御愛知埋蔵文化財センター、佐藤公保(1987)「中世土師器研究ノート(2)」『年報昭和61年度』御愛知埋蔵文化財センターがある。

- (4) 佐藤公保 (1989) 「尾張の土師器煮炊具」『マージナルNo. 9』。
- (5) 鈴木正貴 (1994) 「戦国時代の尾張型煮炊具の歴史的様相」『考古学フォーラム4』。
- (6) 赤塚幹也 (1969) 「瀬戸市史・陶磁史篇一」。
- (7) 楠崎彰一 (1976) 「美濃の古陶」光琳社出版等多数の文献がある。
- (8) 井上喜久男 (1985) 「16世紀の瀬戸・美濃窯」『中近世土器の基礎研究』、井上喜久男 (1988) 「美濃窯の研究 (一) - 十五・十六世紀の陶器生産 -」『東洋陶磁第十五・十六号』、井上喜久男 (1992) 「尾張陶磁」ニューサイエンス社。
- (9) 藤澤良祐 (1986) 「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要V』、藤澤良祐 (1993) 「瀬戸市史・陶磁史篇四」。
- (10) 伊藤嘉章 (1988) 「瀬戸・美濃における大窯生産」『岐阜市歴史博物館研究紀要第2号』。
- (11) 藤澤良祐 (1991) 「城館出土の瀬戸・美濃大窯製品」『中世の城と考古学』新人物往来社。
- (12) 鈴木正貴 (1990) 「尾張の城館遺跡出土の陶磁器」『考古学フォーラム1』。
- (13) 藤澤良祐 (1984) 「“古瀬戸”概説」『美濃陶磁歴史館報Ⅲ』。
- (14) 前掲註(5)と同じ。
- (15) 遠藤才文編 (1993) 『名古屋城三の丸遺跡Ⅳ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第44集。
- (16) 前掲註(9)と同じ。
- (17) 梅本博志 (1986) 「清洲城下町遺跡」『年報昭和60年度』財愛知県埋蔵文化財センター等による。
- (18) 鈴木正貴編 (1990) 「清洲城下町遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第17集。
- (19) 前掲註(9)と同じ。
- (20) 前掲註(5)と同じ。
- (21) 前掲註(3)後者の文献による。
- (22) 鈴木正貴 (1992) 「清須城下町から出土した漆器について」『朝日西遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集。
- (23) 鈴木とよ江「瓦」『清洲城下町遺跡Ⅱ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第27集。
- (24) 前掲註(8)と同じ。
- (25) 前掲註(9)と同じ。
- (26) 森勇一・鈴木正貴 (1989) 「愛知県清洲城下町遺跡における地質調査の発見とその意義」『活断層研究7』他。
- (27) 清須城の改修を1586年以前に比定する案も認められる。次節を参照。
- (28) 前掲註(23)と同じ。



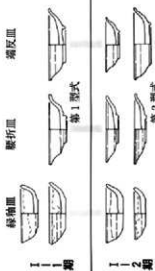
中国製産磁器

瀬戸製瀬戸産陶器

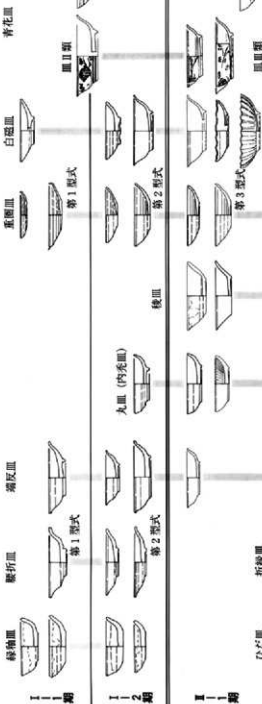


第122図 清洲城下町遺跡 陶磁器断面年表 (S=1:6)

瀬戸美濃窯産陶器



中國窯産磁器



木胎漆器



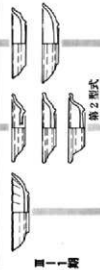
折縁皿



ひた皿



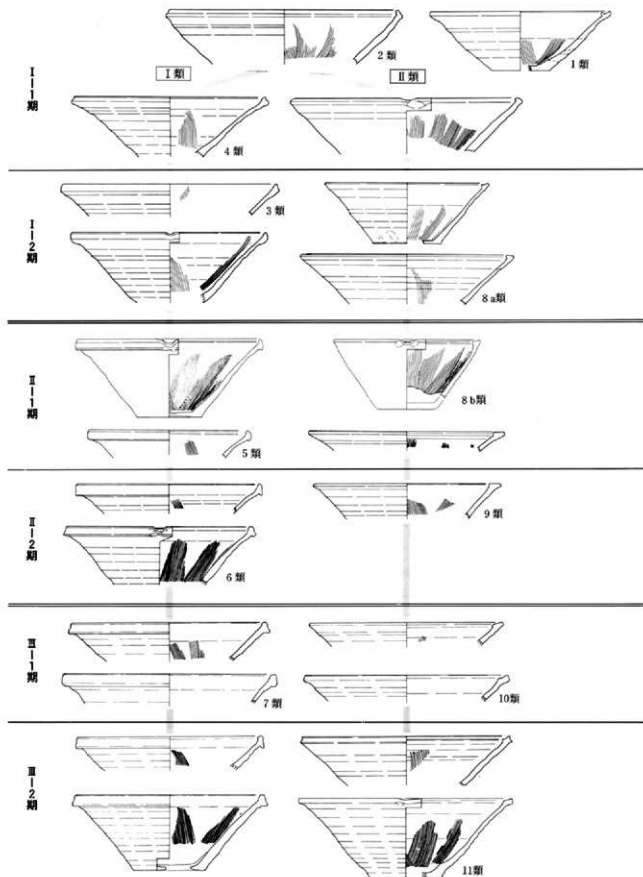
箱皿



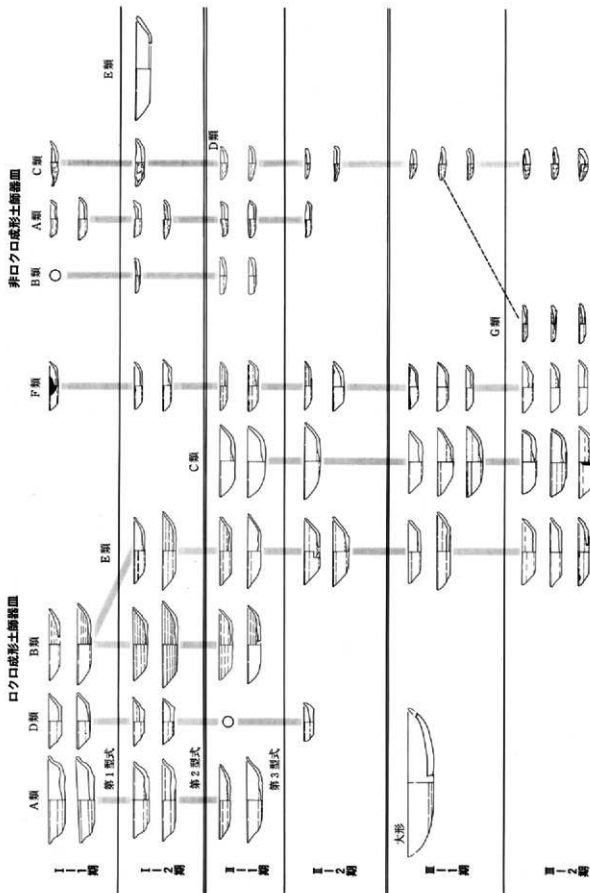
唐津



第123図 清洲城下町遺跡 陶磁器類編年表 (S=1:6)

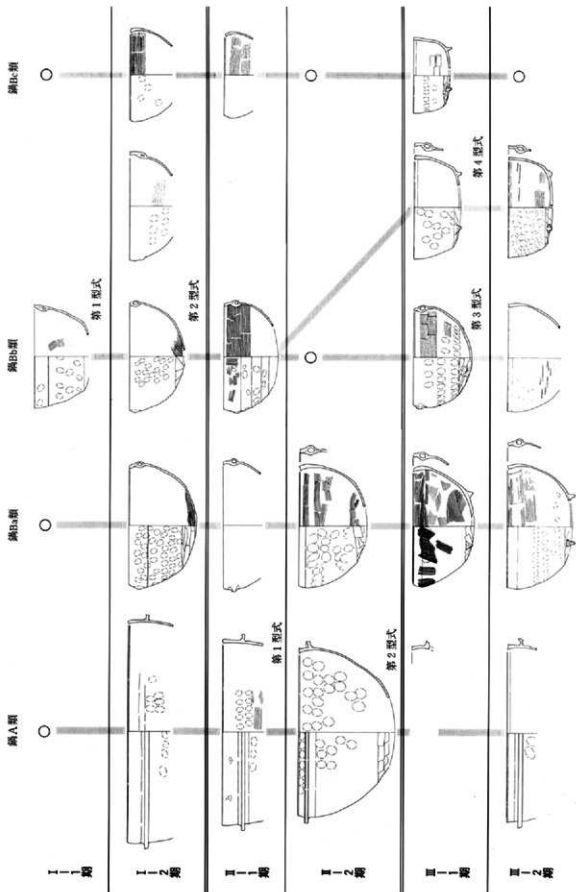


第124圖 清洲城下町遺跡 瀬戸美濃窯産陶器種別年表 (S-1:8)



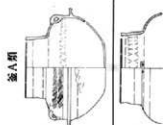
第125図 清洲城下町遺跡 土師器皿類編年表 (S=1:6)

土師器類



第126圖 清洲城下町遺跡 土師器類・室瀬麗年表(Ⅰ)(S=1:8)

土師器類・釜

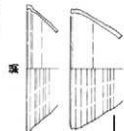


I - 1 期



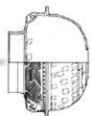
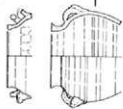
I - 2 期

瀬戸美濃窯産陶器

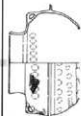


鍋

釜



II - 1 期



釜D類

II - 2 期



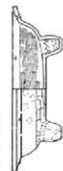
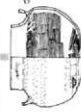
鍋C類



III - 1 期



III - 2 期



第127図 清洲城下町遺跡 土師器類・釜類年表 (2) (S=1:8)

## 第2節 清須城下町の復元的研究 (1995年覚書)

## 1 はじめに

本節では、これまでの発掘調査で得られた成果をもとにして、戦国時代の清須城下町の復元を試みる。

清須城下町の復元的な研究は様々な方法で試みられてきた。古くは文献史料と地誌の事績を積み重ねて「斯波時代」・「織田時代」・「徳川時代」の各時期の復元案を包括的に提示した林良幹の著作<sup>31)</sup>がある。近年では各時期別に様々な方法で復元案が提示されている。文献史学からは中部よし子<sup>32)</sup>・高牧實<sup>33)</sup>・小島道裕<sup>34)</sup>・下村信博<sup>35)</sup>等が論考を提出している。これらは織豊政権の都市政策・城下町経営を論点に据えたものが多く、ほとんどが都市構造の概念的な復元案となっている。その中で特に下村信博は、丹念に清須関連の史料を抽出して清須城下町の複雑な発展過程を想定した。歴史地理学的な考察として、小林健太郎<sup>36)</sup>・金原宏<sup>37)</sup>・千田嘉博<sup>38)</sup>の論文がある。金原は昭和期の地籍図と航空写真<sup>39)</sup>を活用して城下町前期と後期の清須城下町を、千田は明治17年の地籍図<sup>40)</sup>を材料にして天正14年以降の清須城下町の構造を各々復元した。特に、千田論文は城郭プランの解釈と曲輪内部の構造復元を試みた点が画期的であった。考古学的な復元案には遠藤才文<sup>41)</sup>・梅本博志<sup>42)</sup>・佐藤公保<sup>43)</sup>の考察がある。これらは発掘調査で得られた成果をどう評価するかという視点から居館・屋敷の構造・規模等を分析したものである。具体的かつ実証的な研究であるが、時期区分が前期と後期の2区分に留まっている<sup>44)</sup>こと等に再検討する余地が残されている。

ここでは、こうした先行研究を踏まえた上で、これまで発掘調査で判明した成果を、前節で検討したⅢ期6小期区分を用いて、城下町構造の変遷を考察する。分析の方法は、まず各時期の遺構変遷を把握した上で区画の認定と性格の推定を行い、

更に明治17年作成の地籍図等を利用した歴史地理学的な研究手法を援用して調査区周辺を含めた考察を実施した。なお、「清洲城下町遺跡Ⅳ」(1994)第V章<sup>45)</sup>では地区毎に区画展開のあり方と画期を検討し、時期を①城下町期Ⅰ期・②城下町期Ⅱ-1期・③城下町期Ⅱ-2期・④城下町期Ⅲ期の4期にまとめており、今回もこの4期区分案を使用した。

これまで発掘調査された地点は、清洲城下町遺跡(名古屋環状2号線地点<sup>46)</sup>・県道新川清洲線地点<sup>47)</sup>・県道清洲新川線地点<sup>48)</sup>・五条川河川改修地点<sup>49)</sup>・大和製本地点<sup>50)</sup>・ふれあい広場地点<sup>51)</sup>・本丸地点<sup>52)</sup>・助七西市場線地点<sup>53)</sup>・勤労福祉会館地点<sup>54)</sup>、朝日西遺跡<sup>55)</sup>、運間遺跡<sup>56)</sup>、外町遺跡<sup>57)</sup>がある。ここでは、以下のように各調査地点を12地区<sup>58)</sup>に区分して、地区毎に論を進めたい(第128図)。

本丸地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点本丸地区・本丸地点)

田中町北部地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点田中町地区・県道清洲新川線地点北部・大和製本地点・ふれあい広場地点)

田中町南部地区——清洲城下町遺跡(県道清洲新川線地点中央部・県道新川清洲線地点・勤労福祉会館地点)

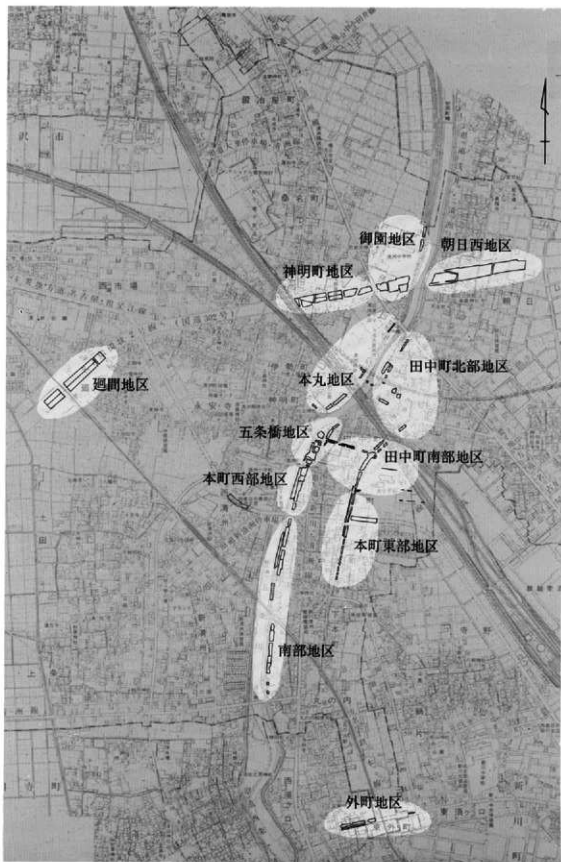
五条橋地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点五条橋地区)

本町東部地区——清洲城下町遺跡(県道清洲新川線地点南部・助七西市場線地点)

本町西部地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点本町地区)

御園地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点御園地区・名古屋環状2号線地点東部)

神明町地区——清洲城下町遺跡(名古屋環



第128図 清洲城下町遺跡地区割図 (S = 1 : 15000)

(「清洲町全図 1 : 10000」清洲町 昭和53年作成をもとにした)



状2号線地点西部)

朝日西地区——朝日西遺跡

南部地区——清洲城下町遺跡(五条川河川改修地点南部地区)

廻間地区——廻間遺跡

外町地区——外町遺跡

なお、本節で提示した各地区・各時期の遺構復元図は、明治17年に作成された地籍図(愛知県公文書館所蔵)をもとに、調査区・遺構・遺構復元等を加えて編集したものである<sup>28)</sup>。

## 2 区画の分類と概要

個別の地区及び時期の分析に入る前に、区画の形態分類を実施し、その概要と性格を記述する。

### A 溝の分類

区画は、一般に溝や欄列等の境界を示す区画施設によって設定され、清須城下町においては多くは溝によって区画されている。溝はその形態と規模から以下のように区分される。

堀——幅15m以上の規模を持つ溝。

溝Ⅰ類——幅10m前後の規模をもつ溝。

溝Ⅱ類——幅4~7m、深さ1m以下の規模をもつ溝。

溝Ⅲ類——幅4~5m、深さ1m前後の規模をもつ溝。

溝Ⅳ類——幅1~2.5m、深さ50cm以上の規模をもつ溝。

溝Ⅴ類——幅1~2m、深さ50cm以下の規模をもつ溝。

溝Ⅵ類——幅1m以下の規模をもつ溝。

区画施設Ⅹ類——遺構検出されない程度の区画施設。

こうした溝の規模の格差は、直接的には防衛機能や象徴機能の優劣を反映しており、結局は区画された居住者の階層が表現されていると考えられよう。

### B 区画の形態分類

区画を規模(面積)と平面プランで以下の6類に区分できる。

区画Ⅰ類——区画幅が10~15mの長方形区画。約400m<sup>2</sup>。

区画Ⅱ類——辺が30m前後の方形区画。約1000m<sup>2</sup>。

区画Ⅲ類——辺が45m前後の方形区画。約2000m<sup>2</sup>。

区画Ⅳ類——区画施設が非直線的な不定形区画。

区画Ⅴ類——辺が100m以上の方形区画。面積が10000m<sup>2</sup>を超える大型方形区画である。

区画Ⅹ類——区画認定が困難であるもの。

区画(屋敷)の面積が居住者の階層を反映することは既に考察されており、清須城下町でも同様であったと推定される。

### C 区画の概要と性格

区画と溝は一定の対応関係が認められ、おおよそ以下の通りの3パターンに区分できる。

区画Ⅰ・Ⅱ類——溝Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類・区画施設Ⅹ類

区画Ⅲ類——溝Ⅲ類

区画Ⅴ類——溝Ⅰ類

上記の3パターンの区分は、区画と溝の各分類が居住者の階層を反映する点を考慮すると、清須城下町の居住者に3つの階層が存在することを示していると考えられる。また、各区画の分布傾向をみると、①区画Ⅴ類が遺跡の中心部に所在すること、②区画Ⅲ類が区画Ⅴ類の周辺に集中すること、③区画Ⅰ・Ⅱ類は中心部に所在しないことが伺える。以上の点から、以下のように各区画の居住者の性格を推定できる。

区画Ⅴ類——最上級クラスの居住域—居館

区画Ⅲ類——上級クラスの居住域—武家屋敷・寺院・神社

区画Ⅰ・Ⅱ類—下級クラスの居住域—町屋

では、上記の分類を基準に各時期の清須城下町の構造を検討してみる。

## 3 城下町期Ⅰ期

城下町期Ⅰ期は瀬戸美濃窯産陶器編年の寄窯後期第4段階~大窯第1段階に当り、尾張守護所が清須に移転した文明10(1478)年頃~1520年頃を指している。この時期の遺構は、本九地区・田中町北部地区・田中町南部地区・五条橋地区・本町

西部地区・御園地区・神明町地区で確認されている。

#### A 本丸地区

94A区で溝または河川状の大規模な遺構が検出され、土師器皿等の遺物が多量に出土している。遺構配置の復元には至らないが、城下町期I期に遺構が展開していたと考えられる。

この地点では、清須城主郭と上島神明社の存在が予想されている。清須城主郭に関しては、少なくとも清須城最終段階にはこの本丸地区に所在したことが確実であるため、その存在が城下町期I期に遡っていたことが推定されよう。一方上島神明社に関しては、当初現清洲公園あたりに所在したものを移したと伝承されている。移転の年代は諸説が認められるが、天正11(1583)年末の織田信雄禁制<sup>39)</sup>等から、天正11(1583)年までは上島神明社が本丸地点に所在し、1586年の城域拡張に伴い移転したと考える説<sup>40)</sup>が有力である。

梅本博志はこうした点や発掘調査の成果等を整理して、城下町期前期の清須城の主郭は五条川東岸にあると予想し<sup>41)</sup>、この推定は今日では定説化しつつある。しかしながら、後述するように梅本説もその後の発掘調査結果から一部訂正を迫られており、「北矢蔵」をどう考えるかという点等に問題が残されている。現段階では、城下町期I期の本丸地区に関する問題を解決する決定的な資料がなく、今後の重要な課題となっている。ここでは、清須城最終段階にはこの本丸地区に所在した点と、土師器皿が多量に出土した点を評価して、城下町期I期から清須城主郭が存在したと仮定した。

#### B 田中町北部地区

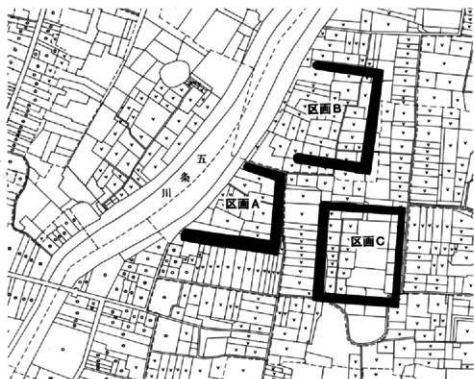
大和製本地点・ふれあい広場地点・93D区で溝I類が、90A区・62G区で溝II類が各々検出されている。溝I類の配置及び遺物出土状況等から、溝I類で囲まれた大型方形区画の存在が推定される。

大和製本地点SD01は南北方向に走る溝I類で、明治17年地籍図による細長い畑地の位置に当たっている。細長い畑地は地籍図では「コ」の字状に連続しており、区画V類(一辺約100mの大型方形区画)の「区画A」が想定される。この区画Aは、梅本博志が城下町期前期の居館として<sup>42)</sup>、千田嘉博が城下町期最末期の馬出し機能を果たした曲輪として<sup>43)</sup>各々指摘しているものである。

一方、ふれあい広場地点SD01は東西方向に走る溝I類で西端部は収束している。明治17年地籍図及び現地地形からはこの溝の存在は看取できない。また、93D区SD01は南北方向に走る溝I類で、明治17年地籍図による細長い畑地の位置に当たっている。前者のふれあい広場地点SD01に関しては、梅本博志がこの溝の北部に城下町期前期の区画V類の「区画B」が存在すると想定した(案I:第129図)。この案Iを採用すると、93D区SD01はその規模から区画A・Bと異なる同規模の区画Cを囲む西溝であると推定せざるを得ない。しかし、この説は93D区SD01では遺物が西側から投棄されていた状況と矛盾している。従って、ふれあい広場地点SD01と93D区SD01は、区画Aから各々50m前後離れた位置にあること等から、区画Aの外側を更に大きく方形に区画する施設であると推定する案が新たに考えられよう(案II:第130図)。

ここでは案IIを採用し、二重の堀で囲まれた大型方形区画の「区画A」を想定する。内郭一辺約100m、外郭一辺約200mの規模を持つ区画Aの性格は、主郭に匹敵することから城主クラスの居館と推定し得る。また、内郭と外郭の幅50m前後の空間は、その性格を推定する材料を持たないが、おそらく45mを単位とする武家屋敷が想定されよう。なお、ふれあい広場地点SD01は62M区IV SD3021と対応して外郭を構成しており、ふれあい広場地点SD01が収束する部分では出入り口(喰い違い虎口?)が設定されていたと考えられる。

これに対し、90A区と62G区で確認された溝II



第129図 田中町北部地区(城下町期Ⅰ期) 案Ⅰ

(S = 1 : 5000)



第130図 田中町北部地区(城下町期Ⅰ期) 案Ⅱ

(S = 1 : 2500)

類は、大型方形区画の区画内施設と考えるよりも、後述する田中町南部地区や本町西部地区で認められる区画Ⅲ類を構成する溝であると想定する方が妥当であろう。IVSD3004とIVSD3015の溝心間距離は約125mを測り、おそらく3区画分の区画Ⅲ類が、この間に存在した可能性を指摘できる。

#### C 田中町南部地区（第131図）

県道清洲新川線地点中央部と勤労福祉会館地点で溝Ⅲ類が多数検出されている。これらの溝は方格地割をなし、溝の間隔は約45mを測る。こうした状況から、田中町南部地区では区画Ⅲ類が多数構成されていたと考えられる。各々の区画Ⅲ類を構成する溝Ⅲ類は、隣接する区画と共有するものと、溝2本で道路を形成していたものの2者が存在する。なお、県道新川清洲線地点では、溝Ⅲ類が検出されていないため区画Ⅲ類の広がりには確認できないが、土坑等は存在するため何等かの居住域だったと推定される。

I SD101とI SD110に囲まれた区画を区画0001、I SD112に囲まれた区画を区画0002、I SD111とI SD118東西溝に囲まれた区画を区画0003、L字に屈曲したI SD118に囲まれた区画を区画0004、I SD118とI SD122に囲まれた区画を区画0005、I SD122とI SD136南北溝に囲まれた区画を区画0006、L字に屈曲したI SD136に囲まれた区画を区画0007とし、区画Ⅲ類を7基確認することができたことになる。溝Ⅲ類に挟まれた道路は、日吉神社西から延びる南北道路SF0001と区画0001と区画0003の間の東西道路SF0002が推定されよう。

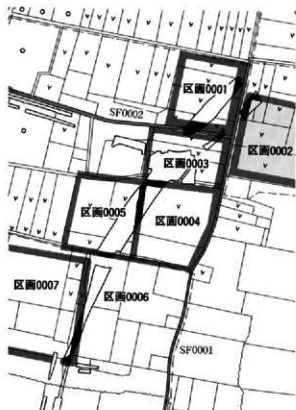
『清洲城下町遺跡』（1990）では、Ⅱ1a期とⅡ1b期に時期区分し、区画0002と区画0004と区画0007は先行してⅡ1a期に登場し、残りの区画はⅡ1b期に出現して規格性の高い区画配置を構成していたと考えた。しかしその後、63F区・63G区間の立会調査での南北道路SF0001の検出状況等を踏まえて遺物を再検討した結果、Ⅱ1a期とⅡ1b期の間に画期的な遺構配置の変遷を考えるよ

りも、7基の区画Ⅲ類は共存し溝の埋積過程に差異があったと考える方が妥当と思われる。

これら区画Ⅲ類は、区画Ⅴ類に次ぐ規模の区画であることから、基本的には武家屋敷と推定できる。しかし、卒塔婆や「正眼寺」刻書硯等が出土する溝Ⅲ類も認められることから、一部では寺院と推定される区画が混在していたと考えられよう。

#### D 五条橋地区（第132図）

田五条川IVNR4001が蛇行しながら南流し、これに付属する溝等の遺構が若干存在するのみである。城下町期Ⅰ期の段階では、IVNR4001は東寄りに蛇行していたと思われ、この後次第に埋積を繰り返す、流路は西へ移動したものと考えられる。遺物の出土量の豊富さ、塔婆類等信仰に伴う遺物の出土等から、人間活動が活発であったことが想定され、川港・市場・「無縁の場」の存在を予想したい。



第131図 田中町南部地区（城下町期Ⅰ期）  
(S = 1 : 2500)

## E 本町西部地区 (第133図)

田中町南部地区と同様、溝Ⅲ類が多数検出されており、溝の間隔はほとんどが約45mを測っている。これらの溝は区画Ⅲ類を構成していたと考えられ、区画6002～区画6006が想定される。区画6002のみが南北幅約20mを測り、規模が半分となっている。この地区の溝Ⅲ類は隣接する区画と共有していることから、調査区内での道路は想定できない。

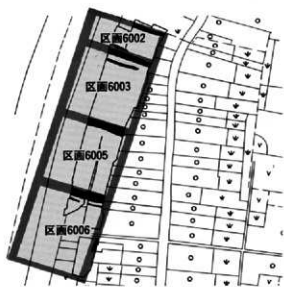
区画の面積からこれらの区画Ⅲ類の性格は武家屋敷と想定される。遺構の配置も整然として規格性をもっていることから、計画的な武家屋敷の建設が行われたと言える。

## F 御園地区 (第134図)

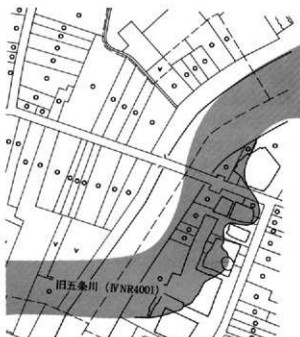
御園神明社門前に相当する地点で、中小の溝群等小規模な遺構が認められる。梅本博志は城下町前期のこの地区を、規格性に乏しい遺構群で一律的な空間構成を持たないと評価し、当地が御園神明社門前であることについて触れている<sup>65)</sup>。また、『清洲城下町遺跡Ⅱ』(1992)では、小規模な区画溝で構成された可変的な屋敷と評価し、門

前に広がっていた町屋の遺構群と推定した。

東部ではまず、ⅡSD78とⅡSD79との溝-心間距離は約4mを測り、東西道路SF0003があったと考えられる。南北方向に走る溝ⅡSD75と道路SF0003で囲まれた空間を区画0008とする。区画0008の規模は復元できないが、方形区画と想定され内部に井戸ⅡSE29が存在する。区画施設が区画Ⅲ類よりも脆弱であるため、区画Ⅲ類よりも独立性が低い武家屋敷と推定される。また、60E区では小規模な溝Ⅳ類または溝Ⅵ類があり(Ⅱ



第133図 本町西部地区 (城下町期Ⅰ期)  
(S=1:2500)



第132図 五条橋地区 (城下町期Ⅰ期)  
(S=1:2500)



第134図 御園地区 (城下町期Ⅰ期)  
(S=1:2500)

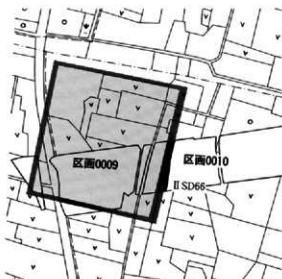
SD42・II SD44・II SD47・II SD48・II SD49・II SD50等)、頻繁な遺構変遷が想定される。ただしこの部分では特定の区画は検出しにくく、該期の井戸は確認できなかった。

この結果、東部では一辺25m以上の方形区画が、西部では小規模遺構群が展開しており、御園地区は武家屋敷(東部)と不定形の町屋(西部)が混在する地区と評価し直せるのではないであろうか。

#### G 神明町地区(第135図)

この地区では、湧Ⅲ類II SD66・湧Ⅳ類II SD08等が認められるが、その他の遺構は確実に城下町期I期から存在していたか不明である。梅本博志は、II SD66やII SD08等で囲まれた一辺90m四方の方形区画を想定し、この地区から信仰関連の遺物が比較的多量に出土していることから寺院の存在を推定した<sup>36)</sup>。

II SD66とII SD08で囲まれた方形区画を区画0009とする。梅本博志はII SD66とII SD08に平行する溝が存在し道路を構成したと推定したが、これが同時期であると認定できるか否かは疑問である。また、梅本はII SD66以东のII SD16で囲まれている不定形の区画を想定したが、II SD16がこの時期まで通るか否かについてもやはり疑問が残る。



第135図 神明町地区(城下町期I期)  
(S=1:2500)

ここでは区画0009・II SD66とII SD68で囲まれた小区画0010を認定したい。II SD66の西肩部には板状遺構が倒壊した部材が散乱しており、区画0009は周囲に木造区画施設が建てられていたことが分かる。区画0009の性格は、梅本と同様、出土遺物等から寺院を想定したい。

#### H 遺跡の範囲と「総構え」

ここで『信長公記』<sup>37)</sup>に記載された「町口大堀」と「惣構」について触れておく。梅本博志はこれらの記載を、幹線道路の南北の「町口」に自然地形に対応する「大堀」が存在し、横列等による「惣構」が形成され、「城戸」が設けられたと比定した。そして、北の「城戸」を現在の天王社地点、南の「城戸」を現在の清洲東小学校地点に想定した<sup>38)</sup>。

これまでの発掘調査の結果、城下町期I期の遺構の分布に関しては、五条川東岸では90A区から91A区までの旧五条川流路に沿って形成された自然堤防上に展開していることが判明している<sup>39)</sup>。梅本は、遺構の展開をほぼ南北に広がる形で想定し遺跡の南端を清洲東小学校地点としたが、この説は一部修正が求められよう。南北道路SF0001は、山王社(日吉神社)が城下町期I期に現在の位置に存在したものとすれば、南北に延び宮(熱田)迄道として機能していたと考えてよいと思われる。これに対し、本町西部地区に広がる遺構群が流路に沿ってどこまで展開するかは不明であり、その末端部の状況もまた不明である。ここでは旧五条川が再び屈曲して南下する地点まで遺跡が展開していたと考えたい。また、「町口大堀」の推定地はこれまでの成果からは読み取ることができないと言わざるを得ない。

#### I 城下町期I期の清須城下町構造

以上の成果を総括して遺跡全体を評価してみる(第136図)。

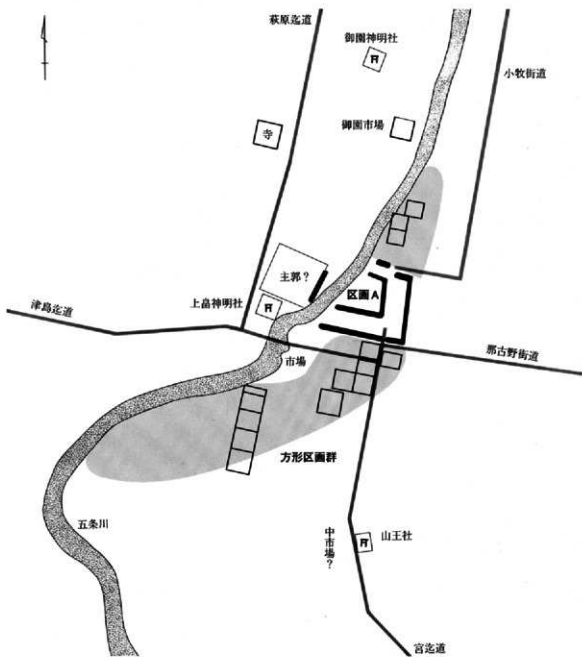
五条川西岸では、本丸地区の状況が不明であるが、土器器皿を多量に含有する溝または川の遺構の存在と城下町期III期の本丸推定地であること等

から、主郭の存在を想定したい。主郭の北部には方形区画と不定形居住域が混在しており、武家屋敷と定形化する前の形態の町屋（市）が並立していたと考えられる。また寺院の存在も想定される。

一方、五条川東岸では一辺200mクラスの方形状区画と、一辺45mクラスの方形状区画が展開している。遺構は五条川の自然堤防上に展開し、中心部に居館、居館の北部と南西部に方形区画の武家屋

敷や寺院、五条川流路の屈曲部に川港が展開している。方形区画群を貫く南北道路は居館に通じており、居館は南北に出入り口が設定されていたであろう。

五条川兩岸とも、主郭・居館（あるいは神社等）を中心とする求心的な遺構展開を示している。遺構展開も規格性が随所で認められ、ある程度の計画的な城下町建設が実施されたと思われる。しか



第136図 城下町期I期の清須城下町復元想定図 (S<sub>1</sub> = 1 : 10000)

し、求心的な構造は比較的狭い範囲にしか及んでおらず、個々の武家屋敷についてもその独立性は高いと言わざるを得ない。また、遺構群全体を大きく包括する「総構え」施設は遺構として全く検出されていない状況も併せると、この段階の清須は多元的な構造であったと思われる。

#### 4 城下町期Ⅱ-1期

城下町期Ⅱ-1期は瀬戸美濃窯産陶器編年の大窯第2段階に相当し、1520年頃～1555年頃の期間を指している。この時期の遺構は、本丸地区・田中町北部地区・田中町南部地区・五条橋地区・本町西部地区・御園地区・神明町地区で確認されている。遺構配置は基本的には城下町期Ⅰ期と大きく変更しない。一部に遺構の消長や居住域の拡大が見られる。

##### A 本丸地区

城下町期Ⅰ期と同様の遺構配置が想定されるが、該期の遺物の出土量は少ないようである。この段階に、本丸地区は居住空間としての機能が低くな

った可能性や遺構密度が低下した可能性が指摘されよう。ここでは、この地点が主郭としての機能分化をより鮮明に達成されていく途中過程であると評価し、前者の可能性を採用する。

##### B 田中町北部地区(第137図)

城下町期Ⅰ期とはほぼ同様の遺構配置が認められるが、一部で変更点が見られる。区画Aはこの段階も継続して存在していたと思われるが、外郭を囲む溝93D区SD01等は城下町期Ⅰ期には大半が埋積されており、城下町期Ⅱ-1期には比較的浅い落込みとなっている。従って、二重の溝で囲まれた区画Aは、この段階で一重の溝で囲まれた一辺100m前後の区画V類(大型方形区画)に変化したと考えられる。

90A区と62G区で確認された溝Ⅲ類で囲まれた区画Ⅲ類は、城下町期Ⅰ期と同様に存在していたと思われる。一部で溝や井戸等の掘り直しが認められる。

田中町北部地区は城下町期Ⅰ期と同様、居館として区画A、武家屋敷として区画Ⅲ類が展開して



第137図 田中町北部地区(城下町Ⅱ期以降)  
(S=1:2500)



いたが、区画Aの規模の縮小化が行われ、該期の遺物出土量も少なくなっている。求心的な勢力の弱体化と居住性の低下が伺える。

#### C 田中町南部地区 (第138図)

城下町期Ⅰ期と同様、溝Ⅲ類で囲まれた区画Ⅲ類が展開するが、消滅していく区画も認められる。I SD112・I SD136は城下町期Ⅱ期の遺物を含まないことから、これらの溝で囲まれた区画0002と区画0007が消滅したと考えられる。道路SF0001・SF0002は城下町期Ⅰ期と同様に機能していたと思われる。

この地区は武家屋敷として機能していたものの、屋敷が展開する範囲は縮小したと思われる。

#### D 五条橋地区 (第139図)

IVNR4001の出土遺物は圧倒的多数の城下町期Ⅰ期のもの他に、城下町期Ⅱ-Ⅰ期のものも含有している。このことから、城下町期Ⅱ-Ⅰ期には旧五条川IVNR4001は徐々に埋積されたと考え

られるが、機能は低下しつつも川港的な性格をまだ残していたと思われる。県道新川清洲線地点西部では、城下町期Ⅰ期段階に旧五条川に隣接した沼沢地であった部分が完全に陸地化している。ただし、追加された空間は、新たに井戸や区画溝が設置されておらず、居住域として利用されていないようである。

#### E 本町西部地区 (第133図)

城下町期Ⅰ期と同様、溝Ⅲ類で囲まれた区画Ⅲ類が展開している。遺構配置は基本的には全く変更点は認められず、武家屋敷と推定できる。

#### F 御園地区 (第140図)

東部では、城下町期Ⅰ期で認められた道路SF0003がこの段階でⅡSD85に切れ廃絶されている。この結果、区画0008は城下町期Ⅱ-Ⅰ期には廃絶もしくは施設の変更が行われたと思われる。なお、ⅡSD85は溝Ⅲ類であることから、田中町南部地区で見られる規模の方形区画が展開していた可能性も指摘できる。一方西部では、小規模の溝群の掘り直しが依然として繰り返されたと思われる。



第138図 田中町南部地区 (城下町期Ⅱ期)  
(S = 1 : 2500)



第139図 五条橋地区 (城下町期Ⅱ期以降)  
(S = 1 : 2500)

## G 神明町地区 (第141図)

城下町期Ⅰ期の溝ⅡSD66は廃絶され、新たに溝ⅡSD62・ⅡSD63・ⅡSD18・ⅡSD19等が存在する。L字状に屈曲するⅡSD18及びⅡSD19は各々区画0012と区画0013を囲んでいたと考えられる。両者の溝で挟まれた狭い空間は道路SF0004と推定できる。区画0012と区画0013は方形区画と思われるが規模は特定できない。溝の規模から判断して区画Ⅲ類の武家屋敷よりも少しランクが低い区画であると想定したい。

ⅡSD18とⅡSD19の南北溝の西側には、井戸が南北に配列している部分があり、更にその奥に溝ⅡSD62が存在する。井戸はⅡSE23～ⅡSE27があり、井戸の設置間隔は北から8.0m、4.5m、5.5m、6.5mを測る。これらの状況から、ⅡSD18・19南北溝に西接する道路SF0005を想定し、SF0005の西に間口が狭く東西方向に細長い区画Ⅰ類(区画0014～区画0018)が配列していたと推定できる。こうした短冊型地割の各屋敷には井戸が設置され、ⅡSD62は屋敷裏手の背割線になるだろう。この結果、城下町期Ⅱ-Ⅰ期段階から常設店舗の町屋の存在が伺えることとなる。井戸は各屋敷毎に専属の井戸を持っており、共同井戸ではない。



第140図 御園地区 (城下町期Ⅱ期)  
(S = 1 : 2500)

更にⅡSD62の西部には、城下町期Ⅰ期から存在する一辺90m四方の方形区画0009が継続して存在している。寺院と推定されよう。

以上の結果を整理すると、神明町地区では、道路SF0005の東に中クラスの方形区画(武家屋敷)、SF0005の西に短冊型地割の町屋、更に奥に寺院が存在することになる。

## H その他の地区

以上7地区以外の地区では、城下町期Ⅱ-Ⅰ期の良好な遺構群は検出されていない。しかしながら、朝日西地区等の地区では該期の遺物も出土することから、遺跡の範囲拡大の傾向も読み取れるかも知れない。

## I 城下町期Ⅱ-Ⅰ期の清須城下町構造

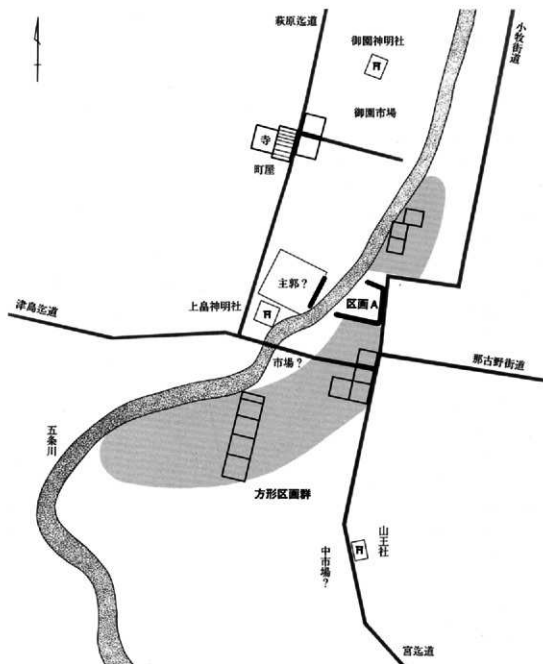
以上の成果を総括して遺跡全体を評価してみる(第142図)。

五条川西岸では、本丸地区に主郭を想定したいが遺物が僅少である。主郭北部には武家屋敷?、小規模の武家屋敷、短冊型地割の町屋、寺院等が隣接して展開している。

一方、五条川東岸では一辺100mクラスの区画Ⅴ類(居館)、一辺45mクラスの区画Ⅲ類(武家屋敷)が展開するが、規格性は増すものの区画の



第141図 神明町地区 (城下町期Ⅱ期)  
(S = 1 : 2500)



第142図 城下町期Ⅱ-1期の清須城下町復元想定図 (S=1:10000)

数量自体はやや減少している。

城下町期Ⅰ期の遺構配置と同様であるが、小規模の武家屋敷と短冊型地割の町屋の出現に大きな画期が認定できる。ただ、一部の区画が消滅し、遺物の出土量（特に瀬戸美濃窯産陶器大窯第2段階に属する遺物）も減少する傾向が認められ、遺跡の繁栄は一旦頭打ちの状況であったと考えられる。

## 5 城下町期Ⅱ-2期

城下町期Ⅱ-2期は、瀬戸美濃窯産陶器福年の大窯第3段階に相当し、1555年頃～1586年の天正地震・天正大改修までの期間を指している。ただし、この段階の時期区分は細分・再編成の必要が認められ、以下の記述全てが必ずしも同時期に存在した事柄と確定できない事情があることを付記しておく。この時期の遺構は、本丸地区・田中町

北部地区・田中町南部地区・五条橋地区・本町西部地区・御園地区・神明町地区・朝日西部地区で確認されている。遺構配置は基本的に城下町期Ⅱ-1期と同様であるが、特定地区で大きな変更が実施されている。

#### A 本丸地区

城下町期Ⅰ期と同様の遺構配置が想定されるが、該期の遺物の出土量は城下町期Ⅱ-1期よりも更に少なくなるようである。一方、瓦の分析から城下町期Ⅱ-2期を細分できる可能性が指摘されている。

主郭部分の瓦の使用については、土山公仁が岐阜城出土の同范瓦の存在から天正4年(1576)に最古の瓦葺建物が存在すると論じた<sup>46)</sup>。鈴木とよ江は更にこの論を進め、軒瓦を3期(1期1576～1582、2期1582～1586、3期1586～1613)に区分した<sup>47)</sup>。また、瓦の使用地点は出土量の分布から本丸地区に限定されると考えられている<sup>48)</sup>。こうした成果から、本丸地区には1576年頃に瓦葺建物の主郭構造物が建設され、1582年頃には建物の改築または増築が実施された可能性が指摘されるよう。

ただし、こういった分析結果は、これまでの遺構の検出状況から読み取ることができず、遺構配置の細かい時期区分は極めて困難である。

#### B 田中町北部地区(第137図)

城下町期Ⅱ-1期とはほぼ同様の遺構配置が認められる。区画Aはこの段階も一重の堀で囲まれた空間として存在していたと思われる。城下町期Ⅰ期では外郭を囲んでいた溝93D区SD01はやはり比較の浅い落込みとなっている。北部の90A区と62G区も溝Ⅲ類で囲まれた区画Ⅲ類が展開している。

居館として区画A、武家屋敷として区画Ⅲ類が展開していたが、区画Ⅲ類内の該期の遺物出土量は少なくなっており、居住性の低下が伺える。

#### C 田中町南部地区(第138図)

城下町期Ⅱ-1期と同様の遺構展開を見せる。溝Ⅲ類で囲まれた区画Ⅲ類(区画0001・区画0003・区画0004・区画0005)の存在が想定される。「清洲城下町遺跡」のⅡ1c期に対応する段階であり、各々の区画内の遺構配置または構造の変化は若干認められる。また道路については、道路SF0001・SF0002が城下町期Ⅰ期から引き継いで機能していたと思われる。

この地区は、整然と配置された武家屋敷として機能していたと思われる。

#### D 五条橋地区(第139図)

IVNR4001は城下町期Ⅰ期から徐々に埋積されているが、城下町期Ⅱ-2期の遺物出土量は非常に少なくなっていることから、城下町期Ⅱ-2期にはほとんど調査区範囲内のIVNR4001は埋積されたと思われる。この地区の遺構・遺物はほとんどなく居住域とは考えられない。

#### E 本町西部地区(第143図)

城下町期Ⅰ期～Ⅱ-1期まで存在した溝Ⅲ類が城下町期Ⅱ-2期には埋め立てられ、区画Ⅲ類



第143図 本町西部地区(城下町期Ⅱ-2期以降)  
(S=1:2500)

(区画6002～区画6006)は廃絶されている。そして井戸・礎石建物・土坑が掘削され、新たな空間構成を創出している。明確な区画施設は検出されなかったが、井戸が南北に一定間隔で配列して確認されたことから、東西方向に細長い地割(短冊型地割)が展開していたと推定できる。既に『清洲城下町遺跡Ⅳ』(1994)で区画6007～区画6025が想定されている。

区画6009～区画6024を推定する根拠として取り上げた井戸の間隔は、北から約4.0m、約5.5m、約4.0m、約7.5m、約5.5m、約12.5m、約15.0m、約7.0m、約8.0m、約15.5m、約5.5m、約5.5m、約8.5m、約6.0m、約20.0m、約13.5mを測る。この結果、井戸の間隔はおおよそ5.0m、7.5m、15.0mの3種に区分でき、これがすなわち短冊型地割の間口の規模に対応していると考えられる。従って、区画6009～区画6024の間口は5.0m、7.5m、15.0mの3種類の規模が認められる。また各々の区画の奥行は25m以上と推定される。区画6009～区画6024と区画6007・6008・6025の間には道路状の遺構が存在しないこと、及び区画6009～区画6024の遺構配置が東側に井戸を持ち西側に建物を建てていること等から、区画6009～区画6024と区画6007・6008・6025の間に背割線が存在したと考えられる。なお、区画6025には井戸の配列が確認できないが、調査区外に存在する可能性もあり、区画6025の性格は確定できない。

以上の結果から、この地点では方形区画の武家屋敷が短冊型地割の町屋あるいは下級武家屋敷に改変されていることが判明した。改変に当たっては溝を埋積すると同時に厚さ20cm前後の整地が行われている。調査地点は旧五条川が西へ屈曲する地点に相当し、付近に川港的施設の存在も予想されることから、藏屋敷的な町屋遺構群であった可能性も考えられる。

#### F 御園地区(第140図)

東部・西部ともに城下町期Ⅱ-1期と同様であ

ったと推測される。一辺45m規模の方形区画が存在した可能性は存在するものの、明確に武家屋敷であったと表づける状況ではない。

#### G 神明町地区(第141図)

城下町期Ⅱ-1期と同様の遺構配置である。道路SF0005の東に中クラスの方形区画(武家屋敷)、SF0005の西に短冊型地割の町屋、更に奥に方形区画の寺院が存在するといった様相である。区画内の内部構造の変遷は不明である。

#### H 朝日西地区

朝日西地区の城下町期Ⅱ-2期の遺構は、これまでのところほとんど認識されていないのが現状であるが、該期の遺物を主体とする遺構が全くないわけではなく、城下町期Ⅱ-2期の遺構は存在する。

筆者が現在まで確認した城下町期Ⅱ-2期の遺構は西SD42、西SE61、西SE62等である。溝Ⅲ類西SD42は朝日西地区西部を南北方向に走り、この西側が道路であった可能性がある。これ以外の区画施設を抽出できなかったため、区画規模と性格の判定は困難であるが、溝の規模から武家屋敷を囲む溝の一部であったと考えられよう。西SE61、西SE62は朝日西地区中央部にあり、東部から中央部までの範囲に城下町期Ⅱ-2期の遺構群が展開していたと想定できる。

以上の結果から、城下町期Ⅱ-2期には朝日西地区の開発が着手され、おそらく武家屋敷(あるいは寺院)が建設されていたのではないかと考えられる。しかし、未だ本格的な開発は次の段階を待たなくてはならなかったのである。

#### I 城下町期Ⅱ-2期の清須城下町構造

以上の成果を総括して遺跡全体を評価してみる(第144図)。

五条川西岸では、城下町期Ⅱ-1期と同様の遺構展開である。恐らく、本丸地区に主郭・北部に武家屋敷・町屋・寺院が混在する地域が広がっていたと思われる。1576年頃には、主郭に瓦葺建物

が登場したと思われる。

五条川東岸では、一辺100m規模の区画V類(居館)、一辺45m規模の区画III類(武家屋敷)の他に短冊型地割の町屋が出現する。町屋は一辺45m規模の区画III類(武家屋敷)が展開する一部地域を廃絶した後建設されており、武家屋敷と町屋の配置に関して、城下町構造の大きな変化が実施された。また、朝日西地区で遺跡の拡大も認めら

れた。

この結果、五条川両岸に、主郭(居館)・方形区画の武家屋敷・短冊型地割の町屋が展開する形と成ったことになる。また、一辺45m規模の方形区画の武家屋敷は城下町期I期に比べかなり減少しており、この傾向は次の段階にも引き継がれていった。家臣の独立性がこの段階に弱体化されていった過程も読み取れるのではないだろうか。



第144図 城下町期II-2期の清須城下町復元想定図 (S=1:10000)

## 6 城下町期Ⅲ期

城下町期Ⅲ期は、瀬戸美濃窯産陶器の大窯第4～5段階に相当し、天正14年（1586）の天正地震と天正大改修～慶長18年（1613）の名古屋城移転（清須城）までの期間を指している。この時期は更に2時期に細分が可能であるが、ここでは一括して取り扱う。この時期の遺構はほぼ遺跡全域で確認されており、清須城下町の最盛期に相当している。また遺跡全体を包括する総構えの堀が掘削されていた段階でもある。

## A 本丸地区

城下町期Ⅲ期の本丸地区の遺構は、主郭を囲む内堀が3カ所で検出されたのみで、内側の主郭構造は調査事例に乏しく全く不明である。千田嘉博は城下町期Ⅲ期の清須城中枢部の構造復元を、絵図と地籍図等を利用して歴史地理学的に行っている<sup>463</sup>。これによれば、主郭+馬出しという曲輪構成をもち、天守閣に多間櫓が合体した複合天守閣、もしくは天守閣に塀囲みの櫓台が付属した姿と復元した。

発掘調査で確認された内堀は、清洲町教育委員会調査の清洲公園トイレ建設地点（伝天主台跡西部）<sup>464</sup>、92F区、94A区があり、これらは調査区の範囲内では堀の規模が特定できないほどの巨大な規模を誇っている。特に94A区では、堀の内部からは石垣の基礎構造と多量の瓦が出土しており、本格的な瓦葺建物が存在したと考えられる。現地表面で石垣が存在しないのは、清須城廃城段階において徹底的に破壊され、資材を名古屋城に運び去っていったためと考えられる。なお、発掘調査成果による主郭の構造復元は現段階では困難である。

## B 田中町北部地区（第137図）

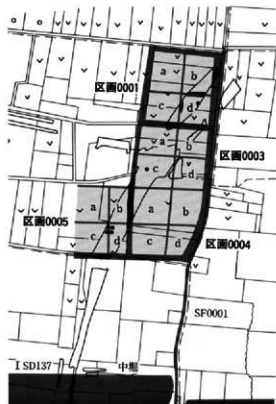
区画Aは一辺約100m規模の区画として依然として存在していたと考えられる。梅本博志は区画Aについて、遺物の出土量は少なくふれあい広場地点SD01のみが機能していることから、五条川

東岸の「馬出し」として転用されたと理解した<sup>460</sup>。千田嘉博も、三方を堀で囲まれる形から馬出しの機能を果たした曲輪の可能性があったとした<sup>467</sup>。これに対し筆者は、区画A＝馬出しの機能とする考えに固執せず、これまでの調査で日常生活に関連する遺物が僅少であるものの、城下町期Ⅰ期以来居館として機能してきた空間は、やはり依然として儀礼的な空間として存在していたのではないかと推測したい。

これに対し、北部の90A区・62G区では、溝Ⅲ類が完全に消滅し方形区画は存在しないようである。また、区画Aに東接する地点では、地籍図では短冊型地割が読み取ることができ、町屋が想定されているが、現状では不明である。

## C 田中町南部地区（第145図）

城下町期Ⅱ-2期と同様に溝Ⅲ類が数条存在するものの、区画Ⅲ類の内部は更に細分されており、区画Ⅱ類が展開する空間構成に変化している。



第145図 田中町南部地区（城下町期Ⅲ期）  
(S = 1 : 2500)

溝Ⅲ類は、I SD110・I SD111・I SD118南北溝・I SD128等が残存している。これらに囲まれた区画0001はI SD103・I SD104で構成される道路SF0006、I SD106・I SD107で構成される道路SF0007で各々細区分され区画0001a・区画0001b・区画0001c・区画0001dが存在している。また区画0006では井戸の配置から区画0006a・区画0006b・区画0006cに分かれる可能性がある。これ以外の区画ではこのような事例が検出されなかったが、おそらく同様の遺構変遷があったものと推測できる。

この田中町南部地区では、独自性の強いやや面積の広い方形区画の武家屋敷から、面積にして4～8分の一の面積の屋敷地に変貌している。これらの区画の評価は、佐藤公保は区画溝内に兼住する従属性の強い中・小家臣団の居住域と考えた<sup>140)</sup>。筆者も同様に、下級家臣団が居住した武家屋敷を想定したい。なお、これらの遺構配置の改変に際して、溝Ⅲ類の埋め立てや整地は実施されていないことを付記しておく。

#### D 五条橋地区（第139図）

城下町期Ⅲ期も、Ⅱ期と同様であったと考えられるが、詳細は不明である。この地点に関するコメントはこれまでもほとんど見られない。顕著な遺構群が検出されていないことから、南に存在する中堀の内側の空間として広場が存在した可能性を考えたい。

#### E 本町西部地区（第143図）

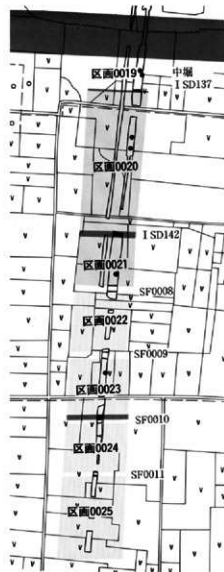
城下町期Ⅱ-2期の遺構群（短冊型地割）は、天正地震（1586年発生）によって倒壊したものと考えられている。これを受け、城下町期Ⅲ期には整地を実施して、前代と同様の屋敷地を再興している。空間構成は城下町期Ⅱ-2期とほとんど変化することなく建て替えられており、一部で屋敷地の統合が行われている。また、この地点の北端部には、中堀ⅣSD6001が新たに掘削されており、隣接する五条橋地区とは完全に隔絶されている。

発掘調査地点は、中堀ⅣSD6001が取戻し出入口に相当する地点であり、おそらくこの地点の西側に主要街道が通っていたと推定される。

中堀の掘削により、空間は町屋と（軍事的）広場に明確に区分され、空間組成は計画的な構成となっている。そして主要街道沿いに短冊型地割の町屋が、地震等の様々な障害を越えてなお再建されているのである。

#### F 本町東部地区（第146図）

この地区は城下町期Ⅱ期までは、遺構・遺物がほとんど存在しない地区であったが、城下町期Ⅲ



第146図 本町東部地区（城下町期Ⅲ期）  
(S = 1 : 2500)



期になると遺構・遺物が急増している。遺構は、地区北端部の中堀 I SD137をはじめ、溝Ⅲ類・Ⅳ類・Ⅴ類・井戸・土坑等である。発掘調査区が狭小であるため、区画規模の正確な把握は困難であるが、『清洲城下町遺跡』によれば寺院、町屋等の性格が想定されている<sup>(49)</sup>。また、佐藤公保は、中堀 I SD137から溝Ⅲ類 I SD142までの空間は区画溝内に集住する中小家臣団の居住域、I SD142以南の空間は南北方向に細長い短冊型地割が展開した空間と考察した<sup>(50)</sup>。千田嘉博は地籍図から南北に長い長方形街区に東西に細長い短冊型地割が並ぶ復元案を提示している<sup>(51)</sup>。

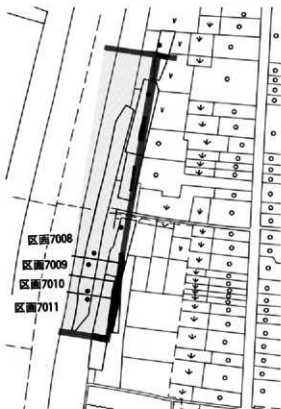
中堀 I SD137から溝Ⅲ類 I SD142までの空間は、I SD140と井戸が存在する。I SD140と I SD142の間隔は約90mを測り、これまで見てきた区画規模に合致する数値となっているが、内部の遺構構成がこの時期の田中町南部地区南半部に類似することから、佐藤と同様、中小家臣団の居住域と推定する。I SD143と I SD144で構成される東西道路SF0008から I SD142までの空間は、約45m四方の方形区画0021が推定され、石仏等が出土していることから寺院と想定する。道路SF0008から南の空間は、I SD148と I SD149で構成される東西道路SF0009、I SD153と I SD154で構成される東西道路SF0010、I SD156と I SD157で構成される東西道路SF0011が、各々約45m間隔で展開しており、規格性の高い長方形区画(区画0022~0025)が存在している。長方形区画の内部構造は、明確な遺構群が検出されていない現状では不明と言わざるを得ないが、ここでは町屋と推定しておく。

#### G 南部地区(第147・148区)

南部地区は、城下町二期までは遺構・遺物はほとんどなく、城下町三期に本格的に機能し始める区域である。遺構は区画溝・井戸・土坑等がある。これらの遺構群は『清洲城下町遺跡Ⅳ』(1994)によれば、東西に細長い短冊型地割が並ぶ部分と、特定の区画が認定されない部分と、最

南部の方形区画が想定されている。また、短冊型地割が成立する段階も城下町三期Ⅰ期に位置づけられるものと、城下町三期Ⅱ期に位置づけられるものがある。従って、この地点の開発年代の全てを天正14年の大改修に比定できない。どの城主の年代に当地の開発が行われたかは特定できないが<sup>(52)</sup>、城下町域の拡大は徐々に進行していったものと考えられる。

区画7008~区画7011は、井戸間距離の平均値から間口12m前後を測る東西方向に細長い区画Ⅰ類(短冊型地割)の空間で、IV SD7023は背割線に相当すると考えられる。奥行は30m以上を測るものと思われる。この短冊型地割の成立は城下町三期Ⅱ期と考えられる。更に南部の調査区では、区画8001~区画8003及び区画8007~区画8010の短冊型地割またはそれと類似する空間が存在する。区画8001~区画8003はIV SD8008とIV SD8010で区画された空間であるが、居住空間として確定でき



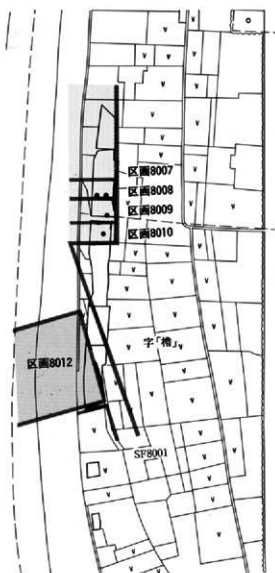
第147図 南部地区(1) (城下町三期)

(S = 1 : 2500)

るか否かはやや疑問である。成立は城下町期Ⅲ-1期に属する。一方、区画8007～区画8010の短冊型地割は確実に井戸を持つ空間で町屋と推定可能な部分である。東西方向に細長く開口は約12m、奥行は15m以上を測る。区画8007～区画8010の成立は城下町期Ⅲ-2期である。

最南部の空間構成は、南北道路IVSF8001とIVSD8031・IVSD8032で囲まれた方形区画8012が存在する。字「槽」の地名が残存していること、及び遺物が極めて少量しか出土しなかったことから、軍事的な施設を考えたい。

#### H 御園地区 (第149図)



第148図 南部地区(2) (城下町期Ⅲ期)  
(S=1:2500)

城下町期Ⅲ期の御園地区では、巨大な堀が2条掘削され、前代に比べ大きく空間構成が異なっている。

内堀ⅡSD39は南北方向に、中堀ⅡSD52は東西方向に走っており、この2本の堀で囲まれた空間(区画D)が設定されている。千田嘉博は区画Dを北の丸推定地の曲輪からはみ出す曲輪で、中堀部から一步踏み出し北へ橋頭堡の役割をもつものと評価した<sup>133)</sup>。区画D内には、長方形の土坑(ⅡSK195～ⅡSK202等)が規則的に配列しており、槽状建築物の存在が想定される<sup>134)</sup>。

ⅡSD52以北の空間は、ⅡSD52に隣接する部分では特に遺構がみられないのに対して、89A区と63R区では、短冊型地割の町屋を推定し得る遺構群が存在している。

御園地区では、城下町期Ⅱ期までの空間構成を完全に否定して、城郭中核部の一部として取り込まれ、その外側(北側)は新たに居住城を設けている。権力者の意図が強く反映された地区と評価できる。

#### I 神明町地区 (第149図)

神明町地区の城下町期Ⅲ期の遺構は、規模の大きいやや不定形の溝ⅡNR03・ⅡSD16等があり、面積の大きい空間が創出されている。

ⅡNR03とⅡSD16に挟まれた不定形の空間を区画E、L字に屈曲するⅡSD16で囲まれた空間を区画Fとする。このうち区画Fは名古屋市蓬左文庫所蔵「春日井郡清須村古城絵図」<sup>135)</sup>に記載された「樹木屋敷」に相当すると考えられる。区画内の構造は詳らかではないが、空間の規模からみて、区画E及び区画Fは武家屋敷であったと評価できる。

短冊型地割の町屋や小規模武家屋敷を廃絶して、比較的大規模な武家屋敷に改変されており、御園地区の遺構変遷と連動した地点と思われる。

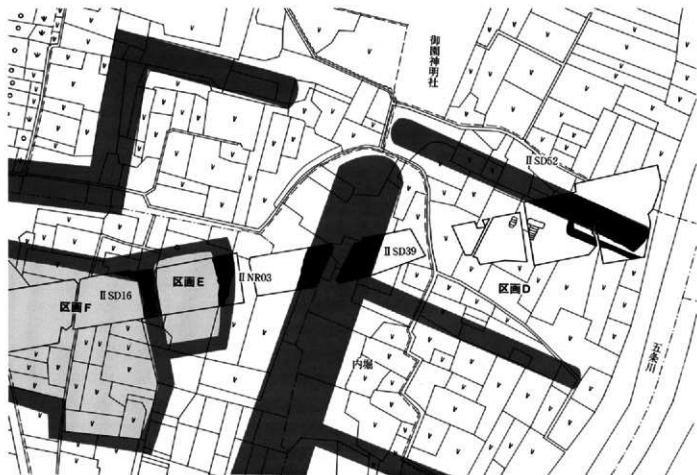
#### J 朝日西地区 (第150図)

朝日西地区は、城下町期Ⅲ期になると城下町期

Ⅱ-2期に比べ格段に遺構・遺物が増大している。この地区の遺構配置については、遠藤才文<sup>166)</sup>と佐藤公保<sup>167)</sup>が詳細な分析を実施している。佐藤によれば、調査区東端部に清須城外堀西SD222が

あり、外堀沿いに寺社地、主要街道沿いに短冊型地割の町屋が展開し、広場と溝を介して五条川沿いに武家地と町屋が展開すると復元されている。

朝日西地区の城下町期Ⅲ期の遺構は、外堀西



第149図 御園・神明町地区（城下町期Ⅲ期）（S = 1 : 2500）



第150図 朝日西地区（城下町期Ⅲ期）（S = 1 : 2500）

SD222を除くと、溝Ⅲ類・溝Ⅳ類・溝Ⅴ類・井戸・土坑等がある。朝日西地区は南北方向に走る溝等で大きく5区に区分できる。西SD24・西SD26等で区画される西側のエリアを朝日西Ⅰ地区とする。西SD24・西SD26等の溝群と、西SD89・西SD93・西SD116・西SD118の溝群で挟まれるエリアを朝日西Ⅱ地区とする。西SD89・西SD93・西SD116・西SD118の溝群と、西SD153・西SD158等の溝群に挟まれたエリアを朝日西Ⅲ地区とする。西SD153・西SD158等の溝群と、西SD177とその延長上ラインに挟まれたエリアを朝日西Ⅳ地区と定義する。更に西SD177とその延長上ライン以东のエリアを朝日西Ⅴ地区とする。

朝日西Ⅰ地区は小規模な溝Ⅳ・Ⅴ類によって東側が区画された空間で、南部に井戸が密集している。細かい規模の屋敷地を想定することは難しく一辺45m前後を測る方形区画0026を想定したい。屋敷の規模から武家屋敷を想定したいが、区画施設の脆弱さ等から有力家臣の屋敷とは考えにくい。

朝日西Ⅱ地区は小規模な溝Ⅳ・Ⅴ類によって東西両側を挟まれた空間である。西SD26と西SD27の溝心間距離は約3mを測ることから道路SF0012が想定され、Ⅰ地区とⅡ地区は道路によって区画されていることになる。Ⅱ地区のやや東寄りの部分に南北一列に配列する井戸群が認められ、これまでの分析と同様、東西に細長い屋敷地が南北に連なる短冊型地割が想定される。なお、西

SD89・西SD93・西SD116・西SD118等の溝群については、溝心間距離が約1mと狭いことから、道路と考え難く区画溝(背割線)と考えられる。

朝日西Ⅲ地区は小規模な溝Ⅳ・Ⅴ類によって東西両側を挟まれた空間である。西SD153と西SD155の溝心間距離は約3mを測ることから道路SF0013が想定される。Ⅲ地区のやや東寄りに南北一列に配列する井戸群が認められ、Ⅱ地区同様、東西に細長い屋敷地が南北に連なる短冊型地割が想定される。

朝日西Ⅳ地区は、西を小規模な溝Ⅳ・Ⅴ類で、東を比較的大規模な溝Ⅲ類で囲まれた地区である。区画中央部に南北一列に配列する井戸群が認められ、Ⅱ地区同様、東西に細長い屋敷地が南北に連なる短冊型地割が想定される。

朝日西Ⅴ地区には溝Ⅲ類が数条検出されている。西SD177以东で西SD189以南の空間を区画0030、西SD189以北で西SD200以西の空間を区画0029、西SD200で囲まれた空間を区画0032、西SD200以北の空間を区画0031と定義する。これらの区画群は一辺が約45mを測る方形区画で、区画の形状は城下町期Ⅰ期の区画Ⅲ類と類似している。ただし、出土遺物に卒塔婆等宗教的色彩の強い遺物が多い点と清須城の外郭部分に相当する点から、寺院跡と想定できる区画群である。

このように朝日西地区は大きく3つの空間構成が認められる。西端部には規模の小さい溝で囲ま



第151図 廻間地区(城下町期Ⅲ-2期)(S=1:2500)

れた方形区画、中央部には短冊型地割列が3列、東端部には規模の大きい溝による方形区画が各々存在している。このうち中央部の短冊型地割は複数列認められることから、一本街村状の町屋ではなく、長方形街区が計画的に配置された町屋が建設されたものと言えよう。

#### I 廻間地区 (第151区)

廻間地区では東西方向の溝V類と井戸群が検出されている。この地区の構造的復元は佐藤公保によって行われている。佐藤は東西方向の溝を津島迄道に比定し、井戸群が東西に配列することから南北に細長い地割が東西に並ぶ短冊型地割を想定した<sup>585</sup>。ここでこの案をそのまま踏襲する。なお、出土遺物は微量であるが、城下町期Ⅲ-2期に位置づけられる遺構群である。

この地点は清須城外堀よりも外側に位置することから、主要街道(津島迄道)沿いのみ展開した外町としてその性格を考えたい。

#### J 外町地区

外町地区では、性格不明の溝1条が検出されているのみである。従って、遺構の展開状況は明らかにし得ないが、清須城の南部においても廻間地区と同様に外町が展開していた可能性を物語る。

#### K 遺跡の範囲と「総構え」

以上の分析結果から、城下町期Ⅲ期において、清須城下町はその範囲を最大の規模に発展させている。更にこれらの町並みを「総構え」の堀によって囲郭している。「総構え」の堀はこれまで金原宏<sup>586</sup>や千田嘉博<sup>587</sup>等によって様々な方法で復元が試みられており、おおよその位置は確定されつつある。こうした復元案の堀の位置は、発掘調査でも矛盾することがなくほぼ確定的であるといえよう。但し、「総構え」の設定された時期については、堀出土遺物の評価の仕方等様々な問題があるために、天正14年と断定する段階にはなおおっていないのが現状である<sup>588</sup>。

#### L 城下町期Ⅲ期の清須城下町構造

以上の成果を総括して遺跡全体を評価してみる(第152図)。

五条川西岸では、本丸地点に馬出しを持つ主郭の存在が想定され、瓦葺建物が存在している。主郭北には「樹木屋敷」等に比定される規模の大きい方形区画が想定され、武家屋敷が展開していた。

一方、五条川東岸では区画Aが存在するものの、軍事的または儀礼的施設の一部に格下げとなっている。城下町期Ⅱ-2期に区画I類に変化しなかった残りの一边45m規模の方形区画は、面積が4分の1程度の小規模方形区画に再編成されている。一方、南部地区や朝日西地区は新たな居住空間として短冊型地割の町屋、方形区画の寺院が建設されており、この傾向は「総構え」外部の街道沿いに外町を形成するまでに至っている。

清須城下町の規模拡大は、城下町期Ⅲ-1期よりも城下町期Ⅲ-2期により一層進展したと考えられる。

#### 7 清須城の城郭・城下町構造の変遷

以上、4時期に区分して各時期の清須城下町構造の具体的な様相を検討してきた。こうした構造がどのような背景や歴史的意義をもって変化したのかをこの項で概観する。

##### A 城下町期I期

城下町期I期の清須城・城下町は、矩形的堀を巡らせた大規模な館型城郭<sup>589</sup>を中心に、周囲には小規模な堀を持つ方形区画が展開している。館型城郭は、機能分化型山城とセットになって関東・中部-四国・北部九州に分布する形式であり、清須城で見られるような大規模な館型城郭+方形区画群で構成される拠点の城郭は他に、尾張国岩倉城<sup>590</sup>、美濃国枝広館<sup>591</sup>等で確認されている。

城下町期I期の清須に特に問題となる点は、主郭の位置である。五条川西岸部は、城下町期Ⅱ-2期以降に著しく遺構が改変されたと思われる、地

萩原北道

清洲城下町遺跡V



津島北道



上島神社

御園神社

樹木屋敷

本丸

区画A

小規模方形区画

小牧街道

寺

町屋

那古野街道

五条川

町屋

寺

町屋

山王社

町屋

町屋

櫓?

第152図 城下町期重期の清須城下町復元想定図

(S = 1 : 10000)

宮北道



籍因や現地形による推定は困難であり、発掘調査による成果を待つより他ない。しかし、城下町期Ⅱ-2期以降の主郭が西岸部に所在し、かつ城下町期Ⅰ期の遺物が多量に存在することは、主郭またはそれに相当する遺構が西岸部にあったことを想定させる。一方、五条川東岸には二重の堀で囲まれた居館があり、これも主郭にふさわしい存在である。従って、清須城は主郭相当の遺構が五条川を挟んで対峙する形態となっている。

こうした「2つの主郭」の存在はどのように解釈されるだろうか。第一説には、あたかも方形館と山城に機能分化させた<sup>66)</sup>ように、政治・生活機能と軍事機能を分化させた結果生じたものであるという考えがある。また第二説には、『信長公記』<sup>66)</sup>に記載されている「北矢藏」・「南矢藏」に対応させる考えがある。後者の説に関連して、梅本博志はやや強引であるとしながらも『信長公記』を丹念に読み解いて、

「北矢藏」=軍事的色彩の強い守護代織田氏の館  
 「南矢藏」=形式的な「守護所」であり、狭義の「清洲の城」とされた斯波氏の「御殿」と推定した<sup>67)</sup>。梅本は各々を五条川東岸の2つの方形区画に比定したが、五条川両岸に存在する「2つの主郭」に比定する方が妥当と考えられる。すなわち、

「北矢藏」=五条川西岸の「主郭」  
 「南矢藏」=五条川東岸の「主郭」

である。このように推定すると、城下町期Ⅱ期以降に五条川東岸の「主郭」の規模や機能の縮小することと守護家の衰退が対応する点が興味深い。

次に、五条川東岸にある二重の堀で囲まれた城郭の形態について考察する。浅野弘一は尾張国の織田一族の城館は複郭・二重堀の特徴を持つと論じている<sup>68)</sup>が、今回の清須の事例もこれに該当する形態と思われる。ただし、内郭と外郭の空間が他の城郭と異なって非常に広く設定されている点が特徴である。おそらくは内郭と外郭の空間に

居住城が設定されており、ここに城主直属の家臣団が居住した可能性が考えられる。

城主直属家臣団以外一族・有力家臣は城郭周辺に展開する方形区画に屋敷を構えていただろう。方形区画は個別に堀を持つ独立性の高い形態であり、城主には完全に従属していないものと思われる。一方、神社や河原等の無縁の原理が働く場所に市場が存在しており、その形態は常設ではなく仮設的なものであった。従って、市場・町屋の存在は一定の計画性をもつ都市計画の中で設立されたものではないが、結果として、武家屋敷と市場・町屋は立地が異なって存在している。

こうした状況は、前川要のいう武士と商工業者が混在する「織豊系城下町の第一様式」<sup>69)</sup>のモデルとは一部異なる形態である。むしろ居館を中心に武家屋敷・市町が広がる同心円構造<sup>70)</sup>を呈していた城下町構造であったと評価できよう。

#### B 城下町期Ⅱ-1期

城下町期Ⅱ-1期において変化した点は、区画Aの規模縮小と小規模武家屋敷・短冊型地割の町屋の出現である。五条川東岸にある区画Aの外郭が撤去されることにより、内郭と外郭の空間に居住した直属家臣団が城主の庇護から解放され、小規模武家屋敷等に移動した可能性が考えられる。また、区画Ⅲ類の武家屋敷は減少傾向にある。従って、少なくとも五条川東岸においては城主の求心力は低下していることが伺える。

また、五条川流路の微妙な移動に伴い河原に設定された市場は低調となり、一方で街道沿いに短冊型地割の町屋（常設店舗）が出現している。このことから、商職人の定住または城主に取り込まれていったことが伺える。短冊型地割の町屋が、一本街村状に展開したのか、長方形街区を伴っていたのかは現時点では詳らかではない。長方形街区を伴うと仮定すれば、前川要の「織豊系城下町の第二様式」に近似しているが、むしろ街道筋の町屋に隣接して武家屋敷や寺院が存在する形態と

して捉えれば、一乗谷朝倉氏遺跡の構造に類似している<sup>71)</sup>と評価できる。

### C 城下町期Ⅱ-2期

城下町期Ⅱ-2期においては、五条川西岸部の主郭構造の発展と区画Ⅲ類の武家屋敷の一部が町屋に変化した点の2点が大きく異なっている点である。

主郭構造の発展は、瓦葺建物・石垣の出現に象徴的に現れており、こうした特徴は織豊系城郭の特徴<sup>72)</sup>に合致する事例である。また、区画Ⅲ類の武家屋敷が町屋に変化した点は、独立性の強い家臣団が従属化(弱体化)する一方で、商職人の取り込みが進行していった事を物語っている。

問題はこうした現象が、いつ、どのような契機で発生したのかという点である。武家屋敷から町屋への変化した時期は、町屋を創設する際に廃絶された武家屋敷の区画溝の遺物を検討すると、基本的に瀬戸美濃窯産陶器の大窯第3段階の遺物は若干存在するもののほとんど含まないことから、1560年頃と考えられる。一方、主郭構造の発展については、同范瓦の分析による研究<sup>73)</sup>があるのみである。歴史的契機に着目すれば、織田信雄が尾張国を領有した段階<sup>74)</sup>や、小牧長久手の戦いの緊張時(天正11・12年)<sup>75)</sup>に清須城整備の画期が求められる。しかし、依然として城下町期Ⅱ-2期の開始年代は、論拠のある詳細な見解はない。

また、本町西部地区の町屋構造がかなり大規模な展開をみせており、かつ城下町期Ⅲ期にまで継続していることから、この遺構展開状況が城下町期Ⅲ期に成立したと思われる「総構え」的な城下町構造を前提としていた可能性が考えられる。つまり、「総構え」的な城下町構造が城下町期Ⅱ-2期まで遡る可能性があると言え換えられる。「総構え」の評価の仕方と先に触れた年代は、今後の重要な課題であるといえよう。

この段階の城下町構造は前川要の「織豊系城下町の第三様式」に該当するだろう。いずれにして

も商職人の集住が顕著に認められ、武家屋敷の展開状況が詳細には解らないが、方形区画の減少している状況は確認される。

### D 城下町期Ⅲ期

この段階は「総構え」の創設が画期的な出来事であり、これに伴い清須城下町の範囲は急速に拡大した。Ⅲ期の中での詳細な遺構の拡大・展開状況は論証できないが、周縁部に離れて行くにつれて遺構の展開は時期的に遅れていくようである。

清須城中枢部の構造はこの段階には確実に成立したと見られ、これに伴い五条川西岸部の中小規模武家屋敷や町屋・寺院は廃絶され、規模の大きい武家屋敷等に再編成されている。一方、五条川東岸部は区画Aが形骸化しつつも遺存したが、他の地区では中小家臣団や商職人居住域がある程度地区区分されて展開する状況がより一層進展する。

この段階の城下町構造は前川の「織豊系城下町の第四様式」に該当するが、家臣団全体と商工業者が完全に空間的に分離するとは断定できない。また、「総構え」の範囲内でも湿地状の立地条件を持つエリアでは遺構は空白となっている一方で、街道沿いに外町が形成される部分も存在する。「総構え」構築の結果、遺構配置上武家屋敷と町屋の一元的な把握が達成されたと考えられるが、微細に検討すれば「総構え」内部の構造は様々な条件によって多様な状況を呈していたと思われる。しかしながら、清須城下町域の急速な拡大は、城主の権力の飛躍的な強化を物語っているであろう。

## 8 まとめ

清須城・城下町の段階的發展過程を詳細に検討した結果、2つの館型城郭を核にして広がる独立性の強い家臣団集団が展開する形で成立した清須城は、徐々に商職人を城下に定住させて取り込む傾向で変遷し、城下町期Ⅲ期に飛躍的な発展を達成した。このような遺構の推移は五条川西岸部と東岸部では異なっており、最終的には西岸部の主



郭が強化された形になっている。

本稿は、1994年度末現在までの発掘調査の結果をもとに想定した復元案であり、今後の調査で見解を改める必要が生じる場合もあるであろう。またいくつかの仮定を用いて論を進めており、この仮定が崩れれば見解も異なってくる。この意味で、この復元案は確定的なものではなく、現段階での仮説である。しかし、こうした仮説を随時提示することが遺跡の調査をより高度にし、遺跡の評価を高めていくことにつながるものと考えており、こうした背景をもとにこの稿は成立している。大方のご叱正・ご教示を賜わりたく思う。

(鈴木正貴)

- 註(1) 林良幹(1943)『清須城懐古録』。  
 (2) 中部よし子(1979)『織田信長の城下町経営』『ヒストリア』82。  
 (3) 高牧實(1982)『織豊政権と都市』『講座日本の封建都市第1巻』文一総合出版。  
 (4) 小島道裕(1984)『戦国期城下町の構造』『日本史研究』257。  
 (5) 下村信博(1989)『文献からみた清須城下町の変遷』『清須—織豊期の城と都市—研究報告編』。  
 (6) 小林健太郎(1985)『戦国城下町の研究』大明堂。  
 (7) 金原宏(1986)『清洲城下町の魁の復元』『年報昭和60年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター。  
 (8) 千田嘉博(1989)『清須城とその城下町—地籍図による復元的考察—』『清須—織豊期の城と都市—研究報告編』。  
 (9) 昭和13年作成の『清洲町・新川町土地宝典』と昭和21年末軍撮影の航空写真を各々用いている。  
 (10) 明治17年作成の愛知県公文書館所蔵「地籍字分全図」7ヶ村分を用いている。  
 (11) 遠藤才文(1985)『遺跡としての清洲城下町』『埋蔵文化財愛知No. 1』。  
 (12) 梅本博志(1989)『信長期における清須城下町の様相』『清須—織豊期の城と都市—研究報告編』。  
 (13) 佐藤公保(1989)『考古資料からみた16世紀後半の清須城下町』『清須—織豊期の城と都市—研究報告編』。  
 (14) II期区分は梅本博志が初めて提示した。梅本博志(1986)『清洲城下町遺跡』『年報昭和60年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター。  
 (15) 鈴木正貴編(1994)『清洲城下町遺跡IV』愛知

- 県埋蔵文化財センター調査報告書第53集。  
 (16) 小澤弘編(1992)『清洲城下町遺跡II』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第27集。  
 (17) 鈴木正貴編(1990)『清洲城下町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第17集。  
 (18) 鈴木正貴他編(1994)『清洲城下町遺跡III・外町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第50集。  
 (19) 鈴木正貴編(1994)『清洲城下町遺跡IV』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集。  
 (20) 梅本博志編(1987)『清洲城下町遺跡I』清洲町教育委員会。  
 (21) 高橋信明(1989)『清洲城下町遺跡』『愛知県埋蔵文化財情報』4 昭和62年度 愛知県教育委員会・(財)愛知県埋蔵文化財センター。  
 (22) 野口哲也(1990)『清洲城下町遺跡』『愛知県埋蔵文化財情報』5 昭和63年度 60—61頁 愛知県教育委員会・(財)愛知県埋蔵文化財センター、及び、野口哲也編(1990)『清洲城下町遺跡II』清洲町教育委員会。  
 (23) 野口哲也(1990)『清洲城下町遺跡』『愛知県埋蔵文化財情報』5 昭和63年度 64頁 愛知県教育委員会・(財)愛知県埋蔵文化財センター。  
 (24) 野口哲也(1994)『清洲城下町遺跡』『愛知県埋蔵文化財情報』9 平成4年度 愛知県教育委員会・(財)愛知県埋蔵文化財センター。  
 (25) 小澤弘編(1992)『朝日西遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集。  
 (26) 赤塚次郎編(1990)『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集。  
 (27) 小嶋廣也他編(1994)『清洲城下町遺跡III・外町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第50集。  
 (28) ここで設定した地区区分は便宜的なもので、従来の様々な区分とは若干異なっているので注意されたい。  
 (29) 遺構復元図の凡例は以下の通りである。  
 ○———宅地      √———堀地  
 無印———水田      ∨———藪  
 破線———字界      波線———水路  
 ●———井戸      網部———復元部  
 黒塗部———溝  
 (30) 上島神明社文書『清洲町史』所収による。  
 (31) 前掲註(12)。  
 (32) 前掲註(12)。  
 (33) 前掲註(12)。

- (34) 前掲註(8)。
- (35) 前掲註(12)。
- (36) 前掲註(12)。
- (37) 奥野高広・岩沢恵彦校注(1969)『信長公記』角川文庫による。
- (38) 前掲註(12)。
- (39) 91A・89B区までは安定した自然堤防(シルト層)が展開しており、遺構は城下町期I期から存在しているのに対して、89C区以南ではシルト層は薄くなり不安定な地盤となっている。こうした状況から、この地点の遺構は東西方向に展開していたと推測される。
- (40) 土山公仁(1989)「岐阜城の瓦についてI」『岐阜市歴史博物館研究紀要3』
- (41) 鈴木とよ江(1992)「瓦」『清洲城下町遺跡II』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第27集。
- (42) 鈴木正貴(1993)「清洲城下町遺跡」『第1回織豊期城郭研究会研究集會資料-織豊期城郭の瓦-』。
- (43) 前掲註(8)。
- (44) 前掲註(23)。
- (45) 福岡見彦他(1995)「清洲城下町遺跡」『年報平成6年度(財)愛知県埋蔵文化財センター』。
- (46) 前掲註(12)。
- (47) 前掲註(8)。
- (48) 前掲註(13)。
- (49) 前掲註(18)。
- (50) 前掲註(13)。
- (51) 前掲註(8)。
- (52) 下村信博によれば、松平忠吉が城主の時代に清須城下町の再整備がなされ、発展が全図されているという。前掲註(5)。
- (53) 前掲註(8)。
- (54) 前掲註(16)。
- (55) カラー図版は『清須-織豊期の城と都市-資料編』(1988)に掲載されている。
- (56) 前掲註(11)。
- (57) 前掲註(13)。
- (58) 前掲註(13)。
- (59) 前掲註(7)。
- (60) 前掲註(8)。
- (61) 天正14年説は紀年銘瓦・天正地蔵痕との関係等が根拠となっている。
- (62) 千田嘉博(1990)「戦国期城郭・城下町の構造と地域性」『ヒストリア129号』
- (63) 金子健一(1990)「戦国城下町岩倉の復元的考察」『年報平成元年度(財)愛知県埋蔵文化財センター』。
- (64) 内堀信雄(1993)「土岐氏居館推定地の発掘調査」『日本歴史 第541号』。
- (65) 前掲註(62)。
- (66) 前掲註(37)。
- (67) 前掲註(12)。
- (68) 浅野弘一(1989)「尾張における中世城館の研究」『歴史研究第35号』。
- (69) 前川要(1991)「近世城下町の成立」『都市考古学の研究-中世から近世への展開-』柏書房。
- (70) 小野正敏(1994)「戦国期の館・屋敷の空間構造とその意識」『信濃 第46巻第3号』。
- (71) 小野正敏(1981)「越前一乗谷の町割り」と若干の問題」『日本海地域史研究第3輯』。
- (72) 中井均(1990)「織豊系城郭の幽期-礎石建物・瓦・石垣の出現-」『中世城郭研究論集』新人物往来社。
- (73) 前掲註(40)及び(41)。
- (74) 織田信雄は天正14年(1586)ごろに伊勢長島城より清須城に移ったが、これ以前の天正10・11年(1582・1583)にも一時清須が居城であった。
- (75) 尾張国の各支城の改修年代が概ね永禄年から天正11・12年に集中し、小牧長久手の戦いを契機としたものであるとする見解がある。千田嘉博(1990)「尾張国における織豊期城下町網の構造」『中世城郭研究論集』新人物往来社。

## 〔補註〕

脱稿後、遠藤才文の論考が刊行された。

本論は氏の論考を参考にし、また直接御教示をいただいている。記して感謝したい。

遠藤才文(1995)「あらわれた二つの都市 清須」『中世の風景を読む3 境界と部に生きる人々』新人物往来社。

# 第X章 総括

## A 清洲城下町遺跡の調査経過と目的

清須城はその名が歴史の教科書にも登場するほどの著名な城である。そのイメージは戦国武将織田信長の居城であったことが強調され、顕彰されている。その反面、清須城そのものは近世に廃城となり、目立つ形で遺構が残らなかったため、遺跡としての認識は極めて薄弱であった。

名古屋環状二号線建設に伴う発掘調査によって、はじめてその存在が明らかになった清洲城下町遺跡の調査は既に10年を超えている。その間、様々なデータを獲得し、様々な研究が進められた。その成果は清洲町教育委員会と(財)愛知県埋蔵文化財センターによって逐次発表されている。

五条川河川改修に伴う発掘調査は清洲城下町遺跡の中心にトレンチを掘削するように調査区が設定されており、これまでの調査の中で最大の面積を調査したことになる。今後も五条川河川改修に伴う発掘調査の他、いくつかの発掘調査が行われると思われるが、この五条川河川改修に伴う発掘調査の報告が一区切りになる現段階で、発掘調査の概要がほぼ示される形となったといえよう。

こうした位置づけに立ってみれば、『清洲城下町遺跡Ⅳ』・『清洲城下町遺跡Ⅴ』は、これまでの調査成果をある程度総括した形で報告されるのが望ましいと思われる。筆者はそういった位置づけで『清洲城下町遺跡Ⅳ』・『清洲城下町遺跡Ⅴ』の編集を試みたつもりである。この試みが成功したか否か、あるいは妥当であったか否かは読者の判断に委ねたい。

## B 清洲城下町遺跡の概要

これまで明らかになった清洲城下町遺跡の概要を、以下の10点にまとめて振り返っておきたい。

### ① 遺跡の時期区分

清洲城下町遺跡は、現在の清洲町全域とはほぼ一致する広大な遺跡範囲を持っている。また、戦国時代の清須城下町関連以外の時期の遺構・遺物も多数発見されており、その内容は複合的である。これらの成果は、遺跡の中心となる清須城下町(城下町期)の段階を中心に時期区分すれば、大きく城下町期以前・城下町期・城下町期以降と整理できる。従って、各々3期の様相を個別に検討することが、清洲城下町遺跡全体を理解する上で最も容易な方法と思われる。以下の記述もこの時期区分によって行っている。

### ② 城下町期以前の清須

城下町期以前の清洲城下町遺跡は、田中町地区における古墳時代後期から平安時代までの集落や、南部地区における室町時代の遺跡等が確認されている。更に清洲城下町遺跡から範囲を広げてその動向を概観すれば、朝日遺跡において縄文時代の遺構・遺物が発見されていることから、清須周辺では縄文時代から人々の生活した痕跡が残っていたことになる。縄文時代以降は、この地域の代表的な集落遺跡が清須周辺に連続と展開することとなる。具体的に例示すれば、弥生時代の拠点的な環濠集落である朝日遺跡、古墳時代の廻廻遺跡、古代の集落遺跡である清洲城下町遺跡(田中町地区)、中世の中心的な集落遺跡である朝日西遺跡等である。

こうした状況を鑑みれば、戦国時代における清須城下町の都市としての発展は、こうした歴史的な積み重ねの上に成立したものと評価できるのではないだろうか。ある日突然に、清須が出現したわけではなく、その下地となる集落が各時代にわたって存在していたのである。

### ③ 戦国時代の清須城と城下町

戦国時代の清洲城下町遺跡では、まさに清須城下町に関連する遺構・遺物が多数発見されている。1478年頃から1613年頃までの約135年間、清須城下町は本格的な発展をみせていたが、その間には多くの歴史的な変遷を経ている。

これまでのところ、清須城下町の歴史は総構え成立をメルクマルとして大きく前後2時期に区分するのが妥当とされている。本書では分析の過程として3期6小期区分を実施し、各時期の遺跡の概要を検討した。その結果、複雑な発展形態を軽ながらもやはり総構え成立が重要な画期として位置づけられることは否定できないと考えられよう。問題は総構え成立（あるいは総構えの遺構群の成立）がいつであったかという点であり、これを解決するためには城下町期Ⅱ-2期の評価が極めて重要な論点となっていると思われる。

### ④ 前期清須城下町

総構え成立以前の清須城下町は、方形の堀を巡らせた屋敷を中心に市町等が展開しており、主郭相当の方形区画を中心とした求心的な遺構配置となっている。その反面、個々の屋敷は堀で囲まれて独立性を保っており、また核となる主郭相当の方形区画は複数認められている。しかも有力寺社の存在も侮れない状況であったと推定される。従って、一辺が100m以上の方形区画を成立させた当地の権力者もその支配は十分なものではなかったに相違ないと思われる。しかしながら、こうした状況は徐々に克服されていったと考えられ、個々の屋敷の独立性は失われ商職人は計画的な町割の中に取り入れられていったのである。

前期清須城下町は後期に比べ、考古学的資料以外の資料に乏しく、復元的な考察は発掘調査の進展と調査成果の読み取り方によって、大きく復元内容が左右される側面が認められる。しかも、前期として認定された時期範囲は約100年間に及び、その時間的変化も重要な課題となっている。

### ⑤ 後期清須城下町

総構え成立以降の清須城は、権力の象徴としての石垣・瓦葺建物が建築された。清須城下町も城域全体が総構えの堀によって囲まれ、城下町全体が権力者によって把握された遺構配置となっている。居住空間も武家屋敷域と町屋域とはある程度区分され、計画的な都市構造であったと推定されるが、総構え以前の地割や自然地形を完全に克服することはなく、都市計画の実現は完全なものではなかったのである。しかしながら、このような広大な敷地を持つ一つの巨大集落（都市）はこれまでの尾張にはおそらく存在しなかったものであり、尾張国における都市の歴史の一大画期であることには変わりがない。これはまた、全国的にみても有数の集落であったと評価されよう。

## ⑥ 清須越し

清須城は徳川義直の時代に名古屋城への移転が決定され、廃城となった。戦国時代から近世にかけて、主要な城郭が近世化に向けて移転する現象は各地で認められるが、尾張においても例外ではなかった。都市拡大における地形的な制約や、近世都市建設に当たっての中世的な要素からの脱却等が移転の理由にあげられるだろう。いずれにしても、清須城は破却され資材等は名古屋城へ運ばれたとされている。

その一方で、この清須越しによって城郭と城下町の全てが移動したという印象が、遺跡として何も残っていないかのごとき印象にすりかわってしまい、遺跡への認識が遅れたとも考えられよう。しかしながら、現実には清須に残されたもの（遺構・遺物・地名等）は多数あり、これまで検出された遺構の一部は、清須越し以降も継続しているものが存在するのである。

## ⑦ 清洲宿場町

城下町期以降の清須は、名古屋と大垣を結ぶ美濃街道の宿場町として機能することとなる。清洲宿の主体は五条川西岸にあり、この部分の発掘調査は行われていない。従って、清洲宿の中心的な構造は発掘調査では明らかではない。

一方、五条川東岸ではいくつかの成果が得られ、五条川河道の変遷等から宿場町期を2期4小期に区分できた。但し、この区分は宿場町の縁辺部における時期区分であり、宿場町の構造的な変化による時期区分ではない点、注意を要する。

清洲宿場町の考古学的な研究は、近世考古学の研究以上に、まだ緒についたばかりであるといえよう。しかしながら、近世における主要城郭・城下町以外の遺跡の考古学的調査としては、それなりに重要な位置づけを持っていると思われる。

## ⑧ 清洲宿場町の発展

五条川東岸では、1794年の五条川瀬替え以前は町屋的な遺構配置は読み取れず農村的な性格が想定される。一方、五条川瀬替え以降は街道沿いに展開する短冊型地割が成立し宿場町の拡大が認められる。こうした街道沿いの発展形態は今日まで引き続いてきた現象であり、現在もその町並みの一部が残存している。調査期間や調査方法の制約上、今回の調査ではできなかったが、遺構と古地図と現況との対比といった課題も今後は設定し得るであろう。

こうした清洲宿場町の遺構群は、近代的な都市計画の中で大きく変貌しようとしている。鉄道や道路の建設に伴い、旧来の地割等を失い、そして景観を姿を変えていく今日の状況に、新たな面影が見いだされるように思われる。

## ⑨ 出土遺物の特徴

出土遺物は土器・陶磁器類をはじめ、木製品・金属製品など多種多様なものが大量に存在している。こうした遺物の検討は、個々の遺物の特徴をつかまえる作業のみならず、遺跡における遺物全容の把握のためには、数量的な検討も重要となってくると思われる。

例えば、遺物（陶磁器類）の産地組成を検討すれば、城下町期以前・城下町期・宿場町期とも瀬戸

窯・美濃窯・常滑窯及びその周辺の生産地から運ばれたものが大半を占めていることが分かり、このことが清須（尾張）地域の特徴となっている。具体的に例示すれば、古代においては須恵器の供養具が圧倒的な占有率を持っていること、戦国時代においては瀬戸美濃窯産陶器が著しく多く中国窯産磁器の割合が異常に少ないこと、江戸時代においては瀬戸・美濃窯産陶器が著しく多く肥前窯産磁器の割合が非常に少ないこと等である。一大窯業生産地を抱えた地域の特徴が顕著に認められると評価できるのである。

#### ⑩ 遺跡の分析方法

以上の様な考古学的な成果の他に、歴史地理学的方法や自然科学的方法等様々な研究方法による検討が行われている。歴史地理学的方法は遺跡の包括的な把握・推定に有効であった。自然科学的分析方法は多岐にわたる。これまで清洲城下町遺跡では材質同定（樹種・漆・金属滓）・産地推定（胎土）・地形的環境（珪藻・昆虫・地形）・年代測定（年輪年代・地震儀）等が実施された。特に地震痕による年代の検討は、総構え成立前後に関わる重要な年代を決定する材料となっており、今後とも注意しなければならない視点である。

こうした学際的な研究は、考古学的な分析を厳密に進めた上で行う姿勢が重要となってくると思われる。

### C 清洲城下町遺跡の今後の課題

以上極めて大ざっぱではあるが、これまでの清洲城下町遺跡の発掘調査の成果とその評価をまとめてみた。しかし、これらの成果は、清洲城下町遺跡が持つデータのほんの一部である。従って、今後の更なる調査の結果によって、その歴史像は十分塗り変えられるものと思われる。ここで、今後の課題として以下の2点について触れておきたい。

#### ①

実は私達は未だ清洲城下町遺跡の持っている内容を十分に把握していないのが現状である。まず、これまで実施された発掘調査の面積は70000㎡を超えたとはいえ、清洲城下町遺跡全体の面積の約2%に過ぎない。しかも、発掘調査は開発にともなう緊急発掘によるもののみで、調査地点に偏りが認められる。また、発掘調査された地点がすべて報告書の刊行に至っていないのが現状である。更に、報告書が刊行された部分の成果についても、限定された成果のみが公表されたものである。

このようにみていくと、本報告書が刊行されたとはいえ、残された課題と残された資料は膨大なものがあることが分かる。今後の更なる分析への努力が必要となっているといえよう。

#### ②

現在の清洲町は、清須城下町・清洲宿場町の各時代を経てきた後、大都市名古屋の近郊として発展している。開発が進展するその一方で、清須城は様々な形で顕彰され、清洲公園は市民の憩いの場となっている。清須城は観光地ともなっており、清須城への関心は高まっている。

これに対し、私達は報告書の刊行の他に、現地説明会や展示会等によって清須城下町の歴史を語るように務めてきた。しかし、私達が行ってきた普及啓蒙活動がこれで十分であるとは言いきれない側面がある。発掘調査で得られた成果を更にもっと有意義に活用する努力をする必要があると思われる。

(鈴木正貴)



## 索 引

項目	ページ	項目	ページ
あ 赤塚幹也	185	上給付	60
赤物	49, 119	上島神明社	202
浅野弘一	223	雲母	140
朝日西道路	124, 199, 201, 229	え 餌鉢	47
朝日西地区	201, 210, 212, 213, 214, 218, 219, 220, 221	枝法箱	221
アセンブレッジ	184	X線回折	149, 150, 151, 154
油壺	47, 93	靴衣	29
洗い場	24	恵比須	110
克瓜	71	遠藤才文	199, 219
安南茶碗	72	緑輪皿	188
い E P M A	149, 151, 152, 153, 155	お 桜花紋	72
石臼	108	大窯	185, 190, 201, 208, 211, 215, 224
石垣	215, 223, 229	大皿	46, 60, 86
石籠	7, 24, 25	汚水溜	24, 25
石列	12, 14	織田信雄	190, 202, 224
板草履	107, 108	小野正敏	184
板敷状遺構	206	おほじき	110, 111
板目	124	御室茶碗	46
板目取り	125, 126	沢島紋	93, 105
板物	124, 125	折縁皿	188, 189
一乗谷朝倉氏遺跡	223	尾呂茶碗	46, 51
市場	204, 223	尾張	141, 143, 185, 221, 223, 224, 229
一本街村	220, 223	尾張守護所	201
井戸	4, 16, 17, 18, 24, 35, 36, 38, 119, 205, 206, 208, 209, 210, 213, 216, 217, 218, 220	か 外郭	202, 208, 212, 220, 223
伊藤嘉章	185	蚊いぶし	47, 105
井戸棚	4, 16, 17, 18, 119	灰輪	46, 49, 51, 55, 58, 60, 66, 93, 188
稲荷狐	110, 111	カウント	44, 45, 49, 50, 111
犬	110, 141	蛙	110
イヌ	179, 180	化学特性	140, 141, 143
井上喜久男 (井上福年)	185, 190	火器	93, 101
鋳物	50, 150	瓦器	45, 60, 70, 72, 93
色漆	124, 127	柳洗	126, 127
岩倉城	221	角閃石	140
う 植木鉢	46, 86	角柱状製品	70
浮き人形	71, 110	景正	72
ウシ	179, 180	重ね焼き痕	51
内反高台	187	花草紋	51
内壳皿	189	春日井郡清須村古城絵図	6, 218
内堀	215, 218	肩壺	47
畝状遺構	4, 22, 23, 33, 38, 41	面磨	184, 190, 191, 199, 211, 224, 229
うのふ輪	72	製法	119
馬	71, 110, 111	金具	51, 71
馬出し	202, 215, 221	釜	45, 47, 60, 70, 93, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 191
梅本博志	199, 202, 205, 206, 215, 223	鎌倉材木座	177
漆	50, 66, 72, 124, 127, 231	甍状遺構	4, 26, 36
漆器	50	堯	33, 45, 47, 51, 70, 93, 101, 117
漆塗り構造	124, 126, 127	亀	110
漆膜面	124, 126	唐傘小僧	110

## 清洲城下町遺跡V

項目	ページ	項目	ページ
唐草紋	105	栲列	7
唐子	110	区画	4, 8, 15, 35, 36, 38, 41, 50, 184, 199, 201, 202, 204, 205, 206, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 220, 221, 223, 224
ガラス製品	110	区画施設	15, 35, 36, 38, 41, 201, 205, 206, 213, 220
ガラス器	50, 117	区画溝	7, 8, 38, 205, 209, 216, 217, 220, 224
唐津窯	189	釘	51, 71, 108
火輪	71	口欠け	50
川港	204, 207, 209, 213	口壺	47
瓦	16, 17, 26, 30, 60, 71, 105, 119, 191, 212, 215	香茶碗	72, 189
瓦積井戸	16, 17, 119	くど	105
瓦葺建物	212, 213, 215, 221, 223, 229	竈屋敷	213
寛永通宝	122	曲輪	199, 202, 215, 218
銅製城郭	221, 224	け 形式	184, 185, 186, 221
環孔材	125	形式	184, 185, 186, 187, 188, 189
岡西系窯	45, 60, 72, 83, 84, 93, 117	埴土	126
広東茶碗	46, 55, 60, 72	芥子面	105, 110, 111
顔料	124, 127	下駄	51, 107
き 生漆	126, 127	花瓶	47, 66, 188
菊花紋	72	現五条川堤防	5, 8, 10, 14, 22, 38, 55
器形	44, 45, 185, 188	こ 口縁残存率	44
木地師	127	航空写真	199
器種	44, 45, 50, 51, 55, 60, 72, 93, 105, 117, 125, 184, 185, 186, 187, 189, 191	洪水	6
輝石	140	鉱石	150, 151, 152
煙管	51	広葉樹	125
木曾川	1	香炉	51, 70
北矢藏	202, 221, 223	小型壺	46
城戸	206	小型壺	47
木取り	124, 125, 126	小型徳利	47, 66, 93
吉祥紋	51	小型鉢	47
紀年銘	190	渡岸施設	7, 29
機能分化型山城	221	五期区分	185
基盤層	1	刷印	51, 72
岐阜城	212	刷書	50, 66, 71, 204
旧五条川	6, 175, 204, 206, 209, 213	木口	124
居館	199, 201, 202, 207, 208, 210, 212, 214, 215, 221, 223	焦げ	50
清洲公園	202, 232	腰折皿	46, 188, 189
清須越し	1, 5, 190, 215, 230	腰折鉢	46
清洲宿	1, 5, 93, 117, 230	腰折碗	46, 51, 55, 60
清須城	1, 8, 29, 202, 215, 219, 220, 221, 224, 228, 22	腰筒茶碗	46, 55, 60
清須城下町	148, 152, 154, 155, 184, 185, 191, 201, 206, 210, 213, 215, 221, 224, 229, 230, 232	五条川	1, 5, 6, 7, 35, 36, 207, 214, 219, 221, 223
清洲町史	6	五条川西岸	206, 210, 213, 221, 223, 224
器類	44, 45, 184, 185, 188, 189	五条川瀬替土	1, 5, 6, 31, 33, 60
金魚	71, 110	五条川東岸	41, 202, 206, 207, 210, 214, 215, 221, 223, 224
金彩	127	五条橋地区	4, 6, 7, 12, 24, 26, 28, 35, 41, 153, 154, 155, 199, 201, 204, 208, 209, 212, 216
銀彩	127	呉須絵	46, 49, 55, 60, 66, 70, 86
金属洋	26, 50, 148, 149	5段階区分	185
金属製品	44, 51, 58, 60, 71, 72, 122	五徳	47, 70
く 吹い違い虎口	202	こね鉢	29, 55, 59, 60, 117

項目	ページ	項目	ページ
コビキB	105	守護所	190,223
五弁花紋	60	守護代	223
小牧長久手の戦い	224	樹種	124,125
虚無僧	110	朱泥	107
五輪塔	71	樹木屋敷	218,221
コンニャク印版	60	珠粒	105
材質	44,55,110,149,184	高礼儀	6
在地	143,191	城郭	1,218,221,223,230
構列	4,15,35,38,201,206	城郭プラン	199
管杖	60	城下町	1,199,207,214,217,221,223,224,230
差南下駄	51,107	城下町期	1,4,6,12,16,28,41,44,49,51,124,153,155,184,187,188,189,190,191,199,201,202,204,205,206,208,209,210,211,212,213,214,215,216,217,218,219,220,221,223,224,228,229,231
砂鉄	150,151,152,155	商工業者	223,224
佐藤公保	185,199,216,217,219,220	使用痕	44,50
サビ下地	127	城主	202,217,223,224
錆蝕	60,188	商職人	223,224,228
皿	29,33,45,46,47,51,55,59,60,72,105,110,111,117,125,184,185,186,187,188,189,190,191,202,206	常設店舗	210,223
猿	110,111	消費地道路	184,185
棧瓦	71,105	小碗	46,72
散孔材	125	食生活	180
産地	29,45,50,60,66,71,72,83,84,86,93,105,140,141,143,184	塚台	47
産地材質	44,45,50,184,185	織豊系城郭	223,224
産地組成	50,184,231	織豊系城下町	223,224
山王社	206	織豊政権	199
仕上げ紙	55,71	汁次	47,51,93
寺院	201,204,206,207,210,213,217,220,221,223,224	人骨	175,177
シカ	179,180	神社	201,207,223
信楽	45	神像	110
しがらみ	7	信長公記	206,223
獅子頭	66	神明町地区	199,202,206,208,210,212,213,218
自然堤防	206,207	針葉樹	125
自然流路	4	水銀朱	127
下地	124,126,127	水滴	70
漆器	124,125,126,127	数量化作業	44,50
漆喰	16,18,119	頭蓋骨	175,176,177
漆喰井戸	16,18	煤	50,70,93
柴本屋	93	錫	127,153,154
杓子	108	鈴	58,105,110,141
朱	50,127	鈴木とよ江	212
錆化鉄塊	150,152	鈴木正貴	185,186
重機皿	188,189	雀	110,111
獣骨	179,180	硯	71,110,204
十能	70	スタンプ	72,86,93,105
主郭	202,207,208,210,212,213,214,215,221,223,224,229	炭粉下地	126,127
宿場町期	1,4,5,6,7,8,10,11,12,14,15,16,17,18,22,23,24,25,26,28,29,30,31,33,34,35,36,38,41,44,45,49,51,55,58,60,72,111,117,119,122,124,153,155,230	掘石	108
		摺絵	60
		播鉢	46,51,55,59,60,86,184,185,188,189,190
		せ 青花	188,189

項目	ページ	項目	ページ
青磁	49	鍛錬鍛冶	150, 153
製鉄	148, 149, 150, 152, 153, 155	ち 地蔵園	6, 41, 199, 201, 202, 215, 217, 221
青銅	153, 154, 155	知多半島	141
精錬鍛冶	150	竹管	16
精錬鉄滓	150, 151, 152, 153	チャート	55
製錬鉄滓	150, 151, 152, 153	着磁度	148, 151, 152
精錬糊型鉄滓	150, 151, 152	茶室	110
石黄	127	中国窯	45, 184, 188, 189, 231
石材	12, 16, 24, 25, 26, 29, 30, 55, 71, 108, 148	鑄造	26, 154, 155
石製品	44, 51, 55, 60, 71, 72, 108	長石	140
石仏	217	長石軸	49, 51, 72, 189
瀬戸美濃窯	5, 29, 45, 58, 70, 83, 84, 93, 184, 185, 187, 188, 189, 190, 191, 201, 208, 211, 215, 224	長方形街区	217, 220, 223
瀬戸窯	29, 45, 51, 55, 58, 59, 60, 66, 70, 72, 83, 86, 93, 117, 231	溝口	72
鉄壘	47	チロリ	66
骨削線	6, 210, 213, 217, 220	弁	111
銭貨	51, 71, 122	つ 束柱	14
穿孔	46, 50, 59, 66, 86	津島街道	220, 221
せんじ網	46, 55, 60	土山公仁	212
千田墓博	199, 202, 215, 217, 218, 221	筒形	47, 70, 72, 105
せ 惣構	206	筒形壺	47
総構え	190, 206, 208, 215, 221, 224, 229	筒形鉢	46, 51, 55, 59, 60, 70, 86, 93
草花紋	51, 55	壺	45, 47, 51, 70, 93, 105, 185
瓦耳壺	70, 93	て 手拾り	93
瓦耳鍋	70, 93	堤防	1, 6, 7, 31, 38
礎石欄列	15	出入り口	8, 12, 202, 207, 216
礎石建物	4, 12, 36, 213	鉄絵	46, 51, 72, 86
外型	93	鉄塊	149, 150, 152, 153, 155
卒塔婆	190, 204, 220	鉄管	16
外堀	219, 221	鉄鉱石	150, 152, 155
外町	221, 224	鉄滓	149, 150, 151, 152, 153, 155
外町遺跡	199, 201	鉄砲玉	155
外町地区	201, 221	鉄軸	46, 49, 55, 59, 60
染付	46, 49, 58, 60	手捻り	71, 110, 111, 141
た タール	50, 55, 59	天守閣	215
台カンナ	119	天正地震	1, 23, 190, 211, 215, 216
太鼓	29, 59	天神	110, 111
大黒	110	天目茶碗	46, 51, 187, 188, 189
台付網	188	転用円板	111
麩	110, 111	と 砥石	51, 55, 71, 108
竹製品	33	銅塊	149
壺壺	93	道具瓦	105
叩き石	108	銅鉱石	154
叩き締め層	30	銅滓	149, 153, 154, 155
建物	4, 12, 14, 15, 35, 36, 41, 212, 213	灯臺	46, 59, 60, 72
田中町地区	4, 7, 35, 199, 201, 202, 204, 205, 208, 209, 211, 212, 215, 216, 217, 229	童子	110, 111
タマヤ	25	同心円構造	223
連磨	110	陶製井戸	16, 18, 119
短冊型地割	35, 41, 153, 210, 211, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 223, 230	陶胎法器	66
		同范瓦	212, 224
		灯明	50
		透明釉	49, 60, 86
		銅緑釉	49

項目	ページ	項目	ページ
道路	6,7,10,35,38,41,204,205,206,207, 209,210,212,213,216,217,218,220	箱物	108,125
灯籠	107,110,111	廻間道跡	199,201,229
土管	70,93,105	廻間地区	201,220,221
土器焼成坑	26	橋	110
土器胎土	140	箸	51
戸車	70,71	土師器	29,33,45,47,51,55,58,59,60,70,71, 72,93,105,110,140,184,185,186,188, 189,190,191,202,206
土坑	4,14,16,24,25,26,28,29,30,31,33,34, 38,41,51,58,204,213,217,218	播反皿	188,189
常滑窯	16,18,33,45,47,49,51,60,70,72,93, 117,119,184,188,231	端反碗	46,72
都市	199,223,229,230,232	燗	22
徳利	47,66,93	鉢	45,46,47,51,55,59,60,86,105,117
土瓶	47,93,110,111	地	110
鳥居	110	花生	47
な 内郭	202,223	羽付鍋	47,186
内耳鍋	47,70,186,187	刀物	71
中砥	55,71	盤	47,70
中肥	1,6,8,15,29,41,51,216,217,218	半割羹	29,47,58,59,70
名古屋城	1,215,230	搬入品	143
名古屋城三の丸遺跡	45,111,140,141,189	ひ 火容	185
鍋	45,47,55,70,93,110,111,184,185,186, 187,188,189,191	火打ち石	55,108
鉛塊	149,155	日吉神社	204,206
鉛ガラス	50	非円形皿	46
液鏡	122	挽き物	124,125
梅崎彰一	185	柄杓	47,108
軟質陶器	105,110	肥前窯	45,51,55,60,72,83,93,117,231
南部地区	4,22,23,35,153,201,217,221	備前窯	45,66,189
にかわ	126	磁土	154
西尾城道跡	141	ビット	4,34
二重の掘	202,221,223	火鉢	47,70,71
鶏	110,111	飛騨	47
人形	71,105,110,111,140,141,143	平瓦	26,71,105,119
ね 猫	110,111	平鉢	46,51,70,188
粘土	25,29,31,33,86,107,108,110,126,140, 141,143,148,150	平碗	46,55,60,188
の 農村	41,230	非クロ成形	185,186,188,189,190,191
濃尾地帯	1,5,12,14	餐盤	46,51
濃尾平野	1,6	ふ 複郭	223
軒椀瓦	71,105	補助	110
軒丸瓦	105	武家屋敷	45,201,202,204,205,206,207,208,209, 210,211,212,213,214,216,218,220, 221,223,224,229
鋸	119	藤澤良祐(藤澤福年)	51,55,59,60,86,185,188,190
は 灰落し	47,51	蓋	47,51,60,83,84,93,110,111,117,125, 185
梅花紋	55,58,72	二ツ杖	93
廃棄土坑	29,35,38,41,60,72	仏具	71
梅樹紋	60,86	復興織部	72
袴腰形香炉	188	仏飯器	46
白磁	49,60,188	古渡城道跡	141
白土	60,86	文久永宝	122
刷毛目碗	55,90	噴砂	5,12,14,23
箱形湯呑	46,60,72	へ 瓶	45,47,51,66,71,93,105,117

## 清洲城下町遺跡V

項目	ページ	項目	ページ
紅皿	50	裏菓子	60
ベンガラ	127	無構造物井戸	16,17,18
扁年	5,184,185,188,190,191,201,208,211	無高台皿	46,55,59,60,72
防空壕	34	向付	47,51,189
方形石組遺構	4,24,38	無軸	49,66,93,188
方形区画	201,202,204,205,206,207,208,209, 210,213,214,215,216,217,218,220,221, 223,224,229	煙型	110,111
焙烙鍋	47,55,59,70,93,187	函	71,110
墨書	50,71,105,107,108,111,117,119	函型	110
掘立柱構列	15	木製構造物	25
掘立柱建物	4,12,14,38,41	木製品	17,33,51,55,58,60,72,108,184,230
布袋	110	木拾遺器	51,72,108
堀	201,212,215,218,221,223,229	盛土	1,6,22,23,31
本町地区	4,7,8,14,15,22,24,31,38,41,111,153, 154,199,201,204,205,206,208,209, 212,216,224	焼塩釜	47
本丸地区	4,7,35,199,201,202,206,208,210,211, 212,213,215	焼罎	50,117
前川要	223,224	櫓	215,218
開口	35,36,210,213,217,218	屋号	117
曲物	51,108,125	屋敷	4,16,35,38,41,199,201,205,209,210, 216,220,223,229
柘目	124	屋敷境	7,8,15
柘目取り	125,126	柳茶碗	46,55,60,72
間仕切り	12	山田	93
柵状配石遺構	12	結構	16,17,18,108,119,185
町口大堀	206	結構井戸	16,17
町屋	35,153,155,201,205,206,207,210,211, 213,214,215,216,217,218,219,220, 221,223,224,229	沸水層	4,16
磨滅	50,108	釉薬	44,45,47,49,185
真鍮	49	行平	47
丸瓦	105,190	様式	184
丸皿	46,51,55,60,72,86,189	横木地	125,126
丸鉢	46,51,55,60,86	横櫓	51,108
丸碗	46,51,55,58,60,72,188	吉田城遺跡	141
三河	141,143	鎧茶碗	46,60
神奥	110,111	利休	71
溝	4,7,8,10,11,14,22,23,26,35,36,38, 41,55,201,202,204,205,206,208,209, 210,212,213,215,216,217,218,219, 220,221	綾皿	189
御園神明社	205	輪花皿	55,60
御園地区	6,7,35,199,202,205,206,208,209,212, 213,218	歴史地理学	199,215,231
南矢蔵	222,223	レンガ	29
ミニチュア	29,59,71,105,110,111	連南下駄	51,107
美濃街道	6,8,12,14,35,36,41,230	櫻園山水文	46
美濃窯	29,45,51,55,58,59,60,66,70,72,83, 86,93,117	ロクロ成形	59,185,186,188,189,190,191
宮迄道	206	炉材	148
無縁の場	204	輪高台	187
		割高台皿	188
		碗	45,46,55,71,105,110,111,117,125, 127,184,187,188,189,190
		櫛	51,55,58,60,72,185

# 1 遺構一覧表

この一覧表は、本書掲載の遺構図に収録された遺構の全てを、地区ごとにまとめたものである。従って、明らかに城下町期以前に属する遺構についてはこの表中から省略している。

## 凡 例

- 1 遺構番号は、本書掲載遺構図の番号である。地区ごとに通番を付けている。

遺構記号は以下の通りである。

NR	——自然流路	SD	——溝
P	——ピット	SE	——井戸
SA	——襻列	SK	——土坑
SB	——建物	SX	——その他の遺構

- 2 グリッドは平面直角座標Ⅷ系によって100mグリッドと5mグリッドを設定した。

グリッドの名称は上2桁が100m、下2桁が5mグリッドを示している。

1桁目のローマ数字——100mグリッドの南北方向の位置

2桁目の大文字アルファベット——100mグリッドの東西方向の位置

3桁目の算用数字——5mグリッドの南北方向の位置

4桁目の小文字アルファベット——5mグリッドの東西方向の位置

- 3 長軸、短軸、深さは検出された遺構の規模をm単位で計測したものである。

従って、本来の遺構の規模ではない。

数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。

また、「\*」はセクション図等の補助図面を参考にして算定した数値である。

- 4 時期は出土遺物の検討から古代・中世・城下町期・宿場町期に区分した。

また、宿場町期は更にⅡ期4段階に細区分した。表記は以下の通りである。

宿Ⅰ——宿場町期Ⅰ期

宿Ⅰ-1——宿場町期Ⅰ-1期 (17世紀末~18世紀前半)

宿Ⅰ-2——宿場町期Ⅰ-2期 (18世紀後半~1794)

宿Ⅱ——宿場町期Ⅱ期

宿Ⅱ-1——宿場町期Ⅱ-1期 (18世紀末~19世紀前半)

宿Ⅱ-2——宿場町期Ⅱ-2期 (19世紀中葉)

- 5 調査区・旧遺構番号は発掘調査当時(年報記載)の番号である。

旧遺構番号の欠番は、出土遺物が無い等の理由から調査時点で番号を付けなかったものである。

## 本丸地区

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
S2085	Ⅱ17-8a, 8-10a, 9-10a	残0.75	残0.62	残<0.84	宿	62N	S2001
S2086	Ⅱ18-5a, 5-6, 61	残2.05	残2.24	残<0.71	宿	62N	S2002

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
S2087	Ⅱ18-5a, 5-71, 6-81, 8-10a, 9-10a	残17.13	残1.15	残<1.00	宿	62N	S2003

## 田中町地区

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
S2020	Ⅱ18-5a	残0.85	0.64	<0.37	宿	63A	S2002
S2022	Ⅱ18-10a, 9-10a	残1.27	1.70	<0.80	宿	63A	S2001
S2023	Ⅱ181, 8-10a, 9-10a	残2.17	4.58	<0.80	宿	63A	S2003

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
S2053	Ⅱ19a	残1.79	残0.88	残<0.69	宿	63A	S2002
S2054	Ⅱ19-10a	残1.65	残0.80	残<0.72	宿	63A	S2001

## 五条橋地区

遺跡番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺跡番号		
P4017	PF15cd	0.39	0.39	0.10	Ⅲ	B1A	S0329		
P4018	PF15b	0.26	0.22	0.13	Ⅲ	B1A	P030		
P4019	PF15a	0.22	0.20	0.09	Ⅲ	B1A	P034		
P4021	PF14c	0.19	0.15	0.06	Ⅲ	B2A	P141		
P4023	PF15e	0.33	0.29	0.07	Ⅲ	B2A	P127		
P4024	PF15a	0.29	0.22	0.04	Ⅲ	B2A	P121		
P4022	PF15a	0.25	0.21	0.07	Ⅲ	B2A	P126		
P4025	PF15e	0.29	0.19	0.08	Ⅲ	B2A	P135		
P4026	PF15a	0.30	0.26	0.34	Ⅲ	B2A	P104		
P4025	PF15a	0.27	0.28	0.33	Ⅲ	B2A	P105		
P4026	PF15a	0.29	0.26	?	Ⅲ	B2A	P149		
P4083	PF15d	0.29	0.23	0.11	Ⅲ	B2A	P098		
P4121	PF17c	0.19	0.17	0.26	Ⅲ	B2A	P144		
P4144	PF18c	0.20	0.17	0.17	Ⅲ	B2A	P167		
P4155	Vf2a	残存	残存	?	Ⅲ	B2C	P050b		
S4001	PF18I, 28Ia, VF18a	0.48	残存	0.45	Ⅲ	B2C	--		
S4002	PF220a, VF12a	0.30	残存	0.21	Ⅲ	B2C	--		
S4003	PF220a, VF12a	0.03	残存	0.01	Ⅲ	B2C	--		
S4004	PF23-5a	1.03	残存	0.80	Ⅲ	B2D	--		
S4005	Vf2a, 6-5a	0.36	0.63	0.03	Ⅲ	B2D	--		
S4001	PF23, 7-8I, 8I	残存	0.31	0.04	0.56	Ⅲ	B2B	S002	
S4002	PF23, 7-8I, 8I	残存	0.28	0.44	0.41	Ⅲ	B2B	S004	
S4003	PF24, 8-9I, 9a	残存	0.49	0.43	0.53	Ⅲ	B2B	S005	
S4004	PF24, 8-9I, 9a	残存	0.29	0.49	0.47	Ⅲ	B2B	S003	
S4005	PF21	?	残存	1.26	残存	0.78	Ⅲ	B2B	S007
S4006	PF126af	残存	0.24	0.35	0.27	Ⅲ	B1A	S001	
S4010	PF12-13a	残存	0.77	0.48	0.29	Ⅲ	B1A	S003	
S4011	PF13-16a, 17-18a	残存	0.63	残存	0.24	0.86	Ⅲ	B1A	S007
S4012	PF14b, 14-15c	残存	0.63	0.51	0.28	Ⅲ	B1A	S008	
S4013	PF14c	残存	0.44	0.30	残存	0.24	Ⅲ	B1A	S004
S4014	PF16-17c	残存	0.63	0.61	0.29	Ⅲ	B1A	S005	
S4016	PF19a, 20a	0.36	1.01	0.58	Ⅲ	B2C	S001		
S4020	Vf2a	残存	0.48	0.35	?	Ⅲ	B0B	S003	
S4026	VF16-18efah, 17-19I, 1I, 1b	残存	0.21	10.64	+1.95	Ⅲ	B1C	S001, 003	
S4027	VF16-18, 17I	4.77	1.23	+1.10	Ⅲ	B1C	S005		
S4028	VF17I	残存	0.92	0.94	+0.80	Ⅲ	B1C	S010	
S4043	VF18a	残存	0.21	0.33	0.28	Ⅲ	B1C	S004	
S4044	VF18a	残存	0.30	1.13	0.44	Ⅲ	B1C	S003	
S4045	VF18a	残存	0.40	0.40	0.05	Ⅲ	B1C	S006	
S4002	PF11-12f	1.46	2.27	Ⅲ	B1-2	B1A	S001		
S4004	PF17c	残存	0.85	残存	0.37	Ⅲ	B1-2	B1A	S004
S4005	VF17c	残存	0.67	残存	0.06	Ⅲ	B1A	S007	
S4006	Vf2a	残存	1.05	残存	0.07	Ⅲ	B2C	S002	
S4007	PF14b	残存	0.54	残存	0.38	Ⅲ	B3A	S013	
S4008	PF14-15a	2.30	2.02	Ⅲ	B1-2	B3A	S005		
S4011	PF14b, 15a	1.20	残存	0.82	Ⅲ	B1-2	B3A	S008	
S4012	PF15a	1.00	1.80	Ⅲ	B1-2	B3A	S007		
S4013	PF15a	2.24	2.02	Ⅲ	B1-2	B3A	S004		
S4014	PF15a	1.48	残存	0.30	Ⅲ	B1-2	B3A	S003	
S4015	PF15a	1.00	1.80	Ⅲ	B1-2	B3A	S002		
S4016	PF18I, VF11	1.94	残存	0.69	Ⅲ	B2C	S004		
S4017	PF20a, VF1a	1.70	残存	0.60	Ⅲ	B1-2	B2C	S004	
S4020	VF11a	2.00	2.00	Ⅲ	B1-2	B2C	S005		
S4021	VF1a	1.95	1.95	Ⅲ	B1-2	B0B	S001		
S4022	VF1a	残存	0.53	残存	0.34	Ⅲ	B0B	S003	
S4023	VF1a	1.74	1.44	Ⅲ	B0B	S004			
S4024	VF1a	2.27	2.00	Ⅲ	B0B	S004			
S4025	VF1a	2.29	1.81	Ⅲ	B0B	S005			
S4027	VF1a, 2a	2.30	1.94	Ⅲ	B0B	S006			
S4028	VF1-2a	残存	1.16	残存	0.37	Ⅲ	B0B	S005	
S4030	Vf2a	+2.03	1.71	Ⅲ	B1-2	B0B	S005		
S4031	Vf3a	2.34	2.00	Ⅲ	B2C	B2C	S001		
S4032	Vf4a	残存	0.27	残存	0.33	Ⅲ	B1-2	B2C	S003
S4033	Vf4a	残存	0.87	残存	0.68	Ⅲ	B2D	S002	

遺跡番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺跡番号				
S4035	VF5I	2.18	2.04	Ⅲ	B2C	B2C	S001				
S4038	VF5-6a	(5.32)	(4.17)	Ⅲ	B1	B2C	S013				
S4040	VF6I, 6-7a	3.00	3.38	Ⅲ	B2C	B2C	S004				
S4041	VF6a	(5.32)	(4.17)	Ⅲ	B1	B2C	S014				
S4042	VF6a	残存	0.60	残存	0.44	Ⅲ	B2C	S012			
S4043	VF6-7a	残存	0.54	残存	0.64	Ⅲ	B2C	S020			
S4044	VF7a	2.30	2.62	Ⅲ	B1-2	B2C	S009				
S4045	VF7a	残存	0.34	残存	0.14	Ⅲ	B1-2	B2C	S011		
S4046	VF7a	残存	0.47	残存	0.19	Ⅲ	B1-2	B2C	S010		
S4047	VF7-8a, 8a	3.82	3.12	Ⅲ	B2C	B2C	S015				
S4048	VF8I	1.97	1.89	Ⅲ	B2C	B2C	S016				
S4049	VF9-9a, 9a	残存	0.53	残存	0.53	Ⅲ	B1-2	B2C	S018		
S4050	VF9-9a	3.53	3.41	Ⅲ	B2C	B2C	S009				
S4051	VF9-9a	残存	0.99	残存	1.00	Ⅲ	B1-2	B2C	S005		
S4052	VF9-9a	3.52	残存	0.67	Ⅲ	B2C	S007				
S4053	VF9b	残存	0.74	残存	0.66	0.48	Ⅲ	B1-2	B2C	S003	
S4054	VF9a	2.06	1.89	Ⅲ	B2C	B2C	S008				
S4057	VF9-10a	残存	0.09	残存	0.10	Ⅲ	B2C	S019			
S4059	VF10-11a	3.45	3.26	Ⅲ	B0C	B2C	S023				
S4060	VF10Ia	残存	0.28	残存	0.73	Ⅲ	B0C	S005			
S4061	VF10-11a	3.19	残存	0.45	Ⅲ	B0C	S004				
S4062	VF12a	1.83	1.40	Ⅲ	B0C	S020					
S4063	VF13-13a	2.25	2.83	Ⅲ	B0C	S020					
S4064	VF13	2.04	1.93	Ⅲ	B0C	S020					
S4065	VF14-15	残存	0.56	残存	0.21	Ⅲ	B0C	S027			
S4069	VF16I	残存	0.61	残存	0.76	Ⅲ	B1-2	B2C	S009		
S4070	VF16I	残存	0.30	残存	0.83	Ⅲ	B1-2	B2C	S027		
S4072	VF16-17	2.01	1.70	Ⅲ	B2C	S002					
S4073	VF17-18I	3.17	2.81	Ⅲ	B2C	S003					
S4074	VF18I	残存	0.27	残存	0.80	Ⅲ	B2C	S018			
S4075	VF18I	残存	0.30	残存	0.78	Ⅲ	B1-2	B2C	S006		
S4076	VF18I	2.06	1.87	Ⅲ	B1-2	B2C	S005				
S4077	VF19I	残存	0.03	残存	0.12	Ⅲ	B1-2	B2C	S004		
S4080	PF23	1.97	1.77	Ⅲ	B1-2	B1A	S002				
S4097	PF23c	2.20	2.12	Ⅲ	B1-2	B1A	S003				
S4098	PF23c	残存	0.47	残存	0.65	?	B2C	S009			
S4012	PF26b	残存	0.15	残存	0.81	0.07	Ⅲ	B2C	S009		
S4018	PF26a	残存	0.24	残存	0.15	0.31	Ⅲ	--			
S4036	PF21f	残存	0.80	0.53	0.24	Ⅲ	B1A	S009a			
S4038	PF21f	0.90	0.72	0.25	Ⅲ	B1A	S010				
S4043	PF21f	1.90	0.40	0.38	Ⅲ	B1A	S026a				
S4061	PF12-13a	1.20	残存	0.77	0.21	Ⅲ	B1A	S009b			
S4071	PF12f	1.04	0.93	0.12	Ⅲ	B1A	S010				
S4074	PF13	0.49	0.43	0.28	Ⅲ	B1A	--				
S4075	PF13a	残存	0.24	残存	0.27	残存	0.41	Ⅲ	B2C	S005	
S4084	PF13a	1.01	0.77	0.23	Ⅲ	B1A	S005				
S4094	PF13-14ef	残存	0.51	残存	0.50	残存	0.57	Ⅲ	B2C	S023	
S4096	PF14c	残存	0.12	残存	0.60	残存	0.44	Ⅲ	B2C	S018	
S4097	PF14c	0.97	0.76	0.83	?	Ⅲ	B1-2	B1A	S014		
S4098	PF14c	0.77	0.60	0.38	Ⅲ	B1A	S009				
S4091	PF14c	1.45	0.52	0.34	Ⅲ	B2C	B2C	S012			
S4093	PF14cd	3.05	残存	0.59	残存	0.27	Ⅲ	B2C	S029		
S4095	PF14d	残存	0.24	残存	0.43	残存	0.19	Ⅲ	B2C	S004	
S4096	PF14d	残存	0.81	残存	0.40	残存	0.43	Ⅲ	B2C	S029	
S4110	PF14d	1.10	0.60	0.67	Ⅲ	B2C	S026				
S4111	PF14d	残存	0.36	残存	0.04	残存	0.40	Ⅲ	B1-2	B2C	S026
S4112	PF14d	1.43	0.93	0.19	Ⅲ	B2C	--				
S4113	PF14d	残存	0.50	残存	0.45	残存	0.34	Ⅲ	B2C	S027	
S4116	PF14e	残存	0.36	残存	0.81	残存	0.31	Ⅲ	B2C	S031	
S4117	PF15a	残存	0.13	残存	0.26	残存	0.31	Ⅲ	B1-2	B2C	S030
S4118	PF15b	残存	0.16	残存	0.47	残存	0.29	Ⅲ	B1-2	B2C	S032
S4119	PF15b	残存	0.10	0.87	0.16	残存	0.21	Ⅲ	B1-2	B2C	S031
S4120	PF15b	残存	0.80	残存	0.12	残存	0.68	Ⅲ	B2C	S029	
S4121	PF15-16a	残存	0.17	残存	0.60	0.62	Ⅲ	B1-2	B2C	S031	



付表1 遺構一覧表

遺構番号	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	時期	調査区	注目遺構番号
SK122	VF15-18a	横: 7.77	縦: 2.2	層II - 2 ~ 層II	61A	SK176	
SK126	VF15d	横: 1.84	縦: 0.47	0.41 層II - 2	61A	SK241a	
SK127	VF15-18c	横: 5.9	縦: 5.5	0.42 層II	61A	SK232a	
SK128	VF15-17c, 18d	横: 3.3	縦: 1.86	0.38 層II - 2	61A	SK002	
SK132	VF16b	横: 0.0	縦: 5.9	0.23 層II	61A	SK028	
SK135	VF16b	横: 0.5	縦: 2.8	0.6 層II	61A	SK130	
SK138	VF16-17b	横: 1.4	縦: 0.46	0.12 層II	61A	SK200	
SK141	VF16c	横: 0.84	縦: 0.92	0.47 層II	61A	SK208	
SK143	VF16c	横: 0.6	縦: 0.45	0.22 層II	61A	SK024b	
SK147	VF16c	横: 0.7	縦: 0.49	0.33 層II	61A	SK172	
SK148	VF16-17c	横: 0.6	縦: 2.1	0.49 層II	61A	SK173	
SK151	VF17ab	横: 1.82	縦: 0.49	0.46 層II	61A	SK205	
SK152	VF17-18a	横: 4.0	縦: 1.40	0.63 層II	61A	SK009	
SK154	VF17b	横: 4.2	縦: 0.42	0.33 層II	61A	SK193	
SK161	VF18a	横: 0.58	縦: 0.76	0.42 層II	61A	SK213	
SK166	VF18a	横: 0.95	縦: 0.29	0.30 層II	61A	SK211	
SK167	VF18a	横: 4.0	縦: 2.9	0.49 層II - 2	61A	SK225	
SK168	VF18a	横: 1.20	縦: 0.97	0.50 層II	61A	SK233	
SK170	VF18a	横: 0.93	縦: 0.70	0.49 層II	61A	SK221	
SK172	VF18ab	横: 3.6	縦: 0.61	0.49 層II	61A	SK218	
SK186	VF18b	横: 4.1	縦: 2.0	0.18 層II	61A	SK234	
SK204	VF18-19c	横: 0.0	縦: 5.6	0.14 層II	61A	SK1322b	
SK213	VF19bc	横: 0.44	縦: 0.30	0.14 層II	61A	SK006	
SK214	VF19bc	横: 5.3	縦: 7.4	0.25 層II	61A	SK104	
SK221	VF19a	横: 5.0	縦: 0.4	0.34 層II	62E	SK008	
SK222	VF19a	横: 7.6	縦: 0.42	0.47 層II	62E	SK009	
SK224	VF19-2a	横: 1.01	縦: 0.42	0.22 層II	62E	SK022	
SK226	VF19a	横: 0.69	縦: 0.40	0.38 層II	62E	SK012	
SK241	VF19-2b	横: 0.58	縦: 0.51	0.17 層II	62E	SK068	
SK256	VF19a	横: 1.39	縦: 1.20	0.40 層II	63A	SK164	
SK265	VF19d	横: 0.0	縦: 0.63	0.29 層II	63A	SK006	
SK267	VF19d	横: 0.59	縦: 0.43	0.19 層II	63A	P120	
SK268	VF19d	横: 0.78	縦: 0.81	0.29 層II	63A	P117	
SK270	VF19-15r	横: 7.0	縦: 5.0	0.17 層II	63A	P118	
SK271	VF19-15r	横: 0.64	縦: 0.56	0.19 層II	63A	P116	
SK281	VF19-15a	横: 0.50	縦: 0.40	0.40 層II	63A	P114	
SK282	VF19a	横: 0.03	縦: 1.41	0.63 層II - 1	63A	SK150	
SK286	VF19a	横: 0.73	縦: 0.53	?	63A	SK230	
SK291	VF19-16a	横: 3.0	縦: 0.2	?	63A	SK065	
SK294	VF19a	横: 0.41	縦: 0.38	0.18 層II	63A	SK001	
SK295	VF19a	横: 2.71	縦: 1.67	0.39 層II	63A	SK050	
SK298	VF19a	横: 0.84	縦: 0.93	0.54 層II	63A	SK178	
SK299	VF19a	横: 0.89	縦: 1.28	0.32 層II - 2	63A	SK130	
SK302	VF19a	横: 0.53	縦: 0.36	0.11 層II	63A	P274	
SK303	VF19a	横: 0.53	縦: 0.44	0.07 層II	63A	P113	
SK304	VF19a	横: 0.72	縦: 0.54	0.24 層II	63A	P111	
SK305	VF19a	横: 0.58	縦: 0.32	0.06 層II	63A	P110	
SK306	VF19a	横: 0.51	縦: 0.39	0.14 層II	63A	P112	
SK309	VF19a	横: 0.47	縦: 0.30	0.19 層II	63A	P106	
SK310	VF19a	横: 0.40	縦: 0.34	0.43 層II	63A	P106	
SK311	VF19a	横: 0.52	縦: 0.36	0.27 層II	63A	P109	
SK313	VF19a	横: 0.46	縦: 0.33	0.34 層II	63A	P107	
SK317	VF19a	横: 0.71	縦: 0.51	0.10 層II	63A	SK137	
SK316	VF19a	横: 0.48	縦: 0.38	0.01 層II	63A	P050	
SK317	VF19a	横: 0.44	縦: 0.38	0.02 層II	63A	P051	
SK318	VF19a	横: 0.57	縦: 0.32	0.10 層II	63A	P042	
SK320	VF19a	横: 0.50	縦: 0.42	0.07 層II	63A	P048	
SK321	VF19a	横: 0.45	縦: 0.28	0.02 層II	63A	P053	
SK329	VF19a	横: 1.19	縦: 0.93	0.16 層II	63A	SK108	
SK347	VF19e	横: 0.91	縦: 0.40	0.16 層II - 1	63A	SK235	
SK370	VF19e	横: 1.37	縦: 1.14	0.23 層II	63A	SK136	
SK382	VF19a	横: 2.50	縦: 0.62	0.10 層II - 2	63A	SK053	
SK401	VF17r	横: 0.48	縦: 0.42	0.13 層II	63A	SK156	
SK420	VF17a	横: 0.30	縦: 0.43	0.10 層II	63A	P038	
SK434	VF19-20a	横: 1.72	縦: 0.78	0.15 層II	63C	SK022	
SK435	VF19-20a	横: 0.87	縦: 0.82	0.27 層II	63C	SK023	
SK461	VF20b	横: 0.0	縦: 0.49	0.26 層II	63C	SK049	
SK462	VF20c	横: 1.00	縦: 0.42	?	63C	SK019	
SK463	VF20c	横: 2.03	縦: 0.50	0.37 層II	63C	SK018	
SK465	VF20b	横: 1.20	縦: 0.21	0.31 層II	63C	SK002	
SK477	VF1a	横: 2.3	縦: 2.26	0.66 層II - 1	63C	SK055	
SK478	VF1-2a	横: 0.42	縦: 0.38	0.53 層II	63C	SK044	
SK480	VF1a	横: 0.2	縦: 0.42	0.65 層II	63C	SK021	
SK481	VF1-2a	横: 0.2	縦: 0.38	0.79 層II	63C	SK014	
SK482	VF1-2a	横: 1.43	縦: 1.15	0.40 層II	63C	SK023	
SK486	VF1-2a	横: 2.1	縦: 2.25	0.60 層II	63C	SK029	
SK488	VF1-2a	横: 3.48	縦: 2.80	0.61 層II	63C	SK026	
SK489	VF1a	横: 0.53	縦: 0.49	0.10 層II	63C	SK016	
SK491	VF1a	横: 2.42	縦: 1.36	0.76 層II	63C	SK011	
SK494	VF2a	横: 1.18	縦: 0.42	0.35 層II	63C	SK053	
SK498	VF2a	横: 0.0	縦: 0.21	層II	63C	SK007	
SK503	VF3a	横: 0.78	縦: 0.55	0.14 層II	63D	SK005	
SK508	VF3-6a	横: 4.07	縦: 0.71	0.55 層II - 2	63D	SK001, 002	
SK529	VF4-5f	横: 4.02	縦: 0.71	0.60 層II - 2	63D	SK014	
SK530	VF4a	横: 0.79	縦: 0.40	0.19 層II	63D	SK007	
SK536	VF4a	横: 1.59	縦: 1.10	0.30 層II	63D	SK033	
SK538	VF4a	横: 0.88	縦: 0.87	0.16 層II	63D	SK008	
SK543	VF5a	横: 0.85	縦: 0.75	0.62 層II - 2	63D	SK015a	
SK545	VF7-8a	横: 2.53	縦: 2.30	0.49 層II	63D	SK024	
SK554	VF8a	横: 0.9	縦: 0.56	0.42 層II	63D	SK024	
SK576	VF13i	横: 0.48	縦: 0.30	0.16 層II	63C	P004	
SK583	VF15-17b	横: 0.42	縦: 0.45	0.75 層II	61A	SK021	
SK587	VF18b	横: 0.4	縦: 0.28	0.46 層II	61A	SK046	
SK600	VF1-2a	横: 1.80	縦: 0.85	0.35 層II	63A	SK034	
SK629	VF1-2a	横: 0.70	縦: 0.72	0.33 層II	63E	SK035	
SK630	VF2L	横: 0.60	縦: 0.46	0.43 層II	63E	SK037	
SK633	VF2L	横: 1.13	縦: 0.66	0.12 層II	63E	SK011	
SK640	VF2L	横: 0.79	縦: 0.91	0.65 層II	63E	SK032	
SK641	VF2L	横: 0.63	縦: 0.47	0.34 層II	63E	P007	
SK646	VF2L	横: 0.40	縦: 0.30	0.16 層II	63E	P010	
SK645	VF2a	横: 0.83	縦: 0.77	0.20 層II	63E	SK025	
SK646	VF2a	横: 0.78	縦: 0.70	0.11 層II	63E	SK024	
SK647	VF2-4a	横: 5.8	縦: 0.62	0.17 層II	63E	SK028	
SK169	VF1n	横: 1.41	縦: 0.94	1.05 層II	60A	SK002	
SK178	VF6a	横: 4.03	縦: 1.42	0.71 層II	62D	SK079	
SK220	VF15f	横: 1.90	縦: 1.22	0.42 層II	63C	SK084	
SK221	VF15-16f	横: 1.30	縦: 0.27	0.20 層II	63C	SK095	
SK222	VF17j	横: 2.74	縦: 1.79	0.56 層II - 1	63C	SK081	
SK223	VF18-19i	横: 2.91	縦: 1.60	0.30 層II - 1	63C	SK082	
SK224	VF18i, 19-19f	横: 2.26	縦: 1.20	0.24 層II	63C	SK083	
SK225	VF18f	横: 0.65	縦: 0.56	0.12 層II	63C	P083	
SK228	VF18j	横: 0.74	縦: 0.71	0.18 層II	63C	P082	
SK229	VF15a	横: 0.12	縦: 2.96	0.02 層II - 2 ~ 3	63A	SK006	
SK231	VF15-16p	横: 2.51	縦: 0.80	0.25 層II - 2	63A	SK001	
SK400	VF7-8a	横: 3.23	縦: 0.94	+0.42 層II - 2	63C	SK006	
SK407	VF14-15j	横: 2.58	縦: 2.24	1.07 層II	60C	SK001	
SK408	VF17-18i, 17-18j	横: 2.0	縦: 0.44	+1.05 層II	63C	SK001	
SK409	VF17-18i, 17-18j, 19-19a	横: 0.22	縦: 0.14	0.23 層II - 1	63C	SK002	
SK409	VF19c, 19-20gh	横: 1.16	縦: 0.34	+0.85 層II - 1	63C	SK005	
SK415	VF12-15a	横: 4.47	縦: 3.20	0.26 層II - 2	61A	SK001	
SK416	VF6a	横: 0.0	縦: 0.0	?	63C	SK002	
SK417	VF17j	横: 2.08	縦: 1.63	0.16 層II	63C	SK004	

本町地区

遺構番号	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	時期	調査区	注目遺構番号
PE100	VF20e	横: 0.37	縦: 0.33	0.23 層II	60E	--	
PE100	VF1g	横: 0.38	縦: 0.32	0.17 層II	60E	--	
PE110	VF1g	横: 0.38	縦: 0.32	0.19 層II	60E	--	

遺構番号	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	時期	調査区	注目遺構番号
PE112	VF15c	横: 0.33	縦: 0.28	0.20 層II	61A	SK045	
PE112	VF15c	横: 0.24	縦: 0.21	+0.23 層II	61A	P081	
PE113	VF16p	横: 0.32	縦: 0.32	0.10 層II	61A	--	

## 清洲城下町遺跡V

遺跡番号	グロット	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	区遺跡番号	
SH14	WE16p	0.32	0.29	0.12	Ⅱ	ⅡA	--	
SH15	WE17p	0.25	0.24	0.10	Ⅱ	ⅡA	--	
SH16	WE17p	0.29	0.28	0.13	Ⅱ	ⅡA	--	
SH17	WE16a	WE1.19	WE1.19	WE0.08	Ⅱ	ⅡA	--	
SH18	WE6a	0.24	0.20	0.11	Ⅱ	ⅡA	--	
SH005	VF20ef, WF1fg	0.35			Ⅲ	ⅢE	--	
SH006	WE17-10p	4.10			Ⅲ-2	ⅢA	SH001	
SH017	WE14a, 15a	4.21	3.54		Ⅲ-2	ⅢA	SH002	
SH018	WE18-17a	3.80	3.90		Ⅲ-2	ⅢA	SH001	
SH002	WE4-5L, WF4-5a	WE4.21	WE4.21	WE1.11	Ⅲ	ⅢD9	--	
SH011	WE18-10a	WE7.84	WE4.40	WE2.07	Ⅲ	ⅢD2	--	
SH014	WE16a, 9a	WE8.07	WE6.02	WE1.13	Ⅲ	ⅢD2	--	
SH008	WE12-14L, WF7-11a, 8 c. 12-13a	WE7.72	WE7.72	WE1.57	Ⅲ-1	ⅢB	SH011 SH014 SH017 SH027	
SH021	WE8-11L	WE10.25	WE2.00	WE0.49	Ⅲ-2	ⅢB	SH006	
SH022	WE9-11L, WF9-10a	WE12.75	WE1.36	WE0.83	Ⅲ-2	ⅢB	SH002, 007	
SH027	WE10-11L	WE4.04	WE2.25	WE2.20	Ⅲ	ⅢB	SH008	
SH037	WE13-14aL, WF74a	WE13.93	WE1.72	WE1.22	Ⅲ	ⅢD3	--	
SH051	WE14aL, WF14-15a	WE16.45	WE1.50	WE1.07	Ⅲ	ⅢD3	--	
SH055	WE18-10a, WF17a	WE16.41	WE1.87	WE0.85	Ⅲ-1	ⅢB	SH020	
SH058	WE17-10a	WE5.50	WE1.90	WE0.40	Ⅲ-2	ⅢB	SH028	
SH074	VF20g, WF1g	WE3.18	WE1.95	WE0.23	Ⅲ-2	ⅢE	SH008	
SH027	WF1ef, 2f	WE7.80	WE6.86	WE2.21	Ⅲ	ⅢE	SH001	
SH078	WE17L, WF1-7b, 1-4c, 6 -7a	WE18.90	WE4.71	WE1.26	Ⅲ-2	ⅢE-1	ⅢE	SH007
SH079	WF1-5d	WE10.94	WE1.59	WE0.58	Ⅲ	ⅢE	SH012	
SH080	WF3-6d	WE6.55	WE0.57	WE0.20	Ⅲ	ⅢE	SH004	
SH081	WE2-4L, 6-7a	WE5.94	WE0.91	WE0.53	Ⅲ	ⅢA	SH002, 100	
SH082	WE2-5aL	WE4.19	WE0.29	WE0.07	Ⅲ	ⅢA	--	
SH083	WF1-3c, 2-3b				Ⅲ	ⅢE	SH003	
SH084	WF5-8c	WE3.90	WE1.04	WE0.58	Ⅲ-2	ⅢE	SH009	
SH085	WF9-10a, 8r	WE16.24	WE1.84	WE0.70	Ⅲ-2	ⅢA	SH010	
SH086	WE3r	WE3.81	WE0.53	WE0.12	Ⅲ-2	ⅢA	SH012	
SH087	WF9-11a, 10-10r	WE6.26	WE1.56	WE1.18	Ⅲ-2	ⅢA	SH011, 100	
SH088	WF11-12a	WE6.55	WE0.90	WE0.15	Ⅲ	ⅢA	SH009	
SH089	WF11-13a	WE4.44	WE0.80	WE0.20	Ⅲ	ⅢA	SH008	
SH090	WF12a	WE2.93	WE0.48	WE0.23	Ⅲ	ⅢB	SH003	
SH091	WE12-14L, 12-14a	WE6.95	WE2.22	WE1.57	Ⅲ-1	ⅢB	SH016	
SH092	WE13-17r	WE1.26	WE0.73	WE0.75	Ⅲ-2	ⅢB	SH008 ⅢA	SH012
SH093	WE14-16L	WE11.23	WE0.64	WE0.89	Ⅲ-2	ⅢB	SH004	
SH094	WE15a	WE1.94	WE0.20	WE0.08	Ⅲ	ⅢA	SH005	
SH095	WF5-7p	WE3.27	WE0.80	WE0.15	Ⅲ	ⅢA	SH003	
SH096	WE10a	WE6.00	WE0.91	WE0.52	Ⅲ	ⅢA	SH004	
SH097	WE17-10r	WE6.92	WE0.42	WE0.12	Ⅲ	ⅢB	--	
SH098	WE17-10r	WE6.45	WE0.49	WE0.27	Ⅲ	ⅢB	--	
SH099	WE17-20r	WE14.08	WE6.40	WE2.08	Ⅲ-2	ⅢB	SH009	
SH100	WE17-20r, WE1-4r, 3-6q	WE12.61	WE1.49	WE0.78	Ⅲ	ⅢB	SH113	
SH101	WE17-20a	WE15.28	WE1.21	WE0.93	Ⅲ-2	ⅢB	SH010	
SH102	WE18-10a, 20a, WE1-2a	WE21.13	WE6.89	WE0.54	Ⅲ-1	ⅢB	SH007	
SH103	WE18-20a	WE6.52	WE0.90	WE0.58	Ⅲ-1	ⅢB	SH011	
SH104	WE18-20a, WE1-3a	WE14.33	WE1.42	WE0.57	Ⅲ	ⅢB	SH104	
SH105	WE15-5a	WE17.52	WE6.90	WE4.71	Ⅲ-2	ⅢB	SH103	
SH106	WE12-5a	WE5.47	WE0.85	WE0.28	Ⅲ	ⅢB	SH100	
SH107	WE12-5a	WE6.12	WE0.50	WE0.33	Ⅲ	ⅢB	SH100	
SH108	WE3a	WE3.63	WE1.65	WE0.18	Ⅲ	ⅢA	SH081	
SH109	WE3-4r	WE7.10	WE0.94	WE0.16	Ⅲ	ⅢB	SH112	
SH110	WE3-9r	WE27.00	WE1.28	WE1.04	Ⅲ-2	ⅢB	SH102	
SH111	WE3-9a, 5-6a	WE16.29	WE0.45	WE0.24	Ⅲ	ⅢB	SH107	
SH112	WE3-5a	WE17.95	WE1.38	WE0.83	Ⅲ-1	ⅢB	SH106	
SH113	WE3-6a, 7-8a	WE12.22	WE0.83	WE0.23	Ⅲ	ⅢB	SH105	
SH114	WE3a	WE4.76	WE0.54	WE0.23	Ⅲ	ⅢB	SH108	
SH023	WF9-10aL	WE4.58	WE4.52	WE0.22	Ⅲ-2	ⅢB	SH003	
SH027	WE10-11b	WE5.84	WE4.93		Ⅲ	ⅢB	SH002	
SH021	WE15-16a	WE1.43	WE1.22		Ⅲ	ⅢA	SH020, 352	
SH047	WF2a	WE1.83	WE1.70		Ⅲ	ⅢE	SH102	
SH048	WF3-6a	WE1.69	WE1.63		Ⅲ	ⅢE	SH103	

遺跡番号	グロット	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	区遺跡番号
SH049	WE4a	WE1.42	WE1.27		Ⅲ	ⅢE	SH101
SH050	WE18-10a	WE1.95	WE1.76		Ⅲ	ⅢB	SH101a
SH051	WE10a	WE2.46	WE1.67		Ⅲ	ⅢE	SH102
SH052	WE13-14a	WE1.15	WE1.05		Ⅲ	ⅢC	SH101
SH019	WF5a	WE1.81	WE1.41	WE0.17	Ⅲ	ⅢA	SH173
SH020	WE8L	WE1.95	WE1.90	WE0.37	Ⅲ	ⅢA	SH130
SH024	WE8L	WE1.45	WE1.20	WE0.29	Ⅲ	ⅢA	SH104
SH046	WF1-2a	WE1.75	WE1.65	WE0.81	Ⅲ	ⅢA	SH132
SH042	WE3-6a	WE2.89	WE2.82	WE0.29	Ⅲ	ⅢA	SH106
SH079	WE17-10r	WE1.81	WE1.71	WE0.71	Ⅲ	ⅢB	SH100
SH054	WE18L	WE1.76	WE1.44	WE0.75	Ⅲ	ⅢB	SH102
SH020	WE18L	WE1.72	WE1.94	WE0.27	Ⅲ	ⅢB	SH102
SH045	WE7a	WE1.83	WE1.39	WE0.28	Ⅲ	ⅢB	SH134
SH047	WE7-8a	WE1.84	WE1.16	WE0.44	Ⅲ	ⅢB	SH132
SH045	VF20r, WF1f	WE1.88	WE1.42	WE0.42	Ⅲ-2	ⅢE	SH105
SH046	VF20r	WE0.42	WE0.37	WE0.39	Ⅲ	ⅢE	SH100
SH047	VF20r	WE0.55	WE0.53	WE0.68	Ⅲ	ⅢE	SH100
SH048	VF20r	WE0.40	WE0.37	WE0.34	Ⅲ	ⅢE	SH100
SH049	VF20r	WE0.40	WE0.34	WE0.37	Ⅲ	ⅢE	SH100
SH050	WF1f	WE1.31	WE1.54	WE1.19	Ⅲ-2	ⅢE	SH105
SH051	VF20r, WF1fg	WE1.84	WE0.83	WE0.38	Ⅲ-2	ⅢE	SH104
SH052	WF1fg	WE1.36	WE1.94	WE0.38	Ⅲ-2	ⅢE	SH103
SH053	WF1fg	WE0.44	WE0.40	WE0.30	Ⅲ	ⅢE	--
SH054	WE2L	WE1.38	WE1.11	WE1.17	Ⅲ	ⅢA	--
SH055	WF2a	WE1.10	WE0.44	WE0.21	Ⅲ	ⅢE	SH101
SH056	WF2a	WE1.43	WE0.71	WE0.20	Ⅲ	ⅢE	SH102
SH057	WF2r	WE1.57	WE1.65	WE1.13	Ⅲ-2	ⅢE	SH102
SH058	WF3r	WE1.21	WE1.04	WE0.29	Ⅲ-2	ⅢE	SH103
SH059	WF3-4d	WE2.78	WE1.90	WE0.39	Ⅲ	ⅢE	SH100
SH060	WF3d	WE0.63	WE0.49	WE0.24	Ⅲ	ⅢE	--
SH061	WF3d	WE1.41	WE1.34	?	Ⅲ	ⅢE	--
SH062	WF4d	WE0.94	WE0.71	WE0.11	Ⅲ	ⅢE	SH104
SH063	WE4L	WE1.72	WE1.92	WE1.14	Ⅲ	ⅢE	SH102
SH064	WE4L	WE1.82	WE1.19	WE0.65	Ⅲ	ⅢE	SH102
SH065	WE5L	WE1.02	WE1.22	WE1.18	Ⅲ	ⅢE	SH103
SH066	WE5L	WE1.85	WE1.11	WE0.47	Ⅲ	ⅢE	SH103
SH067	WF5-6a	WE3.08	WE2.20	WE0.33	Ⅲ-2	ⅢE	SH104
SH068	WF5a	WE1.40	WE1.23	WE0.25	Ⅲ	ⅢE	--
SH069	WE5-6a	WE1.80	WE1.54	WE0.43	Ⅲ	ⅢE	SH103
SH070	WE6a	WE1.12	WE1.51	WE0.24	Ⅲ	ⅢE	SH101
SH071	WE5-6aL	WE1.40	WE2.22	WE0.28	Ⅲ	ⅢE	SH105
SH072	WE6-7a	WE1.41	WE2.42	WE1.18	Ⅲ	ⅢE	SH100
SH073	WF5-6a	WE1.91	WE1.40	WE1.14	Ⅲ	ⅢE	SH101
SH074	WF5a	WE1.19	WE1.92	WE1.12	Ⅲ	ⅢE	SH100
SH075	WF5a	WE1.50	WE1.16	WE0.89	Ⅲ	ⅢE	SH107
SH076	WF5a	WE1.17	WE1.07	WE0.58	Ⅲ	ⅢE	SH101
SH077	WF5r	WE2.04	WE2.02	WE1.18	Ⅲ	ⅢE	SH109
SH078	WE7-8r	WE1.71	WE1.65	WE0.81	Ⅲ	ⅢE	SH103
SH079	WE7-9aL, 8-8r	WE1.82	WE1.84	WE1.10	Ⅲ-1	ⅢE	SH107
SH080	WE8r	WE1.54	WE1.52	WE1.10	Ⅲ	ⅢE	SH104
SH081	WE8r	WE1.16	WE0.87	WE0.14	Ⅲ	ⅢE	SH105
SH082	WE8r	WE0.55	WE0.40	WE0.10	Ⅲ	ⅢE	SH106
SH083	WF8r	WE0.41	WE0.33	WE0.07	Ⅲ	ⅢE	--
SH084	WE18-10a	WE1.30	WE1.54	WE0.54	Ⅲ	ⅢE	SH105
SH085	WE18-10a	WE1.70	WE1.55	WE1.18	Ⅲ	ⅢE	--
SH086	WE18a	WE2.25	WE2.47	WE1.10	Ⅲ	ⅢE	SH104
SH087	WE13a, 7-10a, 8-15a	WE10.69	WE7.19	WE4.10	Ⅲ-2	ⅢE-1	SH101, 101
SH088	WF9a	WE0.43	WE0.38	WE0.25	Ⅲ-2	ⅢE	SH101
SH089	WE10a	WE1.60	WE1.20	WE0.10	Ⅲ-2	ⅢE	SH101
SH091	WE19-11a	WE4.64	WE5.15	WE1.45	Ⅲ-2	ⅢE	SH105
SH092	WF9a	WE0.85	WE0.54	WE0.30	Ⅲ	ⅢE	SH100
SH093	WE11-12a	WE0.64	WE0.63	WE0.27	Ⅲ	ⅢE	SH101
SH094	WE12a	WE1.52	WE1.04	WE1.13	Ⅲ	ⅢE	SH107
SH095	WE13-14a	WE1.72	WE2.49	WE2.25	Ⅲ	ⅢE	SH105
SH096	WE13a	WE1.13	WE1.08	WE1.14	Ⅲ	ⅢE	SH107
SH097	WE13a	WE1.02	WE0.66	WE0.11	Ⅲ	ⅢE	--
SH098	WE12-17r	WE1.68	WE2.37	WE1.38	Ⅲ	ⅢE	SH100
SH099	WE12L	WE2.03	WE2.67	WE2.22	Ⅲ	ⅢE	SH101
SH070	WE13L	WE0.89	WE1.22	WE1.11	Ⅲ	ⅢE	SH104

付表1 遺構一覧表

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
S0701	WE140a	2.55	1.24	約. 16	層1	91A	S0643
S0702	WE140e	1.41	0.71	?	層1	91A	-
S0703	WE140g	2.90	1.30	0.19	層1	91A	S0654
S0704	WE140e	1.48	1.32	0.20	層1	91A	S0634
S0705	WE140e	1.49	1.25	0.14	層1	91A	S0635
S0706	WE140g	1.68	0.77	0.14	層1	91A	S0640
S0707	WE14-15a	1.89	0.80	0.22	層1	91A	S0642
S0708	WE14r	約. 01	約. 67	約. 17	層1	91A	S0636
S0709	WE14L	1.14	0.94	0.14	層1	00B	S0612
S0710	WE14-15a1	7.04	2.99	0.80	層1	00B	S0616
S0711	WE15g	0.51	0.48	0.23	層1	91A	S0653
S0712	WE14-15p	0.57	0.52	0.32	層1	91A	S0652
S0713	WE15g	0.51	0.42	0.09	層1	91A	S0651
S0714	WE15g	1.43	1.10	0.18	層1	91A	S0641
S0715	WE15g	0.82	0.58	0.18	層1	91A	-
S0716	WE15g	0.57	0.44	0.22	層1	91A	S0649
S0717	WE15g	0.51	0.47	0.08	層1	91A	S0650
S0718	WE15g	1.03	0.71	0.18	層1	91A	S0648
S0719	WE150a	1.91	0.85	0.12	層1	91A	S0647
S0720	WE15g	0.42	0.42	0.22	層1	91A	S0646
S0721	WE15g	0.79	0.58	0.34	層1	91A	S0631
S0722	WE15g	約. 56	約. 18	約. 05	層1	91A	-
S0723	WE15g	0.57	0.48	0.30	層1	91A	S0644
S0724	WE15g	約. 71	約. 64	約. 62	層1	91A	P082
S0725	WE15L	1.33	1.06	0.30	層1	00B	S0611
S0726	WE150a	0.43	0.37	0.09	層1	91A	-
S0727	WE150a	1.64	1.22	0.22	層1	91A	S0626
S0728	WE15e	0.43	0.34	0.16	層1	91A	-
S0729	WE15g	0.56	0.48	0.23	層1	91A	-
S0730	WE15g	0.44	0.39	0.08	層1	91A	S0629
S0731	WE15g	0.40	0.35	0.12	層1	91A	-
S0732	WE14-17a	0.59	0.54	0.09	層1	91A	-
S0733	WE16a1	約. 73	約. 56	約. 24	層1	00B	P028
S0734	WE16L	約. 77	約. 09	?	層1	00B	S0630
S0735	WE16-18L	0.97	3.28	+1.88	層1-1	00B	S0601
S0736	WE17g	0.89	0.41	0.10	層1	91A	-
S0737	WE17g	0.64	0.60	0.15	層1	91A	S0615
S0738	WE17g	0.71	0.58	0.12	層1	91A	S0616
S0739	WE17g	0.54	0.34	0.07	層1	91A	S0623
S0740	WE17g	0.85	0.66	0.30	層1	91A	S0621
S0741	WE17g	0.51	0.42	0.17	層1	91A	S0622
S0742	WE17g	0.58	0.54	0.18	層1-2	91A	S0617

南部地区

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
S0706	WE20h, DC1-0a, 1-2i	約. 20	1.54	+0.80	層II	61D	S0602
S0708	DC18a	約. 81	0.27	0.08	層1	00B	S0618
S0709	DC18a	約. 68	0.21	0.07	層1	00B	S0618
S0707	DC18a	約. 90	0.38	0.12	層1	00B	S0617
S0706	DC18a	約. 58	0.45	0.17	層1	00B	S0616
S0709	DC18-19a	約. 23	0.52	0.30	層1	00B	S0615
S0740	DC19a	約. 32	0.43	0.14	層1	00B	S0614
S0841	DC19a	約. 23	0.38	0.13	層1	00B	S0613
S0742	DC19a1	約. 52	0.37	0.05	層1	00B	S0612a
S0743	DC19a	約. 77	0.45	0.13	層1	00B	S0611a
S0709	WE19a	1.84	1.72	約. 11-2	層1	61C	S0609a
S0716	WE19a	約. 29	約. 17	約. 90	層1	91B	S0685
S0745	DC20a	1.06	1.03	0.15	層1	61D	S0601
S0746	DC21a	1.06	0.72	0.52	層1	61D	S0604
S0747	DC21a	0.77	0.51	0.10	層1	61D	S0603

遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	調査区	旧遺構番号
S0743	WE19a	0.98	0.82	0.15	層1	91A	S0620
S0744	WE17-18a	0.57	0.53	0.16	層1	91A	S0618
S0745	WE17-18a	0.48	0.46	0.14	層1	91A	S0619
S0746	WE170a	0.41	0.32	0.18	層1	91A	S0624
S0747	WE17a	0.42	0.38	0.21	層1	91A	S0627
S0748	WE17-18a1	3.33	1.28	0.09	層1	00B	S0619
S0749	WE17L	1.56	0.94	0.07	層1	00B	S0618
S0750	WE16a1	0.84	0.79	?	層1	00B	P025
S0751	WE18-19a	2.76	1.16	0.22	層1	91A	S0611
S0752	WE19-20a	2.67	2.80	0.21	層1	91A	S0609
S0753	WE19-20a	約. 58	約. 84	約. 91	層1	00B	S0623
S0754	WE20a	0.58	0.47	0.18	層1	91A	-
S0755	WE20a, WE19	5.06	1.70	0.18	層1	91A	S0608
S0756	WE200a	約. 93	約. 93	?	層1	91A	S0625
S0757	WE20a	+2.18	約. 75	約. 1.03	層1	00B	S0629
S0758	WE20a	約. 23	約. 48	?	層1	00B	S0628
S0759	WE19	1.16	1.05	0.23	層1	91A	S0604
S0760	WE19a	1.13	0.80	0.11	層1	91A	S0610
S0761	WE19r	1.40	1.30	0.16	層1	00B	S0605
S0762	WE1-2r	1.65	1.35	0.19	層1	00B	S0603
S0763	WE2-3a	1.86	1.40	0.20	層1	91A	S0602
S0764	WE2r	2.12	1.92	0.54	層1	00B	S0604
S0765	WE3a	2.80	1.07	0.36	層1	91A	S0602
S0766	WE4a	1.85	1.10	0.26	層1	91A	S0601
S0767	WE5a	1.02	0.87	0.17	層1	91A	-
S0768	WE4-5a	2.34	1.94	0.18	層1	00B	S0614
S0769	WE7-8a	約. 08	約. 71	?	層1	00B	S0607
S0770	WE9a	0.96	0.75	0.13	層1	00B	P117
S0810	WE16a, 5d	約. 54	約. 71	約. 75	層1	00B	S0601
S0811	WE16a	約. 25	約. 73	約. 1.29	層1	00B	S0604
S0812	WE1-5a	約. 27	約. 28	約. 1.17	層1	00B	S0602
S0813	WE1a	約. 32	約. 03	?	層1	91A	61C
S0814	WE19a	約. 49	1.86	+0.32	層1	91A	S0602
S0815	WE19L	1.53	0.75	?	層1	00B	S0602
S0816	WE18-20a, 19-20a	約. 98	約. 92	?	層1	91A	61B
S0817	WE18-190a	約. 83	約. 10	?	層1	91A	61D
S0818	WE190a	約. 32	約. 70	?	層1	91A	61A
S0819	WE200a, WE1-20a	約. 74	約. 85	約. 24	層1	91A	S0601
S0820	WE19a, 110a	6.47	4.82	0.44	層1	00B	S0601
S0821	WE19-150a, 12-13a, 17-15a				層1	61C	新設遺構

## 2 遺物一覽表

この一覧表は、本書掲載の実測図に収録された遺物の全てをまとめたものである。

## 凡 例

- 1 遺物番号は本書掲載実測図の番号である。
- 2 遺構番号は本書掲載遺構図の番号である。  
遺構番号が無記入の遺物の出土地点は登録番号の調査区と旧遺構番号で確認できる。
- 3 容器についてはその量さをcm単位で表示した。  
数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。  
数値の前に記された「推」は復元推定値を示している。
- 4 調整痕・使用痕については「内面」・「外面」に区分して表現した。  
口縁部については備考で補足記載した。
- 5 登録番号は発掘調査区ごとに遺物の整理番号をつけたものである。  
従って、遺物の収納に際してはこの番号によって整理されている。  
なお、調査区の次に記されたアルファベットは以下の略号である。

E——陶磁器・土器      M——金属製品  
W——木製品            Xb——骨角製品  
S——石製品            Xx——ガラス製品

図番	遺物番号	産地・材質	器種	口径	高さ	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	整理番号
1	SK009	瀬戸陶器	丸瓶	推11.0	残 4.3		灰石胎、鉄胎	灰石胎、鉄胎、高台地脚露出	白色		SK E-217	SK 05
2	SK009	美濃陶器	尾片茶碗	推11.0	残 5.0		鉄胎、灰沈し	鉄胎、灰沈し、縹胎	黄白色		SK E-230	SK 05
3	SK009	美濃陶器	尾片茶碗	推10.0	残 5.7		鉄胎、一部灰沈し	鉄胎、縹胎露出	黄白色		SK E-237	SK 05
4	SK009	瀬戸陶器	圓形筒	推 5.1	7.3	5.1	鉄胎	鉄胎、高台地脚露出	黄白色		SK E-202	SK 05
5	SK009	瀬戸陶器	尾片茶碗	推11.2	7.4	6.0	鉄胎、灰沈し	鉄胎、灰沈し、縹胎、高台地脚露出	黄白色		SK E-211	SK 05
6	SK009	美濃陶器	尾片茶碗	推10.4	残 6.4		鉄胎、灰沈し	鉄胎、灰沈し、縹胎	灰白色		SK E-212	SK 05
7	SK009	美濃陶器	圓形茶碗	推 8.0	6.0	推 4.0	灰胎	灰胎、鉄胎、高台地脚露出	灰白色		SK E-215	SK 05
8	SK009	美濃陶器	圓形茶碗	5.7	5.9	4.0	灰胎	灰胎、鉄胎、高台地脚露出	灰色		SK E-207	SK 05
9	SK009	美濃陶器	尾片茶碗	11.0	7.1	4.9	鉄胎、灰沈し	鉄胎、灰沈し、縹胎	灰白色		SK E-205	SK 05
10	SK009	美濃陶器	圓形筒	推10.2	残 5.5		灰胎	灰胎、縹胎	灰白色		SK E-213	SK 05
11	SK009	肥前陶器	丸瓶	推11.2	6.6	4.9	灰石胎	灰石胎、灰石胎、高台地脚露出	白色		SK E-218	SK 05
12	SK009	肥前陶器	丸瓶	推11.0	6.8	5.0	灰胎	灰胎、灰石胎、高台地脚露出、XbP	灰色		SK E-241	SK 05
13	SK009	美濃陶器	尾片茶碗?		推 4.2	5.0	鉄胎	鉄胎、縹胎	灰黄白色		SK E-229	SK 05
14	SK009	美濃陶器	圓形茶碗		推 3.9	5.0	灰胎	鉄胎、高台地脚露出	灰白色		SK E-231	SK 05
15	SK009	美濃陶器	丸瓶		推 4.2	4.9	灰石胎	灰石胎、縹胎露出	灰色		SK E-214	SK 05
16	SK009	美濃陶器	尾片茶碗		推 2.0	4.0	鉄胎	鉄胎、縹胎露出	黄灰白色		SK E-236	SK 05
17	SK009	木	木製磨器輪	12.0			赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			SK W- 1	SK 05
18	SK009	木	木製磨器輪				赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			SK W- 2	SK 05
19	SK009	木	木製磨器輪				赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			SK W- 3	SK 05
20	SK009	木	木製磨器輪	6.0	5.1		赤色漆	赤色漆			SK W- 4	SK 05
21	SK009	木	木製磨器輪		推 5.5		赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			SK W- 5	SK 05
22	SK009	木	木製磨器輪		推 3.0		赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			SK W- 6	SK 05
23	SK009	木	木製磨器輪		推 7.0	6.5	赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			SK W- 7	SK 05
24	SK009	木	木製磨器輪	推11.2	推 6.3		赤色漆	黒色漆、文様赤色漆			SK W- 8	SK 05
25	SK009	木	木製磨器輪		推 6.2		赤色漆	赤色漆			SK W- 9	SK 05
26	SK009	木	木製磨器輪	推10.5	推 6.9		赤色漆	赤色漆			SK W- 10	SK 05
27	SK009	瀬戸陶器	丸瓶	推11.4	3.0	4.7	灰石胎、輪付	灰石胎、縹胎露出	緑褐色	二次的に火を受ける	SK E-208	SK 05
28	SK009	美濃陶器	丸瓶	推12.0	推 2.2		灰胎	鉄胎、縹胎露出	灰白色		SK E-225	SK 05
29	SK009	瀬戸陶器	丸瓶	13.0	3.1	7.4	灰石胎、輪付、Xb付着	灰石胎、縹胎露出	白-黄白色	口縁部一部欠損	SK E-204	SK 05
30	SK009	美濃陶器	丸瓶	12.4	3.1	6.4	灰胎、鉄胎、鉄胎	鉄胎、縹胎露出	灰黄色		SK E-210	SK 05

附表2 遺物一覽表

図例	遺物番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	調査番号
21	SA0009	長洲内島	丸瓶	幅12.2	2.0	幅 5.6	灰胎, 裏土被さぬ	灰胎, 底面磨蝕, 黒色付着物	灰褐色		63C E-201	33 05
22	SA0009	長洲内島	丸瓶	幅 2.4	1.8	幅 3.0	長石胎, 裏土被さぬ	長石胎, 高台端部磨蝕	黒灰色		63C E-219	33 05
23	SA0009	長洲内島	雙唇		4.3		灰胎	灰胎, 底面磨蝕, 布目痕	灰色		63C E-220	33 05
24	SA0009	長洲内島	小杯	幅 7.4	3.5	幅 2.8	灰胎	灰胎, 底面磨蝕	黄灰色	口縁部欠損	63C E-216	33 05
25	SA0009	長洲内島	香炉	幅 8.4	4.1		灰胎, 裏胎	灰胎, 裏胎	灰色		63C E-221	33 05
26	SA0009	長洲内島	香炉	幅11.4	幅 6.0		灰胎, 裏胎, 3ヶ付着	灰胎, 裏胎	灰白色	口縁部磨蝕	63C E-222	33 05
27	SA0009	神戸内島	灰濁土上	幅 8.0	幅 5.4		灰胎, 裏胎	灰胎, 裏胎	灰白色		63C E-222	33 05
28	SA0009	水	水知造器蓋	幅 11.9	3.3		赤色胎	黒色胎, 文様赤色塗			63C W-11	33 05
29	SA0009	神戸内島	鉢蓋	幅15.4	幅 8.1	幅10.2	黄胎, 裏胎, 1ヶ付着	黄胎, 底面磨蝕	灰白色		63C E-224	33 05
30	SA0009	銅	鏡							元鏡遺骨	63C W-13	33 05
41	SA0009	銅	鏡							幣形火鏡	63C W-14	33 05
42	SA0009	銅	鏡							幣形火鏡	63C W-15	33 05
43	SA0009	水	歯内埋	幅 30.0	幅 11.4	幅 21.7					63C W-12	33 05
44	SA0009	神戸内島	銅打	幅18.5	幅 4.6		灰胎, 縁部沈し, 3ヶ付着	灰胎, 縁部沈し, 3ヶ付着	灰白色	足欠損	63C E-226	33 05
45	SA0009	神戸内島	鉢	幅21.6	幅 6.5		灰胎	灰胎	黄白色	口縁部磨蝕	63C E-225	33 05
46	SA0009	神戸内島	汁次	幅 3.9	幅 11.6	幅 7.4	灰胎	灰胎, 底面磨蝕	灰濁～灰黄色		63C E-203	33 05
47	SA0009	神戸内島	香	幅 4.9	幅 8.4	幅 5.8	灰胎	灰胎, 底面磨蝕	黄灰色		63C E-236	33 05
48	SA0009	神戸内島	香	幅 7.8	幅 7.5	幅 7.5	灰胎	灰胎, 沈し, 底面磨蝕	黄灰色	口縁部磨蝕	63C E-223	33 05
49	SA0009	神戸内島	平鉢	幅29.8	幅 13.1	幅13.1	灰胎, 縁部沈し, 1ヶ付着	灰胎, 底面磨蝕	灰白色		63C E-209	33 05
50	SA0009	長洲内島	大皿	幅24.2	幅 5.7	幅14.4	長石胎, 裏土被さぬ	長石胎, 裏土被さぬ, 1ヶ付着	赤褐色		63C E-204	33 05
51	SA0009	長洲内島	平鉢	幅 32.8	幅 9.1	幅11.3	透明胎, 白化粧, 黄胎, 縁部沈し	透明胎, 白化粧, 底面磨蝕	赤褐色		63C E-246	33 05
52	SA0009	神戸内島	鉢蓋	幅24.0	幅11.1		黄胎, 縁部	黄胎	黄灰色	口縁部磨蝕	63C E-234	33 05
53	SA0009	神戸内島	鉢蓋	幅 4.2			黄胎, 縁部	黄胎	淡褐色	口縁部磨蝕	63C E-232	33 05
54	SA0009	神戸内島	鉢蓋	幅 32.0	幅 15.0	幅 15.0	黄胎, 縁部	黄胎, 縁部	黄褐色	口縁部磨蝕	63C E-233	33 05
55	SA0009	鉄	釘								63C W-16	33 05
56	SA0009	鉄	釘								63C W-17	33 05
57	SA0009	水	管								63C W-13	33 05
58	SA0009	銅・竹	燗管								63C W-14	33 05
59	SA0009	銅	燗管								63C W-19	33 05
60	SA0009	銅	鍔金具?								63C W-20	33 05
61	SA0009	鉄	鍔								63C W-21	33 05
62	SA0009	銅	鍔金具?								63C W-22	33 05
63	SA0009	石	礎石							花崗岩残片	63C W-18	33 05
64	SA0008	水	佛脚								63C W-14	33 05
65	SA0009	水	漆油下駄								63C W-15	33 05
66	SA0009	水	漆油下駄								63C W-16	33 05
67	SA0009	水	漆油下駄								63C W-17	33 05
68	SA0009	水	漆油下駄								63C W-18	33 05
69	SA0009	長洲内島	鉢	幅27.8	幅14.4	幅14.4	灰胎, 縁部	灰胎, 縁部	黄褐色	裏鏡	63C E-239	33 05
70	SA0032	神戸内島	丸瓶	幅 13.0	幅 6.2	幅 5.4	灰胎, 裏胎	灰胎, 裏胎, 高台端部磨蝕, 底面磨蝕	黄白色	口縁部欠損	91A E-322	33 32
71	SA0032	神戸内島	丸瓶	幅 13.0	幅 6.3	幅 5.4	灰胎, 裏胎	灰胎, 裏胎, 高台端部磨蝕	黄白色	口縁部欠損	91A E-323	33 32
72	SA0032	神戸内島	丸瓶	幅12.0	幅 6.1	幅 5.4	灰胎, 裏胎	灰胎, 裏胎, 高台端部磨蝕, 底面磨蝕	黄白色		91A E-324	33 32
73	SA0032	肥前松島	丸瓶	幅14.0	幅 4.6		透明胎	透明胎, 裏胎	灰白色		91A E-321	33 32
74	SA0032	肥前松島?陶師	丸瓶	幅 5.0	幅 5.0		灰胎, 高台端部磨蝕	灰胎, 高台端部磨蝕	灰白色		91A E-370	33 32
75	SA0032	神戸内島	丸瓶	幅11.4	幅 4.9	幅 4.0	灰胎, 裏胎, 裏胎	灰胎, 底面磨蝕	黄白色		91A E-329	33 32
76	SA0032	神戸内島	丸瓶	幅 11.0	幅 4.8	幅 4.0	灰胎, 裏胎, 裏胎	灰胎, 底面磨蝕, 裏胎	黄白色	口縁部欠損	91A E-325	33 32
77	SA0032	神戸内島	丸瓶	幅 8.0	幅 3.7	幅 3.0	灰胎	灰胎, 底面磨蝕	黄白色		91A E-326	33 32
78	SA0032	神戸内島	丸瓶	幅 8.2	幅 5.5	幅 3.0	灰胎	灰胎, 裏胎, 底面磨蝕	灰濁～灰褐色		91A E-328	33 32
79	SA0032	神戸内島	丸瓶	幅 8.2	幅 5.9	幅 4.0	灰胎	灰胎, 裏胎, 底面磨蝕	黄白色		91A E-327	33 32
80	SA0032	長洲内島	丸瓶	幅 8.6	幅 5.2	幅 3.2	灰胎	灰胎, 底面磨蝕	灰黄色		91A E-336	33 32
81	SA0032	神戸内島	丸瓶	幅 9.1	幅 5.1	幅 3.9	灰胎	灰胎, 高台端部磨蝕	黄灰色		91A E-337	33 32
82	SA0032	神戸内島	せとん七葉	幅 11.8	幅 5.4	幅 4.2	灰胎	灰胎, 裏胎, 底面磨蝕	黄白色		91A E-332	33 32
83	SA0032	神戸内島	せとん七葉	幅 6.0	幅 4.9	幅 4.2	灰胎	灰胎, 裏胎	黄白色		91A E-331	33 32
84	SA0032	神戸内島	せとん七葉	幅10.7	幅 5.2	幅 4.4	灰胎	灰胎, 裏胎, 底面磨蝕	白色		91A E-339	33 32
85	SA0032	神戸内島	せとん七葉	幅 9.4	幅 5.0	幅 4.3	灰胎	灰胎, 裏胎, 底面磨蝕	黄白色		91A E-333	33 32
86	SA0032	神戸内島	御膳茶碗	幅10.2	幅 6.6	幅 4.0	灰胎	灰胎, 底面磨蝕	黄灰色		91A E-338	33 32
87	SA0032	神戸内島	御膳茶碗	幅 9.0	幅 5.9	幅 4.4	灰胎	灰胎, 底面磨蝕	黄白色		91A E-334	33 32
88	SA0032	神戸内島	平瓶	幅12.6	幅 6.1	幅 5.0	灰胎, 白化粧	灰胎, 白化粧, 底面磨蝕	淡褐色	磨毛目	91A E-330	33 32
89	SA0032	神戸内島	平瓶	幅 14.0	幅 6.7	幅 5.3	灰胎	灰胎, 高台端部磨蝕	白色		91A E-340	33 32
90	SA0032	長洲内島	丸瓶	幅15.0	幅 3.2	幅 8.4	灰胎, 裏土被さぬ	灰胎, 底面磨蝕	灰濁～黄褐色		91A E-344	33 32
91	SA0032	長洲内島	丸瓶	幅14.3	幅 3.9	幅 6.1	灰胎, 縁部沈し, 1ヶ付着	灰胎, 底面磨蝕	灰～黄灰色		91A E-341	33 32
92	SA0032	長洲内島	腰掛	幅12.8	幅 2.2	幅 7.3	灰胎, 1ヶ付着	灰胎, 底面磨蝕	黄灰色		91A E-343	33 32
93	SA0032	長洲内島	丸瓶	幅12.2	幅 2.3	幅 5.5	灰胎, 裏土被さぬ	灰胎, 底面磨蝕	黄灰色		91A E-342	33 32
94	SA0032	長洲内島	新加石皿	幅11.0	幅 2.0	幅 5.0	磨蝕	磨蝕	灰色	口縁部付着	91A E-345	33 32
95	SA0032	神戸内島	香内付香	幅 15.7	幅 3.9	幅 2.7	灰胎	灰胎, 底面磨蝕, 磨毛底	黄白色	口縁部付着, 欠損	91A E-346	33 32
96	SA0032	神戸内島	平瓶	幅 9.9	幅 5.9	幅 6.0	灰胎	灰胎, 底面磨蝕	黄白色		91A E-238	33 32
97	SA0032	神戸内島	蓋	幅 10.8	幅 1.5		灰胎	灰胎, 底面磨蝕	黄白色		91A E-350	33 32
98	SA0032	神戸内島	丸鉢	幅15.4	幅 5.1	幅 6.9	灰胎, 1ヶ付着	灰胎, 底面磨蝕, 磨毛底	黄白色	輪花	91A E-348	33 32
99	SA0032	神戸内島	圓形鉢	幅13.4	幅 5.7	幅 2.8	灰胎, 磨蝕	灰胎, 底面磨蝕	黄白色		91A E-352	33 32

図例	遺構番号	形状・材質	形状	口径	高さ	厚さ	内側	外側	土質	備考	登録番号	追加情報番号
	100	土間	丸瓦	幅14.8	4.8	厚10.5	灰焼、底面、釉少欠	灰焼、底面、釉少欠	黄灰色		91A-351	SK 32
	101	土間	大瓦	幅24.4	4.8	厚14.4	灰焼、底面、釉少欠	灰焼、底面、釉少欠	黄灰色		91A-345	SK 32
	102	土間	平葺	幅27.0	厚	4.2	灰焼	灰焼	黄灰色		91A-347	SK 32
	103	土間	丸葺	幅17.1	4.5	厚	8.8	灰焼、底面、釉少欠	黄褐色		91A-354	SK 32
	104	土間	丸葺	幅15.0	4.4	厚	8.4	灰焼、釉少欠	黄白色		91A-356	SK 32
	105	土間	丸葺	幅	18.0	4.9	厚	8.3	灰焼、底面、釉少欠	黄白色	91A-353	SK 32
	106	土間	葺葺	幅	5.5	厚		灰焼	黄白色		91A-362	SK 32
	107	土間	葺葺	幅	4.8	厚		灰焼、底面、釉少欠	黄白色		91A-363	SK 32
	108	土間	葺葺	幅	4.2	厚		灰焼	淡褐色		91A-364	SK 32
	109	土間	葺葺	幅	4.8	厚		灰焼	黄白色		91A-365	SK 32
	110	土間	葺葺	幅	6.2	厚		灰焼	黄白色		91A-366	SK 32
	111	土間	葺葺	幅	5.3	厚		灰焼	黄白色	口縁部破滅	91A-367	SK 32
	112	土間	葺葺	幅	6.7	厚		灰焼	黄白色		91A-368	SK 32
	113	土間	葺葺	幅	22.8	厚	10.8	灰焼	黄白色	口縁部破滅	91A-361	SK 32
	114	土間	葺葺	幅	10.4	厚	12.5	灰焼、底面、釉少欠	黄褐色	口縁部破滅	91A-355	SK 32
	115	土間	葺葺	幅	23.8	厚	12.4	灰焼	黄白色	口縁部破滅	91A-367	SK 32
	116	土間	葺葺	幅	21.8	厚	5.9	焼付、底面、釉少欠	褐色		91A-360	SK 32
	117	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.2	焼付、底面、釉少欠	淡褐色		91A-357	SK 32
	118	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.2	焼付、底面、釉少欠	褐色		91A-359	SK 32
	119	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	120	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	121	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	122	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	123	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	124	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	125	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	126	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	127	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	128	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	129	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	130	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	131	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	132	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	133	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	134	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	135	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	136	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	137	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	138	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	139	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	140	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	141	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	142	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	143	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	144	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	145	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	146	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	147	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	148	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	149	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	150	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	151	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	152	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	153	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	154	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	155	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	156	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	157	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	158	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	159	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	160	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	161	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	162	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	163	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	164	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	165	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	166	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32
	167	土間	葺葺	幅	23.8	厚	3.1	焼付、底面、釉少欠	明褐色		91A-358	SK 32

付表2 遺物一覧表

図号	遺物番号	所在地	材質	器種	口径	高さ	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧登録番号
160	S06735	瀬戸内海	黄銅茶碗	丸	9.8	5.9	2.0	灰釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-120	SK 01
161	S06735	瀬戸内海	黄銅茶碗	丸	9.5	5.6	4.0	灰釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-117	SK 01
170	S06735	瀬戸内海	丸	丸	8.7	6.0	3.6	灰釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-113	SK 01
171	S06735	瀬戸内海	平碗	丸	12.4	8.1	2.8	灰釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-270	SK 01
172	S06735	関西西?内海	丸	丸	8.0	5.5		透明釉、上絵付(?)	透明釉、上絵付	白色		009 E-280	SK 01
173	S06735	関西西内海	丸	丸	8.8	6.5	3.9	透明釉	透明釉、上絵付(灰、黄)	白色		009 E-267	SK 01
174	S06735	関西西内海	丸	丸	8.8	6.7		透明釉	透明釉	白色		009 E-260	SK 01
175	S06735	瀬戸内海	丸	丸	9.0	5.1	4.3	灰釉	灰釉、上絵付(赤、緑)、高台燗部露出	黄白色		009 E-108	SK 01
176	S06735	瀬戸内海	丸	丸	8.5	5.5	2.7	灰釉	灰釉、上絵付(赤、灰)、高台燗部露出	黄白色		009 E-128	SK 01
177	S06735	瀬戸内海	丸	丸	8.1	5.6	2.7	灰釉	灰釉、上絵付(赤、灰)、高台燗部露出	灰黄色		009 E-126	SK 01
178	S06735	不明内海	丸	丸	8.9	6.2	4.0	灰釉	灰釉、上絵付(赤、黄、赤)、高台燗部露出	黄白色		009 E-279	SK 01
179	S06735	瀬戸内海	丸	丸	8.2	5.0		長石釉	長石釉、上絵付(灰、黄)	黄白色		009 E-130	SK 01
180	S06735	瀬戸内海	せんじ七輪	丸	8.0	5.0	2.7	灰釉	灰釉、長石釉、赤釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-104	SK 01
181	S06735	瀬戸内海	せんじ七輪	丸	9.2	6.4	4.0	灰釉	灰釉、長石釉、赤釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-107	SK 01
182	S06735	关西内海	腰形碗	楕圓	10.9	4.1	楕圓	灰釉、赤釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰色		009 E-139	SK 01
183	S06735	关西内海	腰形茶碗	楕圓	7.8	6.2	3.1	赤釉	赤釉、灰釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-124	SK 01
184	S06735	瀬戸内海	腰形茶碗	楕圓	6.7	6.2	3.2	赤釉	赤釉、灰釉、高台燗部露出	白色		009 E-123	SK 01
185	S06735	关西内海	丸	丸	11.9	8.2	6.0	灰釉	灰釉、高台燗部露出	黄灰色		009 E-112	SK 01
186	S06735	瀬戸内海	小碗	丸	7.9	5.9	4.5	灰釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰黄色		009 E-108	SK 01
187	S06735	肥前国	丸	丸	8.5	5.0	2.6	透明釉	透明釉、長石釉、高台燗部露出	白色	液状見	009 E-121	SK 01
188	S06735	肥前国	丸	丸	8.6	5.1	2.6	透明釉	透明釉、長石釉、高台燗部露出	白色	液状見	009 E-143	SK 01
189	S06735	肥前国	丸	丸	8.4	5.2	2.7	透明釉	透明釉、長石釉、高台燗部露出	白色	液状見	009 E-141	SK 01
190	S06735	肥前国	丸	丸	8.6	5.8	2.8	透明釉	透明釉、長石釉、高台燗部露出	白色	液状見	009 E-142	SK 01
191	S06735	肥前国	丸	丸	11.8	6.2	4.2	透明釉、長石釉	透明釉、長石釉	白色	液状見	009 E-147	SK 01
192	S06735	肥前国	丸	丸	10.7	6.2		透明釉	透明釉、長石釉	白色	液状見	009 E-127	SK 01
193	S06735	肥前国	丸	丸	8.4	3.9	2.1	透明釉、長石釉	透明釉、長石釉、高台燗部露出	白色		009 E-144	SK 01
194	S06735	肥前国	小碗	丸	3.9	3.4		透明釉	透明釉、上絵付(赤、黄、赤)、高台燗部露出	白色	有田	009 E-110	SK 01
195	S06735	肥前国	小碗	丸	6.1	3.4	3.0	透明釉、上絵付(赤)	透明釉、上絵付(赤)、高台燗部露出	白色	有田	009 E-150	SK 01
196	S06735	肥前国	小碗	丸	7.2	3.7	2.9	透明釉	透明釉、長石釉、高台燗部露出	白色	有田	009 E-224	SK 01
197	S06735	肥前国	小碗	丸	8.4	3.8	3.0	透明釉	透明釉、上絵付(赤)、高台燗部露出	白色	有田	009 E-145	SK 01
198	S06735	肥前国	小碗	丸	5.2	2.9	1.0	透明釉	透明釉、上絵付(赤)、高台燗部露出	白色	有田	009 E-174	SK 01
199	S06735	肥前国	小碗	丸	7.0	4.0		透明釉	透明釉	白色	口紅	009 E-229	SK 01
200	S06735	肥前国	楕圓形香	楕圓	7.4	5.6	3.2	透明釉、長石釉	透明釉、長石釉、高台燗部露出	白色		009 E-145	SK 01
201	S06735	瀬戸内海	丸	丸	11.5	5.7	6.2	灰釉、長石釉	灰釉、長石釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-129	SK 01
202	S06735	瀬戸内海	丸	丸	11.2	4.9	3.8	灰釉、長石釉、赤釉	灰釉、長石釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-115	SK 01
203	S06735	瀬戸内海	丸	丸	14.3	8.3	5.7	灰釉、長石釉	灰釉、長石釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-116	SK 01
204	S06735	瀬戸内海	無高台皿	丸	7.5	5.5	3.6	灰釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-154	SK 01
205	S06735	瀬戸内海	無高台皿	丸	7.6	1.4	3.2	灰釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	黄白色	口紅部?付着	009 E-169	SK 01
206	S06735	瀬戸内海	無高台皿	丸	8.0	1.3	4.0	灰釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-187	SK 01
207	S06735	关西内海	無高台皿	丸	8.9	1.9	4.3	灰釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-185	SK 01
208	S06735	关西内海	無高台皿	丸	10.1	2.3	4.4	赤釉	赤釉、長石釉、高台燗部露出	灰白色	口紅部?付着	009 E-155	SK 01
209	S06735	关西内海	打蓋	丸	11.0	2.5	4.5	赤釉	赤釉、赤釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-162	SK 01
210	S06735	关西内海	打蓋	丸	10.9	2.7	4.6	赤釉	赤釉、赤釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-163	SK 01
211	S06735	关西内海	丸	丸	11.6	2.1	6.0	灰釉、長石釉、赤釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰黄色		009 E-158	SK 01
212	S06735	关西内海	丸	丸	11.3	2.0	6.0	灰釉、長石釉、赤釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-157	SK 01
213	S06735	关西内海	丸	丸	11.7	3.5	5.8	灰釉、長石釉、赤釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-162	SK 01
214	S06735	关西内海	丸	丸	13.0	2.9	6.0	灰釉、長石釉、赤釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-151	SK 01
215	S06735	关西内海	丸	丸	12.5	3.0	5.8	灰釉、長石釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	黄灰色		009 E-164	SK 01
216	S06735	瀬戸内海	丸	丸	17.4	4.0	楕圓	灰釉、赤釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	黄白色	口紅部?付着	009 E-170	SK 01
217	S06735	关西内海	丸	丸	15.0	4.3	6.2	灰釉、赤釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰黄色		009 E-159	SK 01
218	S06735	关西内海	丸	丸	22.9	5.5	8.8	灰釉、赤釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-160	SK 01
219	S06735	瀬戸内海	丸	丸	11.8	3.4	5.9	灰釉、長石釉	灰釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-152	SK 01
220	S06735	瀬戸内海	丸	丸	11.9	3.4	4.5	灰釉、長石釉	灰釉、高台燗部露出	灰白色		009 E-153	SK 01
221	S06735	瀬戸内海	丸	丸	14.0	3.8	6.0	灰釉、長石釉	灰釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-156	SK 01
222	S06735	瀬戸内海	卵皿	楕圓	11.3	3.2	6.3	赤釉、長石釉	赤釉	黄白色		009 E-161	SK 01
223	S06735	関西平野部	蓋	丸	8.3	2.6		透明釉、長石釉	透明釉、長石釉	白色		009 E-173	SK 01
224	S06735	肥前国	蓋	丸	8.0	3.1	4.0	透明釉、長石釉	透明釉、長石釉、高台燗部露出	白色		009 E-180	SK 01
225	S06735	肥前国	蓋	丸	8.0	3.3	3.4	透明釉、長石釉	赤釉、長石釉、高台燗部露出、高台内透明釉	白色	口紅部?付着	009 E-172	SK 01
226	S06735	关西内海	蓋	丸	8.7	1.5	3.4	赤釉	赤釉	黄白色		009 E-175	SK 01
227	S06735	瀬戸内海	蓋	丸	9.2	1.7	4.0	赤釉、長石釉、赤釉	赤釉	黄灰色		009 E-178	SK 01
228	S06735	关西内海	蓋	楕圓	10.0	1.1		赤釉	赤釉	灰白色		009 E-171	SK 01
229	S06735	关西内海	蓋	楕圓	9.8	1.0		赤釉	赤釉	灰白色		009 E-225	SK 01
230	S06735	关西内海	蓋	楕圓	12.8	1.1		赤釉	赤釉	灰白色		009 E-240	SK 01
231	S06735	瀬戸内海	蓋	楕圓	7.5	1.4		赤釉、長石釉	赤釉、長石釉	黄白色		009 E-202	SK 01
232	S06735	瀬戸内海	笠	丸	4.9	6.8		赤釉、長石釉	赤釉、長石釉、高台燗部露出	黄白色		009 E-182	SK 01
233	S06735	瀬戸内海	笠	丸	6.2	4.8	4.9	灰釉	灰釉、赤釉、高台燗部露出	黄灰色		009 E-171	SK 01

図面・遺構番号	用途・材料	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号	
214	S&B735	無蓋陶器	広縁貝	縦7.2	横8.0	5.3	灰釉	灰釉、底部高動	黄白色		000-E-176	SK 01
215	S&B735	無蓋陶器	四角鉢	7.0	4.0	3.0	滑石釉	滑石釉、片取、底部高動	白色		000-E-146	SK 01
216	S&B735	無蓋陶器	四角鉢	5.2	4.3	4.1	緑釉、黄釉	緑釉、底部高動	黄白色		000-E-193	SK 01
217	S&B735	無蓋陶器	大皿	縦21.0	横14.0		灰釉、H+H	灰釉	黄白色	ひた装	000-E-196	SK 01
218	S&B735	無蓋陶器	大皿	縦22.0	横10.0		灰釉、H+H	灰釉、底部高動	黄白色		000-E-198	SK 01
219	S&B735	無蓋陶器	大皿	縦24.4	横7.5		片石釉、黄釉	片石釉、黄釉、赤土焼き肌	白色		000-E-197	SK 01
240	S&B735	無蓋陶器	大皿	縦28.6	横6.7		灰釉	灰釉、緑釉焼し	黄白色		000-E-207	SK 01
241	S&B735	無蓋陶器	四角鉢	11.0	6.4	6.5	黄釉、黄釉	黄釉、底部高動	黄白色		000-E-181	SK 01
242	S&B735	無蓋陶器	大皿	16.0	9.2		灰釉	灰釉、底部高動	黄白色		000-E-194	SK 01
243	S&B735	無蓋陶器	大皿	21.0	16.2	縦11.5	灰釉、H+H	灰釉、底部高動	黄白色		000-E-199	SK 01
244	S&B735	無蓋陶器	大皿	縦27.0	14.7	縦12.4	灰釉	灰釉、底部高動	黄白色		000-E-201	SK 01
245	S&B735	無蓋陶器	戸車	5.0	1.5		灰釉	灰釉、高動	黄白色		000-E-203	SK 01
246	S&B735	無蓋陶器	戸車	6.0	1.6		灰釉	灰釉、高動	黄白色		000-E-166	SK 01
247	S&B735	無蓋陶器	戸車	7.4	1.6		灰釉、高動、黒書	灰釉、高動、黒書	黄白色		000-E-181	SK 01
248	S&B735	無蓋陶器	十徳	4.2	9.9	横6.0	黄釉	黄釉、赤土焼き肌	黄白色	凹凸成形	000-E-177	SK 01
249	S&B735	無蓋陶器	十徳	4.3	9.4	横9.4	灰釉	灰釉、赤土焼き肌、赤土焼き肌	灰白色		000-E-181	SK 01
250	S&B735	無蓋陶器	小定置物?	2.4	3.0	3.0	灰釉、高動	灰釉、底部高動、赤土焼き肌	灰白色		000-E-189	SK 01
251	S&B735	無蓋陶器	徳利	3.4	4.2		黄釉	黄釉	灰白色		000-E-230	SK 01
252	S&B735	無蓋陶器	徳利	2.0	2.9		黄釉	黄釉	黄白色		000-E-166	SK 01
253	S&B735	無蓋陶器	徳利	2.4	4.4	11.2	黄釉	黄釉	灰白色		000-E-184	SK 01
254	S&B735	無蓋陶器	徳利	縦15.7	2.6		灰釉	赤釉、灰釉、黄釉、底部高動	灰白色		000-E-183	SK 01
255	S&B735	無蓋陶器	徳利	縦14.0	11.2		黄釉、一部灰釉	灰釉、高台埋部高動、H+H、赤土焼き肌、H+H	灰白色		000-E-168	SK 01
256	S&B735	無蓋陶器	徳利	縦11.5	6.2		黄釉	赤釉、灰釉、高台埋部高動	黄白色		000-E-182	SK 01
257	S&B735	無蓋陶器	徳利	縦8.1	6.4		黄釉	黄釉、底部高動	灰白色	底部穿孔	000-E-238	SK 01
258	S&B735	無蓋陶器	徳利	縦6.0			黄釉	黄釉	黄白色	底部穿孔	000-E-236	SK 01
259	S&B735	無蓋陶器	花瓶	縦4.2	5.0		灰釉	高動、黒色染、目取、赤土焼き肌	黄白色		000-E-211	SK 01
260	S&B735	無蓋陶器	徳利	縦11.1	5.0		黄釉	灰釉、高台埋部高動	黄白色	口縁部割減	000-E-185	SK 01
261	S&B735	無蓋陶器	徳利	縦12.3	6.0		黄釉	赤釉、灰釉、底部高動	灰白色		000-E-223	SK 01
262	S&B735	無蓋陶器	かみり	縦4.5	6.0		灰釉	灰釉、赤釉、底部高動	灰白色		000-E-187	SK 01
263	S&B735	無蓋陶器	徳利	縦5.0			黄釉	黄釉	灰白色	底部穿孔	000-E-163	SK 01
264	S&B735	無蓋陶器	花樽? 白磁	縦4.7	横4.7		黄釉	自然釉、黄釉	赤褐色	赤泥?	000-E-255	SK 01
265	S&B735	無蓋陶器	小定置物?	縦7.2	5.0		灰釉	灰釉、底部高動、黒書	黄白色		000-E-217	SK 01
266	S&B735	無蓋陶器	四角鉢	縦4.9	横5.2		灰釉	灰釉	黄白色		000-E-254	SK 01
267	S&B735	無蓋陶器	四角鉢	5.0	横4.4		灰釉	灰釉	灰白色	口縁部欠損	000-E-195	SK 01
268	S&B735	無蓋陶器	四角鉢	縦11.4	横4.1		灰釉	赤釉、底部高動	灰白色		000-E-232	SK 01
269	S&B735	無蓋陶器	大皿	14.5	5.0		灰釉、緑釉焼し	灰釉、緑釉焼し、底部高動	黄白色		000-E-210	SK 01
270	S&B735	無蓋陶器	水筒	縦2.5			黄釉	灰釉、型押し	灰白色		000-E-276	SK 01
271	S&B735	無蓋陶器	不明				黄釉	黄釉	黄白色	底部穿孔	000-E-257	SK 01
272	S&B735	無蓋陶器	徳鉢				黄釉	黄釉	黄白色	底部穿孔	000-E-208	SK 01
273	S&B735	無蓋陶器	四角鉢	縦14.5	横7.2		灰釉	黄釉	淡褐色~灰褐色		000-E-209	SK 01
274	S&B735	無蓋陶器	四角鉢	縦14.9	横7.1		灰釉	黄釉	黄白色	口縁部赤土焼き肌	000-E-208	SK 01
275	S&B735	無蓋陶器	四角鉢	縦25.4	横17.0		灰釉	黄釉	黄白色		000-E-198	SK 01
276	S&B735	無蓋陶器	四角鉢	縦28.1	横14.7		灰釉	黄釉	黄白色	口縁部割減	000-E-218	SK 01
277	S&B735	常滑陶器	大皿	縦14.0	横5.2		黄釉?、黄釉?	黄釉?、黄釉?	褐色	赤物	000-E-249	SK 01
278	S&B735	常滑陶器	大皿	12.5	8.0	10.5	黄釉、黄釉、黒書	赤釉、底部高動	黄白色		000-E-200	SK 01
279	S&B735	常滑陶器	大皿	縦20.0	横2.5		緑釉、黄釉	緑釉	黄白色		000-E-235	SK 01
280	S&B735	常滑陶器	大皿	縦27.0	横4.0		黄釉?、黄釉?	黄釉?、黄釉?	黄白色~淡褐色	赤物	000-E-248	SK 01
281	S&B735	常滑陶器	大皿	縦14.9	横5.0		黄釉、黄釉	黄釉	灰白色		000-E-213	SK 01
282	S&B735	常滑陶器	大皿	縦13.5	横5.0		黄釉、黄釉	黄釉	灰白色	口縁部割減	000-E-211	SK 01
283	S&B735	常滑陶器	大皿	縦19.0	横7.0		灰釉	上野焼、うの土焼	黄白色		000-E-216	SK 01
284	S&B735	常滑陶器	大皿	縦26.4	横10.5		黄釉、黄釉	黄釉、底部高動	黄白色	口縁部割減	000-E-214	SK 01
285	S&B735	常滑陶器	徳鉢	縦22.4	15.1	12.4	黄釉、黄釉、緑釉	黄釉、高台埋部高動、黄釉、赤土焼き肌、底部割減	黄白色		000-E-236	SK 01
286	S&B735	常滑陶器	徳鉢	縦33.0	14.7	縦11.4	黄釉、緑釉	黄釉、底部高動	黄白色		000-E-209	SK 01
287	S&B735	常滑陶器	徳鉢	縦34.7	15.2	縦15.9	黄釉、緑釉、赤釉	黄釉、高台埋部高動、黄釉、赤土焼き肌、底部割減	黄白色		000-E-205	SK 01
288	S&B735	常滑陶器	徳鉢	縦31.7	14.0	縦14.1	黄釉、緑釉	黄釉	黄白色		000-E-206	SK 01
289	S&B735	常滑陶器	徳	縦42.0	横7.0		黄釉	黄釉	淡褐色		000-E-219	SK 01
290	S&B735	常滑陶器	徳	縦24.6	横13.1		黄釉	黄釉	灰白色		000-E-220	SK 01
291	S&B735	常滑陶器	徳	縦30.2	横10.0		黄釉?、黄釉?	黄釉?、黄釉?	淡褐色~淡褐色	赤物	000-E-242	SK 01
292	S&B735	常滑陶器	大皿	縦21.0	横4.2	14.9	黄釉、黒書	赤釉、底部高動	黄白色		000-E-202	SK 01
293	S&B735	常滑陶器	徳	縦64.0	横11.0		黄釉?、黄釉?	黄釉?	淡褐色	口縁部割減、赤物	000-E-241	SK 01
294	S&B735	常滑陶器	徳	縦48.0	横4.7		黄釉?	黄釉?	褐色	赤物	000-E-244	SK 01
295	S&B735	常滑陶器	片打割	縦15.5	横51.0		黄釉?、黄釉?	赤土焼	灰白色	赤物	000-E-255	SK 01
296	S&B735	常滑陶器	四角鉢	縦21.0	横12.5		黄釉?、黄釉?、灰土付着	高台埋部割減、表面割減	淡褐色	赤物	000-E-252	SK 01
297	S&B735	常滑陶器	土管	18.0	8.1		黄釉?	黄釉?	褐色	赤物	000-E-250	SK 01
298	S&B735	常滑陶器	大皿	縦28.0	8.0	縦14.0	黄釉?、黄釉?、灰土付着	黄釉?、黄釉?、砂敷	淡褐色	赤物	000-E-243	SK 01
299	S&B735	常滑陶器	大皿	27.0	8.0	21.0	黄釉?、黄釉?、灰土付着	黄釉?、砂敷	淡褐色	赤物	000-E-246	SK 01
300	S&B735	常滑陶器	浅鉢	縦31.6	6.5	縦17.5	黄釉?	黄釉?、砂敷	黄褐色	赤物	000-E-247	SK 01
301	S&B735	常滑陶器	平鉢	縦38.0	横3.8		黄釉?	黄釉?	淡褐色	赤物	000-E-251	SK 01
302	S&B735	常滑陶器	内注ぎ製品				H+H、黄釉		灰白~淡褐色	赤物	000-E-254	SK 01



付表2 遺物一覧表

品目	遺物番号	所在地・材質	器種	口径	高さ	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	国庫種番号
302	S08735	定常陶器	角付炊飯器					灰Y	灰白色	動物	010 E-253	58 01
304	S08735	瓦	軒瓦						灰白色		010 E-274	58 01
305	S08735	瓦	軒瓦						灰白色		010 E-273	58 01
306	S08735	瓦	軒瓦						灰白色		010 E-271	58 01
307	S08735	瓦	軒瓦						白色		010 E-272	58 01
308	S08735	瓦	軒瓦						灰白色		010 E-275	58 01
309	S08735	瓦	平瓦						灰色		010 E-276	58 01
310	S08735	瓦器	瓦葺鍋	28.2	14.0	15.1	横PP、内、底部調整不明	横PP、内Y、敷底瓦葺、以付着	灰色		010 E-254	58 01
311	S08735	瓦器	瓦葺鍋	25.4	8.6		横PP、内	横PP、内Y、以付着	灰褐色		010 E-237	58 01
312	S08735	瓦器	瓦葺鍋	25.0	13.3		横PP、内	横PP、内PP、内Y、以付着	灰褐色		010 E-238	58 01
313	S08735	土師器	内耳7脚	24.8	8.8		横PP、内PP、内Y	横PP、内PP、内Y、以付着	明褐色		010 E-256	58 01
314	S08735	土師器	五徳		11.5	横14.2	無胎	無胎	黄白色		010 E-262	58 01
315	S08735	瓦器	釜	12.5	12.1		内、内Y	横PP、内Y、以付着	灰白色		010 E-239	58 01
316	S08735	瓦器	釜	12.0	15.7		横PP、内	横PP、内	灰褐色		010 E-235	58 01
317	S08735	土師器	始地鍋	29.7	8.4		横PP、底部調整不明	横PP、内Y、横PP、以付着	灰褐色		010 E-231	58 01
318	S08735	土師器	始地鍋	28.5	8.9		横PP、内、底部調整不明	横PP、内Y、以付着	黄褐色		010 E-232	58 01
319	S08735	土師器	始地鍋	32.4	8.6		横PP、内、底部調整不明	横PP、内PP、内Y、以付着	灰褐色～灰褐色		010 E-233	58 01
320	S08735	土師器	始地鍋	24.0	7.5		横PP、底部調整不明	横PP、内PP、内Y、以付着	灰褐色		010 E-228	58 01
321	S08735	土師器	始地鍋	26.0	8.0		横PP、底部調整不明	横PP、内PP、内Y、以付着	灰褐色		010 E-221	58 01
322	S08735	土師器	始地鍋	24.0	8.8		内A、底部調整不明	横PP、内PP、内Y、以付着	灰褐色		010 E-222	58 01
323	S08735	土師器	人形		4.0			横PP、彩色(黄)	黄白色	天竺、胎土分析資料14	010 E-283	58 01
324	S08735	土師器	人形		3.1				黄白色	惣比押	010 E-284	58 01
325	S08735	土師器	人形		4.9		指印		黄白色	惣子	010 E-285	58 01
326	S08735	土師器	人形		8.1				黄白～灰褐色	顔	010 E-286	58 01
327	S08735	土師器	人形		7.7		指印	彩色(黄)	黄白色	馬人、胎土分析資料11	010 E-287	58 01
328	S08735	土師器	人形		8.8		指印		黄白～灰白色	顔	010 E-288	58 01
329	S08735	土師器	人形		5.9		指印		黄褐色	犬	010 E-289	58 01
330	S08735	土師器	人形		7.2		指印		黄白色	腹	010 E-290	58 01
331	S08735	土師器	人形		4.0				黄褐色	家、胎土分析資料17	010 E-291	58 01
332	S08735	土師器	人形		6.5		指印		黄白色	家、胎土分析資料18	010 E-292	58 01
333	S08735	土師器	人形		8.0		PP		黄白～淡褐色	全身	010 E-293	58 01
334	S08735	土師器	2ニチュウア		2.4				黄褐色	茶室	010 E-294	58 01
335	S08735	土師器	罎		4.4				黄褐色	惣比押?	010 E-295	58 01
336	S08735	土師器	赤甲		4.9		指印、4×9×9		黒色漆		010 E-296	58 01
337	S08735	土師器	燗盆		7.6		PP		黒色漆		010 E-297	58 01
338	S08735	土師器	燗盆		3.3		指印		黄白～黒色	鼻	010 E-298	58 01
339	S08735	土師器	燗盆?7脚型		4.1		無胎、指印		黄褐色	鼻	010 E-299	58 01
340	S08735	鉄	釘								010 Ⅲ-11	58 01
341	S08735	鉄	管金具								010 Ⅲ-12	58 01
342	S08735	鉄	鎌金具								010 Ⅲ-13	58 01
343	S08735	鉄	燗釜								010 Ⅲ-14	58 01
344	S08735	鉄	小刀								010 Ⅲ-15	58 01
345	S08735	鉄	鍔皮								010 Ⅲ-16	58 01
346	S08735	石	礎石					陶師公儀		寛永通寶	010 Ⅲ-1	58 01
347	S08735	石	礎石					陶師公儀		粘板石	010 Ⅲ-2	58 01
348	S08735	石	礎石					陶師公儀		定寶通寶	010 Ⅲ-3	58 01
349	S08735	石	礎石					陶師公儀		定寶通寶	010 Ⅲ-4	58 01
350	S08735	石	礎石					陶師公儀		定寶通寶	010 Ⅲ-5	58 01
351	S08735	石	礎石					陶師公儀		定寶通寶	010 Ⅲ-6	58 01
352	S08735	石	礎					陶師公儀		定寶通寶	010 Ⅲ-7	58 01
353	S08735	石	礎					陶師公儀		定寶通寶	010 Ⅲ-8	58 01
354	S08735	石	礎					陶師		粘板石	010 Ⅲ-9	58 01
355	S08735	石	五輪塔							大輪、花崗岩	010 Ⅲ-10	58 01
356	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	11.0	5.6	5.7	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	黄白色		010 E-104	58 05
357	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	11.0	6.1	5.4	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	黄白色		010 E-102	58 05
358	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	10.4	6.1	5.4	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	黄白色		010 E-101	58 05
359	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗		5.8	5.4	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	黄褐色		010 E-119	58 05
360	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	10.9	6.0	5.9	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	黄白～白色		010 E-111	58 05
361	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	10.1	5.4	5.0	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	淡褐色		010 E-121	58 05
362	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	11.0	6.0	5.3	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	灰褐色		010 E-113	58 05
363	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	9.5	5.4	4.5	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	黄白色		010 E-122	58 05
364	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	10.0	5.9	5.4	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	黄白色		010 E-106	58 05
365	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	12.7	6.7	6.0	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫大	黄白色		010 E-100	58 05
366	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	11.0	5.9	5.4	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	黄白色		010 E-103	58 05
367	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	8.0	5.0	4.4	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	灰白色		010 E-115	58 05
368	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	10.0	5.9	4.8	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	灰白色		010 E-112	58 05
369	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	8.3	5.0	4.4	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	灰褐色		010 E-114	58 05
370	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	11.4	6.0	5.6	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	灰褐色		010 E-116	58 05
371	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	10.0	6.0	4.4	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫	黄白色		010 E-120	58 05
372	S08801	瓦葺陶器	広家茶碗	10.0	6.1	5.2	灰焼、呉俵焼	灰焼、呉俵焼、高台地輪彫大	黄白色		010 E-107	58 05

国	遺跡番号	用途・材質	器種	口径	高さ	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	国登録番号
	372	瀬戸磁器	広東茶碗	10.9	6.4	5.3	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-127	SK 45
	374	瀬戸磁器	広東茶碗	9.5	5.5	4.8	灰釉、呉俣絵、白色付着物	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	灰白色		618-E-104	SK 45
	375	瀬戸磁器	広東茶碗	11.5	6.1	5.3	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡、R <sup>2</sup> 、 埋文字	白色	R <sup>2</sup> 窯	618-E-126	SK 45
	376	瀬戸磁器	広東茶碗	12.2	6.0	4.9	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	黄白色		618-E-110	SK 45
	377	瀬戸磁器	広東茶碗	10.0	6.0	5.4	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	黄白色		618-E-118	SK 45
	378	瀬戸磁器	広東茶碗	埋10.5	6.5	6.0	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-124	SK 45
	379	瀬戸磁器	広東茶碗	11.4	6.4	5.8	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	灰白色		618-E-117	SK 45
	380	瀬戸磁器	広東茶碗	埋11.0	6.5	6.7	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-139	SK 45
	381	瀬戸磁器	広東茶碗	埋11.5	6.5	5.8	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-120	SK 45
	382	瀬戸磁器	広東茶碗	12.2	7.3	6.1	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡、R <sup>2</sup> 、 埋文字	白色	R <sup>2</sup> 窯	618-E-151	SK 45
	383	瀬戸磁器	広東茶碗	11.3	6.3	5.6	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-128	SK 45
	384	瀬戸磁器	広東茶碗	12.0	6.5	4.8	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	黄白色		618-E-106	SK 45
	385	瀬戸磁器	広東茶碗	埋 9.4	5.1	4.8	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-140	SK 45
	386	瀬戸磁器	広東茶碗	9.4	4.9	4.0	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-129	SK 45
	387	瀬戸磁器	広東茶碗	埋11.4	6.1	5.8	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	灰白色		618-E-123	SK 45
	388	瀬戸磁器	広東茶碗	10.0	6.1	5.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-170	SK 45
	389	瀬戸磁器	広東茶碗	9.5	4.9	4.7	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-125	SK 45
	390	瀬戸磁器	丸瓶	8.0	5.0	3.7	灰釉	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡、高台地獄窯跡、以行書	灰白色		618-E-143	SK 45
	391	瀬戸磁器	丸瓶	9.2	4.0	3.7	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-149	SK 45
	392	瀬戸磁器	丸瓶	8.4	5.5	3.9	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-178	SK 45
	393	瀬戸磁器	丸瓶	9.8	5.3	4.3	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡、R <sup>2</sup> 、 埋文字	白色	R <sup>2</sup> 窯	618-E-175	SK 45
	394	瀬戸磁器	丸瓶	7.0	5.6	3.0	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-182	SK 45
	395	瀬戸磁器	丸瓶	埋 4.4	5.6	3.4	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	黄白色		618-E-169	SK 45
	396	瀬戸磁器	丸瓶	8.1	5.2	3.5	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	灰黄色		618-E-192	SK 45
	397	瀬戸磁器	丸瓶	7.2	5.5	3.3	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡、以行書	灰白色		618-E-177	SK 45
	398	瀬戸磁器	丸瓶	7.6	4.9	4.0	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-156	SK 45
	399	瀬戸磁器	藤罎茶碗	9.0	4.8	3.8	灰釉	灰釉、赤釉、高台地獄窯跡、高台地獄窯跡	黄灰白色		618-E-180	SK 45
	400	瀬戸磁器	藤罎茶碗	埋 8.0	5.4	4.0	灰釉	灰釉、赤釉、高台地獄窯跡	灰白色		618-E-184	SK 45
	401	瀬戸磁器	藤罎茶碗	埋 8.0	7.3	7.0	赤釉	赤釉、灰釉	灰白色		618-E-188	SK 45
	402	瀬戸磁器	藤罎茶碗	埋 8.0	7.4	4.7	赤釉	赤釉、灰釉	灰黄色		618-E-185	SK 45
	403	瀬戸磁器	丸瓶	埋10.6	6.6	4.8	灰釉	灰釉、高台地獄窯跡、R <sup>2</sup> 、R <sup>3</sup>	黄白色		618-E-181	SK 45
	404	瀬戸磁器	壺形碗	埋 8.2	4.5	3.4	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡、褐色付着物	黄白色		618-E-179	SK 45
	405	瀬戸磁器	壺形碗	埋 9.6	5.3	3.8	紅釉、灰釉	紅釉、灰釉、高台地獄窯跡	黄灰色		618-E-187	SK 45
	406	瀬戸磁器	壺形碗	8.0	5.0	3.8	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-155	SK 45
	407	瀬戸磁器	壺形碗	8.9	4.9	3.8	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡、R <sup>2</sup> 、 埋文字	白色	R <sup>2</sup> 窯	618-E-156	SK 45
	408	瀬戸磁器	壺形碗	9.1	5.0	3.8	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡、R <sup>2</sup> 、 埋文字	白色	R <sup>2</sup> 窯	618-E-157	SK 45
	409	瀬戸磁器	壺形碗	9.6	5.1	3.6	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	黄白色		618-E-137	SK 45
	410	瀬戸磁器	壺形碗	9.6	4.9	4.1	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-194	SK 45
	411	瀬戸磁器	壺形碗	9.4	5.1	4.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-167	SK 45
	412	瀬戸磁器	壺形碗	9.6	4.9	4.2	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-174	SK 45
	413	瀬戸磁器	壺形碗	9.0	5.1	4.4	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-144	SK 45
	414	瀬戸磁器	壺形碗	9.3	5.2	4.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-153	SK 45
	415	瀬戸磁器	壺形碗	9.2	5.3	3.7	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-163	SK 45
	416	瀬戸磁器	壺形碗	9.2	4.8	4.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-152	SK 45
	417	瀬戸磁器	壺形碗	9.2	5.0	3.8	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	灰白色		618-E-186	SK 45
	418	瀬戸磁器	壺形碗	9.0	4.0	4.0	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵	白色		618-E-145	SK 45
	419	瀬戸磁器	壺形碗	8.4	4.4	3.8	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色	埋文字、R <sup>2</sup> 窯	618-E-149	SK 45
	420	瀬戸磁器	壺形碗	埋 4.4	5.0	4.0	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	灰白色		618-E-192	SK 45
	421	瀬戸磁器	壺形碗	12.0	6.0	4.4	透明釉、白化粧	透明釉、赤釉、高台地獄窯跡	黄白色		618-E-161	SK 45
	422	瀬戸磁器	壺形碗	11.4	6.0	4.6	呉俣絵	呉俣絵、赤釉、高台地獄窯跡	灰白色		618-E-186	SK 45
	423	瀬戸磁器	壺形碗	埋11.0	5.0	埋 9.0	透明釉、白化粧	透明釉、白化粧、赤釉、高台地獄窯跡	淡褐色		618-E-176	SK 45
	424	瀬戸磁器	壺形碗	10.4	6.0	4.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-165	SK 45
	425	瀬戸磁器	壺形碗	10.4	5.0	4.0	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-150	SK 45
	426	瀬戸磁器	壺形碗	埋11.0	5.9	埋 4.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-182	SK 45
	427	瀬戸磁器	壺形碗	10.6	5.8	4.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-147	SK 45
	428	瀬戸磁器	壺形碗	10.7	6.0	4.7	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-138	SK 45
	429	瀬戸磁器	壺形碗	10.8	5.6	4.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-188	SK 45
	430	瀬戸磁器	壺形碗	11.0	6.1	4.7	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-159	SK 45
	431	瀬戸磁器	丸瓶	12.4	4.3	4.7	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-154	SK 45
	432	瀬戸磁器	壺形碗	10.8	5.3	4.1	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯跡	白色		618-E-189	SK 45

附表2 遺物一覽表

図版(遺物番号)	産地・村名	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	建遺物番号	
433	S8001	磨り磁器	磁灰碗	11.4	6.5	4.7	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色	M 102、赤色漆	610 E-160	38 45
434	S8001	共焼陶器	猪形湯呑	7.0	5.8	2.3	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	黄白色		610 E-136	38 45
435	S8001	共焼陶器	猪形湯呑	7.0	5.7	2.6	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	灰白色		610 E-134	38 45
436	S8001	共焼陶器	猪形湯呑	7.0	5.8	2.4	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	灰白色		610 E-132	38 45
437	S8001	共焼陶器	猪形湯呑	6.8	6.2	2.4	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	灰白色		610 E-131	38 45
438	S8001	共焼陶器	猪形湯呑	7.0	5.9	2.4	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	灰白色		610 E-135	38 45
439	S8001	共焼陶器	猪形湯呑	6.9	5.5		灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	灰白色		610 E-132	38 45
440	S8001	共焼陶器	猪形湯呑	7.0	6.3	4.7	灰釉、呉俣絵	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	黄白色	口縁部破損	610 E-164	38 45
441	S8001	肥前磁器	猪形湯呑	8.0	5.9	5.0	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-294	38 45
442	S8001	磨り磁器	猪形湯呑	7.2	6.5	4.9	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-173	38 45
443	S8001	肥前磁器	猪形湯呑	7.4	5.9	4.2	透明釉、呉俣絵	青磁釉、高台地獄窯胎	灰白色		610 E-166	38 45
444	S8001	肥前磁器	猪形湯呑	6.9	5.4	3.0	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-295	38 45
445	S8001	関西系?磁器	猪形湯呑	7.1	5.9	2.9	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-146	38 45
446	S8001	関西系?磁器	猪形湯呑	7.4	6.0	3.3	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-141	38 45
447	S8001	共焼陶器	猪形湯呑	7.0	5.5	4.0	灰釉	灰釉、赤絵、呉俣絵、肥前窯胎	灰色		610 E-172	38 45
448	S8001	磨り美濃焼	猪形湯呑	7.4	5.4	2.4	灰釉	灰釉、赤絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-171	38 45
449	S8001	水	水船形磁碗	既	5.0	5.4	赤色漆	赤色漆			610 * 1	38 45
450	S8001	水	水船形磁碗	既	4.4	5.0	赤色漆	赤色漆、高台内面赤漆			610 * 2	38 45
451	S8001	水	水船形磁碗	既	3.7		黒色漆	黒色漆、文様赤色漆			610 * 3	38 45
452	S8001	水	水船形磁碗	既	2.7		黒色漆	黒色漆			610 * 4	38 45
453	S8001	水	水船形磁碗	既	3.0	4.0	黒色漆	茶色漆			610 * 5	38 45
454	S8001	水	水船形磁碗	既	3.2	5.3	赤色漆	黒色漆			610 * 6	38 45
455	S8001	水	水船形磁碗	既	3.3	7.4	黒色漆	茶色漆			610 * 7	38 45
456	S8001	水	水船形磁碗	既	3.2	6.5	黒色漆	黒色漆			610 * 8	38 45
457	S8001	磨り陶器	夢窓茶碗	10.7	7.8	5.0	赤色漆	赤釉、肥前窯胎、蓋蓋	灰白色		610 E-182	38 45
458	S8001	磨り陶器	蓋茶碗	11.0	7.1	5.5	長石釉	長石釉、赤絵、肥前窯胎	白色		610 E-180	38 45
459	S8001	磨り陶器	丸瓶	11.3	6.5	4.3	赤釉、うのしな	赤釉、うのしな、肥前窯胎	黄灰色	「夢窓」印	610 E-183	38 45
460	S8001	磨り陶器	小瓶	7.4	5.7	3.4	灰釉	灰釉、赤絵、肥前窯胎	黄白色		610 E-148	38 45
461	S8001	磨り陶器	小瓶	7.1	4.1	3.4	灰釉	灰釉、赤絵、肥前窯胎	黄白色		610 E-191	38 45
462	S8001	光焼陶器	小瓶	6.1	4.0	3.1	灰釉	灰釉、赤絵、肥前窯胎	黄白色		610 E-222	38 45
463	S8001	磨り陶器	小瓶	6.2	2.8	2.9	灰釉	灰釉、赤絵、肥前窯胎	黄灰色		610 E-221	38 45
464	S8001	関西系磁器	小瓶	7.1	5.1	3.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	灰白色		610 E-157	38 45
465	S8001	関西系磁器	小瓶	7.0	4.7	3.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎、F?	白色	F? 逆	610 E-159	38 45
466	S8001	磨り陶器	小瓶	7.1	3.2	2.8	灰釉	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	灰黄色		610 E-225	38 45
467	S8001	磨り陶器	小瓶	7.1	3.8	2.9	灰釉	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	灰黄色		610 E-224	38 45
468	S8001	磨り陶器	小瓶	7.0	3.6	2.9	灰釉、結核	灰釉、呉俣絵、結核、高台地獄窯胎	黄色		610 E-223	38 45
469	S8001	関西系磁器	小瓶	6.0	3.1	2.4	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-195	38 45
470	S8001	肥前磁器	小瓶	6.5	3.4	2.2	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-218	38 45
471	S8001	肥前磁器	小瓶	6.7	3.4	2.4	透明釉	透明釉、上絵付(赤、緑、黄)、高台地獄窯胎	白色		610 E-217	38 45
472	S8001	肥前磁器	小瓶	7.4	3.7	2.4	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎、物取文	白色		610 E-220	38 45
473	S8001	磨り?磁器	小瓶	6.5	3.1	2.4	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-216	38 45
474	S8001	光焼陶器	小瓶	5.0	2.6	2.0	灰釉、肥前窯胎	灰釉、肥前窯胎	灰黄色		610 E-228	38 45
475	S8001	磨り磁器	小瓶	6.7	2.2	2.2	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-214	38 45
476	S8001	肥前磁器	瓶口	8.7	6.3	5.5	透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-210	38 45
477	S8001	磨り陶器	瓶口	6.4	4.4	4.4	灰釉	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎、高台地獄窯胎	黄白～淡褐色		610 E-208	38 45
478	S8001	磨り陶器	瓶口	7.4	5.5	4.4	灰釉	灰釉、呉俣絵、高台一部欠損	黄白色		610 E-209	38 45
479	S8001	磨り磁器	瓶口	6.4	5.4	4.4	灰釉	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	灰黄色		610 E-207	38 45
480	S8001	磨り陶器	小杯	6.0	4.4	3.5	灰釉	灰釉、高台地獄窯胎	灰黄色		610 E-202	38 45
481	S8001	磨り?磁器	瓶口	4.5	2.7	2.4	透明釉	透明釉、高台地獄窯胎	白色		610 E-210	38 45
482	S8001	肥前磁器	瓶口	6.5	5.2	4.5	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-206	38 45
483	S8001	磨り陶器	瓶口	6.7	5.0	4.4	灰釉	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎、一部欠損	黄白色		610 E-203	38 45
484	S8001	磨り陶器	瓶口	6.7	5.4	5.0	灰釉	灰釉、呉俣絵、高台地獄窯胎、一部欠損	黄白色		610 E-205	38 45
485	S8001	磨り陶器	小杯	6.7	4.0	3.2	灰釉	灰釉、高台地獄窯胎、一部欠損	灰白色		610 E-204	38 45
486	S8001	不可確認	小瓶	既	1.4	2.6	透明釉	透明釉、上絵付(赤、青、黄、緑、茶)	白色		610 E-212	38 45
487	S8001	肥前磁器	小瓶	5.0	3.1		透明釉、呉俣絵	透明釉、呉俣絵	白色		610 E-211	38 45
488	S8001	不可確認	小瓶	5.4	3.0	3.0	透明釉	透明釉、高台地獄窯胎	白色		610 E-226	38 45
489	S8001	肥前磁器	小瓶	4.9	2.3	1.8	透明釉	透明釉、呉俣絵、高台地獄窯胎	白色		610 E-227	38 45
490	S8001	磨り陶器	伝馬具	6.0	5.0	4.7	灰釉	灰釉、呉俣絵、肥前窯胎	黄白色		610 E-236	38 45
491	S8001	不可確認	伝馬具	6.5	5.4	4.0	透明釉	透明釉、呉俣絵、肥前窯胎	白色		610 E-239	38 45
492	S8001	不可確認	伝馬具	6.5	4.7	2.4	透明釉	透明釉、呉俣絵、肥前窯胎	白色		610 E-235	38 45
493	S8001	不可確認	伝馬具	6.7	4.4	5.1	透明釉	透明釉、呉俣絵、肥前窯胎	白色		610 E-234	38 45
494	S8001	肥前磁器	伝馬具	6.3	5.9	3.7	透明釉	透明釉、呉俣絵、肥前窯胎	白色		610 E-240	38 45
495	S8001	光焼陶器	伝馬具	6.5	5.4	4.0	灰釉	灰釉、呉俣絵、肥前窯胎	灰色		610 E-238	38 45

図番	遺構番号	用途・材質	器種	口径	高さ	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	旧遺構番号
496	SK6691	肥前磁器	白磁具	6.0	5.0	4.9	透明陶	透明陶、上絵付(赤)、底面黒染	灰白色		010-E-237	SK 45
497	SK6692	光陶内器	白磁具	幅 6.2	4.3	3.6	灰陶	灰陶、底面黒染	灰黄色		010-E-233	SK 45
498	SK6693	肥前磁器	小型皿	10.1	2.6	2.3	透明陶	透明陶、高台輪郭黒染	白色		010-E-251	SK 45
499	SK6694	肥前磁器	小型皿	4.4	1.1	0.5	透明陶	透明陶、底面黒染	白色		010-E-234	SK 45
500	SK6695	肥前磁器	小型皿	4.6	2.1	1.4	透明陶	透明陶、底面黒染	白色		010-E-252	SK 45
501	SK6696	肥前磁器	小型皿	4.5	1.5	1.4	透明陶	透明陶、底面黒染	白色		010-E-233	SK 45
502	SK6697	木	木製湯器(杯)	11.6	7.7		赤色漆	赤色漆			010-W-9	SK 45
503	SK6698	木	木製湯器(杯)	5.6	3.0	3.0	赤色漆、文様金箔	赤色漆、文字黒色漆			010-W-3	SK 45
504	SK6699	瀬戸磁器	茶碗	4.5	4.0	3.9	灰陶	灰陶、底面黒染、切欠水石焼、黒染	黄灰色		010-E-221	SK 45
505	SK6699	瀬戸磁器	茶碗	6.0	5.3	5.4	灰陶	灰陶、底面黒染、切欠水石焼、黒染	黄灰色		010-E-232	SK 45
506	SK6699	瀬戸磁器	茶碗	6.6	4.5	5.0	灰陶	灰陶、底面黒染	黄灰色	口縁部黒染	010-E-200	SK 45
507	SK6699	陶内土器器	小杯	幅 6.4	幅 2.4		透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染	白色		010-E-213	SK 45
508	SK6699	平明磁器	小杯	幅 6.0	2.9	3.0	透明陶、呉俵染	透明陶	白色		010-E-213	SK 45
509	SK6699	肥前磁器	小杯	幅 8.5	3.6	3.5	透明陶、上絵付(赤、黄、黒)	透明陶、上絵付(赤)、高台輪郭黒染	白色		010-E-200	SK 45
510	SK6699	光陶内器	無灰白磁	7.0	1.5	3.2	灰陶	灰陶、底面黒染、墨土焼上釉	黄白色		010-E-214	SK 45
511	SK6699	瀬戸磁器	無灰白磁	10.2	1.8	2.6	透明陶	透明陶、底面黒染、以付	白色		010-E-255	SK 45
512	SK6699	瀬戸磁器	無灰白磁	8.0	1.6	2.2	透明陶	透明陶、黒染	白色	手付付、口ノ縁	010-E-257	SK 45
513	SK6699	瀬戸磁器	無灰白磁	8.3	2.0	5.0	灰陶	灰陶、黒染、切欠水石焼	黄白色	口縁部黒染	010-E-250	SK 45
514	SK6699	光陶内器	無灰白磁	8.0	2.0	5.0	灰陶	灰陶、黒染、切欠水石焼	灰白色		010-E-215	SK 45
515	SK6699	光陶内器	無灰白磁	10.0	2.1	4.0	灰陶、墨土焼上釉	灰陶、底面黒染、墨土焼上釉	淡灰色	手付付	010-E-218	SK 45
516	SK6699	光陶内器	無灰白磁	幅12.0	幅 1.4		灰陶	灰陶、黒染	黄灰色		010-E-248	SK 45
517	SK6699	光陶内器	行蓋	6.0	1.7	3.0	灰陶	灰陶、底面黒染、墨土焼上釉	黄白色		010-E-245	SK 45
518	SK6699	光陶内器	行蓋	7.6	1.8	3.0	灰陶	灰陶、底面黒染、墨土焼上釉	灰白色		010-E-205	SK 45
519	SK6699	光陶内器	行蓋	10.0	2.2	4.9	灰陶、墨土焼上釉	灰陶、底面黒染、墨土焼上釉	黄白色		010-E-241	SK 45
520	SK6699	光陶内器	行蓋	9.9	2.0	4.4	灰陶、墨土焼上釉	灰陶、底面黒染、墨土焼上釉	黄白色		010-E-242	SK 45
521	SK6699	光陶内器	行蓋	幅12.0	2.4	4.0	灰陶、墨土焼上釉	灰陶、底面黒染、墨土焼上釉	灰黄色		010-E-247	SK 45
522	SK6699	光陶内器	行蓋	10.1	2.0	4.7	灰陶、墨土焼上釉	灰陶、底面黒染、墨土焼上釉	黄白色	手付付、口縁部欠損	010-E-242	SK 45
523	SK6699	光陶	行蓋	10.4	2.5	4.0	灰陶	灰陶、底面黒染、墨土焼上釉	黄白色		010-E-249	SK 45
524	SK6699	中田磁器	飯盛皿	12.0	4.2	幅 4.4	透明陶	透明陶、高台輪郭黒染	白色	18世紀	010-E-256	SK 45
525	SK6699	陶内土器器	丸皿	7.0	4.9	幅 3.2	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、高台輪郭黒染	白色	口ノ縁	010-E-426	SK 45
526	SK6699	平明磁器	赤丹御座		2.5		上野陶	黒染、赤染、墨汁文、タテノ紋	黄白色	経目	010-E-257	SK 45
527	SK6699	瀬戸瓦葺器	伊草	4.7	1.3		灰陶、黒染	灰陶、黒染	灰白色		010-E-232	SK 45
528	SK6699	瀬戸瓦葺器	伊草	3.0	1.2		灰陶、黒染	灰陶、黒染	白色		010-E-261	SK 45
529	SK6699	瀬戸瓦葺器	伊草	7.4	1.9		灰陶、黒染	灰陶、黒染	黄灰色		010-E-363	SK 45
530	SK6699	瀬戸磁器	碗	幅 3.5			陶胎	陶胎	黄灰色	076成形	010-E-266	SK 45
531	SK6699	瀬戸磁器	十徳		4.4		陶胎	陶胎	黄白色	076成形	010-E-290	SK 45
532	SK6699	瀬戸磁器	十徳		4.2		陶胎	陶胎	淡黄色	076成形	010-E-268	SK 45
533	SK6699	肥前磁器	丸皿	12.9	3.3	7.8	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、高台輪郭黒染	白色	口ノ縁	010-E-284	SK 45
534	SK6699	肥前磁器	丸皿	13.0	2.9	7.1	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、高台輪郭黒染	白色		010-E-289	SK 45
535	SK6699	肥前磁器	丸皿	幅17.0	4.4	幅10.0	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、高台輪郭黒染	白色		010-E-282	SK 45
536	SK6699	肥前磁器	丸皿	幅14.0	5.1	幅 4.0	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、高台輪郭黒染	白色		010-E-275	SK 45
537	SK6699	肥前磁器	丸皿	12.0	3.2	4.5	透明陶、呉俵染、軸突	透明陶、高台輪郭黒染	白色	軸突見	010-E-258	SK 45
538	SK6699	肥前磁器	丸皿	12.2	3.1	4.7	透明陶、呉俵染、軸突	透明陶、高台輪郭黒染	白色	軸突見	010-E-287	SK 45
539	SK6699	肥前磁器	丸皿	幅14.0	3.4	幅 4.0	透明陶、呉俵染、軸突	透明陶、高台輪郭黒染	白色	軸突見	010-E-265	SK 45
540	SK6699	肥前磁器	丸皿	幅13.1	3.0	幅 7.2	透明陶、呉俵染、軸突	透明陶、高台輪郭黒染	白色	軸突見	010-E-266	SK 45
541	SK6699	肥前磁器	丸皿	15.0	4.1	8.0	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、絶つ目高台輪郭黒染、口ノ縁文字	白色	口ノ縁	010-E-281	SK 45
542	SK6699	光陶内器	丸皿	10.6	3.3	7.9	灰陶、呉俵染	灰陶、呉俵染、絶つ目高台輪郭黒染	灰白色		010-E-292	SK 45
543	SK6699	光陶内器	丸皿	12.6	3.4	7.4	灰陶、呉俵染	灰陶、呉俵染、絶つ目高台輪郭黒染	灰白色		010-E-283	SK 45
544	SK6699	瀬戸磁器	丸皿	幅13.2	4.0	3.5	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、絶つ目高台輪郭黒染	灰白色		010-E-273	SK 45
545	SK6699	肥前磁器	丸皿	8.4	1.3	5.5	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、高台輪郭黒染	白色		010-E-297	SK 45
546	SK6699	瀬戸磁器	餅付皿	10.4	2.7	4.8	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、高台輪郭黒染	白色		010-E-270	SK 45
547	SK6699	肥前磁器	丸皿	幅12.0	2.9	幅 4.4	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、高台輪郭黒染	白色	CAC	010-E-272	SK 45
548	SK6699	肥前磁器	丸皿	幅14.4	3.6	幅 4.0	透明陶、呉俵染	透明陶、呉俵染、絶つ目高台輪郭黒染	黄白色		010-E-271	SK 45
549	SK6699	肥前磁器	丸皿	16.0	4.5	8.4	透明陶、呉俵染	青磁染、絶つ目高台輪郭黒染	白色		010-E-285	SK 45
550	SK6699	平明磁器	丸皿	14.9	5.5	8.0	透明陶、白化染	灰陶、白化染、高台輪郭黒染	灰白色		010-E-283	SK 45
551	SK6699	瀬戸瓦葺器	丸皿	11.2	3.2	5.2	透明陶、呉俵染、軸突	灰陶、底面黒染	黄灰色		010-E-291	SK 45
552	SK6699	光陶内器	丸皿	11.4	2.9	4.4	灰陶、呉俵染、軸突	灰陶、高台輪郭黒染	黄白色		010-E-256	SK 45
553	SK6699	瀬戸磁器	丸皿	11.1	3.5	4.4	灰陶、呉俵染	灰陶、呉俵染、高台輪郭黒染	黄白色		010-E-299	SK 45
554	SK6699	瀬戸磁器	丸皿	12.4	5.1	7.0	透明陶、呉俵染	灰陶、呉俵染、高台輪郭黒染	黄白色		010-E-274	SK 45
555	SK6699	瀬戸磁器	大皿	幅22.6	5.4	幅18.0	灰陶、呉俵染、タテノ紋	灰陶、高台輪郭黒染、以付	黄灰色		010-E-276	SK 45
556	SK6699	瀬戸磁器	大皿	19.0	5.6	8.9	灰陶、切欠	陶胎、底面黒染、墨色以付	灰白色		010-E-290	SK 45
557	SK6699	瀬戸磁器	大皿	20.3	5.0	8.0	透明陶、タテノ縁	灰陶、底面黒染、高台輪郭黒染	黄灰色		010-E-284	SK 45
558	SK6699	大皿	21.4	4.1	10.5	灰陶、呉俵染、呉俵染	灰陶、底面黒染	灰黄色		010-E-292	SK 45	
559	SK6699	瀬戸磁器	餅付(行灯)	19.5	2.9	14.2	灰陶、呉俵染、タテノ縁	灰陶、底面黒染、以付	黄白色		010-E-281	SK 45
560	SK6699	大皿	21.0	5.3	10.3	灰石焼、呉俵染、タテノ縁	灰石焼、底面黒染	黄灰色		010-E-278	SK 45	
561	SK6699	瀬戸磁器	大皿	20.7	4.3	11.2	灰石焼、呉俵染、タテノ縁	灰石焼、呉俵染、高台輪郭黒染	黄白色		010-E-279	SK 45
562	SK6699	光陶内器	皿	6.9	1.3		灰陶	灰陶	黄白色		010-E-333	SK 45
563	SK6699	光陶内器	皿	6.0	1.4		灰陶	灰陶	灰白色		010-E-332	SK 45
564	SK6699	光陶内器	皿	11.4	1.5		灰陶	灰陶	黄白色		010-E-331	SK 45

付表2 遺物一覧表

区別	遺構番号	発地・材質	器種	口径	底高	底径	内径	外周	胎土	備考	登録番号	目録番号
165	S80801	光満内器	蓋	6.4	1.5	4.6	蓋胎	灰胎、2次付着	淡灰褐色		610 E-330	58 45
166	S80801	光満内器	蓋	6.4	1.9	5.1	蓋胎、磨製糸切痕	長石胎	灰色		610 E-329	58 45
167	S80801	光満内器	蓋	7.0	2.6	5.1	蓋胎	赤胎	黄褐色	口縁部2次付着	610 E-319	58 45
168	S80801	光満内器	蓋	5.0	1.8	3.6	蓋胎	赤胎	灰青色		610 E-330	45
169	S80801	光満内器	蓋	7.6	1.8	6.0	蓋胎	灰胎、磨胎、2次付着	灰青色		610 E-330	45
170	S80801	瀬戸7陶器	蓋	6.2	2.4	4.8	蓋胎、20°、切歯糸切痕	赤胎	黄褐色	口縁部磨滅	610 E-310	58 45
171	S80801	不可内器	蓋	6.2	2.6	1.3	無胎	自然胎	黄褐色	常盤寺・方古	610 E-482	58 45
172	S80801	不可内器	蓋	6.0	0.9	2.0	蓋胎、磨製糸切痕	自然胎	淡褐色		610 E-483	45
173	S80801	備前内器	蓋	2.0	0.8		無胎	自然胎	黄褐色		610 E-465	58 45
174	S80801	光満内器	蓋	3.1	0.3	2.1	蓋胎	灰胎、磨胎	灰白色		610 E-323	45
175	S80801	不可内器	蓋	4.5	2.2		無胎、切歯糸切痕	無胎、切歯糸切痕	黄褐色		610 E-464	45
176	S80801	光満内器	蓋	3.5	1.2	2.9	蓋胎、切歯糸切痕	長石胎(一部鉄質)	灰白色		610 E-334	45
177	S80801	光満内器	蓋	6.0	1.6	3.6	蓋胎、磨製糸切痕	長石胎	灰青色		610 E-325	45
178	S80801	瀬戸磁器	蓋	6.0	2.5		透明胎	透明胎、呉漆胎	白色	口縁部磨胎	610 E-340	58 45
179	S80801	光満内器	蓋	5.0	0.9	2.2	蓋胎	透明胎、呉漆胎、磨胎	淡褐色		610 E-327	45
180	S80801	光満内器	蓋	9.0	1.8		無胎	灰胎、呉漆胎、何点文付	灰青色		610 E-481	58 45
181	S80801	瀬戸7陶器	蓋	6.4	2.4		赤胎、磨胎	赤胎、磨胎、磨胎	黄褐色		610 E-212	58 45
182	S80801	光満内器	蓋	7.2	0.2	1.2	灰胎	灰胎	黄白色	口縁部磨胎	610 E-328	58 45
183	S80801	光満内器	蓋	7.8	0.9	2.4	蓋胎	灰胎、磨胎	灰白色		610 E-328	45
184	S80801	光満内器	蓋	11.0	0.9	2.2	薄い灰胎	灰胎、磨胎	灰青色		610 E-324	45
185	S80801	光満内器	蓋	2.4	1.3		蓋胎	灰胎、磨胎	黄褐色		610 E-317	58 45
186	S80801	光満内器	蓋	6.0	3.1		蓋胎	赤胎、磨胎、2次付着	白色		610 E-311	58 45
187	S80801	光満内器	蓋	7.9	3.1		蓋胎	灰胎、磨胎	黄白色		610 E-329	45
188	S80801	光満内器	蓋	2.7	3.8		蓋胎	灰胎、磨胎	淡褐色		610 E-335	58 45
189	S80801	光満内器	蓋	14.6	0.9	2.5	蓋胎	赤胎、磨胎	黄白色		610 E-330	45
190	S80801	瀬戸7陶器	蓋	5.8	4.8		蓋胎	緑胎、磨胎	黄白色		610 E-321	58 45
191	S80801	瀬戸7陶器	蓋	6.6	0.9	2.0	薄い灰胎	灰胎、呉漆胎、磨胎、磨胎	黄白色		610 E-322	58 45
192	S80801	光満内器	蓋	6.0	2.5		蓋胎	赤胎、灰胎、2次付着	白色		610 E-312	58 45
193	S80801	瀬戸7陶器	蓋	6.4	2.7		蓋胎	灰胎、赤胎	黄褐色	口縁部欠損	610 E-314	58 45
194	S80801	光満内器	蓋	15.2	0.9	2.7	灰胎、磨胎	灰胎	黄白色		610 E-317	58 45
195	S80801	瀬戸7陶器	蓋	11.5	3.9		灰胎、ビツ嘴	灰胎、高台磁器磨胎	黄白色	口縁部欠損	610 E-285	58 45
196	S80801	瀬戸7陶器	蓋	10.0	2.9		透明胎、呉漆胎	透明胎、呉漆胎、高台磁器磨胎	白色		610 E-209	58 45
197	S80801	瀬戸7陶器	蓋	6.6	3.1		透明胎、呉漆胎	透明胎、呉漆胎、高台磁器磨胎	白色		610 E-304	58 45
198	S80801	肥前磁器	蓋	9.6	2.6		透明胎、呉漆胎	透明胎、呉漆胎、高台磁器磨胎	白色		610 E-201	58 45
199	S80801	瀬戸7陶器	蓋	8.8	2.7		透明胎、呉漆胎	透明胎、呉漆胎、高台磁器磨胎	白色		610 E-310	58 45
200	S80801	肥前磁器	蓋	9.7	2.6		透明胎、呉漆胎	透明胎、呉漆胎、高台磁器磨胎	白色		610 E-303	58 45
201	S80801	肥前磁器	蓋	9.6	2.6		透明胎、呉漆胎	透明胎、呉漆胎、高台磁器磨胎	灰白色		610 E-302	58 45
202	S80801	瀬戸7陶器	蓋	9.2	2.8		透明胎、呉漆胎	透明胎、呉漆胎、高台磁器磨胎	白色		610 E-308	45
203	S80801	光満内器	蓋	9.0	2.7		長石胎、磨胎	長石胎、磨胎、高台磁器磨胎	灰白色		610 E-314	58 45
204	S80801	瀬戸7陶器	蓋	8.4	2.4		透明胎	透明胎、呉漆胎、高台磁器磨胎	白色		610 E-306	45
205	S80801	瀬戸7陶器	蓋	9.6	2.7		灰胎	灰胎、磨胎、呉漆胎、高台磁器磨胎	淡褐色		610 E-315	58 45
206	S80801	瀬戸7陶器	蓋	9.2	2.7		透明胎、呉漆胎	透明胎、呉漆胎、高台磁器磨胎	白色		610 E-305	45
207	S80801	瀬戸7陶器	蓋	7.6	2.5		透明胎、呉漆胎	透明胎、呉漆胎	白色		610 E-307	58 45
208	S80801	瀬戸7陶器	丸鉢	14.0	7.4	6.4	灰胎	灰胎、磨胎	黄褐色		610 E-423	58 45
209	S80801	瀬戸7陶器	丸鉢	17.6	4.7		灰胎、うのし輪状し	灰胎、赤胎	灰白色		610 E-441	58 45
210	S80801	瀬戸7陶器	丸鉢		0.4	5.4	灰胎、上野胎、磨胎	灰胎、うのし輪、磨胎、高台磁器磨胎、磨胎	黄白色		610 E-435	58 45
211	S80801	瀬戸7陶器	丸鉢	18.4	8.0	8.0	透明胎、うのし輪、上野胎、黒化粧	透明胎、うのし輪・上野胎成し、黒化粧、高台磁器磨胎、磨胎	黄白色		610 E-411	58 45
212	S80801	光満内器	丸鉢	11.6	0.9	4.1	灰胎、上野胎・うのし輪状し	上野胎	白色		610 E-440	58 45
213	S80801	瀬戸7陶器	丸鉢	10.9	0.9	6.5	上野胎	上野胎、磨胎	黄白色		610 E-439	45
214	S80801	光満内器	丸鉢	18.2	8.7	8.0	灰胎、ビツ嘴	灰胎、底面磨胎	灰白色		610 E-394	45
215	S80801	光満内器	丸鉢	19.0	8.8	12.0	灰胎、1/4嘴	灰胎、底面磨胎	黄褐色		610 E-413	58 45
216	S80801	瀬戸7陶器	丸鉢	20.0	10.4	11.2	灰胎、磨胎、1/4嘴	灰胎、底面磨胎	白色		610 E-414	45
217	S80801	光満内器	丸鉢	10.7	5.2	5.4	灰胎	灰胎、底面磨胎	黄褐色		610 E-421	58 45
218	S80801	不可内器	丸鉢	17.2	8.2	3.7	透明胎、白化粧、磨胎、呉漆胎	透明胎、高台磁器磨胎	黄褐色		610 E-280	58 45
219	S80801	瀬戸7陶器	丸鉢	16.0	0.9	6.7	透明胎、呉漆胎	透明胎、呉漆胎	白色		610 E-290	58 45
220	S80801	瀬戸7陶器	丹阿弥鉢	13.5	7.5	7.0	長石胎、磨胎	長石胎、磨胎、高台磁器磨胎	灰青色	六角形	610 E-287	58 45
221	S80801	瀬戸7陶器	丸鉢	31.8	17.3	15.0	灰胎、1/4嘴	灰胎、縁輪状し、底面磨胎	黄白色		610 E-461	45
222	S80801	瀬戸7陶器	丸鉢	34.0	17.9	15.7	灰胎、1/4嘴	灰胎、縁輪状し、底面磨胎、高台磁器磨胎	淡黄～灰白色	口縁部磨滅	610 E-474	58 45
223	S80801	瀬戸7陶器	丸鉢	28.0	17.0	13.7	灰胎、縁輪状し、1/4嘴	灰胎、縁輪状し、底面磨胎、高台磁器磨胎	黄白色		610 E-475	58 45
224	S80801	瀬戸7陶器	磁鉢	26.1	14.0	15.0	赤胎、磨胎、磨胎、2/3嘴	赤胎、底面磨胎	黄白色		610 E-463	58 45
225	S80801	瀬戸7陶器	磁鉢	25.0	14.8	15.0	赤胎、磨胎、磨胎	赤胎、底面磨胎・1/3嘴	黄白色		610 E-462	58 45
226	S80801	瀬戸7陶器	磁鉢	27.5	15.3	16.0	赤胎、磨胎、磨胎、2/3嘴	赤胎、底面磨胎・1/3嘴	黄白色		610 E-455	58 45
227	S80801	瀬戸7陶器	磁鉢	32.0	13.7	13.6	赤胎、磨胎、磨胎	赤胎、底面磨胎・1/3嘴	黄白色		610 E-464	58 45
228	S80801	瀬戸7陶器	磁鉢	35.0	14.1	15.8	赤胎、磨胎、1/4嘴	赤胎、底面磨胎・1/3嘴	黄白色		610 E-423	58 45
229	S80801	瀬戸7陶器	磁鉢	32.8	13.0	13.0	赤胎、凸部のみややみ磨胎	赤胎、凸部のみややみ磨胎	黄白色		610 E-431	58 45
230	S80801	瀬戸7陶器	磁鉢	25.0	14.7	15.6	赤胎、磨胎、磨胎、磨胎	赤胎、底面磨胎・1/3嘴	黄白色		610 E-453	58 45

## 清洲城下町遺跡V

図番	遺跡番号	発掘・材質	器種	口径	器高	底径	内容	外周	胎土	備考	登録番号	出土遺跡番号
531	505491	瀬戸陶器	磁鉢	径32.0	12.5	14.0	鉄粒、磁片、磁粉	鉄粒、磁片、磁粉、ウツリ	黄白色		010-E-454	58-45
532	505491	瓦溝内器	小笠鉢	6.0	3.0	3.0	鉄粒	鉄粒、磁器破片	黄灰～灰色		010-E-460	58-45
533	505491	瀬戸陶器	小笠鉢	6.6	3.0	3.0	鉄粒	鉄粒、磁器破片	黄白色		010-E-229	58-45
534	505491	瀬戸陶器	小笠鉢	6.6	4.1	3.2	鉄粒	鉄粒、磁器破片	黄白色		010-E-281	58-45
535	505491	瓦溝内器	小笠鉢	6.2	3.7	4.3	鉄粒	鉄粒、磁器破片、磁器木片破	灰青色		010-E-399	58-45
536	505491	瓦溝内器	陶形鉢	7.0	3.8	4.4	鉄粒	鉄粒、磁器破片	黄白色		010-E-416	58-45
537	505491	瓦溝内器	陶形鉢	8.4	4.5	5.4	鉄粒、磁粉	鉄粒、磁器破片	灰白色		010-E-356	58-45
538	505491	瓦溝内器	陶形鉢	11.0	5.3	7.0	鉄粒、磁粉	鉄粒、磁器破片	黄灰色		010-E-382	58-45
539	505491	瀬戸磁器	小笠鉢	6.6	6.4	4.0	透明釉、呉須粒	透明釉、呉須粒、高台磁器破片	白色		010-E-427	58-45
540	505491	瓦溝内器	磁木鉢	径17.0	9.1		鉄粒	鉄粒	灰白色		010-E-418	58-45
541	505491	瀬戸陶器	磁木鉢	20.0	16.3		鉄粒、磁粉	鉄粉	灰白色		010-E-419	58-45
542	505491	瀬戸陶器	磁木鉢	23.2	16.8	15.3	鉄粒、磁粉	鉄粒、磁器破片	黄白色		010-E-407	58-45
543	505491	瀬戸陶器	磁木鉢	12.8	12.8	8.4	鉄粒、磁粉	鉄粉、磁粉	淡青色	硝子窓浮孔	010-E-412	58-45
544	505491	瀬戸陶器	磁木鉢	18.0	11.3	8.3	鉄粒、磁粉	鉄粉、磁粉	黄褐色	口縁部欠損	010-E-420	58-45
545	505491	瀬戸瓦溝内器	陶形鉢	12.2	10.9	8.7	鉄粒	鉄粒、鉄粉、磁器破片、磁粉	黄白色	口縁部破損、磁粉	010-E-395	58-45
546	505491	瀬戸陶器	陶形鉢	26.0	26.0	16.7	鉄粒、磁粉	鉄粒、磁器破片、高台磁器破片	黄褐色		010-E-476	58-45
547	505491	瀬戸陶器	陶形鉢	25.5	22.7	15.8	鉄粒、磁粉、磁片	鉄粒、磁器破片	黄白色		010-E-471	58-45
548	505491	瀬戸陶器	磁鉢	24.4	25.0	24.0	鉄粒、磁片、磁粉	鉄粉、磁器破片	黄白色		010-E-476	58-45
549	505491	瀬戸陶器	磁鉢	26.0	18.1	17.4	上野焼、鉄粒、磁粉、磁片	上野焼、鉄粒、磁粉、磁片	黄白色	口縁部破損	010-E-487	58-45
550	505491	瀬戸瓦溝内器	磁	径30.0	30.0	22.0	鉄粒	鉄粒、磁器破片、磁粉	乳白色		010-E-524	58-45
551	505491	瀬戸瓦溝内器	磁	18.8	15.5	12.0	鉄粒、磁粉、磁片	鉄粒、磁器破片	灰青白色		010-E-452	58-45
552	505491	瀬戸瓦溝内器	磁	18.8	15.7	13.0	鉄粒、磁粉、磁片	鉄粒、磁器破片	灰白色		010-E-456	58-45
553	505491	瓦溝内器	磁	24.0	21.7	17.4	鉄粒、磁粉、磁片	鉄粒、磁器破片、高台磁器破片	灰白色		010-E-468	58-45
554	505491	瀬戸陶器	磁	21.0	21.2	14.5	鉄粒、磁粉、磁片	鉄粒、磁器破片	黄白色		010-E-472	58-45
555	505491	瓦溝内器	陶形鉢	6.5	5.2	8.0	鉄粒	鉄粒、磁器破片	灰色		010-E-359	58-45
556	505491	瓦溝内器	陶形鉢	7.6	10.3	7.0	鉄粒	鉄粒、磁器破片	灰色		010-E-363	58-45
557	505491	瀬戸陶器	陶形鉢	6.8	11.1	7.8	鉄粒	鉄粒、磁器破片、高台磁器	黄白色		010-E-381	58-45
558	505491	瓦溝内器	陶形鉢	径11.0	8.0		鉄粒、磁粉	鉄粉	黄灰色	口縁部破損	010-E-423	58-45
559	505491	瀬戸陶器	大鉢	18.0	16.0	17.4	鉄粒、磁粉	鉄粒、上野焼、うのふれ出し、磁粉	黄白色	口縁部破損、口付者	010-E-485	58-45
560	505491	瀬戸陶器	大鉢	径22.4	19.1		鉄粒、磁粉、磁片	鉄粒、上野焼	灰白色	口縁部破損、口付者	010-E-426	58-45
561	505491	瓦溝内器	陶形鉢	11.0	15.0	8.6	鉄粒、磁粉	鉄粒、磁器破片	黄白色	口縁部破損	010-E-486	58-45
562	505491	瓦溝内器	陶形鉢	18.2	22.8	11.2	鉄粒、磁粉	鉄粒、磁器破片	黄灰色	口縁部破損	010-E-284	58-45
563	505491	瀬戸陶器	陶形鉢	11.4	15.9	11.4	鉄粒、磁粉	鉄粒、磁器破片、磁粉、磁片、磁	黄白色	口縁部破損	010-E-283	58-45
644	505491	瀬戸瓦溝内器	磁片	径15.0	27.7		鉄粒、磁粉、磁片	鉄粉、磁粉	白色		010-E-563	58-45
645	505491	瀬戸瓦溝内器	磁片	7.0	12.3		鉄粉	鉄粉	灰～淡褐色		010-E-422	58-45
646	505491	磁	磁	6.0	7.0	6.0	鉄粒、透明釉、磁粉、磁粉	鉄粒、透明釉、上野焼磁片、磁器破片	灰白色		010-E-415	58-45
647	505491	不明陶器	磁	径7.0	8.5	6.4	鉄粉	鉄粉	灰白～薄白色		010-E-581	58-45
648	505491	瀬戸陶器	土器	6.0	4.4	6.0	鉄粉、磁片、磁粉	鉄粉、磁粉、磁片	白色		010-E-450	58-45
649	505491	不明陶器	磁	径6.4			鉄粒、磁粉	鉄粉	灰白色		010-E-584	58-45
670	505491	瀬戸陶器	小笠笠形	径3.0	2.0		鉄粒	鉄粒、磁器破片、磁器木片破	黄灰色		010-E-288	58-45
671	505491	瓦溝内器	小笠笠形	径2.3	2.4		鉄粒	鉄粒、磁器破片、磁器木片破	灰白色		010-E-287	58-45
672	505491	瀬戸瓦溝内器	小笠笠形	1.7	0.8		透明釉、磁粉	透明釉、呉須粒	白色		010-E-345	58-45
673	505491	瀬戸陶器	小笠笠形	径6.4	3.2		鉄粉	鉄粒、呉須粒、高台磁器破片	黄白色		010-E-286	58-45
674	505491	瓦溝内器	小笠笠形	径5.2			鉄粉	鉄粒、呉須粒、高台磁器破片	灰色		010-E-289	58-45
675	505491	瀬戸磁器	小笠笠形	径7.0	3.2		鉄粉	透明釉、呉須粒、高台磁器破片	白色		010-E-347	58-45
676	505491	肥前磁器	小笠笠形	径8.0	4.2		鉄粉	透明釉、呉須粒、高台磁器破片	白色		010-E-217	58-45
677	505491	瀬戸陶器	小笠笠形	径7.0	6.7		鉄粉	鉄粒、呉須粒	灰白色		010-E-285	58-45
678	505491	瀬戸磁器	小笠笠形	1.7	11.0	3.0	鉄粉	透明釉、呉須粒、高台磁器破片	白色		010-E-248	58-45
679	505491	瀬戸瓦溝内器	小笠笠形	1.6	11.0	3.0	透明釉、鉄粉	透明釉、呉須粒、高台磁器破片	白色		010-E-371	58-45
680	505491	肥前磁器	小笠笠形	径10.0	3.7		鉄粉	透明釉、呉須粒、高台磁器破片	白色		010-E-278	58-45
681	505491	瀬戸陶器	小笠笠形	1.6	10.3	3.0	鉄粉	鉄粒、呉須粒、高台磁器破片	黄白色		010-E-354	58-45
682	505491	肥前磁器	小笠笠形	径11.0	4.4		鉄粉	透明釉、呉須粒、高台磁器破片	灰白色		010-E-375	58-45
683	505491	瀬戸磁器	小笠笠形	径13.0	4.4		透明釉、呉須粒	透明釉、呉須粒、高台磁器破片	白色		010-E-359	58-45
684	505491	瀬戸磁器	小笠笠形	径11.4	4.7		透明釉、呉須粒	透明釉、呉須粒、高台磁器破片	白色		010-E-249	58-45
685	505491	瓦溝内器	小笠笠形	2.4	0.8		鉄粒	鉄粒、磁器破片	灰褐色		010-E-355	58-45
686	505491	瓦溝内器	油色	1.8	5.5	2.9	鉄粒、磁粉	鉄粉	灰褐色		010-E-380	58-45
687	505491	瀬戸陶器	油色	径5.5	4.3		鉄粒	鉄粒、呉須粒、高台磁器破片	黄白色		010-E-345	58-45
688	505491	瓦溝内器	磁片	径5.6	5.1		鉄粒	鉄粒、磁器破片	灰褐色		010-E-379	58-45
689	505491	磁器陶器?	小笠	径5.1	4.0		鉄粉、自然釉	鉄粉、自然釉	黄褐色		010-E-486	58-45
690	505491	不明陶器	花笠?	径3.4	4.0		鉄粒	鉄粒、磁器破片	黄灰色		010-E-280	58-45
691	505491	不明陶器	花笠	径7.0			鉄粒	鉄粉、黒色??	白色		010-E-583	58-45
692	505491	瓦溝内器	磁片	1.4	0.4		うのふれ出し	うのふれ出し	灰白色		010-E-372	58-45
693	505491	瀬戸陶器	磁片	3.2	9.1		鉄粒、鉄粉	鉄粉	黄灰色		010-E-274	58-45
694	505491	瀬戸陶器	花笠	6.8	0.8		鉄粉、鉄粒	鉄粉	灰白色		010-E-343	58-45
695	505491	瀬戸陶器	花笠	径2.0	9.1	4.6	鉄粒、呉須粒、磁粉、磁片	鉄粒、呉須粒、磁器破片、磁器木片破	黄白色		010-E-344	58-45
696	505491	不明陶器	磁片	11.2	6.8		鉄粒、磁粉	鉄粒、磁器破片	灰白色		010-E-373	58-45
697	505491	不明陶器	磁片	径11.8	6.8		鉄粉、自然釉	鉄粉、自然釉	黄褐色	備考?	010-E-478	58-45
698	505491	肥前磁器	磁片	2.4	径1.1		透明釉、磁粉	透明釉、呉須粒	白色		010-E-341	58-45

付表2 遺物一覧表

品目	遺物番号	発地・材質	器種	口径	高さ	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	目録番号
609	SK0001	瀬戸内陶器	花瓶	径10.1	5.6		灰物	灰物、底面露胎	灰白色		618 F-342	SK 45
700	SK0001	光瀬内陶器	徳利	径 9.1	4.8		緑物、露胎	露胎	灰色		618 F-378	SK 45
701	SK0001	志戸呂ノ陶器	徳利	3.9	15.3	8.4	赤物	灰物、反脱出し、底面露胎	黄灰色		618 F-264	SK 45
702	SK0001	光瀬内陶器	徳利	2.5	18.3	8.5	赤物	露胎、底面露胎	黄灰色		618 F-365	SK 45
703	SK0001	光瀬内陶器	徳利	3.4	18.5	7.2	赤物	露胎、底面露胎、軸付ノズ	灰色		618 F-366	SK 45
704	SK0001	光瀬内陶器	徳利	2.2	21.7	8.4	赤物、反脱	露胎、露胎	灰色		618 F-442	SK 45
705	SK0001	瀬戸内陶器	徳利	3.0	23.7	8.7	赤物、うのふし	うのふし、露胎、底面露胎	黄白色		618 F-364	SK 45
706	SK0001	不明陶器	徳利	2.6	20.3	6.9	赤物、露胎	露胎、底面露胎	淡褐色		618 F-267	SK 45
707	SK0001	瀬戸内陶器	徳利	1.9	18.0	7.0	赤物	露胎、軸付、ノズ	灰白色		618 F-369	SK 45
708	SK0001	瀬戸内陶器	徳利	2.0	15.4	7.8	赤物、黄白色付着物	露胎、底面露胎	白色	口縁部文様	618 F-370	SK 45
709	SK0001	瀬戸内陶器	徳利	径13.4	13.4		赤物、露胎	露胎、露胎、底面露胎	淡黄色		618 F-438	SK 45
710	SK0001	瀬戸内陶器	徳利	径18.9	8.0		灰物	反脱、一部露胎、ノズ	白色		618 F-434	SK 45
711	SK0001	瀬戸内陶器	徳利	3.2	25.6	11.2	灰物	反脱、露胎、底面露胎	黄灰色		618 F-381	SK 45
712	SK0001	光瀬内陶器	徳利	3.4	24.8	10.8	灰物	反脱、露胎	淡黄色		618 F-443	SK 45
713	SK0001	光瀬内陶器	徳利	3.6	24.0	11.2	灰物	反脱、露胎、切欠、軸付、ノズ	黄灰色		618 F-382	SK 45
714	SK0001	瀬戸内陶器	徳利		20.4	11.9	灰物	反脱、露胎、底面露胎	黄白色		618 F-447	SK 45
715	SK0001	瀬戸内陶器	徳利	径18.7	18.2		灰物	反脱、露胎、高台輪状露胎、底面	淡黄色		618 F-445	SK 45
716	SK0001	光瀬内陶器	徳利	径18.7	11.7		灰物	反脱、露胎、底面露胎、切欠、軸付、ノズ	灰色		618 F-444	SK 45
717	SK0001	瀬戸内陶器	徳利	径10.0	11.2		灰物	反脱、露胎、底面露胎	淡黄色		618 F-446	SK 45
718	SK0001	光瀬内陶器	鍋	12.7	4.7	3.9	赤物、胎土	露胎、底面露胎、ノズ	白色		618 F-417	SK 45
719	SK0001	光瀬内陶器	鍋	15.0	6.3	5.2	赤い、露胎、底面露胎	深い、露胎、底面露胎、ノズ	黄灰色		618 F-428	SK 45
720	SK0001	光瀬内陶器	鍋	16.8	6.9	5.9	赤物、底面露胎	露胎、底面露胎、ノズ	淡褐色		618 F-293	SK 45
721	SK0001	光瀬内陶器	鍋	14.8	7.5	6.2	赤物、胎土	露胎、底面露胎、ノズ	黄白色		618 F-291	SK 45
722	SK0001	光瀬内陶器	鍋	16.3	7.9	7.8	赤物、底面露胎	露胎、底面露胎	灰色		618 F-437	SK 45
723	SK0001	瀬戸内陶器	鍋	22.2	10.5	7.8	赤物	露胎、底面露胎、ノズ	黄白色		618 F-292	SK 45
724	SK0001	光瀬内陶器	鍋	24.4	11.5	8.0	赤物、胎土	露胎、底面露胎、ノズ	白色		618 F-406	SK 45
725	SK0001	瓦器	灰瓦鍋	32.2	14.4		指付、横ノ、ノズ	指付、ノズ、ノズ	暗灰黄色		618 F-450	SK 45
726	SK0001	瓦器	灰瓦鍋	径10.0			横ノ、内、ノズ	横ノ、内、ノズ、ノズ	淡黄色		618 F-480	SK 45
727	SK0001	土器	畑作鍋	36.0	径 7.4		指付、横ノ、ノズ	横ノ、ノズ、ノズ	淡黄色		618 F-448	SK 45
728	SK0001	土器	畑作鍋	38.2	7.5		横ノ、底面露胎不明	指付、ノズ、ノズ	淡黄色		618 F-449	SK 45
729	SK0001	不明陶器	五徳		10.1	18.0	無胎	無胎	黄灰色		618 F-260	SK 45
730	SK0001	不明陶器	小砂焼鍋	14.0	4.0	7.2	無胎、ノズ付	無胎、ノズ	無胎、ノズ		618 F-580	SK 45
731	SK0001	不明陶器	小砂焼鍋	12.8	4.1		無胎、黒色化	無胎、ノズ	淡褐色		618 F-582	SK 45
732	SK0001	不明陶器	不明	径10.2	6.0		露胎、黒色付着物	露胎	白色		618 F-579	SK 45
733	SK0001	瀬戸内陶器	茶碗	4.3	3.2	4.2	灰物	反脱、底面露胎	黄灰～灰色	口縁部露胎	618 F-356	SK 45
734	SK0001	瀬戸内陶器	茶碗	4.3	3.6	3.6	灰物	反脱、底面露胎、ノズ	淡黄色	口縁部文様	618 F-257	SK 45
735	SK0001	瀬戸内陶器	汁次	2.0	7.8	4.8	赤物、ノズ	露胎、底面露胎、ノズ	灰色		618 F-425	SK 45
736	SK0001	光瀬内陶器	汁次	2.3	8.4	8.0	赤物	露胎、底面露胎	白色	口縁部露胎	618 F-409	SK 45
737	SK0001	瀬戸内陶器	汁次	2.6	8.6	5.7	赤物	露胎、底面露胎	黄白色	口縁部露胎	618 F-424	SK 45
738	SK0001	不明陶器	急須	5.2	6.7		赤物	露胎	黄灰色		618 F-479	SK 45
739	SK0001	不明陶器	急須	5.6	6.4	6.2	赤物	無胎、ノズ	黄灰色		618 F-480	SK 45
740	SK0001	河内式陶器	土瓶	6.2	3.9	5.7	赤物	灰石、底面露胎	黄灰色	口縁部露胎	618 F-477	SK 45
741	SK0001	瀬戸内陶器	土瓶	7.2	3.7	8.0	灰物、露胎	反脱、底面露胎、ノズ	黄白色	口縁部露胎	618 F-405	SK 45
742	SK0001	瀬戸内陶器	土瓶	7.1	3.9	7.8	赤物、露胎	露胎、底面露胎、ノズ	淡黄色	口縁部露胎	618 F-402	SK 45
743	SK0001	瀬戸内陶器	土瓶	7.6	5.4	8.0	赤物、露胎	露胎、底面露胎、ノズ	黄白色	口縁部露胎	618 F-404	SK 45
744	SK0001	瀬戸内陶器	土瓶	7.5	7.0	11.1	灰物	反脱、うのふし、ノズ、露胎、底面露胎、ノズ	黄白色	口縁部露胎	618 F-601	SK 45
745	SK0001	瀬戸内陶器	土瓶	7.4	10.7	10.0	灰物	露胎、底面露胎、ノズ	黄褐色	口縁部露胎	618 F-487	SK 45
746	SK0001	瀬戸内陶器	壺	8.4	1.9	4.9	赤物、ノズ	反脱、底面露胎、ノズ	白色		618 E-0238	SK 45
747	SK0001	瀬戸内陶器	壺	6.6	18.8	9.2	赤物、露胎	露胎、底面露胎、ノズ	白色	口縁部露胎	618 E-0234	SK 45
748	SK0001	瀬戸内陶器	土瓶	8.0	径11.6		赤物、露胎、露胎	露胎、切欠、露胎、底面露胎、ノズ	白色	口縁部露胎、口内、露胎	618 F-350	SK 45
749	SK0001	瀬戸内陶器	土瓶	10.3	16.6	11.4	赤物	露胎、底面露胎、ノズ	黄白色	口縁部露胎	618 E-207	SK 45
750	SK0001	瀬戸内陶器	土瓶	11.8	14.4	9.2	灰物	反脱、露胎、底面露胎、ノズ	黄白色	口縁部露胎	618 E-206	SK 45
751	SK0001	不明陶器	土瓶	径11.2	12.6	8.0	赤物、反脱	反脱、白化露胎、露胎、ノズ	灰色		618 F-468	SK 45
752	SK0001	常滑内陶器	無胎	16.0	12.0	15.4	横ノ	横ノ、ノズ、横ノ、横ノ	淡褐色	赤物	618 E-521	SK 45
753	SK0001	常滑内陶器	無胎	15.0	11.5	15.5	横ノ、横ノ	横ノ、横ノ、横ノ	淡褐色	赤物	618 E-517	SK 45
754	SK0001	常滑内陶器	無胎	14.4	16.5	12.0	横ノ	横ノ、横ノ、横ノ	暗褐色	真珠、ノズ	618 E-522	SK 45
755	SK0001	常滑内陶器	無胎	12.0	18.2	16.8	横ノ	横ノ、横ノ、横ノ	暗褐色～黒灰色	真珠	618 E-523	SK 45
756	SK0001	常滑内陶器	無胎	21.8	16.2	18.0	横ノ、横ノ	横ノ、横ノ、横ノ	赤褐色	赤物	618 E-524	SK 45
757	SK0001	常滑内陶器	壺	径 2.0		径付、粗く横ノ	横ノ	横ノ	赤物、横ノ		618 E-528	SK 45
758	SK0001	常滑内陶器	壺	径 2.0		径付、横ノ	横ノ	横ノ	赤物、横ノ		618 E-529	SK 45
759	SK0001	常滑内陶器	無胎	12.6	12.6	20.3	横ノ、横ノ	横ノ、ノズ、横ノ、横ノ	黄褐色	赤物	618 E-535	SK 45
760	SK0001	常滑内陶器	壺	34.2	径24.5		横ノ、横ノ	横ノ、ノズ、横ノ	黄褐色	真珠	618 E-540	SK 45
761	SK0001	常滑内陶器	壺	径13.4	31.5	15.3	横ノ、横ノ	横ノ、横ノ、横ノ	黄褐色	真珠	618 E-541	SK 45
762	SK0001	常滑内陶器	千徳子?		18.7	18.0	横ノ、横ノ	横ノ、赤色付着物、横ノ	淡褐色		618 E-518	SK 45
763	SK0001	常滑内陶器	千徳子?		28.8	12.8	横ノ、ノズ	横ノ、赤色付着物、横ノ	淡褐色	赤物	618 E-519	SK 45
764	SK0001	常滑内陶器	不明	径12.4	径 8.4	横ノ、横ノ、横ノ	表面黒色化	表面黒色化	淡褐色	赤物	618 E-518	SK 45

## 清洲城下町遺跡V

ID	遺構番号	名称・材質	面積	高さ	形状	内面	外面	土色	備考	発掘番号	位置情報番号		
765	SK691	常滑陶器	土鉢	7.3		磁坪、磁坪、フ	磁坪、砂敷	黄灰色	赤物	118-E-532	SK 45		
766	SK692	常滑陶器	磁瓶	11.8	14.8	磁坪、磁坪、以行書	磁坪、磁坪、磁坪、砂敷	淡褐色	赤物	118-E-536	SK 45		
767	SK693	常滑陶器	土管	15.8	2.2	磁坪、磁坪	磁坪、磁坪	淡褐色	赤物	118-E-457	SK 45		
768	SK694	常滑陶器	土管	15.0	5.1	14.0	磁坪、磁坪	淡褐色	赤物	118-E-458	SK 45		
769	SK695	常滑陶器	土管	16.4	3.2	8.9	磁坪	黒色付着物	暗黄褐色	赤物	118-E-530	SK 45	
770	SK696	常滑陶器	磁瓶	18.9	27.2	15.5	磁坪、磁坪、以行書	磁坪、磁坪、磁坪、砂敷	淡褐色	赤物	118-E-538	SK 45	
771	SK697	常滑陶器	磁瓶	17.3	28.3	14.5	磁坪、磁坪、以多量	磁坪、磁坪、磁坪、砂敷	淡褐色	赤物	118-E-537	SK 45	
772	SK698	常滑陶器	土管	18.0	4.7	14.0	磁坪、磁坪	淡褐色	赤物	118-E-459	SK 45		
773	SK699	常滑陶器	くゞ？	磁坪	18.0	8.7	磁坪、フ、以行書	磁坪、表面剥離	黄灰色	赤物	118-E-539	SK 45	
774	SK699	常滑陶器	くゞ？	磁坪	18.0	26.2	磁坪、磁坪	磁坪、磁坪、磁坪、以行書	淡褐色	赤物、方彫施	118-E-531	SK 45	
775	SK699	常滑陶器	磁	磁坪	41.2	磁坪	磁坪、磁坪	磁坪、磁坪	赤褐色	赤物	118-E-527	SK 45	
776	SK699	常滑陶器	磁	磁坪	45.2	磁坪	磁坪、磁坪	磁坪	淡褐色	赤物	118-E-525	SK 45	
777	SK699	常滑陶器	井戸	磁坪	35.8	磁坪	磁坪、磁坪	磁坪	淡褐色	赤物	118-E-542	SK 45	
778	SK699	常滑陶器	井戸	磁坪	35.8	磁坪	磁坪、磁坪	磁坪	淡褐色	赤物	118-E-528	SK 45	
779	SK699	常滑陶器	磁	磁坪	55.0	磁坪	磁坪、磁坪	磁坪	暗灰褐色	瓦類	118-E-535	SK 45	
780	SK699	常滑陶器	丸罎	磁坪	2.4	3.7	瓦類	瓦類、底部露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-483	SK 45	
781	SK699	常滑陶器	罎	磁坪	7.6	1.6	4.0	瓦類	底部露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-482	SK 45
782	SK699	常滑陶器	丸罎	磁坪	10.9	2.4	6.0	瓦類、底部露出、漆着	淡白色	瓦	118-E-489	SK 45	
783	SK699	常滑陶器	丸罎	磁坪	11.4	2.4	5.0	瓦類、底部露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-495	SK 45	
784	SK699	常滑陶器	丸罎	磁坪	1.0			底部露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-499	SK 45	
785	SK699	常滑陶器	十徳	磁坪	3.4	5.6	磁物	磁物、漆着	黄白色	瓦	118-E-500	SK 45	
786	SK699	常滑陶器	小型埴子？	磁坪	2.0	2.0	磁物	瓦類、漆着	淡白色	瓦	118-E-498	SK 45	
787	SK699	常滑陶器	埴形埴	磁坪	2.4	4.3	磁物	瓦類、底部露出、漆着	淡白色	瓦	118-E-496	SK 45	
788	SK699	常滑陶器	小型埴	磁坪	6.4	2.8	2.1	磁物	磁物、底部露出、漆着	灰色	瓦	118-E-506	SK 45
789	SK699	常滑陶器	丸罎	磁坪	16.0	7.6	8.4	瓦類、1/4破	瓦類、底部露出、磁坪、砂敷	黄灰色	瓦口	118-E-511	SK 45
790	SK699	常滑陶器	埴形埴	磁坪	9.4	5.5	6.8	磁物	瓦類、底部露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-510	SK 45
791	SK699	常滑陶器	埴形埴	磁坪	6.2	3.0	3.4	瓦類、露出	瓦類、底部露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-491	SK 45
792	SK699	常滑陶器	埴形埴	磁坪	5.5	2.7	3.7	瓦類、露出	瓦類、底部露出、漆着	淡白色	瓦	118-E-494	SK 45
793	SK699	常滑陶器	花瓶	磁坪	3.2	7.4	瓦類、露出	瓦類、瓦類、瓦、高台輪郭露出、停止穴、瓦類、露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-503	SK 45	
794	SK699	常滑陶器	片次	磁坪	7.0	8.5	5.0	磁物	瓦類、底部露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-507	SK 45
795	SK699	常滑陶器	埴形埴	磁坪	2.2	6.7	5.2	瓦類	瓦類、底部露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-504	SK 45
796	SK699	常滑陶器	埴形埴	磁坪	2.4	12.3	5.5	薄い磁物	薄い磁物、漆着	黄灰色	瓦	118-E-505	SK 45
797	SK699	常滑陶器	瓶	磁坪	11.7	8.4	8.4	瓦類	瓦類、底部露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-508	SK 45
798	SK699	常滑陶器	丸罎	磁坪	26.0	15.1	16.2	瓦類、1/4破、漆着	瓦類、磁物、瓦、底部露出	黄白色	瓦	118-E-488	SK 45
799	SK699	常滑陶器	丸罎	磁坪	29.8	17.1	14.5	瓦類、1/4破	瓦類、磁物、瓦、底部露出、漆着	淡白色	瓦	118-E-473	SK 45
800	SK699	常滑陶器	丸罎	磁坪	4.4	10.2	6.4	瓦類、1/4破	瓦類、底部露出、漆着	黄灰色	瓦	118-E-509	SK 45
801	SK699	常滑陶器	罎木鉢？	磁坪	2.8	10.3	4.4	磁物	底部露出、漆着	黄灰色	瓦	118-E-497	SK 45
802	SK699	常滑陶器	丸罎	磁坪	5.5	15.4	8.4	瓦類、露出、1/4破	瓦類、底部露出、漆着	黄灰白色	瓦	118-E-518	SK 45
803	SK699	常滑陶器	罎？	磁坪	3.2	16.8	8.4	瓦類、1/4破	底部露出、漆着	淡白色	瓦	118-E-502	SK 45
804	SK699	常滑陶器	井戸	磁坪	44.0	磁坪	磁坪、磁坪、以行書	磁坪	淡褐色	瓦口、鉢形露出	118-E-514	SK 45	
805	SK699	常滑陶器	井戸	磁坪	10.8	磁坪	磁坪	磁坪、漆着	淡褐色	瓦	118-E-515	SK 45	
806	SK699	常滑陶器	丸罎	磁坪	10.4	15.6	8.4	瓦類、1/4破	瓦類、底部露出、漆着	黄白色	瓦	118-E-512	SK 45
807	SK699	常滑陶器	埴形埴	磁坪	18.0	16.7	16.0	瓦類、上野輪、露出、磁物	瓦類、上野輪、上の土輪露出、底部露出、漆着	黄白色	瓦口、鉢形瓦、磁物	118-E-491	SK 45
808	SK699	常滑陶器	埴形埴	磁坪	27.0	23.0	17.4	瓦類、1/4破	瓦類、底部露出、漆着	黄白色	瓦口、鉢形露出	118-E-489	SK 45
809	SK699	瓦	軒瓦				磁坪	磁坪、はなれ砂有	淡黄白色		118-E-543	SK 45	
810	SK699	瓦	軒瓦				磁坪	磁坪、磁坪	淡褐色		118-E-547	SK 45	
811	SK699	瓦	軒瓦				はなれ瓦、磁坪	磁坪、磁坪	黄褐色		118-E-545	SK 45	
812	SK699	瓦	軒瓦				はなれ瓦、磁坪	磁坪	淡白色		118-E-561	SK 45	
813	SK699	瓦	軒瓦				磁坪	磁坪、磁坪	淡白色		118-E-567	SK 45	
814	SK699	瓦	軒瓦？				磁坪	磁坪	淡白色		118-E-556	SK 45	
815	SK699	瓦	軒瓦				磁坪	磁坪	淡白色		118-E-569	SK 45	
816	SK699	瓦	軒瓦				磁坪	磁坪	淡白色		118-E-568	SK 45	
817	SK699	瓦	軒瓦				磁坪	磁坪	淡褐色		118-E-566	SK 45	
818	SK699	瓦	軒瓦				磁坪	磁坪、以行書	黄灰色	磁坪	118-E-544	SK 45	
819	SK699	瓦	軒瓦				磁坪	磁坪	淡白色		118-E-565	SK 45	
820	SK699	瓦	軒瓦				はなれ砂	磁坪	淡白色		118-E-551	SK 45	
821	SK699	瓦	軒瓦				はなれ瓦、磁坪	磁坪	灰色	磁坪	118-E-572	SK 45	
822	SK699	瓦	軒瓦				はなれ瓦、磁坪	磁坪	淡白色	磁坪	118-E-557	SK 45	
823	SK699	瓦	通瓦				はなれ瓦、磁坪	磁坪	淡白色		118-E-576	SK 45	
824	SK699	瓦	軒瓦				はなれ瓦、磁坪	磁坪	淡白色	磁坪	118-E-558	SK 45	
825	SK699	瓦	通瓦				はなれ瓦、磁坪	磁坪	淡白色	磁坪	118-E-576	SK 45	
826	SK699	瓦	軒瓦				はなれ瓦、磁坪	磁坪	灰色		118-E-559	SK 45	
827	SK699	瓦	通瓦				磁坪	磁坪	淡白色		118-E-562	SK 45	
828	SK699	瓦	瓦				磁坪	磁坪	淡褐色	磁坪、露出	118-E-546	SK 45	
829	SK699	瓦	軒瓦				はなれ瓦、磁坪	磁坪	暗灰褐色	磁坪	118-E-571	SK 45	
830	SK699	瓦	丸瓦				赤目、2' 磁、99	磁坪、磁坪	灰色		118-E-573	SK 45	
831	SK699	瓦	丸瓦				赤目、2' 磁、99	磁坪、表面剥離、以行書	淡白色		118-E-548	SK 45	
832	SK699	瓦	丸瓦				赤目、2' 磁、99	磁坪、表面剥離、以行書	淡白色		118-E-550	SK 45	



付表2 遺物一覧表

品名	遺物番号	用途・材質	器種	口径	器高	底径	内径	外径	胎土	備考	登録番号	収蔵庫番号	
	833	S8001	瓦	不明			幅いw0, 脱げ, 双付着	幅いw0, 脱げ, 双付着	褐色色		618 E-554	38 45	
	834	S8001	瓦	平瓦			脱げ, はなれ跡	脱げ	灰白色		618 E-549	38 45	
	835	S8001	瓦	平瓦			脱げ	脱げ	灰褐色		618 E-578	38 45	
	836	S8001	瓦	平瓦			はなれ跡, 脱げ	脱げ	灰色		618 E-564	38 45	
	837	S8001	瓦	平瓦			焼痕		灰白色		618 E-577	38 45	
	838	S8001	瓦	丸瓦			脱げ	脱げ, はなれ	灰白色	孔	618 E-564	38 45	
	839	S8001	瓦	道具瓦?				脱げ	灰褐色		618 E-574	38 45	
	840	S8001	瓦	道具瓦?			脱げ	脱げ	灰白色	3ヶ所	618 E-553	38 45	
	841	S8001	瓦	道具瓦			幅いw0	脱げ	灰白色		618 E-555	38 45	
	842	S8001	瓦	道具瓦			幅いw0	脱げ	灰白色		618 E-570	38 45	
	843	S8001	瓦	道具瓦			幅いw0	脱げ	灰白色		618 E-552	38 45	
	844	S8001	不可判別	人形	径2.3		無胎, 指付L, PP	自然胎	褐色	人物	618 E-585	38 45	
	845	S8001	不可判別	人形	径 8.8		無胎, 指付L	長石胎, 赤胎, 民部胎	黄白色	人物	618 E-586	38 45	
	846	S8001	土師器	人形	径 2.9				黄灰色	天牌	618 E-587	38 45	
	847	S8001	軟質陶器	人形	径 4.0			胎輪(逆印)	黄白色	蓋付身	618 E-588	38 45	
	848	S8001	軟質陶器	人形	径 5.0			胎輪(逆印, 線, 蓋)	黄白色	身入?	618 E-589	38 45	
	849	S8001	土師器	人形	径 3.0		赤目		褐色	人物	618 E-590	38 45	
	850	S8001	軟質陶器	ミニチュア	2.0	1.1	0.9	胎輪(線)	胎輪(線), 蓋胎	白色	線	618 E-591	38 45
	851	S8001	軟質陶器	ミニチュア	5.2	2.4	2.2	胎輪(逆印, 線)	胎輪(線), 蓋胎	黄白色	線	618 E-230	38 45
	852	S8001	土師器	ミニチュア	径 2.1	1.0	胎付L, PP, 双付着		灰白色	袖でんば	618 E-592	38 45	
	853	S8001	軟質陶器	ミニチュア				胎輪(逆印), 産胎, 浮印「口」	淡褐色	蓋蓋, 胎土分析資料?	618 E-583	38 45	
	854	S8001	軟質陶器	ミニチュア	径 1.5	0.7	無胎, 指付L, 蓋蓋「上」	胎輪(逆印, 線)	黄白色	灯籠, 胎土分析資料	618 E-594	38 45	
	855	S8001	土師器	芥子飯	0.9		赤色(線), PP		黄白色	魚村き籠?	618 E-585	38 45	
	856	S8001	土師器	芥子飯	1.0			PP	黄灰色	蓋蓋	618 E-590	38 45	
	857	S8001	土師器	鉢	3.5			赤色(線)	灰色		618 E-597	38 45	
	858	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 11	38 45	
	859	S8001	水	漆塗り胎						蓋蓋	618 W- 12	38 45	
	860	S8001	水	漆塗り胎						蓋蓋	618 W- 13	38 45	
	861	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 14	38 45	
	862	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 15	38 45	
	863	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 16	38 45	
	864	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 17	38 45	
	865	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 18	38 45	
	866	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 19	38 45	
	867	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 20	38 45	
	868	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 21	38 45	
	869	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 22	38 45	
	870	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 23	38 45	
	871	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 24	38 45	
	872	S8001	水	漆塗り胎							618 W- 25	38 45	
	873	S8001	水	漆塗り胎						釘穴あり	618 W- 26	38 45	
	874	S8001	水	漆塗り胎						釘穴あり	618 W- 27	38 45	
	875	S8001	水	漆塗り胎						釘穴あり	618 W- 28	38 45	
	876	S8001	水	軟草履						釘穴あり	618 W- 29	38 45	
	877	S8001	水	軟草履						釘穴あり	618 W- 30	38 45	
	878	S8001	水	軟草履						釘穴あり	618 W- 31	38 45	
	879	S8001	水	軟草履						釘穴あり	618 W- 32	38 45	
	880	S8001	水	軟草履						釘穴あり	618 W- 33	38 45	
	881	S8001	水	動物輪郭内	13.0	10.4	12.0			蓋蓋	618 W- 34	38 45	
	882	S8001	水	動物輪郭内	15.0	12.2	14.6				618 W- 35	38 45	
	883	S8001	水	胎輪(逆印)	13.0	11.5	11.3			蓋蓋, タガの底痕	618 W- 36	38 45	
	884	S8001	水	動物輪郭底	12.4	10.4	12.4				618 W- 37	38 45	
	885	S8001	水	胎			細い溝				618 W- 38	38 45	
	886	S8001	水	胎輪(逆印)						タガの底痕	618 W- 39	38 45	
	887	S8001	水	胎輪(逆印)	16.0	12.0	14.2			タガの底痕	618 W- 40	38 45	
	888	S8001	水	水虫歯跡(線?)							618 W- 41	38 45	
	889	S8001	水	動物輪郭							618 W- 42	38 45	
	890	S8001	水	動物輪郭							618 W- 43	38 45	
	891	S8001	水	へら							618 W- 44	38 45	
	892	S8001	水	舟子							618 W- 45	38 45	
	893	S8001	水	銚							618 W- 46	38 45	
	894	S8001	水	銚							618 W- 47	38 45	
	895	S8001	水	銚							618 W- 48	38 45	
	896	S8001	水	銚							618 W- 49	38 45	
	897	S8001	水	樽							618 W- 52	38 45	
	898	S8001	水	樽							618 W- 50	38 45	
	899	S8001	骨角器	樽							618 30- 1	38 45	
	900	S8001	水	樽							618 W- 51	38 45	
	901	S8001	水	樽(漆塗り)							618 W- 52	38 45	
	902	S8001	水	乳							618 W- 53	38 45	

図番	遺構番号	所在地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	登録番号	図説遺構番号
902	SK661	水	建物跡								610 W-54	SK 45
904	SK661	水	建物跡								610 W-55	SK 45
905	SK661	水	建物跡								610 W-56	SK 45
906	SK661	鉄	釘								610 W-6	SK 45
907	SK661	鉄	不明物								610 W-7	SK 45
908	SK661	石	礎石							溝尻	610 S-4	SK 45
909	SK661	石	礎石							溝尻	610 S-5	SK 45
910	SK661	石	礎石?							砂質硬質土	610 S-6	SK 45
911	SK661	石	石臼							花崗岩	610 S-7	SK 45
912	SK661	石	石臼							花崗岩	610 S-8	SK 45
913	SK661	石	火打石							チャート	610 S-9	SK 45
914	SK661	石	火打石							チャート	610 S-10	SK 45
915	SK661	石	火打石							チャート	610 S-11	SK 45
916	SK661	石	火打石							チャート	610 S-12	SK 45
917	SK661	石	叩石							濃緑硬質土	610 S-13	SK 45
919	SK661	石	叩石							濃緑硬質土	610 S-14	SK 45
919	SK661	石	磨石							濃緑硬質土	610 S-15	SK 45
920	SK661	石	磨石							濃緑硬質土	610 S-16	SK 45
921	SK678	土師器	人形	径 5.0			白珐			灰色 童子、胎土分析資料11	00E E-151	SK 04
922	SK678	土師器	人形	径 5.1			白珐			淡褐色 赤黄	00E E-152	SK 07
923	SK678	土師器	人形	径 1.8						黄白色 赤子	00E E-153	SK 07
924	SK678	土師器	ミニチュア	2.2	1.0	1.4	寸			黄白色 皿	00E E-154	SK 07
925	SK678	土師器	ミニチュア	3.5	2.2		無胎			黄白色 土盤	00E E-155	SK 07
926	SK678	土師器	ミニチュア	2.8	3.9	2.5	無胎			黄白色 土盤	00E E-156	SK 07
927	SK678	土師器	ミニチュア	2.1	1.8		無胎	白珐		黄白色 土盤、胎土分析資料10	00E E-157	SK 07
928	SK678	土師器	ミニチュア?	径 1.6	4.5		白珐			黄白色 皿	00E E-158	SK 07
929	SK678	土師器	菓子皿	径 2.1			白珐	黄白-灰白色	天押?	00E E-159	SK 07	
930	SK678	土師器	菓子皿	径 2.2			白珐	黄白	惣北押?	00E E-160	SK 07	
931	SK678	土師器	菓子皿	径 1.7			白珐	黄白	惣北押?	00E E-161	SK 07	
932	SK678	土師器	皿	2.8			赤色(赤)			黄白	00E E-162	SK 07
933	SK678	土師器	鉢	径 3.4	3.0		白珐			黄白色 打箱	00E E-163	SK 07
934	SK678	土師器	人形	径 2.1			白珐(黄胎)			灰白色 天押	00E E-200	SK 07
935	SK678	土師器	人形	2.8						淡褐色 天押	610 E-201	SK 07
936	SK677	土師器	人形	4.3			白珐(黄胎)			黄白色 天押	00E E-164	SK 01
937	SK658	土師器	人形	3.6			白珐			黄白色 天押	91A E-271	SK 00
938	SK678	土師器	人形	径 1.7			白珐			黄白色 天押	91A E-101	SK 07
939	SK678	土師器	人形	3.9			白珐			淡褐色 磁胎	91A E-102	SK 07
940	SK678	土師器	人形	5.1			白珐	黄白-灰白色	人物	00E E-165	SK 07	
941	SK678	土師器	人形	3.8			白珐(白胎)			黄白色 童子、打箱付	00E E-166	SK 07
942	SK653	土師器	人形	径 4.3			白珐			黄白色 童子、馬車?	91A E-268	SK 42
943	SK678	土師器	人形	径 3.3			白珐			淡黄-灰白色 人物	00E E-167	SK 07
944	SK678	土師器	人形	径 4.7			白珐			黄白色 童子/ラッパ/馬車	00E E-11	SK 07
945	SK678	土師器	人形	径 4.2			寸			白色 人物	00E E-11	SK 07
946	SK678	土師器	人形	径 3.5			白珐			黄白-灰白色 人物	00E E-201	SK 07
947	SK678	土師器	人形	3.7						黄白色 漆器?	42C E-51	SK 07
948	SK678	土師器	人形	径 1.7						黄白色 磁胎?	610 E-202	SK 07
949	SK678	土師器	人形	径 3.8			白珐			黄色(黄胎)	91A E-103	SK 07
950	SK678	土師器	人形	径 5.6			白珐			白色 少女	91A E-104	SK 07
951	SK128	土師器	人形	径 8.5			白珐			黄白-灰白色 人物	91A E-105	SK 02
952	不明・磁器	人形?	径 6.6				透明胎、土胎付(漆色、黄、赤、黒)			白色 磁胎、乳沙	91A E-272	SK 07
953	不明・磁器	人形?	径 5.7				透明胎、土胎付(黄、黄赤、黄、赤、黒)			白色 磁胎	91A E-273	SK 07
954	不明・磁器	人形	径 2.4				透明胎、土胎付(漆色)			白色 人物	91A E-274	SK 07
955	不明・磁器	人形	4.8				透明胎、土胎付(漆色、黄、赤、黒)			白色 力士	91A E-274	SK 07
956	土師器	人形	径10.6							黄白色 赤黄、胎土分析資料16	91A E-107	SK 07
957	土師器	人形	径 4.1							黄白色 皿	00E E-202	SK 07
958	不明・磁器	人形	2.6				透明胎、土胎付(漆色、黄、赤、黒)			白色 鳥	530 E-11	SK 07
959	土師器	人形	1.3							黄白色 鳥	530 E-116	SK 07
960	土師器	人形	1.4							黄白色 鳥	530 E-116	SK 07
961	土師器	人形	径 3.8				無胎	白珐、赤黄、赤、黒		淡黄-黄白色 胎土分析資料14	91A E-108	SK 07
962	SK615	土師器	人形	径 4.2			白珐			黄白色 犬、胎土分析資料11	91A E-109	SK 01
963	SK604	土師器	人形	径 4.6						淡褐色 鳥	530 E-12	SK 03
964	土師器	人形	径 4.9				白珐			黄白色 鳥、胎土分析資料10	00E E-203	SK 03
965	SK705	土師器	人形	径 7.5			白珐			黄白-灰白色 鳩	530 E-51	SK 01
966	土師器	人形/雷	2.5				無胎	白珐		黄白色 鳥	610 E-203	SK 07
967	土師器	人形/雷	3.5				無胎	白珐		黄白色 鳥	91A E-130	SK 07
968	土師器	ミニチュア	6.7	2.4	2.4		無胎	白珐		黄白色 土盤	91A E-111	SK 07
969	土師器	ミニチュア	3.4	1.5			無胎	白珐		黄白色 鳥	530 E-119	SK 07
970	土師器	ミニチュア	径 4.8				無胎	白珐		黄白色 鳩?人形?、乳沙	91A E-375	SK 07

付表 2 遺物一覧表

ID	遺物番号	所在地	種類	口径	高さ	素材	内面	外面	胎土	備考	登録番号	目録番号
971	土師器	ミニチュア	丸	丸	2.0				白色	獅子	51A E-112	表土
972	土師器	ミニチュア?	丸	丸	4.5			黄白色	火鈴文様		51A E-113	埋出11
973	軟質陶器	ミニチュア	丸	丸	6.7	指型	灰緑(薄汚). 白化斑・青彩色	褐色	灯籠/台座		51A E-114	表土
974	土師器	ミニチュア	丸	丸	4.4	指型	彩色(白, 黄, 赤)	淡褐色	灯籠		51A E-115	埋出18
975	軟質陶器	ミニチュア	丸	丸	1.5	指型, 蓋着「互」	灰緑(薄汚, 緑)	黄白色	灯籠/台座		51E E-120	埋出2
976	軟質陶器	ミニチュア	丸	丸	2.7		灰緑(薄汚, 緑)	黄白色	灯籠/台		51E E-121	埋出1
977	S8687	土師器	ミニチュア	丸	丸	3.5		黄白～灰白色	無彩		51A E-328	S8681
978	軟質陶器	ミニチュア	丸	丸	2.6		灰緑(薄汚, 緑). 白化斑, 赤	褐色	鳥形		51E E-523	埋出1
979	土師器	人形?	丸	丸	2.4		指型	黄白色	鳥文様?		51F E-1	埋出1
980	軟質陶器	人形?	丸	丸	3.1		灰緑(薄汚, 緑), 赤	黄白色	人物		51E E-172	埋出2
981	土師器	芥子函	丸	丸	2.2		赤	白色	蓮花弁		51E E-173	埋出2
982	土師器	芥子函	丸	丸	2.1		指型, 赤	黄白色	弁才天?		51F E-52	埋出1
983	土師器	芥子函	丸	丸	2.9		赤	白色	力士?		51A E-116	埋出28
984	土師器	芥子函	丸	丸	1.6		赤	黄白色	人物		51C E-52	51294
985	土師器	芥子函	丸	丸	2.9		赤	黄白色	蓮華小僧		51F E-53	埋出1
986	SX4015	土師器	芥子函	丸	丸	3.1		指型	黄白色	福具家, 動物分析資料2	51A E-117	SX 81
987	土師器	芥子函	丸	丸	1.6		淡褐色	褐色	縄		51A E-118	埋出22
988	土師器	皿	丸	丸	2.7			黄白色	人物, 動物分析資料1		51C E-242	SX 82
989	土師器	皿	丸	丸	4.1			黄白色	人物		51B E-600	埋出20
990	SE4021	土師器	皿	丸	丸	4.8	赤	黄白色	蓮花弁, 鳥		51B E-18	SX 81
991	S86710	土師器	皿型	丸	丸	1.4		指型	黄白色	人物, 動物分析資料1	51E E-304	SX 16
992	土師器	鉢	丸	丸	2.5	赤		黄白色	人物		51B E-365	埋出2
993	土師器	鉢	丸	丸	4.0	赤		淡褐色			51A E-119	埋出1
994	S86697	土師器	鉢	丸	丸	3.6	赤	黄白色			51A E-377	SX 28
995	S86700	土師器	鉢	丸	丸	3.6	赤	黄白色	動物分析資料2		51B E-366	SX 34
996	土師器	鉢	丸	丸	2.2	赤		黄白色			51A E-120	埋出1, 6
997	SX475	土師器	鉢	丸	丸	1.2	赤	黄白色			51B E-264	SX 81
998	土師器	鉢型	丸	丸	5.8	2.3		指型, 蓋着?	黄白色	蓋?, 動物分析資料4	51A E-121	埋出14
999	S861307	ガラス	おはじき?			1.2			青色		51F No-1	SX 86
1000	ガラス	おはじき?				1.9			お多福, 舞色		51F No-1	埋出1
1001	ガラス	おはじき?				2.2		浮印「和」	青色		51A No-1	埋出2
1002	SX4015	瀬戸焼	圓形瓶	丸	丸	7.3	5.9	灰緑, 高台輪郭線, 蓋着	黄白色		51A E-122	SX 81
1003	SX4015	瀬戸焼	丸瓶	丸	丸	2.8	4.9	灰緑, 高台輪郭線, 蓋着, 高台部赤	黄白色		51A E-123	SX 81
1004	SX4015	瀬戸焼	丸瓶	丸	丸	5.0	5.4	灰緑, 高台輪郭線, 蓋着	黄白色		51A E-124	SX 81
1005	SD6001	美濃焼	丸瓶	丸	丸	1.4	4.4	灰緑, 高台輪郭線, 蓋着	灰白色		51C E-243	SX 14
1006	SX4018	瀬戸焼	丸瓶	丸	丸	1.3	4.3	灰緑, 高台輪郭線	灰白色		51C E-244	SX 15
1007	SX7194	瀬戸焼	丸瓶	丸	丸	1.3	4.3	灰緑, 高台輪郭線	灰白色		51B E-101	SX85
1008	SD7905	光澤陶器	圓形鉢	丸	丸	6.9	6.7	灰緑, 高台輪郭線, 蓋着	黄白色		51B E-205	SX 01
1009	SD4064	光澤陶器	蓋	丸	丸	8.0	2.4	灰緑, 蓋着	黄白色		51C E-52	SX 06
1010	SD4997	光澤陶器	蓋	丸	丸	6.2	0.9	灰緑, 蓋着	黄白色		51A E-125	SX 03
1011	SX4015	光澤陶器	蓋	丸	丸	4.7	1.9	2.4	灰緑, 蓋着		51A E-126	SX 03
1012	SD4040	瀬戸焼	圓形鉢	丸	丸	1.8	8.4	灰緑, 高台輪郭線, 蓋着	黄白色		51C E-53	SX 04
1013	SD6078	瀬戸焼	無高台蓋	丸	丸	0.9	3.1	灰緑, 蓋着	黄白色		51E E-174	SX 07
1014	SX6659	瀬戸焼	蓋?	丸	丸			灰緑, 蓋着	黄白色		51E E-175	SX 08
1015	SD6078	美濃?陶器	楕圓鉢	丸	丸	3.6	4.4	灰緑, 高台輪郭線, 蓋着	黄白色		51E E-176	SX 07
1016	SX6710	美濃?陶器?	扁鉢	丸	丸	3.2	4.6	赤, 高台輪郭線, 蓋着	黄白色		51E E-207	SX 16
1017	SD4030	瓦	井戸瓦				今令焼成	灰	灰白色		51B E-11	SX 04
1018	SD4030	瓦	井戸瓦				今令焼成	灰	灰白色		51B E-11	SX 04
1019	SD4030	瓦	井戸瓦				今令焼成	灰	灰白色		51B E-15	SX 06
1020	SD4030	瓦	井戸瓦				今令焼成	灰	灰白色		51B E-16	SX 06
1021	SD4021	瓦	井戸瓦				今令焼成	灰	灰白色		51B E-17	SX 01
1022	SD4021	瓦	井戸瓦				今令焼成	灰	灰白色		51B E-17	SX 01
1023	SD4021	瓦	井戸瓦				今令焼成	灰	灰白色		51B E-14	SX 01
1024	SD4025	常滑陶器	井戸瓦			64.6	32.0	63.4	指型, 蓋着?		51C E-54	SX 03
1025	SX7475	銅	鏡						寛永通寶		51D No-7	SX 81
1026	SX7475	銅	鏡						寛永通寶		51D No-8	SX 81
1027	銅	鏡							寛永通寶		51F No-3	埋出1
1028	銅	鏡							寛永通寶		51A No-50	埋出1
1029	S86878	銅	鏡						寛永通寶		51E No-11	SX 87
1030	SX7475	銅	鏡						寛永通寶		51D No-9	SX 81
1031	SX7475	銅	鏡						寛永通寶		51D No-10	SX 81
1032	銅	鏡							寛永通寶		51C No-10	埋出1
1033	銅	鏡							寛永通寶		51D No-11	表土
1034	銅	鏡							寛永通寶		51D No-12	表土
1035	銅	鏡							寛永通寶		51C No-22	SX 02

### 3 遺物集計表

この一覧表は、調査区別に各遺物の出土量をまとめたものである。出土量の計測の方法は第Ⅳ章で記載された通りである。表1～5に記載された数値は、すべて口縁部残存率で12分の1を1単位としている。従って記載された数値は「12」で約1個体分と換算されるものである。表6～8は個体数または破片数が表示されている。なお、表6～8の数値は遺構内外を問わず、全破片数を数えたものである。

#### 目 次

表1	調査区別陶磁器・土器出土量一覧表（宿場町期）	口縁部残存率
表2	調査区別瀬戸・美濃窯産陶器器種組成表	口縁部残存率
表3	調査区別（瀬戸・美濃・常滑窯産陶器以外の陶器）器種組成表	口縁部残存率
表4	調査区別肥前窯産磁器器種組成表	口縁部残存率
表5	調査区別（肥前窯産磁器以外の磁器）器種組成表	口縁部残存率
表6	調査区別人形・玩具類出土量一覧表	個体数・破片数
表7	調査区別人形・玩具類器種組成表	個体数・破片数
表8	調査区別銭貨器種組成表	個体数

表1 調査区別陶磁器・土器出土量一覧表(宿場町期)

	五 倉 橋										本 町										市 瀬										合 計				
	50A	53B	50A	55G	51A	53B	52B	51A	50B	52C	52D	52E	52C	50C	53C	50C	51B	51B	51B	51B	53S	50D	52D	51C	50T	51C	51D	51B	53S	50D		52D	51C	50T	合 計
瀬戸式土器 陶器	甕	9	0	0	2	20	12	50	232	211	220	19	53	0	131	9	265	182	1304	595	1911	4	1	181	26	32	2	5	0	1	3	6617			
	皿	6	1	6	0	1	0	4	131	218	195	23	58	4	101	4	234	423	387	284	720	6	1	48	12	27	4	10	0	0	3	3488			
	鉢	5	0	2	0	0	9	1	6	187	135	115	9	62	4	181	7	227	387	791	238	523	2	1	36	12	34	3	7	0	0	2	2888		
	甌・瓶	0	0	0	0	3	0	12	24	1	183	9	22	2	6	0	15	0	48	103	731	65	251	12	0	0	12	0	5	0	0	0	1428		
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	18	121	118	33	5	10	0	25	2	103	953	106	327	2	0	3	6	20	0	10	1	0	0	1963		
磁器	1	0	0	0	0	0	1	3	24	32	42	1	31	0	29	0	75	72	132	65	146	0	1	8	2	12	1	0	0	0	1	757			
合計	24	1	14	3	3	42	41	75	634	651	665	58	169	8	383	22	823	1658	5396	1901	9712	26	3	245	65	133	8	37	1	1	6	18325			
弥生式土器	甕	0	0	0	0	2	2	13	20	50	27	8	21	4	4	1	39	32	224	35	57	13	0	33	4	6	0	1	0	0	0	638			
	その他	0	0	0	0	0	2	2	18	81	42	40	21	4	44	0	53	18	493	12	105	10	0	22	0	8	0	3	0	0	0	0	882		
合計	0	0	0	0	0	4	4	31	38	131	69	45	42	4	48	1	92	48	927	47	202	23	0	65	4	14	0	4	0	0	0	1528			
その他の土器 陶器	甕	0	0	1	0	0	2	3	4	8	10	0	19	0	15	0	47	62	37	26	40	0	0	2	0	10	0	0	0	0	0	0	277		
	皿	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	3	1	0	1	0	1	2	8	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	29	
	鉢	0	0	0	0	0	0	0	1	3	8	3	0	1	0	3	0	19	6	3	8	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	60	
	甌・瓶	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	2	1	2	0	0	0	0	10	53	2	10	0	0	12	11	0	0	0	0	0	0	0	132	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	1	65	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	
合計	0	0	1	0	0	2	2	4	44	22	17	5	12	0	19	2	70	81	186	39	63	0	0	15	11	11	0	0	0	0	0	1	587		
肥前式土器 陶器	甕	0	0	0	0	1	3	1	23	47	38	7	5	0	21	0	51	152	79	152	3	0	1	12	1	16	0	0	0	0	0	0	654		
	皿	0	0	0	0	0	0	0	37	30	21	7	1	0	16	0	13	14	311	21	48	2	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	528	
	鉢	0	0	0	0	0	0	0	4	9	1	2	0	7	0	1	4	33	2	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	78	
	甌・瓶	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	29	7	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85
合計	0	0	1	0	0	3	3	1	73	81	68	15	8	0	45	0	65	203	585	109	275	5	1	12	1	22	8	0	0	0	0	0	1658		
その他の土器 磁器	甕	0	0	0	0	1	4	0	0	277	32	15	3	1	0	13	3	38	23	1425	24	17	0	0	2	1	2	8	0	0	0	0	1	1842	
	皿	0	0	0	0	0	0	0	0	25	1	6	3	8	0	11	2	10	8	6	9	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	184
	鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	18	1	1	0	0	2	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65
	甌・瓶	0	0	0	0	0	0	0	0	41	0	0	0	0	0	0	1	0	111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	153
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	2	0	0	0	0	16	85	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	137
合計	0	0	0	0	1	4	0	0	322	38	23	6	12	0	26	5	55	38	1816	30	28	0	0	3	2	3	0	0	0	0	0	0	0	2421	
土師器	皿	0	0	0	0	0	0	0	2	31	1	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	
	甕	1	0	0	0	3	2	5	124	35	32	5	14	1	11	0	82	182	225	482	1101	3	0	1	3	0	2	0	2	0	0	0	4	2341	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	25	
	磁器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	1	0	0	0	3	2	5	126	58	37	5	18	1	11	0	107	187	238	482	1102	3	0	2	3	0	2	0	2	0	0	0	4	2427	
瓦器	0	0	0	0	0	0	0	0	16	5	0	2	0	2	0	0	0	60	0	136	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	212	
合計	25	1	16	3	4	58	50	100	1453	1036	806	137	281	13	534	36	1512	2228	6878	2018	5528	57	4	347	69	183	11	43	1	1	17	23156			











表6 調査区別人形・玩具類出土量一覽表

調査区	本丸			本丸西			南長			合計	
	63A	63B	63C	63A	63B	63C	63D	63E	63F		63G
遺物出土量	1	17	9	4	3	2	2	27	37	11	33
遺物出土数	3	19	10	4	2	7	7	51	61	18	66
遺物出土率	4	106	1	1	1	3	4	10	11	11	11
合計	3	66	9	5	4	3	3	66	76	29	99
出土数	3	125	10	5	5	11	6	82	91	31	113
出土率	3	125	10	5	5	11	6	82	91	31	113

表7 調査区別人形・玩具類出土量一覽表

調査区	本丸			本丸西			南長			合計	
	63A	63B	63C	63D	63E	63F	63G	63H	63I		
遺物出土量	1	17	9	4	3	2	2	27	37	11	33
遺物出土数	3	19	10	4	2	7	7	51	61	18	66
遺物出土率	4	106	1	1	1	3	4	10	11	11	11
合計	3	66	9	5	4	3	3	66	76	29	99
出土数	3	125	10	5	5	11	6	82	91	31	113
出土率	3	125	10	5	5	11	6	82	91	31	113

表8 調査区別銭貨器種組成表

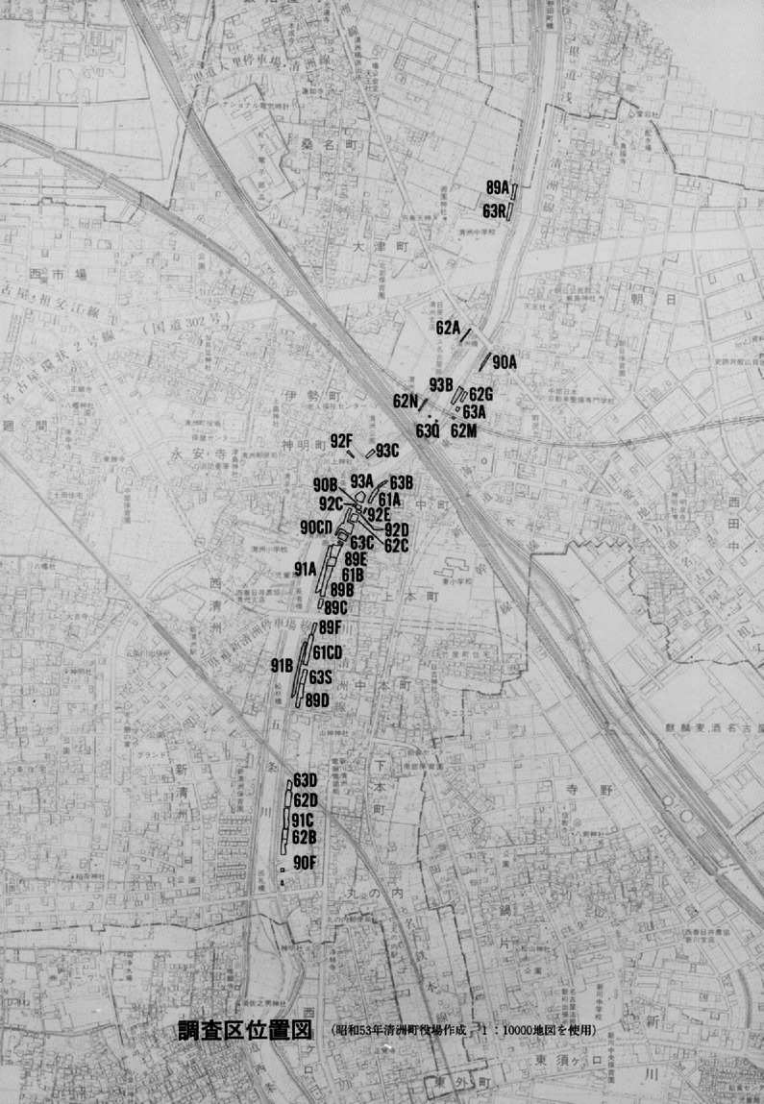
調査区	本丸			本丸西			南長			合計	
	63A	63B	63C	63D	63E	63F	63G	63H	63I		
遺物出土量	1	17	9	4	3	2	2	27	37	11	33
遺物出土数	3	19	10	4	2	7	7	51	61	18	66
遺物出土率	4	106	1	1	1	3	4	10	11	11	11
合計	3	66	9	5	4	3	3	66	76	29	99
出土数	3	125	10	5	5	11	6	82	91	31	113
出土率	3	125	10	5	5	11	6	82	91	31	113

# 図 版

- 1 遺構図版 1～13  
(S = 1 : 200)
- 2 写真図版 1～30  
(モノクロ 1～20)  
(カラー 21～30)

## 遺構図版 凡例

1. 数字のみの番号はすべてSKである。
2. 遺構図版は基本的に上が北になっている。



**調査区位置図**

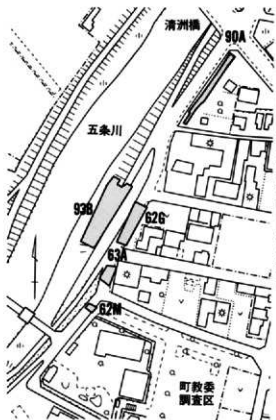
(昭和53年清洲町役場作成 1:10000地図を使用)



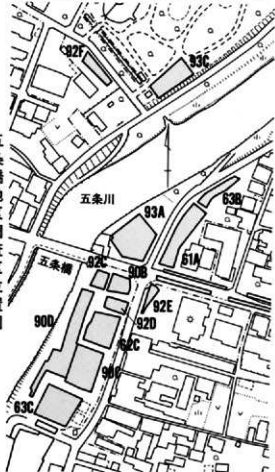
御園地区調査区位置図



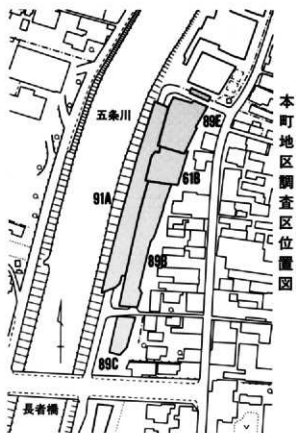
本丸地区調査区位置図



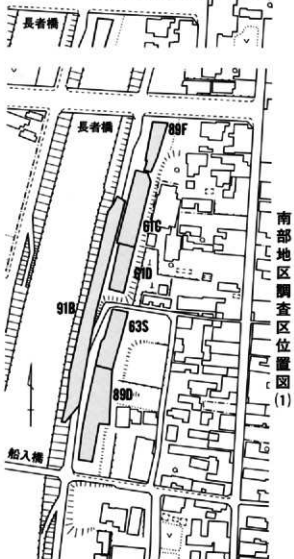
田中町地区調査区位置図



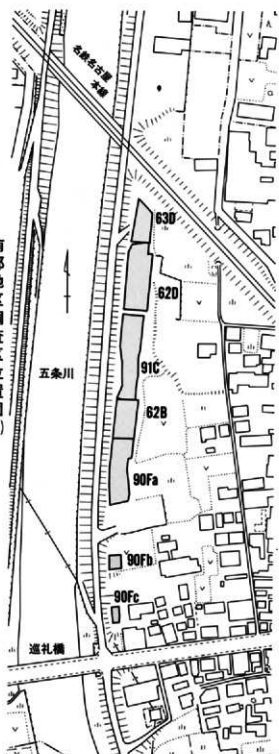
五条橋地区調査区位置図



本町地区調査区位置図

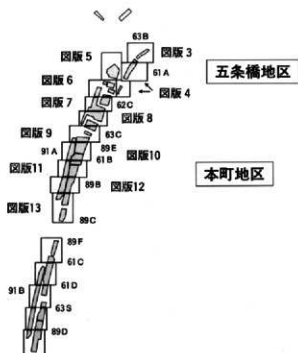
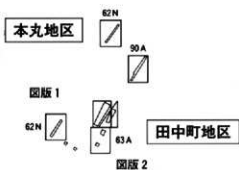


南部地区調査区位置図(1)

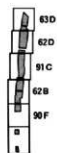


南部地区調査区位置図(2)

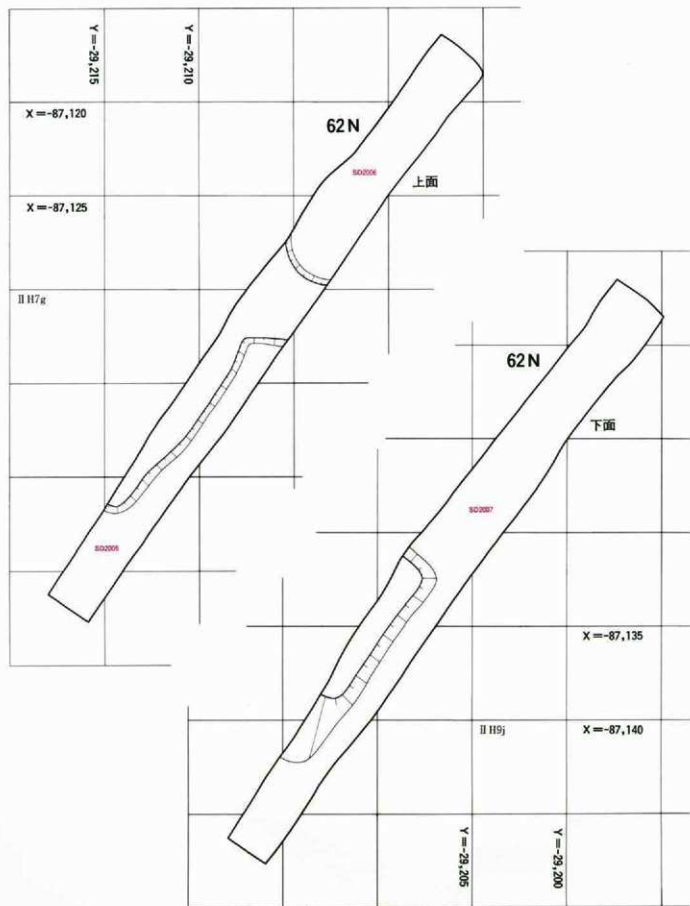
# 遺構区割付図



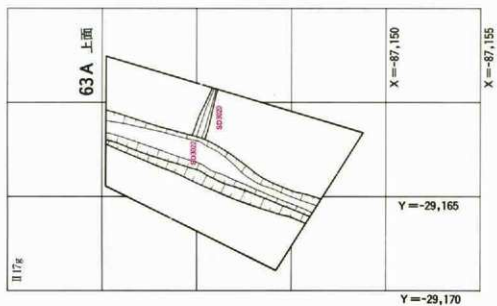
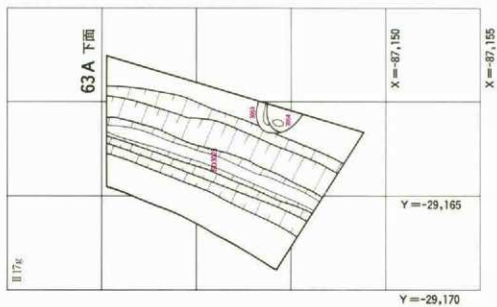
## 南部地区



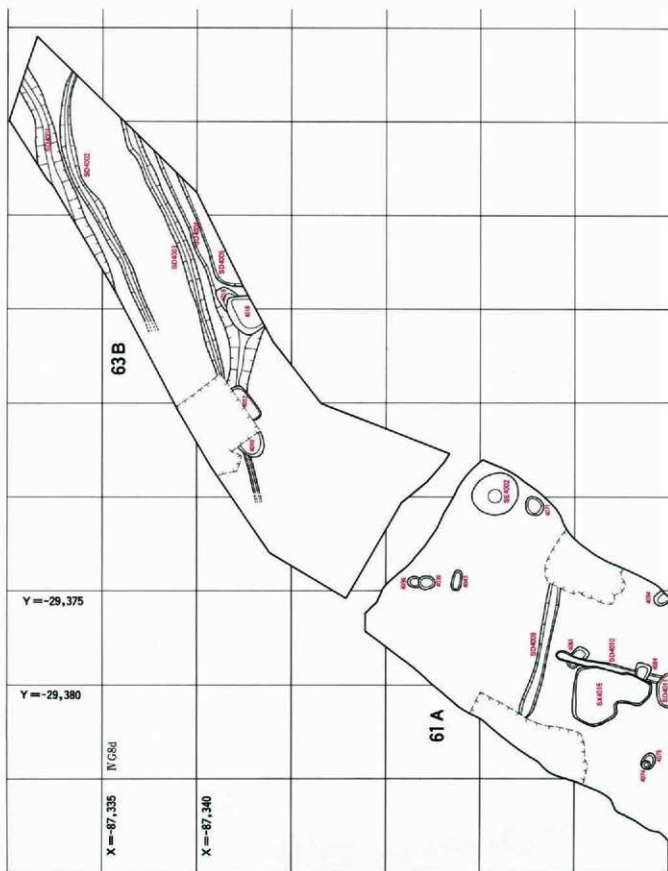
图版 1 本丸地区

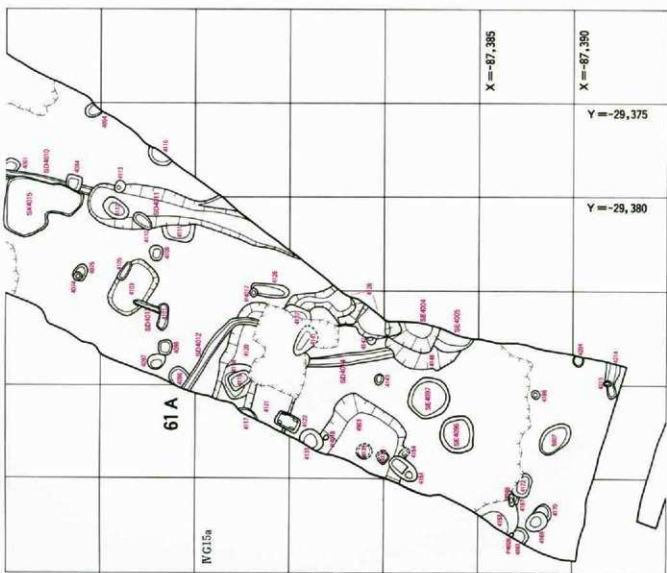
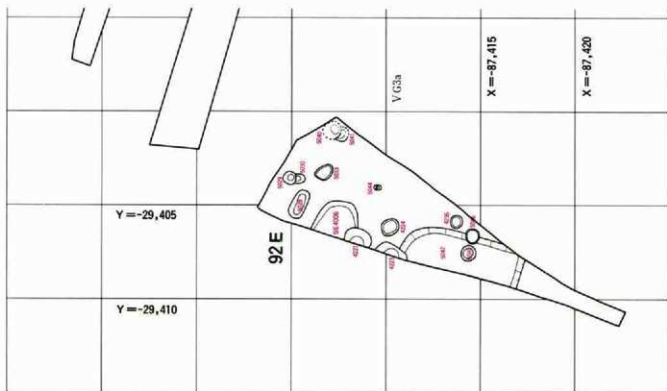




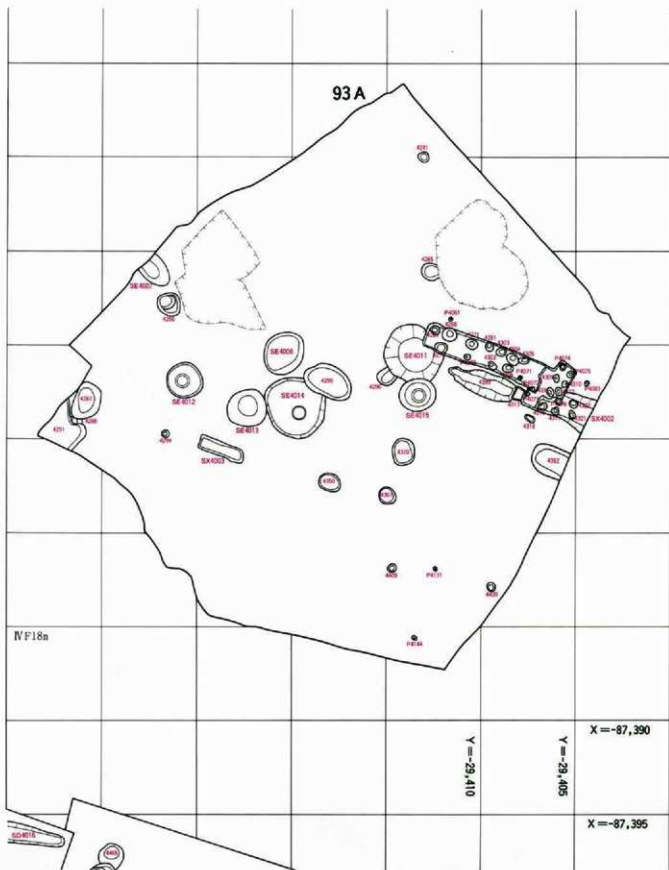


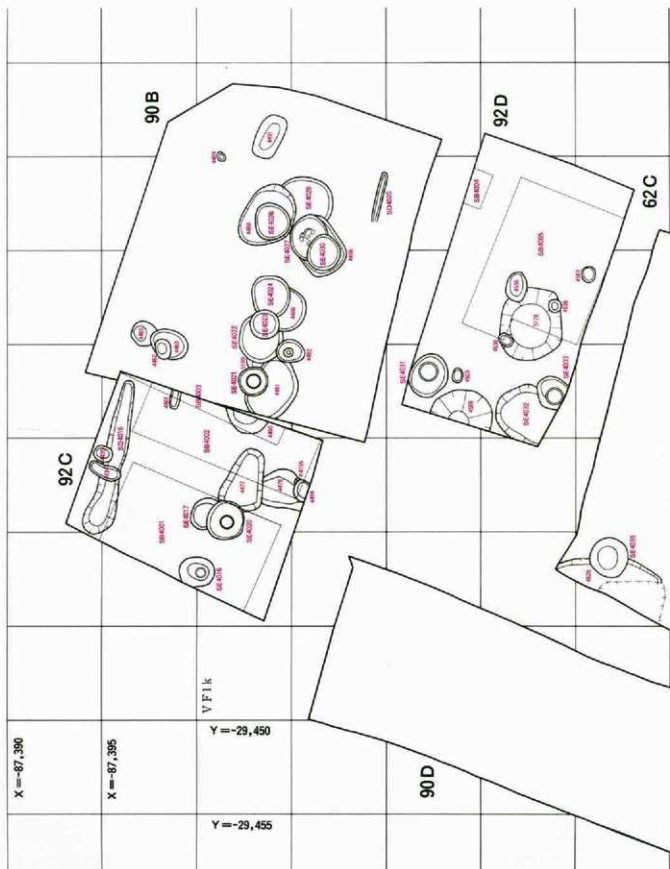
图版 3 五条橋地区 (1)



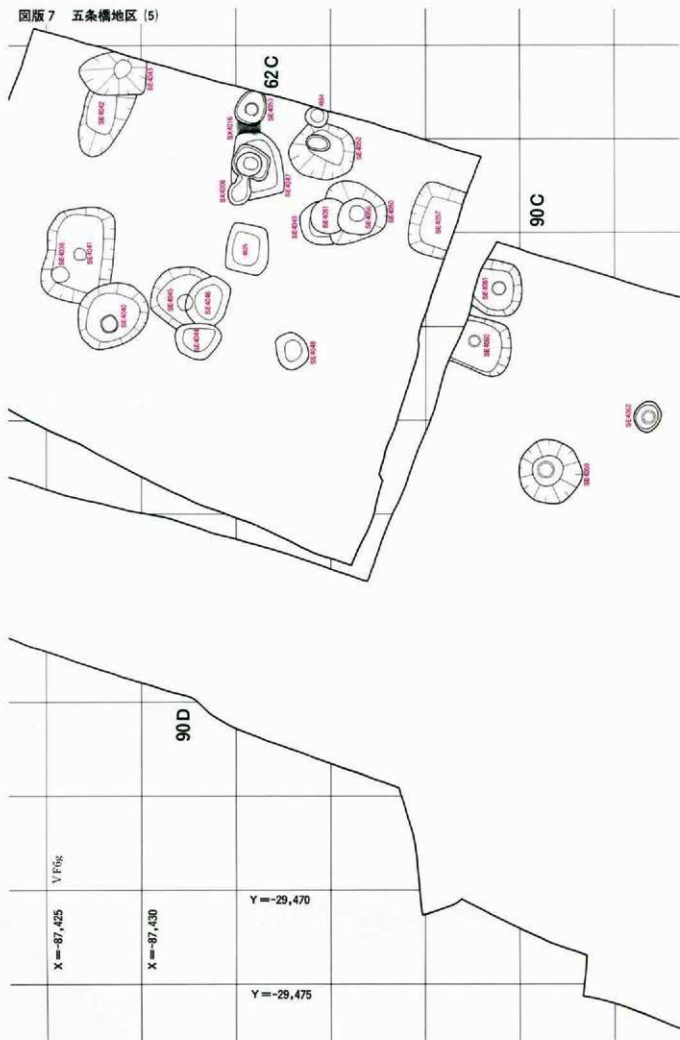


图版 5 五条横地区 (3)

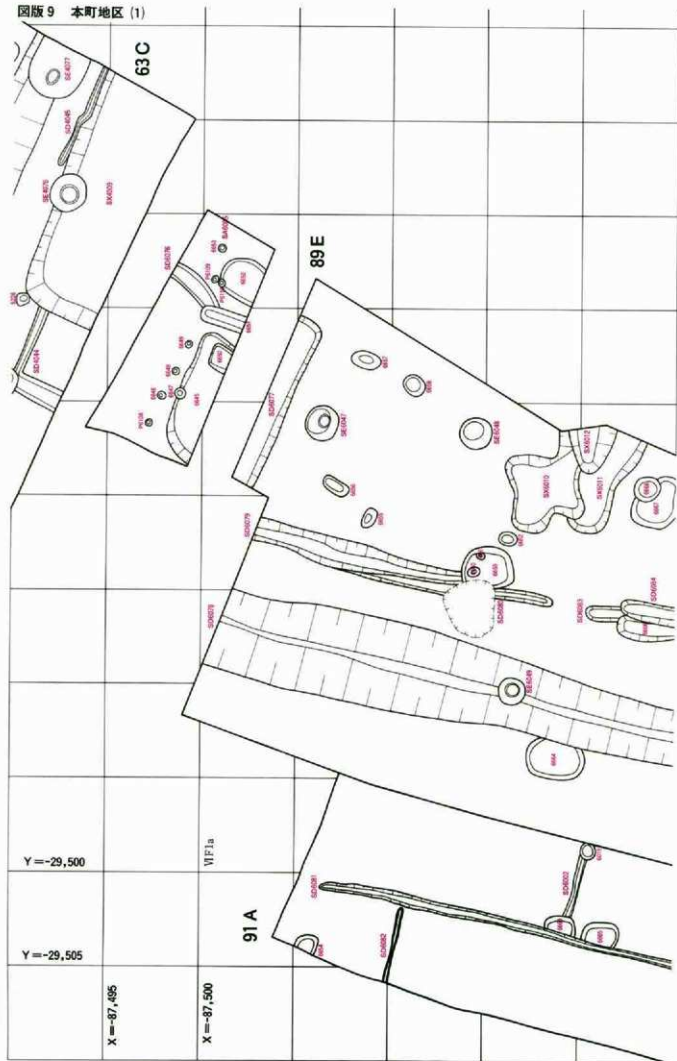




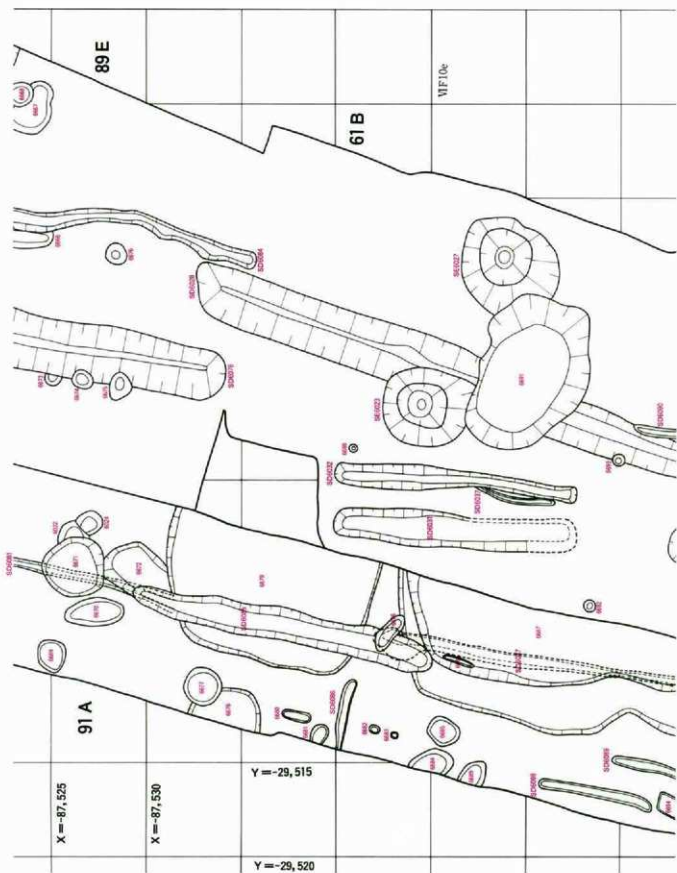
图版 7 五条横地区 (5)



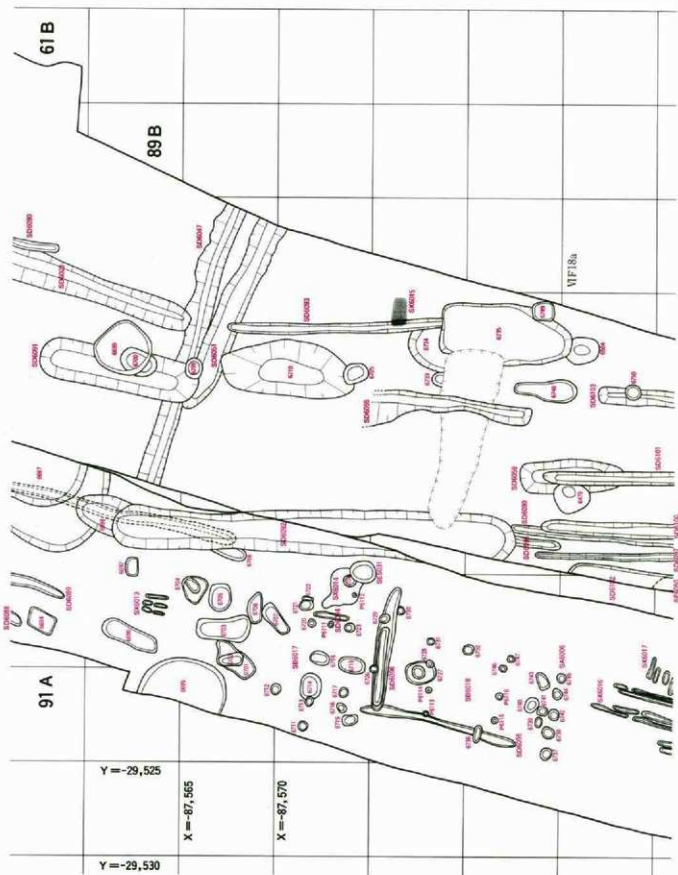


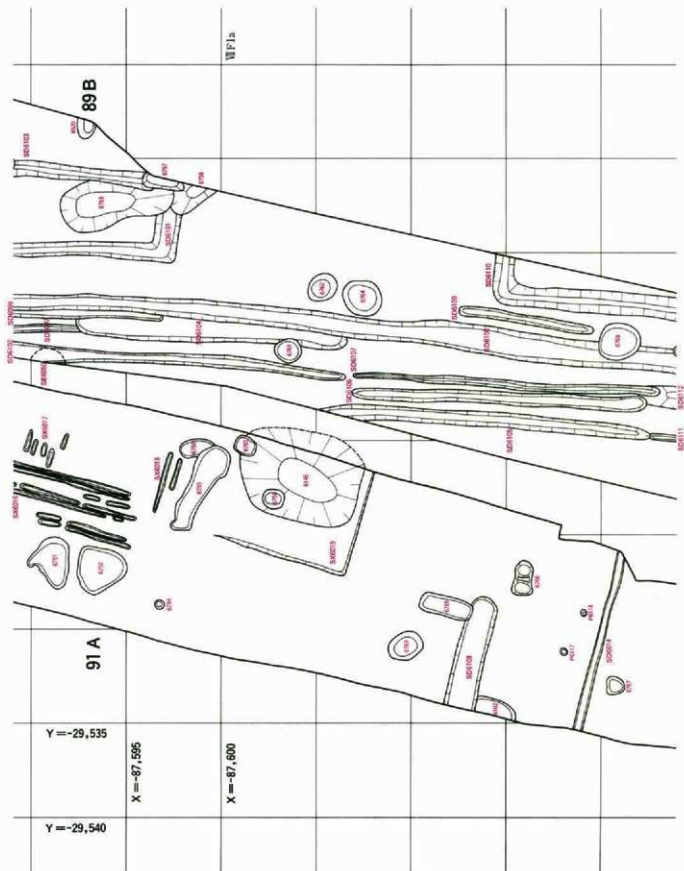






图版11 本町地区 (3)



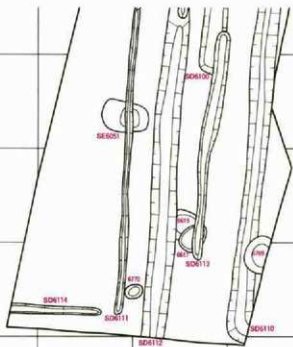


図版13 本町地区 (5)

91 A

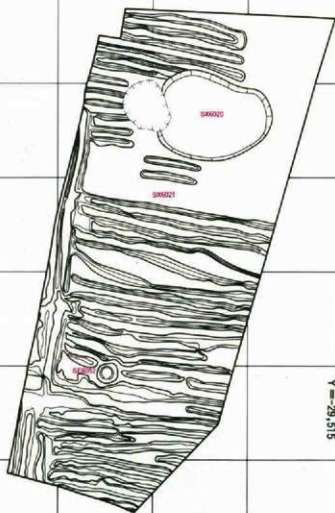


89 B



WE10m

89 C



X = -87,655

X = -87,660

Y = -29,515

Y = -29,510



90B区から  
五条橋を  
臨む



美濃街道と  
調査区 (90D区)



▲93B区全体 (南から)



▲61A区全体  
(南から)



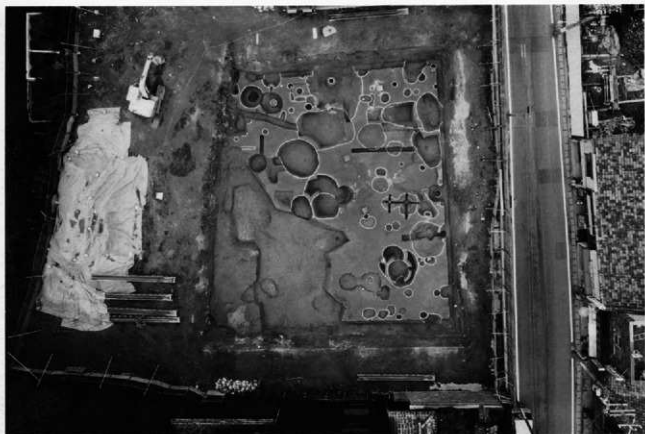
◀63A区全体 (北から)



▲93A区上面全体

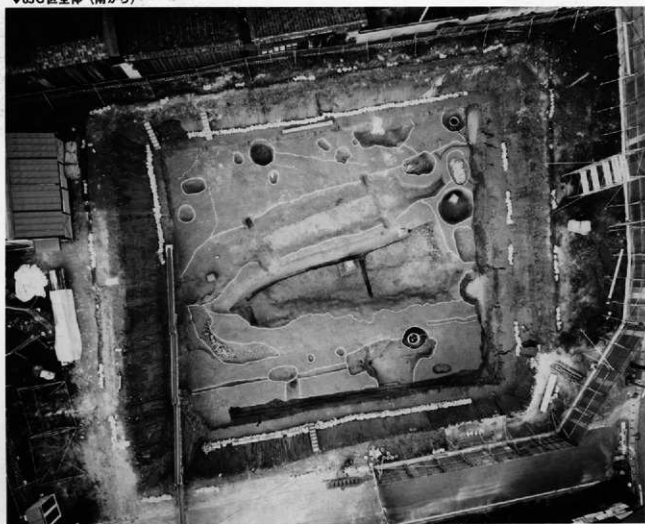


▼93A区下面全体



▲62C区全体 (南から)

▼63C区全体 (南から)







▲89E区全体  
(南から)



◀89C区全体  
(南から)



▲39B区



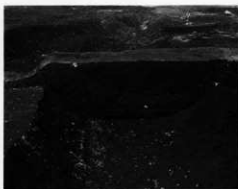
◀全体  
(南から)



▲91A区北半部 (南から)



▲91A区南半部 (南から)



SD6085  
(91A区  
南から)



SD6092  
(91A区  
南から)



SD6100  
出土状態  
(89B区  
北から)



SD6092  
(89B区  
南から)



SD6078  
(89E区  
北から)



89B区  
溝群  
(西から)



89B区  
溝群  
(北から)



89B区  
溝群  
(北から)



SX6021  
(89C区  
北から)



SX6016  
SX6017  
(91A区  
北東から)

SB4001  
SB4002  
(92C区)  
東から



SB4004  
SB4005  
(92D区)  
西から



SB4001  
SB4002  
SB4003  
(92C区)  
南から



SB4004  
(92D区)  
北東から



SA6005  
(89E区)  
西から



SB6017  
(91A区)  
東から



SB6018  
SA6006  
(91A区)  
東から

SE4096  
(61A区  
西から)



SE4006  
(92E区  
東から)



SE4023  
(90B区  
北から)



SE4023  
(90B区  
南から)



SE4026~  
SE4028他  
(90B区  
東から)



SE4027  
(90B区  
南から)



SE4022  
(90B区  
北から)



SE4043  
(62C区  
東から)



SE4035他  
(62C区  
北西から)



SE4035  
(62C区  
東から)





SE4040  
(62C区  
東から)



SE4040  
(62C区  
西から)



SE4050  
SE4051  
SE4056  
(62C区  
東から)



SE4056  
(62C区  
東から)



SE4045  
SE4046  
(62C区  
東から)



SE4045  
(62C区  
東から)



SE4052  
(62C区  
北から)



SE4073  
(63C区  
西から)



SE4072  
(63C区  
東から)



SE4072  
(63C区  
南から)



▲SE4026 (90B区 北から)



▲SE4016 (92C区 東から)



▲SE4021 (90B区 南から)



◀SE7009  
(61C区  
南から)



▲SE4076 (63C区 北から)



◀SE4021  
(90B区  
東から)



◀SE4076  
(63C区  
南から)





▲SX4006 (62C区 西から)



▲SX4006 (62C区 西から)



▲SX4006 (62C区 南から)



▲SX4006 (62C区 北から)



SX4007  
(90C区)  
北から



SX4007  
(90C区)  
北から



SX4007  
(90C区)  
南から



SK5222  
(63C区)  
西から



SK5222  
SX4017  
SE4073  
(63C区)  
東から



SX6015  
(89B区)  
北から



SX4017  
(63C区)  
北から



SX6015  
(89B区)  
西から



SX4016  
(62C区)  
東から



SK6735  
(89B区  
西から)



SK6735  
出土状態  
(89B区  
西から)



SK6735  
出土状態  
(89B区  
西から)



SD4026  
(63C区  
東から)



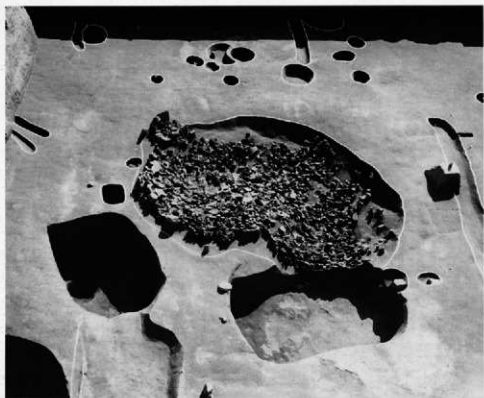
SD4026  
(63C区  
東から)



SX4009  
(63C区  
南から)



SX4009  
(63C区  
南から)



▲SK6691上層 (61B区 北から)



▲SK6691下層 (61B区 北から)

SK6691  
出土状態  
(61B区  
南から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
南から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
北から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
西から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
東から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
西から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
西から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
北から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
西から)



SK6691  
出土状態  
(61B区  
北から)



SK4287  
(93A区  
北から)



燧出土状態  
(61A区  
南から)



SK4128  
(61A区  
北から)



SK4128  
(61A区  
北から)



SX4015  
(61A区  
南東から)



燧出土状態  
(89C区  
南から)



SK4508  
(92C区  
西から)



SK6730  
(91A区  
東から)

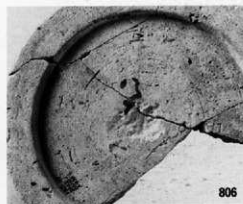
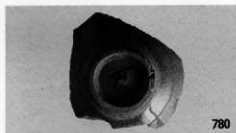


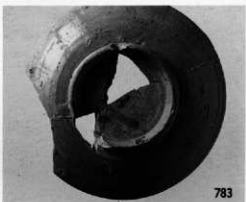
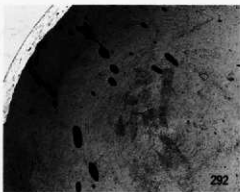
SX4008  
(63C区  
西から)



SX6010  
(89E区  
西から)

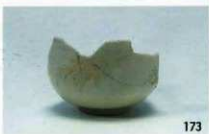














236



241



223



256



253



259



242



254



316



310



339



337



845



338



337



140



844





421



399



471



423



460



480



422



404



505



851



506



459



635



530



457



636



531



458



496



532



494





606



597



602



598



600



590



586



592



591



588



577



567



570



564



595



743



741



735



744

746  
747

750



744



740



739



748



749



656



655



657



661



665



663



682



676



686



688



685



694



701



697



702



706



662



717



712



707



705





615



611



638



621



620



645



616



610



642



799



666



643



798



618



808



652





728

718

723

720

630

807

649

659

648

759

755

763

768

765

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	きよすじょうかまちせき 5							
書名	清洲城下町遺跡V							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第54集							
編著者名	鈴木正貴・北野信彦・三辻利一・堀木真美子・八木佳素実							
編集機関	財団法人 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567-67-4161							
発行年月日	西暦 1995年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
清洲城下町	西春日井郡清洲町	23346	21002	35 2 58	136 6 57	19860701 19930731	29,750	河川改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
清洲城下町	集落跡	江戸時代	溝・礎石建物 5 掘立柱建物 2 欄列 井戸・土坑 五条川堤防 方形石組遺構 竈状遺構 畝状遺構	瀬戸美濃窯産陶磁器 肥前窯産陶磁器 関西系窯産陶磁器 常滑窯産陶器 土師器・瓦器・瓦 木製品・石製品 金属製品・人獣骨 人形・玩具類		清洲宿 (町屋)		

---

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第54集

清洲城下町遺跡 V

1995年3月31日

編 集 財団法人  
発 行 愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 東 海 プ リ ン ト 社

---